

茨城県教育財団文化財調査報告第443集

# 金田西坪B遺跡

中根・金田台地区  
埋蔵文化財調査報告書XXII

令和2年3月

独立行政法人都市再生機構  
東日本都市再生本部  
公益財団法人茨城県教育財団



茨城県教育財団文化財調査報告第443集

こ ん だ に し つ ほ び -  
**金田西坪B遺跡**

中 根 ・ 金 田 台 地 区  
埋 蔵 文 化 財 調 査 報 告 書 XXII

令 和 2 年 3 月

独立行政法人都市再生機構  
東日本都市再生本部  
公益財団法人茨城県教育財団





## 序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部による中根・金田台地区埋蔵文化財整理事業に伴って実施した、茨城県つくば市金田西坪B遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、奈良・平安時代から室町時代にかけての竪穴建物跡や掘立柱建物跡、井戸跡、溝跡が多数確認でき、郡の寺と郡衙に隣接した中世の集落域や屋敷跡の一端が明らかになりました。本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和2年3月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 小野 寺 俊



# 例 言

- 1 本書は、独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成27・28・30年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市金田字阿弥陀下1685番地ほかに所在する<sup>こんだにし</sup>金田西<sup>つばひ</sup>坪B遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。  
調査 平成28年2月1日～3月31日  
平成28年4月1日～9月30日  
平成30年8月1日～9月30日  
整理 平成31年4月1日～令和2年2月29日
- 3 発掘調査は、副参事兼調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。  
平成27年度  
首席調査員兼班長 駒澤 悦郎  
嘱託調査員 海老澤 稔  
平成28年度  
首席調査員兼班長 駒澤 悦郎  
次席調査員 大武 宣隆 平成28年4月1日～7月31日  
次席調査員 作山 智彦 平成28年4月1日～8月31日  
次席調査員 木村 光輝 平成28年8月1日～9月30日  
次席調査員 三浦 裕介 平成28年8月1日～8月31日  
次席調査員 永井 敦 平成28年8月1日～9月30日  
調査員 近江屋成陽 平成28年4月1日～8月31日  
嘱託調査員 根本 康弘 平成28年9月1日～9月30日  
平成30年度  
首席調査員兼班長 駒澤 悦郎  
次席調査員 三浦 裕介  
調査員 鯉沼 智博
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長皆川修のもと、嘱託調査員野田良直が担当した。
- 5 本書の作成にあたり、木製品の曲物・不明木製品、漆器の高台付椀の樹種同定については、(株)吉田生物研究所に委託し、その成果は、第3章第3節4(4)SE5・7・10・14に掲載した。
- 6 本書の作成にあたり、石器(石臼・茶臼)の石材について、茨城大学名誉教授田切美智雄氏にご指導いただいた。
- 7 本書の作成にあたり、かわらけの編年等について、つくば市教育局文化財課活用係広瀬季一郎氏にご指導いただいた。
- 8 本遺跡の出土遺物及び実測図・写真等は、茨城県埋蔵文化財センターにて保管されている。

# 凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、 $X = + 10,760 \text{ m}$ 、 $Y = + 26,680 \text{ m}$ の交点を基準点 (A 1 a1) とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C…、西から東へ 1, 2, 3…とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c…j, 西から東へ 1, 2, 3, …0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。



遺構 FP-火葬施設 HT-方形竪穴遺構 P-ピット PG-ピット群 SA-柱穴列 SB-掘立柱建物跡  
SD-溝跡 SE-井戸跡 SF-道路跡 SI-竪穴建物跡 SK-土坑 TP-陥し穴 UP-地下式坑  
土層 K-攪乱

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 焼土・赤彩・施釉・漆  炉・火床面・黒色処理  
 竈部材・粘土範囲・炭化物範囲  柱痕跡・柱あたり・煤・油煙  
●土器 ○土製品 □石器・石製品 △金属製品 ■瓦 ▲木製品・漆器 - - - - 硬化面

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m, cm, g で示した。なお、現存値は ( ) を、推定値は [ ] を付して示した。

(2) 遺物番号は遺構毎の通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

7 今回の報告分で、整理の段階で遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

変更 SI54→PG 9, SE 9→大型円形土坑, SK53→FP 1, SK76・80→SI55, SK86→FP 2, SK104→SB9, SK108→SD41, SA 2→PG 3, SA 4  
→PG 2, SA 5→PG 3, SD47→SF 1, PG 3 (P55→SA 7, P67・69→SB7, P95→SB6), PG 4 (P25→SK74, P26→SK75), PG 5 (P91・  
92・123・125・132・180・209・211・212・242・274・293・294・305・315・320・322→SB12), (P17・48・76~78・86・117・140・171・172・189・  
190・236・237・257・261・262・316・317→SB13), (P74→SK152, P109→SK153, P157→SK154, SK158→SK155), PG 6 (P76・79・  
84~86→SI58), PG 7 (P21→PG 5), SX 1→第1号掘り込み遺構, SX 7→第1号整地遺構, SX 8→第2号掘り込み遺構  
欠番 SI59, HT2・3・14, UP5, SK17・19・24・25・27~29・44・72・76・80・98・102・104・108・116・120・129, SD14・15・24・30・31・36・45・46・49, SX2~6・9

# 目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
金田西坪 B 遺跡の概要	1
第 1 章 調査経緯	3
第 1 節 調査に至る経緯	3
第 2 節 調査経過	4
第 2 章 位置と環境	5
第 1 節 位置と地形	5
第 2 節 歴史的環境	5
第 3 章 調査の成果	12
第 1 節 調査の概要	12
第 2 節 基本層序	12
第 3 節 遺構と遺物	13
1 縄文時代の遺構と遺物	13
(1) 陥し穴	13
(2) 土 坑	14
2 古墳時代の遺構と遺物	16
土 坑	16
3 奈良・平安時代の遺構と遺物	17
(1) 竪穴建物跡	18
(2) 掘立柱建物跡	30
(3) 大型円形土坑	38
(4) 粘土採掘坑	40
(5) 土 坑	40
(6) 柱穴列	42
(7) 溝 跡	43
4 中世の遺構と遺物	52
(1) 掘立柱建物跡	52
(2) 方形竪穴遺構	59
(3) 地下式坑	71
(4) 井戸跡	79
(5) 火葬施設	96
(6) 土 坑	97

(7) 柱穴列 .....	109
(8) 溝 跡 .....	111
(9) 整地遺構 .....	150
5 江戸時代以降の遺構と遺物 .....	152
(1) 掘立柱建物跡 .....	152
(2) 井戸跡 .....	154
(3) 溝 跡 .....	158
6 その他の遺構と遺物 .....	161
(1) 土 坑 .....	161
(2) 溝 跡 .....	173
(3) ピット群 .....	174
(4) 道路跡 .....	184
(5) 掘り込み遺構 .....	187
7 遺構外出土遺物 .....	189
第4節 総 括 .....	194
写真図版 .....	PL 1 ~ PL44
抄 録	
付 図	

# こんだにしつぽ 金田西坪 B 遺跡の概要

## 遺跡の位置と調査の目的

金田西坪 B 遺跡は、つくば市の北東部、桜川右岸の標高約 24 m の台地上に位置しています。

中根・金田台地区埋蔵文化財整理事業に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、公益財団法人茨城県教育財団が平成 28 年度に 8,960 m<sup>2</sup>、平成 30 年度に 43 m<sup>2</sup>の発掘調査を行いました。



## 金田西坪 B 遺跡の調査の内容

当遺跡は、平成 12・13 年に確認調査が行われ、河内郡の郡庁域や正倉域が確認され、金田官衙遺跡として国の史跡に指定されました。

今回の調査はその南西部にあたり、たてあなたてあな建物跡 8 棟、ほったてばしら掘立柱建物跡 10 棟、ほうけいたてあない方形堅穴遺構 14 基、ちかき地下式坑 6 基、おおがたえんけい大型円形土坑 1 基、ねんどさいくつ粘土採掘坑 1 基、かそうし火葬施設 2 基、みぞ溝跡 34 条、ピットピット群 8 か所などを確認し、中心となる時期が、室町時代（約 600 ～ 500 年前）であることが明らかになりました。



平成 28 年度調査区全景（南から）





掘立柱建物跡



溝跡から出土した遺物



井戸跡から出土した礎石



土坑からまとめて出土したかわらけ

## 調査の成果

調査によって、小集落を区画する溝<sup>みぞ</sup>やその内側に屋敷域を区画する溝、規模が小さく直線的な溝、細長い排水溝などの水路のように区画した溝など多数確認され、室町時代の集落の様子がわかりました。屋敷域を区画したと考えられる溝の内側には、掘立柱建物跡やこれらに伴う付属施設として機能していた方形竪穴遺構、地下式坑、井戸跡<sup>いどあと</sup>などが構築されていたと考えられます。溝跡や井戸跡からは、当時の生活道具として宴席やお供えなどに使用した土師質の皿<sup>はじしつ</sup>や調理用の内耳鍋<sup>ないじなべ</sup>・搗鉢<sup>すりぼち</sup>・片口鉢<sup>かたくちぼち</sup>・貯蔵用の甕<sup>かめ</sup>などが出土しています。15世紀の中頃から16世紀にかけて、区画溝を拡大しながら、屋敷域が広がっていったものと想定されます。下層武士や農民の小集落跡、屋敷域であることがわかりました。

集落や供膳具の構成から、当時の社会の一端が垣間みられます。



# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

つくば市では、世界に開かれた国際交流の中心、世界の科学技術をリードする研究開発の拠点として、21世紀の新しい街づくりが進められている。その一環として取り組んでいるのが、2005年に開業した「つくばエクスプレス」の沿線開発である。中根・金田台地区については、住宅・都市整備公団つくば開発局（平成9年10月から住宅・都市整備公団茨城地域支社に、平成11年10月から都市基盤整備公団茨城地域支社に、平成16年7月から独立行政法人都市再生機構茨城地域支社に、平成23年7月から独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部茨城地域事業本部に、平成31年4月から独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部に名称を変更）が事業主体として、土地区画整理事業を進めている。金田西坪B遺跡については、平成6年11月18日、住宅・都市整備公団つくば開発局長は茨城県教育委員会教育長あてに、中根・金田台特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成7年度、現地踏査を実施した。平成12年3月6日～9日、13日～15日及び17日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成12年3月17日、茨城県教育委員会教育長は都市基盤整備公団茨城地域支社長あてに、事業地内に金田西坪B遺跡が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成28年1月4日、平成30年2月5日、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役は茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、平成28年1月6日及び平成30年2月13日、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役あてに、工事着工前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成27年2月19日、平成28年2月16日及び平成30年2月26日に、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役は茨城県教育委員会教育長あてに、中根・金田台特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成27年2月20日、平成28年2月16日及び平成30年2月26日に、茨城県教育委員会教育長は独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役あてに、金田西坪B遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として、公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。公益財団法人茨城県教育財団は、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部長から中根・金田台地区埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成28年2月1日から3月31日まで、平成28年4月1日から9月30日まで、平成30年8月1日から9月30日まで発掘調査を実施した。

## 第2節 調査経過

金田西坪B遺跡の調査は、平成28年2月1日から3月31日までの2か月間と平成28年4月1日から9月30日までの6か月間と、平成30年8月1日から9月30日までの2か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

平成28年2月1日から3月31日

工程 \ 期間	2月	3月
調査準備 遺構除却確認		
遺構調査		
遺物洗浄 写真整理		
撤収		

平成28年4月1日から9月30日

工程 \ 期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月
調査準備 遺構除却確認						
遺構調査						
遺物洗浄 写真整理						
撤収						

平成30年8月1日から9月30日

工程 \ 期間	8月	9月
調査準備 遺構除却確認		
遺構調査		
遺物洗浄 写真整理		
撤収		

## 第2章 位置と環境

### 第1節 位置と地形

金田西坪B遺跡は、茨城県つくば市金田字阿弥陀下1,685番地ほかに所在している。

つくば市は、茨城県の南西部に位置し、北部は筑波山塊に接し、東側約5kmには霞ヶ浦がある。市域の多くは筑波山を北端として、その南東側に広がる標高25mほどの平坦な筑波・稲敷台地上にある。この台地は、東を霞ヶ浦に流入する桜川、西を利根川に合流する小貝川によって区切られており、東から花室川、蓮沼川、谷田川、西谷田川などの中小河川がほぼ北から南側に向かって流れている。

筑波・稲敷台地は、千葉県北部から茨城県南部にかけて広がる常総台地の一部であり、地質的には海成砂層の成田層を基盤として、その上に砂層・砂礫層の竜ヶ崎層、さらに泥質粘土層の常総粘土層、関東ローム層が連続して堆積し、最上部は腐植土層となっている<sup>1)</sup>。

金田西坪B遺跡は、つくば市の北東部、桜川右岸の標高約24mの台地上に位置している。台地は東側の桜川、西側の花室川に挟まれ、遺跡はその台地上の西側に位置し、幅約360mほどで、ほぼ南北に延びている。沖積低地との比高は20～23mである。当遺跡とその周辺は、台地上の縁辺部の一部が雑木林・杉林のほか、主として畑地として利用されている。桜川によって形成された沖積低地は、主に水田として利用されている。当遺跡の調査前の現況は、畑地・山林であった。

### 第2節 歴史的環境

金田西坪B遺跡が所在する桜川及び花室川流域には、旧石器時代から江戸時代までの遺跡が多数分布している。ここでは、『茨城県遺跡地図』<sup>2)</sup>に登録されている当該地域の主な遺跡を、時代ごとに概観する。

旧石器時代の遺跡は、上野古屋敷遺跡<sup>3)</sup>〈15〉、中根中谷津遺跡<sup>4)</sup>〈20〉、柴崎大堀遺跡<sup>5)</sup>〈25〉、東岡中原遺跡<sup>6)</sup>〈28〉で、石器集中地点が確認されている。中でも東岡中原遺跡では、ナイフ形石器、尖頭器、搔器、彫刻刀形石器、楔形石器、石刀、石核などが、多層位にわたって出土している。これらは県内の旧石器時代を考える上で重要な資料となっている。また、花室川左岸の北条中台遺跡<sup>7)</sup>、柴崎遺跡<sup>8)</sup>〈7〉からもナイフ形石器や尖頭器が出土しており、当該期の人々の活動の痕跡を確認することができる。花室川の川底からは、ナウマンゾウ等の化石が出土しており、旧石器時代の人々が狩猟対象としていたことが考えられている<sup>9)</sup>。

縄文時代の遺跡は、多数確認されている。柴崎遺跡では、早期の炉穴が確認されている。上野陣場遺跡<sup>10)</sup>〈14〉、上野古屋敷遺跡、東岡中原遺跡では、前期の集落跡が確認されており、当該地域の人々が定住し始めたことを示している。中期に入ると、遺跡数も増加し、集落の規模が大きくなっている。花室川下流左岸の下広岡遺跡<sup>11)</sup>では、大規模な集落跡が確認されている。後期には、周辺地域で貝塚が形成されるようになる。上境旭台貝塚<sup>12)</sup>〈19〉や桜川下流域に存在する国指定史跡の土浦市上高津貝塚<sup>13)</sup>では、後期から晩期にかけて形成された貝塚が存在する。これらの貝塚からは、土器などの遺物のほか、動物の骨などの自然遺物も多量に出土しており、当該期の生業活動を推測する上で良好な資料となっている。また、柴崎大堀遺跡、上野陣場遺跡、上野古屋敷遺跡、上境旭台貝塚、東岡中原遺跡からは、縄文時代に作られたと考えられる陥し穴が確認されており、台地上が狩猟の場としても利用されていることが分かる。

弥生時代の遺跡は、上野陣場遺跡、上野古屋敷遺跡、やや上流にある玉取向山遺跡<sup>14)</sup>で、後期の集落跡が確認されているが遺跡数は少ない。

古墳時代になると遺跡数が急増し、桜川周辺の微高地や台地全域に広がっている。桜川右岸では、上野陣場遺跡、上野古屋敷遺跡で前期と後期、東岡中原遺跡で中期、柴崎遺跡で後期の集落跡がそれぞれ確認されている。古墳は、全長 80 m で当地域最大の前方後円墳である上野天神塚古墳〈12〉や、上野定使古墳群〈13〉が存在している。この他、栗原十日塚古墳〈10〉、栗原愛吾塚古墳〈11〉をはじめ、桜川右岸台地縁辺部に、円筒埴輪・人物埴輪・動物埴輪が出土した上境滝の台古墳群〈18〉、埴輪片・石棺破片が確認された横町古墳群〈21〉などが知られている<sup>15)</sup>。上境作ノ内古墳群〈17〉の 1 号墳では、発掘調査により石棺と被葬者の骨が確認されている<sup>16)</sup>。これらの古墳群のうち、上野天神塚古墳が前期古墳である以外は、いずれも後期古墳である。

奈良・平安時代の当該地域は、河内郡菅田郷に属し、その後 12 世紀には田中の荘に属していた。この時代の遺跡は、桜川と花室川に挟まれた中根、金田を中心とする台地上に集中している。金田西坪 B 遺跡や金田西遺跡〈3〉については、平成 12 年から平成 13 年には河内郡衙正倉域・郡庁域・郡寺域確認のための確認調査が行われた。この確認調査によって、区画溝とその内部に掘立柱建物跡や礎石建物で構成される倉庫群が検出され、正倉域がほぼ明確になった。九重東岡廃寺〈2〉では、基壇建物跡・伽藍配置、郡衙域・郡庁域などの範囲が残されたままであり、平成 13 年から平成 14 年に主要伽藍と寺域溝の確認が行われた。主要伽藍となりうる建物跡は確認できなかったが、金田西坪 B 遺跡、金田西遺跡とともに金田官衙遺跡群として国の指定を受けた<sup>17)</sup>。平成 27・28 年度に九重東岡廃寺、金田西遺跡の発掘調査を行い、花室川左岸の台地上の西側に位置し、奈良から平安時代の郡衙や郡寺を維持する人々の集落跡の遺跡が南北に延びていることを確認した<sup>18)</sup>。

中世の遺跡も数多く確認されている。柴崎遺跡では、12～13 世紀の方形竪穴遺構を中心とした集落跡が、上野古屋敷遺跡では、溝で区画された掘立柱建物跡を中心とする集落跡が確認されている。桜川左岸には小田氏の居城であった国指定史跡小田城跡があり、それに関連すると考えられる城館跡も多い。桜川右岸には、柴崎片岡上館跡〈5〉、金田城跡〈24〉、花室城跡〈32〉、上ノ室城跡〈37〉、古来館跡〈66〉などが位置している。

室町時代から江戸時代にかけての遺跡には、柴崎大堀遺跡がある。堀と土塁が確認でき、隣接する金田城の守りも視野に入れながら街道閉鎖に主眼を置いたものと考えられている<sup>19)</sup>。当地域は鎌倉時代から室町時代にかけては小田氏に支配され、戦国時代においては小田氏と佐竹氏の攻防により、その支配も変化した。また、中世末まで柴崎地区は上境・中根・土器屋・松塚・横町・柴崎地区で一郷を構成し、筑波郡と境を隣接することから境郷とも呼ばれていた。江戸時代は、堀氏玉取藩の知行地となった上野・栗原地区を除き、当該地域の多くが土浦藩に属することになり、明治 4 年（1871 年）の廃藩置県に至っている。

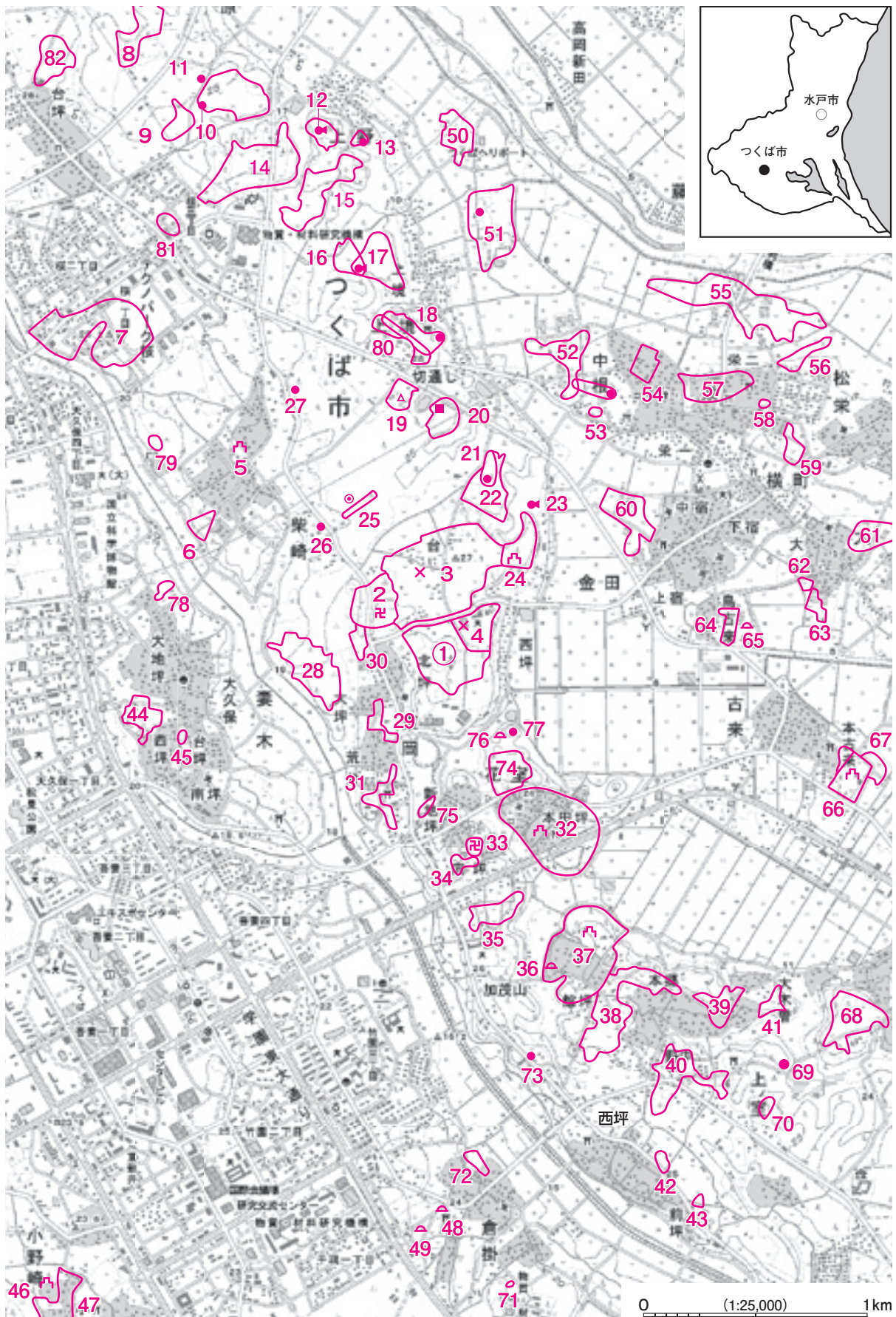
#### 註

- 1) a 大山年次監修『茨城県 地質のガイド』コロナ社 1977 年 8 月  
b 日本の地質『関東地方』編集委員会『日本の地質 3 関東地方』共立出版 2007 年 5 月
- 2) 茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 2001 年 3 月
- 3) a 三谷正・大塚雅昭・桑村裕『上野古屋敷遺跡 1 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ』茨城県教育財団文化財調査報告第 285 集 2007 年 3 月  
b 川井正一『上野古屋敷遺跡 2 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ』茨城県教育財団文化財調査報告第 307 集 2008 年 3 月

- c 川井正一・齋藤和浩『上野古屋敷遺跡3 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅻ』茨城県教育財団文化財調査報告第324集 2009年3月
- d 櫻井完介・江原美奈子『上野古屋敷遺跡4 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅫⅢ』茨城県教育財団文化財調査報告第334集 2010年3月
- 4) a 川村満博『(仮称)中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 中谷津遺跡1』茨城県教育財団文化財調査報告第139集 1998年9月
- b 荒蒔克一郎『中根中谷津遺跡2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅫⅣ』茨城県教育財団文化財調査報告第367集 2013年3月
- 5) 盛野浩一・皆川貴之『柴崎大堀遺跡・柴崎大日塚 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅫⅤ』茨城県教育財団文化財調査報告第429集 2017年3月
- 6) a 成島一也『中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告Ⅱ 中原遺跡1』茨城県教育財団文化財調査報告第155集 2000年3月
- b 成島一也・宮田和男『中原遺跡2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』茨城県教育財団文化財調査報告第159集 2000年3月
- c 高野節夫・白田正子・仲村浩一郎・島田和宏『中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 中原遺跡3』茨城県教育財団文化財調査報告第170集 2001年3月
- d 駒澤悦郎『東岡中原遺跡4 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ』茨城県教育財団文化財調査報告第251集 2005年3月
- 7) 吉川明宏・新井聡・黒澤秀雄『(仮称)北条住宅団地建設工事地内埋蔵文化財調査報告書 中台遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第102集 1995年12月
- 8) a 高村勇『研究学園都市計画桜柴崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅰ) 柴崎遺跡Ⅰ・Ⅱ-1区』茨城県教育財団文化財調査報告第54集 1989年9月
- b 佐藤正好・松浦敏『研究学園都市計画桜柴崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅱ) 柴崎遺跡Ⅱ区 中塚遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第63集 1991年3月
- c 土生朗治『研究学園都市計画桜柴崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ) 柴崎遺跡Ⅲ区』茨城県教育財団文化財調査報告第72集 1992年3月
- d 萩野谷悟『研究学園都市計画桜柴崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅳ) 柴崎遺跡Ⅱ区・Ⅲ区』茨城県教育財団文化財調査報告第93集 1994年9月
- 9) 飯泉克典・国府田良樹・小池涉・西本豊弘・安藤寿男・伊達元成「茨城県霞ヶ浦西部花室川河床礫層より産出した後期更新世末期のニホンアシカ化石」『地質学雑誌』第116巻 5号 2010年5月
- 10) a 川上直登・長谷川聡・大塚雅昭『上野陣場遺跡 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ』茨城県教育財団文化財調査報告第182集 2002年3月
- b 川井正一・齋藤和浩『上野陣場遺跡2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅫⅥ』茨城県教育財団文化財調査報告第323集 2009年3月
- 11) 加藤雅美・小河邦男『常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 下広岡遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第10集 1981年3月
- 12) a 柴山正広・須賀川正一・小野政美・小川貴行・越川欣和『上境旭台貝塚 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅫⅦ』茨城県教育財団文化財調査報告第325集 2009年3月
- b 江原美奈子『上境旭台貝塚2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅫⅧ』茨城県教育財団文化財調査報告第364集 2012年3月
- c 荒蒔克一郎『上境旭台貝塚3 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅫⅨ』茨城県教育財団文化財調査報告第368集 2013年3月
- d 小林和彦『上境旭台貝塚4 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅫⅩ』茨城県教育財団文化財調査報告第397集 2015年3月



- 13) a 佐藤孝雄・大内千年編『国指定史跡上高津貝塚A地点－史跡整備事業に伴う発掘調査報告－』土浦市教育委員会 1994年3月
- b 塩谷修『国指定史跡上高津貝塚E地点－史跡整備事業に伴う発掘調査報告－』土浦市教育委員会 2000年3月
- c 石川功・福田礼子編『国指定史跡上高津貝塚C地点－史跡整備事業に伴う発掘調査報告－』土浦市教育委員会 2006年3月
- 14) a 石橋充・関口友紀『玉取遺跡－火葬場建設に伴う発掘調査報告－』つくば市教育委員会 2000年3月
- b 奥沢哲也『玉取向山遺跡 県立つくば養護学校（仮称）整備事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第263集 2006年3月
- 15) 桜村史編さん委員会『桜村史 上巻』桜村教育委員会 1982年3月
- 16) つくば市教育委員会「上境図面点検 遺物抽出接合・原稿執筆作ノ内1号墳 発掘・確認調査」『つくば市内遺跡』つくば市 2001年3月
- 17) a 九重廃寺遺跡調査団『東岡遺跡－九重廃寺跡調査報告－』桜村教育委員会 1984年3月
- b 白田正子『金田西遺跡 金田西坪B遺跡 九重東岡廃寺 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ』茨城県教育財団文化財調査報告第209集 2003年3月
- c 白田正子『九重東岡廃寺確認調査報告書1』茨城県教育財団 2001年3月
- 18) 荒井保雄『九重東岡廃寺 金田西遺跡 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XXI』茨城県教育財団文化財調査報告第435集 2019年3月
- 19) 註5)と同じ



第1図 金田西坪B遺跡周辺遺跡分布図 (国土地理院 25,000 分の1 「上郷」「常陸藤沢」「谷田部」「土浦」)

表1 金田西坪B遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	金田西坪B遺跡		○		○	○	○	○	42	上ノ室中坪後遺跡				○	○	○	○
2	九重東岡廃寺					○	○	○	43	上ノ室中畑遺跡		○			○	○	○
3	金田西遺跡		○		○	○	○	○	44	妻木坪内遺跡					○	○	○
4	金田西坪A遺跡					○			45	妻木宮前遺跡					○	○	○
5	柴崎片岡上館跡				○	○	○		46	小野崎館跡						○	○
6	柴崎南遺跡		○		○		○	○	47	小野崎宿遺跡						○	○
7	柴崎遺跡	○	○		○	○	○	○	48	倉掛天神塚						○	○
8	栗原五竜遺跡		○		○	○	○		49	倉掛千現塚						○	○
9	栗原大山西遺跡					○	○	○	50	上境北ノ内遺跡					○	○	○
10	栗原十日塚古墳				○				51	上境古屋敷遺跡				○	○	○	○
11	栗原愛宕塚古墳				○				52	中根不葉拔遺跡		○			○	○	○
12	上野天神塚古墳				○				53	中根宮ノ前遺跡					○	○	○
13	上野定使古墳群				○				54	中根屋敷附館跡					○	○	○
14	上野陣場遺跡		○	○	○	○	○	○	55	中根遺跡				○	○	○	
15	上野古屋敷遺跡	○	○	○	○	○	○	○	56	松塚鷲打遺跡					○	○	○
16	上境作ノ内遺跡		○	○	○	○		○	57	栄土器屋遺跡					○	○	○
17	上境作ノ内古墳群				○				58	栄屋敷付遺跡					○	○	○
18	上境滝ノ台古墳群				○				59	栄尼塚遺跡						○	○
19	上境旭台貝塚		○		○				60	金田竜宮橋遺跡					○	○	○
20	中根中谷津遺跡	○	○			○			61	大白畑遺跡				○	○	○	○
21	横町古墳群				○				62	阿弥陀寺跡						○	○
22	横町庚申塚遺跡		○		○	○	○	○	63	大南遺跡				○	○	○	○
23	金田古墳				○				64	古来北ノ崎遺跡					○	○	○
24	金田城跡							○	65	古来島ノ前塚						○	○
25	柴崎大堀遺跡	○	○					○	66	古来館跡		○	○	○	○	○	
26	柴崎稻荷前古墳				○				67	古来遺跡					○	○	
27	柴崎大日塚							○	68	吉瀬清水台遺跡		○		○	○		
28	東岡中原遺跡	○	○		○	○	○	○	69	上ノ室大日塚古墳				○			
29	東岡南遺跡					○	○	○	70	上ノ室大十塚遺跡					○		
30	東岡中畑遺跡					○			71	倉掛遺跡		○					
31	東岡天神前遺跡					○	○	○	72	倉掛明神の門遺跡				○			○
32	花室城跡		○	○	○	○	○	○	73	上ノ室入定原古墳				○			
33	花室寺畑廃寺							○	74	花室遺跡		○			○		
34	花室寺山前遺跡					○	○	○	75	花室溝向遺跡					○		
35	花室儀量台遺跡		○		○	○	○	○	76	花室後田塚						○	○
36	上ノ室タテ坪塚							○	77	花室大日塚古墳				○			
37	上ノ室城跡		○			○	○	○	78	妻木鴻ノ巢遺跡					○	○	
38	上ノ室ハマイバ遺跡				○	○	○	○	79	柴崎ボツケ遺跡					○		
39	上ノ室十枚遺跡				○	○	○	○	80	上境滝ノ臺遺跡		○	○				
40	上ノ室野中遺跡		○		○	○	○	○	81	上野中塚遺跡		○		○	○	○	
41	上ノ室薬師山遺跡					○	○	○	82	栗原才十郎遺跡		○					





第2図 金田西坪B遺跡調査区設定図（つくば市都市計画図2,500分の1）

# 第3章 調査の成果

## 第1節 調査の概要

金田西坪B遺跡は、つくば市の北東部に位置し、桜川の低地に望む標高22～24mの右岸台地上に立地している。古くから河内郡衙・河内郡寺の推定地とされてきた場所であり、平成12年～13年度まで、継続的に確認調査が行われてきた。その結果、金田西坪B遺跡では正倉院と正倉区画溝が確認されている。

今回の調査は、確認調査をした場所の南西部である。調査面積は、平成28年度8,960㎡と、平成30年度の43㎡である。調査前の現況は畑地、山林である。

調査の結果、竪穴建物跡8棟（奈良・平安時代）、掘立柱建物跡10棟（奈良・平安時代4、中世5、近世1）、方形竪穴遺構14基（中世）、地下式坑6基（中世）、井戸跡13基（中世8、近世5）、陥し穴3基（縄文時代）、大形円形土坑1基（奈良・平安時代）、粘土採掘坑1基（奈良・平安時代）、火葬施設2基（中世）、土坑132基（縄文時代3、古墳時代1、奈良・平安時代2、中世15、時期不明111）、柱穴列5条（奈良・平安時代1、中世4）、溝跡34条（奈良・平安時代6、中世13、近世2、時期不明13）、整地遺構1か所（中世）、掘り込み遺構2基（時期不明）、道路跡2条（時期不明）、ピット群8か所（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に76箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、土師器（坏・高台付坏・甕）、須恵器（坏・高台付坏・蓋・盤・瓶・鉢・鉢）、土師質土器（皿・耳皿・内耳鍋・播鉢・香炉・茶釜）、陶器（碗・小皿・甕）、磁器（碗・壺）、金属製品（鏃・釘）、椀状滓、銭貨、石器（石臼・茶臼・砥石）、石製品（五輪塔・宝篋印塔・礎石）、瓦（軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・熨斗瓦）などである。

## 第2節 基本層序

調査区中央部の台地上の平坦面（F2b7区）にテストピットを設定し、基本土層（第3図）の観察を行った。土層は5層に分層でき、第3・4層が関東ローム層である。

第1層は、表土である。粘性・締まりとも弱く、焼土・炭化材を少量含み、層厚は48～75cmである。

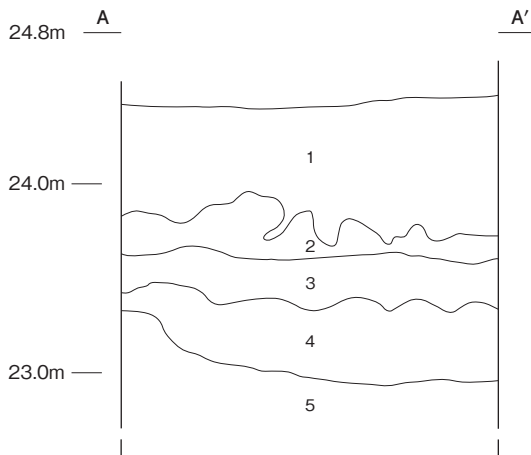
第2層は、黄褐色を呈するローム漸移層である。粘性・締まりともに強く、ロームブロックや焼土・炭化物を少量含み、層厚は4～35cmである。

第3層は、暗褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は15～30cmである。

第4層は、明黄褐色を呈する層である。粘性・締まりともに強く、層厚は11～46cmである。

第5層は、灰白色を呈する常総粘土層である。粘性・締まりともに非常に強い。下層は未掘のため、本来の層厚は不明である。

遺構は主に第3層上面で確認した。



第3図 基本土層図

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、陥し穴3基、土坑3基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

##### (1) 陥し穴

##### 第1号陥し穴（第4図）

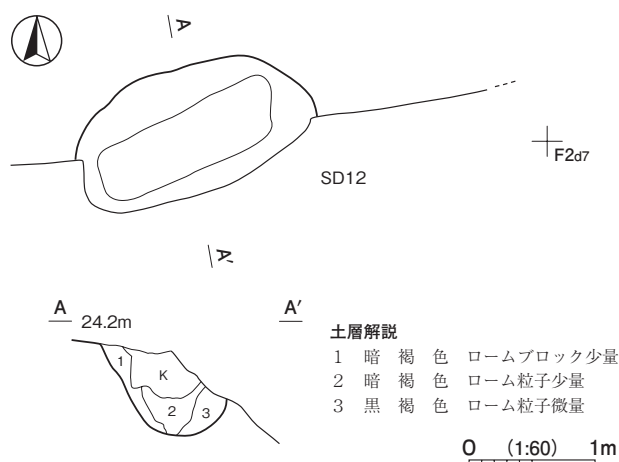
**位置** 調査区北西部のF 2c6区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第12号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 南部が第12号溝に掘り込まれているため、長径は2.00m、短径は1.00mしか確認できなかった。長径方向はN-69°-Eの楕円形と推定される。深さ70cmで、底面は幅48cmで平坦である。短径方向の断面形はU字状で、壁は外傾している。

**覆土** 3層に分層できる。第1層はロームブロックを含む壁面の崩落土で、第2・3層は溝の土砂が流れ込んだ自然堆積である。

**所見** 時期は、遺物が出土していないために明確ではないが、規模や形状から縄文時代と考えられる。

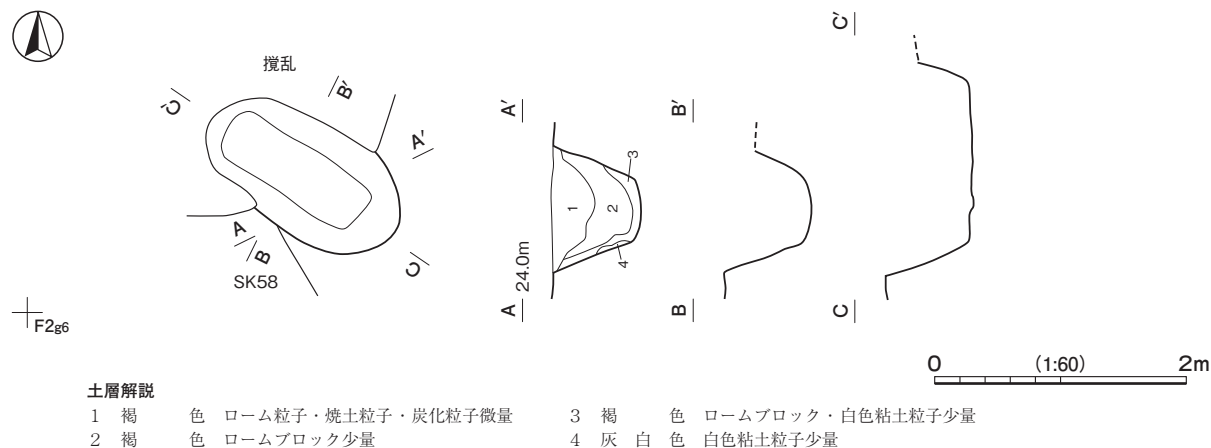


第4図 第1号陥し穴実測図

##### 第2号陥し穴（第5図 PL3）

**位置** 調査区北西部のF 2f6区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第58号土坑を掘り込んでいる。



第5図 第2号陥し穴実測図

**規模と形状** 北東部が一部攪乱を受けているため、長径 1.70 m、短径 0.91 mしか確認できなかった。長径方向はN-57°-Wで、楕円形と推定される。深さは70cmで、底面は幅 45cmで平坦である。短径方向の断面形はU字状で、壁は外傾している。

**覆土** 4層に分層できる。第1層は自然堆積であり、第2・3層はロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

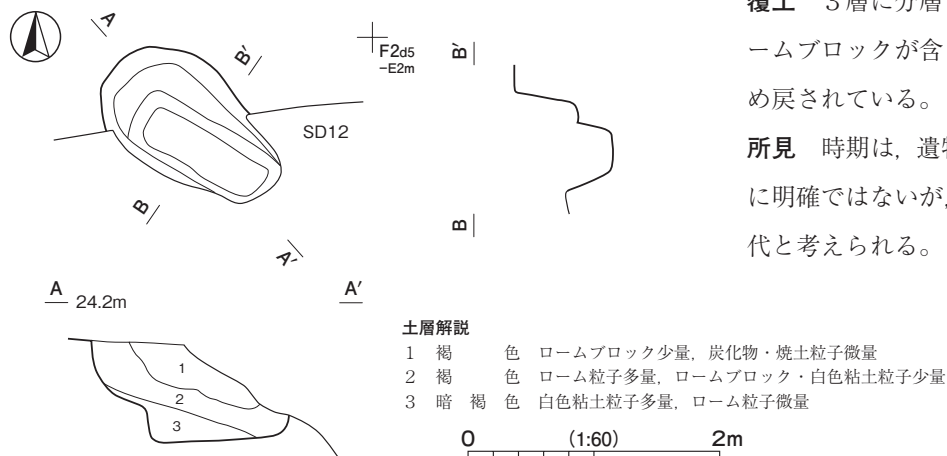
**所見** 時期は、遺物が出土していないために明確ではないが、規模や形状から縄文時代と考えられる。

### 第3号陥し穴（第6図）

**位置** 調査区北西部の F 2d5 区、標高 24 mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第12号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 南部が第12号溝に掘り込まれているため、長径 1.56 m、短径 0.92 mしか確認できなかった。長径方向はN-48°-Wの楕円形と推定される。深さは83cmで、底面は幅32cmで平坦である。短径方向の断面形はU字状で段をもち、壁は外傾している。



**覆土** 3層に分層できる。第1・2層はロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**所見** 時期は、遺物が出土していないために明確ではないが、規模や形状から縄文時代と考えられる。

第6図 第3号陥し穴実測図

表2 縄文時代陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸) (m)	短径(軸) (m)					
1	F2c6	N-69°-E	[楕円形]	(2.00) × (1.00)	70	外傾	平坦	自然	-	本跡→SD12
2	F2f6	N-57°-W	[楕円形]	(1.70) × (0.91)	70	外傾	平坦	人為	-	SK58→本跡
3	F2d5	N-48°-W	[楕円形]	(1.56) × (0.92)	83	外傾	平坦	人為	-	本跡→SD12

### (2) 土坑

#### 第48号土坑（第7図）

**位置** 調査区北西部の F 2e5 区、標高 24 mほどの平坦な台地上に位置している。

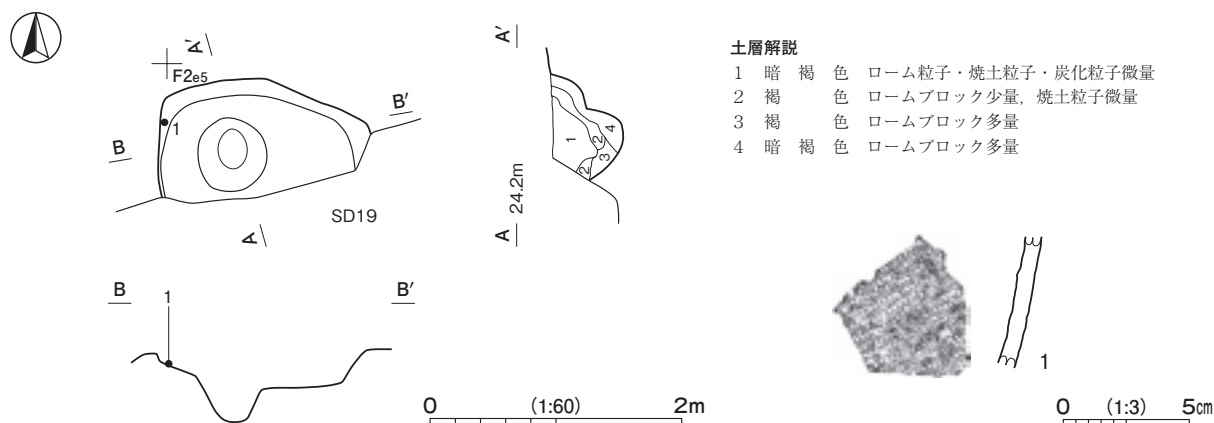
**重複関係** 第19号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 南側が第19号溝に掘り込まれているため、東西径は1.70 mで、南北径は0.95 mしか確認できなかった。南北径方向はN - 10° - Eの不整楕円形と推定される。深さ30cmで、東西径方向の断面形は浅いU字状で段をもち、壁は外傾している。底面は平坦で、中央部に深さ24cmのピットを有している。

**覆土** 4層に分層できる。第2～4層はロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片1点（深鉢）が西部の底面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期中葉と考えられる。性格は不明である。



第7図 第48号土坑・出土遺物実測図

第48号土坑出土遺物観察表（第7図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(5.2)	-	長石・石英・金雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	胴部片 胴部は直線的に立ち上がる RLの単節縄文を施文	底面	5%

**第58号土坑（第8図）**

**位置** 調査区北西部のF2f6区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

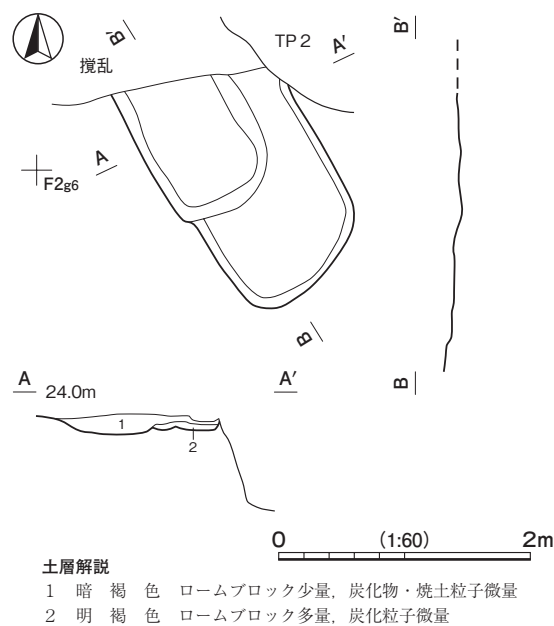
**重複関係** 北東部を第2号陥し穴に掘り込まれている。

**規模と形状** 北部が攪乱を受けているため、長軸は2.05 m、短軸は1.28 mしか確認できなかった。長軸方向はN - 34° - Wの隅丸長方形と推定される。深さ18cmで、壁は外傾している。底面は平坦で、西側にわずかな段を有している。

**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**所見** 時期は、遺物が出土していないために明確ではないが、重複関係などから縄文時代と考えられる。

性格は不明である。



第8図 第58号土坑実測図

第 144 号土坑（第 9 図）

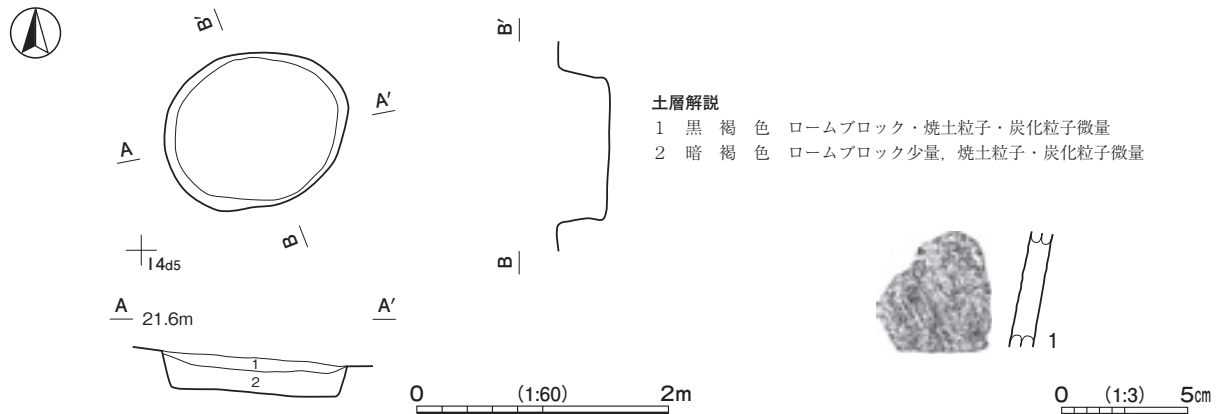
**位置** 調査区北東部の I 4c5 区，標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 長径 1.50 m，短径 1.24 m の楕円形で，長径方向は N - 70° - E である。深さ 40cm で，壁は外傾している。底面は平坦である。

**覆土** 2 層に分層できる。ロームブロックが含まれているが，レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

**遺物出土状況** 縄文土器片 1 点（深鉢）が覆土中から出土している。

**所見** 時期は，出土土器や形状から中期と考えられる。性格は不明である。



第 9 図 第 144 号土坑・出土遺物実測図

第 144 号土坑出土遺物観察表（第 9 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(4.6)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	胴部片 胴部は直線的に立ち上がる 櫛歯状工具による条線文を施文	覆土中	5%

表 3 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
48	F2e5	N - 10° - E	[不整楕円形]	1.70 × (0.95)	30	外傾	平坦	人為	縄文土器	本跡→SD19
58	F2f6	N - 34° - W	[隅丸長方形]	(2.05) × (1.28)	18	外傾	平坦	人為	-	本跡→TP2
144	I4c5	N - 70° - E	楕円形	1.50 × 1.24	40	外傾	平坦	人為	縄文土器	

2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，土坑 1 基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

土坑

第 101 号土坑（第 10 図 PL 3・22）

**位置** 調査区中央部の H 3a1 区，標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。

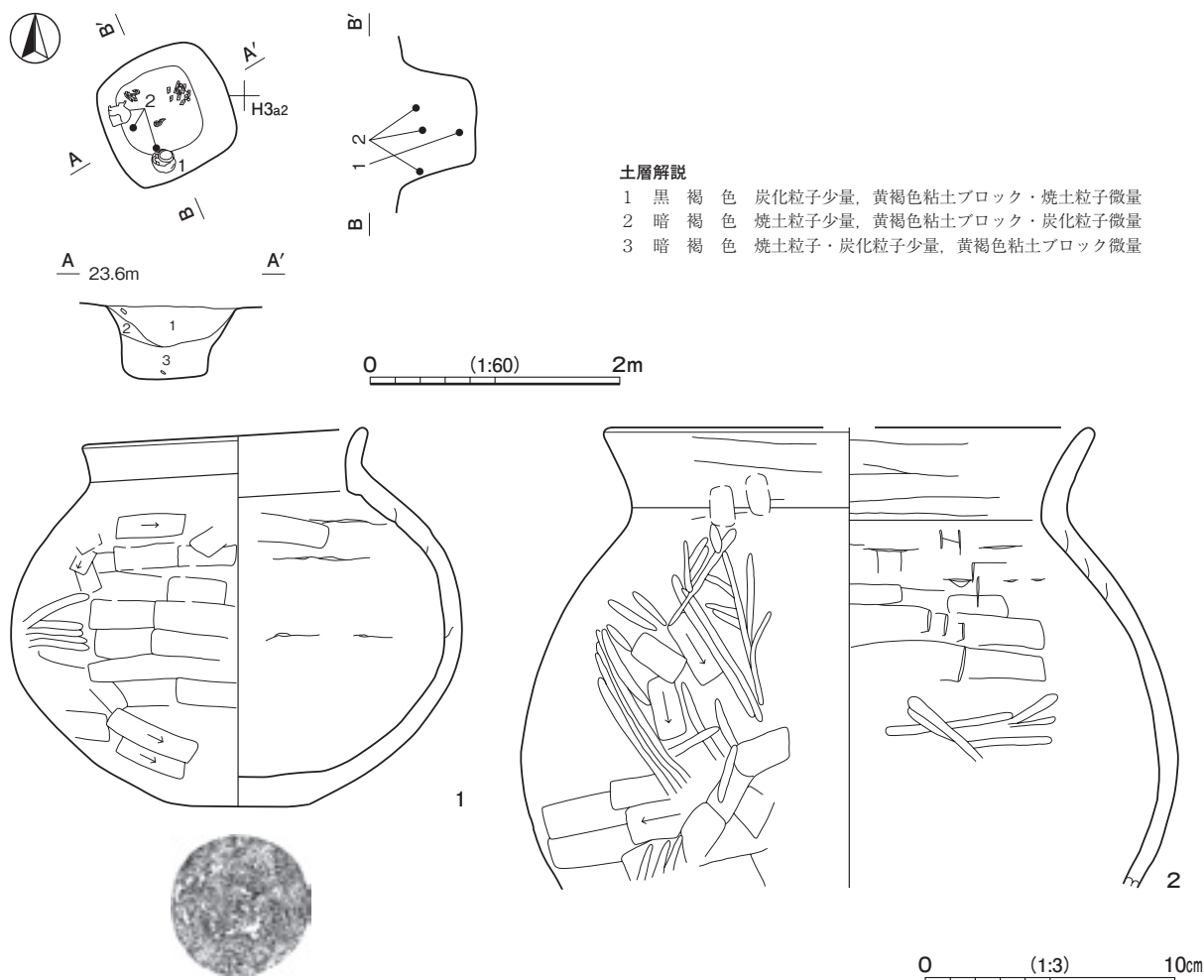
**規模と形状** 長軸 1.04 m，短軸 1.00 m の方形で，長軸方向は N - 59° - E である。深さ 59cm で，壁は外傾している。底面は平坦である。



**覆土** 3層に分層できる。各層に黄褐色粘土ブロックや 焼土粒子・炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片3点(高坏, 壺, 甕類), 炭化材が覆土中から出土している。1は覆土下層から正位で出土しており, 遺棄されたものと考えられる。2は覆土上層から出土している。破碎された土器や炭化材が覆土上層から出土していることから, 埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から6世紀中葉と考えられる。性格は不明である。



第10図 第101号土坑・出土遺物実測図

第101号土坑出土遺物観察表(第10図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	壺	11.1	15.1	5.5	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り後一部ナデ 体部外面横位のへら削り後一部横位のへら磨き	覆土下層	90% PL22
2	土師器	甕	[19.0]	(18.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ へらナデ 体部外面 斜位のへら削り後斜位のへら磨き	覆土上層	20%

### 3 奈良・平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は, 竪穴建物跡8棟, 掘立柱建物跡4棟, 大型円形土坑1基, 粘土採掘坑1基, 土坑2基, 柱穴列1条, 溝跡6条を確認した。以下, 遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第 51 号竪穴建物跡 (第 11・12 図 PL 3)

**位置** 調査区北西部の F 2f4 区, 標高 24 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第 52・53 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸 5.28 m, 短軸 4.33 m の隅丸長方形で, 主軸方向は N - 17° - W である。壁は高さ 14 ~ 32 cm で, ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。コーナー部や壁際を土坑状に掘り込み, ロームブロックや焼土粒子を含む第 6 層を埋土して構築されている。壁溝が北西部と南東コーナー部を巡っている。

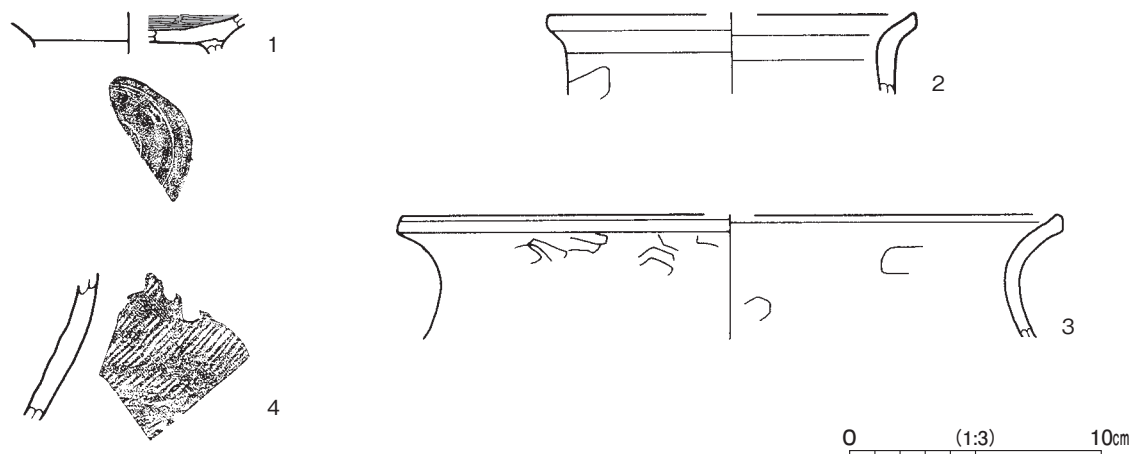
**竈** 北壁中央部に付設されているものと思われ, 焼土範囲の痕跡がわずかに残っている。火床面の規模は長径 86 cm, 短径 30 cm である。

**ピット** 14 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 28 ~ 35 cm で, 規模や配置から主柱穴である。P 6・P 8 は竈の両脇に位置していることから, 竈に関連するピットと推定される。P 7・P 9・P 11 ~ P 13 は壁に伴う柱穴で, P 10・P 14, 竈の南側に位置している P 5 は性格は不明である。第 1 ~ 4 層は柱材を抜き取った後の覆土である。

**覆土** 5 層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子が含まれていることや不規則な堆積状況から, 埋め戻されている。第 6 層は掘方への埋土である。

**遺物出土状況** 土師器片 91 点 (高坏 30, 高台付坏 1, 甕類 60), 須恵器片 16 点 (坏 10, 甕類 6), 瓦片 2 点 (軒丸瓦, 平瓦), 金属製品 1 点 (不明) が出土している。1・2・4 は覆土中から出土していることから, 投棄あるいは混入と考えられる。3 は掘方の埋土から出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から判断できないが, 重複関係などから 9 世紀後葉 ~ 10 世紀初頭と考えられる。

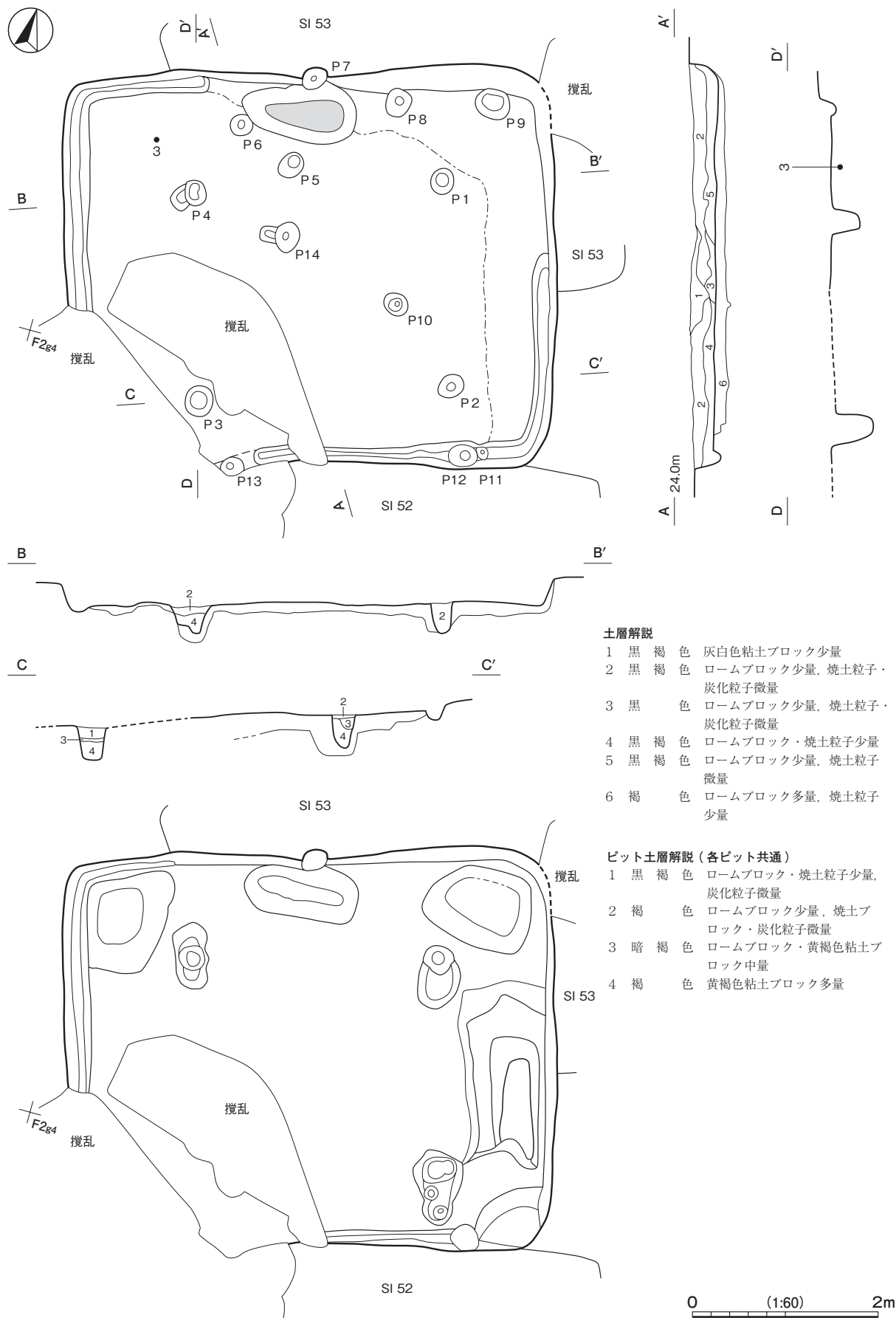


第 11 図 第 51 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 51 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 11 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付坏	-	(1.6)	-	長石・石英	橙	普通	底部回転ヘラ削り 高台貼り付け後ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	10%
2	土師器	甕	[14.6]	(3.2)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面ヘラナデ	覆土中	5%
3	土師器	甕	[26.0]	(4.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面ヘラナデ	掘方埋土	5%
4	須恵器	甕	-	(6.0)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 体部内面横位のヘラナデ	覆土中	5% 新治窯

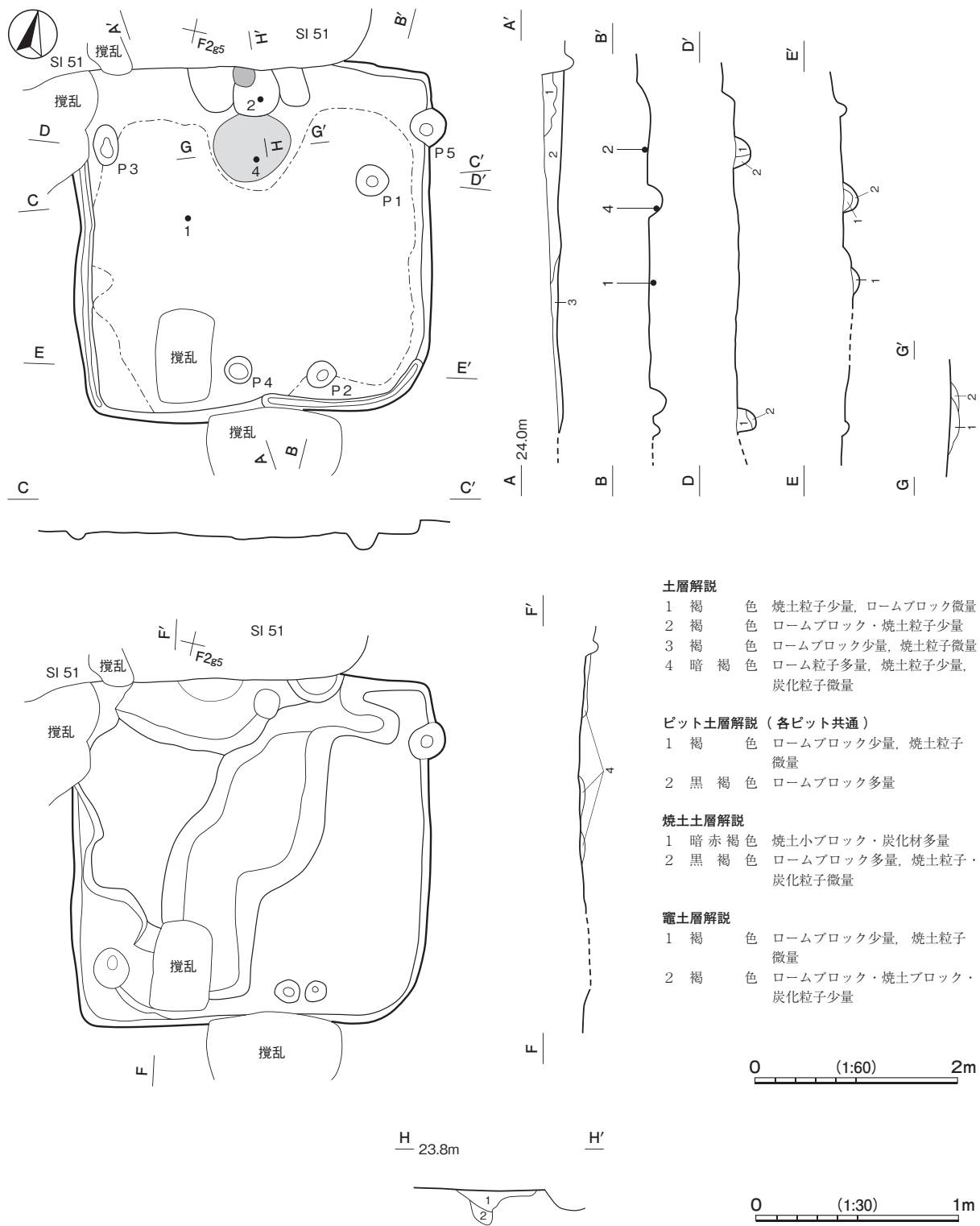




第12図 第51号竪穴建物跡実測図

第 52 号 竪穴建物跡 (第 13・14 図 PL 4)

位置 調査区北西部の F 2g5 区, 標高 24 m ほどの平坦な台地上に位置している。



第 13 図 第 52 号 竪穴建物跡実測図

**重複関係** 第51号竪穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 第51号竪穴建物に一部掘り込まれているが、一辺3.50mほどの隅丸方形で、主軸方向はN-13°-Wである。壁は高さ5~14cmで、外傾している。

**床** 平坦な貼床で、竈の前方から四方の壁に向かって、踏み固められている。床は中央部を長方形に10cm程掘り下げ、ロームブロックを含んだ第3層を埋土して構築されている。壁溝が西壁と南東コーナー部を巡っている。

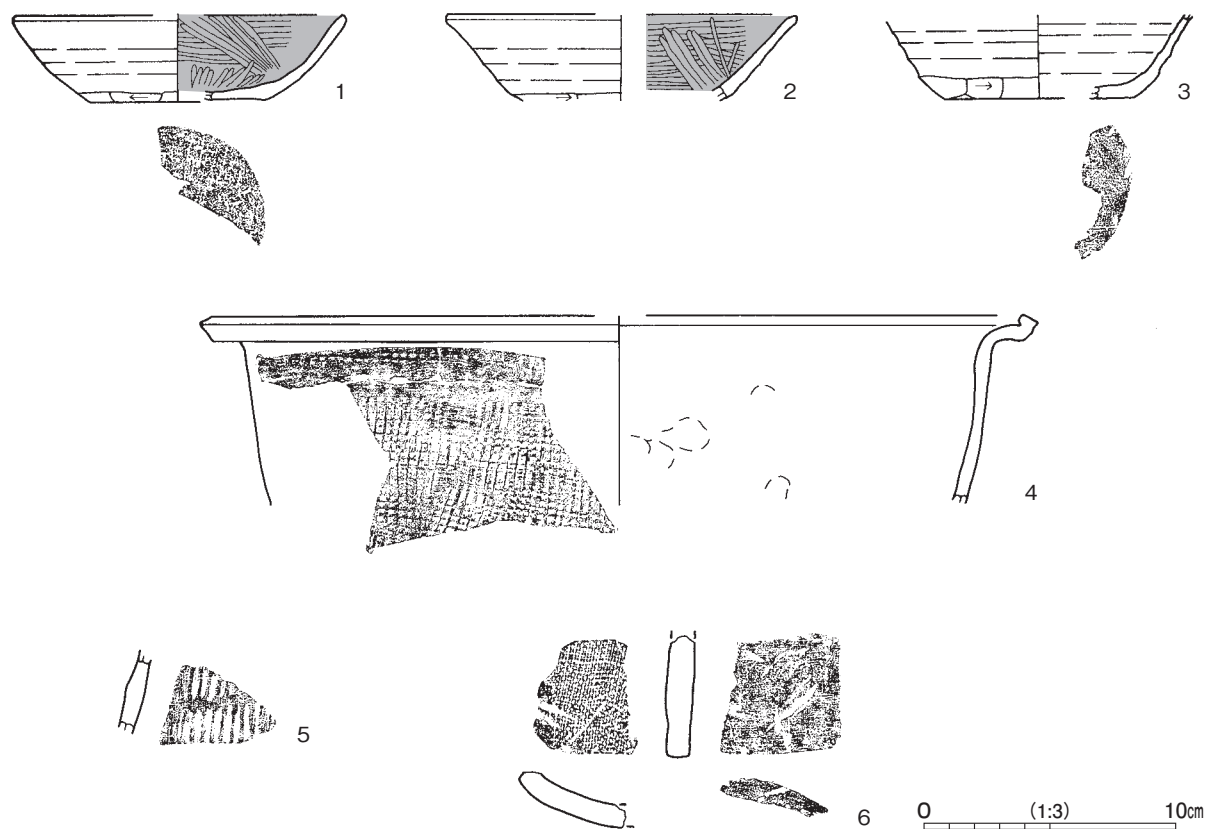
**竈** 北壁中央部に付設されている。袖部と焼土、火床部の痕跡がわずかに残っている。規模は、燃烧部幅40cmである。火床部はほぼ円形で直径22cmである。ロームブロック、焼土ブロック、炭化粒子を含む竈の第1・2層を土で埋めている。火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は第51号竪穴建物に掘り込まれているため不明である。

**ピット** 5か所。P1~P3は深さ15~20cmで、規模や配置から支柱穴である。P4は南壁側に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。P5は壁面に位置し、性格は不明である。第1・2層は、柱材を抜き取った後の覆土である。

**覆土** 3層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。第4層は掘方への埋土である。

**遺物出土状況** 土師器片30点(坏24, 甕類6), 須恵器片25点(坏17, 甕類8), 瓦片2点(平瓦)が出土している。1は中央部の床面から、2は竈内から、4は竈の焼土覆土下層から、3・5・6は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第14図 第52号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 52 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 14 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.2]	3.4	[7.0]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内部ヘラ磨き	中央部床面	20%
2	土師器	坏	[13.7]	(3.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内部ヘラ磨き	竈内	10%
3	須恵器	坏	-	(3.3)	[7.6]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部ヘラ切り後 一方のヘラ調整	覆土中	20% 新治窯
4	須恵器	甕	[32.2]	(7.5)	-	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部外面格子目叩き 内面指頭押圧後ナデ	竈覆土下層	5% 新治窯
5	須恵器	甕	-	(3.4)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面縦位の平行叩き 体部内面指頭押圧後ナデ	覆土中	5%

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
6	瓦	平瓦	(4.3)	(2.0)	(4.9)	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	凸面ヘラ削り 凹面布目痕	覆土中	

第 53 号 竪穴建物跡 (第 15・16 図)

**位置** 調査区北西部の F 2f4 区, 標高 24 m ほどの平坦な台地上に位置している。

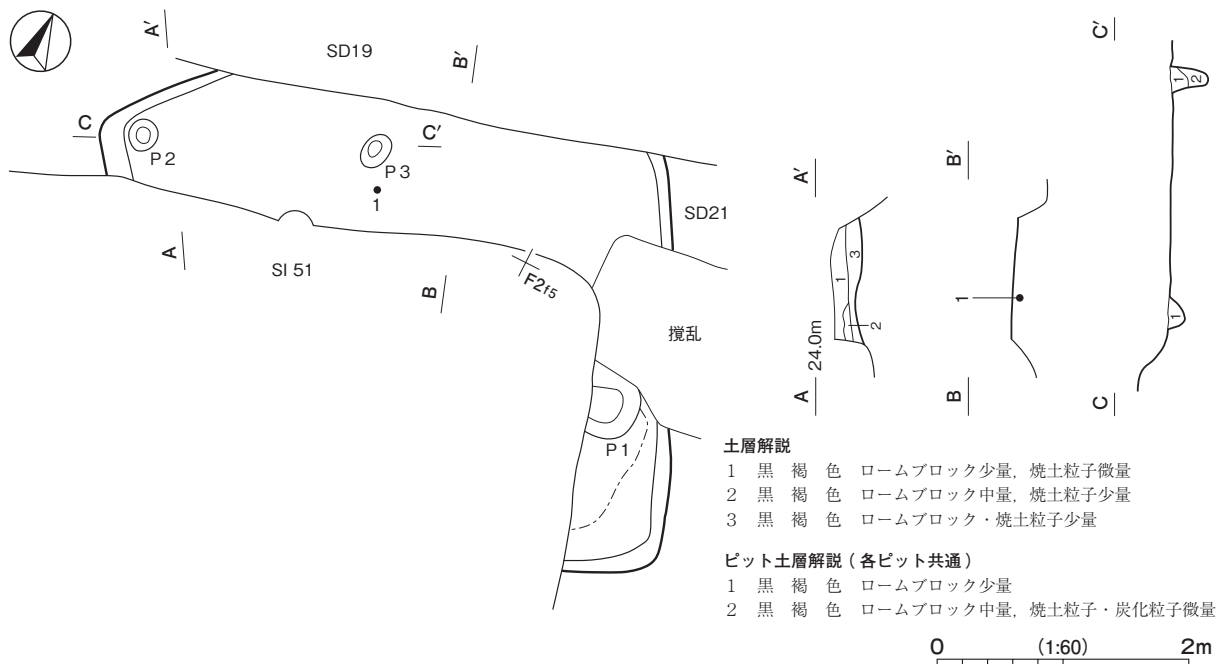
**重複関係** 第 21 号溝跡を掘り込み, 第 51 号竪穴建物, 第 19 号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 南部の大半が第 51 号竪穴建物に掘り込まれ, 東部は攪乱を受けているため, 東西軸は 4.22 m で, 南北軸は 3.46 m しか確認できなかった。主軸方向は N - 31° - W で, 方形か長方形と推定される。壁は高さ 18cm で, 外傾している。

**床** 平坦な貼床で, P 1 の南東部一部が踏み固められている。

**ピット** 3 か所。P 1 ~ P 3 は深さ 14 ~ 32cm で, 北部・西壁部と南東コーナー部に位置している。P 1 は配置から主柱穴の可能性はある。P 2・P 3 は性格不明である。第 1・2 層は, 柱材を抜き取った後の覆土である。

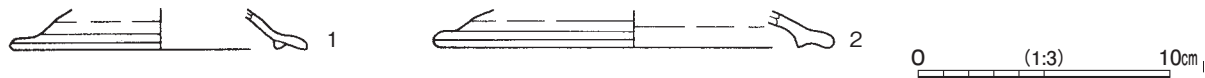
**覆土** 3 層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。



第 15 図 第 53 号 竪穴建物跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片 22 点（坏 2，甕類 20），須恵器片 6 点（坏 1，蓋 4，甕類 1）が出土している。1 は掘方の埋土から，2 は覆土中から出土している。

**所見** 時期は，重複関係や出土土器から 8 世紀前葉と考えられる。



第 16 図 第 53 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 53 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 16 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	[11.8]	(1.6)	-	長石・石英・雲母	浅黄	普通	天井部ロクロナデ	掘方埋土	5% 新治窯
2	須恵器	蓋	[15.6]	(1.5)	-	長石・石英	灰	普通	天井部ロクロナデ	覆土中	5%

第 55 号竪穴建物跡（第 17・18 図 PL4）

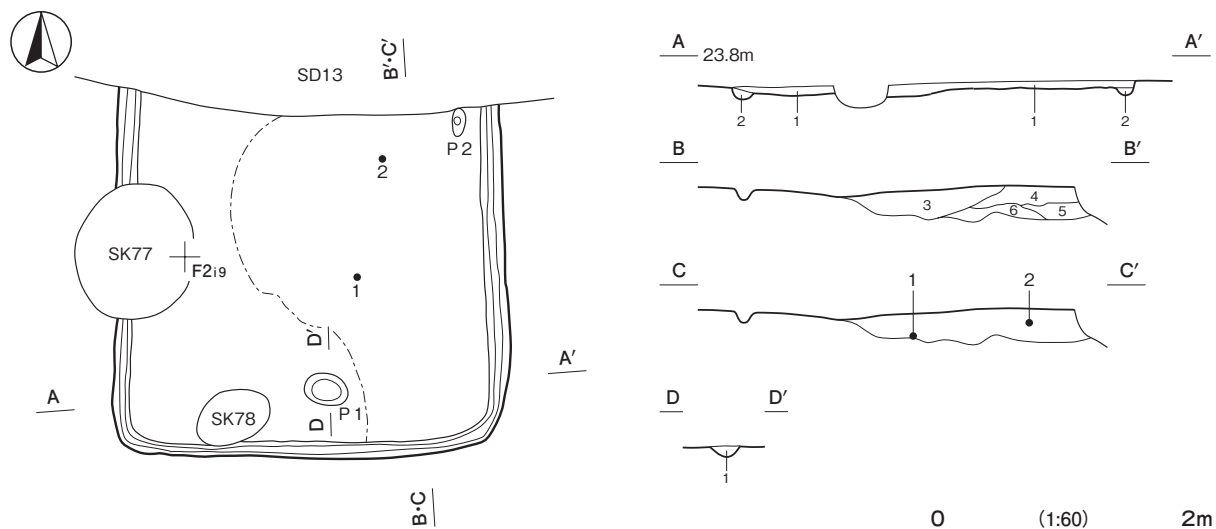
**位置** 調査区北西部の F 2i9 区，標高 24 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第 13 号溝に掘り込まれている。第 77・78 号土坑との新旧関係は不明である。

**規模と形状** 北側が第 13 号溝に掘り込まれているため，東西軸は 3.15 m で，南北軸は 2.80 m しか確認できなかった。主軸方向は N-3°-E で，方形か長方形と推定される。壁は高さ 8 cm で，外傾している。

**床** 平坦な貼床で，東部は踏み固められている。壁溝が壁下を巡っている。

**ピット** 2 か所。P 1 は南壁中央部にあり出入口施設に伴うピットと考えられる。P 2 は性格不明である。



**土層解説**

- |                            |                          |
|----------------------------|--------------------------|
| 1 褐 色 ロームブロック中量，焼土ブロック少量   | 4 黒 褐 色 ロームブロック微量        |
| 2 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土ブロック微量 | 5 暗 褐 色 ロームブロック微量        |
| 3 黒 褐 色 ロームブロック少量          | 6 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 |

**ピット土層解説（P 1）**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 17 図 第 55 号竪穴建物跡実測図

**覆土** 2層に分層できる。第1層はロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第3～6層は掘方への埋土である。

**遺物出土状況** 土師器片15点(坏3, 高台付坏1, 甕類11), 須恵器片15点(坏11, 蓋1, 甕類3)が出土している。1・2は掘方の埋土中から出土している。3は覆土中から出土している。

**所見** 時期は, 重複関係や出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第18図 第55号竪穴建物跡出土遺物実測図

第55号竪穴建物跡出土遺物観察表(第18図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[124]	3.5	[6.0]	長石・石英	にぶい黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り	掘方埋土中	5%
2	土師器	高台付坏	-	(1.5)	6.9	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り 高台貼り付け後ロクロナデ 底部内面ヘラナデ	掘方埋土中	40%
3	須恵器	甕	-	(10.0)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部外面斜位の平行叩き 体部内面同心円状の当て具痕	覆土中	5%

#### 第56号竪穴建物跡(第19図 PL4)

**位置** 調査区北西部のF2h3区, 標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第6号掘立柱建物, 第83～85号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 東部は攪乱を受けているため, 南北軸は2.76mで, 東西軸は2.14mしか確認できなかった。主軸方向はN-25°-Wで, 方形か長方形と推定される。壁は高さ4～6cmで, 外傾している。

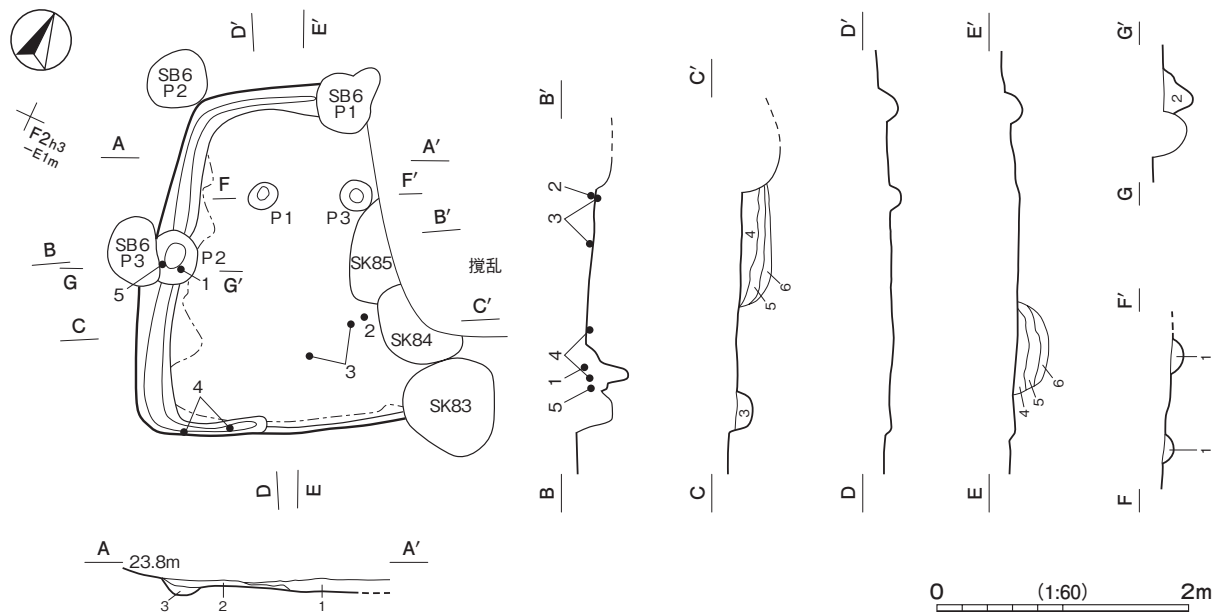
**床** 平坦な貼床で, ほぼ全体が踏み固められている。壁溝が北西部から南西コーナー部を巡っている。

**ピット** 3か所。P1～P3は深さ10～23cmである。いずれも性格は不明である。

**覆土** 3層に分層できる。第1・2層はロームブロックや焼土粒子・炭化粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。第4～6層は, 掘方への埋土である。

**遺物出土状況** 土師器片6点(坏3, 甕類3), 須恵器片12点(坏2, 蓋1, 鉢1, 甕類8)が出土している。1・5はP2覆土上層から, 2は床面から出土しており, 3・4は床面から出土した破片が接合している。このことから, 埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は, 重複関係や出土土器から9世紀中葉と考えられる。

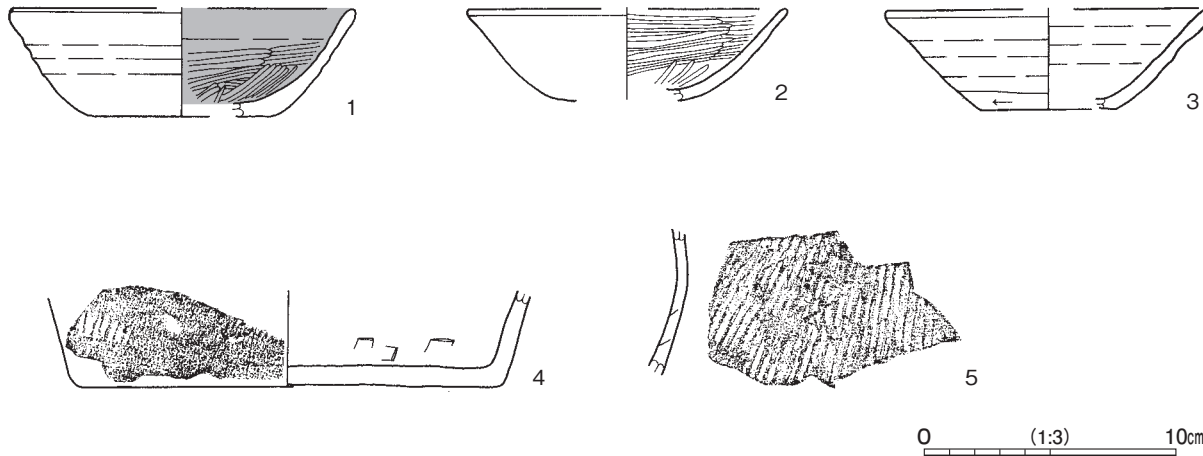


土層解説

- |       |                   |       |                       |
|-------|-------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量        |
| 2 明褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量   | 5 暗褐色 | ロームブロック多量, 炭化物微量      |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量           | 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 |

ビット土層解説(各ビット共通)

- |       |                        |
|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量              |



第19図 第56号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第56号竪穴建物跡出土遺物観察表(第19図)

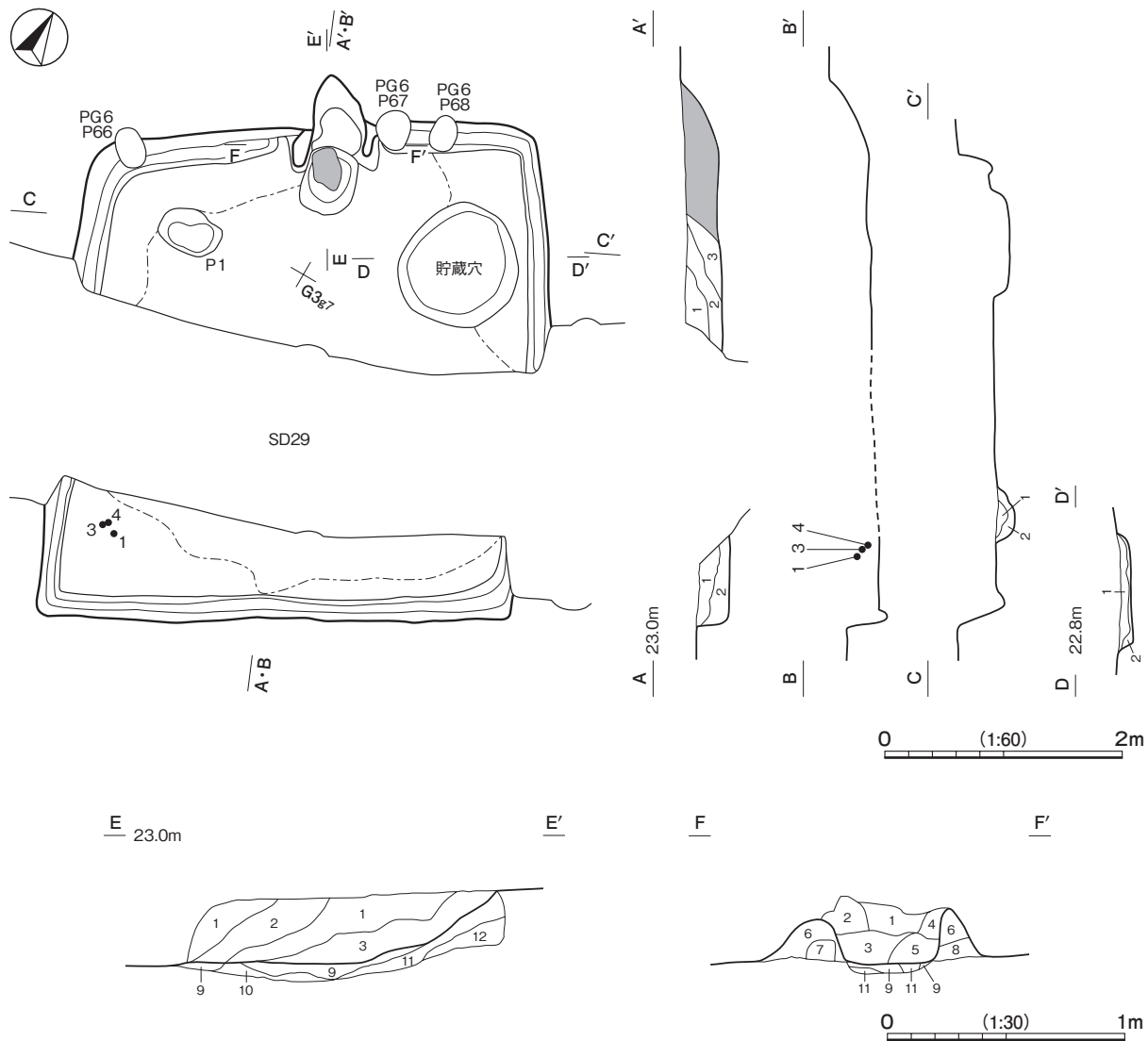
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.6]	4.3	[7.3]	長石・石英・雲母	明褐色	普通	体部外面ロクロナデ 体部内面ヘラ磨き	P2覆土上層	20%
2	土師器	坏	[12.6]	3.6	-	長石・石英・赤色粒子・白色針状物質	橙	普通	体部外面ロクロナデ後ナデ 体部内面横位のヘラ磨き	床面	20%
3	須恵器	坏	[12.7]	4.0	[5.4]	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り	床面	5%
4	須恵器	鉢	-	(3.8)	[16.8]	長石・石英・雲母	褐色	普通	体部外面縦位の平行叩きラ当て具痕 内面ヘラナデ	床面	10%
5	須恵器	甕	-	(5.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面ヘラナデ 輪積み痕	P2覆土上層	5%



第 57 号 竪穴建物跡 (第 20・21 図 PL5)

位置 調査区中央部の G 3 g7 区, 標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 29 号溝, 第 6 号ピット群に掘り込まれている。



土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 明褐色 ロームブロック中量

ピット土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量
- 2 明褐色 ロームブロック多量

竪穴土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 明赤褐色 ロームブロック・焼土粒子多量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量
- 6 褐色 ロームブロック・黄褐色山砂多量
- 7 赤褐色 焼土ブロック多量
- 8 黒褐色 ロームブロック少量
- 9 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 10 明褐色 ロームブロック多量
- 11 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 12 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

第 20 図 第 57 号 竪穴建物跡実測図



**規模と形状** 中央部を第 29 号溝に掘り込まれているが、長軸 4.18 m、短軸 3.97 m の方形で、主軸方向は N-23°-W である。壁は高さ 26～32cm で、外傾している。

**床** 平坦で、竈前方部から中央部に向かって踏み固められている。確認できた部分では壁溝が全周している。

**竈** 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 118cm で、燃烧部幅は 43cm である。袖部は地山の上にロームブロックや砂を含む層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に 8cm 掘りくぼめ構築されている。火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に 45cm 掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

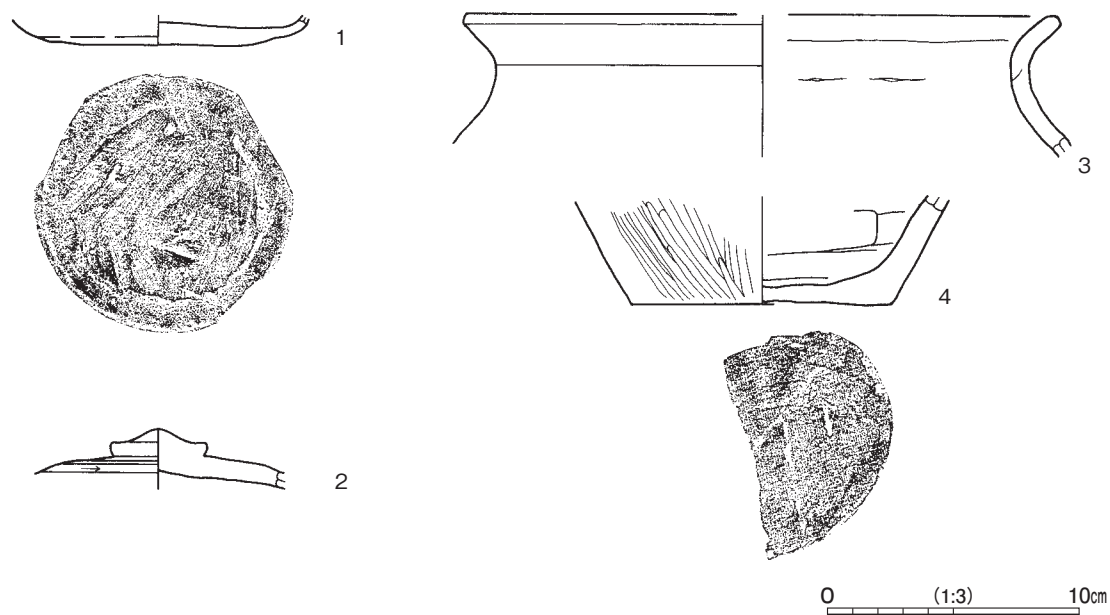
**ピット** P1 は深さ 15cm で、規模や配置から柱穴と考えられる。性格は不明である。

**貯蔵穴** 北東コーナー部に位置している。長径 1.05 m、短径 0.96 m の楕円形で、深さ 15cm である。底面は平坦で、壁は外傾している。

**覆土** 3層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片 13 点（甕類）、須恵器片 3 点（坏 2、蓋 1）、剥片 1 点、炭化材が出土している。3・4 は覆土下層、1 は覆土中層、2 は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から 8 世紀前葉と考えられる。



第 21 図 第 57 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 57 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 21 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	-	(1.2)	10.2	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後外周ナデ 底部ヘラ切り後二方向のヘラ削り	覆土中層	30%
2	須恵器	蓋	-	(2.4)	-	長石・石英・赤色粒子・白色針状物質	灰	良好	天井部回転ヘラ削り後ボタン状のつまみ部貼付	覆土中	5% 木葉下窯
3	土師器	甕	[23.5]	(5.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ 体部内面輪積み痕	覆土下層	5%
4	土師器	甕	-	(4.3)	[10.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面下位ヘラ磨き 内面ヘラナデ 底部回転ヘラ削り	覆土下層	5%

**第 58 号 竪穴建物跡 (第 22 図)**

**位置** 調査区中央部の G 3 f5 区, 標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第 16 号方形竪穴遺構, 第 6 号ピット群に掘り込まれ, 第 1 号整地遺構に一部を埋め戻されている。第 125 号土坑との新旧関係は不明である。

**規模と形状** 北部は第 16 号方形竪穴遺構に掘り込まれているため, 東西軸は 5.36 m で, 南北軸は 3.12 m しか確認できなかった。南北軸方向は  $N-34^{\circ}-E$  で, 方形か長方形と推定される。壁は高さ 12~16 cm で, 外傾している。

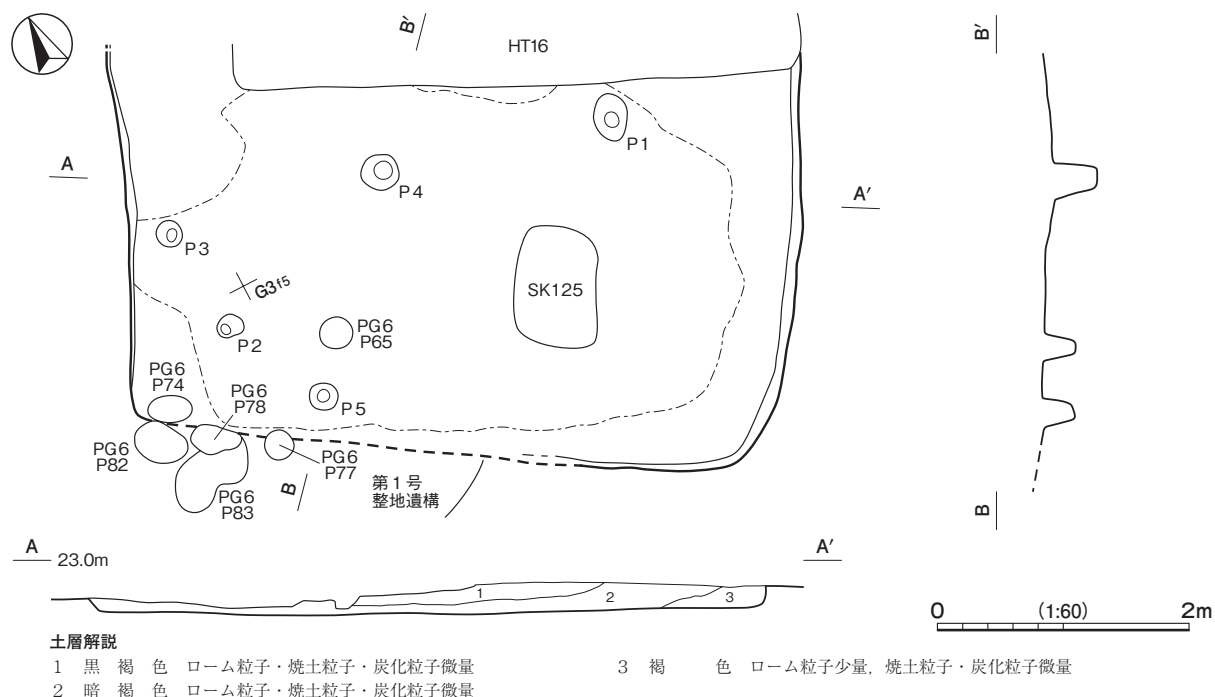
**床** 平坦で, 南部から中央部にかけて踏み固められている。

**ピット** 5 か所。P 1・P 2 は深さ 25 cm・28 cm で, 規模と配置から支柱穴とみられる。P 3~P 5 は深さ 24 cm 前後で, 性格は不明である。

**覆土** 3 層に分層できる。ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

**遺物出土状況** 須恵器片 1 点 (蓋) が出土しているが, 細片のため図示できない。

**所見** 時期は, 出土土器から判断できないが, 重複関係などから 9 世紀後葉と考えられる。



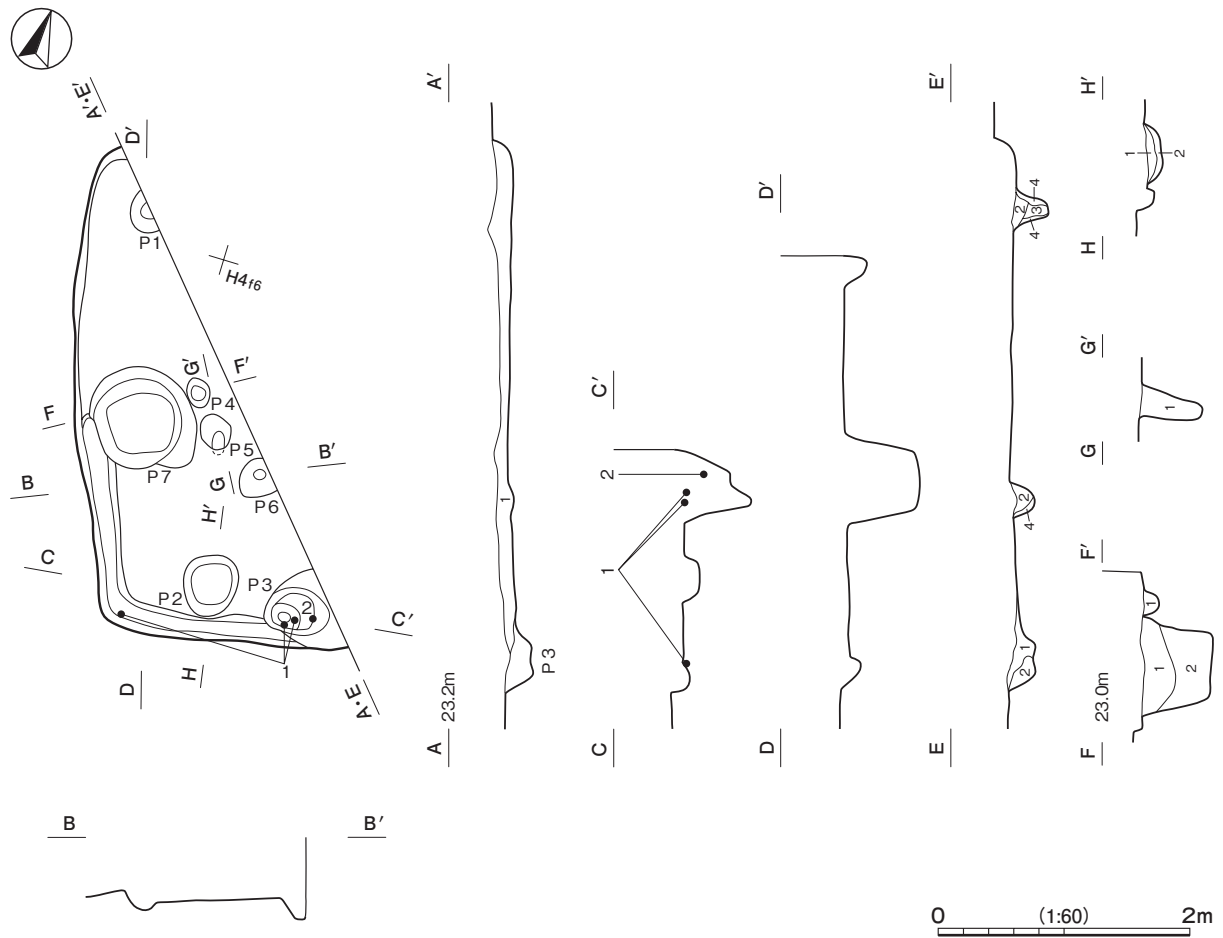
**第 22 図** 第 58 号 竪穴建物跡実測図

**第 60 号 竪穴建物跡 (第 23 図 PL 5)**

**位置** 調査区中央部の H 4 f6 区, 標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 北東部から南部にかけて調査区域外に延びていることから, 南北軸は 3.80 m で, 東西軸は 1.84 m しか確認できなかった。南北軸方向は  $N-14^{\circ}-W$  で, 方形か長方形と推定される。壁は高さ 8~12 cm で, 外傾している。

**床** 平坦である。壁溝が南西コーナー部を巡っている。



土層解説

1 黒褐色 炭化物・焼土粒子・灰白色粘土粒子微量

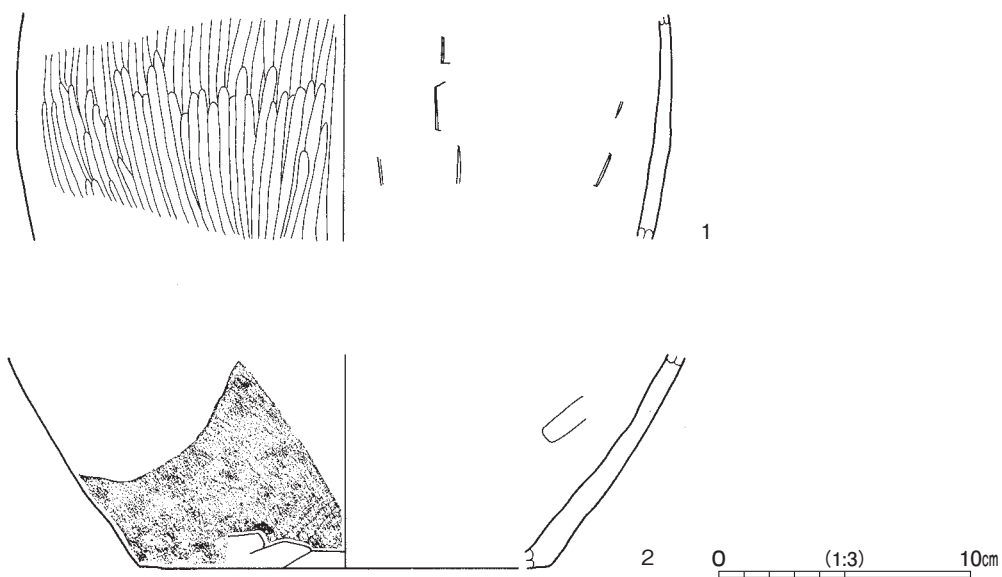
ピット土層解説 (各ピット共通)

1 暗褐色 ローム粒子多量, 灰色粘土粒子少量

2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量

3 明褐色 ロームブロック多量, 炭化物・焼土粒子微量

4 黄褐色 ロームブロック多量



第 23 図 第 60 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図

**ピット** 7か所。P 6は深さ15cmで、規模や配置から支柱穴である。P 3は南壁に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。P 1・P 2, P 4・P 5・P 7は深さ10～55cmで、性格は不明である。

**覆土** 単一層である。炭化物や焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片75点(坏20, 甕類55), 須恵器片5点(坏3, 甕類2)が出土している。1は床面から、2はP 3の覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第60号竪穴建物跡出土遺物観察表(第23図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	-	(9.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄橙	普通	体部外面縦位のヘラ磨き 内面当て具痕	床面	5%
2	須恵器	甕	-	(8.5)	[16.4]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面横位の平行叩き 下端ヘラ削り 内面ヘラナデ	P 3覆土上層	10% 新治窯

表4 奈良・平安時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸 (m)	(cm)				支柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
51	F2f4	N-17°-W	隅丸長方形	5.28 × 4.33	14 ~ 32	平坦	ほぼ全周	4	-	10	1	-	人為	土師器, 須恵器, 瓦	9世紀後葉 ~10世紀 初頭	SI 52・53 → 本跡	
52	F2g5	N-13°-W	隅丸方形	3.50 × 3.44	5 ~ 14	平坦	一部	3	1	1	1	-	人為	土師器, 須恵器, 瓦	9世紀後葉	本跡 → SI 51	
53	F2f4	N-31°-W	[方形・長方形]	4.22 × (3.46)	18	平坦	-	1	-	2	-	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀前葉	SD 21 → 本跡 → SI 51, SD 19	
55	F2i9	N-3°-E	[方形・長方形]	3.15 × (2.80)	8	平坦	ほぼ全周	-	1	1	-	-	人為	土師器, 須恵器	9世紀中葉	本跡 → SD 13 SK 77・78 と重複	
56	F2h3	N-25°-W	[方形・長方形]	2.76 × (2.14)	4 ~ 6	平坦	一部	-	-	3	-	-	人為	土師器, 須恵器	9世紀中葉	本跡 → SB 6, SK 83 ~ 85	
57	G3g7	N-23°-W	方形	4.18 × 3.97	26 ~ 32	平坦	全周	-	-	1	1	1	人為	土師器, 須恵器	8世紀前葉	本跡 → SD 29, PG 6	
58	G3f5	N-34°-E	[方形・長方形]	5.36 × (3.12)	12 ~ 16	平坦	-	2	-	3	-	-	人為	須恵器	9世紀後葉	本跡 → HT 16, PG 6, 第1号整地遺構 SK 125 と重複	
60	H4f6	N-14°-W	[方形・長方形]	3.80 × (1.84)	8 ~ 12	平坦	一部	1	1	5	-	-	人為	土師器, 須恵器	9世紀前葉		

(2) 掘立柱建物跡

第5号掘立柱建物跡(第24図)

**位置** 調査区北西部のF 2a3区, 標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第11号溝に掘り込まれている。

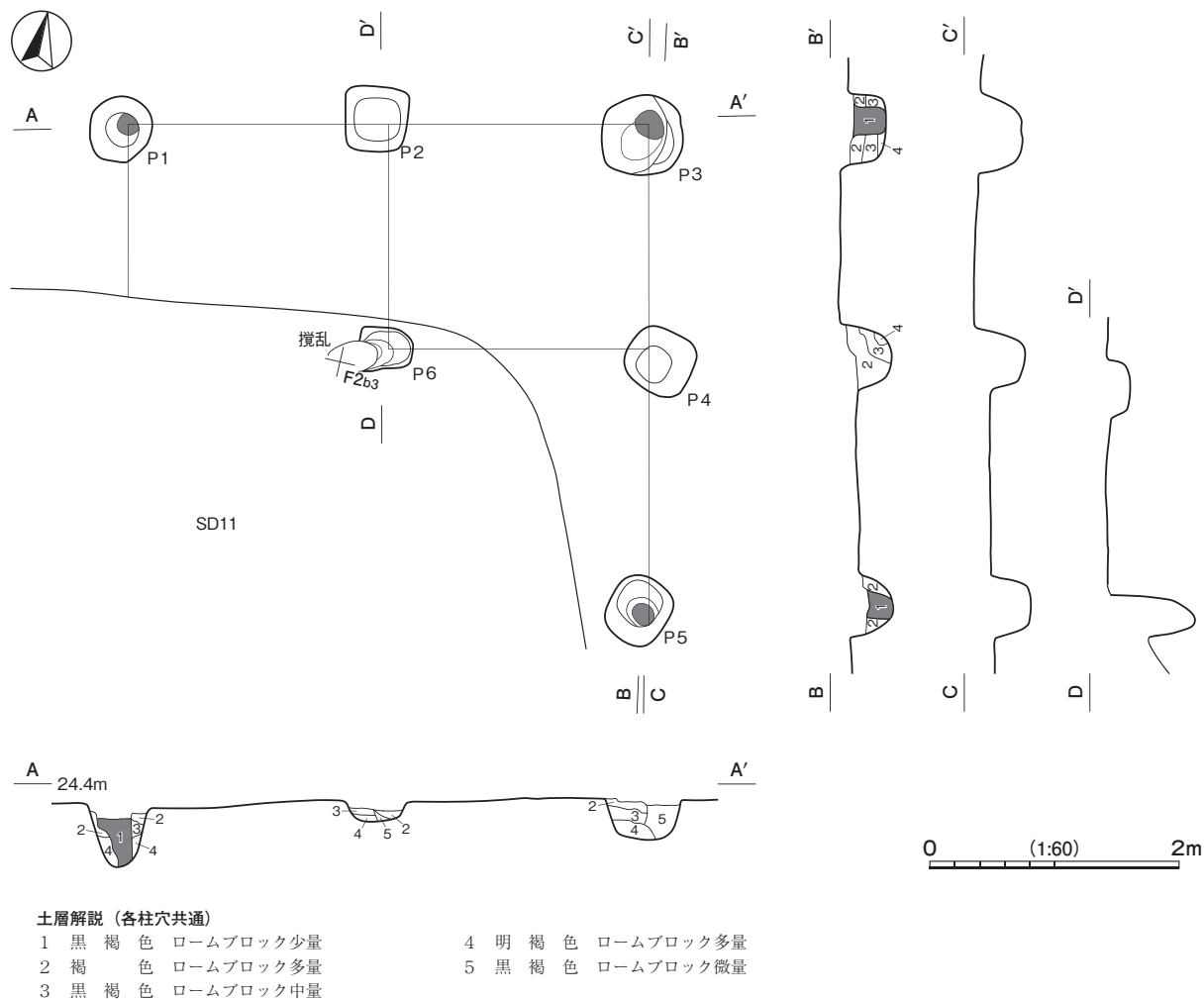
**規模と構造** 第11号溝に掘り込まれているため, 桁行2間以上, 梁行2間の総柱建物跡で, 桁行方向がN-12°-Wの南北棟と推定される。確認できた規模は, 桁行3.9m, 梁行4.2mである。柱間寸法は桁行が北妻から1.8m(6尺), 2.1m(7尺)で, 梁行は2.1m(7尺)の等間であり, 柱筋はほぼ揃っている。

**柱穴** 6か所。平面形は楕円形又は隅丸方形で, 長径54~70cm, 短径32~64cmである。深さ10~32cmで, 掘方の壁は外傾している。第1層は柱痕跡, 第2~4層は埋土, 第5層は柱材を抜き取った後の覆土である。

P 1・P 3・P 5の底面で, 柱のあたりを確認した。

**遺物出土状況** 須恵器片1点(坏)が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、第11号溝に掘り込まれ、柱穴の平面形が第10・11号掘立柱建物跡と似ていることや主軸方向が同じことから8世紀前葉～中葉の建物跡と考えられる。性格は、規模や形状から「倉庫」と考えられる。



第24図 第5号掘立柱建物跡実測図

### 第6号掘立柱建物跡 (第25図)

位置 調査区北西部のF 2g3区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

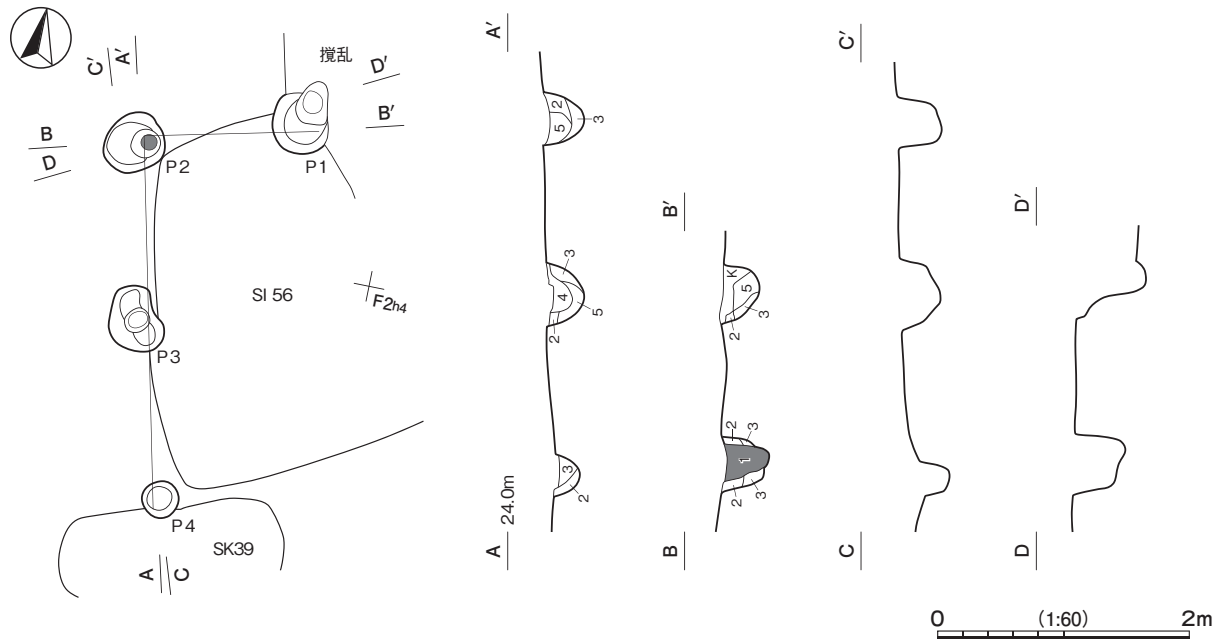
重複関係 第56号竪穴建物跡、第39号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造 南東部が不明であるが、桁行2間、梁行1間以上の側柱建物跡で、桁行方向がN-13°-Wの南北棟と推定される。確認できた規模は、桁行3.0m、梁行1.5mである。柱間寸法は桁行・梁行とも1.5m(5尺)である。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 4か所。平面形は楕円形又は円形で、長径29~60cm、短径28~50cmで、深さ21~40cmである。第1層は柱痕跡、第2~4層は埋土である。第5層は柱材を抜き取った後の覆土である。P2の底面で、柱のあたりを確認した。

遺物出土状況 土師器片2点(坏、甕類)、須恵器片3点(坏2、甕類1)がP1の覆土中から出土している。

所見 時期は、第56号竪穴建物跡を掘り込んでいることや出土土器から、9世紀後葉の建物跡と考えられる。性格は不明である。



土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 明褐色 ロームブロック多量
- 4 明褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量



第25図 第6号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第25図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	甕	-	(5.5)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面ヘラナデ 指頭痕	P1覆土中	5%

第10号掘立柱建物跡 (第26・27図 PL6)

位置 調査区南東部のI 4d5区, 標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

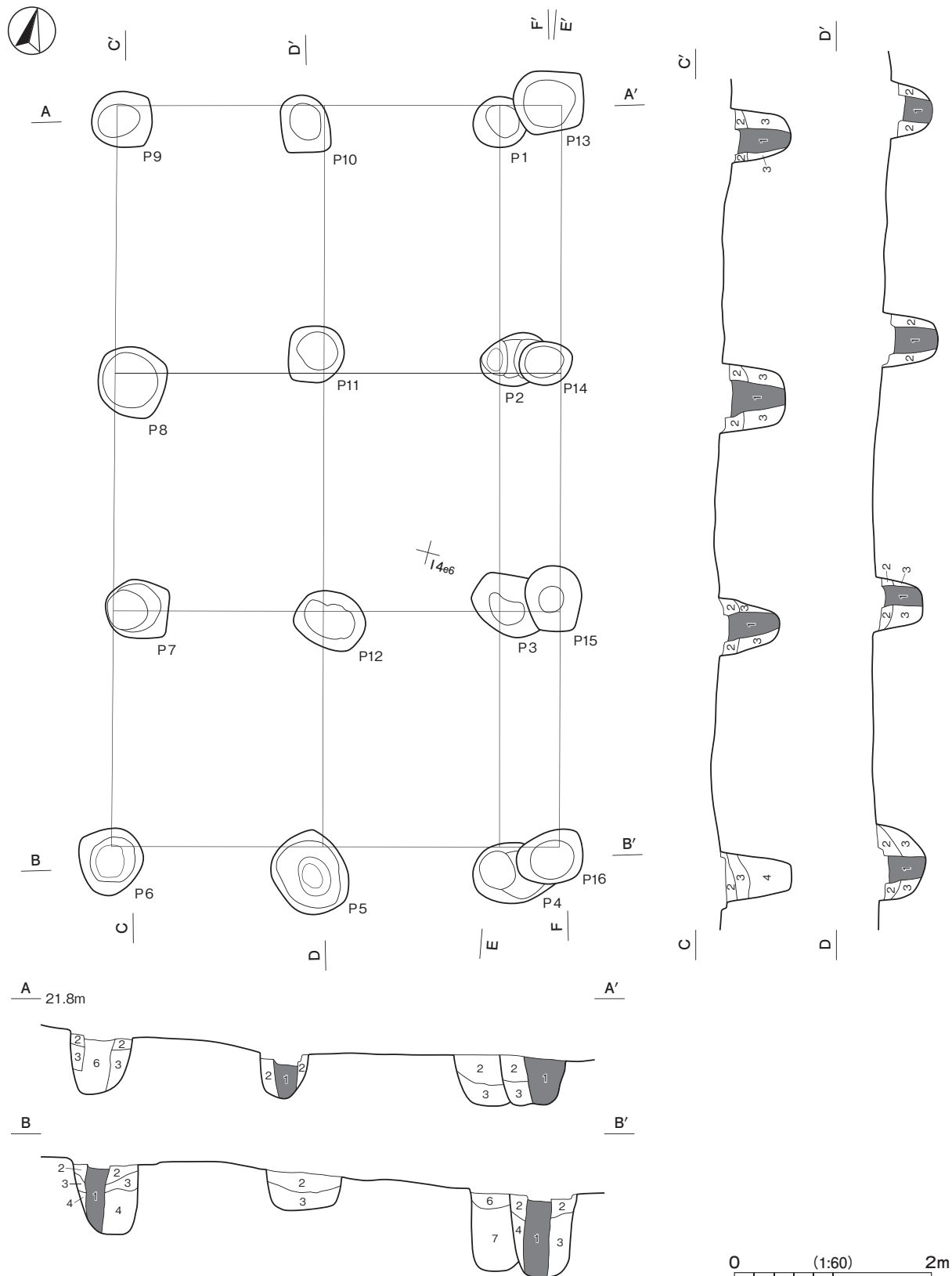
規模と構造 桁行3間, 梁行2間の総柱建物跡で, 桁行方向がN-14°-Wの南北棟である。規模は, 桁行7.5m, 梁行3.9mで, 面積は29.25㎡である。P1~P12が本来の柱穴で, P13~P16は建て替え後の柱穴である。建て替え後は東側へ0.6m延び, 桁行7.5m, 梁行4.5mで, 面積は33.75㎡である。柱間寸法は桁行が2.7m(9尺), 2.4m(8尺), 2.4m(8尺), 梁行が2.1m(7尺), 2.4m(8尺)で, 柱筋は揃っている。

柱穴 16か所。平面形は楕円形又は隅丸方形で, 長径50~84cm, 短径40~68cmである。深さ40~80cmで, 掘方の壁はほぼ直立あるいは外傾している。第1層は柱痕跡, 第2~4層は埋土, 第5~7層は柱材を抜き取った後の覆土である。

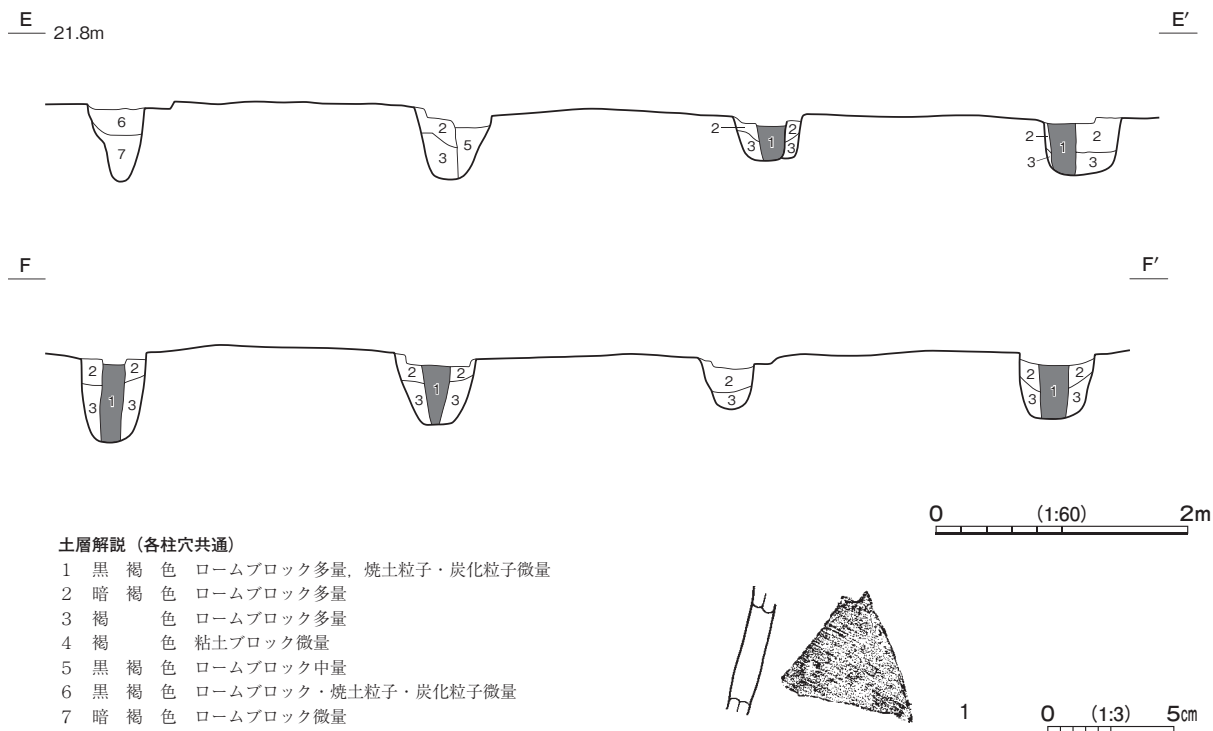
遺物出土状況 土師器片1点(坏), 須恵器片1点(甕類)が, P8の覆土中から出土している。



所見 時期は，出土土器から判断できないが，隣接する第11号掘立柱建物跡と主軸方向等が類似しており，8世紀前葉～中葉の可能性が高い。本跡は東側に建て替え拡張された建物跡で，性格は，規模や形状から「倉庫」と考えられる。



第26図 第10号掘立柱建物跡実測図



第27図 第10号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第10号竪穴建物跡出土遺物観察表（第27図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	甕	-	(5.0)	-	長石・石英	灰黄	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面ヘラナデ	P8覆土中	5%

第11号掘立柱建物跡（第28～30図 PL6）

**位置** 調査区南東部のI 4a8区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

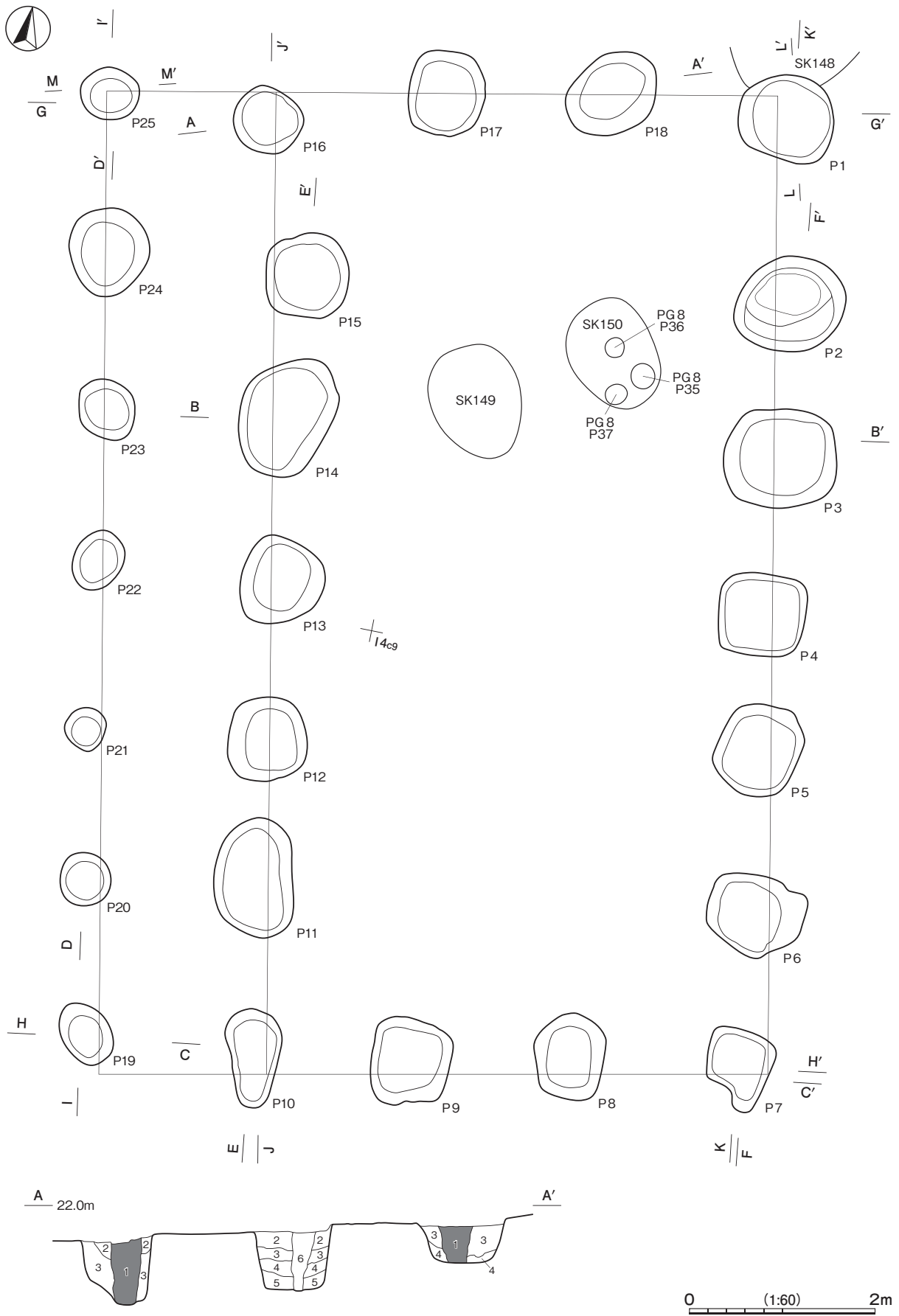
**重複関係** 第148号土坑を掘り込んでいる。第149・150号土坑、第8号ピット群との新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行6間、梁行3間の身舎の西側に庇が付く側柱建物跡で、桁行方向がN-10°-Wの南北棟である。身舎の規模は、桁行10.5m、梁行5.4mで、面積は56.70㎡である。庇を含めた規模は、桁行10.5m、梁行7.2mである。柱間寸法は桁行・梁行ともにほぼ1.8m（6尺）で、柱筋は揃っている。

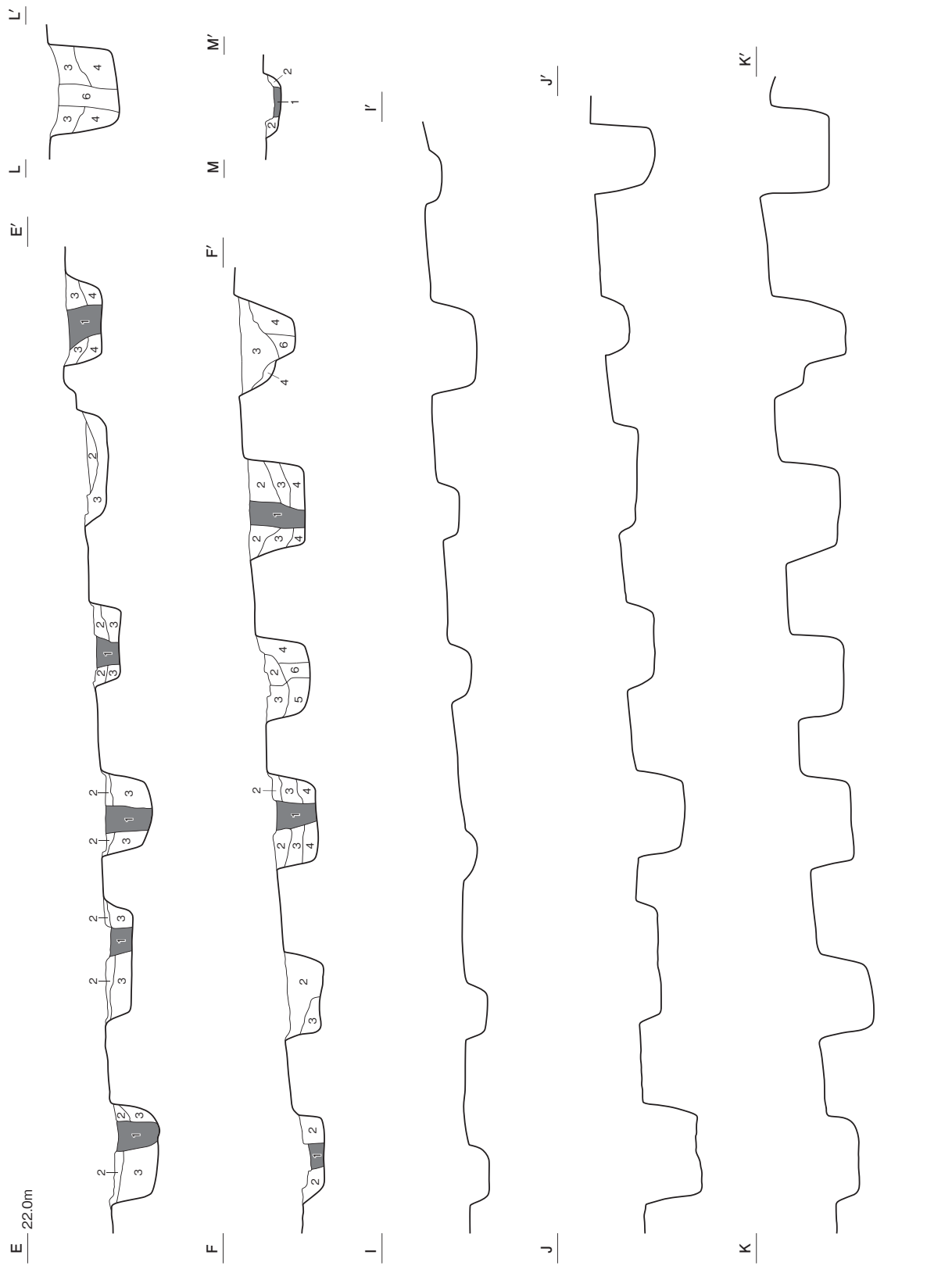
**柱穴** 25か所。平面形は楕円形又は隅丸方形で、長径45～135cm、短径43～106cmである。深さ18～75cmで、掘方の断面はU字形である。第1層は柱痕跡、第2～5層は埋土、第6層は柱材を抜き取った後の覆土である。

**遺物出土状況** 土師器片10点（甕類）、須恵器片2点（杯・高台付坏）が出土している。1はP14、2はP3の覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器や隣接する第10号掘立柱建物跡と主軸方向が同じであることから、7世紀後葉～8世紀前葉の可能性が高い。性格は、規模や形状から「倉庫」と考えられる。



第 28 图 第 11 号掘立柱建物跡実测图 (1)

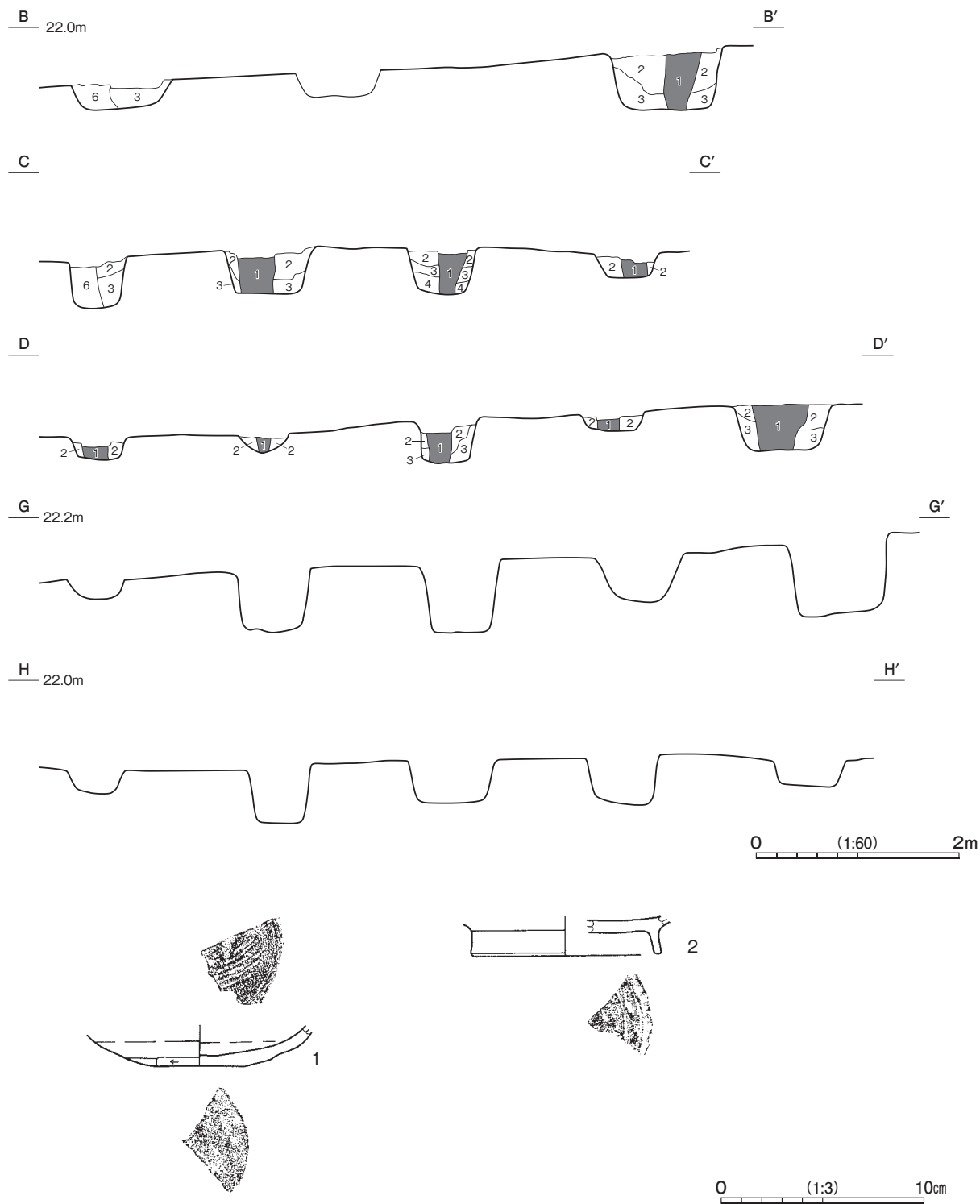


土層解説 (各柱穴共通)

- |       |                        |       |           |
|-------|------------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色  | 粘土粒子多量    |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量              | 5 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色  | ロームブロック多量              | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |

0 (1:60) 2m

第29図 第11号掘立柱建物跡実測図(2)



第30図 第11号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第11号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第30図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	-	(2.0)	[4.8]	長石・石英	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部内面同心円状の当て具痕	P 14 覆土中	10%
2	須恵器	高台付坏	-	(1.9)	[9.0]	長石・石英	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 後高台貼付け	P 3 覆土中	10%

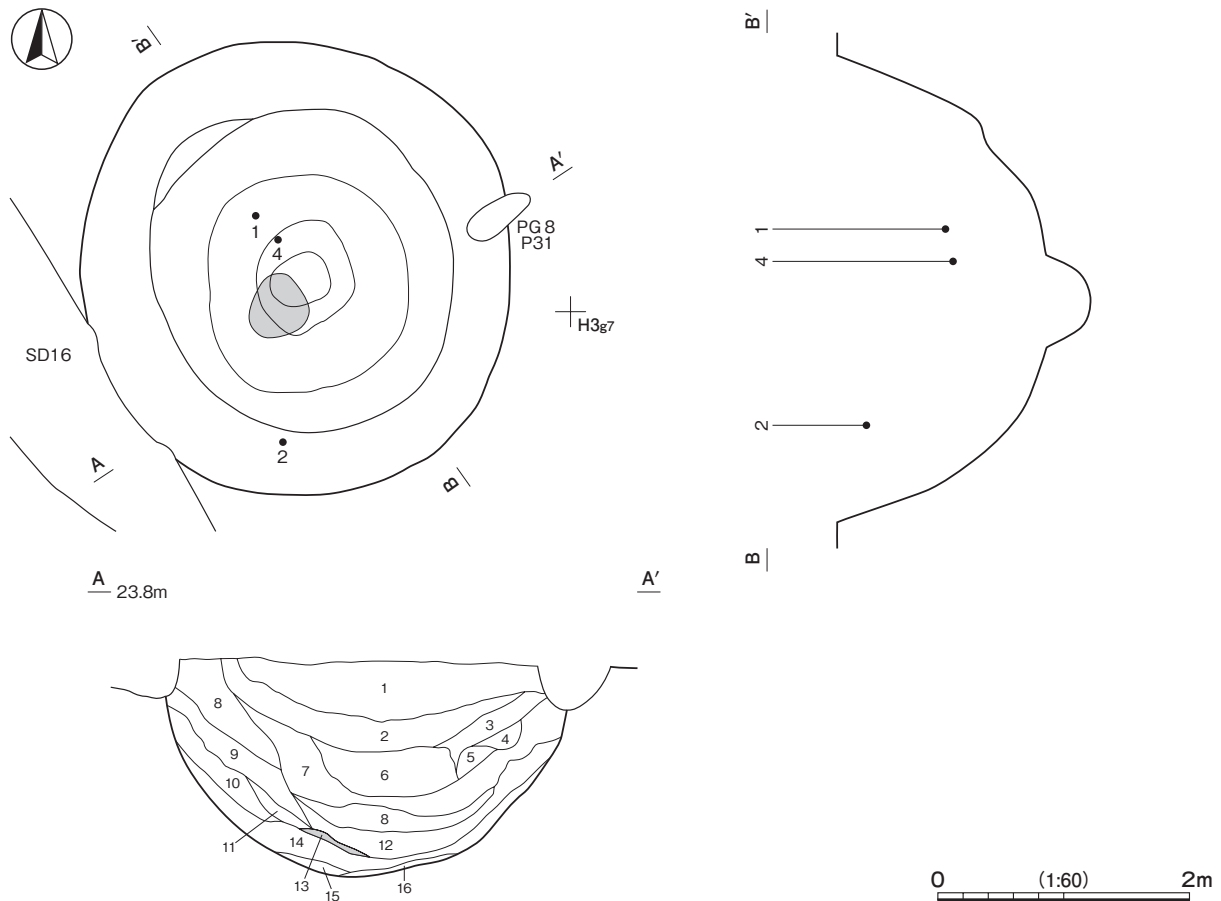
表5 奈良・平安時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数		規模	面積 (㎡)	柱間寸法		柱 穴			主な出土遺物	時 期	備 考
			桁×梁(間)	桁×梁(m)			桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形			
5	F2a3	N-12°-W	2×2	(3.9)×4.2	-	1.8~2.1	2.1	総柱	6	楕円形 隅丸方形	10~32	須恵器	8世紀前葉 ~中葉	本跡→SD11
6	F2g3	N-13°-W	2×(1)	(3.0)×(1.5)	-	1.5	1.5	側柱	4	楕円形 円形	21~40	土師器, 須恵器	9世紀後葉	SI56, SK39→ 本跡
10	I4d5	N-14°-W	3×2	7.5×4.5	33.75	2.4~2.7	2.1~2.4	総柱	16	楕円形 隅丸方形	40~80	土師器, 須恵器	8世紀前葉 ~中葉	
11	I4a8	N-10°-W	6×3	10.5×5.4	56.70	1.5~1.8	1.8	側柱	25	楕円形 隅丸方形	18~75	土師器, 須恵器	7世紀後葉 ~8世紀前葉	SK148→本跡 SK149・150, PG8と重複

(3) 大型円形土坑

第1号大型円形土坑 (第31・32図 PL22)

位置 調査区中央部のH3g6区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。



土層解説

- |                                |                               |
|--------------------------------|-------------------------------|
| 1 黒色 焼土粒子・炭化粒子・白色砂粒微量          | 9 黒褐色 灰白色粘土ブロック少量, 白色砂粒微量     |
| 2 黒褐色 炭化粒子少量, 焼土粒子・白色砂粒微量      | 10 黒褐色 灰白色粘土ブロック・ロームブロック中量    |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・白色砂粒微量 | 11 暗褐色 灰白色粘土ブロック少量, 白色砂粒微量    |
| 4 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・白色砂粒微量   | 12 黒褐色 灰白色粘土ブロック多量・ロームブロック中量  |
| 5 黒褐色 灰白色粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量    | 13 赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子多量, 炭化物少量   |
| 6 暗褐色 灰白色粘土ブロック・白色砂粒微量         | 14 灰白色 ロームブロック中量              |
| 7 暗褐色 炭化粒子・焼土粒子・白色砂粒微量         | 15 灰白色 ロームブロック少量, 灰白色粘土ブロック多量 |
| 8 暗褐色 灰白色粘土ブロック中量, 白色砂粒微量      | 16 褐色 ロームブロック多量               |

第31図 第1号大型円形土坑実測図



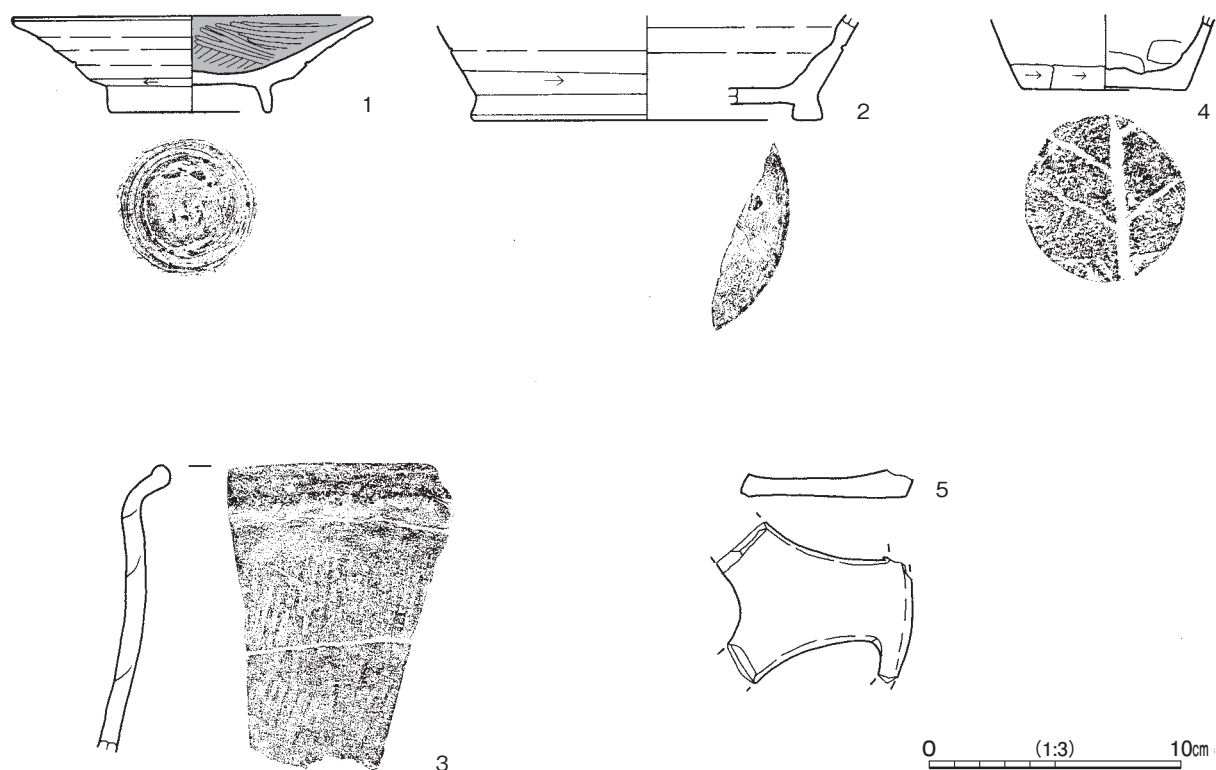
**重複関係** 第16号溝, 第8号ピット群に掘り込まれている。

**規模と形状** 確認面は長径3.70 m, 短径3.50 mの円形で, 深さ1.70 mの掘り鉢状である。壁は外傾している。底面は径1.30 mの円形で, 中央部は径80cmの円形状に38cmほど掘り込まれている。

**覆土** 16層に分層できる。第1・2層は自然堆積である。第3～12層はロームブロックや粘土ブロック, 第13層は焼土ブロック, 第14～16層はロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片124点(坏61, 高台付坏6, 皿1, 小形甕3, 甕類53), 須恵器片44点(坏15, 高台付坏3, 蓋1, 短頸壺1, 甕類23, 甗1), 灰釉陶器片2点(壺, 甕), 石核1点が出土している。1・4は覆土下層から, 2は覆土中層から出土している。3・5は覆土中から出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。底面にくぼみを持つ掘り鉢状の大型の土坑である。底面を一段掘りくぼめた小穴から地中に浸透させる水抜き用の施設として機能したと考えられる。性格は, 氷室や貯蔵施設, 井戸などが考えられるが, 詳細は不明である。



第32図 第1号大型円形土坑出土遺物実測図

第1号大型円形土坑出土遺物観察表 (第32図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付坏	14.3	3.8	6.3	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り 高台部貼り付け後ロクロナデ	覆土下層	70% PL22
2	須恵器	短頸壺	-	(4.2)	[13.7]	長石・石英	黄灰	普通	外・内面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ削り 高台部貼り付け後ロクロナデ	覆土中層	10%
3	須恵器	甕	-	(11.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面ヘラナデ 輪積み痕	覆土中	5%
4	土師器	小形甕	-	(3.0)	6.5	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部外面下端横位のヘラ削り 体部内面ヘラナデ 底部木葉痕	覆土下層	10% 新治窯
5	須恵器	甗	-	(1.1)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部ヘラ切りによる穿孔	覆土中	5% 新治窯

(4) 粘土採掘坑

第1号粘土採掘坑 (第33図 PL7)

**位置** 調査区中央部のG3j4区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

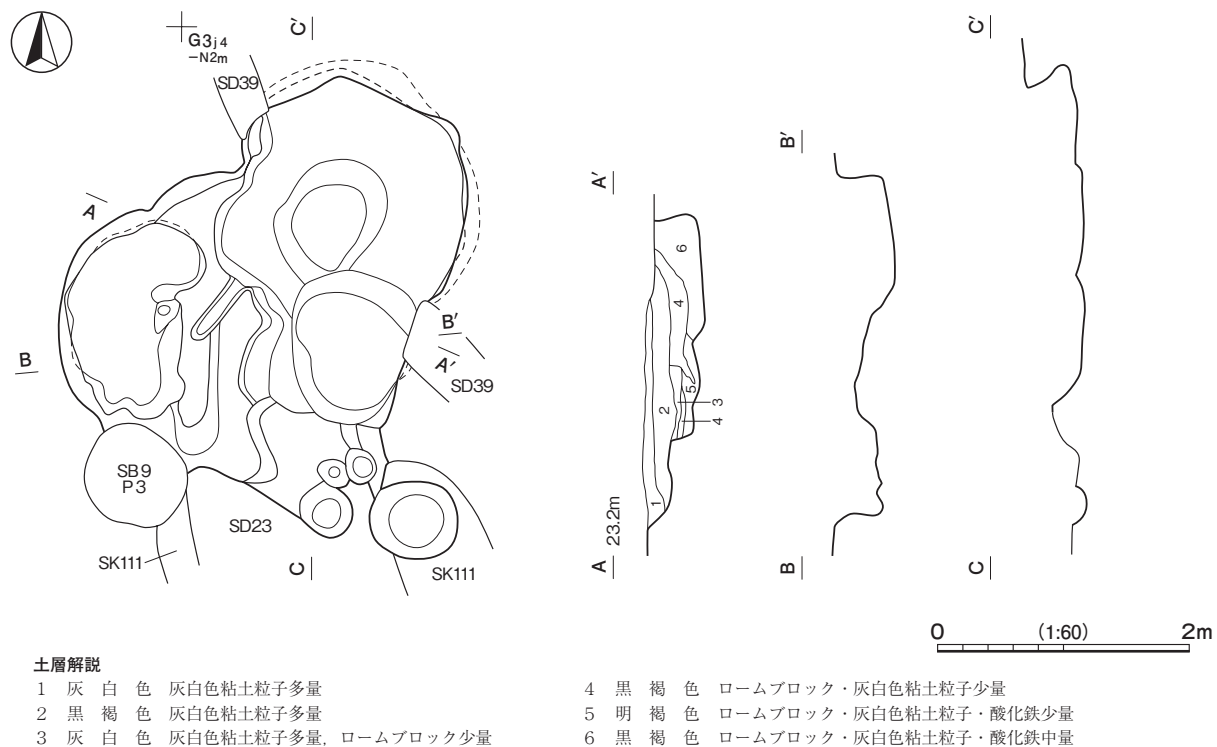
**重複関係** 第111号土坑, 第23号溝跡を掘り込み, 第9号掘立柱建物, 第39号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 第9号掘立柱建物跡, 第39号溝に掘り込まれているため, 長軸は3.70mで, 短軸は2.52mしか確認できなかった。長軸方向はN-50°-Eの不定形と推定される。底面はローム層下の灰白色粘土層を楕円形に連続して掘り込んでいる。深さ35~45cmで, 壁は直立や内傾している。底面は凹凸である。

**覆土** 6層に分層できる。第1・2層は東側からの流入が認められる自然堆積である。第3~6層はロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片18点(坏7, 甕類11), 須恵器片2点(坏, 蓋), 土師質土器片1点(椀)が, 覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。

**所見** 時期は, 重複関係や出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第33図 第1号粘土採掘坑実測図

(5) 土坑

第16号土坑 (第34図 PL7)

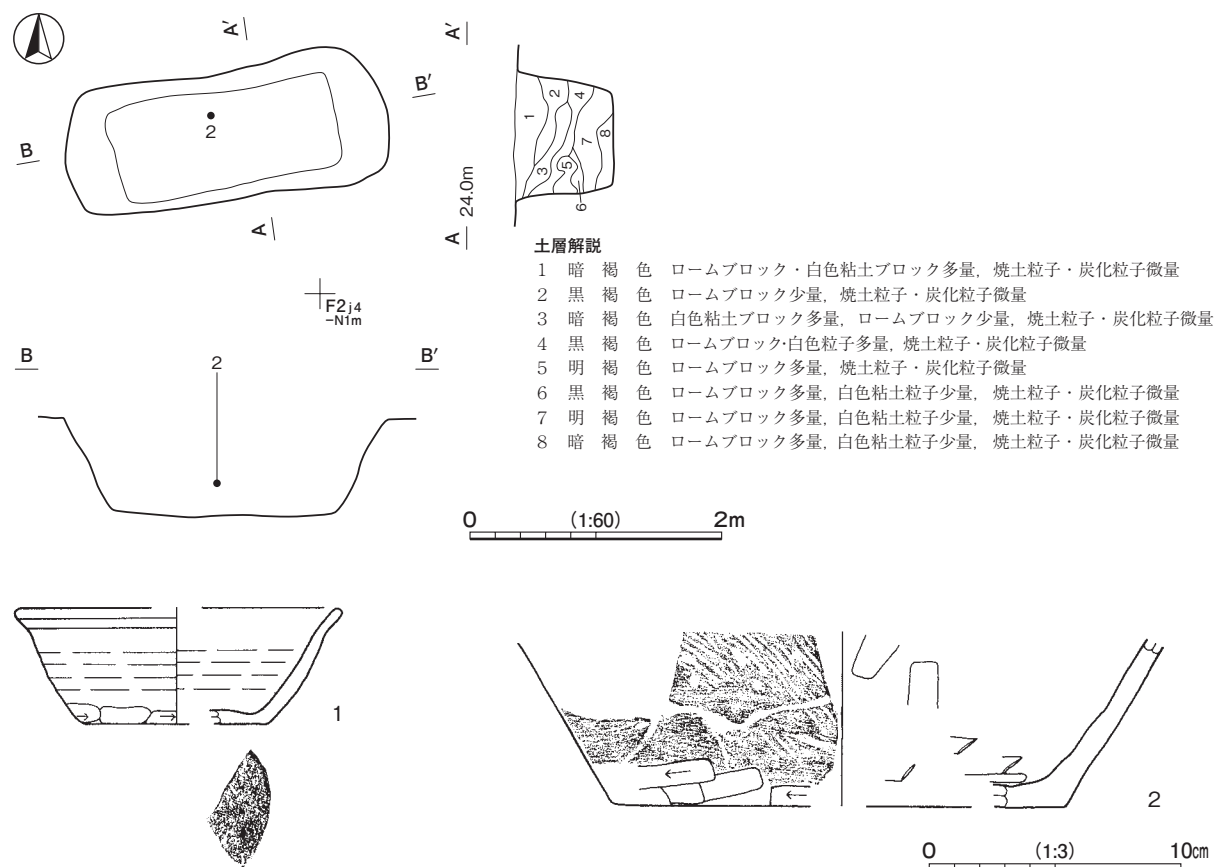
**位置** 調査区北西部のF2i3区, 標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 長軸2.58m, 短軸1.12mの隅丸長方形で, 長軸方向はN-80°-Eである。深さは78cmで, 壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

**覆土** 8層に分層できる。各層にロームブロック，焼土粒子，炭化粒子が含まれていることから，埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片 149 点（坏 11，甕類 138），須恵器片 201 点（坏 15，蓋 3，甕類 183），瓦片 3 点（丸瓦 1，平瓦 2）が出土している。2 は覆土下層から出土している。破碎された土器や炭化材が覆土上層から出土していることから，埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から 9 世紀前葉と考えられる。性格は不明である。



第 34 図 第 16 号土坑・出土遺物実測図

第 16 号土坑出土遺物観察表（第 34 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[12.8]	46	[7.4]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	20% 新治窯
2	須恵器	甕	-	(6.8)	[17.8]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面平行叩き 体部下端横位のヘラ削り 内部ヘラナデ ヘラ当て痕	覆土下層	10% 新治窯

第 134 号土坑（第 35 図）

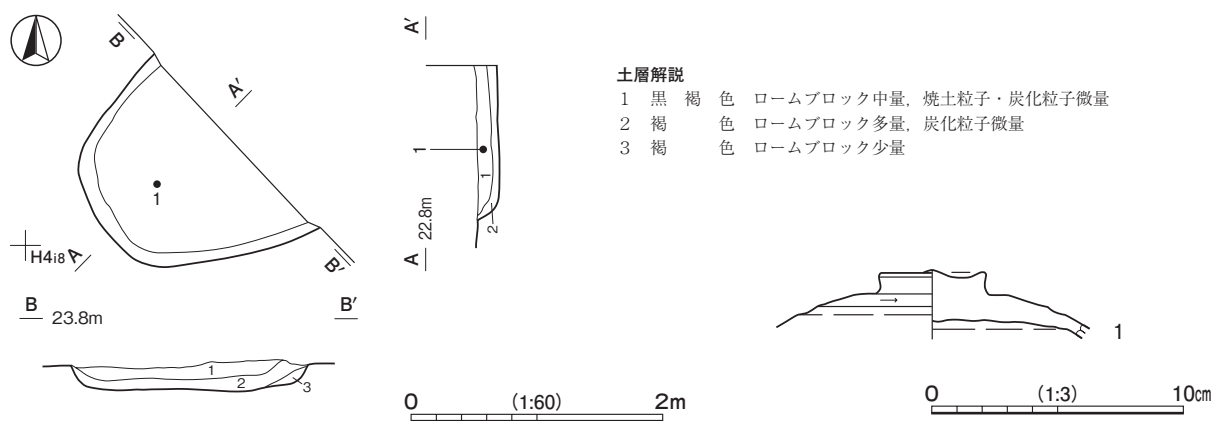
**位置** 調査区中央部の H 4 h 8 区，標高 24 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 北東部が調査区域外のため，北西・南東径は 1.80 m で，北東・南西径は 1.22 m しか確認できなかった。長径方向は N - 40° - E の楕円形と推定される。深さ 22cm で，壁は外傾している。底面は平坦である。

**覆土** 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

**遺物出土状況** 須恵器片1点(蓋)が出土している。1は覆土中層から出土している。埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。性格は不明である。



第 35 図 第 134 号土坑・出土遺物実測図

第 134 号土坑出土遺物観察表 (第 35 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	-	(28)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	天井部内面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り つまみ貼り付け後ロクロナデ	覆土中層	20% 新治窯

表 6 奈良・平安時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
16	F2i3	N - 80° - E	隅丸長方形	2.58 × 1.12	78	平坦	ほぼ直立	人為	土師器, 須恵器, 瓦	
134	H4h8	N - 40° - E	[楕円形]	1.80 × (1.22)	22	平坦	外傾	人為	須恵器	

(6) 柱穴列

第 6 号柱穴列 (第 36 図)

**位置** 調査区北西部の F 2g3 区, 標高 24 m ほどの平坦な台地上に位置している。

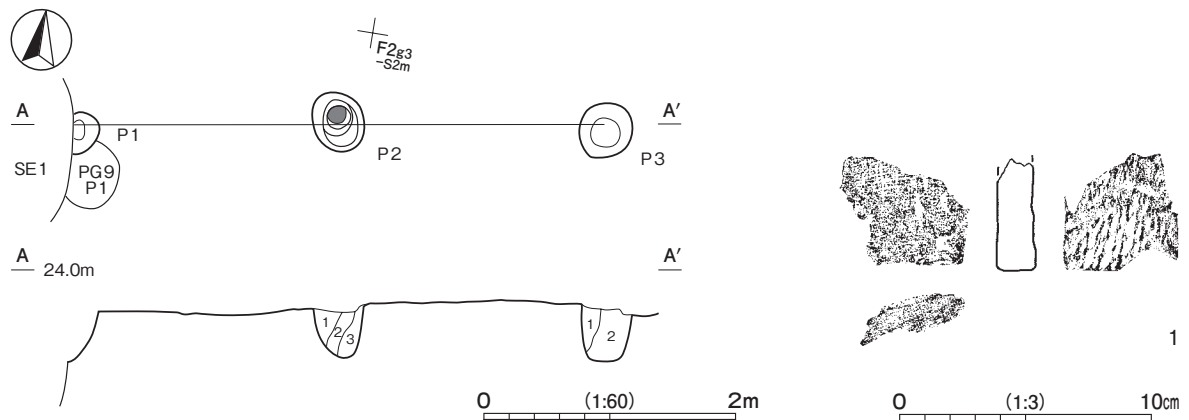
**重複関係** 第 9 号ピット群を掘り込み, 第 1 号井戸に掘り込まれている。

**規模と構造** 東西方向 4.20 m の間に並ぶ柱穴 3 か所を確認した。配列方向は N - 85° - E である。柱間寸法は 2.10 m (7 尺) である。

**柱穴** 3 か所。平面形は円形又は楕円形で, 長径 46 ~ 50cm, 短径 32 ~ 40cm である。深さは 40 ~ 42cm で, 壁は, ほぼ直立している。第 1・2 層は柱材抜き取り後の覆土, 第 3 層は埋土と考えられる。

**遺物出土状況** 須恵器片 1 点(坏), 瓦片 1 点(平瓦)が出土している。1 は P 1 の覆土中から出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から判断できないが, 第 19 号溝に沿って直線状に延びており, 溝に伴う柵列跡と推定されることから, 8 世紀後葉と考えられる。



土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 白色粘土粒子微量
- 3 明褐色 ロームブロック多量, 白色粘土粒子微量

第36図 第6号柱穴列・出土遺物実測図

第6号柱穴列出土遺物観察表 (第36図)

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	瓦	平瓦	(4.3)	2.0	(4.3)	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	凸面縄叩き 凹面布目痕	P1覆土中	

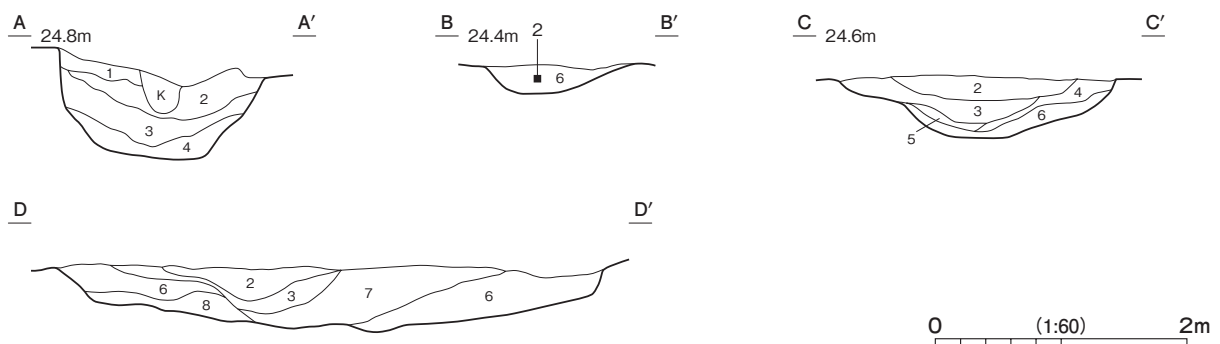
(7) 溝跡

第10号溝跡 (第37・38図・付図 PL36)

位置 調査区北西部のE 2i5～E 2j1区, 標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 E 2j1区から東方向(N-80°-E)に直線状に延び, 調査区域外へ至っている。確認できた長さは17.94mで, 上幅1.08～2.32m, 下幅0.32～0.72m, 深さ25～74cmである。断面形は浅いU字状である。

覆土 8層に分層できる。レンズ状に堆積している自然堆積の部分もあるが, ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から, 埋め戻されている。



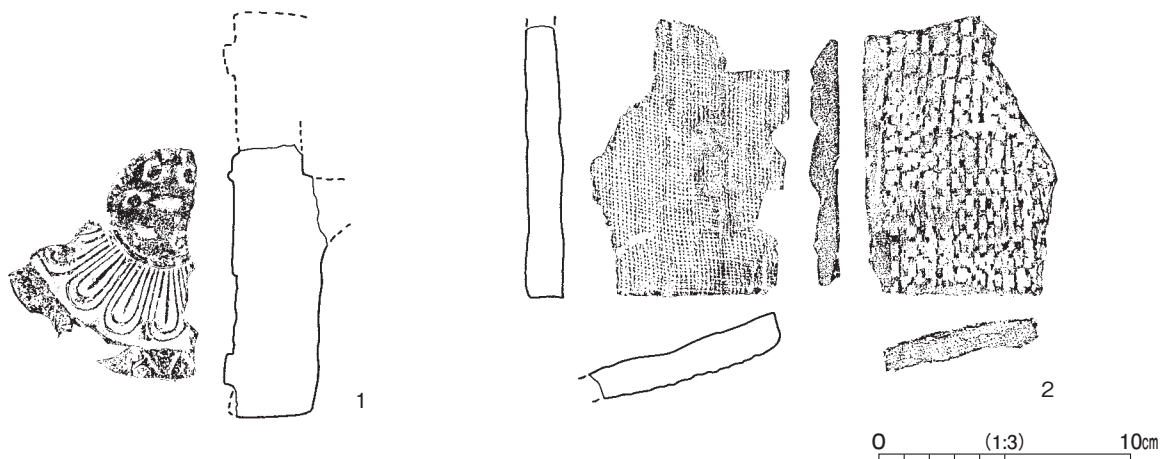
土層解説 (各土層共通)

- 1 暗褐色 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ロームブロック少量
- 7 黒褐色 ロームブロック微量
- 8 暗褐色 ロームブロック多量

第37図 第10号溝跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片 84点（甕類），須恵器片 31点（坏15，壺1，甕類15），瓦片4点（軒丸瓦1，丸瓦1，平瓦2）が出土している。2は溝の東端の覆土中層から出土している。

**所見** 時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。性格は，第18号溝と交わる区画溝と考えられる。



第38図 第10号溝跡出土遺物実測図

第10号溝跡出土遺物観察表（第38図）

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	瓦	軒丸瓦	(9.3)	(10.5)	(4.3)	長石・石英・雲母	黄灰	普通	鋸歯文縁単弁十六葉花文	覆土中	PL36
2	瓦	平瓦	(7.8)	(3.7)	(10.7)	長石・石英	にぶい黄橙	普通	凸面格子叩き 凹面布目痕 模骨痕	覆土中層	

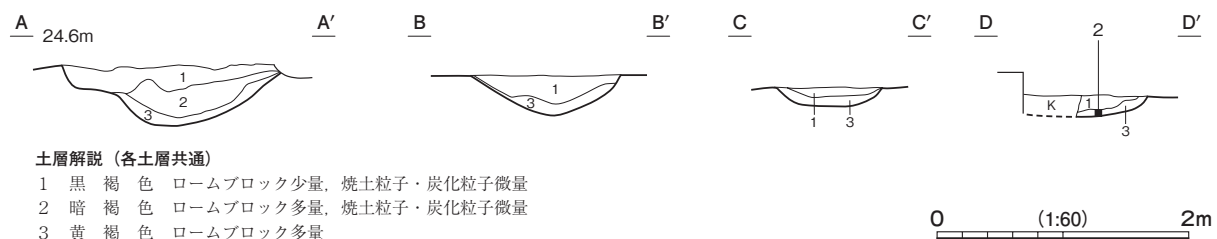
**第18号溝跡**（第39・40図・付図 PL36）

**位置** 調査区北西部のF1a9～F1d0区，標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第11・17号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** F1a9区から南東方向（N - 10° - W）に直線状に延び，調査区域外に延びている。今回確認できた長さは11.70mで，上幅0.88～1.40m，下幅0.28～0.46m，深さ16～49cmである。断面形は浅いU字状である。

**覆土** 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。



**土層解説（各土層共通）**

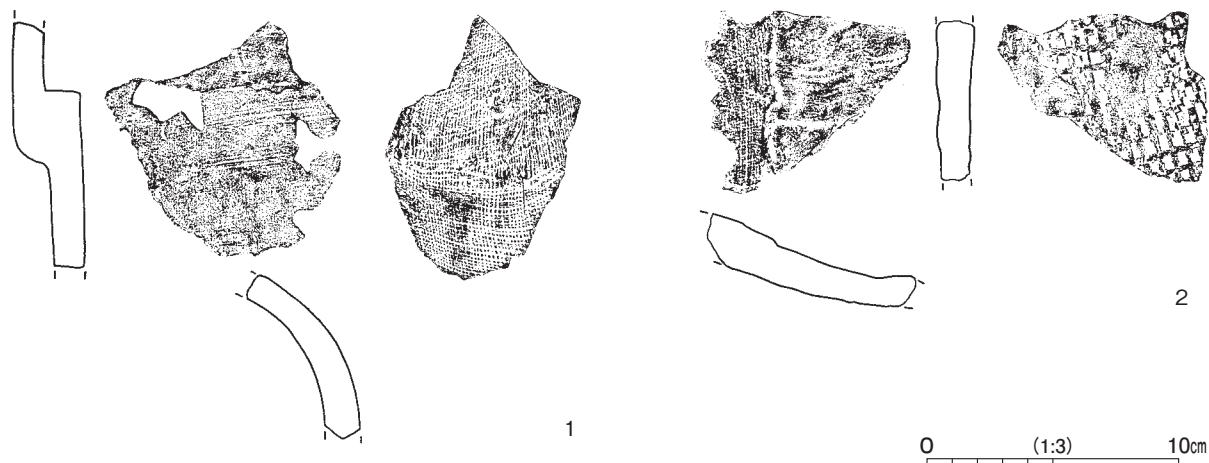
- 1 黒褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黄褐色 ロームブロック多量

第39図 第18号溝跡実測図



**遺物出土状況** 土師器片3点（坏1，甕類2），須恵器片2点（坏，甕類），瓦片2点（丸瓦，平瓦）が出土している。1・2は覆土中から出土している。投棄あるいは混入と考えられる。

**所見** 時期は，重複関係や出土土器から9世紀代と考えられる。性格は，第10号溝と交わる区画溝と考えられる。



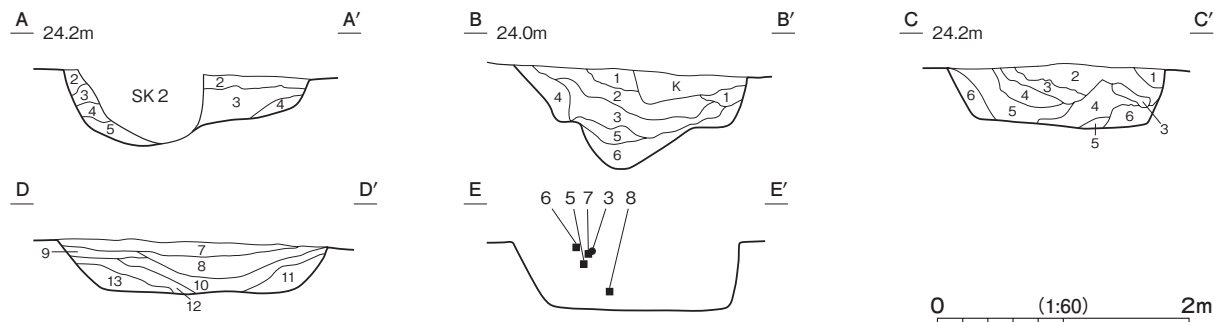
第40図 第18号溝跡出土遺物実測図

第18号溝跡出土遺物観察表（第40図）

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	瓦	丸瓦	(7.5)	(6.4)	(9.9)	長石・石英・雲母	黒	普通	玉縁式，凸面玉縁部横位の削り，凹面布目痕	覆土中	PL36
2	瓦	平瓦	(8.7)	(4.3)	(7.6)	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	凸面格子叩き，凹面布目痕，模骨痕	覆土中	

第19号溝跡（第41～43図・付図 PL 7・36・37）

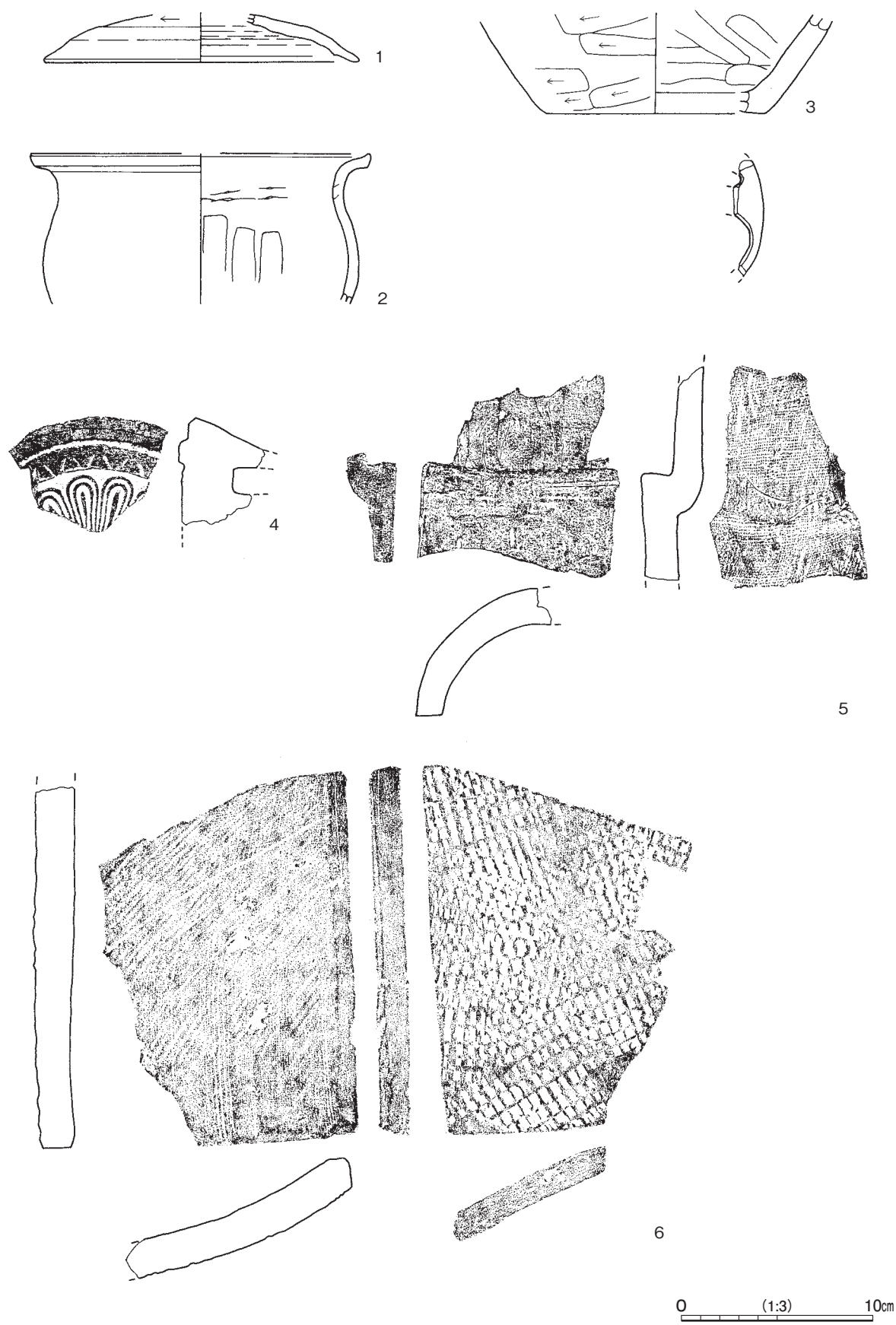
**位置** 調査区北西部のF 2 d8～F 2 f1区，標高24 mほどの平坦な台地上に位置している。



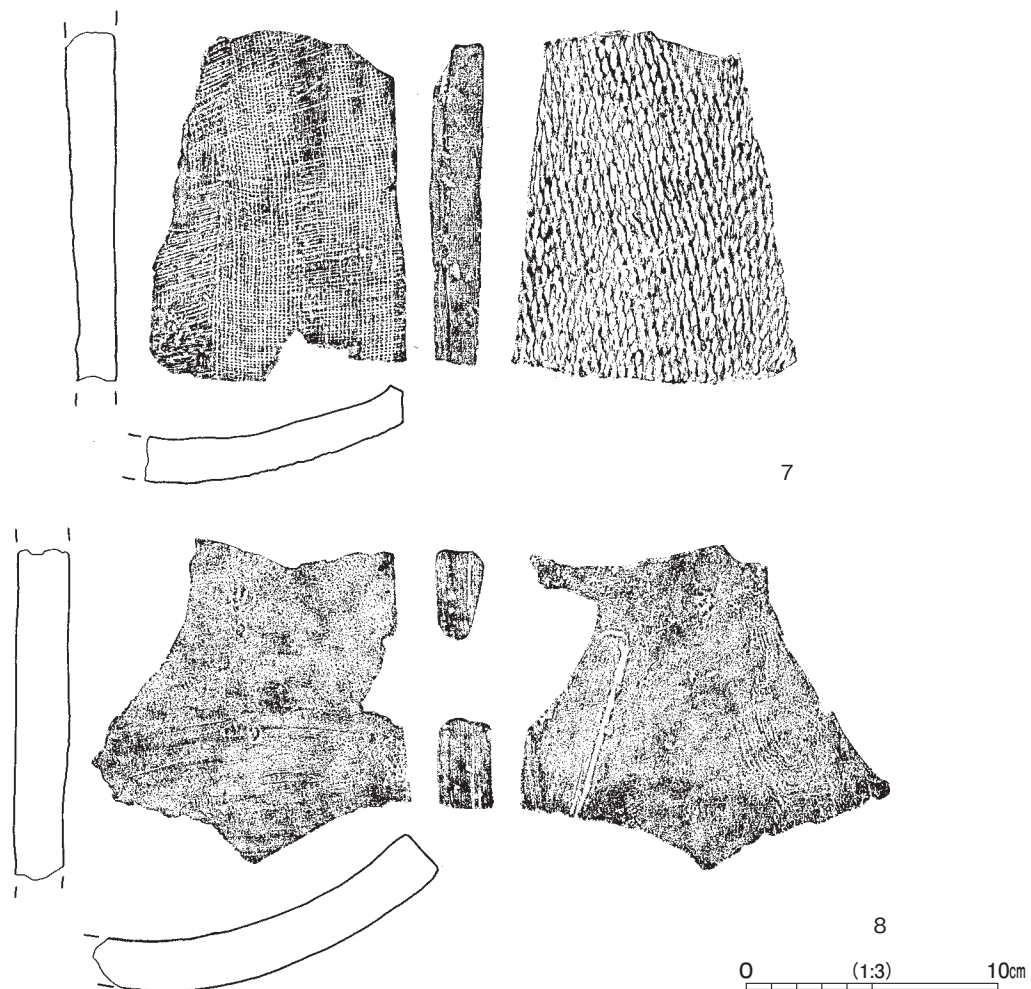
**土層解説（各土層共通）**

- |                             |                         |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量，炭化物微量       | 8 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量    |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 9 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量    |
| 3 暗褐色 ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量   | 10 黒褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 4 褐色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量  | 11 黒褐色 ロームブロック微量        |
| 5 褐色 ロームブロック多量，炭化粒子微量       | 12 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 6 褐色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量  | 13 褐色 ロームブロック微量         |
| 7 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量      |                         |

第41図 第19号溝跡実測図



第 42 图 第 19 号溝跡出土遺物実測図(1)



第43図 第19号溝跡出土遺物実測図(2)

**重複関係** 第53号竪穴建物跡, 第48号土坑, 第21号溝跡を掘り込み, 第1・6～9号方形竪穴遺構, 第2号地下式坑, 第2・12号土坑, 第12号溝に掘り込まれている。第7号土坑との新旧関係は不明である。

**規模と形状** F2d8区から西方向(N-75°-E)に直線状に延び, 調査区域外に延びている。確認できた長さは29.50mで, 上幅1.60～1.94m, 下幅1.16～1.42m, 深さ35～78cmである。断面形は逆台形である。

**覆土** 13層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片510点(坏49, 甕類460, 小形壺1), 須恵器片107点(坏51, 蓋24, 壺1, 甕類30, 甌1), 土師質土器片35点(皿), 陶器片3点(皿2, 鉢1), 灰釉陶器片1点(甕), 鉄滓1点, 瓦片82点(軒丸瓦1, 丸瓦47, 平瓦34)が出土している。8は覆土下層から, 3・5～7は覆土中層から出土している。

**所見** 時期は, 重複関係や出土土器から8世紀代と考えられる。性格は, 第23号溝と交わる区画溝と考えられる。

第19号溝跡出土遺物観察表(第42・43図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	[16.5]	(2.5)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	5% 新治窯
2	土師器	甕	[17.6]	(7.9)	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部内面ヘラナデ 輪積み痕	覆土中	5%
3	須恵器	甌	-	(5.2)	[11.4]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面横位のヘラ削り 体部内面ヘラナデ	覆土中層	5% 新治窯

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
4	瓦	軒丸瓦	(8.5)	(6.0)	(4.5)	長石・石英・雲母	灰	普通	鋸歯文縁単弁十六葉花文	覆土中	PL36
5	瓦	丸瓦	(7.0)	(6.6)	(11.1)	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	玉縁式 凸面玉縁部横位の削り 凹面 布目痕	覆土中層	PL36
6	瓦	平瓦	(11.8)	(6.4)	(18.8)	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	凸正格子叩き 凹面布目痕 模骨痕	覆土中層	PL37
7	瓦	平瓦	(10.3)	(4.0)	(13.8)	長石・石英・雲母	黒褐	普通	凸縄叩き 凹面布目痕 模骨痕	覆土中層	PL37
8	瓦	平瓦	(14.8)	(6.2)	(13.0)	長石・石英・雲母	灰白	普通	凸面ヘラ削り 凹面ナデ	覆土下層	PL37

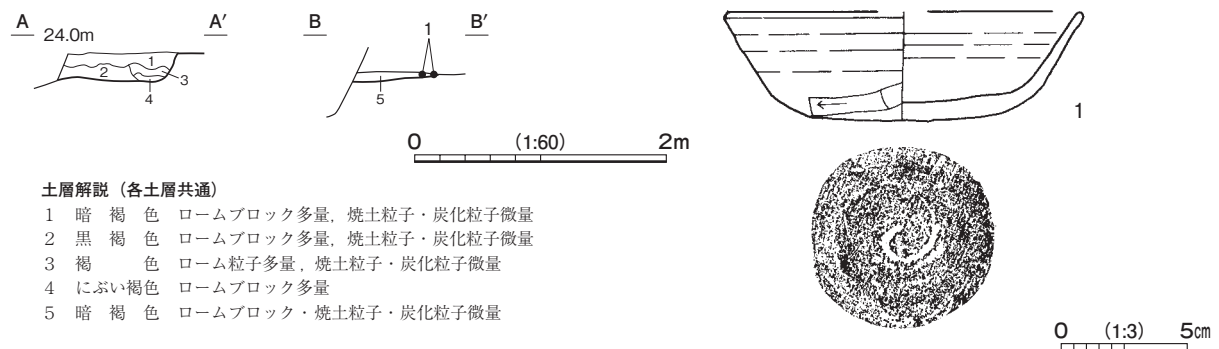
### 第21号溝跡（第44図・付図）

**位置** 調査区北西部のF2e8～F2e4区，標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第53号竪穴建物，第6・10号方形竪穴遺構，第19号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** F2d8区から南西方向（N - 83° - E）に第19号溝と並行して，直線状に延びている。確認できた長さは13.00mで，上幅1.04～1.52m，下幅0.44～0.84m，深さ24cmである。断面形は逆台形である。

**覆土** 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。



#### 土層解説（各土層共通）

- 1 暗褐色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 にぶい褐色 ロームブロック多量
- 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

### 第44図 第21号溝跡・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片17点（甕類），須恵器片8点（坏1，甕類7）が出土している。1は中央部付近の覆土下層から出土している。

**所見** 時期は，重複関係や出土土器から8世紀前葉と考えられる。性格は不明である。

### 第21号溝跡出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[14.0]	4.3	7.2	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底面ヘラ切り後回転ヘラ削り	覆土下層	50% 新治窯

### 第23号溝跡（第45・46図・付図 PL8・22）

**位置** 調査区北西部のF2e9～H3e4区，標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

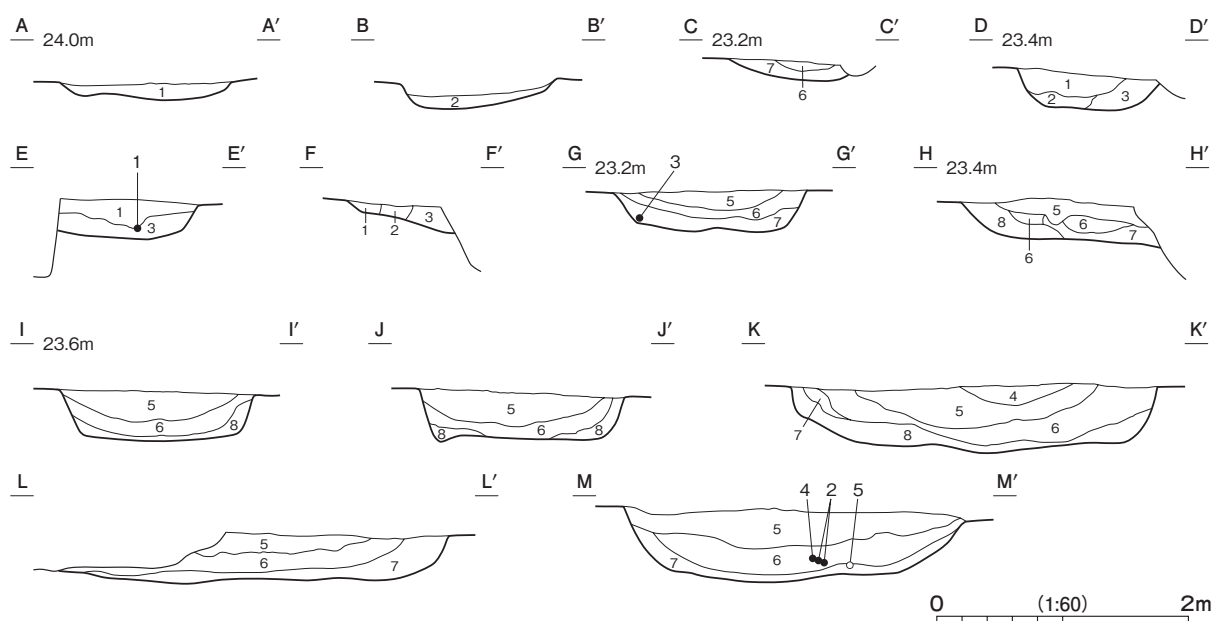
**重複関係** 第20・105・111号土坑を掘り込み，第8・9号掘立柱建物，第6号方形竪穴遺構，第7号地下式坑，第4・5号井戸，第1号粘土採掘坑，第95・130・131号土坑，第13・16・20・28・39～41号溝，第5号ピット群に掘り込まれている。第7号ピット群との新旧関係は不明である。

**規模と形状** F 2e9 区から南東方向 (N - 20° - W) に直線状に伸び、H 3 d5 区で南西方向 (N - 75° - E) へ屈曲し、調査区域外に延びている。確認できた長さは 65.60 m で、上幅 0.56 ~ 2.66 m、下幅 0.36 ~ 1.68 m、深さ 14 ~ 54cm である。断面形は逆台形である。

**覆土** 8層に分層できる。灰黄色シルトブロック・焼土粒子・炭化粒子・白色粘土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

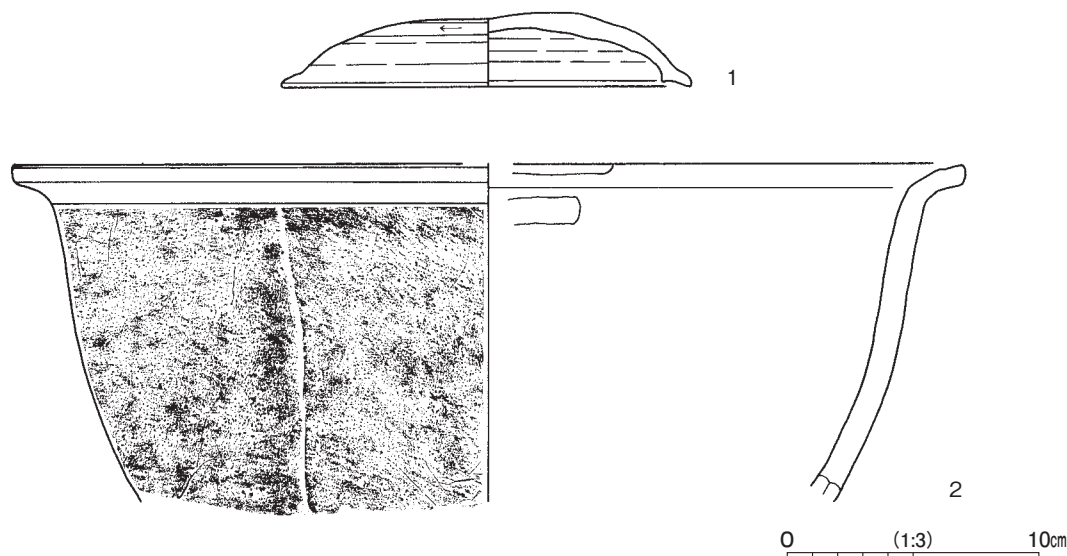
**遺物出土状況** 土師器片 341 点 (坏 55, 甕類 286), 須恵器片 23 点 (坏 3, 蓋 2, 甕類 18), 土師質土器片 43 点 (皿), 陶器片 5 点 (碗 2, 蓋 1, 甕 2), 土製品 1 点 (支脚) が覆土全体からまばらな状態で出土している。1 は覆土中層から、2 ~ 5 は覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、重複関係や出土土器から 7 世紀後葉 ~ 8 世紀前葉と考えられる。性格は区画溝と考えられる。



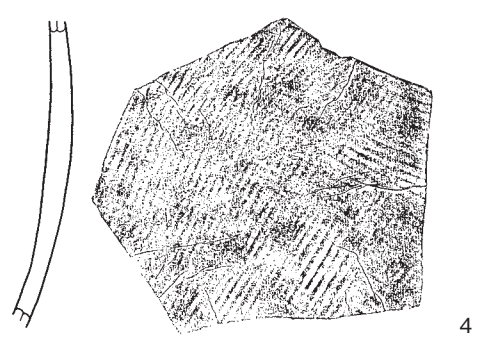
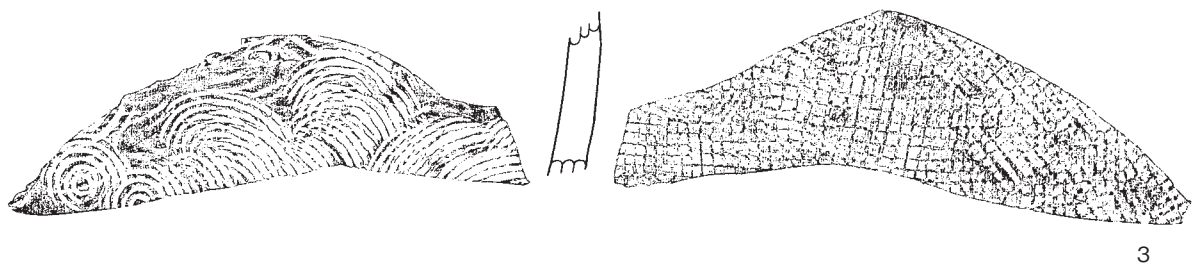
**土層解説 (各土層共通)**

- |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 灰黄色シルトブロック微量       | 5 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・白色粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 灰黄色シルトブロック少量       | 6 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・白色粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 灰黄色シルトブロック中量       | 7 暗褐色 炭化粒子多量, 白色粘土粒子少量   |
| 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・白色粘土粒子少量 | 8 褐色 白色粘土粒子多量            |



第 45 図 第 23 号溝跡・出土遺物実測図





第46図 第23号溝跡出土遺物実測図

第23号溝跡出土遺物観察表 (第45・46図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	須恵器	蓋	16.1	(3.0)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り つまみ部欠損	平頂蓋	覆土中層	70% PL22 新治窯
2	須恵器	甕	[37.6]	(13.4)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	口縁部外・内面ナデ	体部外面斜位の平行叩き	覆土下層	10% 新治窯
3	須恵器	甕	-	(6.5)	-	長石・石英	灰白	普通	体部外面格子目叩き	内面同心円状の当て具痕	覆土下層	5%
4	須恵器	甕	-	(12.2)	-	長石・石英・白色針状物質	灰黄	普通	体部外面斜位の平行叩き	内面ヘラナデ	覆土下層	5% 木葉下窯

番号	器種	最小径	最大径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
5	支脚	2.4	5.8	(12.2)	(300)	長石・石英	明褐	ナデ 指頭痕	覆土下層	60%

第51号溝跡 (第47図・付図 PL 8・22)

位置 調査区南東部のI4h6～I5h1区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第50号溝に掘り込まれている。第52号溝との新旧関係は不明である。

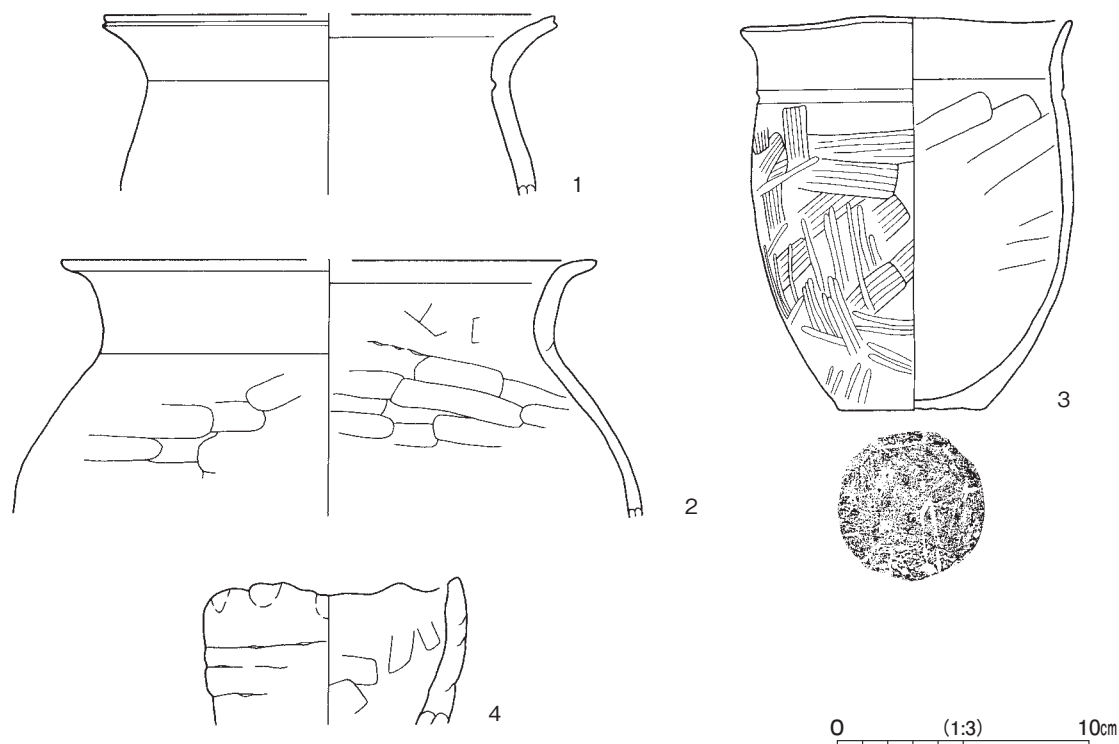
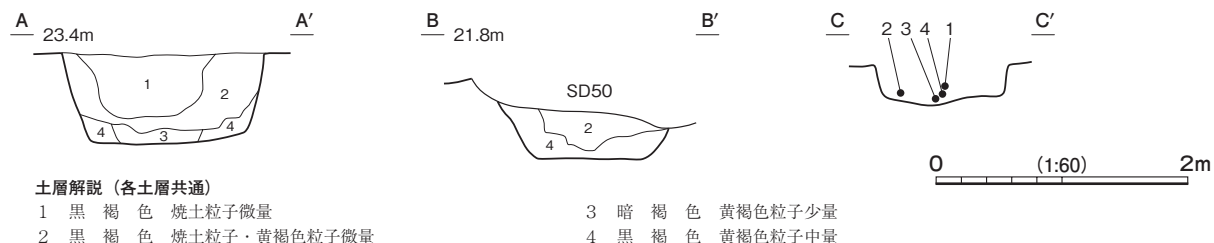
規模と形状 I4h6区から東方向(N-88°-E)に直線状に延びている。確認できた長さは21.56mで、上幅0.98～1.92m、下幅0.64～1.32m、深さ24～68cmである。断面形は逆台形である。

覆土 4層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。



**遺物出土状況** 土師器片 29 点（小型甕 1，甕類 26，手捏土器 2），須恵器片 13 点（坏 3，蓋 1，甕類 9），瓦片 1 点（平瓦）が出土している。1・2・4 は覆土中層から，3 は東南北部の栗囲式土器で覆土下層から出土している。

**所見** 時期は，出土土器から 7 世紀後葉～8 世紀初頭と考えられる。性格は不明である。



第 47 図 第 51 号溝跡・出土遺物実測図

第 51 号溝跡出土遺物観察表（第 47 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	[20.1]	(7.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土中層	5%
2	土師器	甕	[24.0]	(11.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ ヘラナデ 輪積み痕 体部外・内面横位の	覆土中層	5%
3	土師器	小形甕	14.8	17.5	6.4	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ ヘラ磨き 体部内面ヘラナデ 体部外面ハケ目調整後	覆土下層	90% PL22 栗囲式
4	土師器	手捏	11.1	(6.6)	-	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面指頭痕 輪積み痕 体部内面ヘラナデ	覆土中層	50% PL22

表7 奈良・平安時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
10	E2i5 ~ E2j1	N - 80° - E	直線状	(17.94)	1.08 ~ 2.32	0.32 ~ 0.72	25 ~ 74	浅いU字状	緩斜	自然人為	土師器, 須恵器, 瓦	
18	F1a9 ~ F1d0	N - 10° - W	直線状	(11.70)	0.88 ~ 1.40	0.28 ~ 0.46	16 ~ 49	浅いU字状	緩傾	人為	土師器, 須恵器, 瓦	本跡→SD11・17
19	F2d8 ~ F2f1	N - 75° - E	直線状	(29.50)	1.60 ~ 1.94	1.16 ~ 1.42	35 ~ 78	逆台形	外傾	人為	土師器, 須恵器, 土師質土器, 陶器, 灰釉陶器, 鉄滓, 瓦	SK53, SK48, SD21→本跡→HT16-9, UP2, SK242, SD12, SK7と重複
21	F2e8 ~ F2e4	N - 83° - E	直線状	(13.00)	1.04 ~ 1.52	0.44 ~ 0.84	24	逆台形	外傾	人為	土師器, 須恵器	本跡→S153, HT6・10, SD19
23	F2e9 ~ H3e4	N - 20° - W N - 75° - E	L字状	(65.60)	0.56 ~ 2.66	0.36 ~ 1.68	14 ~ 54	逆台形	外傾緩斜	人為	土師器, 須恵器, 土師質土器, 陶器, 土製品	SK111→本跡→SB8・9, HT6, UP7, SE4・5, 第1号粘土探掘坑, SK20・95・105・130・131, SD13・16・20・28・39・41, PG 5, PG 7と重複
51	I4h6 ~ I5h1	N - 88° - E	直線状	(21.56)	0.98 ~ 1.92	0.64 ~ 1.32	24 ~ 68	逆台形	ほぼ直立	人為	土師器, 須恵器, 瓦	本跡→SD50, SD52と重複

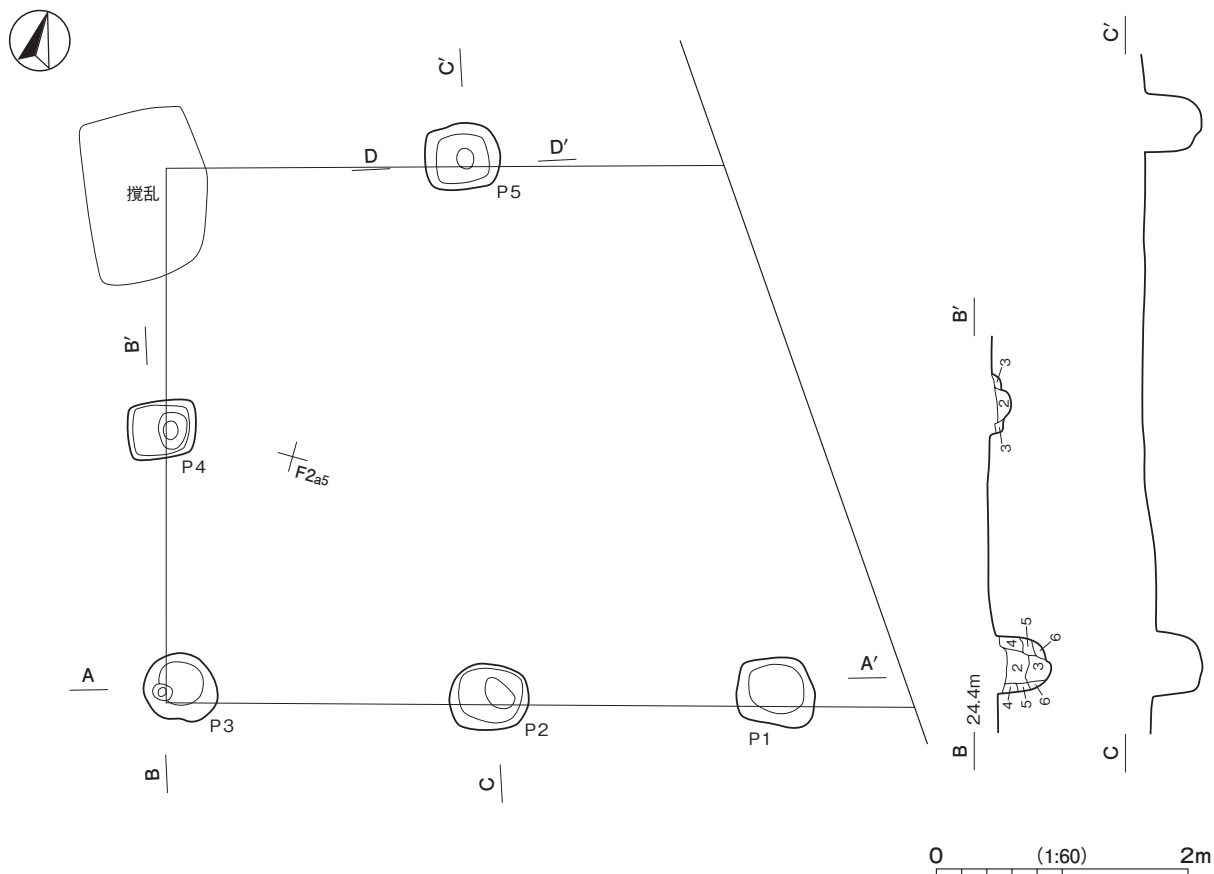
4 中世の遺構と遺物

当時代の遺構は、掘立柱建物跡5棟、方形堅穴遺構14基、地下式坑6基、井戸跡8基、火葬施設2基、土坑15基、柱穴列4条、溝跡13条、整地遺構1か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

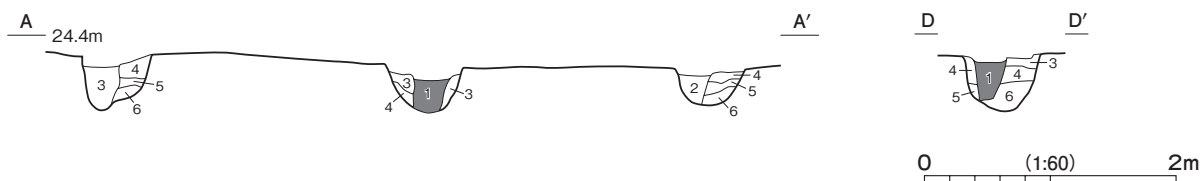
(1) 掘立柱建物跡

第4号掘立柱建物跡 (第48・49図 PL9)

位置 調査区北西部のF 2a5区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。



第48図 第4号掘立柱建物跡実測図(1)



**土層解説 (各柱穴共通)**

- |                              |                              |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 黒色 ロームブロック微量               | 4 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 明褐色 ロームブロック少量              | 5 褐色 ロームブロック多量               |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 明褐色 ロームブロック多量              |

**第49図** 第4号掘立柱建物跡実測図(2)

**規模と構造** 北西隅柱が不明であり、北東部の一部が調査区域外であるため、桁行2間以上、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-74°-Eの東西棟と推定される。確認できた規模は、桁行4.8m以上、梁行4.2mである。柱間寸法は、桁行が北妻から2.7m(9尺)、2.1m(7尺)、梁行が2.1m(7尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

**柱穴** 5か所。平面形は楕円形又は隅丸方形で、長径54~62cm、短径46~56cmである。深さ22~44cmで、掘方の壁はほぼ直立している。第1層は柱痕跡で、第3~6層は埋土である。第2層は柱材を抜き取った後の覆土である。

**所見** 時期は、調査区域で15~16世紀の遺物が採集できており、室町時代と考えられる。性格は「小屋」などの簡易的な建物が考えられる。

**第7号掘立柱建物跡 (第50図 PL9)**

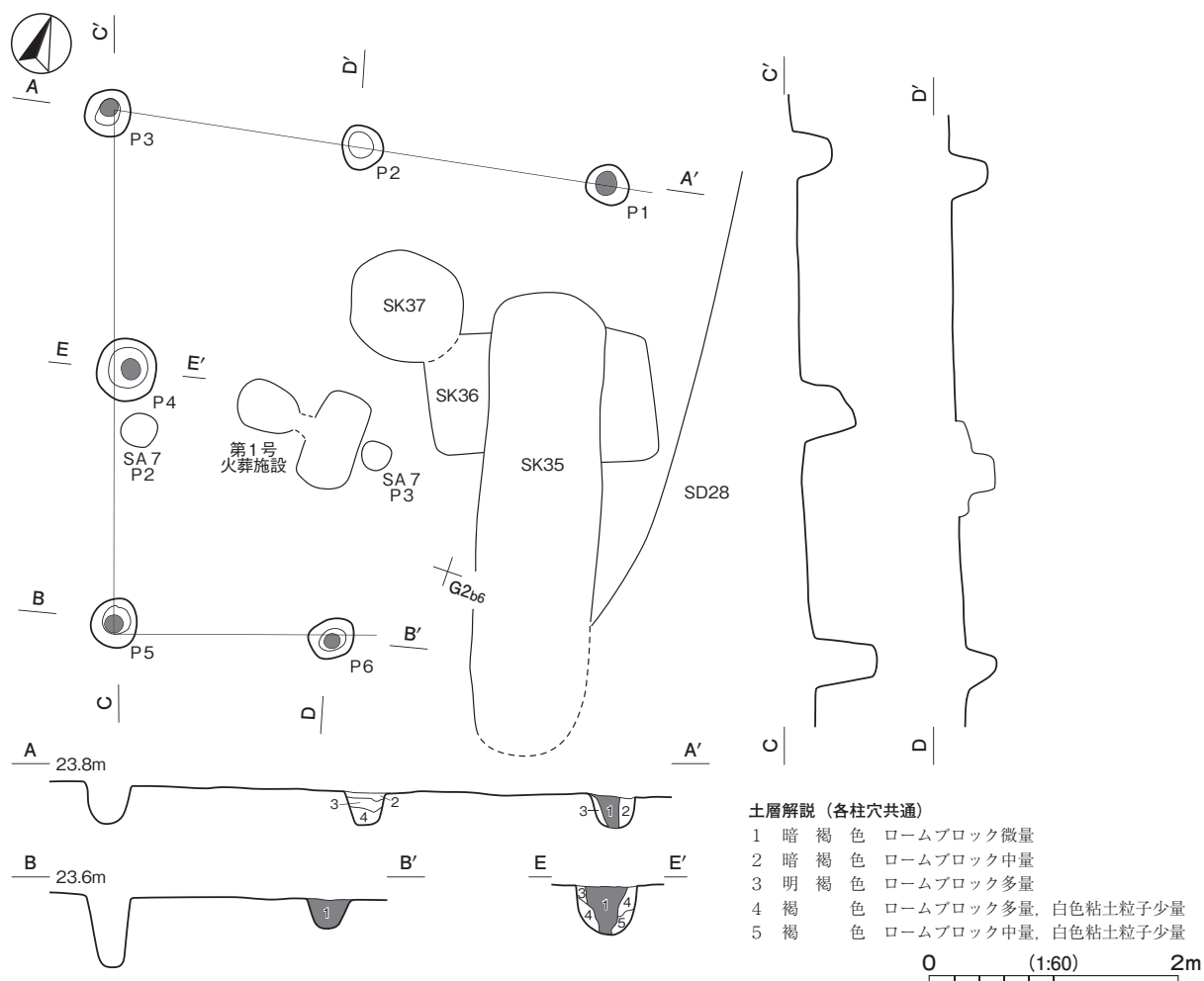
**位置** 調査区中央部のG 2 a5区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第35号土坑に掘り込まれている。第28号溝跡、第36・37号土坑、第1号火葬施設、第7号柱穴列との新旧関係は不明である。

**規模と構造** 東部や南東部は遺構の重複により柱穴を確認できなかったが、桁行2間以上、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-72°-Eの東西棟と推定される。確認できた規模は、桁行3.9m、梁行4.2mである。柱間寸法は、桁行が北妻から、1.8m(6尺)、2.1m(7尺)、梁行が2.1m(7尺)の等間で、柱筋はほぼ揃っている。南平と西妻は直角であるが、南平と北平は平行でなく、台形状である。

**柱穴** 6か所。平面形は円形又は楕円形で、長径36~50cm、短径30~48cmである。深さ24~56cmで、掘方の壁はほぼ直立している。第1層は柱痕跡、第4・5層は埋土、第2・3層は柱材を抜き取った後の覆土である。P1・P3~P6の底面で柱のあたりを確認した。

**所見** 時期は、柱間寸法に規格性が認められないことから、平安時代以降の建物跡と考えられる。重複関係や調査区域で15~16世紀の遺物が採集できており、室町時代と考えられる。性格は「小屋」などの簡易な建物が考えられる。



第50図 第7号掘立柱建物跡実測図

### 第9号掘立柱建物跡 (第51・52図)

**位置** 調査区中央部のG 3h2区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

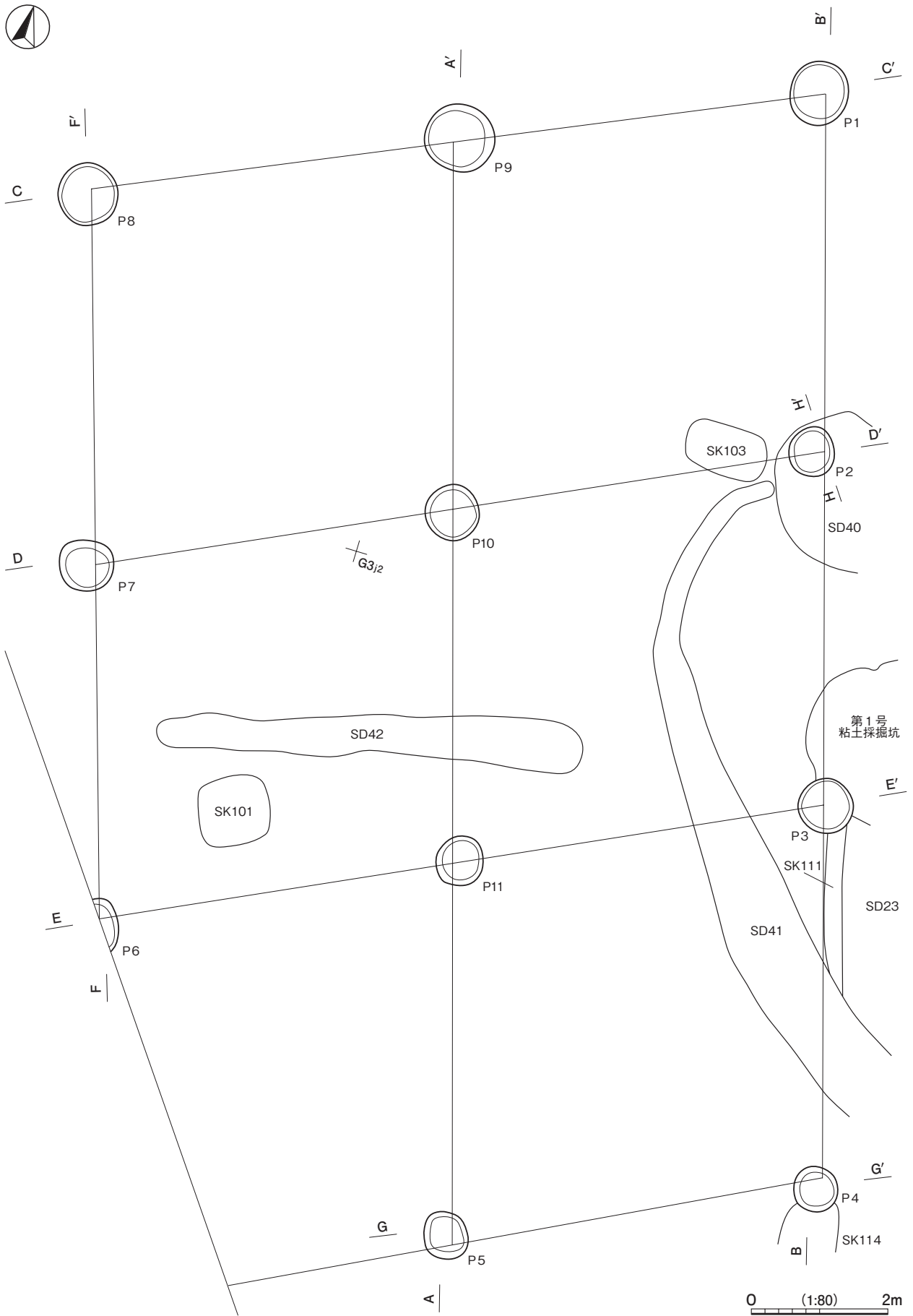
**重複関係** 第1号粘土採掘坑、第101・111・114号土坑、第23・40号溝跡を掘り込んでいる。第103号土坑、第41・42号溝跡との新旧関係は不明である。

**規模と構造** 南西部は調査区域外であるが、規模は桁行3間、梁行2間の総柱建物跡で、桁行方向がN-18°-Wの南北棟と推定される。桁行15.9m、梁行11.1mで、面積は176.49m<sup>2</sup>である。柱間寸法は、桁行が5.4m(18尺)、5.1m(17尺)、5.4m(18尺)で、梁行が5.4m(18尺)、5.7m(19尺)とばらつきがある。全体的に菱形状である。

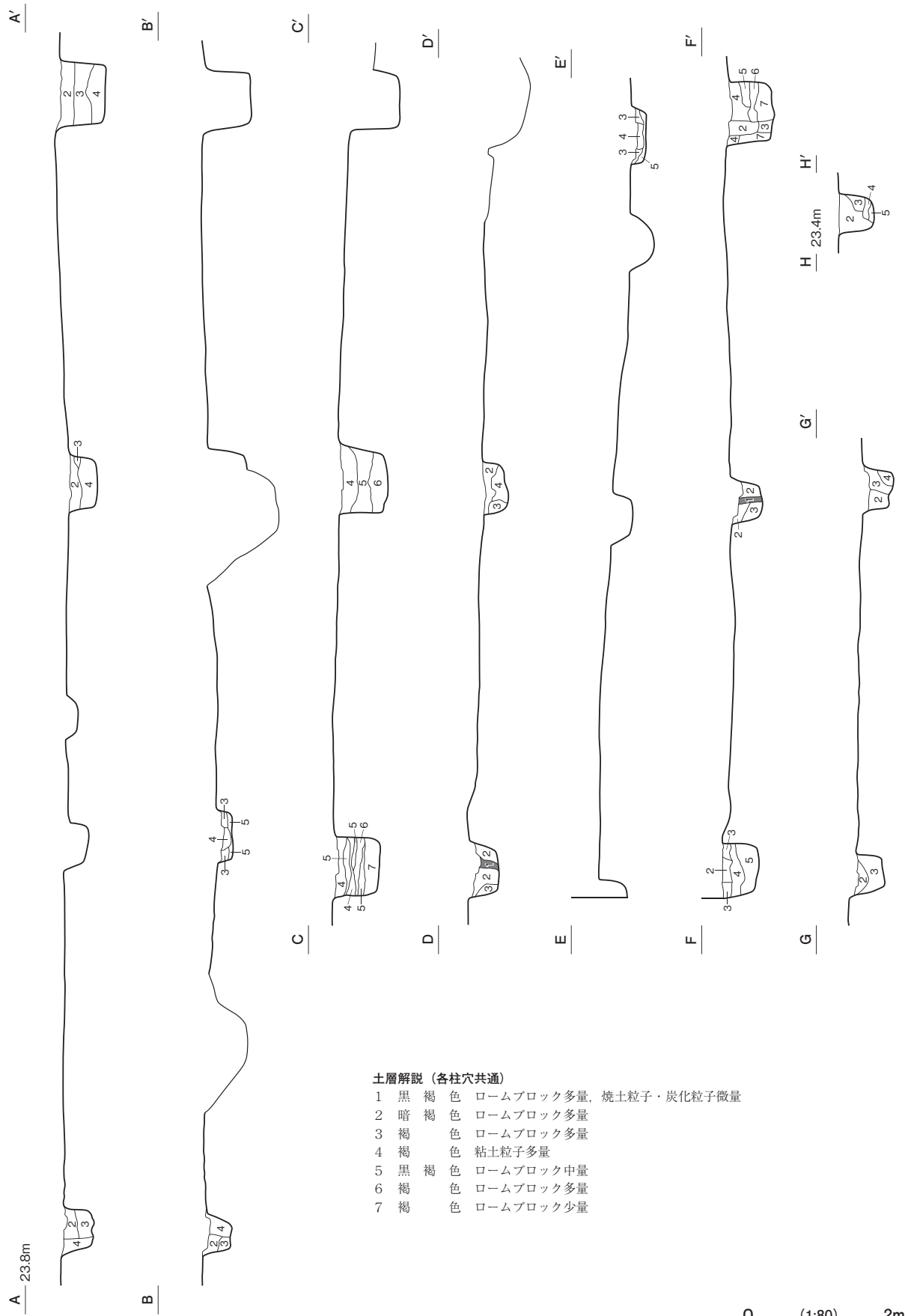
**柱穴** 11か所。平面形は円形又は楕円形で、長径62~98cm、短径58~64cmである。深さ18~64cmで、掘方の壁はほぼ直立している。第1層は柱痕跡、第2・3層は埋土、第4~7層は柱材を抜き取った後の覆土である。

**遺物出土状況** 土師器片4点(甕類)、須恵器片2点(坏、甕類)、陶器片3点(碗)、剥片1点、金属製品2点(不明)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

**所見** 時期は、出土土器から判断できないが、重複関係や調査区域で15~16世紀の遺物が採集できており、室町時代と考えられる。性格は規模や形状から居宅としての機能が考えられるが、詳細は不明である。



第 51 图 第 9 号掘立柱建物迹实测图 (1)



第52図 第9号掘立柱建物跡実測図(2)



第 12 号掘立柱建物跡 (第 53 図)

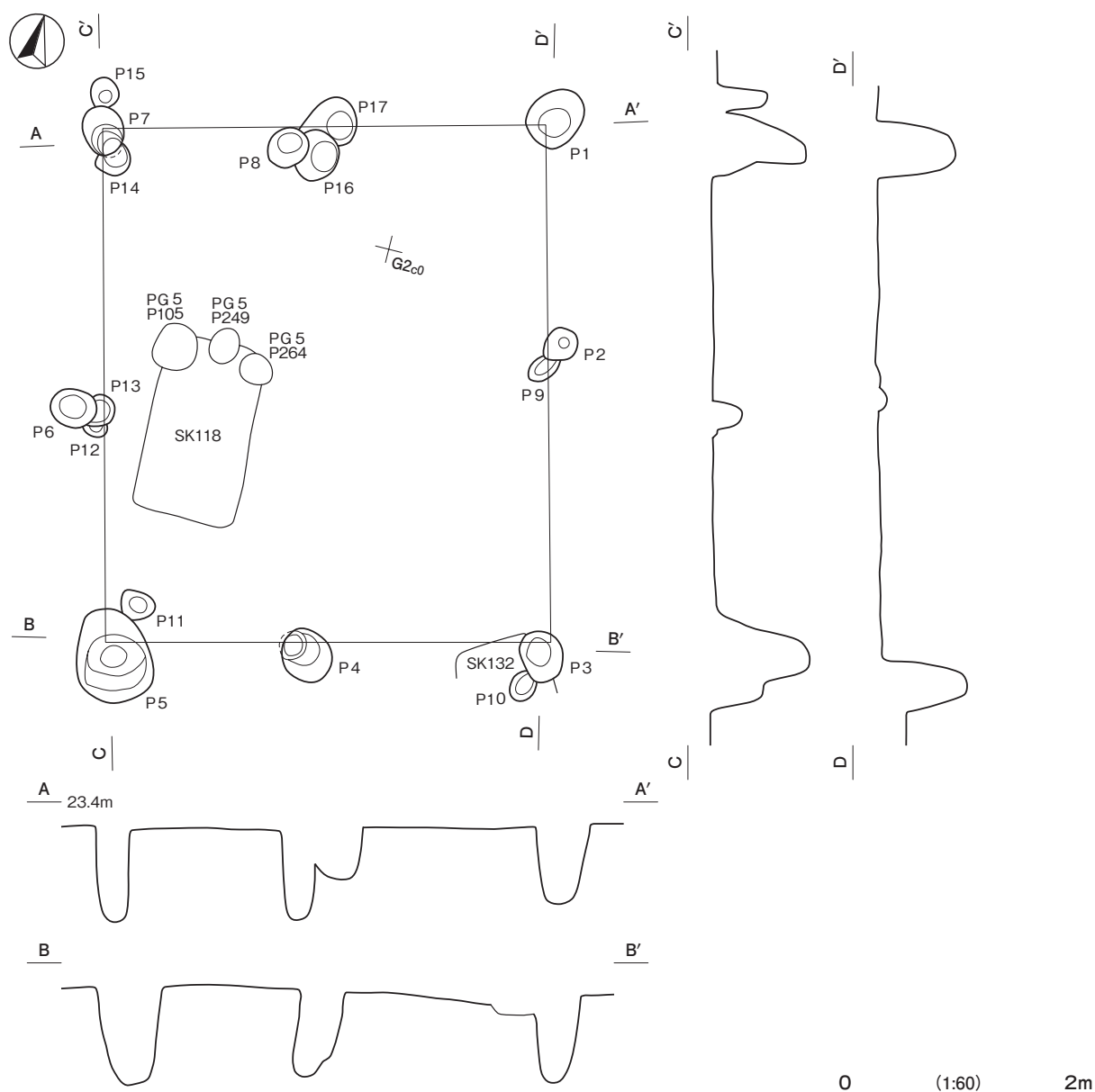
**位置** 調査区北西部の G 2b9 区, 標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第 132 号土坑を掘り込んでいる。第 118 号土坑, 第 5 号ピット群との新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行 2 間, 梁行 2 間の側柱建物跡で, 桁行方向が N - 16° - W の南北棟である。規模は, 桁行 4.5 m, 梁行 3.9 m で, 面積は 17.55 m<sup>2</sup> である。柱間寸法は, 桁行が 2.4 m (8 尺), 2.1 m (7 尺), 梁行が 2.1 m (7 尺), 1.8 m (6 尺) で, 柱筋はほぼ揃っている。

**柱穴** 17 か所。平面形は円形又は楕円形で, 長径 33~83cm, 短径 27~65cm である。深さ 27~83cm で, 掘方の壁はほぼ直立している。P 9~P 17 は柱の建て替えによるものや, 柱の抜きとり痕の可能性もあるが, 不明である。

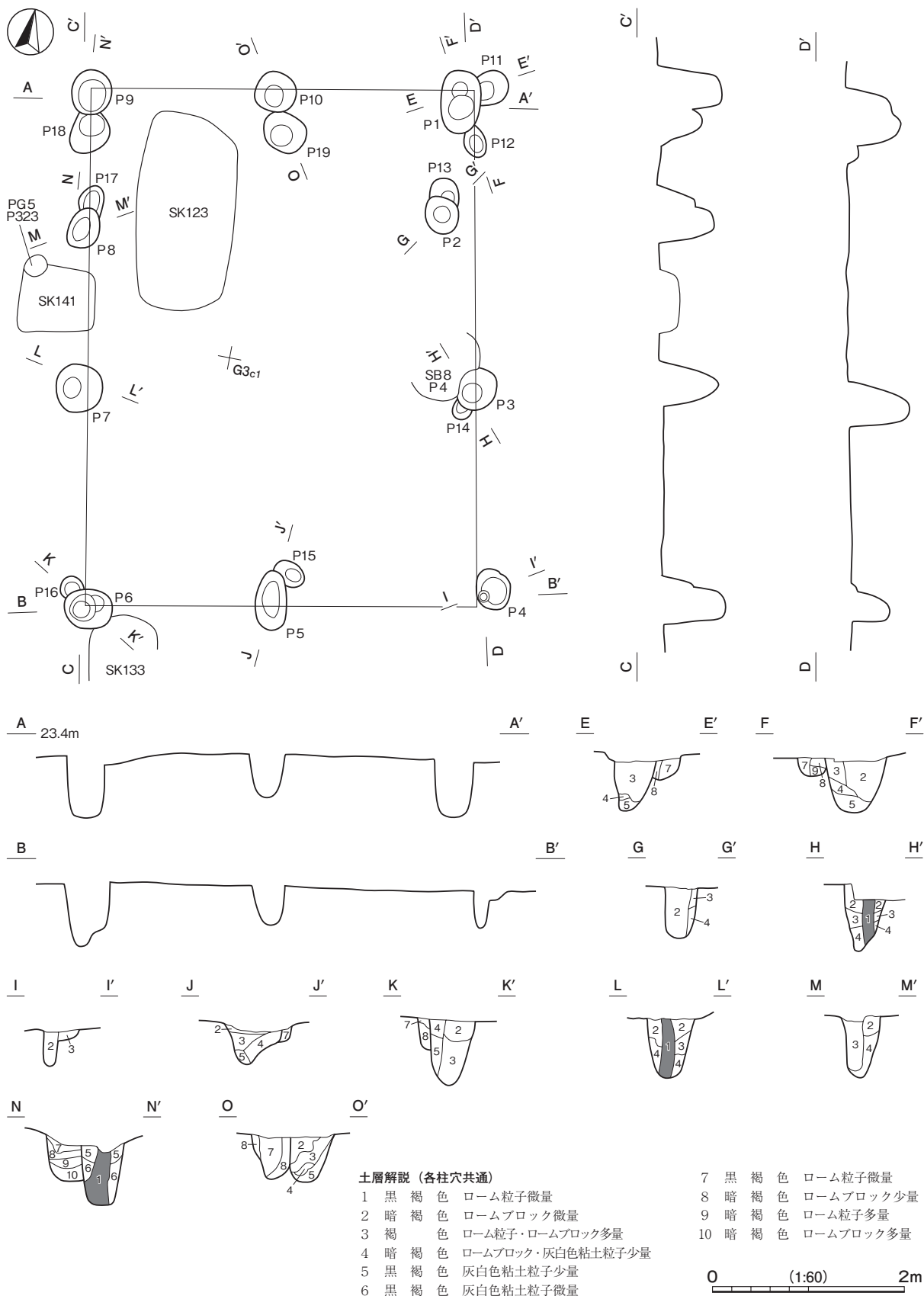
**所見** 時期は, 重複関係や調査区域で 15~16 世紀の遺物が採集できており, 室町時代と考えられる。性格は規模や形状から居宅としての機能が考えられるが, 詳細は不明である。



第 53 図 第 12 号掘立柱建物跡実測図

第 13 号掘立柱建物跡 (第 54 図)

位置 調査区北西部の G 2 b 0 区, 標高 23m ほどの平坦な台地上に位置している。



第 54 図 第 13 号掘立柱建物跡実測図

**重複関係** 第133号土坑を掘り込み、第8号掘立柱建物に掘り込まれている。第123・141号土坑との新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-9°-Wの南北棟である。規模は、桁行5.70m、梁行3.90mで、面積は21.06㎡である。柱間寸法は、桁行が1.5m（5尺）、1.8m（6尺）、2.4m（8尺）、梁行が1.8m（6尺）、2.1m（7尺）で、柱筋はほぼ揃っている。

**柱穴** 19か所。平面形は円形又は楕円形で、長径44～66cm、短径32～48cmである。深さ39～65cmで、掘方の壁はほぼ直立している。第1層は柱痕跡で、第2・3層は埋土である。第4～6層は柱材を抜き取った後の覆土である。P11～P19は柱の建て替えによるものや、柱の抜きとり痕の可能性もあるが、不明である。

**所見** 時期は、重複関係や調査区域で15～16世紀の遺物が採取できており、室町時代と考えられる。性格は規模や形状から居宅としての機能が考えられるが、詳細は不明である。

表8 中世掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数		面積 (㎡)	柱間寸法		柱穴				主な出土遺物	時期	備考
			桁×梁(間)	桁×梁(m)		桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)			
4	F2a5	N-74°-E	(2)×2	(4.8)×(4.2)	-	2.1～2.7	2.1	側柱	5	楕円形 隅丸方形	22～44	-	室町時代	
7	G2a5	N-72°-E	(2)×2	(3.9)×(4.2)	-	1.8～2.1	2.1	側柱	6	円形 楕円形	24～56	-	室町時代	本跡→SK35 SD28, SK36・37, 第1号火葬施設, SA7と重複
9	G3h2	N-18°-W	3×2	15.9×11.1	176.49	5.1～5.4	5.4～5.7	総柱	11	円形 楕円形	18～64	土師器、須恵器、 陶器、剥片、 金属製品	室町時代	SK101・111・114, 第1 号粘土採掘坑, SD23・ 40→本跡 SK103, SD41・42と重複
12	G2b9	N-16°-W	2×2	4.5×3.9	17.55	2.4～2.1	2.1～1.8	側柱	17	円形 楕円形	27～83	-	室町時代	SK132→本跡 SK118 PG5と重複
13	G2b0	N-9°-W	3×2	5.7×3.9	21.06	1.5～2.1	1.8～2.1	側柱	19	円形 楕円形	39～65	-	室町時代	SK133→本跡 →SB8 SK123・141と重複

## (2) 方形竪穴遺構

### 第1号方形竪穴遺構（第55図 PL38）

**位置** 調査区北西部のF2f1区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第8・9号方形竪穴遺構、第19号溝跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 南西部が調査区域外のため、東西軸は1.86mで、南北軸は4.70mしか確認できなかった。主軸方向はN-7°-Wで長方形と推定される。壁は高さ30～40cmで、外傾している。出入口に伴う施設は確認できなかった。

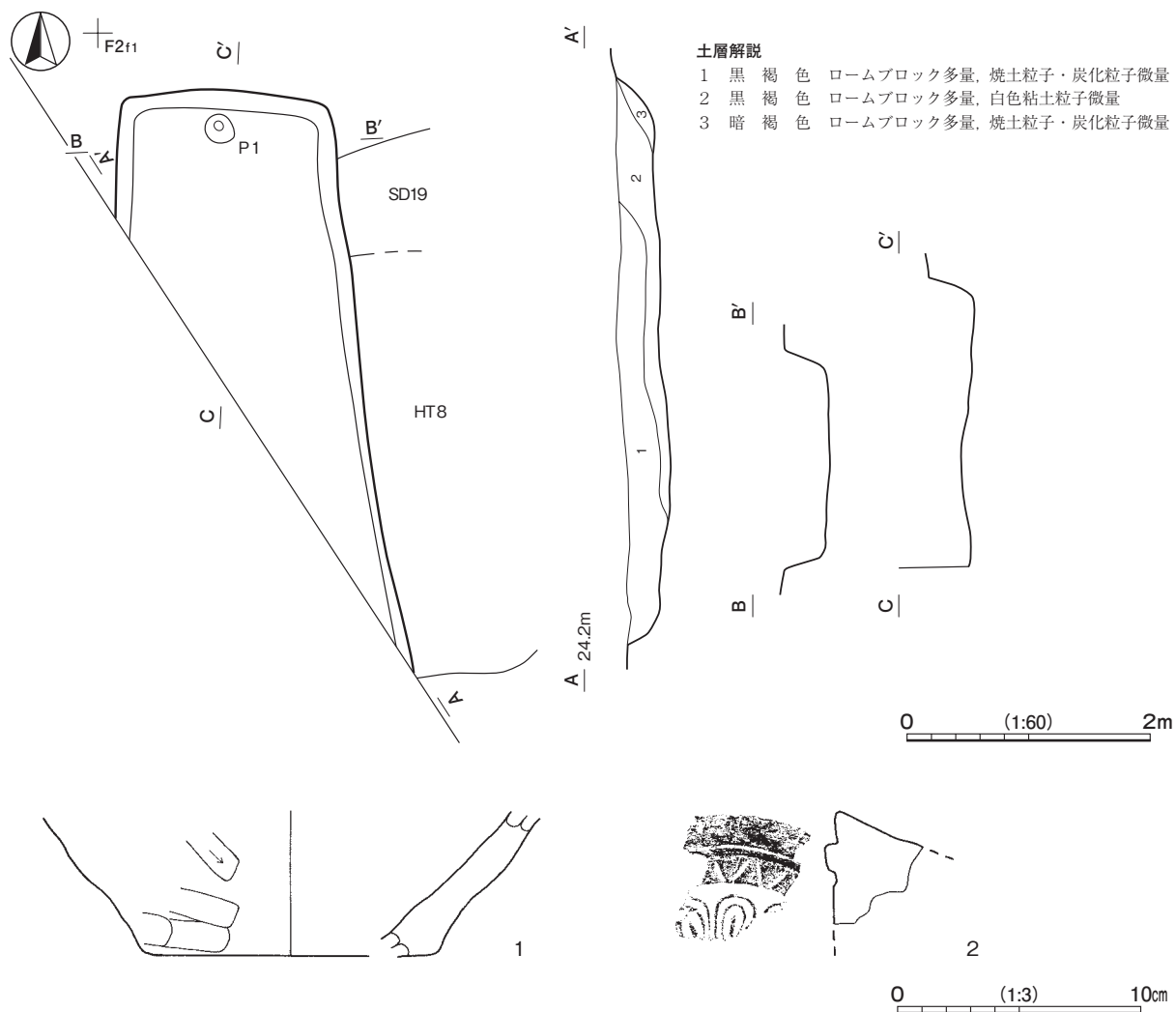
**床** 平坦で、硬化面は認められなかった。

**ピット** P1は、配置から柱穴と考えられる。

**覆土** 3層に分層できる。北部からの流入が認められる自然堆積である。

**遺物出土状況** 土師器片34点（坏8、高台付坏1、甕類25）、須恵器片23点（坏8、蓋1、甕類14）、土師質土器片5点（皿）、陶器片2点（鉢）、瓦片161点（軒丸瓦1、丸瓦34、平瓦126）が出土している。1は覆土中から出土している。2は流れ込みと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から判断できないが、重複関係や調査区域で15～16世紀の遺物が採集できており、室町時代と考えられる。性格は倉庫や作業小屋などの簡易な建物が考えられるが、詳細は不明である。



第55図 第1号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第1号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第55図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	鉢	-	(5.9)	[12.2]	長石・石英・雲母 にぶい褐	外面下位横位・斜位のヘラ削りとナ デ 内面ナデ	自然釉	常滑	覆土中	5%

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
2	瓦	軒丸瓦	(8.2)	(5.2)	(4.7)	長石・石英・ 雲母	黄灰色	普通	鋸歯文縁単弁十六葉花文	覆土中	PL38

第4号方形竪穴遺構（第56図）

**位置** 調査区北西部のF2f2区，標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第7号方形竪穴遺構，第1号井戸に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸は4.34m，短軸は1.90mの隅丸長方形で，長軸方向はN-26°-Wである。壁は高さ18～32cmで，ほぼ直立している。出入口に伴う施設は確認できなかった。

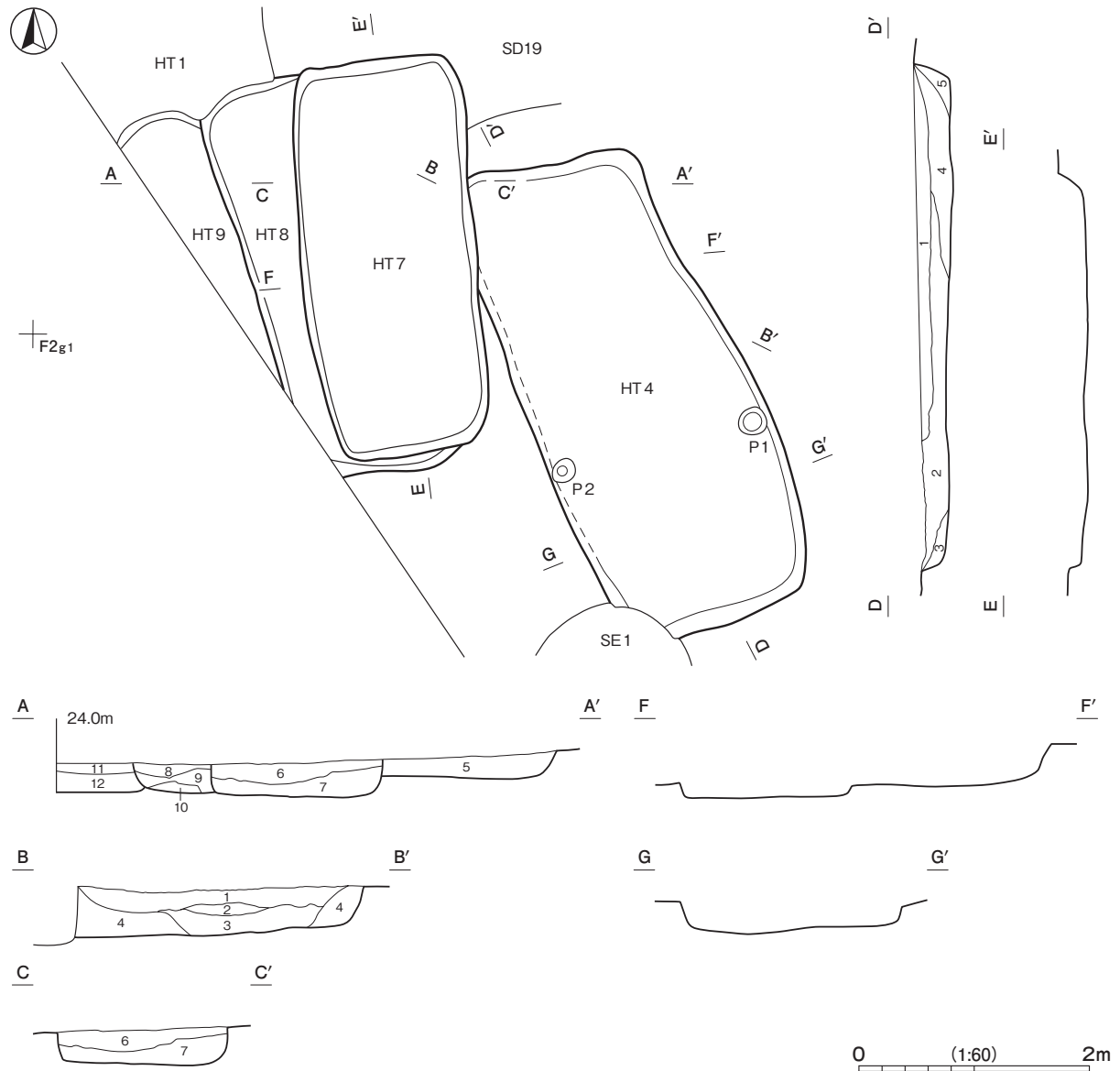
**床** 平坦で，硬化面は認められない。

**ピット** 2か所。P1・P2は，配置から柱穴と考えられるが，性格は不明である。

**覆土** 5層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片3点（高台付坏1，甕類2），須恵器片1点（甕類），鉄滓2点，瓦片6点（丸瓦2，平瓦4）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

**所見** 時期は，重複関係や調査区域で15～16世紀の遺物が採集できており，室町時代と考えられる。性格は倉庫や作業小屋などの簡易な建物が考えられるが，詳細は不明である。



**土層解説**

**第4号方形竪穴遺構土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量，焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量

**第7号方形竪穴遺構土層解説**

- 6 黒褐色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ロームブロック中量，白色粘土粒子微量

**第8号方形竪穴遺構土層解説**

- 8 暗褐色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 褐色 ロームブロック多量，白色粘土粒子多量
- 10 暗褐色 ロームブロック多量

**第9号方形竪穴遺構土層解説**

- 11 暗褐色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 12 褐色 ロームブロック・白色粘土粒子多量

第56図 第4・7～9号方形竪穴遺構実測図

第5号方形竪穴遺構 (第57図)

位置 調査区北西部のF2c3区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第22号溝跡を掘り込んでいる。

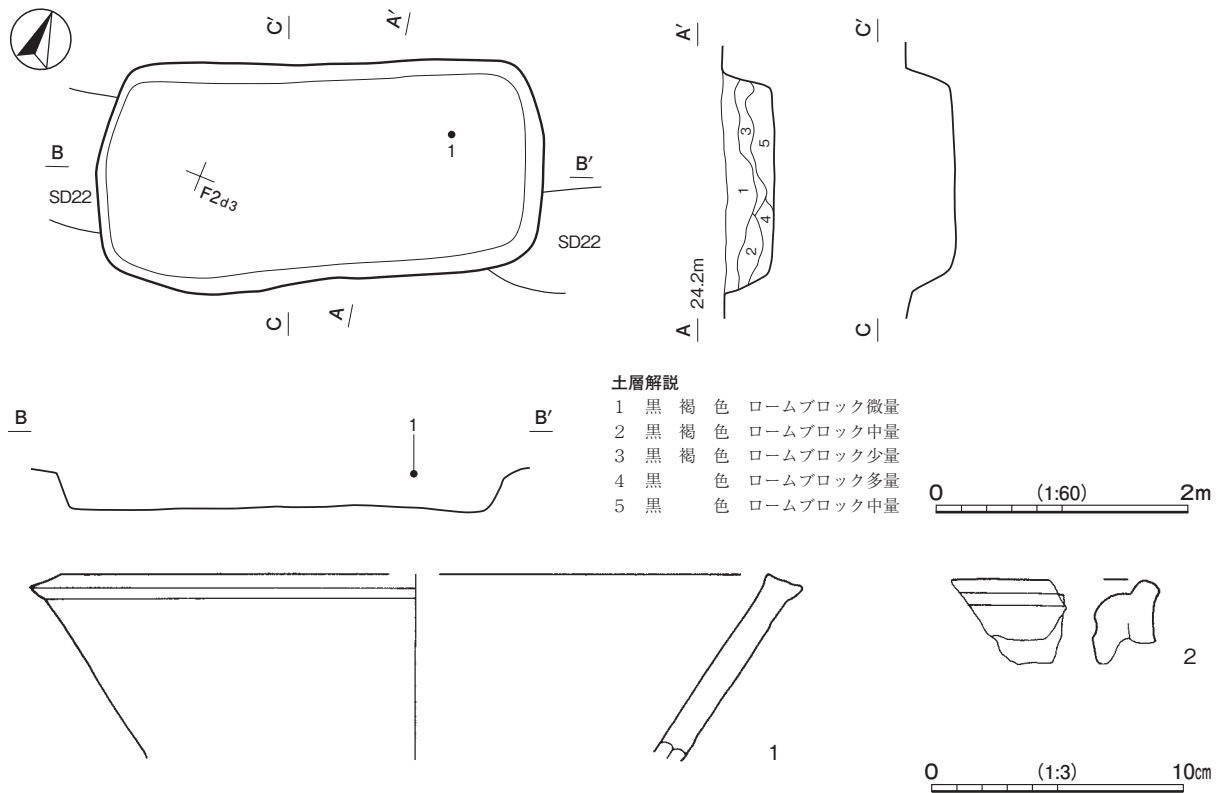
規模と形状 長軸3.55m、短軸1.83mの隅丸長方形で、長軸方向はN-65°-Eである。壁は高さ29~41cmで、ほぼ直立している。出入口に伴う施設は確認できなかった。

床 平坦で、硬化面は認められない。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片19点(坏4, 甕類15), 須恵器片5点(坏1, 甕類4), 陶器片6点(碗1, 片口鉢1, 鉢2, 甕2), 鉄滓1点, 瓦片6点(丸瓦4, 平瓦2)が出土している。1は覆土上層から、2は覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から15世紀代と考えられる。性格は倉庫や作業小屋などの簡易な建物が考えられるが、詳細は不明である。



第57図 第5号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第5号方形竪穴遺構出土遺物観察表 (第57図)

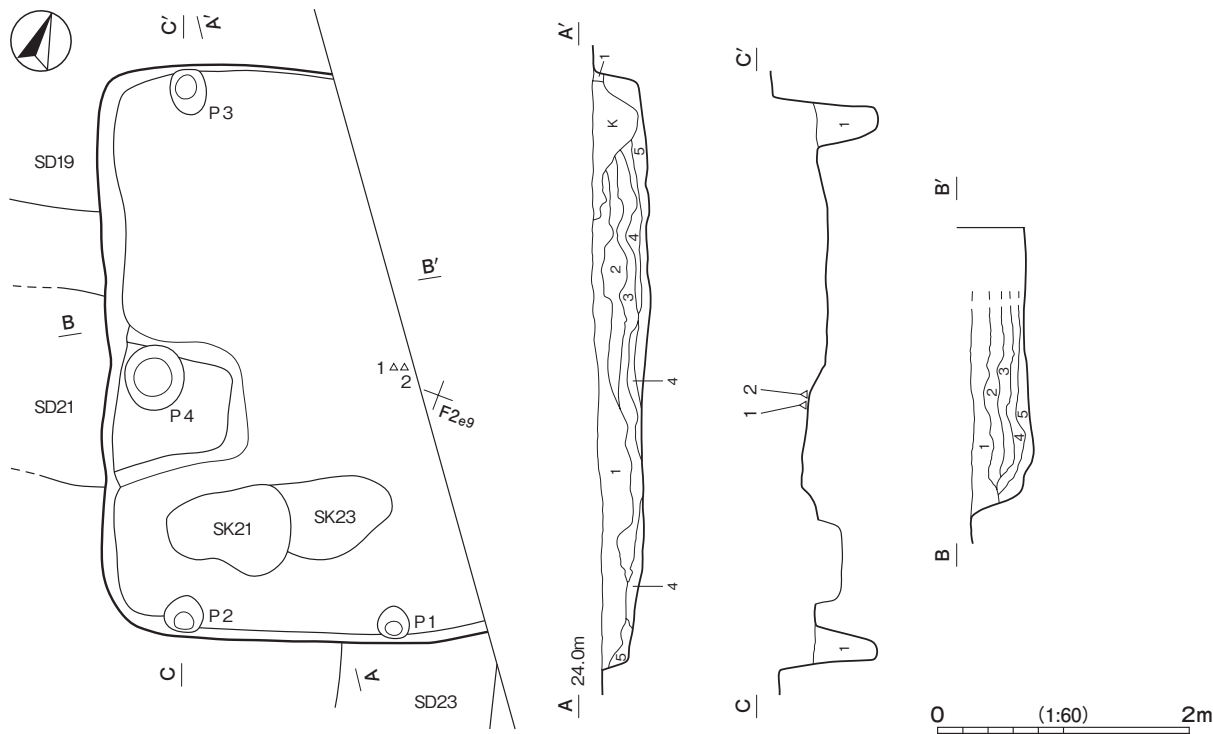
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	片口鉢	[28.0]	(7.4)	-	長石・石英・雲母 にぶい赤褐	口縁部つまみ出し 外面ナデ	自然釉	常滑	覆土上層	5% II類9形式
2	陶器	甕	-	(3.3)	-	長石・石英 褐	口縁端部ナデ	自然釉	常滑	覆土中	5%9形式



第6号方形竪穴遺構 (第58・59図 PL35)

位置 調査区北西部のF2e8区, 標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第21・23号土坑, 第19・21・23号溝跡を掘り込んでいる。



土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量, 白色粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 明褐色 ロームブロック多量

ピット土層解説 (P2・P3)

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第58図 第6号方形竪穴遺構実測図

規模と形状 北東部が調査区域外のため, 南北軸は4.53m, 東西軸は2.95mしか確認できなかった。主軸方向はN-19°-Wで方形又は長方形と推定される。壁は高さ24~48cmで, ほぼ直立している。P4の周辺は高くなっており, 出入口に伴う施設と考えられる。

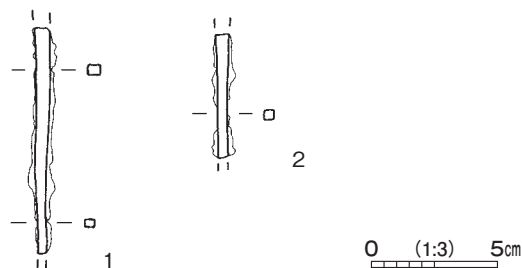
床 平坦で, 硬化面は認められない。

ピット 4か所。P1~P3は, 配置から柱穴と考えられる。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれていること, 不規則な堆積状況から, 埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片19点(坏6, 高台付坏1, 甕類12), 須恵器片3点(高台付坏1, 甕類2), 土師質土器片1点(皿), 陶器片1点(甕), 金属製品3点(釘), 瓦片1点(平瓦)が出土している。1・2は床面から出土している。

所見 時期は, 重複関係や覆土中から15~16世紀の陶器片や土師質土器片が出土しており, 室町時代と考えられる。性格は倉庫や作業小屋などの簡易な建物が考えられるが, 詳細は不明である。



第59図 第6号方形竪穴遺構出土遺物実測図

第6号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第59図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	釘	(9.1)	(0.65)	0.4	(10.0)	鉄	先端部・頭部欠損 脚部断面長方形	床面	PL35
2	釘	(5.0)	(0.6)	0.4	(4.38)	鉄	先端部・頭部欠損 脚部断面正方形	床面	

第7号方形竪穴遺構（第56図）

**位置** 調査区北西部のF2f1区，標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第4・8号方形竪穴遺構，第19号溝跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸3.42m，短軸1.52mの隅丸長方形で，長軸方向はN-3°-Wである。壁は高さ10～30cmで，外傾している。出入口に伴う施設は確認できなかった。

**床** 平坦で，硬化面は認められない。

**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子が含まれていることから，埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片26点（坏14，甕類12），須恵器片10点（坏6，甕類4），陶器片1点（甕），瓦片34点（丸瓦8，平瓦26）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

**所見** 時期は，出土土器から判断できないが，重複関係や調査区域で15～16世紀の遺物が採集できており，室町時代と考えられる。性格は不明である。

第8号方形竪穴遺構（第56図）

**位置** 調査区北西部のF2f1区，標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第9号方形竪穴遺構，第19号溝跡を掘り込み，第1・7号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

**規模と形状** 南西部の一部が調査区域外であり，第7号方形竪穴遺構に掘り込まれているため，南北軸は3.48mで，東西軸は0.82mしか確認できなかった。主軸方向がN-15°-Wで長方形と推定される。壁は高さ20cmで，ほぼ直立している。出入口に伴う施設は確認できなかった。

**床** 平坦で，硬化面は認められない。

**覆土** 3層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子が含まれていることから，埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片2点（坏），須恵器片2点（甕類），瓦片10点（丸瓦）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

**所見** 時期は，出土土器から判断できないが，重複関係や調査区域で15～16世紀の遺物が採集できており，室町時代と考えられる。性格は不明である。

第9号方形竪穴遺構（第56図）

**位置** 調査区北西部のF2f1区，標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第19号溝跡を掘り込み，第1・8号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

**規模と形状** 南西部が調査区域外であり，第8号方形竪穴遺構に掘り込まれているため，南北軸は2.60m，東西軸は0.70mしか確認できなかった。主軸方向がN-18°-Wで隅丸長方形と推定される。壁は高さ20cmで，ほぼ直立している。出入口に伴う施設は確認できなかった。

床 平坦で、硬化面は認められない。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

所見 時期は、重複関係や調査区域で15～16世紀の遺物が採集できており、室町時代と考えられる。性格は不明である。

#### 第10号方形竪穴遺構（第60図 PL9）

位置 調査区北西部のF2e7区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

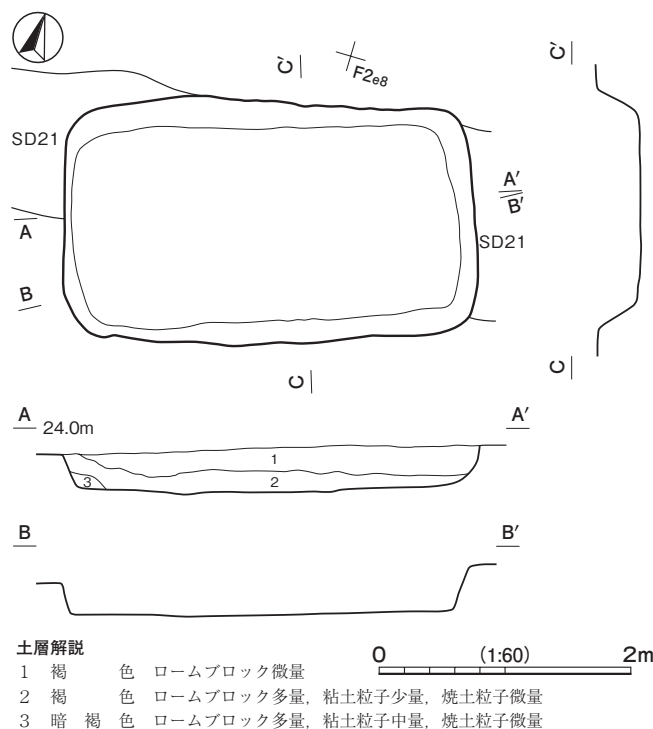
重複関係 第21号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.25m、短軸1.93mの隅丸長方形で、長軸方向はN-74°-Eである。壁は高さ27～36cmで、ほぼ直立している。出入口に伴う施設は確認できなかった。

床 平坦で、硬化面は認められない。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックや粘土粒子・焼土粒子を含んでいることから、埋め戻されている。

所見 時期は、重複関係や調査区域で15～16世紀の遺物が採集できており、室町時代と考えられる。性格は不明である。



第60図 第10号方形竪穴遺構実測図

#### 第11号方形竪穴遺構（第61図 PL10）

位置 調査区北西部のF2h5区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第34号溝跡、第3号ピット群を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.52m、短軸2.39mの方形で、長軸方向はN-82°-Eである。壁は高さ18～22cmで、ほぼ直立している。北西部のP7辺りはくぼ地になっており、出入口に伴う施設と考えられる。

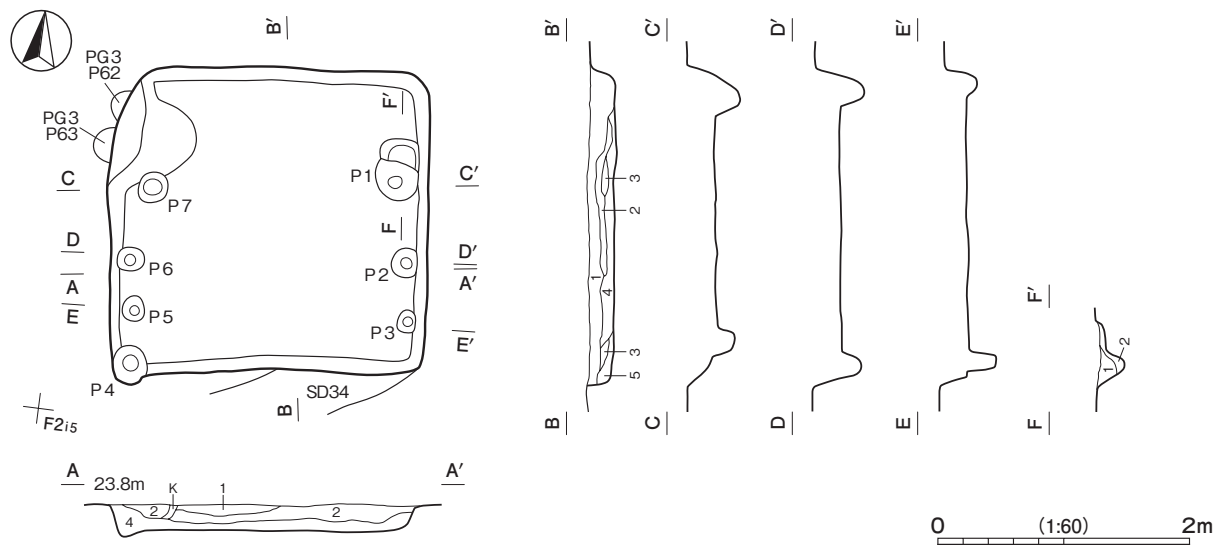
床 平坦で、硬化面は認められない。

ピット 7か所。P1～P3・P5～P7は、配置などから柱穴の可能性もある。P4は性格不明である。第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片22点(坏8, 甕類14), 須恵器片13点(蓋5, 甕類8), 土師質土器片4点(皿), 陶器片1点(碗)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から判断できないが、重複関係や調査区域で15～16世紀の遺物が採集できており、室町時代と考えられる。性格は倉庫や作業小屋などの簡易な建物が考えられるが、詳細は不明である。



**土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・白色粘土粒子多量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 明褐色 ロームブロック多量
- 4 褐色 ロームブロック多量
- 5 黒褐色 ロームブロック微量

**ピット土層解説 (P1)**

- 1 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック・白色粘土粒子微量

第61図 第11号方形竪穴遺構実測図

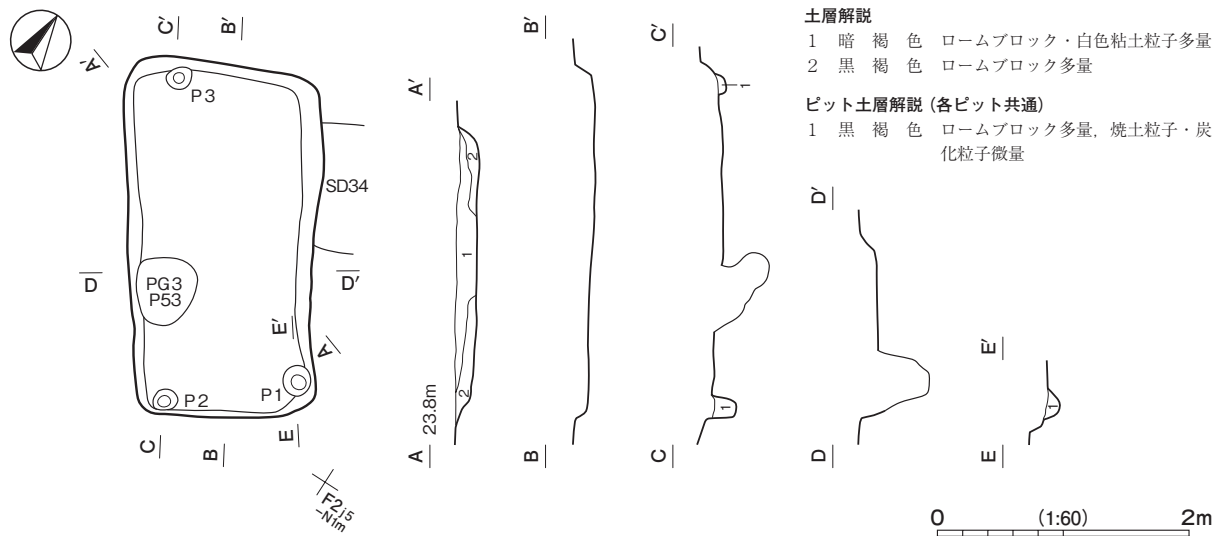
**第12号方形竪穴遺構 (第62図 PL10)**

**位置** 調査区北西部のF 2i4区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第34号溝跡, 第3号ピット群を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸2.80m, 短軸1.55mの長方形で, 長軸方向はN-32°-Wである。壁は高さ10~15cmで, 外傾している。出入口に伴う施設は確認できなかった。

**床** 平坦で, 硬化面は認められない。



**土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・白色粘土粒子多量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量

**ピット土層解説 (各ピット共通)**

- 1 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第62図 第12号方形竪穴遺構実測図

ピット 3か所。P1～P3は深さ8～20 cmで、配置から柱穴と考えられるが、性格は不明である。第1層は柱材を抜き取った後の覆土である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

所見 時期は、出土土器から判断できないが、調査区域で15～16世紀の遺物が採集できており、室町時代と考えられる。性格は倉庫や作業小屋などの簡易な建物が考えられるが、詳細は不明である。

### 第13号方形竪穴遺構 (第63図)

位置 調査区北西部のG2a0区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

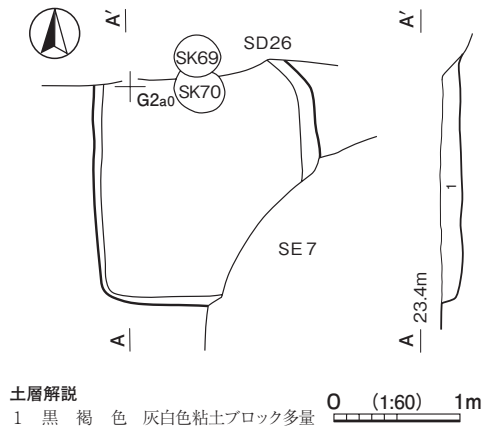
重複関係 第7号井戸、第69・70号土坑、第26号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北部や南東部を第7号井戸、第26号溝、第69・70号土坑に掘り込まれているため、東西軸は1.72m、南北軸は1.80mしか確認できなかった。主軸方向はN-2°-Wで方形と推定される。壁は高さ12cmで、ほぼ直立している。出入口に伴う施設は確認できなかった。

床 平坦で、硬化面は認められない。

覆土 単一層である。灰白色粘土ブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

所見 時期は、重複関係などから、15～16世紀代と考えられる。性格は不明である。

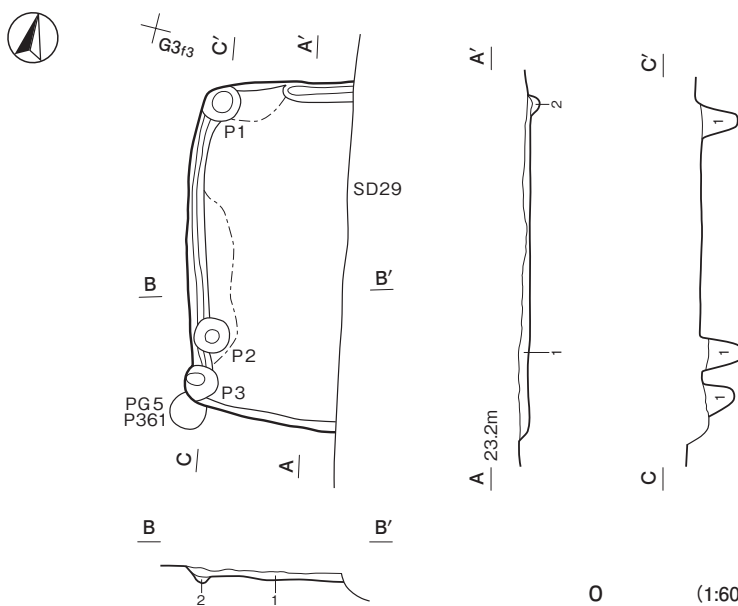


土層解説  
1 黒褐色 灰白色粘土ブロック多量

第63図 第13号方形竪穴遺構実測図

### 第15号方形竪穴遺構 (第64図 PL10)

位置 調査区北西部のG3f3区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。



土層解説  
1 暗褐色 白色粘土粒子多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  
2 黒褐色 白色粘土粒子多量、ロームブロック微量

ピット土層解説 (各ピット共通)  
1 黒褐色 白色粘土粒子多量、ロームブロック微量

第64図 第15号方形竪穴遺構実測図

**重複関係** 第5号ピット群を掘り込み，第29号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 東部が第29号溝に掘り込まれているため，南北軸は2.76 m，東西軸は1.28 mしか確認できなかった。主軸方向がN - 10° - Wで方形又は長方形と推定される。壁は高さ3～7 cmで，外傾している。

**床** 平坦で，中央部全体が踏み固められている。壁溝が北部と西部を巡っている。

**ピット** 3か所。P1～P3は深さ24～30 cmで，配置から柱穴と考えられる。第1層は柱材を抜き取った後の覆土である。

**覆土** 2層に分層できる。第2層は壁溝である。ロームブロックや粘土粒子が含まれていることから，埋め戻されている。

**所見** 時期は，重複関係などから15～16世紀代と考えられる。性格は倉庫や作業小屋などの簡易な建物が考えられるが，詳細は不明である。

### 第16号方形竪穴遺構（第65・66図）

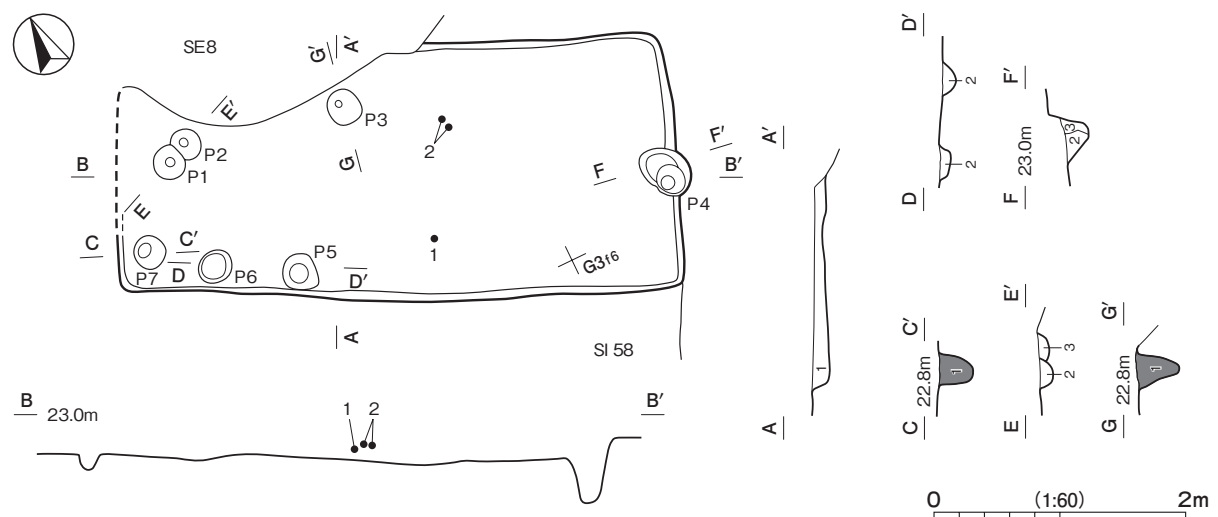
**位置** 調査区中央部のG 3e5区，標高23 mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第58号竪穴建物跡を掘り込み，第8号井戸に掘り込まれている。第1号整地遺構に一部埋め戻されている。

**規模と形状** 北東部が第8号井戸に掘り込まれているが，東西軸4.48 m，南北軸2.04 mである。主軸方向がN - 67° - Wの長方形である。壁は高さ16 cmほどで，ほぼ直立している。P4の周辺は確認面から緩やかに傾斜しているため，出入口に伴う施設と考えられる。

**床** 平坦で，硬化面は認められない。

**ピット** 7か所。P3～P7は深さ10～29 cmで，配置から柱穴と考えられる。P1は出入口施設の柱穴，P2は補助柱穴と考えられる。第1層は柱痕跡，第2・3層は柱材を抜き取った後の覆土である。



#### 土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

#### ピット土層解説（各ピット共通）

- 1 黒褐色 ロームブロック多量，白色粘土粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

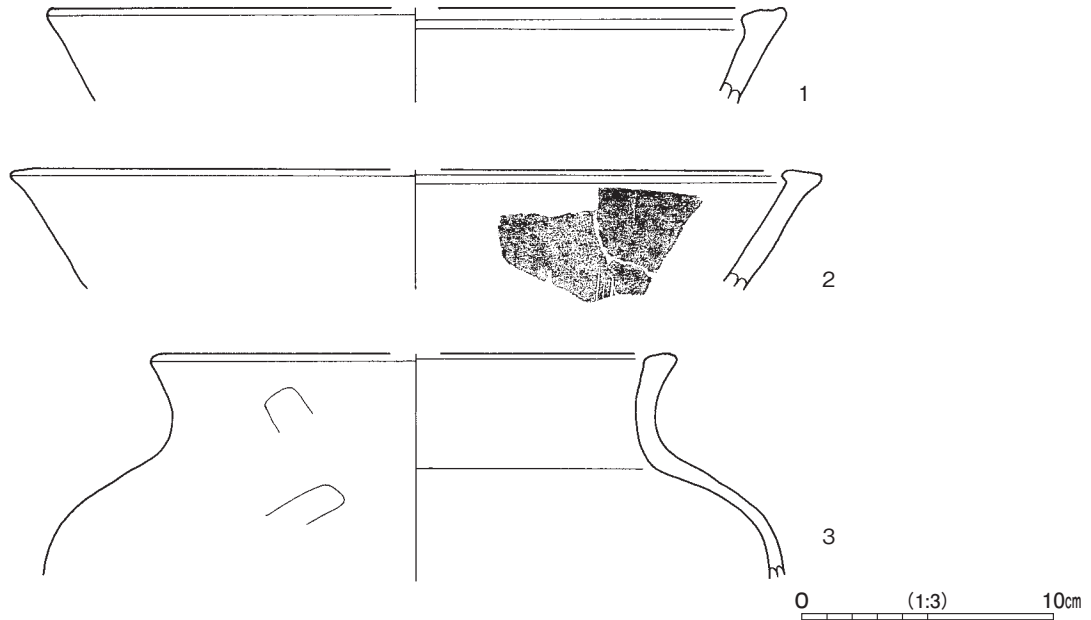
第65図 第16号方形竪穴遺構実測図



**覆土** 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片 1 点 (甕類), 須恵器片 2 点 (坏, 甕類), 土師質土器片 18 点 (内耳鍋 14, 播鉢 3, 甕類 1) が出土している。1・2は覆土下層から, 3は覆土中から出土している。

**所見** 時期は, 重複関係や出土土器から室町時代と考えられる。性格は倉庫や作業小屋などの簡易な建物が考えられるが, 詳細は不明である。



第 66 図 第 16 号方形竪穴遺構出土遺物実測図

第 16 号方形竪穴遺構出土遺物観察表 (第 66 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	内耳鍋	[29.0]	(3.7)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	5%
2	土師質土器	播鉢	[30.0]	(4.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	3条1単位の播り目	覆土下層	5%
3	土師質土器	甕	[20.2]	(9.0)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部外・内面ヘラナデ後ナデ	覆土中	10%

第 17 号方形竪穴遺構 (第 67 図 PL11)

**位置** 調査区南東部の H 4h4 区, 標高 22 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 長軸 2.64 m, 短軸 2.40 m の長方形で, 長軸方向は N - 22° - W である。壁は高さ 36 ~ 50cm で, ほぼ直立している。西部の壁側は緩やかに傾斜しており, 出入口に伴う施設と考えられる。

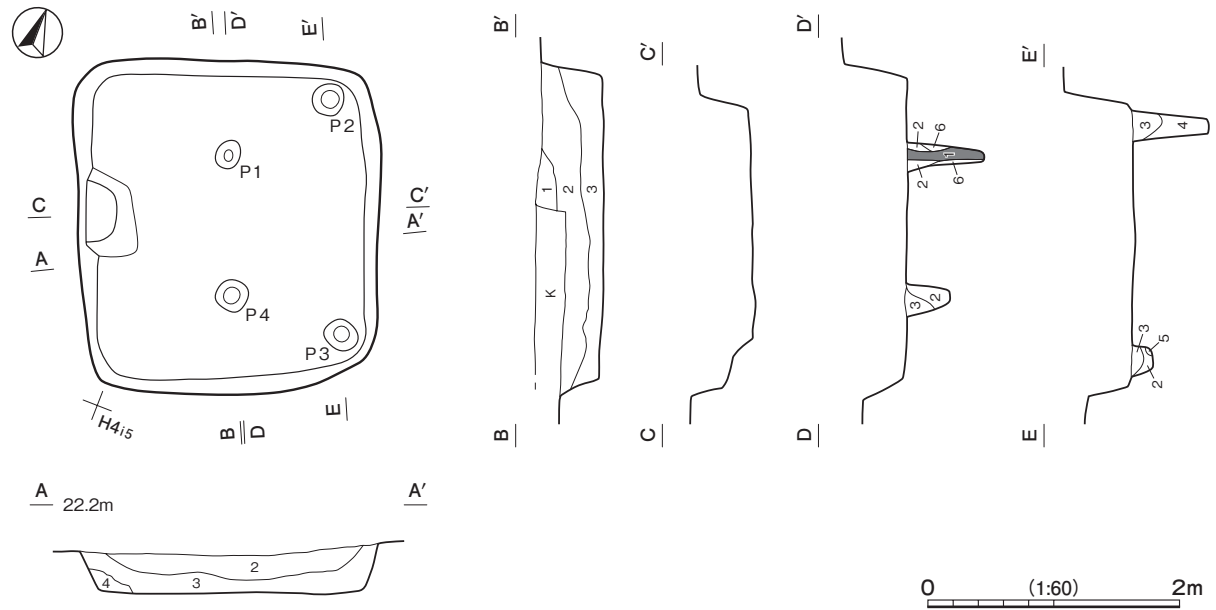
**床** 平坦で, 硬化面は認められない。

**ピット** 4 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 15 ~ 62cm で, 配置から柱穴と考えられる。第 1 層は柱痕跡, 第 2 ~ 6 層は柱材を抜き取った後の覆土である。

**覆土** 4 層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子を含んでいることから, 埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片 46 点 (坏 4, 甕類 42), 須恵器片 21 点 (坏 2, 蓋 2, 甕類 17), 土師質土器片 17 点 (皿 14, 内耳鍋 3), 陶器片 2 点 (瓶類) が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から判断できないが、調査区域で15～16世紀の遺物が採集できており、室町時代と考えられる。性格は倉庫や作業小屋などの簡易な建物が考えられるが、詳細は不明である。



土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 白色粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 白色粘土粒子多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 白色粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・白色粘土粒子中量
- 3 褐色 白色粘土粒子微量
- 4 黄褐色 黄褐色粘土粒子中量
- 5 褐色 黄褐色粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 黄褐色粘土粒子微量

第67図 第17号方形堅穴遺構実測図

表9 方形堅穴遺構一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸(m)				主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
1	F2f1	N-7°-W	[長方形]	(4.70) × 1.86	30 ~ 40	平坦	-	-	-	1	-	-	自然	土師質土器、陶器、瓦	室町時代	HT 8・9, SD19 → 本跡
4	F2f2	N-26°-W	隅丸長方形	4.34 × 1.90	18 ~ 32	平坦	-	-	-	2	-	-	人為	瓦、鉄滓	室町時代	本跡 → HT 7, SE 1
5	F2c3	N-65°-E	隅丸長方形	3.55 × 1.83	29 ~ 41	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	陶器、瓦、鉄滓	15世紀代	SD22 → 本跡
6	F2e8	N-19°-W	[方形・長方形]	4.53 × (2.95)	24 ~ 48	平坦	-	-	-	4	-	-	人為	土師質土器、陶器、瓦、金属製品	室町時代	SK21・23, SD19・21・23 → 本跡
7	F2f1	N-3°-W	隅丸長方形	3.42 × 1.52	10 ~ 30	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	陶器、瓦	室町時代	HT 4・8, SD19 → 本跡
8	F2f1	N-15°-W	長方形	3.48 × (0.82)	20	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	瓦	室町時代	HT 9, SD19 → 本跡 → HT 1・7
9	F2f1	N-18°-W	[隅丸長方形]	2.60 × (0.70)	20	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	-	室町時代	SD19 → 本跡 → HT 1・8
10	F2e7	N-74°-E	隅丸長方形	3.25 × 1.93	27 ~ 36	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	-	室町時代	SD21 → 本跡
11	F2h5	N-82°-E	方形	2.52 × 2.39	18 ~ 22	平坦	-	-	-	7	-	-	人為	土師質土器、陶器	室町時代	SD34, PG 3 → 本跡
12	F2i4	N-32°-W	長方形	2.80 × 1.55	10 ~ 15	平坦	-	-	-	3	-	-	人為	-	室町時代	SD34, PG 3 → 本跡
13	G2a0	N-2°-W	[方形]	(1.80) × 1.72	12	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	-	15~16世紀代	本跡 → SE 7, SK69・70, SD26
15	G3f3	N-10°-W	[方形・長方形]	2.76 × (1.28)	3 ~ 7	平坦	一部	-	-	3	-	-	人為	-	15~16世紀代	PG 5 → 本跡 → SD29
16	G3e5	N-67°-W	長方形	4.48 × 2.04	16	平坦	-	-	1	6	-	-	人為	土師質土器	室町時代	SI58 → 本跡 → SE8, 第1号整地遺構
17	H4h4	N-22°-W	長方形	2.64 × 2.40	36 ~ 50	平坦	-	-	-	4	-	-	人為	土師質土器、陶器	室町時代	

(3) 地下式坑

第1号地下式坑 (第68図 PL11)

**位置** 調査区北西部のF2a6区, 標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 北東部が調査区域外に延びていることから, 軸長は3.10mしか確認できなかった。主軸方向はN-26°-Eである。

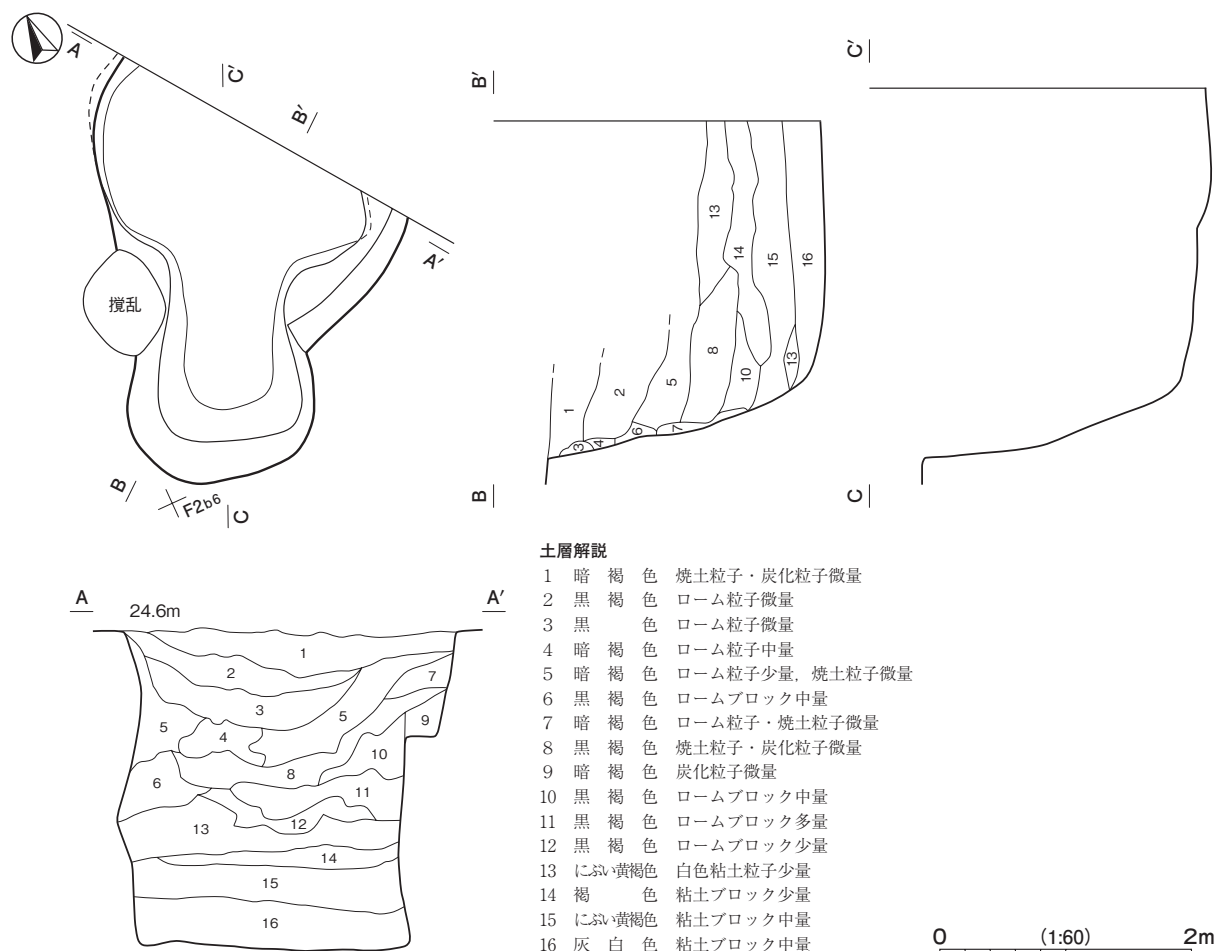
**竪坑** 主室の南壁中央部に位置し, 長径1.70m, 短径1.50mの楕円形で, 深さは217cmである。底面は平坦で, 主室に向かって緩やかに傾斜しており, 壁はほぼ直立している。

**主室** 北東部が調査区域外へ延びているため, 横幅は2.31mで, 奥行きは1.40mしか確認できなかった。隅丸方形もしくは隅丸長方形で, 深さは226cmである。底面は竪坑部に向かって10cmほど傾斜しているが, ほぼ平坦で, 硬化面は認められない。天井部は崩落しており, 壁は直立している。

**覆土** 16層に分層できる。第6~12層は流れ込んだような堆積をしていることから竪坑からの流入土で, 第13~16層は粘土ブロックを含んだ天井部の崩落土である。第1~5層は不規則な堆積状況から, 天井部の崩落後に埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片19点(高台付坏2, 甕類17), 土師質土器片6点(皿), 陶器片4点(碗1, 甕3), 瓦質土器片1点(鍋)が覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。

**所見** 時期は, 調査区域で15~16世紀の遺物が採集できており, 室町時代と考えられる。性格は諸説があるが, 判断できる根拠が無いことから不明である。



第68図 第1号地下式坑実測図

**第2号地下式坑（第69図）**

**位置** 調査区北西部のF 2d7区，標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第2号土坑，第19号溝跡を掘り込み，第12号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 北部の一部を第12号溝に掘り込まれているが，確認面の軸長は2.10mである。主軸方向はN-80°-Wである。

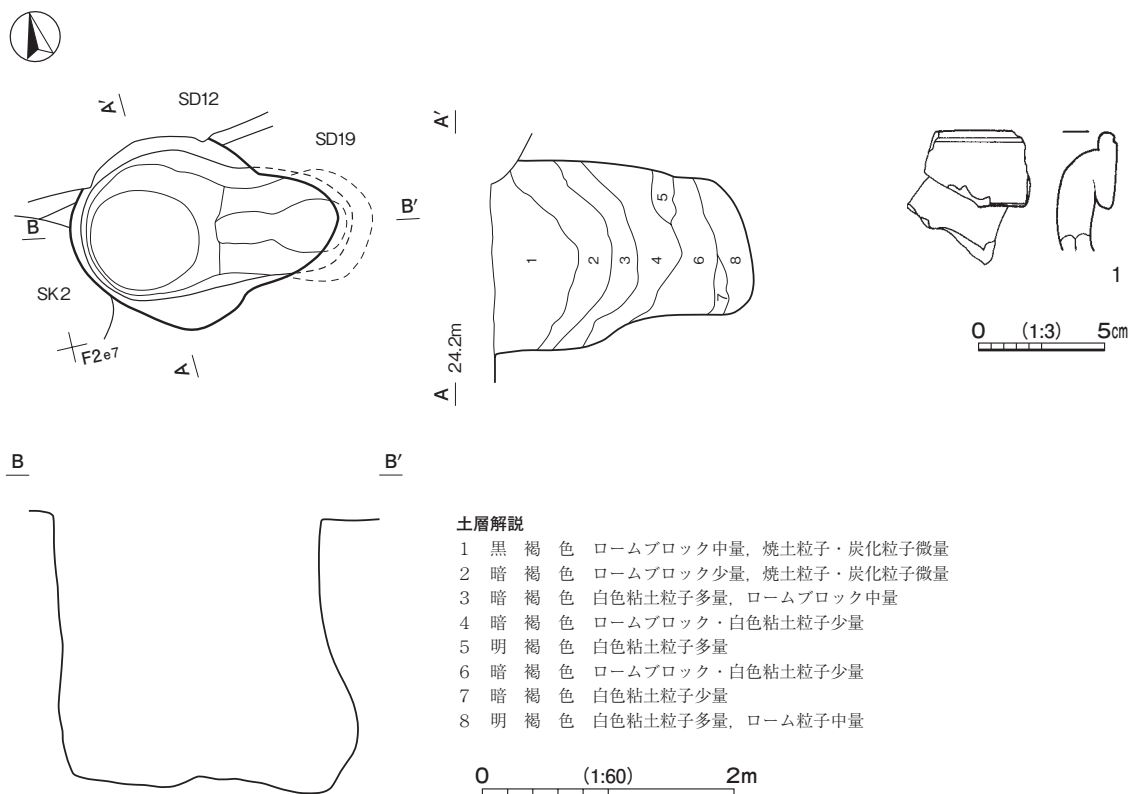
**竪坑** 主室の東壁中央部に位置し，長径1.23m，短径0.87mの楕円形で，深さは218cmである。底面はほぼ平坦で，主室部よりも若干深く下がっている。壁は内彎している。

**主室** 奥行1.15m，横幅1.54mの円形で，深さは215cmである。底面は竪坑部に向かって10cmほど傾斜しているが，ほぼ平坦で，硬化面は認められない。

**覆土** 8層に分層できる。第5～8層はロームブロックや白色粘土粒子が含まれている天井部の崩落土である。第1～4層はロームブロックが多く含まれている堆積状況から，天井部の崩落後に埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片22点（坏5，甕類17），須恵器片9点（坏3，甕類6），陶器片4点（碗，蓋，鉢，甕），瓦片2点（丸瓦，平瓦）が出土している。1は覆土中から出土している。

**所見** 時期は，重複関係や出土陶器から15世紀中葉以降と考えられる。性格は諸説があるが，判断できる根拠が無いことから不明である。



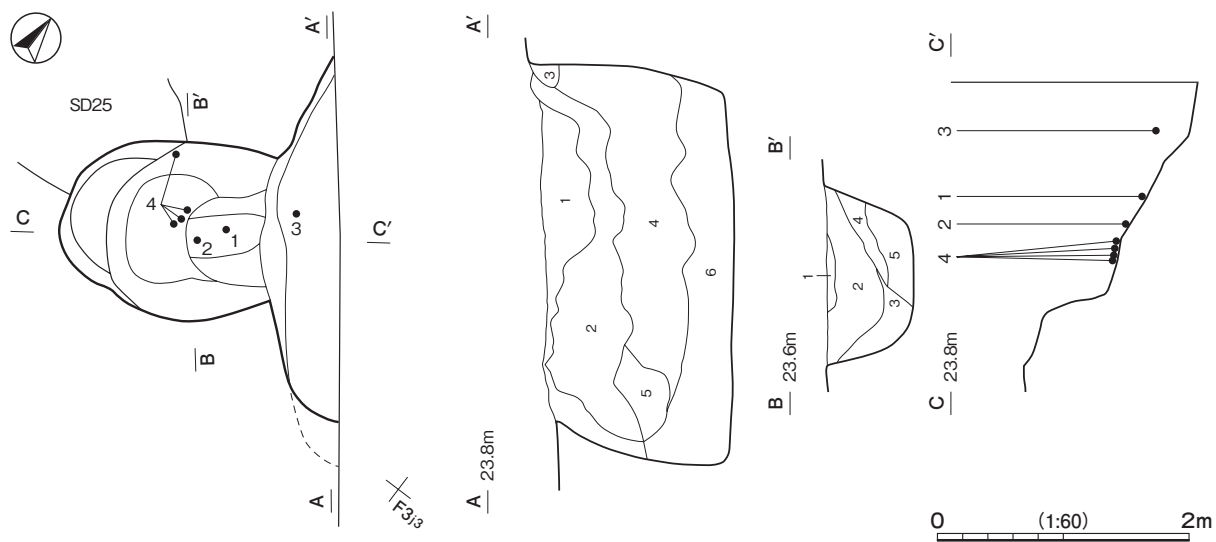
**第69図** 第2号地下式坑・出土遺物実測図

**第2号地下式坑出土遺物観察表（第69図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	甕	-	(48)	-	長石・石英褐	外・内面ナデ 折り返し部若干の隙間	自然釉	常滑	覆土中	5%9形式

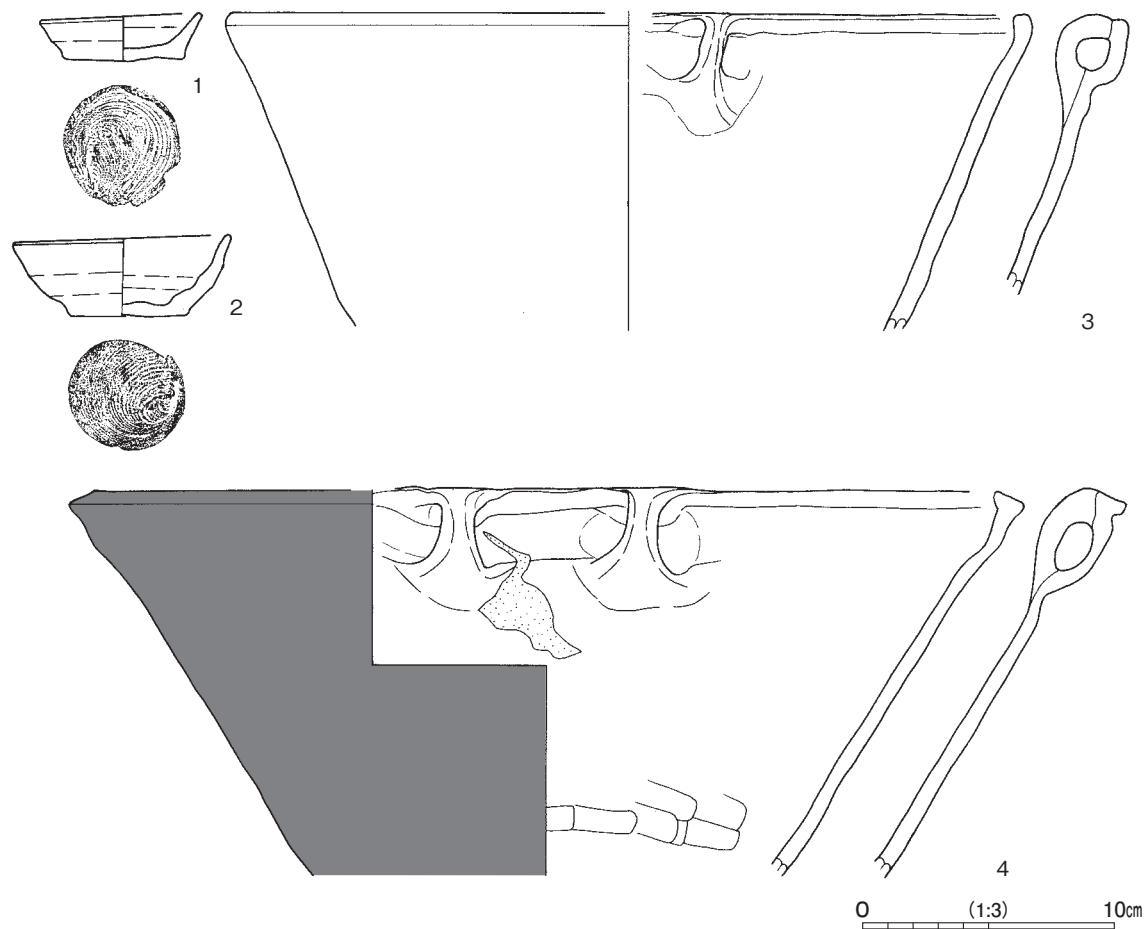
第3号地下式坑 (第70図 PL25)

位置 調査区中央部のF3i2区, 標高24mほどの平坦な台地上に位置している。



土層解説

- |       |                        |       |           |
|-------|------------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 明褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 明褐色 | ロームブロック多量              | 5 褐色  | ロームブロック中量 |
| 3 褐色  | ロームブロック多量              | 6 灰白色 | 白色粘土粒子多量  |



第70図 第3号地下式坑・出土遺物実測図

**重複関係** 第25号溝跡との新旧関係は不明である。

**規模と形状** 北東部が調査区域外に延びていることから、軸長は2.24 mしか確認できなかった。主軸方向はN - 55° - Eである。

**竪坑** 主室の西壁中央部に位置し、長径1.60 m、短径1.42 mの楕円形で、深さは67cmである。底面は緩やかに下り、段を有して主室に至っている。壁は外傾している。

**主室** 確認できたのは、奥行きが0.65 m、横幅が3.22 mで、楕円形と推定される。深さは152cmである。底面は竪坑部に向かって60cmほど傾斜しているが、ほぼ平坦で、硬化面は認められない。

**覆土** 6層に分層できる。第4～6層はロームブロックや白色粘土粒子を含んだ天井部の崩落土である。第1～3層はロームブロックが多く含まれている堆積状況から、天井部の崩落後に埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片4点(甕類)、須恵器片3点(坏、蓋、甕類)、土師質土器片31点(皿4、内耳鍋27)が出土している。1・2・4は底面から、3は覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、底面から出土した小皿や内耳鍋から15世紀後半～16世紀前葉と考えられる。性格は諸説があるが、判断できる根拠が無いことから不明である。

第3号地下式坑出土遺物観察表(第70図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	6.8	2.0	5.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	100% PL25
2	土師質土器	皿	9.2	3.5	5.0	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	100% PL25
3	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	(13.6)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	1内耳残存 耳貼り付け 外面ヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	10%
4	土師質土器	内耳鍋	[38.6]	(16.7)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	2内耳残存 耳貼り付け 内面ヘラナデ後ナデ	底面	20% 外面煤付着

#### 第4号地下式坑(第71・72図 PL11・38)

**位置** 調査区北西部のF2c2区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 軸長は4.65 m、主軸方向はN - 90°である。

**竪坑** 主室の東壁中央部に位置し、長径2.28 m、短径1.76 mの楕円形で、深さは185cmである。底面は平坦で、主室に向かって傾斜しており、壁は内彎している。

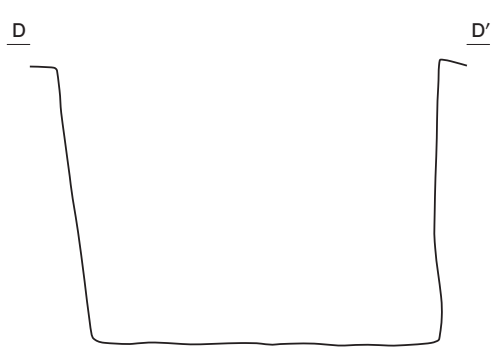
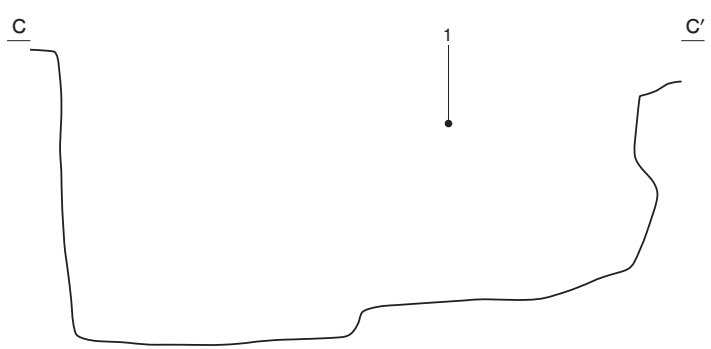
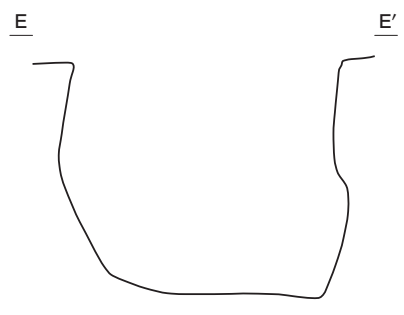
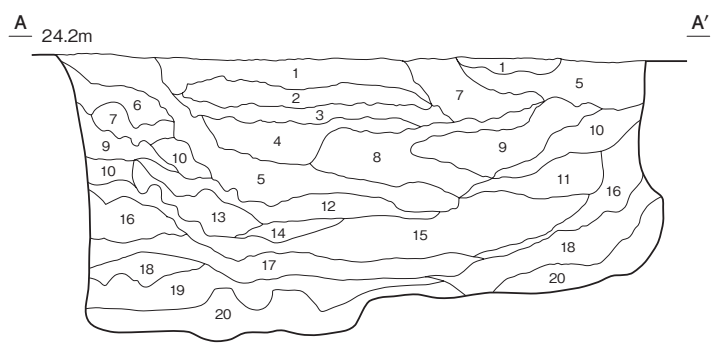
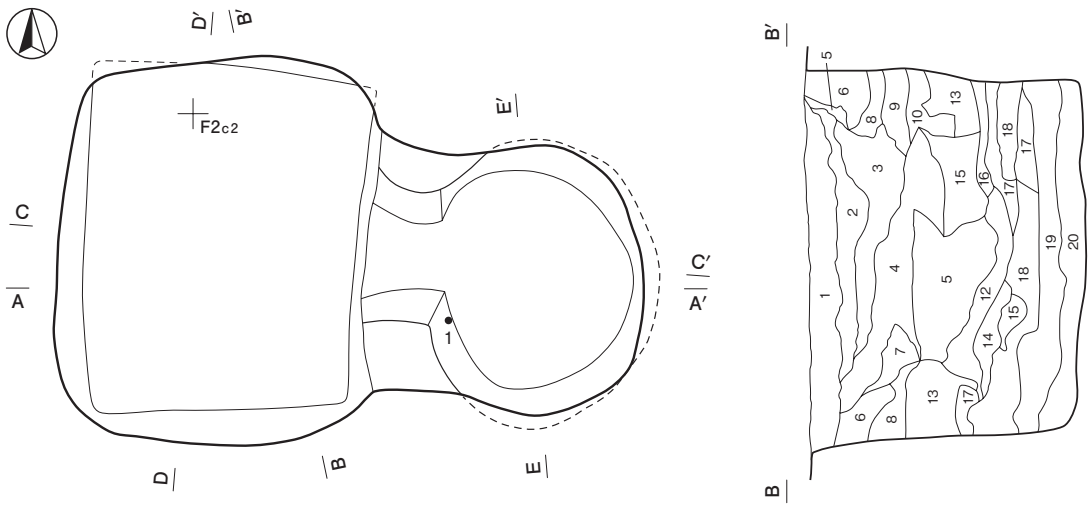
**主室** 奥行き2.44 m、横幅3.05 mの隅丸長方形で、深さは225cmである。底面は竪坑部と25cmほど段を有している。底面はほぼ平坦で、硬化面は認められない。天井部は崩落しており、壁は直立している。

**覆土** 20層に分層できる。第11～16層は流れ込んだような堆積をしていることから竪坑からの流入土で、第17～20層は粘土ブロックを含んだ天井部の崩落土である。第1～10層は不規則な堆積状況から、天井部の崩落後に埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片59点(坏11、高台付坏2、甕類46)、須恵器片54点(坏25、高台付坏2、蓋4、盤1、甕類22)、土師質土器片17点(皿15、内耳鍋1、羽釜1)、陶器片4点(鉢)、石器2点(砥石)、瓦片35点(丸瓦12、平瓦22、鬘斗瓦1)が出土している。1は覆土上層から、2は覆土中から出土している。3は流れ込みと考えられる。

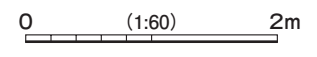
**所見** 時期は、出土した陶器や調査区域で15～16世紀の遺物が採集できており、室町時代と考えられる。性格は諸説があるが、判断できる根拠が無いことから不明である。



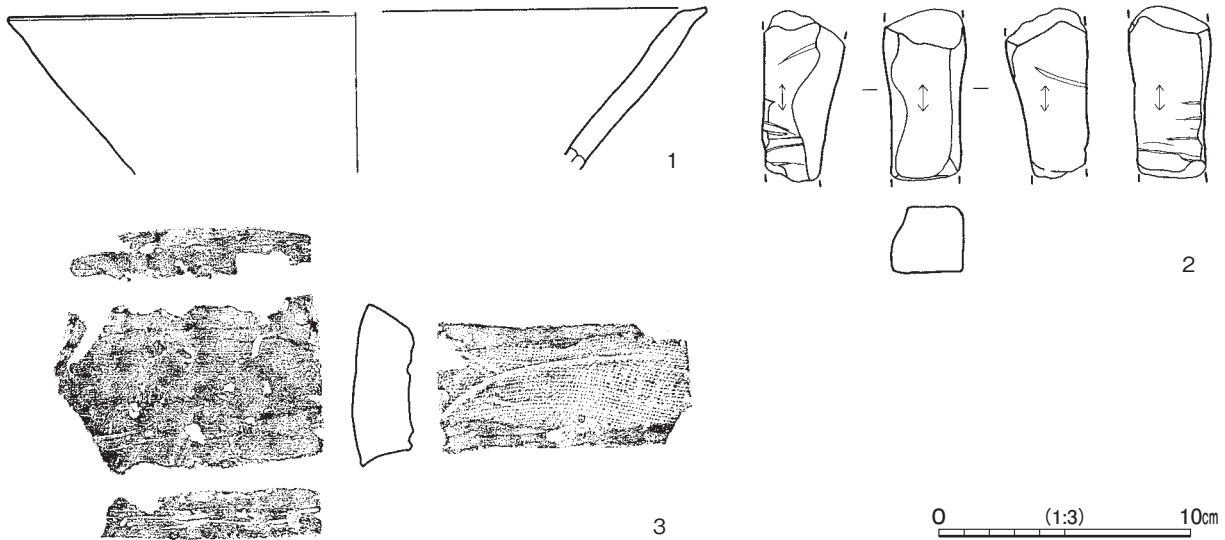


**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 明褐色 ロームブロック多量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量
- 8 明褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 褐色 ロームブロック多量
- 10 暗褐色 白色粘土粒子少量
- 11 暗褐色 ロームブロック中量
- 12 黒褐色 ロームブロック多量
- 13 明褐色 ロームブロック多量
- 14 明褐色 ロームブロック中量, 白色粘土ブロック少量
- 15 明褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック少量
- 16 明褐色 ロームブロック多量, 白色粘土ブロック微量
- 17 暗褐色 ロームブロック多量
- 18 明褐色 ロームブロック多量, 白色粘土ブロック少量
- 19 暗褐色 ロームブロック多量, 白色粘土ブロック微量
- 20 褐色 ロームブロック・白色粘土ブロック多量



第71図 第4号地下式坑実測図



第72図 第4号地下式坑出土遺物実測図

第4号地下式坑跡出土遺物観察表（第72図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	鉢	[27.8]	(6.4)	-	長石・石英にぶい赤褐	口縁部外側へのつまみ出し 外面ナデ	-	-	覆土上層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2	砥石	(6.8)	(3.3)	(2.6)	(90.0)	凝灰岩	砥面4面	覆土中	

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
3	瓦	鬘斗瓦	6.5	2.2	(10.7)	長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	凸面縦位の削り 凹面布目痕	覆土中	PL38

### 第6号地下式坑（第73図 PL12）

**位置** 調査区中央部のG3b2区，標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第5号ピット群との新旧関係は不明である。

**規模と形状** 軸長は2.75m，主軸方向はN-82°-Eである。

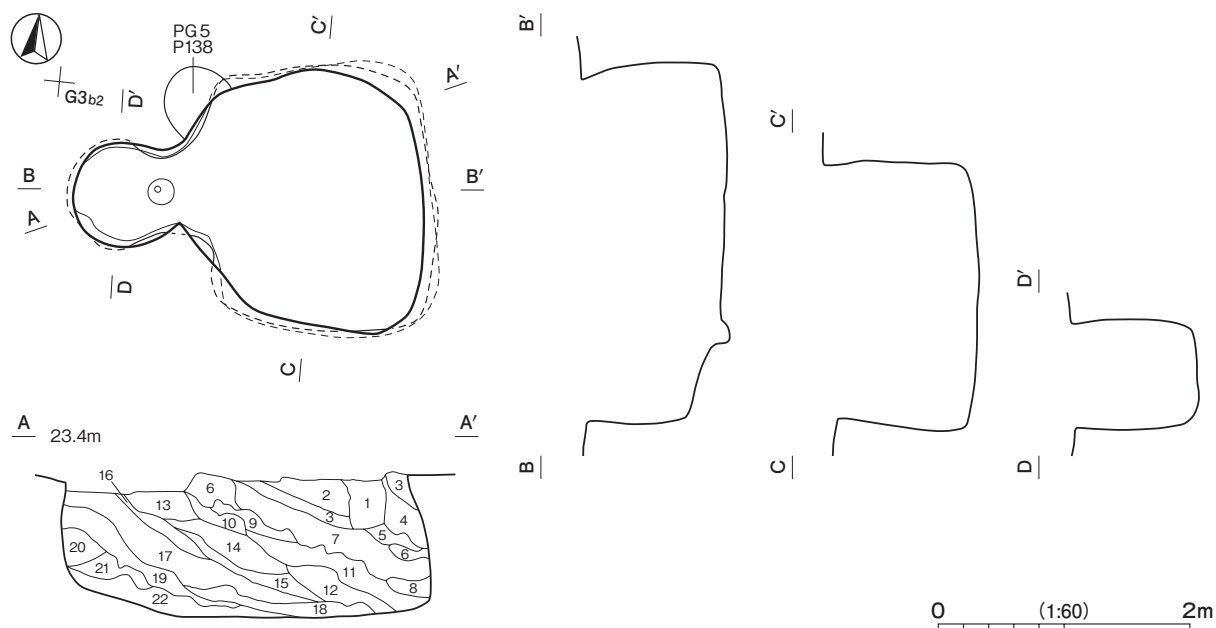
**竪坑** 主室の西壁中央部に位置し，長径0.88m，短径0.86mの円形で，深さは100cmである。底面は平坦で，竪坑部寄りの位置に，長径20cm，深さ10cmほどのピット状のくぼみを1か所確認した。主室に向かって緩やかに傾斜しており，壁は直立している。

**主室** 奥行き2.05m，横幅2.13mの方形で，深さは115cmである。底面は竪坑部に向かって30cmほど傾斜しているが，ほぼ平坦で，硬化面は認められない。天井部は崩落しており，壁は直立している。

**覆土** 22層に分層できる。第7～19層は流れ込んだような堆積をしていることから竪坑からの流入土で，第20～22層はロームブロックを含んだ天井部の崩落土である。第1～6層は不規則な堆積状況から，天井部の崩落後に埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片9点(坏2，甕類7)，須恵器片6点(坏5，甕類1)，瓦質土器片1点(鍋)，礫2点が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係や調査区域で15～16世紀の遺物が採集できており、室町時代と考えられる。性格は諸説があるが、判断できる根拠が無いことから不明である。



土層解説

- |                            |                               |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 黄褐色粘土ブロック中量          | 12 黒褐色 黄褐色粘土ブロック中量            |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量              | 13 暗褐色 灰黄色粘土ブロック少量            |
| 3 黒褐色 灰黄色粘土ブロック少量          | 14 黒色 白色粘土ブロック少量              |
| 4 黒褐色 ロームブロック中量            | 15 黒色 白色粘土ブロック微量              |
| 5 暗褐色 ロームブロック多量            | 16 黒褐色 白色粘土ブロック微量             |
| 6 黒褐色 灰黄色粘土ブロック少量          | 17 黒褐色 白色粘土ブロック多量             |
| 7 黒褐色 ロームブロック多量            | 18 黒褐色 ロームブロック多量, 白色粘土ブロック少量  |
| 8 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量    | 19 暗褐色 におい黄褐色粘土ブロック多量         |
| 9 黒褐色 ロームブロック多量            | 20 黒褐色 ロームブロック・におい黄褐色粘土ブロック少量 |
| 10 暗褐色 ロームブロック多量, 白色粘土粒子少量 | 21 黒褐色 ロームブロック・におい黄褐色粘土ブロック多量 |
| 11 黒褐色 黄褐色粘土ブロック多量         | 22 黒褐色 ロームブロック・におい黄褐色粘土ブロック中量 |

第73図 第6号地下式坑実測図

第7号地下式坑 (第74図)

位置 調査区中央部のG3c2区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第130号土坑, 第23号溝跡を掘り込んでいる。

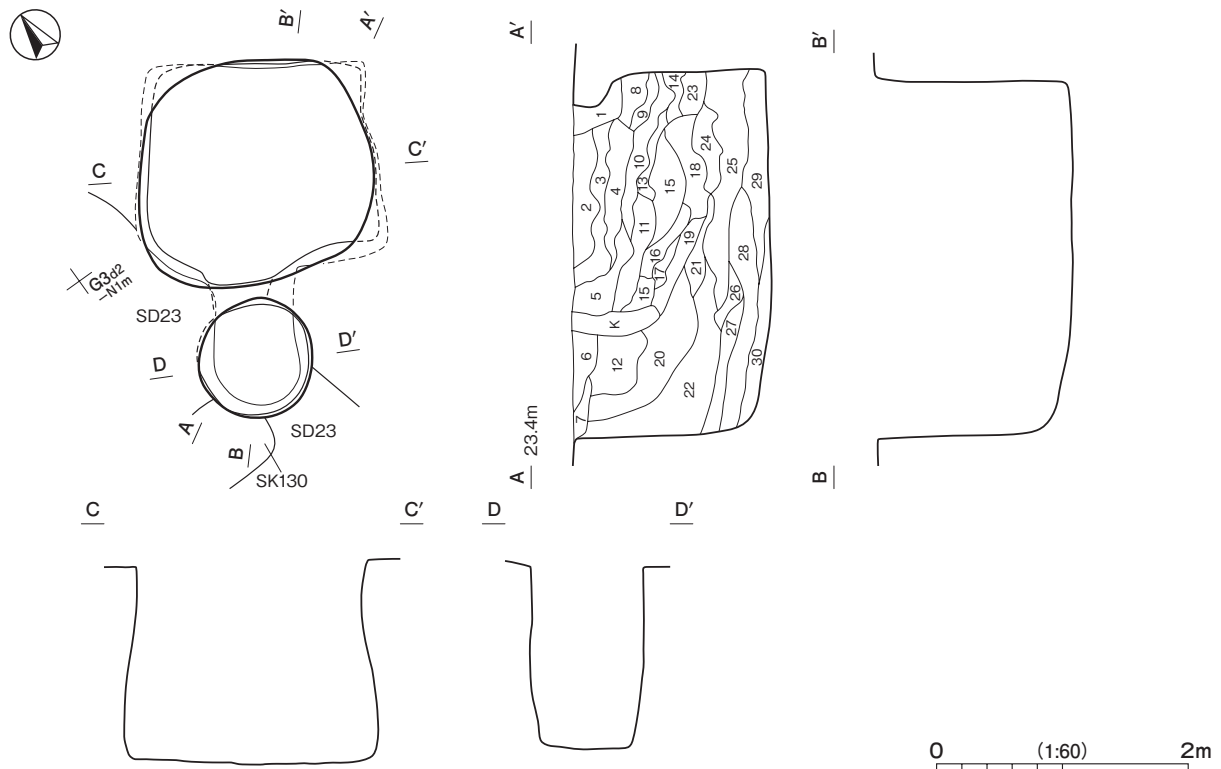
規模と形状 軸長は2.83m, 主軸方向はN-34°-Eである。

竪坑 主室の南壁中央部に位置し, 長径0.95m, 短径0.88mの円形で, 深さは143cmである。底面は竪坑部に向かって25cmほど傾斜しているが, ほぼ平坦で, 硬化面は認められない。

主室 奥行き1.78m, 横幅1.90mの方形で, 深さは160cmである。底面はほぼ平坦で, 硬化面は認められない。天井部は崩落しており, 壁は直立している。

覆土 30層に分層できる。第19～30層は流れ込んだような堆積をしていることから竪坑からの流入土で, 第11～18層はロームブロックを含んだ天井部の崩落土である。第1～10層は不規則な堆積状況から, 天井部の崩落後に埋め戻されている。

所見 時期は、調査区域で15～16世紀の遺物が採集できており、室町時代と考えられる。性格は諸説があるが、判断できる根拠が無いことから不明である。



土層解説

- |                                |                                |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 色 にぶい黄褐色粘土ブロック少量, 焼土粒子微量 | 16 黒褐色 色 ロームブロック中量             |
| 2 黒褐色 色 にぶい黄褐色粘土ブロック微量         | 17 暗褐色 色 ロームブロック・白黄色粘土ブロック多量   |
| 3 黒褐色 色 にぶい黄褐色粘土ブロック少量         | 18 暗褐色 色 ロームブロック多量, 白色粘土ブロック少量 |
| 4 暗褐色 色 にぶい黄褐色粘土ブロック微量         | 19 黒褐色 色 にぶい黄褐色粘土ブロック多量        |
| 5 黒褐色 色 灰黄色粘土ブロック少量            | 20 黒褐色 色 にぶい黄褐色粘土ブロック中量        |
| 6 黒褐色 色 灰黄色粘土ブロック中量            | 21 黒褐色 色 にぶい黄褐色粘土ブロック少量        |
| 7 黒褐色 色 灰黄色粘土ブロック少量            | 22 黒褐色 色 にぶい黄褐色粘土ブロック多量        |
| 8 黒褐色 色 灰黄色粘土ブロック微量            | 23 黒褐色 色 白黄色粘土ブロック多量           |
| 9 黒褐色 色 灰黄色粘土ブロック微量            | 24 暗褐色 色 にぶい黄褐色粘土ブロック多量        |
| 10 黒褐色 色 灰黄色粘土ブロック多量           | 25 暗褐色 色 にぶい黄褐色粘土ブロック中量        |
| 11 黒褐色 色 ロームブロック・灰黄色粘土ブロック多量   | 26 黒褐色 色 にぶい黄褐色粘土ブロック少量        |
| 12 黒褐色 色 ロームブロック・灰褐色粘土ブロック少量   | 27 黒褐色 色 にぶい黄褐色粘土ブロック中量        |
| 13 暗褐色 色 ロームブロック・灰褐色粘土ブロック微量   | 28 黒褐色 色 灰黄褐色粘土ブロック中量          |
| 14 黒褐色 色 ロームブロック・灰褐色粘土ブロック少量   | 29 黒褐色 色 にぶい黄褐色粘土ブロック多量        |
| 15 褐色 色 ロームブロック多量              | 30 黒褐色 色 にぶい黄褐色粘土ブロック中量        |

第74図 第7号地下式坑実測図

表10 地下式坑一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形		軸長 (m)	堅坑規模			主室規模			覆土	主な出土遺物	備考
			堅坑	主室		奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)	奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)			
1	F2a6	N-26°-E	楕円形	[隅丸方形・隅丸長方形]	(3.10)	1.70	1.50	217	(1.40)	2.31	226	自然 人為	土師器, 土師質土器, 陶器	
2	F2d7	N-80°-W	楕円形	円形	2.10	1.23	0.87	218	1.15	1.54	215	人為	土師器, 須恵器, 陶器, 瓦	SK2, SD19→ 本跡→SD12
3	F3i2	N-55°-E	楕円形	[楕円形]	(2.24)	1.60	1.42	67	(0.65)	(3.22)	152	自然 人為	土師器, 須恵器, 土師質土器	SD25と重複
4	F2c2	N-90°	楕円形	隅丸長方形	4.65	1.76	2.28	185	2.44	3.05	225	自然 人為	土師器, 須恵器, 瓦	
6	G3b2	N-82°-E	円形	方形	2.75	0.88	0.86	100	2.05	2.13	115	自然 人為	土師器, 須恵器, 瓦質土器, 石	PG5と重複
7	G3c2	N-34°-E	円形	方形	2.83	0.95	0.88	143	1.78	1.90	160	人為	-	SK130, SD23→ 本跡

(4) 井戸跡

第2号井戸跡 (第75図 PL12)

**位置** 調査区中央部のG2a7区, 標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

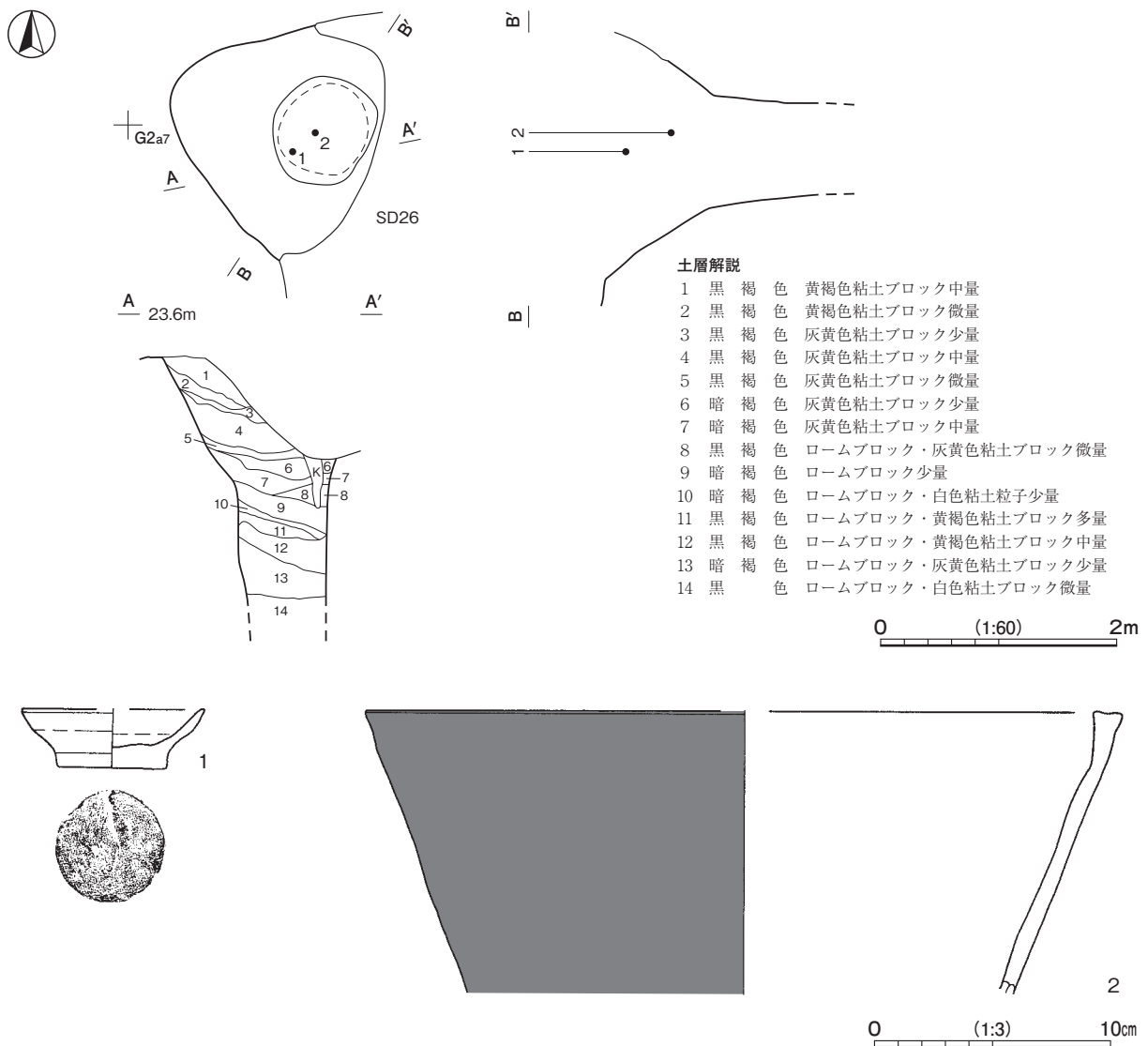
**重複関係** 第26号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 第26号溝に掘り込まれているため, 南北径は2.00m, 東西径は1.75mしか確認できなかったが, 長径方向はN-67°-Wの楕円形と推定される。確認面から95cmまでは漏斗状に掘り込まれ, それより下部は長径80cm, 短径63cmの円筒状に掘り込まれている。確認面から深さ208cmほど掘り下げた段階で, 崩落が想定されたため, 安全面の配慮から下部の調査を断念した。

**覆土** 観察できた部分は, 14層に分層できる。第1~8層は西側からの土砂が流れ込んだ自然堆積である。第9~14層はロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師質土器片3点(皿1, 内耳鍋2)が出土している。これらの遺物は, 埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。2は覆土中層から, 1は覆土上層から出土している。

**所見** 時期は, 重複関係や出土土器から15世紀代と考えられる。



第75図 第2号井戸跡・出土遺物実測図

第2号井戸跡出土遺物観察表（第75図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[7.8]	2.5	4.6	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土上層	60%
2	土師質土器	内耳鍋	[32.0]	(12.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐	普通	内耳残存なし 外・内面ナデ	覆土中層	5% 外面煤付着

第4号井戸跡（第76・77図 PL31・32）

**位置** 調査区中央部のG3f2区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

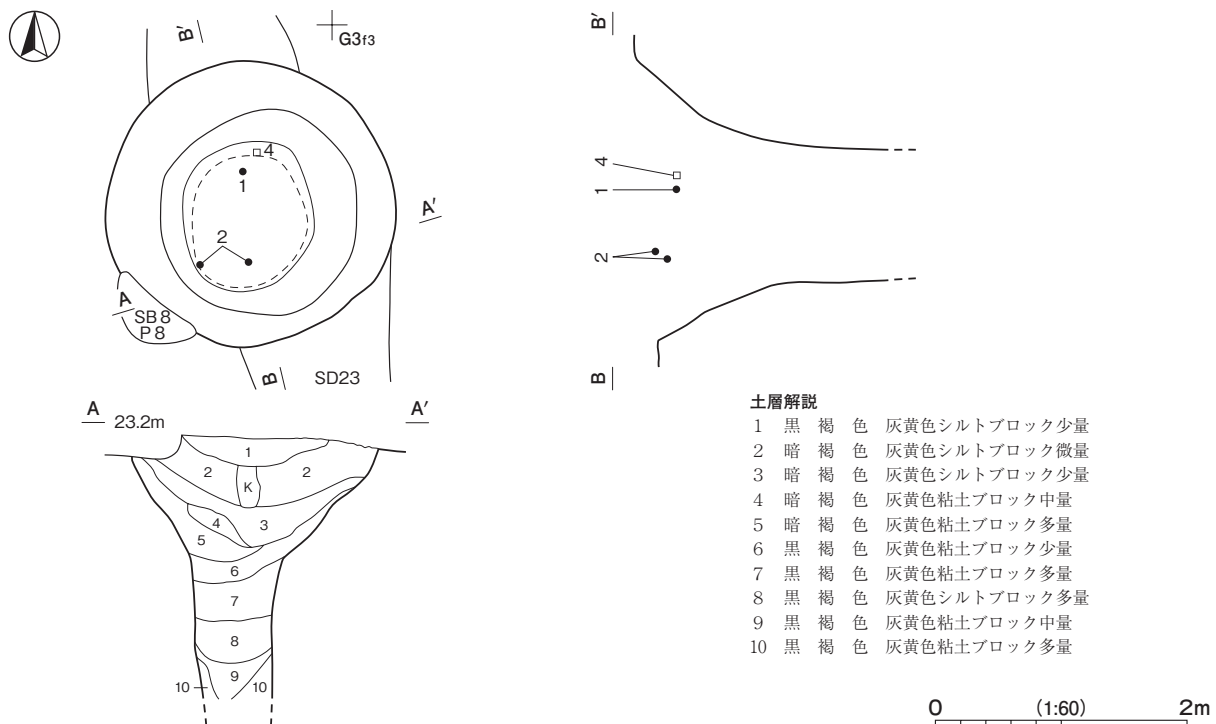
**重複関係** 第23号溝跡を掘り込み、第8号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径2.30m、短径2.20mの円形である。確認面から110cmまでは漏斗状に掘り込まれ、それより下部は径100cmほどの円筒状に掘り込まれている。確認面から深さ210cmほど掘り込まれていることを確認したが、安全面の配慮から下部の調査を断念した。

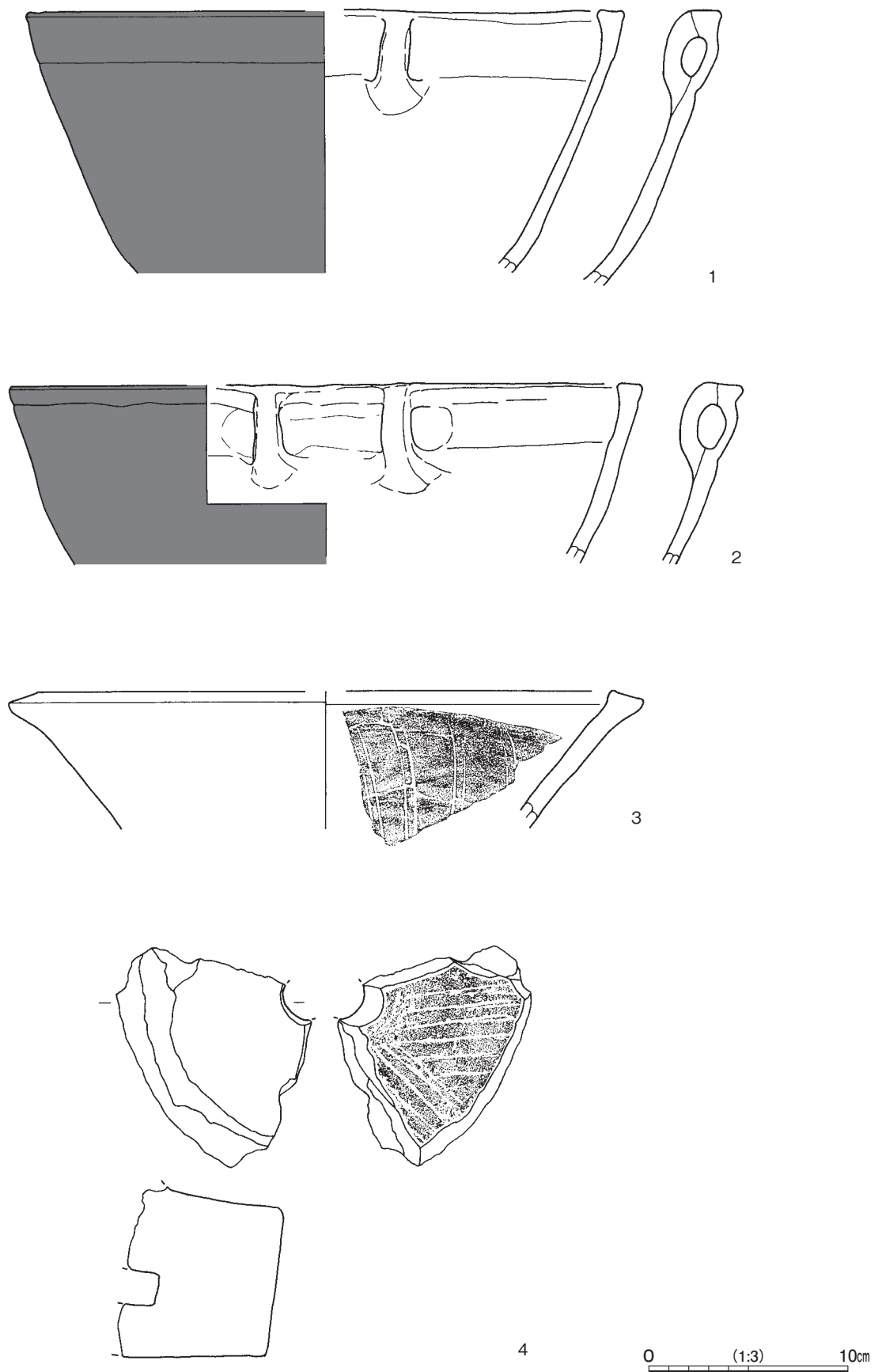
**覆土** 観察できた部分は、10層に分層できる。各層に粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片19点（甕類）、須恵器片7点（長頸瓶1、甕類6）、土師質土器片47点（皿8、内耳鍋37、挿鉢1、甕1）、石器1点（石臼）、礫12点、鉄滓1点、瓦片1点（平瓦）が出土している。これらの遺物は、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。1・2・4は覆土上層から出土している。3は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、重複関係や出土土器から16世紀代と考えられる。



第76図 第4号井戸跡実測図



第 77 图 第 4 号井戸跡出土遺物実測図



第4号井戸跡出土遺物観察表 (第77図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	内耳鍋	[30.0]	(13.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	1内耳残存 耳貼り付け 体部外・内面ナデ	覆土上層	20% PL31 外面煤付着
2	土師質土器	内耳鍋	[31.6]	(9.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗赤褐	普通	2内耳残存 耳貼り付け 内面から口縁部外 面ナデ	覆土上層	15% PL31 外面煤付着
3	土師質土器	播鉢	[28.8]	(6.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	内面2条1単位の播り目	覆土中	5%

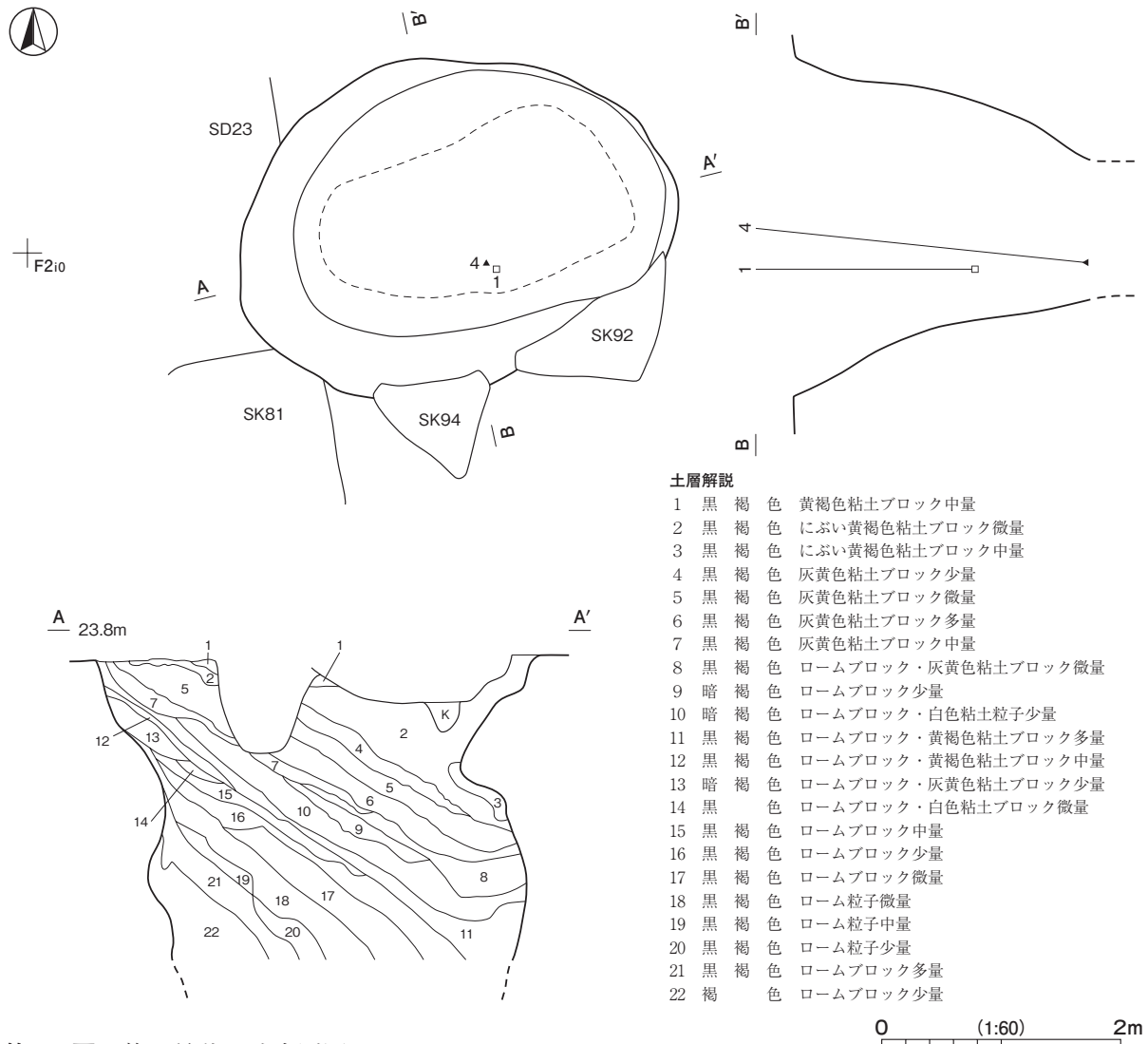
番号	器種	径・長さ	孔径	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4	石臼	(11.1)	[2.3]	(8.5)	(935.0)	安山岩	上白 下側6条以上1単位の播り目 軸受け横打込み孔残存	覆土上層	PL32

第5号井戸跡 (第78～80図 PL12・41～43)

位置 調査区北西部のF2h0区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第81号土坑、第23号溝跡を掘り込み、第92・94号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径3.74m、短径2.79mで、長径方向はN-70°-Eの楕円形である。確認面から90cmまでは漏斗状に掘り込まれ、それより下部は径100cmほどの円筒状に掘り込まれている。確認面から深さ250cmほど掘り込まれていることを確認したが、安全面の配慮から下部の調査を断念した。

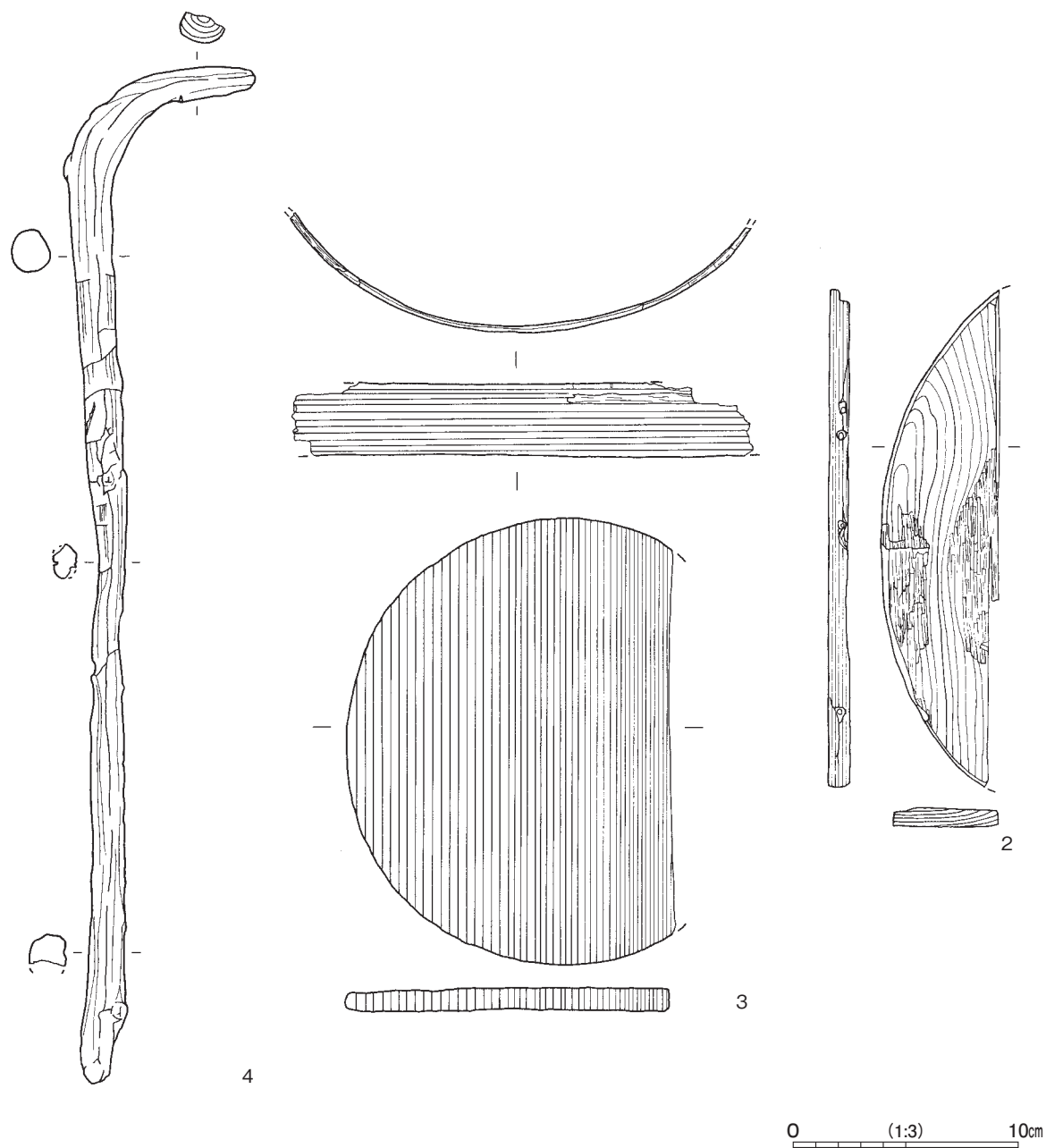


第78図 第5号井戸跡実測図

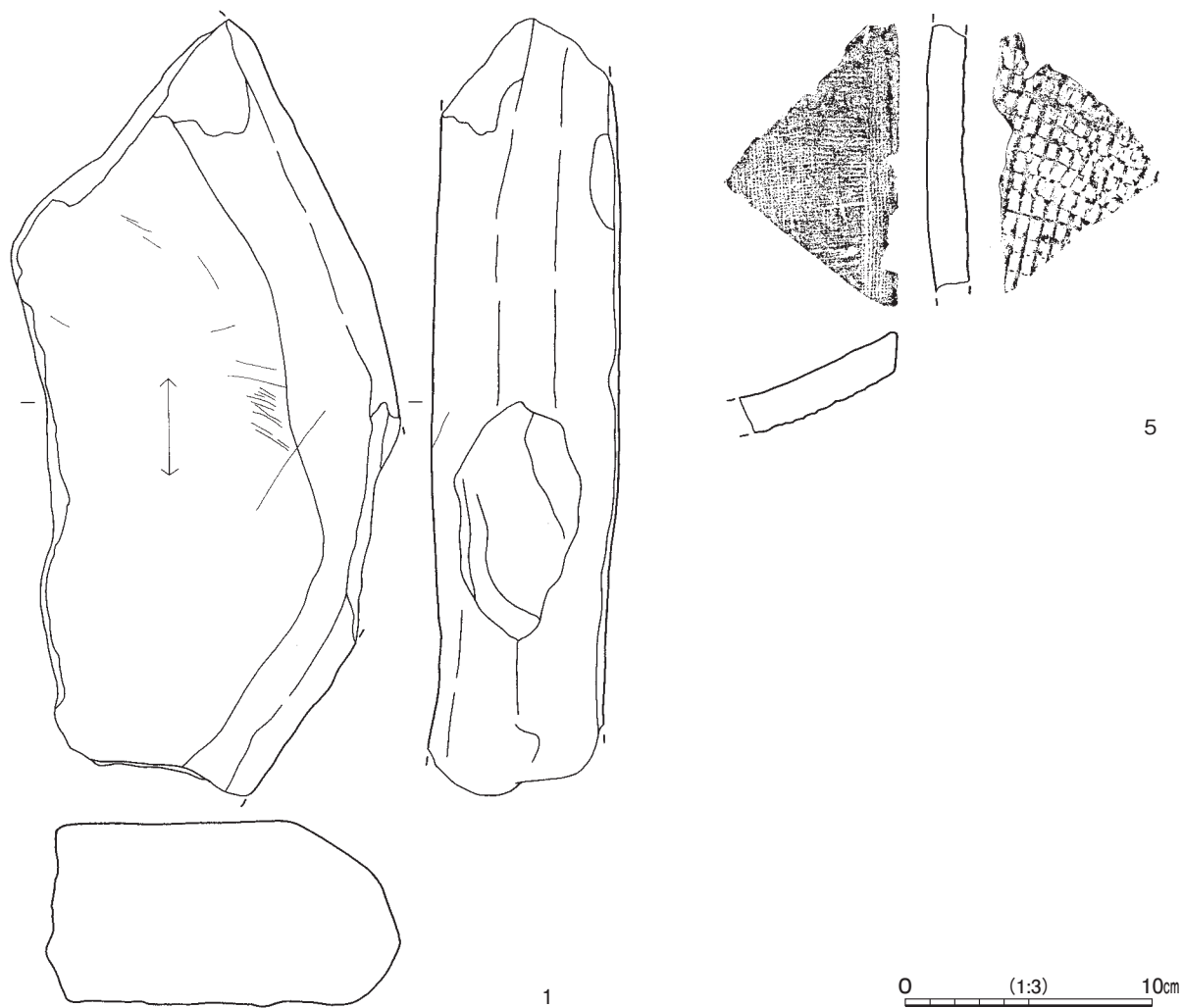
**覆土** 観察できた部分は、22層に分層できる。粘土ブロックやロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片 26点 (坏7, 甕類19), 須恵器片 9点 (坏3, 甕類6), 土師質土器片 1点 (皿), 陶器片 1点 (播鉢), 瓦質土器片 1点 (甕), 石器 1点 (砥石), 礫 10点, 金属製品 1点 (不明), 木製品 3点 (鍋蓋<sup>カ</sup>, 曲物, 不明), 瓦片 9点 (丸瓦2, 平瓦7) が出土している。これらの遺物は、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。1・4は覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、重複関係や出土土器から 16世紀代と考えられる。



第 79 図 第 5 号井戸跡出土遺物実測図(1)



第 80 図 第 5 号井戸跡出土遺物実測図(2)

第 5 号井戸跡出土遺物観察表 (第 79・80 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	砥石	(31.5)	(15.8)	(7.8)	(5280)	黒雲母片岩	板碑。砥石転用	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	材質	特徴	出土位置	備考
2	鍋蓋	(23.6)	(5.6)	1.0	ヒノキ	円形 板目 円孔3か所 径4mm	覆土中	PL41
3	曲物	21.2	(15.4)	1.1	ヒノキ	円形曲物 板目	覆土中	PL41・43
4	不明木製品	64.6	12.2	2.8	ブナ	先端部L字状 削り出し	覆土下層	PL42・43

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
5	瓦	平瓦	(7.0)	(1.7)	(11.5)	長石・石英・雲母	黒褐	普通	凸面格子叩き 凹面布目痕 模骨痕	覆土中	

第 5 号井戸跡内出土木製品の樹種調査結果

(株) 吉田生物研究所

1 観察方法

剃刀で木口(横断面), 柁目(放射断面), 板目(接線断面)の各切片を採取し, 永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

## 2 結果

樹種同定結果（針葉樹 2 種，広葉樹 2 種）の表と顕微鏡写真を示し，以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

### (1) ヒノキ科ヒノキ属（*Chamaecyparis* sp.）

曲物 第 5 号井戸跡

木口では仮道管を持ち，早材から晩材への移行が急であった。樹脂細胞は晩材部に偏在している。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で 1 分野に 1～2 個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。ヒノキ属はヒノキ，サワラがあり，本州（福島以南），四国，九州に分布する。

### (2) ブナ科クリ属クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）

不明木製品 第 5 号井戸跡

環孔材である。木口では円形ないし楕円形で大体単独の大道管（ $\sim 500 \mu\text{m}$ ）が年輪にそって幅のかなり広い孔圏部を形成している。孔圏外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは 2～3 個集まって火炎状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ，軸方向要素として道管，それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり（ストランド），軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道（西南部），本州，四国，九州に分布する。

第 7・10・14 号の樹種の観察方法も同様である。

## 第 7 号井戸跡（第 81～83 図 PL13・23・42・44）

**位置** 調査区北西部の G 2a0 区，標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第 13 号方形竪穴遺構を掘り込み，第 8 号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径 4.08 m，短径 3.50 m で，長径方向は N - 72° - E の楕円形である。確認面から漏斗状に掘り込まれ，深さ 198 cm ほど掘り下げた段階で，崩落が想定されたため，安全面の配慮から下部の調査を断念した。

**覆土** 観察できた部分は，26 層に分層できる。第 1～10 層は西側からの土砂が流れ込んだ自然堆積である。第 11～26 層はロームブロック・粘土ブロックが多く含まれていることや不規則な堆積状況から，埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片 5 点（甕類），須恵器片 10 点（坏 2，高盤 1，鉢 1，短頸壺 1，甕類 5），土師質土器片 299 点（皿 190，耳皿 1，内耳鍋 102，播鉢 5，香炉 1），陶器片 5 点（播鉢 3，甕 2），灰釉陶器片 6 点（皿），石器 1 点（砥石），礫 25 点，金属製品 1 点（釘），鉄滓 2 点，木製品 1 点（不明），瓦片 2 点（丸瓦，平瓦），自然遺物 1 点（アカニシ）が出土している。6・8～10・12・14・17 は覆土中層から，1・5・7・13・16 は覆土上層から，2～4・11・15 は覆土中から出土している。

**所見** 時期は，重複関係や出土土器から 15 世紀後半～16 世紀前葉と考えられる。

第 7 号井戸跡内出土木製品の樹種調査結果

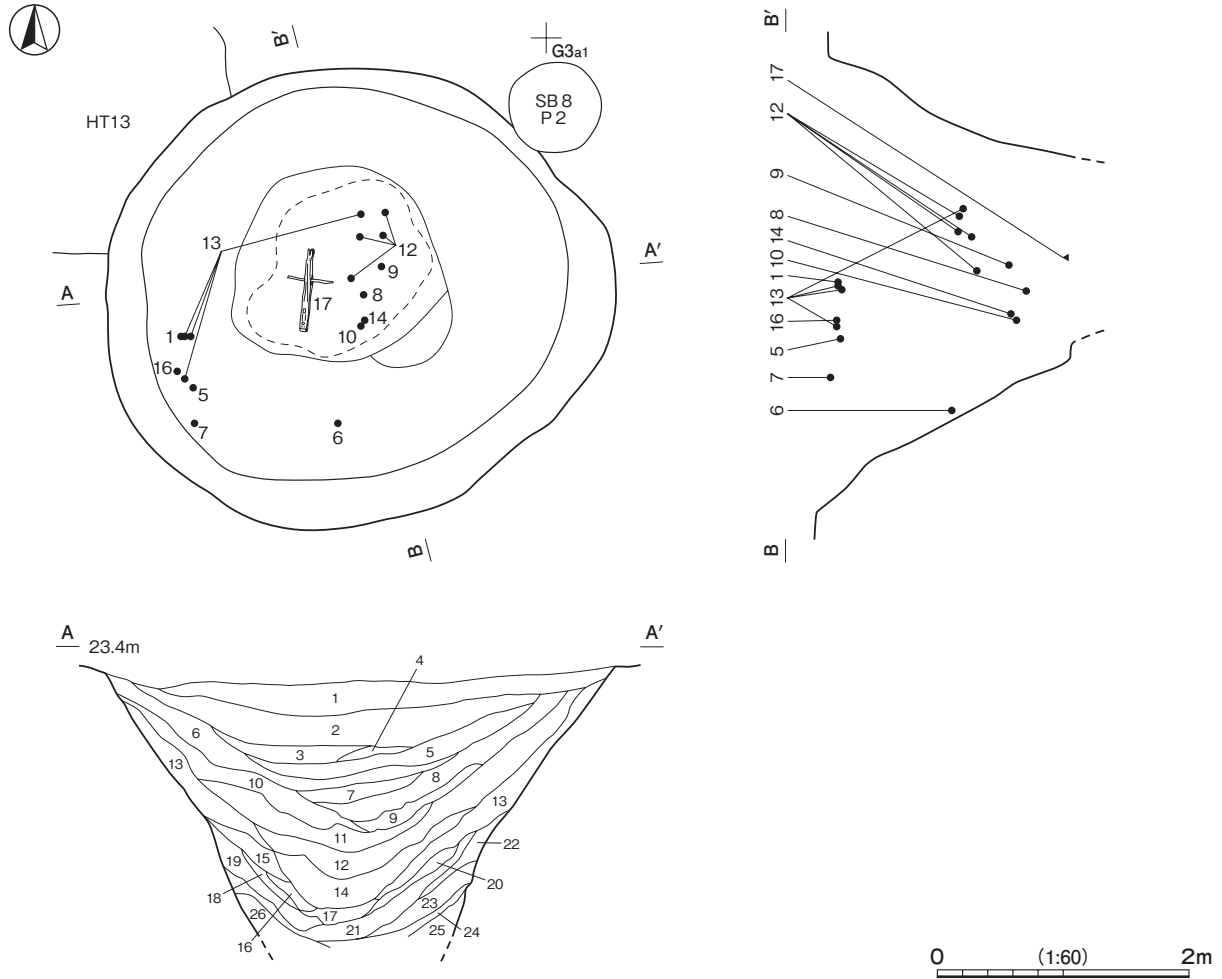
（株）吉田生物研究所

ブナ科クリ属クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）

不明木製品 第 7 号井戸跡

散孔材である。木口ではやや小さい道管（ $\sim 110 \mu\text{m}$ ）がほぼ平等に散在する。年輪の内側から外側に向かっ

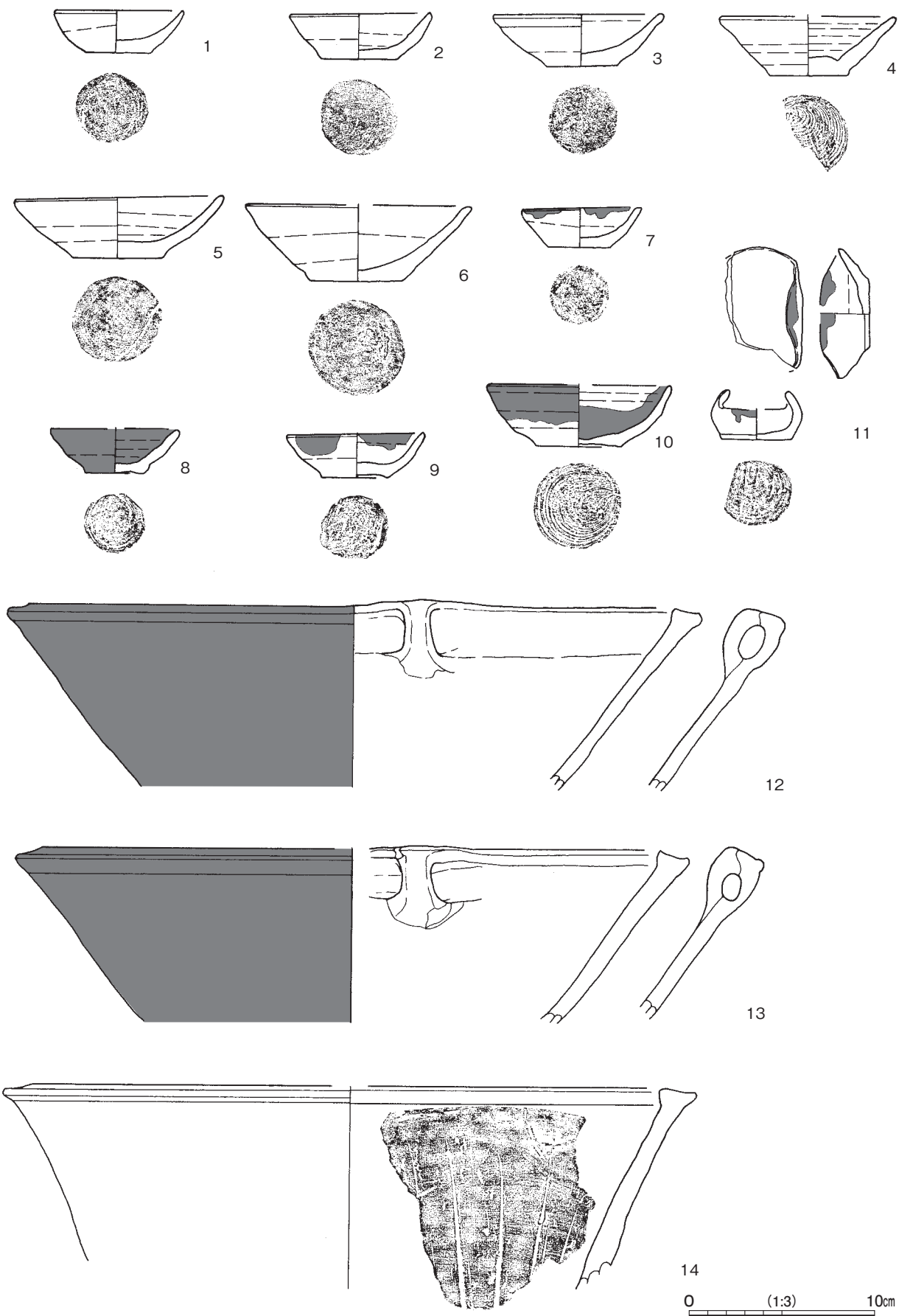
て大きさおよび数の減少が見られる配列をする。放射組織には単列のもの、2～3列のもの、非常に列数の広いものがある。柁目では道管は単穿孔と階段穿孔を持ち、内部には充填物（チロース）が見られる。放射組織は大体平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型のレンズ状の壁孔が存在する。板目では放射組織は単列、2～3列、広放射組織の3種類がある。広放射組織は肉眼でも1～3mmの高さを持った褐色の紡錘形の斑点としてはっきりと見られる。ブナ属はブナ、イヌブナがあり、北海道（南部）、本州、四国、九州に分布する。



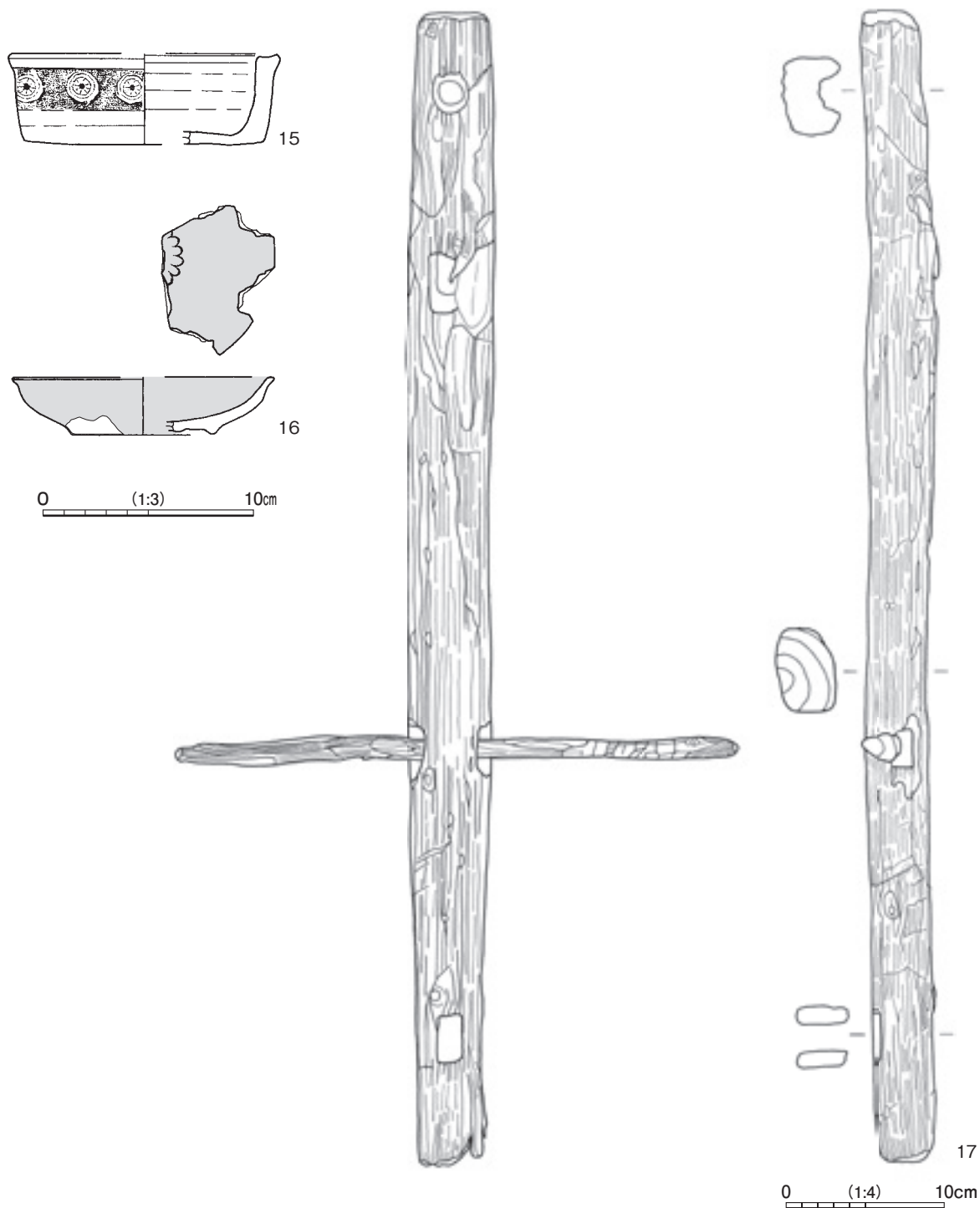
**土層解説**

- |        |                     |        |                     |
|--------|---------------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子微量        | 14 灰色  | ロームブロック・灰褐色粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色  | ロームブロック少量           | 15 褐色  | ロームブロック多量           |
| 3 黒褐色  | にぶい黄褐色粘土ブロック少量      | 16 黒褐色 | ロームブロック中量           |
| 4 暗褐色  | ロームブロック微量           | 17 暗褐色 | ロームブロック・白黄色粘土ブロック多量 |
| 5 黒褐色  | 黄褐色粘土ブロック微量         | 18 暗褐色 | 白色粘土ブロック少量          |
| 6 黒褐色  | 焼土粒子微量              | 19 黒褐色 | にぶい黄褐色粘土ブロック少量      |
| 7 黒褐色  | ロームブロック微量           | 20 黒褐色 | にぶい黄褐色粘土ブロック中量      |
| 8 黒褐色  | ロームブロック微量           | 21 黒褐色 | にぶい黄褐色粘土ブロック少量      |
| 9 黒褐色  | 灰黄色粘土ブロック微量         | 22 黒褐色 | にぶい黄褐色粘土ブロック多量      |
| 10 黒褐色 | 灰黄色粘土ブロック少量         | 23 黒褐色 | 白黄色粘土ブロック多量         |
| 11 黒褐色 | ロームブロック・灰黄色粘土ブロック多量 | 24 暗褐色 | にぶい黄褐色粘土ブロック多量      |
| 12 黒褐色 | ロームブロック・灰褐色粘土ブロック少量 | 25 暗褐色 | にぶい黄褐色粘土ブロック中量      |
| 13 暗褐色 | ロームブロック・灰褐色粘土ブロック微量 | 26 黒褐色 | にぶい黄褐色粘土ブロック中量      |

第81図 第7号井戸跡実測図



第 82 図 第 7 号井戸跡出土遺物実測図(1)



第 83 図 第 7 号井戸跡出土遺物実測図(2)

第 7 号井戸跡出土遺物観察表 (第 82・83 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	6.9	2.3	3.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土上層	100% PL23
2	土師質土器	皿	7.5	2.6	4.0	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	95% PL23
3	土師質土器	皿	9.0	2.8	3.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	90% PL23
4	土師質土器	皿	[9.4]	3.2	4.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	40%
5	土師質土器	皿	11.0	3.4	4.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土上層	90% PL23
6	土師質土器	皿	[12.0]	4.2	5.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	70% PL23



番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
7	土師質土器	皿	6.3	2.2	3.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土上層	100% PL23 口縁部油煙付着
8	土師質土器	皿	6.9	2.4	3.1	長石・石英	黒	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	80% PL23 外・内面煤付着
9	土師質土器	皿	7.2	2.5	3.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	95% PL23 口縁部油煙付着
10	土師質土器	皿	[9.7]	3.4	4.6	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	50% PL23 外・内面煤付着
11	土師質土器	耳皿	[3.2]~[7.0]	2.7	[3.7]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ナデ	覆土中	60% PL23 外・内面煤付着
12	土師質土器	内耳鍋	34.8	(9.8)	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	1内耳残存 耳貼り付け 体部外・内面ナデ	覆土中層	40% 外面煤付着
13	土師質土器	内耳鍋	[33.4]	(9.3)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	1内耳残存 耳貼り付け 体部外・内面ナデ	覆土上層	50% 外面煤付着
14	土師質土器	搦鉢	[34.0]	(10.9)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	内面1条1単位の搦り目	覆土中層	5%
15	土師質土器	香炉	[12.6]	4.3	[11.4]	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部外面菊花文	覆土中	20% PL23

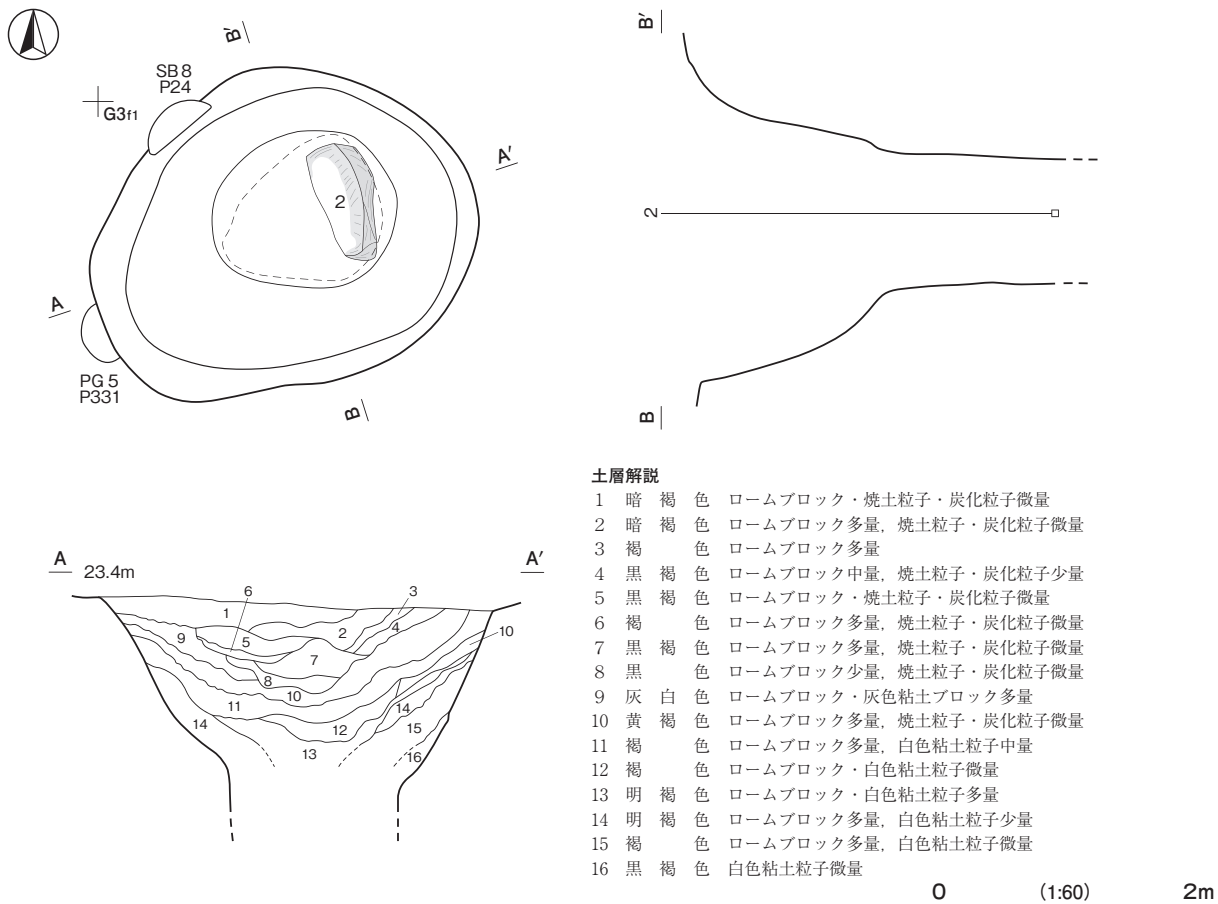
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
16	陶器	端反皿	[12.4]	2.7	[6.5]	長石・石英にぶい黄褐	削り出し高台 見込みに菊花文 トチン痕1か所	施釉	瀬戸・美濃	覆土上層	20% 大塚第2段階

番号	器種	長さ	幅	厚さ	材質	特徴	出土位置	備考
17	不明木製品	(73.1)	(5.6)	(4.8)	ブナ	隅柱 板目 柄穴3か所 幅1.5cm 円孔半抜き 径2.5cm 横棧 長さ35.7cm 幅1.9cm	覆土中層	PL42・44

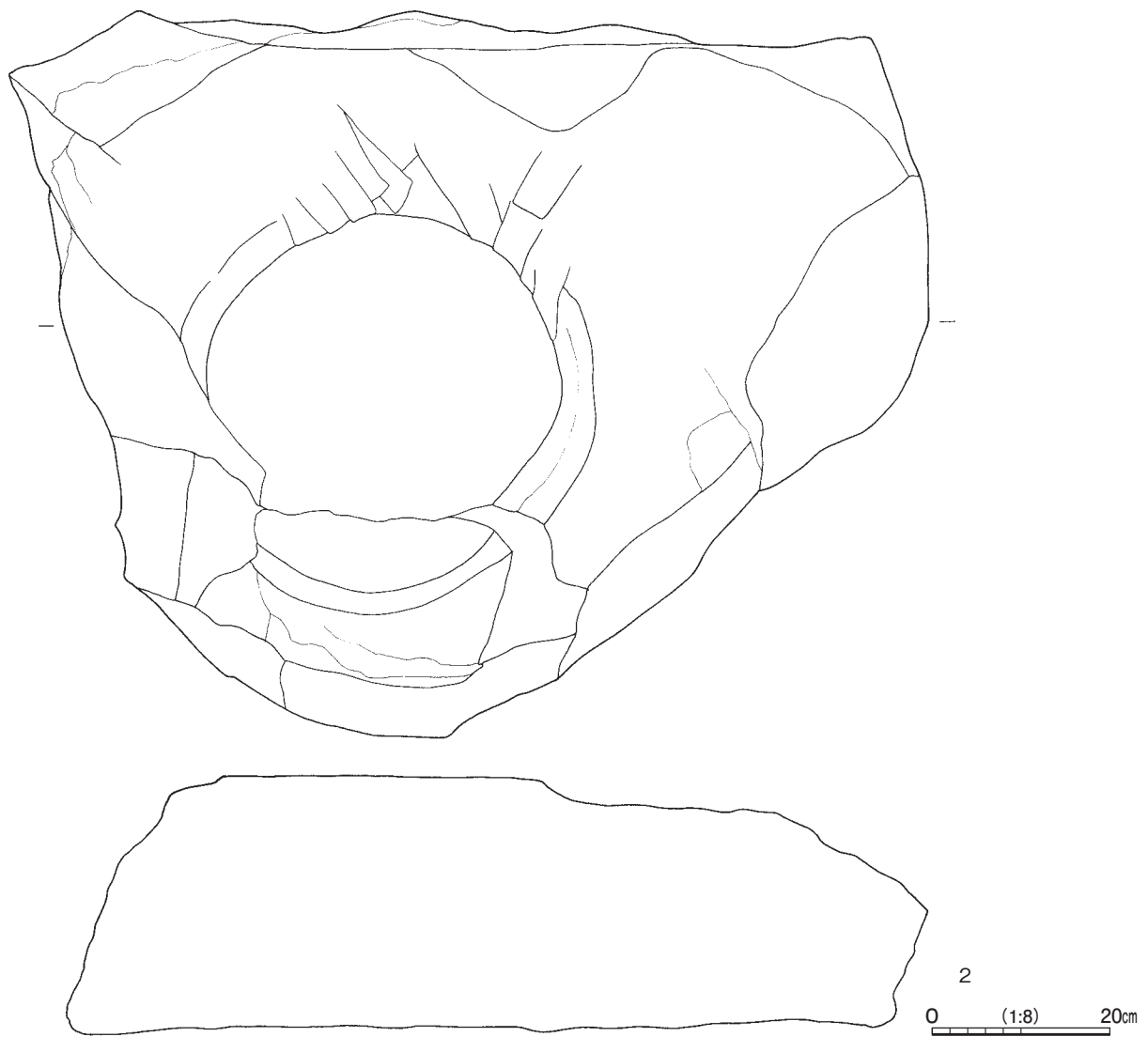
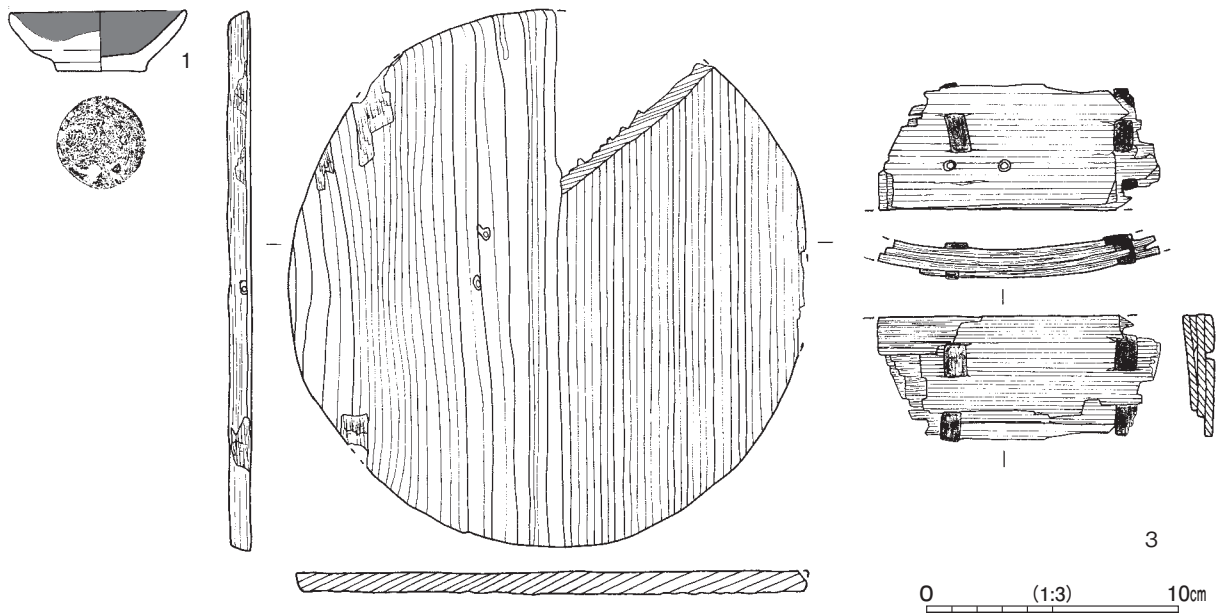
### 第10号井戸跡 (第84・85図 PL13・25・41・44)

**位置** 調査区中央部のG3f1区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第5号ピット群を掘り込み、第8号掘立柱建物に掘り込まれている。



第84図 第10号井戸跡実測図



第 85 図 第 10 号井戸跡出土遺物実測図

**規模と形状** 長径 3.10 m, 短径 2.52 m で, 長径方向は N - 70° - E の楕円形である。確認面から 140cm までは漏斗状に掘り込まれ, それより下部は径 130cm ほどの円筒状に掘り込まれている。確認面から深さ 168cm ほど掘り込まれていることを確認したが, 安全面の配慮から下部の調査を断念した。

**覆土** 観察できた部分は, 16 層に分層できる。第 1 層は西側からの土砂が流れ込んだ自然堆積である。第 2 ~ 16 層はロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。

**遺物出土状況** 須恵器片 1 点 (甕類), 土師質土器片 9 点 (皿 4, 内耳鍋 2, 鉢 2, 挿鉢 1), 陶器片 1 点 (甕), 緑釉陶器片 1 点 (長頸瓶), 石製品 1 点 (礎石), 礫 3 点, 木製品 1 点 (曲物), 瓦片 1 点 (平瓦) が出土している。これらの遺物は, 埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。2 は覆土下層から 1・3 は覆土中から出土している。

**所見** 時期は, 重複関係や出土土器から 16 世紀代と考えられる。

#### 第 10 号井戸跡出土遺物観察表 (第 85 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	7.0	2.4	3.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部外・内面口クロナテ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	95% PL25 外・内面煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2	礎石	103.8	82.2	34.0	-	雲母片岩	自然石 柱あたり面加工	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	材質	特徴	出土位置	備考
3	曲物	21.5	20.6	0.9	ヒノキ	円形曲物 板目側板 板目側板 円孔 1 か所 径 4 mm 円孔 2 か所	覆土中	PL41・44

#### 第 10 号井戸跡内出土木製品の樹種調査結果

(株) 吉田生物研究所

ヒノキ科アスナロ属 (Thujopsis sp.)

曲物 第10号井戸跡

木口では仮道管を持ち, 早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からヤスギ型で 1 分野に 2 ~ 4 個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ (ヒバ, アテ) とヒノキアスナロ (ヒバ) があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州, 四国, 九州に分布する。

#### 第 12 号井戸跡 (第 86・87 図 PL13・14・26・33・38)

**位置** 調査区中央部の G 3 g1 区, 標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。

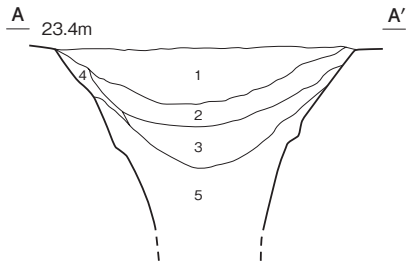
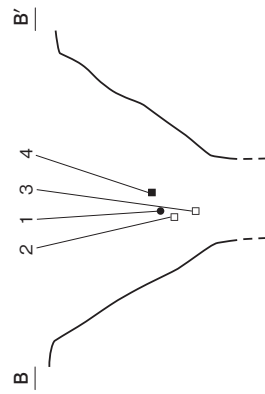
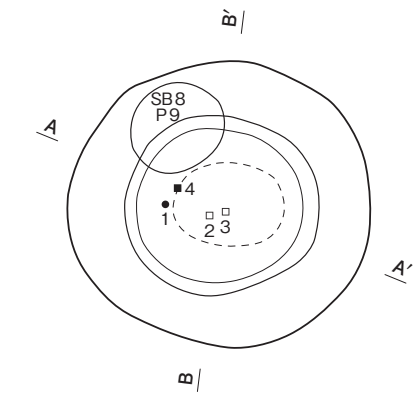
**重複関係** 第 8 号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径 2.35 m, 短径 2.22 m の円形である。確認面から 90cm までは漏斗状に掘り込まれ, それより下部は円筒状に掘り込まれている。確認面から深さ 144cm ほど掘り下げた段階で, 崩落が想定されたため, 安全面の配慮から下部の調査を断念した。

**覆土** 観察できた部分は, 5 層に分層できる。第 4 層は壁の崩落土で, 第 1 ~ 3 層はレンズ状に堆積していることから自然堆積である。第 5 層は粘土ブロックが多量に含まれていることから, 埋め戻されている。



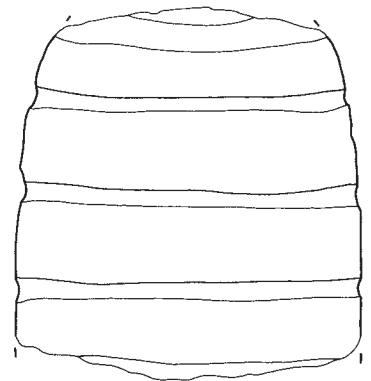
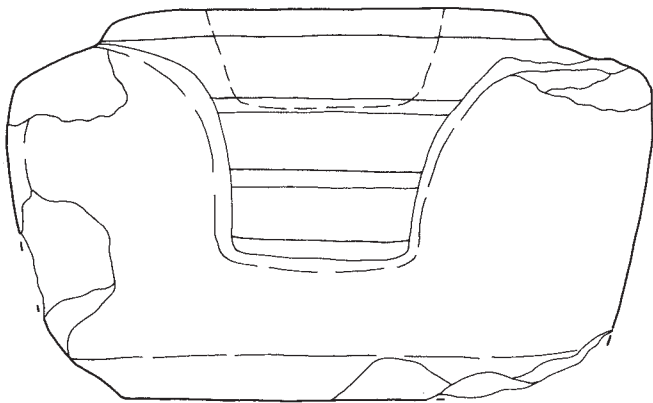
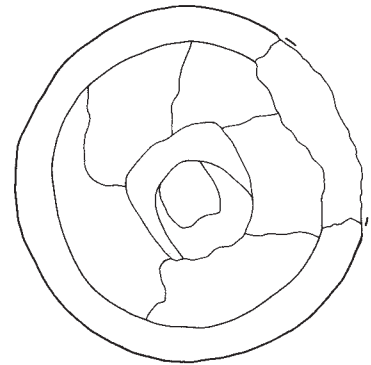
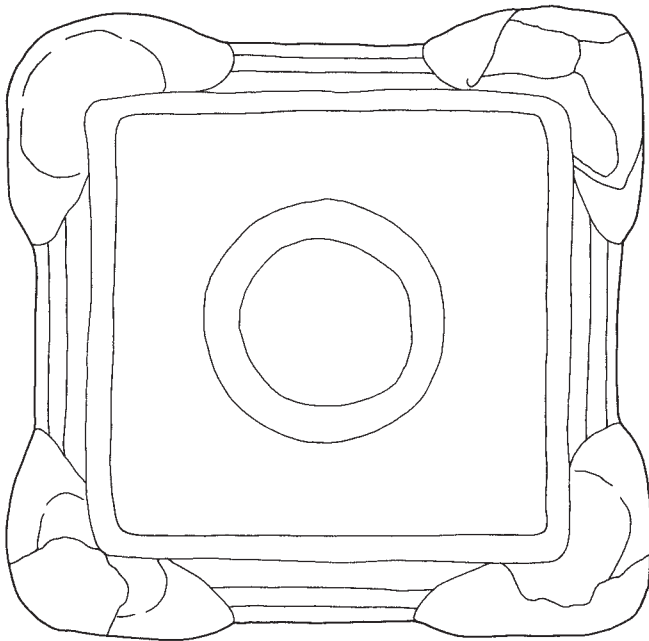
G3g1



土層解説

- 1 黒褐色 黄褐色粘土ブロック微量
- 2 黒褐色 黄褐色粘土ブロック少量
- 3 黒褐色 灰黄褐色粘土ブロック少量
- 4 暗褐色 灰黄褐色粘土ブロック少量
- 5 暗褐色 灰黄褐色粘土ブロック多量

0 (1:60) 2m

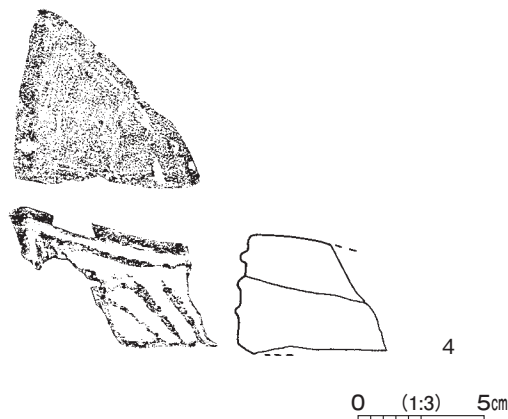


0 (1:3) 10cm

第 86 図 第 12 号井戸跡・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 須恵器片3点(坏), 土師質土器片37点(皿16, 内耳鍋15, 鉢1, 播鉢5), 石器1点(石臼), 石製品2点(宝篋印塔), 礫54点, 瓦片6点(軒丸瓦1, 丸瓦1, 平瓦4)が出土している。3は覆土下層から, 1・2・4は覆土中層から出土している。

**所見** 時期は, 重複関係や出土土器から16世紀代と考えられる。



第87図 第12号井戸跡出土遺物実測図

第12号井戸跡出土遺物観察表(第86・87図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[6.6]	1.8	3.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	90% PL26

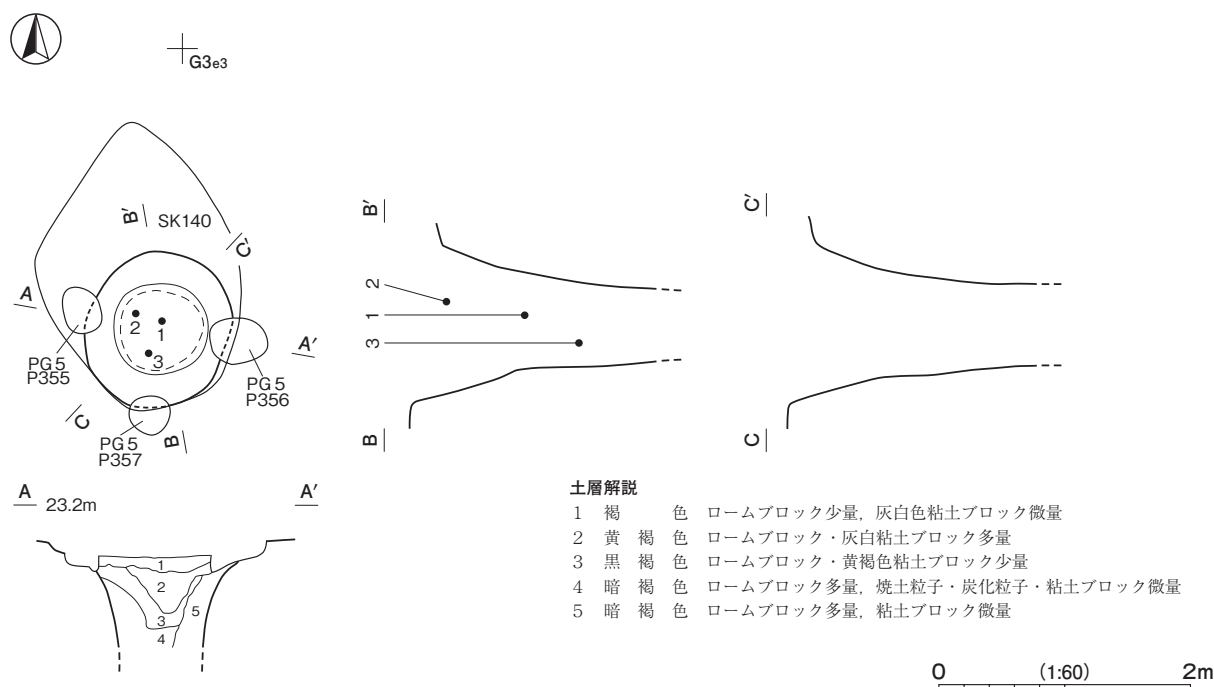
番号	器種	径	孔径	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2	宝篋印塔	[14.1]	(13.8)	(14.8)	(4145)	花崗岩	相輪 風化により表面脆い	覆土中層	
3	宝篋印塔	25.2	25.5	15.6	14960	花崗岩	笠 隅飾突起一部欠損	覆土下層	PL33

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
4	瓦	軒平瓦	(7.3)	(5.2)	(6.9)	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	唐草文	覆土中層	PL38

第13号井戸跡(第88・89図 PL26)

**位置** 調査区中央部のG3e2区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。



第88図 第13号井戸跡実測図

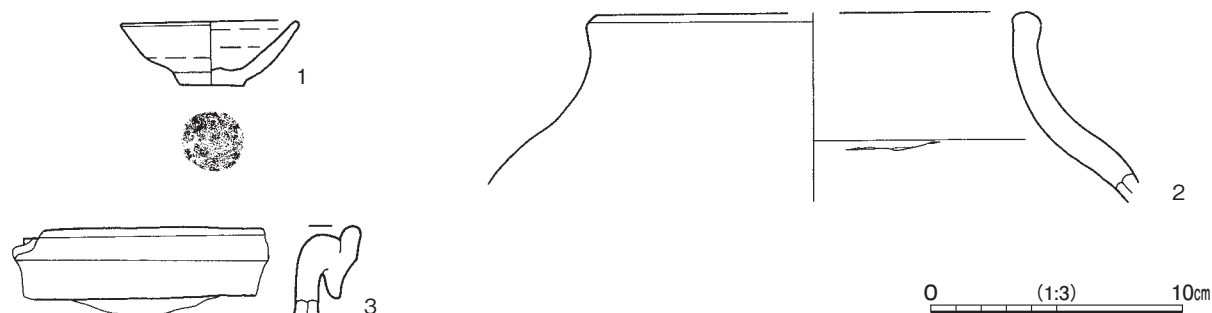
**重複関係** 第140号土坑、第5号ピット群に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径1.26 m、短径1.16 mの円形である。確認面から80cmまでは漏斗状に掘り込まれ、それより下部は円筒状に掘り込まれている。確認面から深さ190cmほど掘り下げた段階で、崩落が想定されたため、安全面の配慮から下部の調査を断念した。

**覆土** 観察できた部分は、5層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 須恵器片1点(甕類)、土師質土器片18点(皿2、内耳鍋14、甕2)、陶器片1点(甕)、緑釉陶器片1点(長頸瓶)、礫3点が覆土中から出土している。これらの遺物は、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。3は覆土下層から、1は覆土中層から、2は覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、重複関係や出土土器から15世紀後半以降と考えられる。



第89図 第13号井戸跡出土遺物実測図

第13号井戸跡出土遺物観察表 (第89図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	7.0	2.6	2.5	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	95% PL26
2	土師質土器	甕	[17.0]	(7.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ	覆土上層	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
3	陶器	甕	[38.0]	(3.5)	-	長石・石英 灰褐	口縁部外・内面ナデ 口縁部と頸部に隙間	自然釉	常滑	覆土下層	5% 8形式

**第14号井戸跡** (第90図 PL26・41・43)

**位置** 調査区北西部のG2a9区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

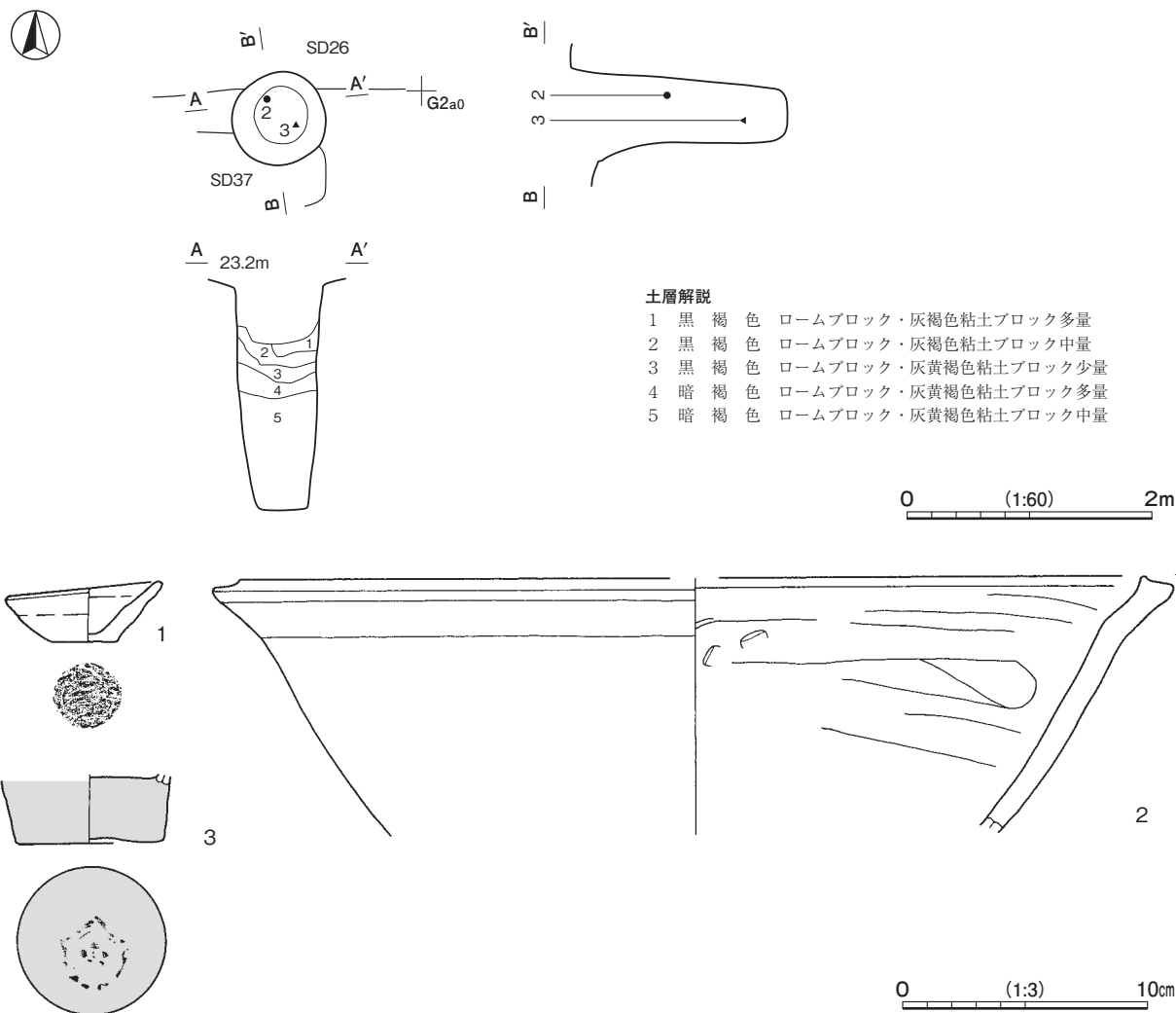
**重複関係** 第26・37号溝跡との新旧関係は不明である。

**規模と形状** 長径0.77 m、短径0.75 mの円形である。確認面から円筒状に掘り込まれている。底面までの深さは180cmである。

**覆土** 5層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師質土器片11点(皿2、内耳鍋7、甕2)、礫1点、漆器1点(高台付椀)が出土している。これらの遺物は、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。3は覆土下層から、2は覆土中層から、1は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、重複関係や出土土器から16世紀代と考えられる。



第90図 第14号井戸跡・出土遺物実測図

第14号井戸跡出土遺物観察表（第90図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	6.3	2.5	2.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	95% PL26
2	土師質土器	内耳鍋	[37.0]	(10.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	内耳残存なし 体部外・内面ナデ	覆土中層	5%
番号	種別	器種	口径	器高	底径	材質	手法の特徴ほか		出土位置	備考	
3	漆器	高台付椀	-	(2.7)	6.0	ブナ	高台部残存 高台底部 亀甲文 梅花の家紋入り		覆土下層	10% PL41・43	

第14号井戸跡内出土木製品の樹種調査結果

(株) 吉田生物研究所

ブナ科ブナ属 (Fagus sp.)

高台付椀 第14号井戸跡

散孔材である。木口ではやや小さい道管(～110μm)がほぼ平等に散在する。年輪の内側から外側に向かって大きさおよび数の減少が見られる配列をする。放射組織には単列のもの、2～3列のもの、非常に列数の広いものがある。柾目では道管は単穿孔と階段穿孔を持ち、内部には充填物(チロース)が見られる。放射組織



は大体平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型のレンズ状の壁孔が存在する。板目では放射組織は単列, 2~3列, 広放射組織の3種類がある。広放射組織は肉眼でも1~3mmの高さを持った褐色の紡錘形の斑点としてはっきりと見られる。ブナ属はブナ, イヌブナがあり, 北海道(南部), 本州, 四国, 九州に分布する。

表 11 中世井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
2	G2a7	N-67°-W	[楕円形]	2.00×(1.75)	(208)	不明	漏斗状	人為	土師質土器	本跡→SD26
4	G3f2	N-0°	円形	2.30×2.20	(210)	不明	漏斗状	人為	土師質土器, 石器, 鉄滓, 瓦	SD23→本跡→SB8
5	F2h0	N-70°-E	楕円形	3.74×2.79	(250)	不明	漏斗状	人為	土師質土器, 陶器, 瓦質土器, 砥石, 金属製品, 木製品, 瓦	SK81, SD23→本跡→SK92・94
7	G2a0	N-72°-E	楕円形	4.08×3.50	(198)	不明	漏斗状	人為	土師質土器, 陶器, 石器, 金属製品, 木製品, 自然遺物, 礫	HT13→本跡→SB8
10	G3f1	N-70°-E	楕円形	3.10×2.52	(168)	不明	漏斗状	人為	土師質土器, 陶器, 礎石, 木製品, 瓦	PG5→本跡→SB8
12	G3g1	N-0°	円形	2.35×2.22	(144)	不明	漏斗状	自然	土師質土器, 石臼, 宝篋印塔, 瓦	本跡→SB8
13	G3e2	N-0°	円形	1.26×1.16	(190)	不明	漏斗状	人為	土師質土器, 陶器, 礫	本跡→SK140, PG5
14	G2a9	N-0°	円形	0.77×0.75	180	平坦	円筒状	人為	土師質土器, 漆器	SD26・37と重複

(5) 火葬施設

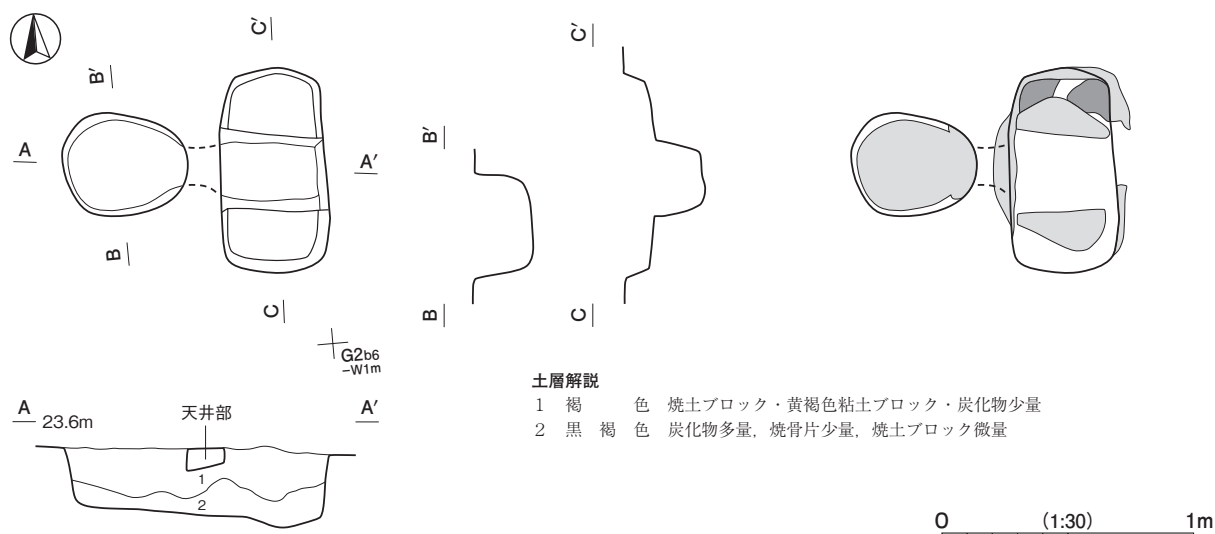
第1号火葬施設(第91図 PL14)

位置 調査区北西部のG2a5区, 標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第7号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形はT字形で, 主軸方向はN-78°-Wである。焚口部の規模は, 奥行0.48m, 横幅0.42mで, 確認面からの深さは24cmである。底面は平坦で, 燃焼部とほぼ同じ高さである。燃焼部は, 奥行0.43m, 横幅0.82m, 深さ34cmで, 底面は南西部へ向かって傾斜している。壁はほぼ直立している。

覆土 2層に分層できる。第1・2層は焼土ブロック・炭化物が多量に含まれていることから, 火葬時の炭化物と内壁の崩落土である。不規則な堆積状況から, 埋め戻されている。



第91図 第1号火葬施設実測図

**遺物出土状況** 燃焼部の第2層から、焼骨片が少量出土している。

**所見** 焼土ブロック・炭化材・焼骨片が出土していることや、T字形の形状をしていることから、火葬施設である。微細な焼骨片しか出土していないことから、ほとんどは取り上げられていると考えられる。時期は、出土土器がないため明確ではないが、形状から中世と考えられる。

### 第2号火葬施設（第92図）

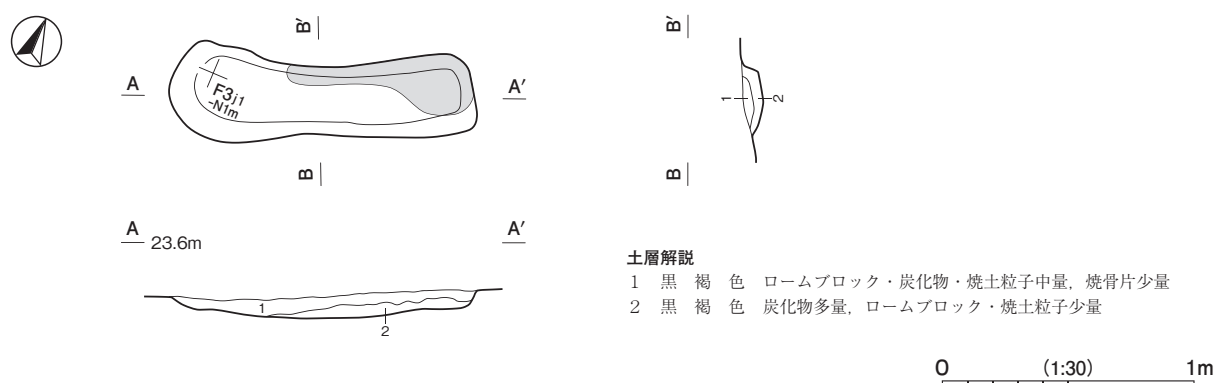
**位置** 調査区中央部のF3i1区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 平面形は不整楕円形で、主軸方向はN-69°-Eである。燃焼部は、奥行0.26m、横幅1.22mで、確認面からの深さは10cmである。底面は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。底面は平坦で、壁は外傾しており、内壁は被熱により赤変硬化している。

**覆土** 2層に分層できる。第1・2層は炭化物が多量に含まれ、焼骨片も出土していることから、火葬時の炭化材と取り残した焼骨片の層である。

**遺物出土状況** 第1層から、焼骨片が出土している。

**所見** 炭化物と焼骨片が出土していることや形状などから、火葬施設である。時期は、出土土器がないため明確ではないが、形状から中世と考えられる。



第92図 第2号火葬施設実測図

表12 火葬施設一覧表

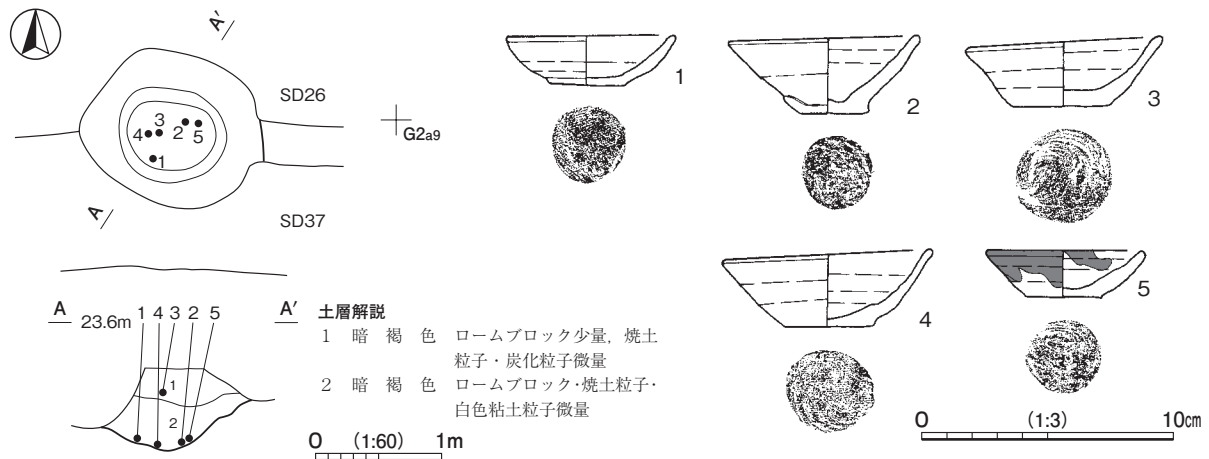
番号	位置	軸方向	平面形	全長 (m)	焚口部				通風溝			燃焼部				覆土	主な出土遺物	備考
					奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)	底面	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (cm)	奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)	底面			
1	G2a5	N-78°-W	T字形	(1.05)	0.48	0.42	24	平坦	0.42	0.35	30	0.43	0.82	34	平坦	人為	骨片	SB7と重複
2	F3i1	N-69°-E	不整楕円形	(1.22)	-	-	-	-	-	-	-	0.26	1.22	10	平坦	人為	骨片	

### (6) 土坑

#### 第26号土坑（第93図 PL14・26）

**位置** 調査区北西部のG2a8区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第26・37号溝に掘り込まれている。



第 93 図 第26号土坑・出土遺物実測図

**規模と形状** 第26・37号溝に掘り込まれているため、東西軸は1.46m、南北軸は1.18mしか確認できなかった。長軸方向はN-82°-Eの楕円形と推定される。深さは64cmで、壁は外傾している。底面は皿状である。

**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師質土器片104点(皿97, 鍋7), 石器1点(砥石)が出土している。1・2・4・5は底面から、3は覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から15世紀中葉～16世紀初頭と考えられる。性格は不明である。

第26号土坑出土遺物観察表(第93図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	7.5	2.3	3.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	95% PL26
2	土師質土器	皿	8.5	3.6	3.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	95% PL26
3	土師質土器	皿	8.5	3.1	4.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土上層	100% PL26
4	土師質土器	皿	9.3	3.4	3.9	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	100% PL26
5	土師質土器	皿	7.0	2.2	3.4	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	95% PL26 外・内面煤付着

### 第35号土坑(第94図 PL26)

**位置** 調査区北部のG2a6区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

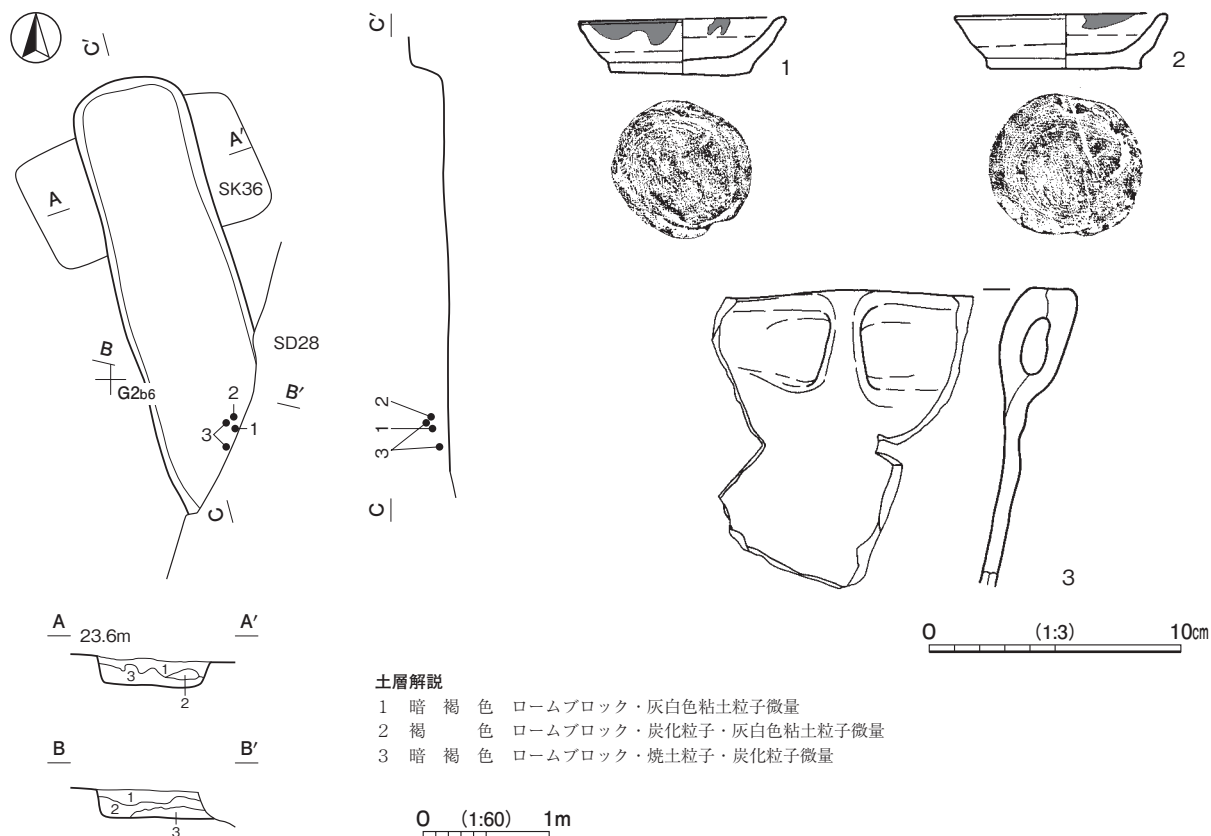
**重複関係** 第36号土坑を掘り込み、第28号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 南東部が第28号溝に掘り込まれているため、長軸は3.78mで、短軸は0.98mしか確認できなかった。長軸方向は、N-15°-Wの隅丸長方形である。深さは30cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

**覆土** 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片2点(坏), 須恵器片2点(坏), 土師質土器片20点(皿2, 内耳鍋18), 礫1点が出土している。1～3は覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、重複関係や出土土器から14世紀後半～15世紀前葉と考えられる。性格は不明である。



第 94 図 第 35 号土坑・出土遺物実測図

第 35 号土坑出土遺物観察表 (第 94 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	8.2	2.3	5.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	100% PL26 口縁部油煙付着
2	土師質土器	皿	8.3	2.2	6.1	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	95% PL26 口縁部油煙付着
3	土師質土器	内耳鍋	-	(11.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	1内耳残存 耳貼り付け 外・内面ナデ	覆土中層	5% 外面煤付着

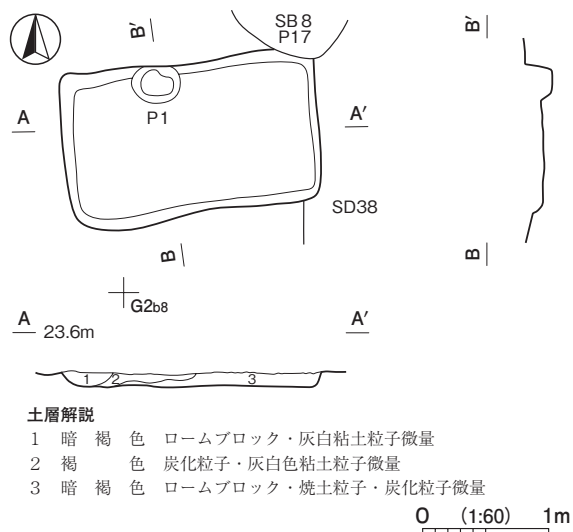
第 38 号土坑 (第 95 図)

**位置** 調査区北西部の G2a8 区, 標高 24 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第 38 号溝跡を掘り込み, 第 8 号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸 2.02 m, 短軸 1.16 m の隅丸長方形で, 長軸方向は N - 84° - E である。深さは 12cm で, 壁は外傾している。底面は平坦である。北部の北壁側にピットを有し, 深さは 25cm である。

**覆土** 3 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。



第 95 図 第 38 号土坑実測図

**遺物出土状況** 土師質土器片 19 点 (皿), 鉄片 1 点が出土している。いずれも細片のため図示できない。

**所見** 時期は, 第 8 号掘立柱建物に掘り込まれていることなどから, 室町時代と考えられる。性格は不明である。

**第 43 号土坑 (第 96 図 PL26)**

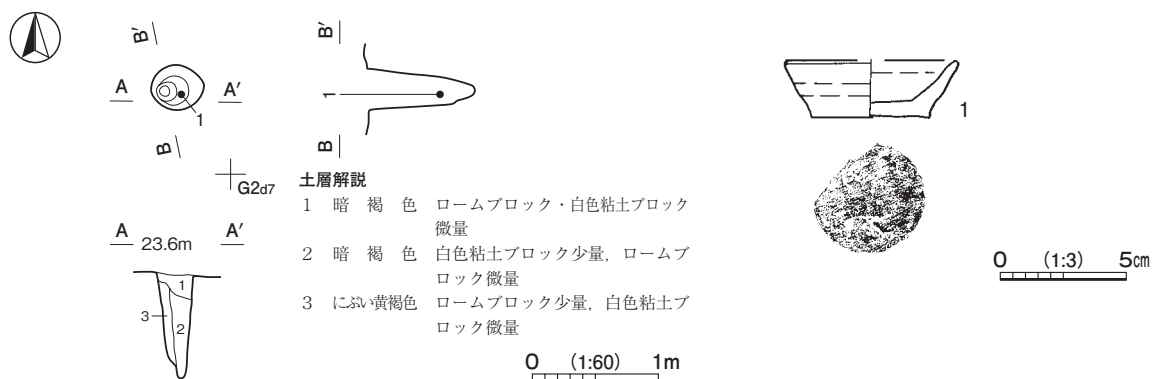
**位置** 調査区北西部の G 2 c 6 区, 標高 24 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 長径 0.42 m, 短径 0.36 m の楕円形で, 長径方向は N - 81° - E である。深さは 82cm で, 壁はほぼ直立している。底面は U 字状である。

**覆土** 3 層に分層できる。第 3 層はロームブロックを含む壁面の崩落土で, 第 1・2 層は周囲の土砂が流れ込んだ自然堆積である。

**遺物出土状況** 土師質土器片 1 点 (皿) が出土している。1 は覆土下層から出土している。遺棄あるいは投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から 15 世紀代と考えられる。性格は不明である。



第 96 図 第 43 号土坑・出土遺物実測図

**第 43 号土坑出土遺物観察表 (第 96 図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[68]	2.3	4.6	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後 ナデ	覆土下層	60% PL26

**第 63 号土坑 (第 97 図 PL26)**

**位置** 調査区北西部の G 2 a 8 区, 標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。

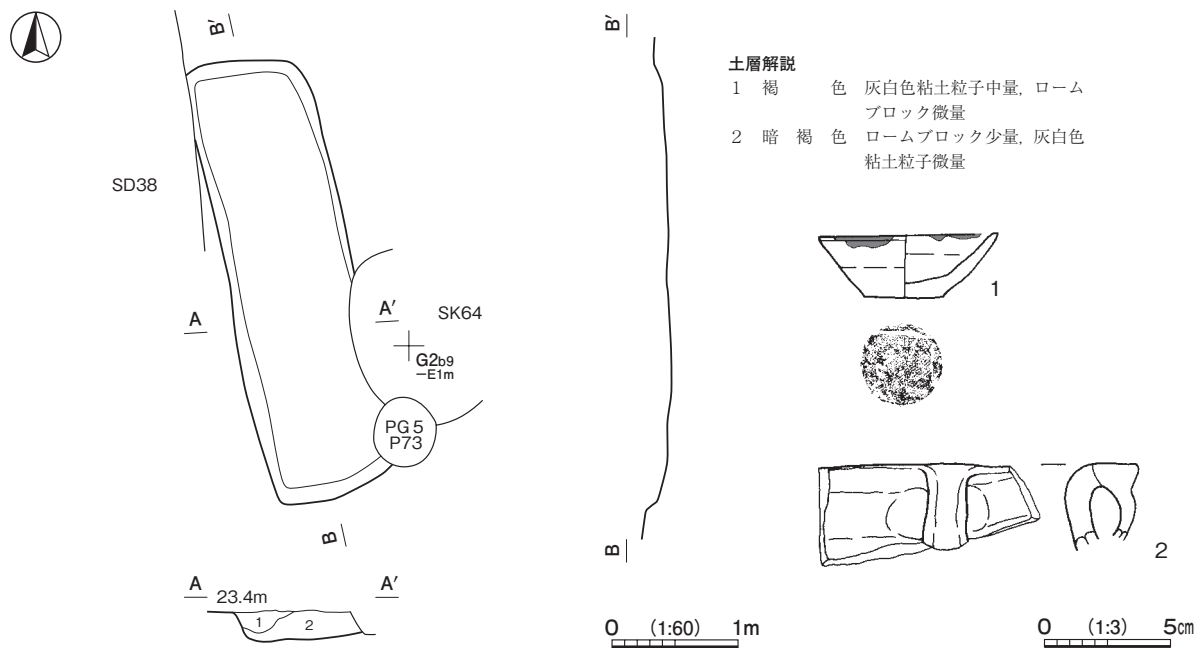
**重複関係** 第 64 号土坑, 第 5 号ピット群に掘り込まれている。第 38 号溝跡との新旧関係は不明である。

**規模と形状** 長軸 3.52 m, 短軸 1.02 m の長方形で, 長軸方向は N - 15° - W である。深さは 23cm で, 壁は外傾している。底面は平坦である。

**覆土** 2 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師質土器片 6 点 (皿 2, 内耳鍋 4), 礫 1 点が覆土中から出土している。1・2 は覆土中から出土している。埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は, 重複関係や出土土器から 16 世紀中葉と考えられる。性格は不明である。



第 97 図 第 63 号土坑・出土遺物実測図

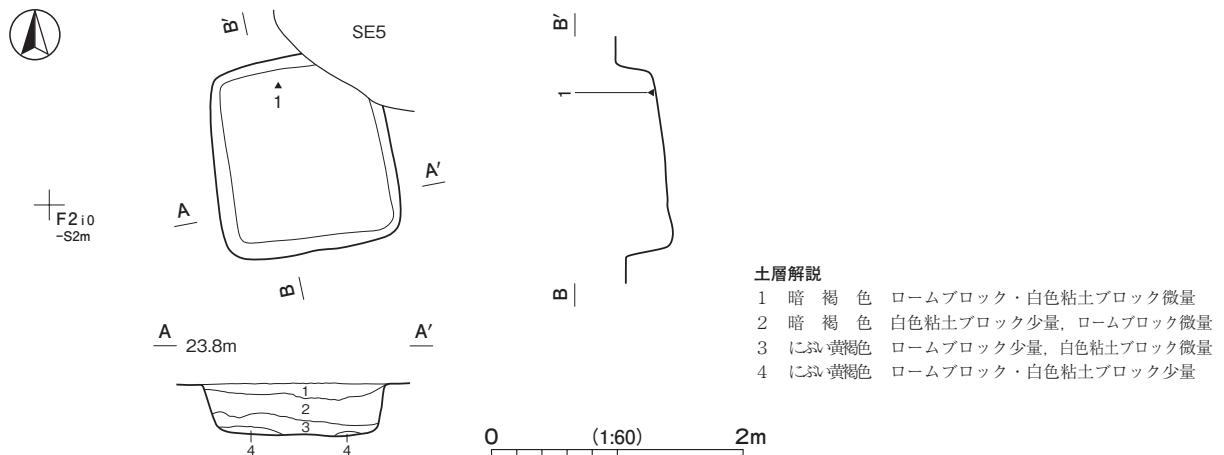
第 63 号土坑出土遺物観察表 (第 97 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	7.0	2.6	3.2	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	95% PL26 口縁部油煙付着
2	土師質土器	内耳鍋	-	(3.4)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	1内耳残存 耳貼り付け 体部外・内面ナデ	覆土中	5% 外面煤付着

第 81 号土坑 (第 98 図 PL15・41)

**位置** 調査区北西部の F 2 i 0 区, 標高 24 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第 5 号井戸に掘り込まれている。



第 98 図 第 81 号土坑実測図

**規模と形状** 長軸 1.55 m, 短軸 1.44 m の方形で, 長軸方向は N - 10° - W である。深さは 40cm で, 壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

**覆土** 4層に分層できる。第3・4層はロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。第1・2層は周辺の土砂が流れ込んだ自然堆積である。

**遺物出土状況** 土師質土器片3点(内耳鍋), 石器1点(砥石), 金属製品1点(不明), 漆器片1点(椀)が底面から出土している。いずれも細片のため図示できない。

**所見** 時期は, 出土土器から判断できないが, 16世紀代と考えられる。性格は不明である。

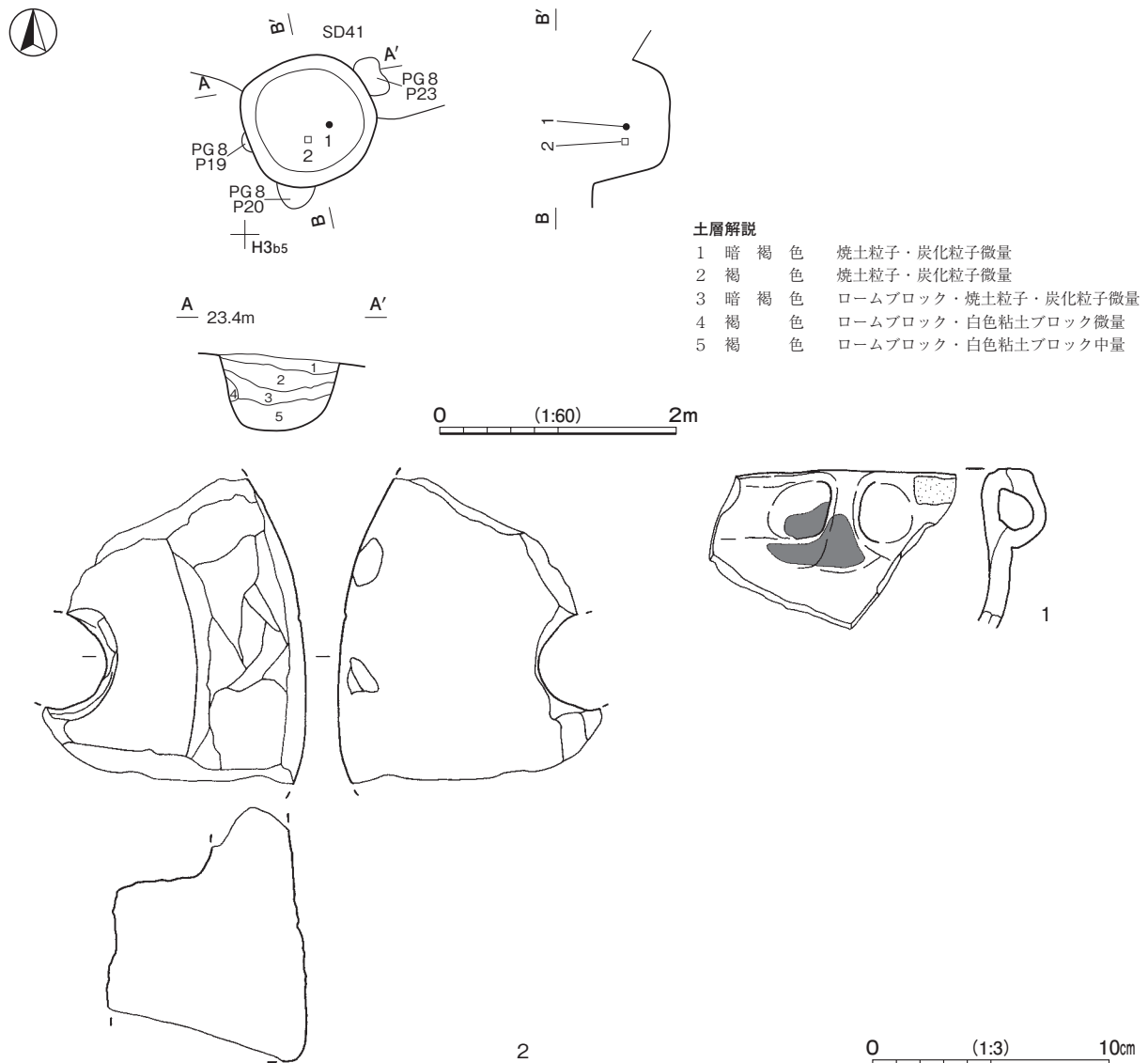
**第107号土坑 (第99図 PL15)**

**位置** 調査区中央部の H 3a5 区, 標高 24 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第41号溝跡, 第8号ピット群を掘り込んでいる。

**規模と形状** 径 1.16 m の円形である。深さは 64cm で, 壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

**覆土** 5層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。



第99図 第107号土坑・出土遺物実測図



**遺物出土状況** 土師器片2点(高坏, 甕類), 須恵器片1点(甕類), 土師質土器片2点(内耳鍋), 石器1点(石臼), 礫2点, 瓦片1点(軒丸瓦)が出土している。1・2は覆土中層から出土しており, 遺棄あるいは投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から16世紀代と考えられる。性格は不明である。

第107号土坑出土遺物観察表(第99図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	内耳鍋	-	(6.7)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	1内耳残存 耳貼り付け 体部外・内面ナデ	覆土中層	5% 外・内面煤付着
番号	器種	径・長さ	孔径	高さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
2	石臼	[22.6]	[4.4]	(10.8)	(1110)	安山岩	上白	播り目摩滅	覆土中層		

**第121号土坑(第100図 PL26)**

**位置** 調査区北西部のG2d0区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

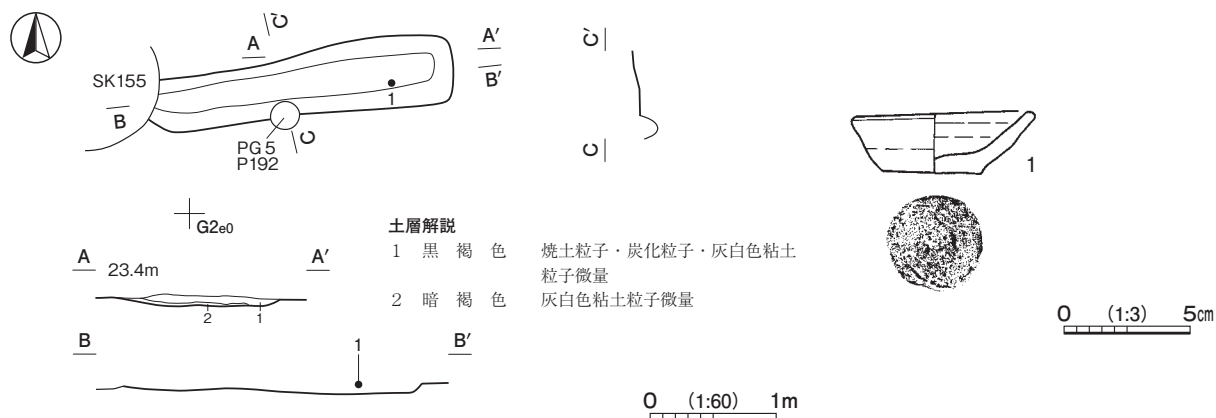
**重複関係** 第155号土坑に掘り込まれている。第5号ピット群との新旧関係は不明である。

**規模と形状** 第155号土坑に掘り込まれているため, 短軸は0.52mで, 長軸は2.36mしか確認できなかった。長軸方向はN-85°-Eの隅丸長方形である。深さは6cmで, 壁は外傾している。底面は平坦である。

**覆土** 2層に分層できる。周囲の土砂が流れ込んだ自然堆積である。

**遺物出土状況** 土師質土器片1点(皿)が出土している。1は覆土上層から出土しており, 埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から16世紀中葉と考えられる。性格は不明である。



第100図 第121号土坑・出土遺物実測図

第121号土坑出土遺物観察表(第100図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	7.0	2.5	3.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土上層	100% PL26

第 139 号土坑 (第 101 図 PL15・30)

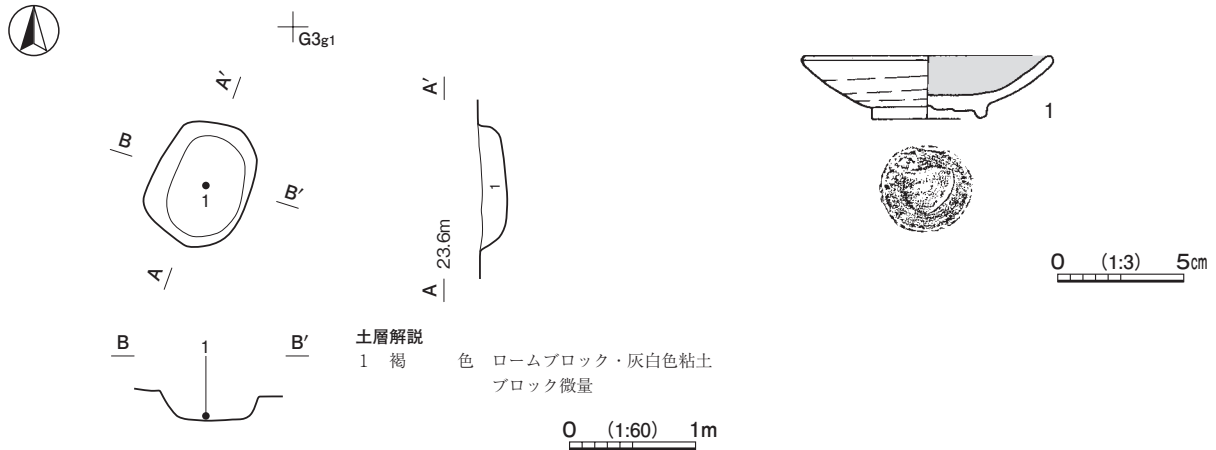
位置 調査区中央部の G 2g0 区, 標高 24 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径 1.01 m, 短径 0.78 m の楕円形で, 長径方向は N - 21° - E である。深さは 20cm で, 壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 単一層である。周辺の土砂が流れ込んだ自然堆積である。

遺物出土状況 陶器片 1 点 (皿) が底面から出土しており, 遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 15 世紀後葉と考えられる。性格は不明である。



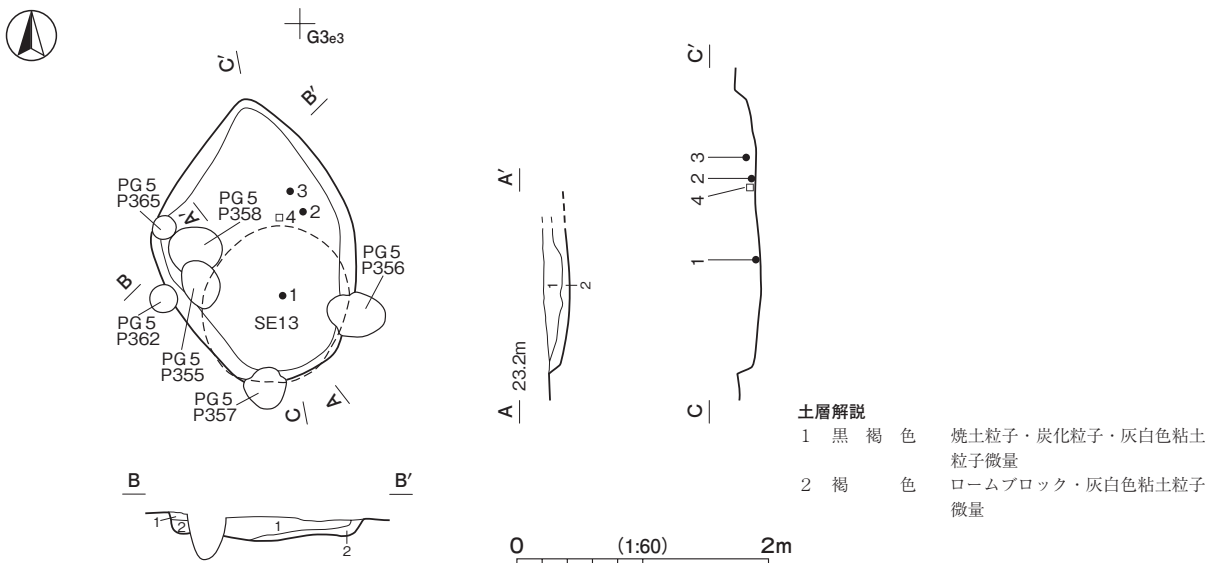
第 101 図 第 139 号土坑・出土遺物実測図

第 139 号土坑出土遺物観察表 (第 101 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	皿	9.8	2.5	4.4	長石・石英 淡黄	ロクロ成形 削り出し高台	透明釉	明	底面	95% 15世紀 PL30

第 140 号土坑 (第 102・103 図 PL16・26)

位置 調査区中央部の G 3e2 区, 標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。



第 102 図 第 140 号土坑実測図

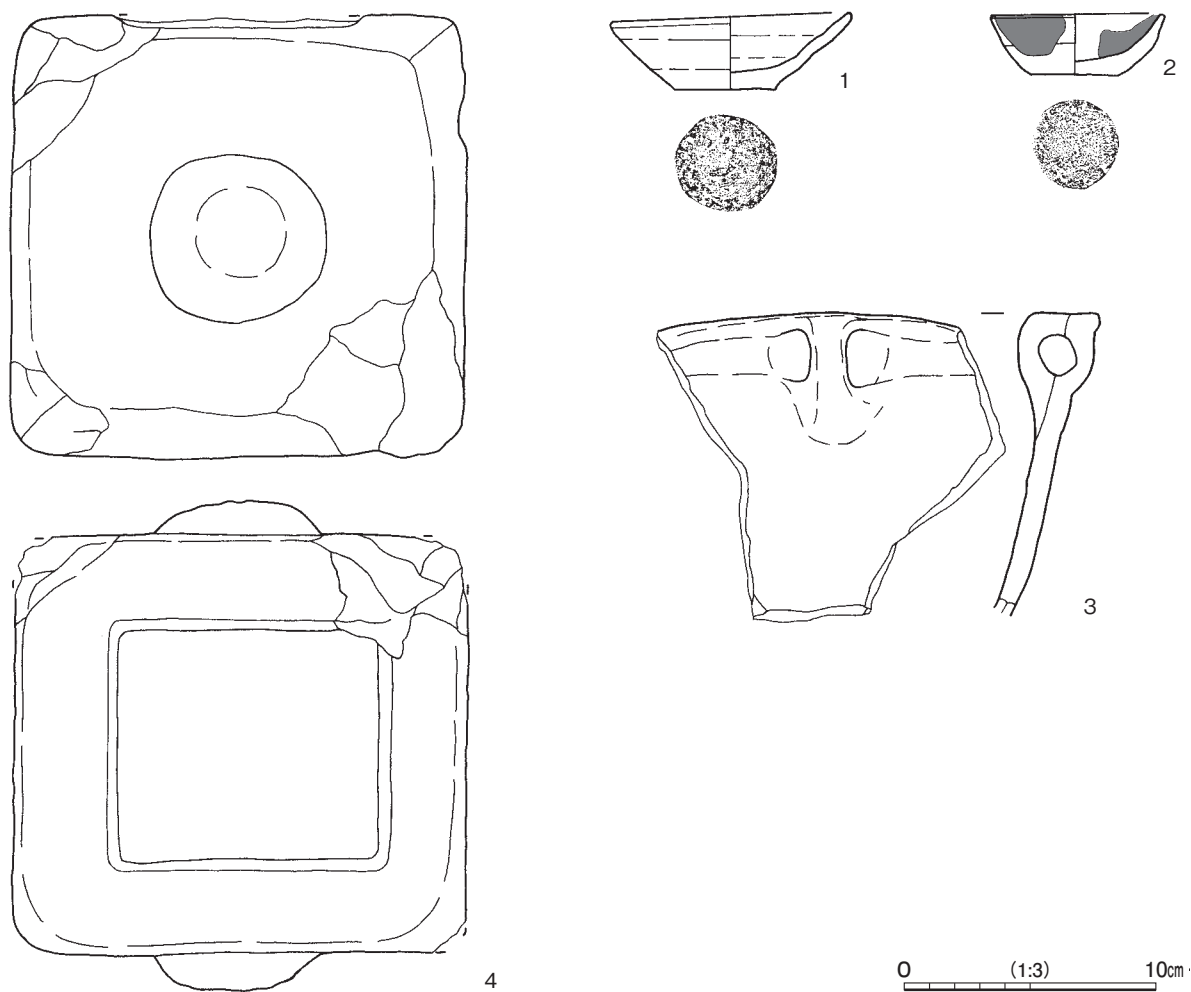
**重複関係** 第13号井戸跡を掘り込み、第5号ピット群に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径 2.26 m、短径 1.58 mの不整楕円形で、長径方向はN-5°-Wである。深さは21cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

**覆土** 2層に分層できる。周辺の土砂が流れ込んだ自然堆積である。

**遺物出土状況** 土師器片35点(甕類), 土師質土器片44点(皿16, 内耳鍋23, 鉢4, 挿鉢1), 陶器片1点(蓋), 石製品1点(宝篋印塔), 礫6点が出土している。1・2・4は底面から、3は覆土下層から出土している。遺棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から15世紀中葉~16世紀初頭と考えられる。性格は不明である。



第103図 第140号土坑出土遺物実測図

第140号土坑出土遺物観察表(第103図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	9.5	3.1	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	95% PL26
2	土師質土器	皿	6.7	2.4	3.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	100% PL26 外・内面煤付着
3	土師質土器	内耳鍋	-	(12.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	1内耳残存 耳貼り付け 体部外・内面ナデ	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4	宝篋印塔	18.1	17.7	19.4	(1110)	花崗岩	塔身部 四方側面に長方形区画4か所	底面	

第 146 号土坑 (第 104 図 PL16・27)

**位置** 調査区中央部の G 3 f 5 区, 標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。

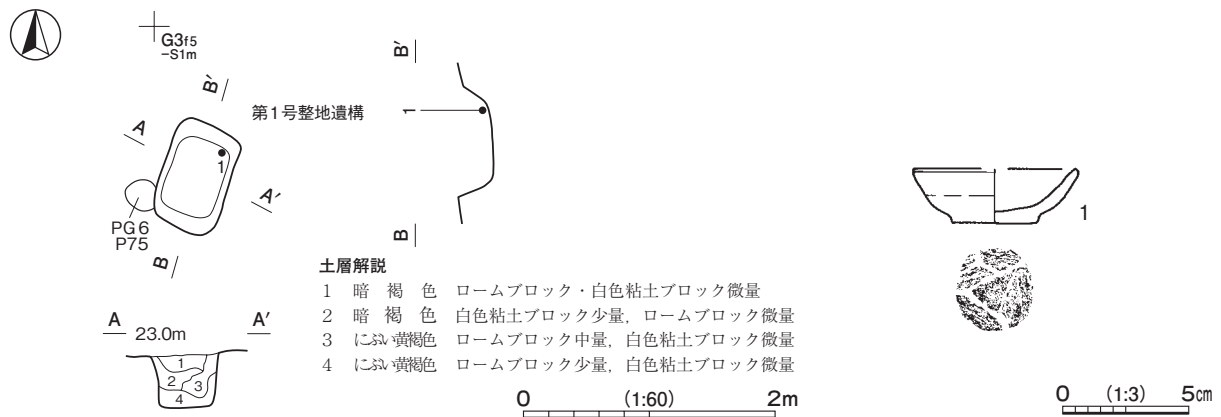
**重複関係** 第 1 号整地遺構, 第 6 号ピット群との新旧関係は不明である。

**規模と形状** 長軸 0.86 m, 短軸 0.53 m の長方形で, 長軸方向は N - 18° - E である。深さは 27cm で, 壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

**覆土** 4 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片 1 点 (甕), 土師質土器片 3 点 (皿 1, 内耳鍋 2) が出土している。1 は覆土下層から出土しており, 遺棄あるいは投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から 16 世紀代と考えられる。性格は不明である。



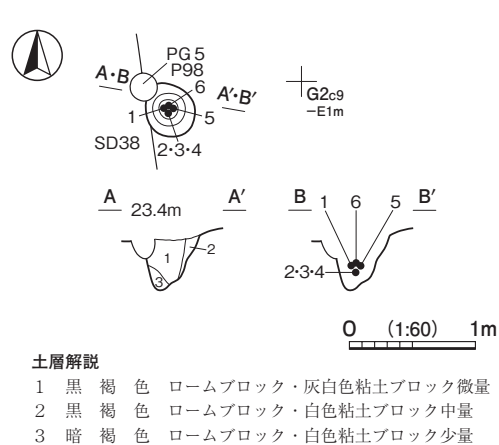
第 104 図 第 146 号土坑・出土遺物実測図

第 146 号土坑出土遺物観察表 (第 104 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[6.4]	2.2	3.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	60% PL27

第 152 号土坑 (第 105・106 図 PL27)

**位置** 調査区北西部の G 2 c 9 区, 標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。



**重複関係** 第 5 号ピット群に掘り込まれている。第 38 号溝跡との新旧関係は不明である。

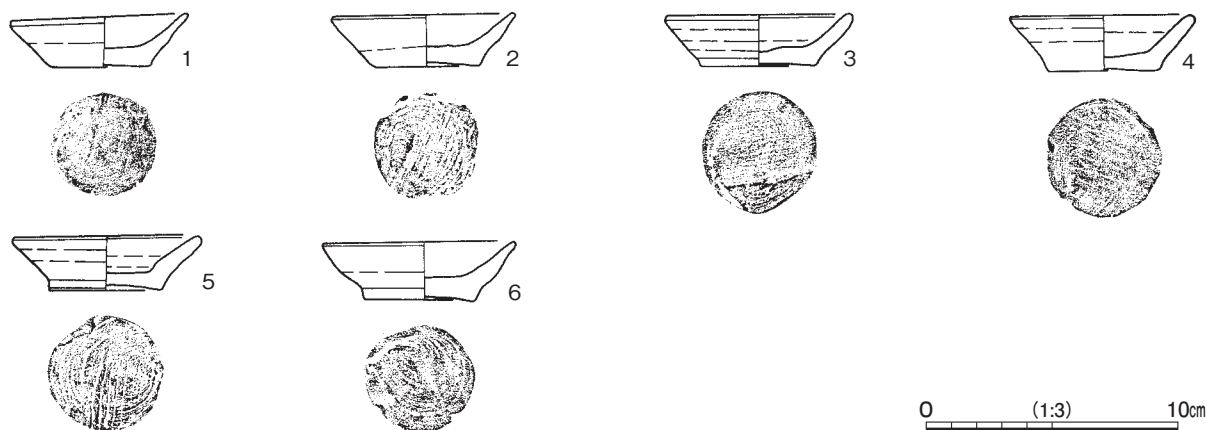
**規模と形状** 長径 0.48 m, 短径 0.43 m の楕円形で, 長径方向は N - 35° - W である。深さは 39cm で, 壁は外傾している。底面は皿状である。

**覆土** 3 層に分層できる。ロームブロックを含む壁面の崩落土で, 埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師質土器片 6 点 (皿) が出土している。1 ~ 6 は覆土中層から出土しており, 投棄あるいは遺棄されたものと考えられる。

第 105 図 第 152 号土坑実測図

所見 時期は，出土土器から14世紀後半～15世紀前葉と考えられる。性格は不明である。



第 106 図 第 152 号土坑出土遺物実測図

第 152 号土坑出土遺物観察表（第 106 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	7.2	2.1	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	90% PL27
2	土師質土器	皿	7.2	2.1	4.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	95% PL27
3	土師質土器	皿	7.2	2.1	4.6	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ ヘラ圧痕	覆土中層	100% PL27
4	土師質土器	皿	7.2	2.3	4.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	100% PL27
5	土師質土器	皿	7.3	2.2	4.6	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	100% PL27
6	土師質土器	皿	7.5	2.3	4.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	100% PL27

### 第 153 号土坑（第 107 図 PL30）

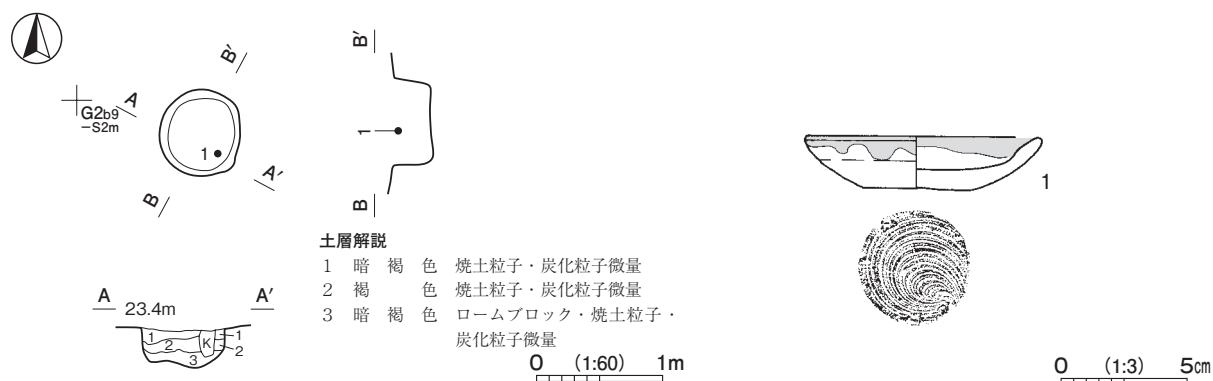
位置 調査区北西部のG 2b9 区，標高 23 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 径 0.68 mの円形である。深さは30cmで，壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

覆土 3層に分層できる。第1・2層は周囲の土砂が流れ込んだ自然堆積である。第3層はロームブロックを含んでいることから，埋め戻されている。

遺物出土状況 土師質土器片4点（皿2，甕2），陶器片1点（縁釉小皿）が出土している。1は覆土上層から出土している。投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から15世紀代と考えられる。性格は不明である。



第 107 図 第 153 号土坑・出土遺物実測図

第 153 号土坑出土遺物観察表 (第 107 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	縁袖小皿	9.2	2.2	4.2	長石・石英に ぶい黄	ロクロ成形 底部回転糸切り	施釉	瀬戸	覆土上層	100% PL30 古瀬戸後期Ⅳ期

第 154 号土坑 (第 108 図)

**位置** 調査区北西部の G 2d9 区, 標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。

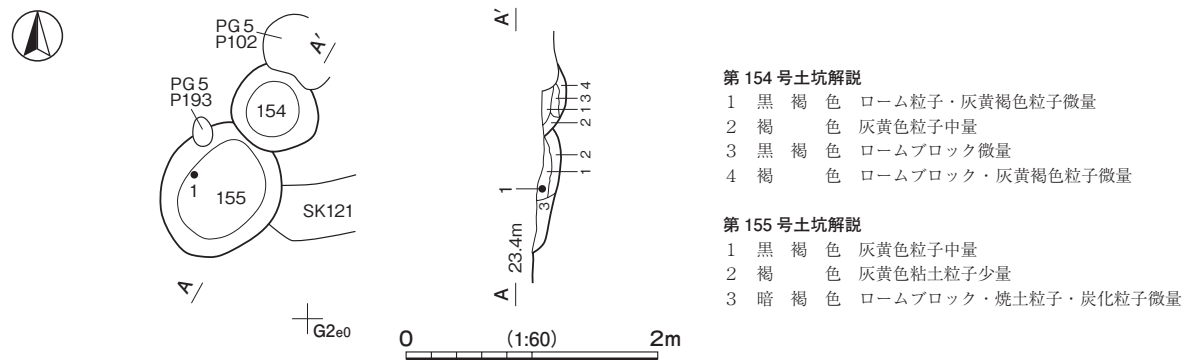
**重複関係** 第 155 号土坑を掘り込み, 第 5 号ピット群に掘り込まれている。

**規模と形状** 径 0.70 m の円形である。深さは 20cm で, 壁は外傾している。底面は皿状である。

**覆土** 4 層に分層できる。ロームブロックを含む壁面の崩落土で, 埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師質土器片 5 点 (皿 1, 内耳鍋 3, 播鉢 1) が出土している。いずれも細片のため図示できない。

**所見** 時期は, 出土土器から 15 世紀代と考えられる。性格は不明である。



第 108 図 第 154・155 号土坑実測図

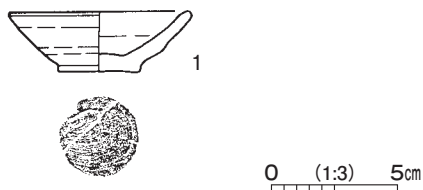
第 155 号土坑 (第 108・109 図 PL27)

**位置** 調査区中央部の G 2d9 区, 標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第 121 号土坑を掘り込み, 第 154 号土坑, 第 5 号ピット群に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径 1.10 m, 短径 0.94 m の楕円形で, 長径方向は N - 25° - E である。深さは 14cm で, 壁は外傾している。底面は皿状である。

**覆土** 3 層に分層できる。第 1~3 層はロームブロックを含む壁面の崩落土で, 埋め戻されている。



**遺物出土状況** 土師質土器片 1 点 (皿) が出土している。1 は覆土上層から出土しており, 投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から 15 世紀代と考えられる。性格は不明である。

第 109 図 第 155 号土坑出土遺物実測図

第 155 号土坑出土遺物観察表 (第 109 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	7.2	2.4	3.2	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土上層	80% PL27

表 13 中世土坑一覧表

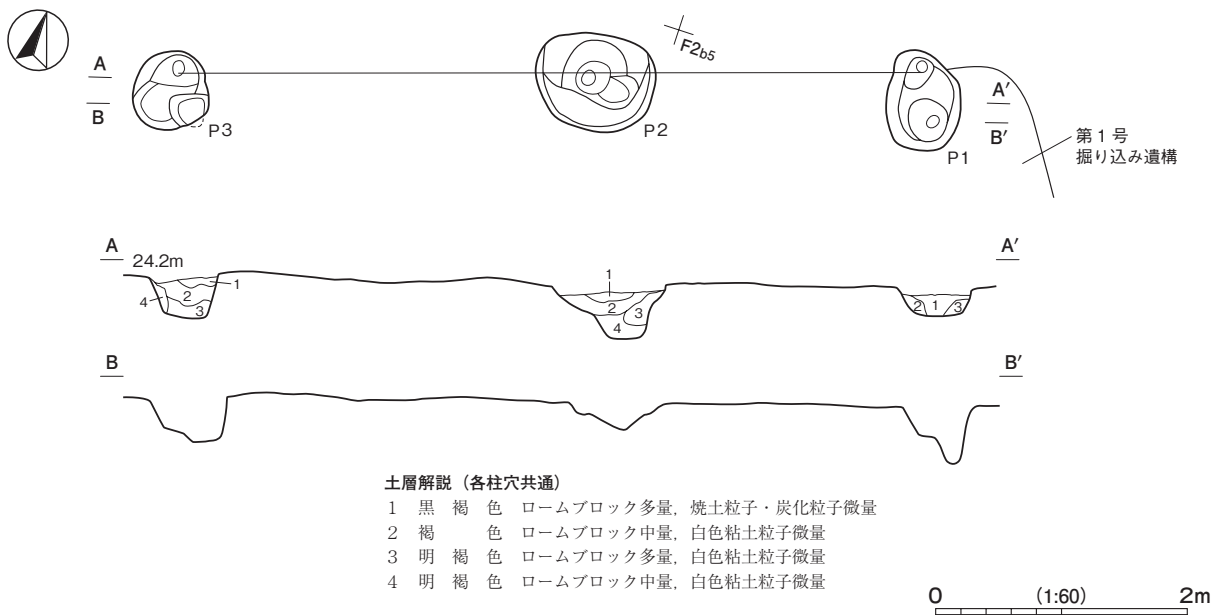
番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
26	G2 a8	N-82°-E	[楕円形]	(1.46)×(1.18)	64	皿状	外傾	人為	土師質土器	本跡→SD26・37
35	G2 a6	N-15°-W	隅丸長方形	3.78×(0.98)	30	平坦	外傾	人為	土師質土器, 礫	SK36→本跡→SD28
38	G2 a8	N-84°-E	隅丸長方形	2.02×1.16	12	平坦	外傾	人為	土師質土器	SD38→本跡→SB8
43	G2 c6	N-81°-E	楕円形	0.42×0.36	82	U字状	ほぼ直立	自然	土師質土器	
63	G2 a8	N-15°-W	長方形	3.52×1.02	23	平坦	外傾	人為	土師質土器	本跡→SK64, P 5, SD38と重複
81	F2 i0	N-10°-W	方形	1.55×1.44	40	平坦	直立	自然	土師質土器, 漆器片	本跡→SE 5
107	H3 a5	-	円形	1.16	64	平坦	直立	人為	土師質土器, 石器, 瓦	SD41, PG8→本跡
121	G2 d0	N-85°-E	隅丸長方形	(2.36)×0.52	6	平坦	外傾	自然	土師質土器	本跡→SK155, PG5と重複
139	G2 g0	N-21°-E	楕円形	1.01×0.78	20	平坦	外傾	自然	陶器	
140	G3 e2	N-5°-W	不整楕円形	2.26×1.58	21	平坦	外傾	自然	土師質土器, 陶器, 宝篋印塔	SE13→本跡→PG 5
146	G3 f5	N-18°-E	長方形	0.86×0.53	27	平坦	ほぼ直立	人為	土師質土器	PG 6, 第1号整地遺構と重複
152	G2 c9	N-35°-W	楕円形	0.48×0.43	39	皿状	外傾	人為	土師質土器	本跡→PG 5, SD38と重複
153	G2 b9	-	円形	0.68	30	平坦	ほぼ直立	人為	土師質土器, 陶器	
154	G2 d9	-	円形	0.70	20	皿状	外傾	人為	土師質土器	SK155→本跡→PG 5
155	G2 d9	N-25°-E	楕円形	1.10×0.94	14	皿状	外傾	人為	土師質土器	SK121→本跡→SK154, PG 5

(7) 柱穴列

第 1 号柱穴列 (第 110 図)

位置 調査区北西部の F2 b4 ~ F2 b5 区, 標高 24 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 1 号掘り込み遺構を掘り込んでいる。



第 110 図 第 1 号柱穴列実測図

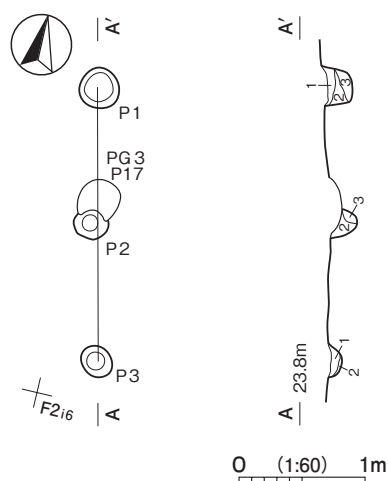


**規模と構造** 硬化面の広がる第1号掘り込み遺構を掘り込んでいるが、東西方向6.00mの間に並ぶ柱穴3か所を確認した。配列方向はN-72°-Eである。柱間寸法は2.7~3.3m(9~11尺)と不揃いである。

**柱穴** 3か所。平面形は不整楕円形で、長径65~95cm、短径58~77cmである。深さは24~40cmで、掘方の壁はほぼ直立もしくは外傾している。4層に分層でき、第1・2層は柱材の抜き取り後の覆土である。

**所見** 時期は、調査区域で15~16世紀の遺物が採集できており、室町時代と考えられる。性格は第11号溝に沿って直線状に延びていることから、屋敷域を区画する門の柵列跡と考えられる。

**第3号柱穴列 (第111図)**



**土層解説 (各柱穴共通)**

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量
- 3 明褐色 ロームブロック多量

**位置** 調査区北部のF2h6区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第3号ピット群に掘り込まれている。

**規模と構造** 南北方向2.40mの間に並ぶ柱穴3か所を確認した。配列方向はN-12°-Wである。柱間寸法は1.2m(4尺)と等間隔である。

**柱穴** 3か所。平面形は円形か楕円形で、長径27~31cm、短径23~31cmである。深さは10~24cmで、掘方の壁はほぼ直立もしくは外傾している。3層に分層でき、第1~3層は柱材の抜き取り後の覆土である。

**所見** 時期は、柱穴の規模が小規模であることや調査区域で15~16世紀の遺物が採集できており、室町時代と考えられる。性格は第28号溝に沿って直線状に延びていることから、塀や柵と考えられる。

**第111図** 第3号柱穴列実測図

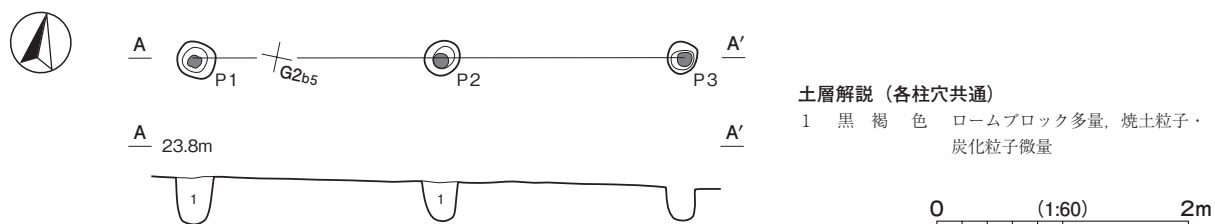
**第7号柱穴列 (第112図)**

**位置** 調査区北西部のG2a5区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第7号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

**規模と構造** 東西方向3.90mの間に並ぶ柱穴3か所を確認した。配列方向はN-78°-Eである。柱間寸法は1.8m(6尺)と2.1m(7尺)で、ほぼ等間隔である。

**柱穴** 3か所。平面形は円形か楕円形で、長径25~30cm、短径22~28cmである。深さは26~38cmで、断面形はU字状で、掘方の壁はほぼ直立もしくは外傾している。単一層で、ロームブロックが多く含まれていることなどから、柱材を抜き取った後の覆土である。P1~P3の底面で柱のあたりを確認した。



**土層解説 (各柱穴共通)**

- 1 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

**第112図** 第7号柱穴列実測図

所見 時期は、柱穴の規模が小規模であることや、配列方向が第7号掘立柱建物跡の桁行方向にはほぼ直交していることから、15世紀代と考えられる。性格は掘立柱建物や塀と考えられる。

### 第8号柱穴列 (第113図)

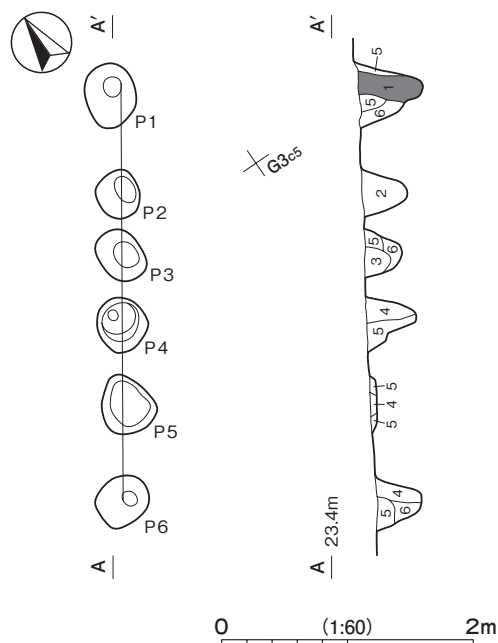
**位置** 調査区中央部のG3c4区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と構造** 南北方向3.30mの間に並ぶ柱穴6か所を確認した。配列方向はN-36°-Eである。柱間寸法は0.90m(3尺)、0.60m(2尺)と不揃いである。

**柱穴** 6か所。平面形は円形か楕円形で、長径36~52cm、短径32~42cmである。深さは5~51cmで、掘方の壁はほぼ直立もしくは外傾している。6層に分層でき、第1層は柱跡痕、第2~4層は柱材を抜き取った後の覆土、第5・6層は埋土である。

**遺物出土状況** 陶器片1点(皿)、石器1点(砥石)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、柱穴の規模が小規模であることや調査区域で15~16世紀の遺物が採集できており、室町時代と考えられる。性格は掘立柱建物や塀と考えられる。



#### 土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量
- 3 明褐色 ロームブロック多量
- 4 黒褐色 黄褐色粘土ブロック少量
- 5 暗褐色 黄褐色・灰黄色粘土ブロック多量
- 6 暗褐色 黄褐色・灰黄色粘土ブロック中量

第113図 第8号柱穴列実測図

表14 中世柱穴列一覧表

番号	位置	主軸方向	長さ(m)	柱間(m)	柱 穴					主な出土遺物	備 考
					柱穴数	平面形	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)		
1	F2b4~F2b5	N-72°-E	6.00	2.7~3.3	3	不整楕円形	65~95	58~77	24~40	-	第1号掘り込み遺構 →本跡
3	F2h6	N-12°-W	2.40	1.2	3	円形 楕円形	27~31	23~31	10~24	-	本跡→PG3
7	G2a5	N-78°-E	3.90	1.8~2.1	3	円形 楕円形	25~30	22~28	26~38	-	SB7と重複
8	G3c4	N-36°-E	3.30	0.6~0.9	6	円形 楕円形	36~52	32~42	5~51	陶器	

### (8) 溝跡

#### 第11号溝跡 (第114・115図)

**位置** 調査区北西部のF1b9~F2c3区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

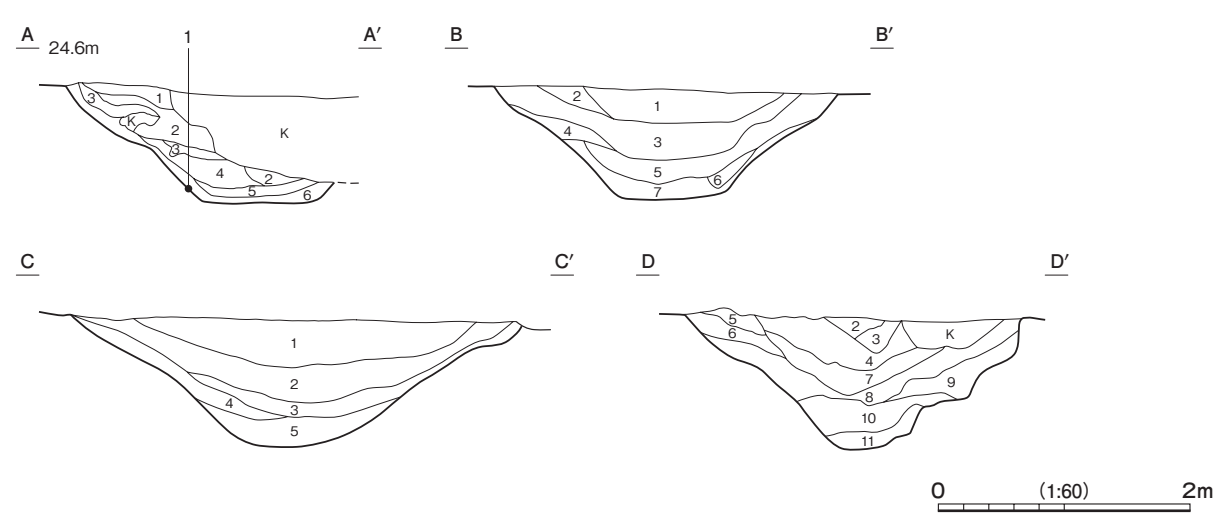
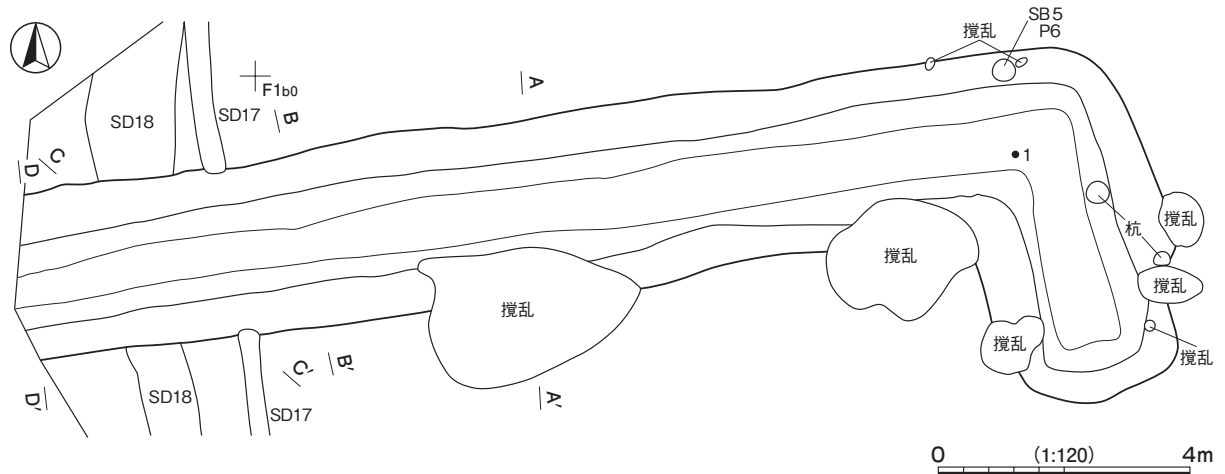
**重複関係** 第5号掘立柱建物跡、第18号溝跡を掘り込み、第17号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** F2c3区から北方向(N-13°-W)へ延び、F2b3区から西方向(N-80°-E)へL字状に延び、F1b9区で、調査区域外へ至っている。確認できた長さは20.82mで、上幅2.62~3.14m、下幅0.54~1.00m、深さ89~104cmである。断面形は逆台形である。

**覆土** 11層に分層できる。Cラインの土層はロームブロックを含んでいる層もあるが、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。それ以外はロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片7点(深鉢), 土師器片81点(甕類), 須恵器片53点(坏16, 高台付坏2, 蓋3, 甕類32), 土師質土器片20点(皿17, 内耳鍋3), 陶器片36点(碗2, 鉢6, 播鉢1, 片口鉢1, 甕26)が出土している。1は覆土下層から, 2は覆土中から出土している。

**所見** 時期は, 重複関係や出土土器から16世紀代と考えられる。性格は, 屋敷域を囲む区画溝と考えられる。

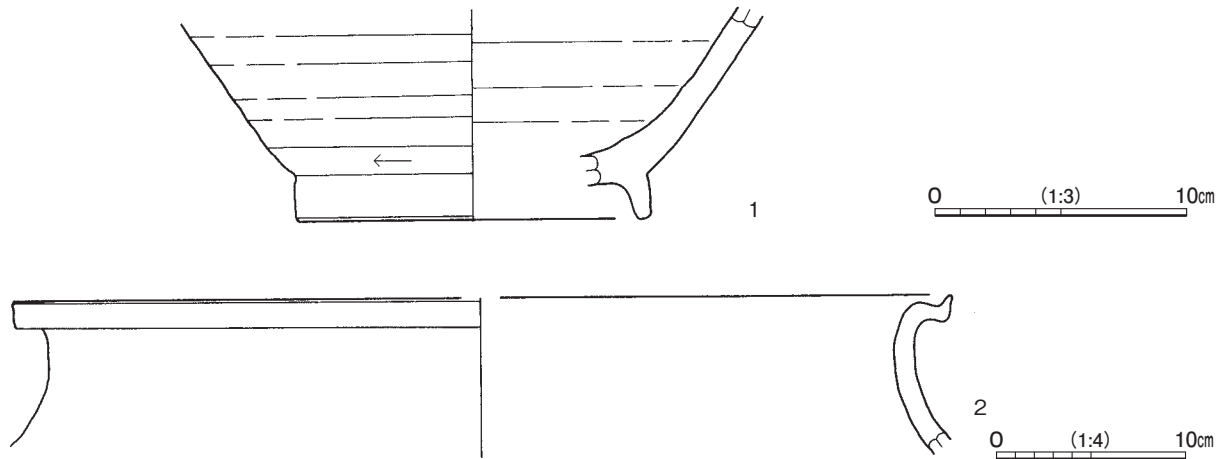


- 土層解説 (A-A', D-D')**
- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
  - 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
  - 3 暗褐色 ロームブロック微量
  - 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
  - 5 黒褐色 ロームブロック微量
  - 6 黒褐色 ロームブロック中量
  - 7 極暗褐色 ロームブロック少量
  - 8 暗褐色 ロームブロック少量
  - 9 暗褐色 ロームブロック微量
  - 10 暗褐色 ロームブロック多量
  - 11 褐色 ロームブロック中量

- 土層解説 (B-B')**
- 1 褐色 ロームブロック多量
  - 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭火粒子微量
  - 3 褐色 ロームブロック少量, 炭火粒子微量
  - 4 暗褐色 ロームブロック少量
  - 5 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
  - 6 黒色 ロームブロック多量
  - 7 暗褐色 ロームブロック中量

- 土層解説 (C-C')**
- 1 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
  - 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭火粒微量
  - 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
  - 4 暗褐色 ロームブロック少量
  - 5 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第114図 第11号溝跡実測図



第 115 図 第 11 号溝跡出土遺物実測図

第 11 号溝跡出土遺物観察表 (第 115 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	鉢	-	(8.3)	[13.7]	長石・石英 灰黄褐	体部下端回転ヘラ削り 体部回転ナデ 貼り出し高台	無釉	瀬戸・美濃	覆土下層	10% 大窯期
2	陶器	甕	[49.8]	(8.5)	-	長石・石英 灰黄褐	口縁部外・内面ナデ 折り返し部隙間	自然釉	常滑	覆土中	5% 5形式

### 第 12 号溝跡 (第 116・117 図 PL16・32)

**位置** 調査区北西部の F2c8～F2d1 区, 標高 24 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第 2 号地下式坑, 第 1・3 号陥し穴, 第 11・14 号土坑, 第 19 号溝跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** F2d1 区から北東方向 (N - 80° - E) へ直線状に延び, F2c8 区で調査区域外へ至っている。確認できた長さは 25.8 m で, 上幅 2.82 ~ 3.32 m, 下幅 0.48 ~ 1.00 m, 深さ 94 ~ 128cm である。断面形は逆台形である。

**覆土** 10層に分層できる。E ラインの土層はロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から, 埋め戻されている。その他はロームブロックを含んでいる層もあるが, レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

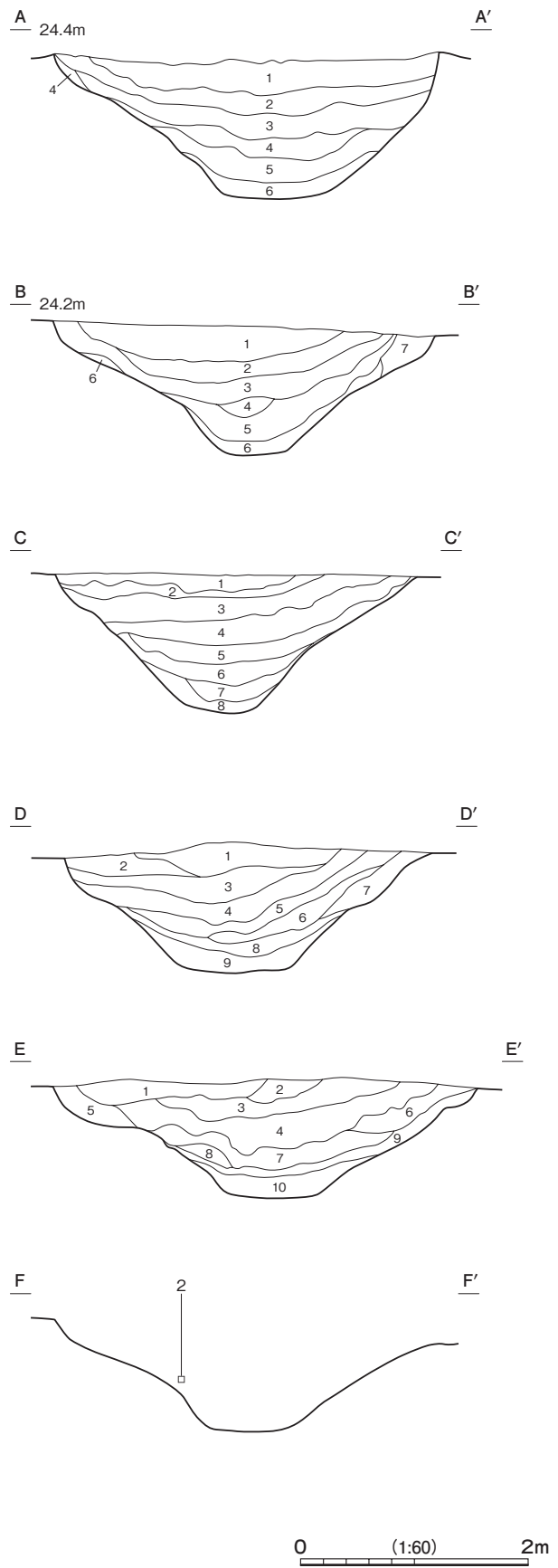
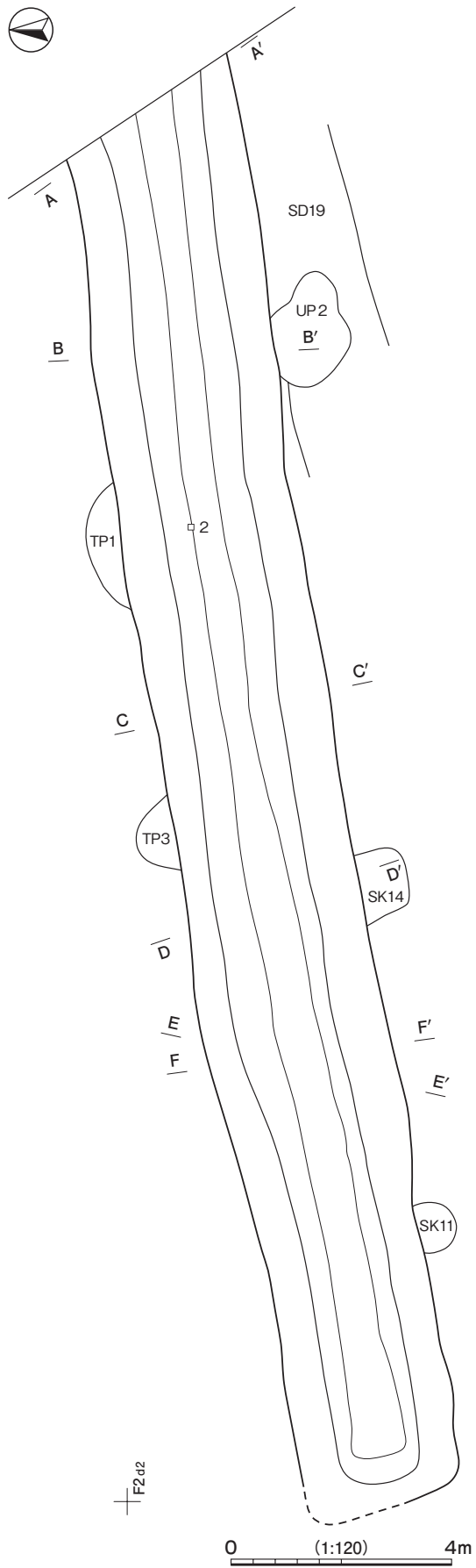
**遺物出土状況** 縄文土器片 4 点 (深鉢), 土師器片 57 点 (坏 4, 高台付坏 1, 高坏 1, 甕類 51), 須恵器片 33 点 (坏 10, 高台付坏 1, 蓋 5, 甕類 17), 土師質土器片 23 点 (皿), 陶器片 7 点 (碗 1, 鉢 3, 甕 3), 石器 1 点 (石臼), 礫 8 点, 瓦片 43 点 (丸瓦 18, 平瓦 25) が出土している。2 は覆土中層から出土している。1 は覆土中から出土している。

**所見** 時期は, 重複関係や出土土器から 16 世紀代と考えられる。性格は, 屋敷域を囲む区画溝と考えられる。

第 12 号溝跡出土遺物観察表 (第 117 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	甕	[50.0]	(5.7)	-	長石・石英 淡黄	口縁部外・内面ナデ 口縁部と頸部に 隙間	自然釉	常滑	覆土中	5% 10形式

番号	器種	径・長さ	孔径	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2	石臼	[40.0]	-	(10.8)	(1303.7)	安山岩	上臼 挽き手穴残存 掘り目摩滅	覆土中層	PL32



第 116 图 第 12 号沟迹实测图

土層解説 (A-A'・B-B')

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・白色粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 明褐色 ロームブロック・白色粘土粒子多量
- 3 黒褐色 ロームブロック・白色粘土粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・白色粘土粒子多量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量
- 6 黒色 白色粘土粒子・ロームブロック少量

土層解説 (E-E')

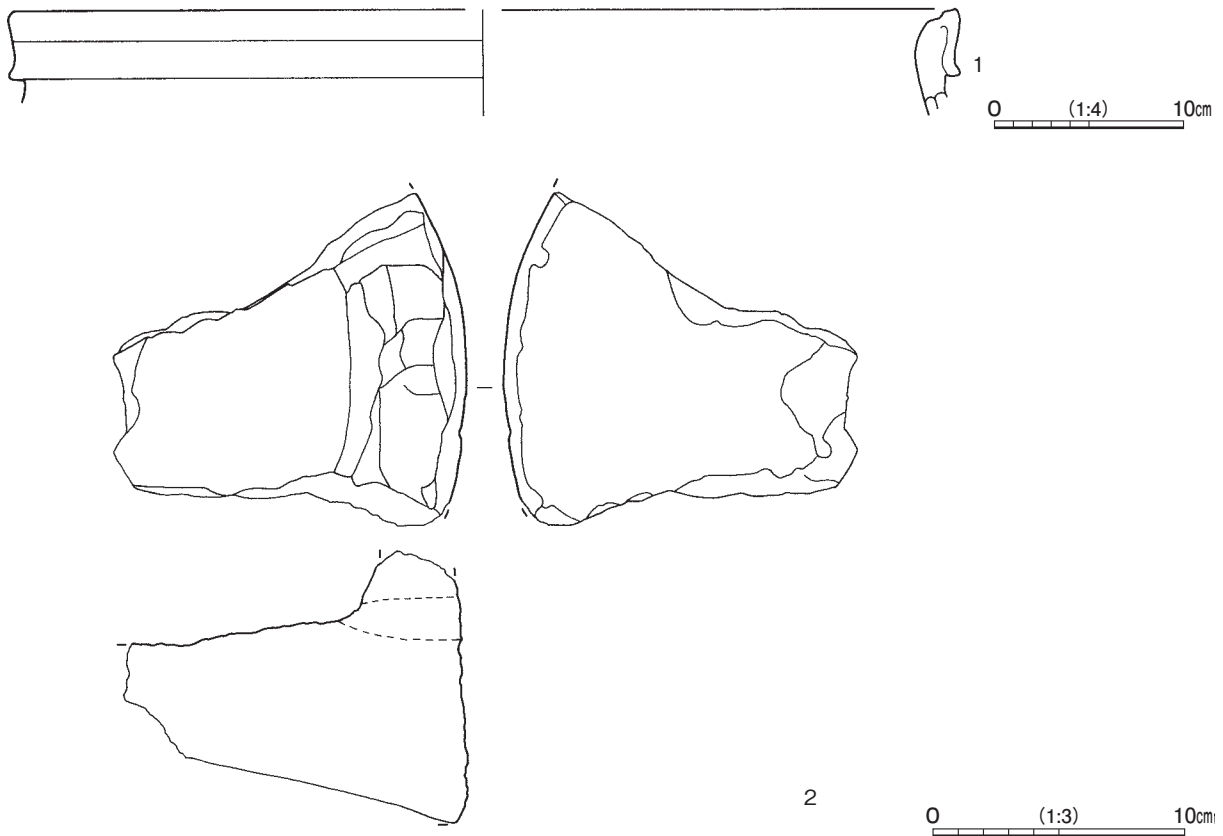
- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 白色粘土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 明褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 7 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 褐色 ロームブロック多量
- 9 暗褐色 ロームブロック中量
- 10 褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

土層解説 (C-C')

- 1 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 明褐色 ロームブロック多量
- 6 黒褐色 ロームブロック中量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量
- 8 暗褐色 ロームブロック多量

土層解説 (D-D')

- 1 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 明褐色 ロームブロック多量
- 6 黒褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量
- 8 暗褐色 ロームブロック多量
- 9 暗褐色 ロームブロック・白色粘土粒子多量



第 117 図 第 12 号溝跡出土遺物実測図

第 13 号溝跡 (第 118・119 図 PL27)

**位置** 調査区北西部の F 3 g1～F 2 j6 区, 標高 24 m ほどの平坦な台地上に位置している。

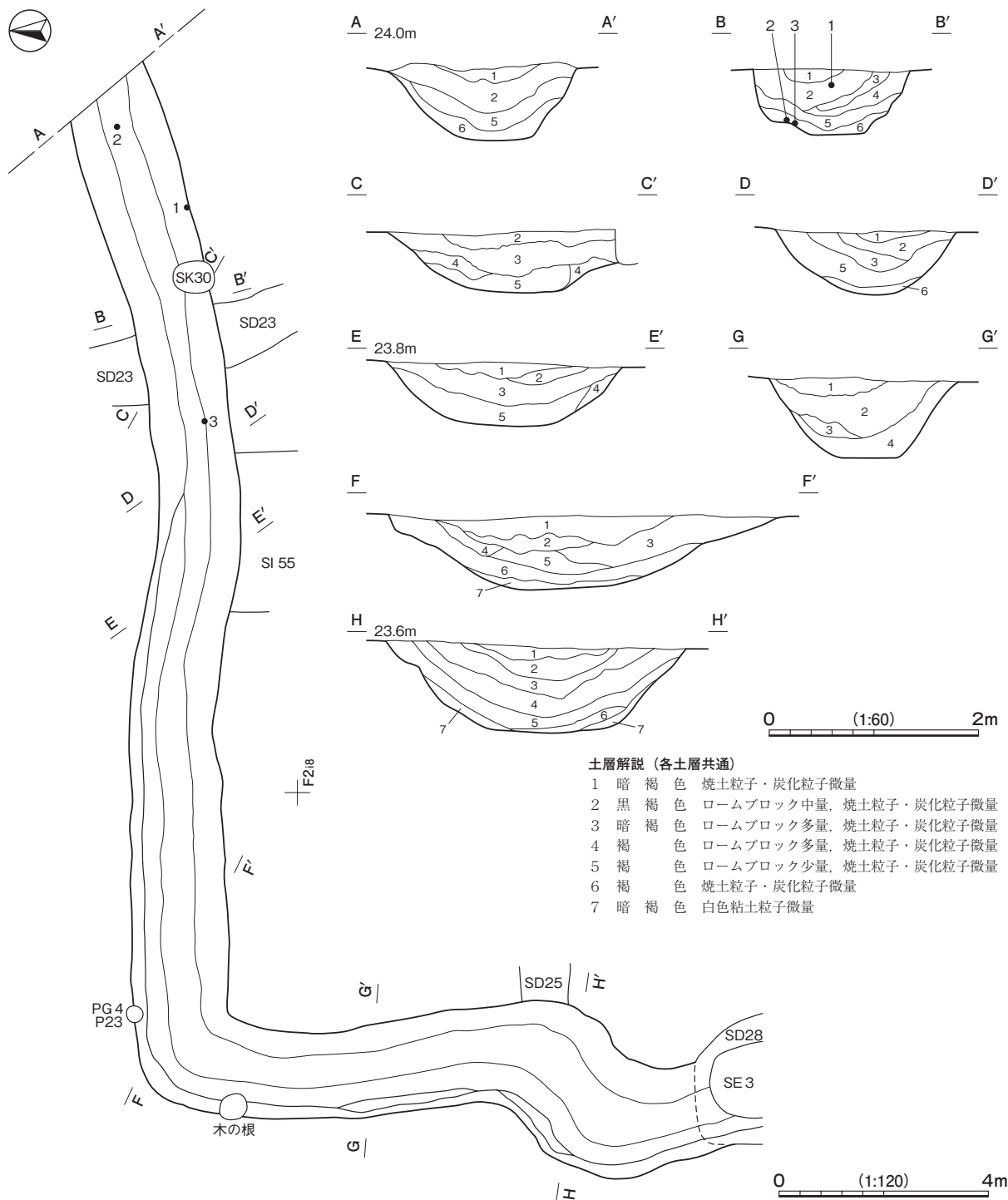
**重複関係** 第 55 号竪穴建物跡, 第 23・25 号溝跡を掘り込み, 第 3 号井戸, 第 30 号土坑, 第 4 号ピット群に掘り込まれている。第 28 号溝跡との新旧関係は不明である。

**規模と形状** F 2 j6 区から北方向(N - 5° - E)に延び, F 2 h6 区から東方向(N - 85° - E)へL字状に延びて, 調査区域外に至っている。確認できた長さは 28.28 m で, 上幅 1.50 ~ 2.36 m, 下幅 0.32 ~ 1.04 m, 深さ 56 ~ 81cm である。断面形は浅い U 字状である。

**覆土** 7層に分層できる。ロームブロックを含んでいる層もあるが、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

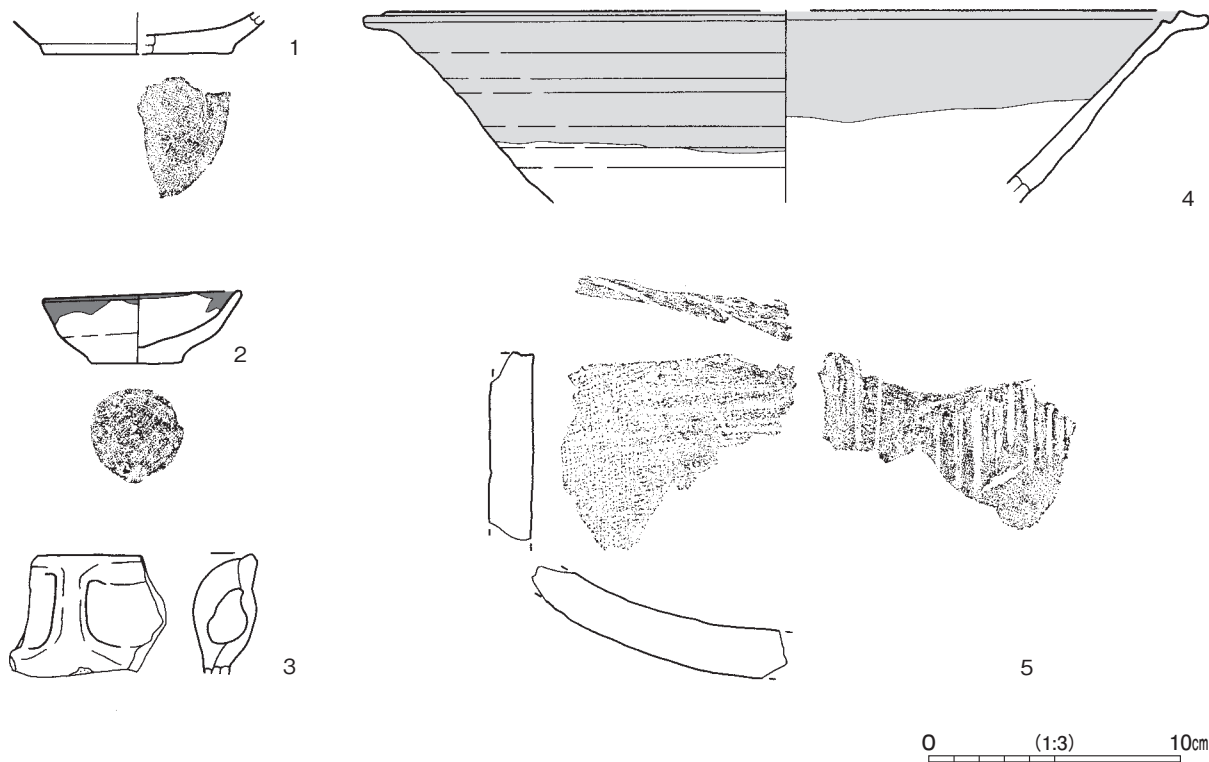
**遺物出土状況** 縄文土器片1点(深鉢), 土師器片53点(高台付坏1, 高坏1, 甕類51), 須恵器片31点(坏8, 蓋1, 甕類22), 土師質土器片71点(皿32, 内耳鍋32, 播鉢5, 甕類2), 陶器片9点(碗1, 皿1, 折縁深皿1, 鉢6), 石器6点(石臼1, 砥石5), 礫22点, 金属製品1点(不明), 瓦片20点(丸瓦6, 平瓦14)が出土している。2・3は底面から, 1は覆土上層から, 4・5は覆土中から出土している。

**所見** 時期は, 重複関係や出土土器から16世紀前葉と考えられる。性格は, 屋敷域を囲む区画溝と考えられる。



第118図 第13号溝跡実測図





第 119 図 第 13 号溝跡出土遺物実測図

第 13 号溝跡出土遺物観察表 (第 119 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	-	(1.7)	[7.5]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土上層	10%
2	土師質土器	皿	7.7	2.9	3.6	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底中央部凹凸	底面	95% PL27 口縁部煤付着
3	土師質土器	内耳鍋	-	(4.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	1内耳残存 耳貼り付け	底面	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
4	陶器	折縁深皿	[33.5]	(7.65)	-	長石・石英にぶい黄	口縁部折曲	灰釉	瀬戸	覆土中	10% 古瀬戸第3期

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
5	瓦	平瓦	(11.6)	1.9	(7.5)	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	凸面平行叩き 凹面布目痕	覆土中	

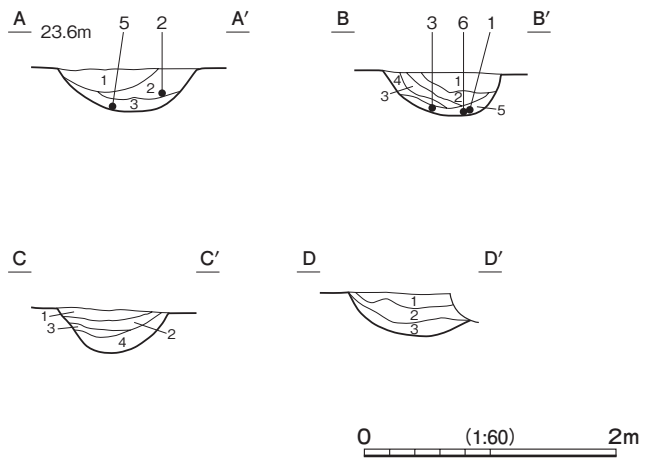
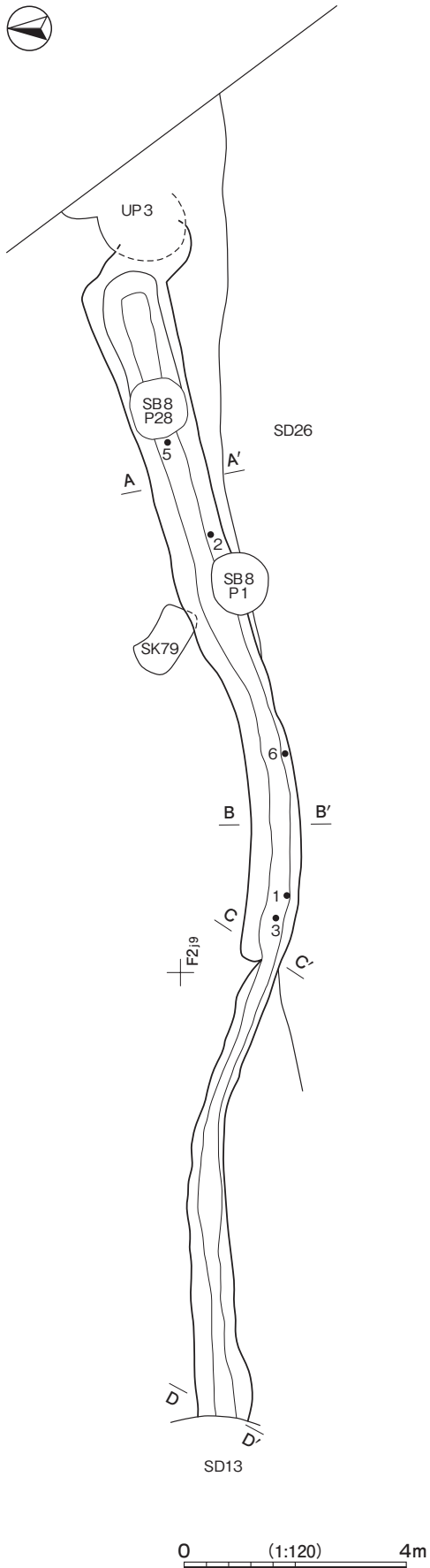
#### 第 25 号溝跡 (第 120・121 図 PL17・27)

**位置** 調査区北西部の F 2j7～F 3i2 区, 標高 24 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第 26 号溝跡を掘り込み, 第 8 号掘立柱建物, 第 13 号溝に掘り込まれている。第 3 号地下式坑, 第 79 号土坑との新旧関係は不明である。

**規模と形状** F 2j7 区から東方向 (N - 75° - E) へ直線状に延び, F 3i2 区で, 調査区域外へ延びている。確認できた長さは 21.44 m で, 上幅 0.33 ~ 1.50 m, 下幅 0.15 ~ 0.50 m, 深さ 32 ~ 34cm である。断面形は浅い U 字状である。

**覆土** 5 層に分層できる。レンズ状に自然堆積している部分もあるが, 粘土ブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。



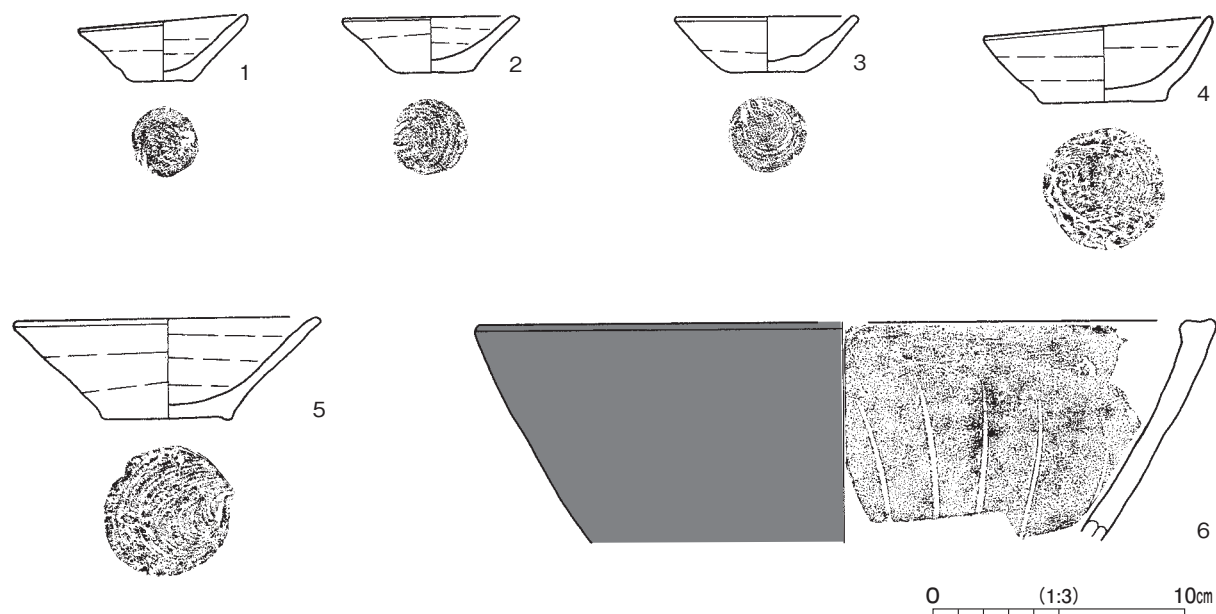
土層解説 (各土層共通)

- 1 黒 褐色 黄褐色粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 黄褐色粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 黄褐色粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 灰白色粘土ブロック中量
- 5 暗 褐色 灰白色粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第 120 図 第 25 号溝跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片45点（甕類），須恵器片7点（坏2，高台付坏1，甕類4），土師質土器片24点（皿19，内耳鍋1，鉢2，播鉢2），陶器片4点（碗1，大皿1，鉢2），礫4点，鉄滓3点，瓦片4点（丸瓦）が出土している。1・3・5・6は底面から，2は覆土中層から，4は覆土中から出土しており，いずれも投棄あるいは混入と考えられる。

**所見** 時期は，重複関係や出土土器から15世紀中葉～後葉と考えられる。性格は，排水と屋敷を囲む区画溝と考えられる。



第121図 第25号溝跡出土遺物実測図

第25号溝跡出土遺物観察表（第121図）

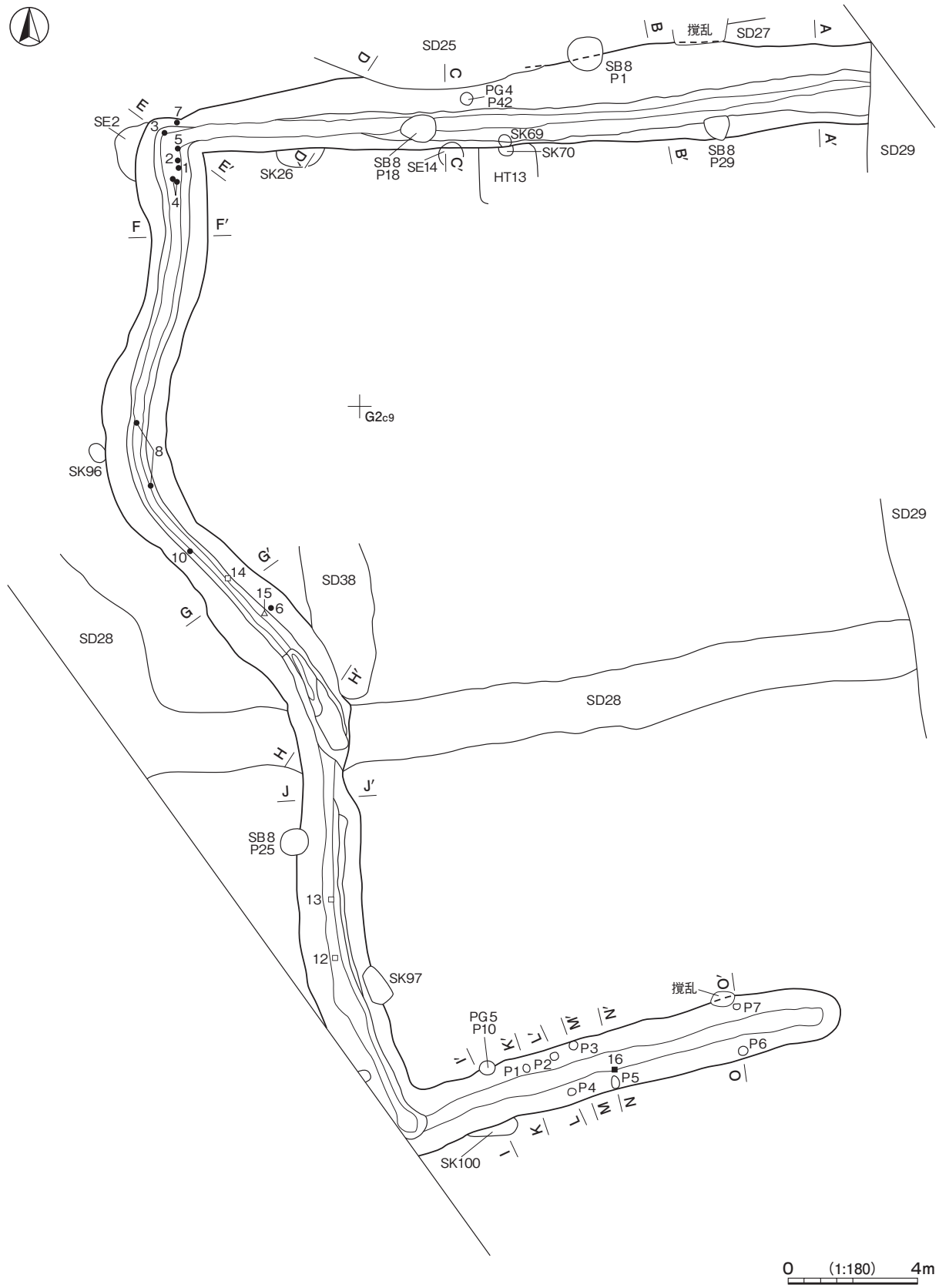
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	6.6	2.6	2.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデナデ 内底中央部凹み 底部回転糸切り後	底面	100% PL27
2	土師質土器	皿	6.7	2.3	3.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデナデ 内底中央部凹み 底部回転糸切り後	覆土中層	100% PL27
3	土師質土器	皿	7.0	2.3	3.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデナデ 底部回転糸切り後	底面	100% PL27
4	土師質土器	皿	9.0	3.4	4.9	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデナデ 底部回転糸切り後	覆土中	90% PL27
5	土師質土器	皿	11.9	4.1	5.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデナデ 内底中央部凹み 底部回転糸切り後	底面	70% PL27
6	土師質土器	播鉢	[29.0]	(8.7)	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	内面1条1単位の播り目	底面	5% 外・内面被付着

**第26号溝跡**（第122～127図 PL17・18・27・28・31・33・39）

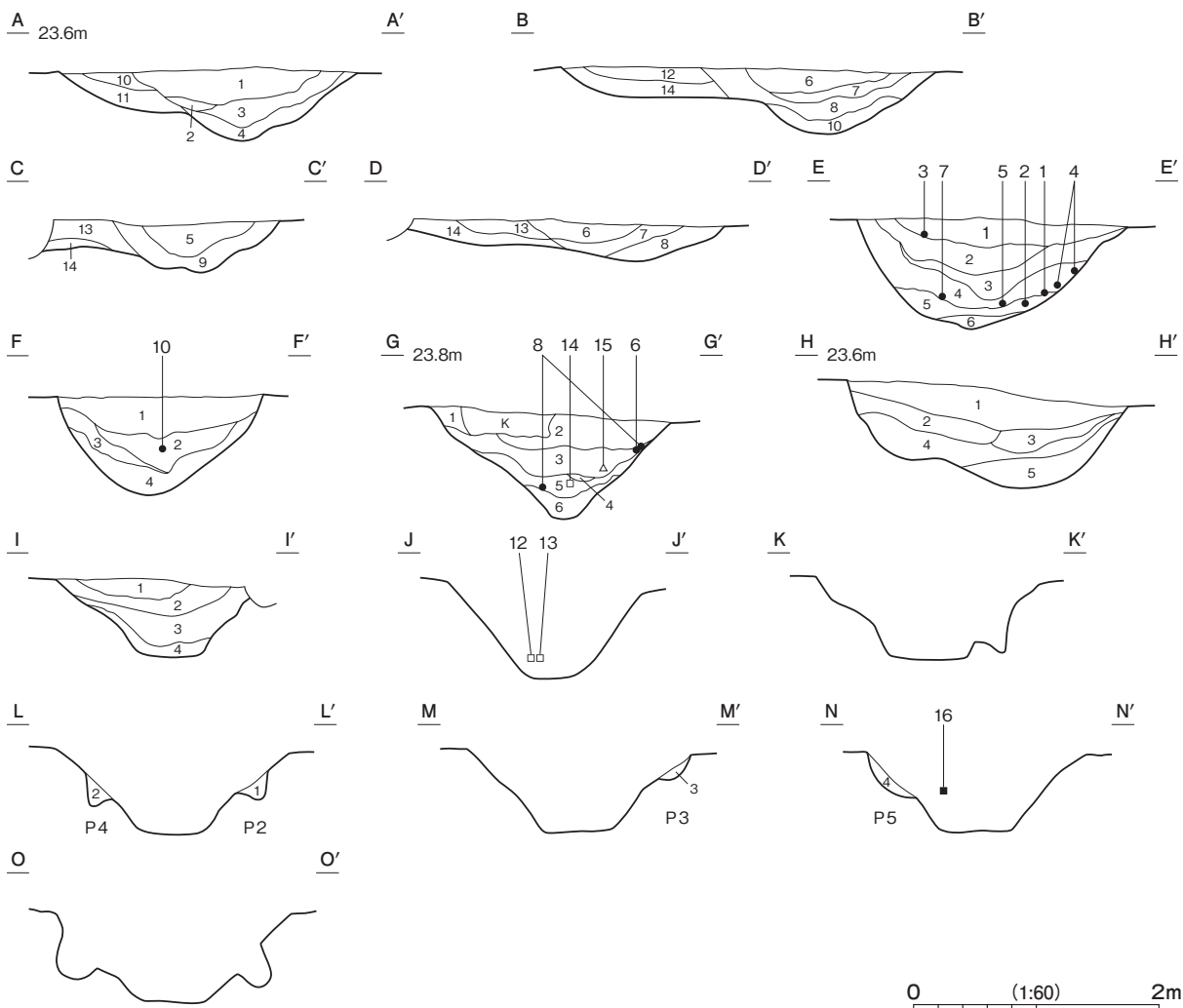
**位置** 調査区北西部のF 3j2～G 3h9区，標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第13号方形竪穴遺構，第2号井戸跡，第26・69・70・96・100号土坑，第27・28号溝跡を掘り込み，第8号掘立柱建物，第97号土坑，第25・29号溝，第4・5号ピット群に掘り込まれている。第14号井戸跡との新旧関係は不明である。

**規模と形状** F 3j2区から西方向（N - 86° - E）に延び，F 2j7区で南方向（N - 14° - W）へ屈曲して延び，G 3h9区で東方向（N - 74° - E）に屈曲してコの字状を呈している。確認できた長さは68.60mで，上幅1.36～3.00m，下幅0.16～0.64m，深さ28～90cmである。断面形はU字状及び逆台形である。



第 122 图 第 26 号沟迹实测图 (1)



**土層解説 (A - A', B - B', C - C', D - D', H - H')**

- 1 黒 褐色 黄褐色粘土ブロック・焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 黄褐色粘土ブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 黒 褐色 灰黄褐色粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 灰黄褐色粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗 褐色 灰黄褐色粘土ブロック多量
- 6 黒 褐色 灰黄褐色粘土ブロック少量
- 7 黒 褐色 灰黄褐色粘土ブロック中量
- 8 暗 褐色 灰黄褐色粘土ブロック中量
- 9 黒 褐色 におい黄色粘土ブロック微量
- 10 暗 褐色 におい黄色粘土ブロック多量
- 11 褐 灰色 灰黄色粘土ブロック微量
- 12 褐 灰色 灰褐色粘土ブロック多量
- 13 におい褐色 におい黄褐色粘土ブロック多量
- 14 黒 褐色 灰褐色粘土ブロック中量

**土層解説 (E - E')**

- 1 黒 褐色 黄褐色粘土ブロック多量
- 2 黒 褐色 黄褐色粘土ブロック少量
- 3 黒 褐色 灰黄褐色粘土ブロック微量
- 4 黒 褐色 灰黄褐色粘土ブロック少量
- 5 褐 色 灰黄褐色粘土ブロック多量
- 6 暗 褐色 灰黄褐色粘土ブロック少量

**土層解説 (F - F', I - I')**

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 黒 褐色 灰黄褐色粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 灰黄褐色粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

**土層解説 (G - G')**

- 1 暗 褐色 黄褐色粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 におい黄褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 褐 色 黄褐色粘土ブロック微量
- 5 におい黄褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 灰 色 灰色粘土ブロック少量

**ビット土層解説 (各ビット共通)**

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量
- 3 明 褐色 ロームブロック少量
- 4 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

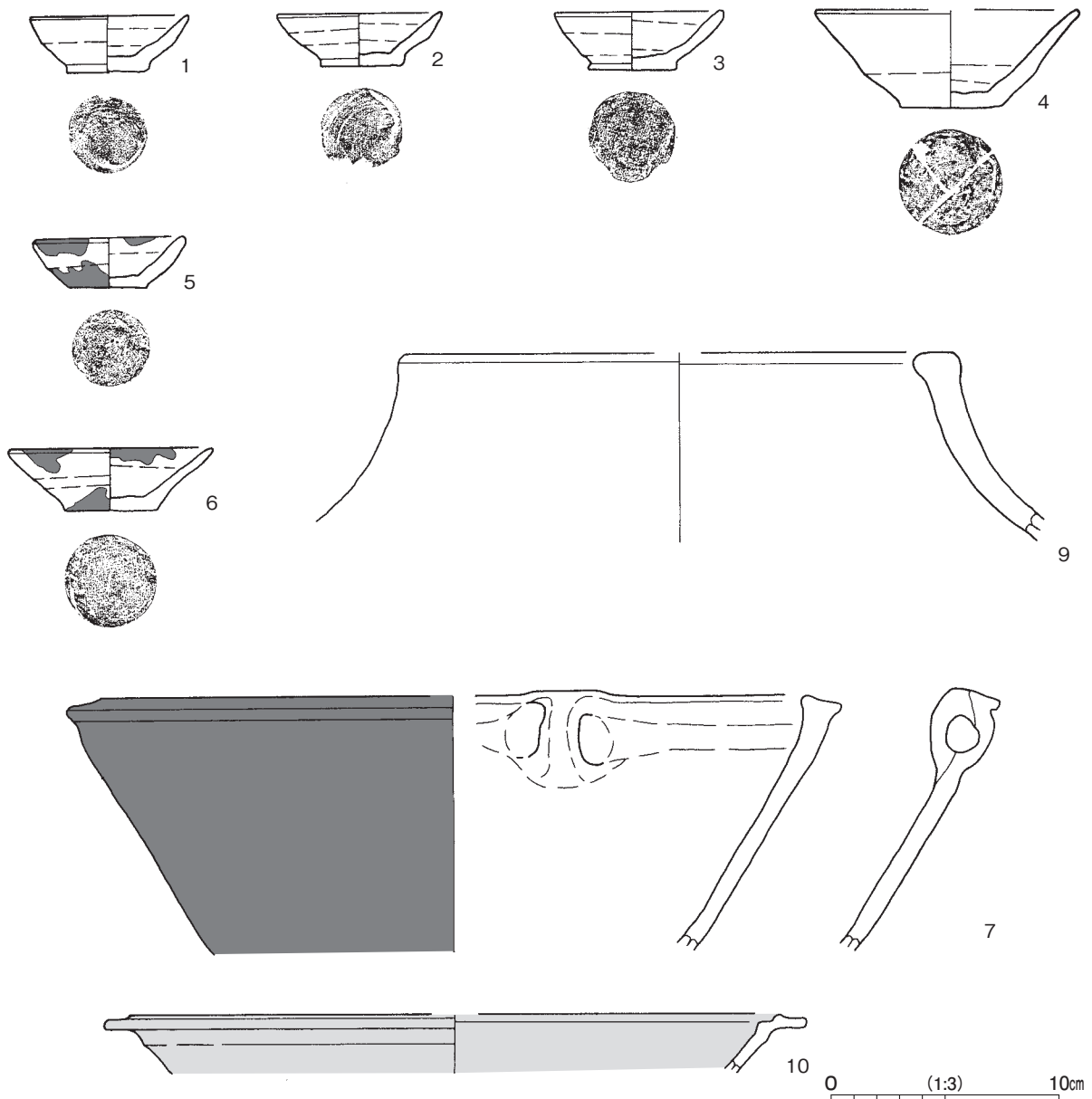
第 123 図 第 26 号溝跡実測図 (2)

ピット 7か所。P 1～P 7は深さ10～35cmである。いずれも性格は不明である。

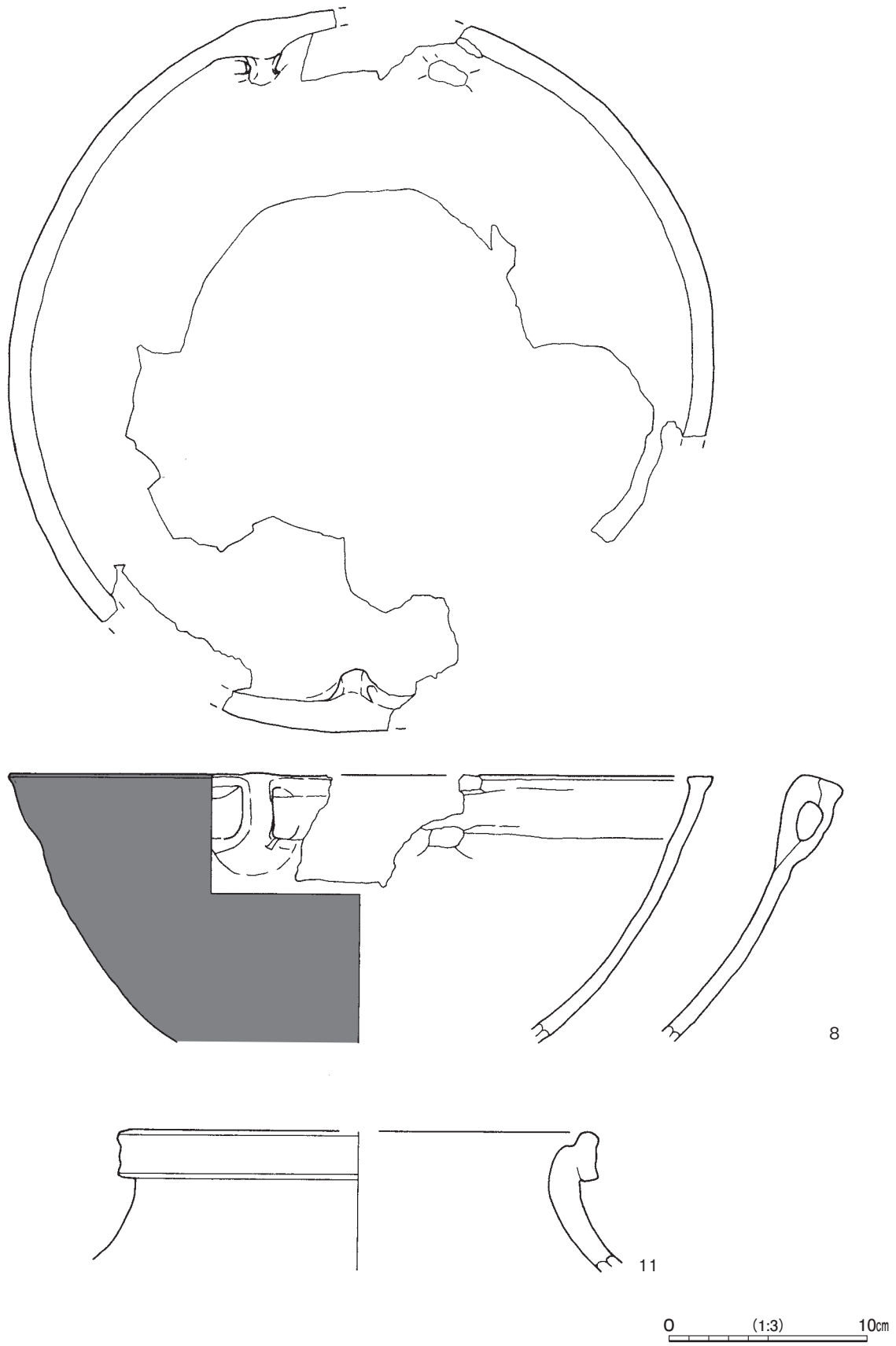
覆土 14層に分層できる。Iラインはレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。その他は粘土ブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片27点(坏7, 高坏1, 甕類19), 須恵器片46点(坏5, 高台付坏3, 蓋1, 甕類37), 土師質土器片729点(皿170, 内耳鍋519, 播鉢33, 香炉2, 甕5), 陶器16点(皿2, 甕14), 石器2点(凹石, 石臼), 石製品3点(五輪塔2, 宝篋印塔1), 礫58点, 金属製品20点(釘2, 不明18), 椀状滓1点, 瓦片52点(軒平瓦1, 丸瓦15, 平瓦36)が出土しており, 12・13は覆土下層から, 1・2・4～8・10・14～16は覆土中層から, 3は覆土上層から, 9・11は覆土中から出土しており, 投棄あるいは混入と考えられる。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から15世紀中葉～16世紀初頭と考えられる。性格は, 第28号溝が埋め戻された後に掘られた, 屋敷域を囲む区画溝と考えられる。

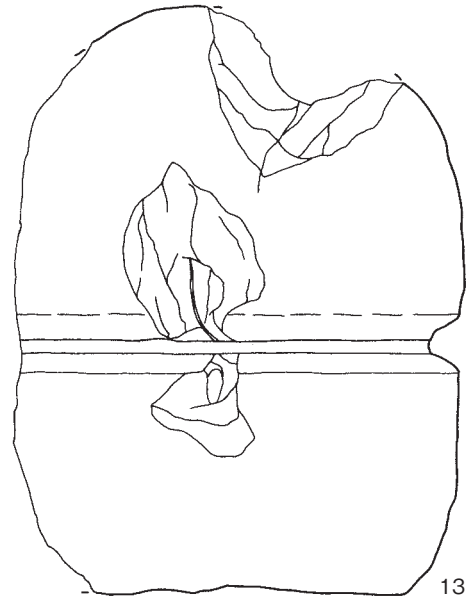
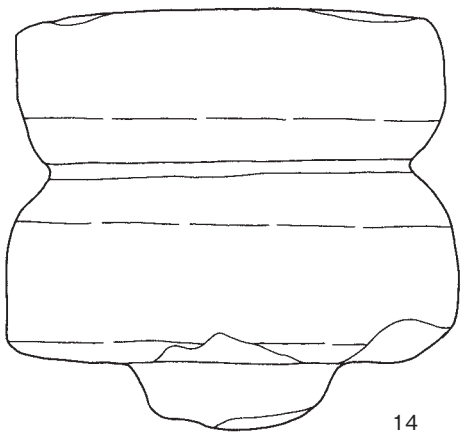
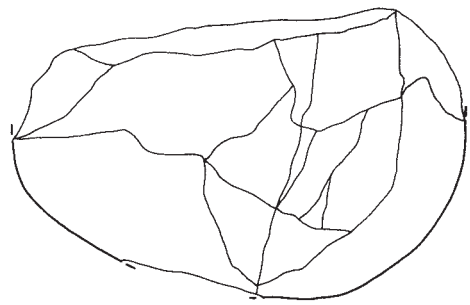
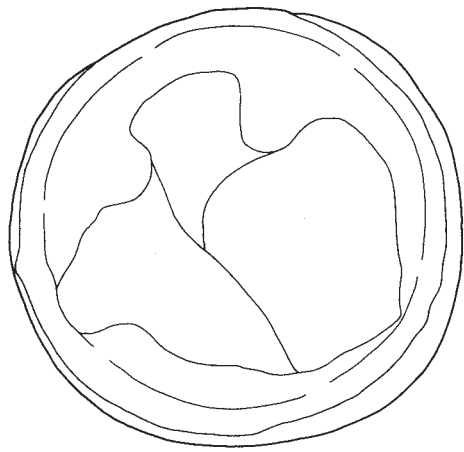


第124図 第26号溝跡出土遺物実測図(1)



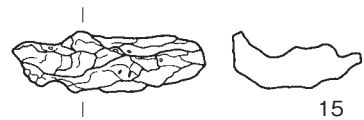
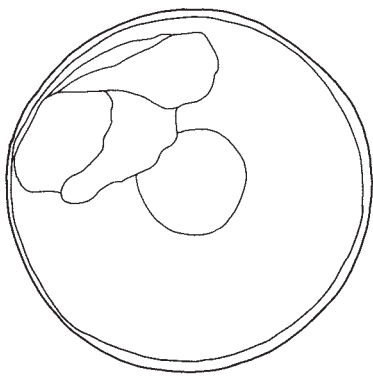
第 125 図 第 26 号溝跡出土遺物実測図 (2)



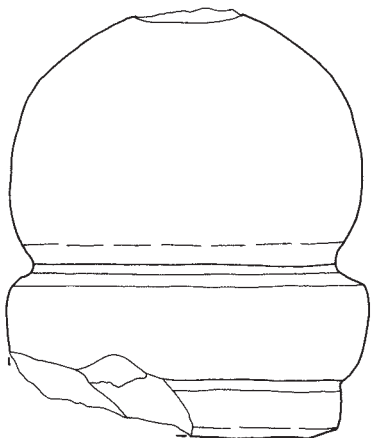


14

13



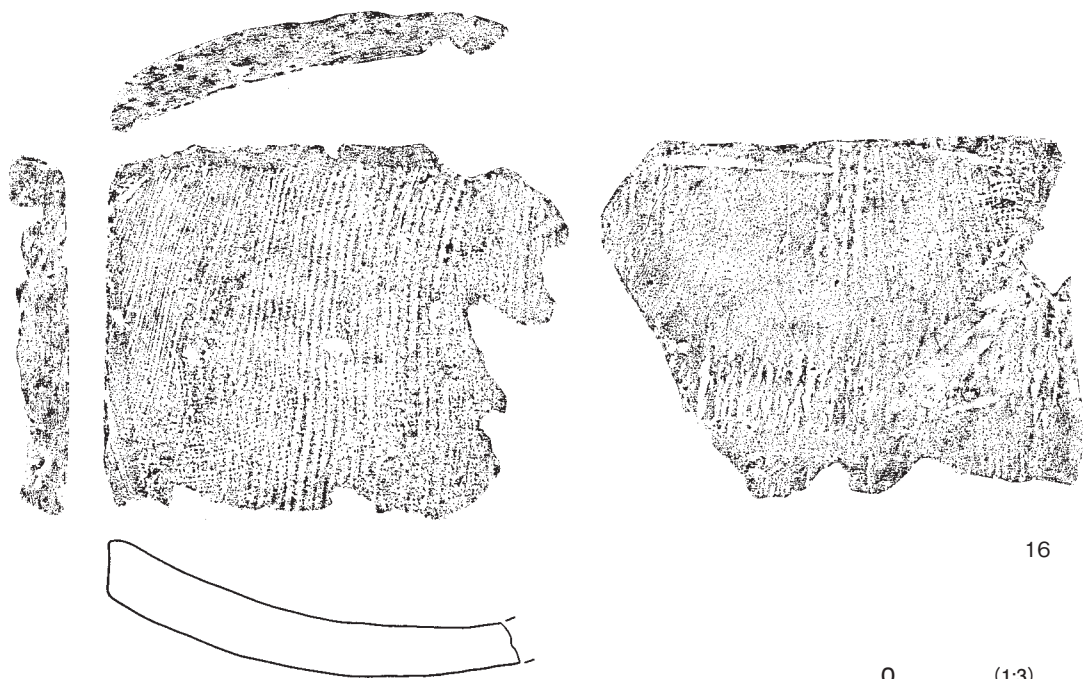
15



12

0 (1:3) 10cm

第 126 图 第 26 号沟迹出土遗物实测图(3)



16

第 127 図 第 26 号溝跡出土遺物実測図(4)

第 26 号溝跡出土遺物観察表 (第 124 ~ 127 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	6.9	2.5	3.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転系切り後ナデ	覆土中層	95% PL27
2	土師質土器	皿	7.0	2.3	3.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転系切り後ナデ 内底中央部凹凸	覆土中層	95% PL28
3	土師質土器	皿	7.2	2.6	3.7	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転系切り後ナデ	覆土上層	90% PL28
4	土師質土器	皿	[11.5]	4.3	4.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転系切り後ナデ	覆土中層	50% PL28
5	土師質土器	皿	6.5	2.3	3.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転系切り後ナデ	覆土中層	100% 外・内面煤附着 PL28
6	土師質土器	皿	8.9	2.8	4.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転系切り後ナデ	覆土中層	90% 外・内面煤附着 PL28
7	土師質土器	内耳鍋	[31.0]	(11.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	1内耳残存 耳貼り付け 体部外・内面ナデ	覆土中層	5% PL31 外面煤附着
8	土師質土器	内耳鍋	35.3	(13.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗褐	普通	2内耳残存 耳貼り付け 体部外・内面ナデ	覆土中層	70% PL31 外面煤附着
9	土師質土器	壺	[24.0]	(8.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	体部外・内面ナデ	覆土中	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
10	陶器	折縁深皿	[28.4]	(2.6)	-	長石・石英にぶい黄橙	口縁部外・内面施釉	施釉	瀬戸	覆土中層	5% 古瀬戸
11	陶器	甕	[23.1]	(7.0)	-	長石・石英暗赤褐	口縁部外・内面ナデ	自然釉	常滑	覆土中	5% 6形式

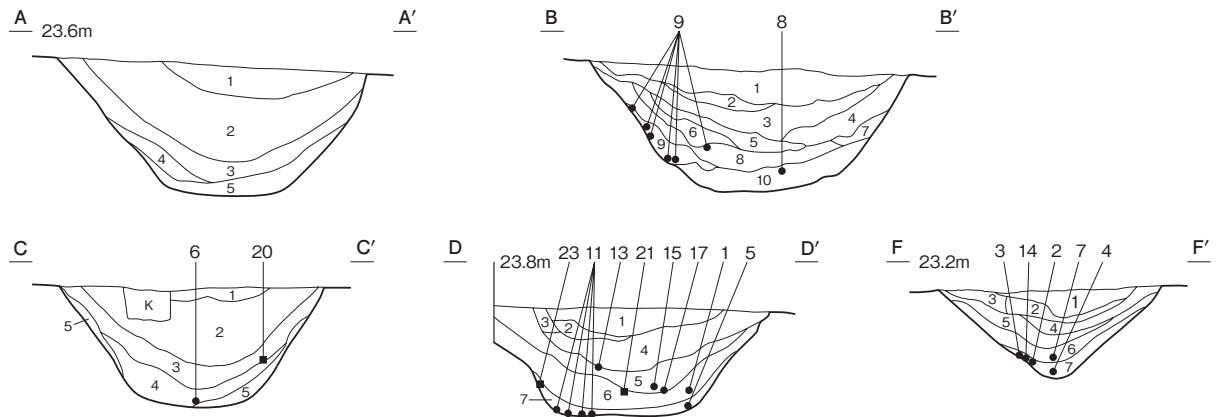
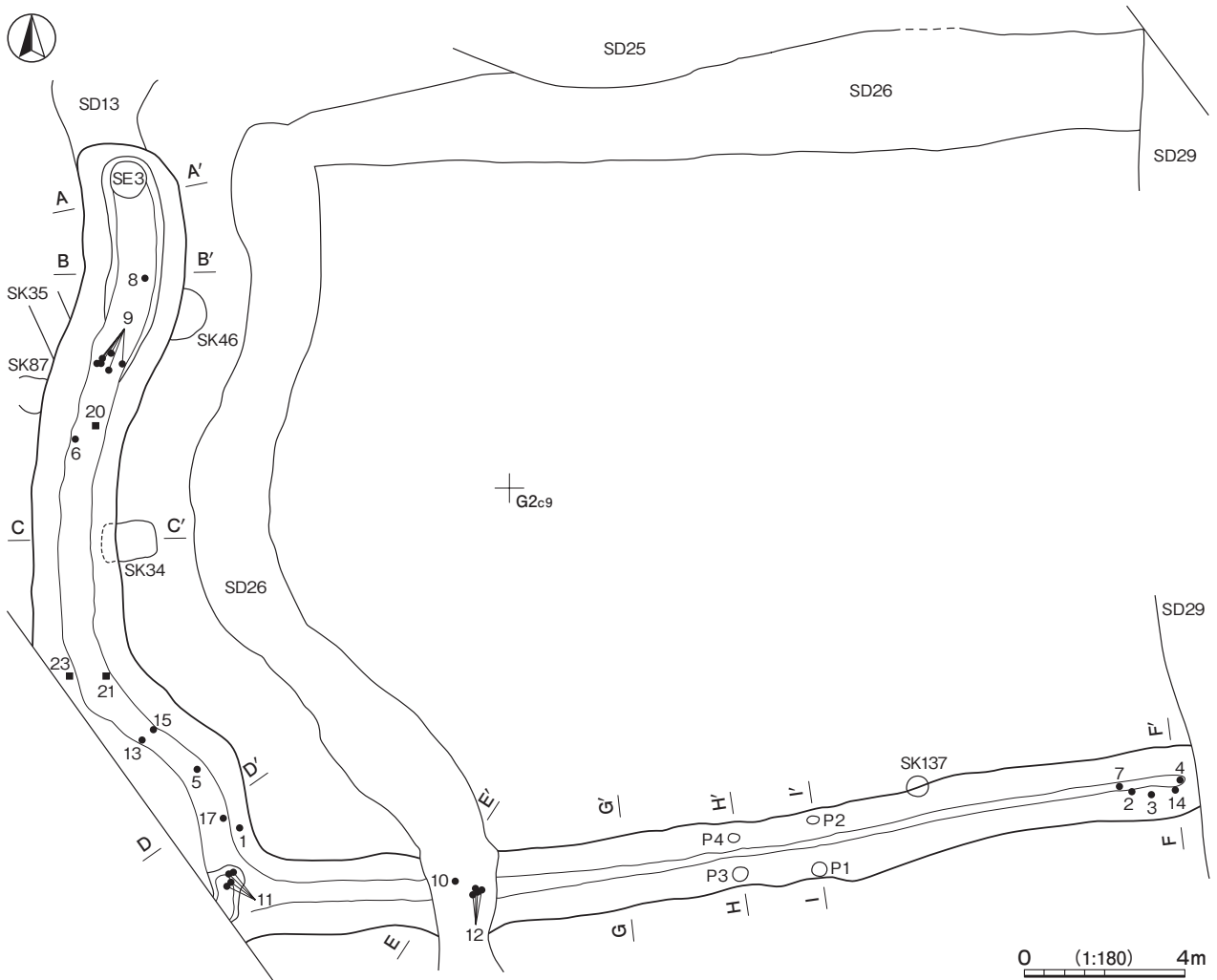
番号	器種	長さ(径)	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
12	五輪塔	14.4	14.4	(17.1)	(7370)	花崗岩	空風輪	覆土下層	PL33
13	五輪塔	(18.0)	(11.5)	(23.5)	(6020)	花崗岩	空風輪	覆土下層	
14	宝篋印塔	(17.5)	(18.0)	(16.8)	(4536)	花崗岩	相輪	覆土中層	PL33

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
15	椀状滓	7.6	5.6	2.4	98.6	鉄	一部発泡 全面錆化 着磁性なし	覆土中層	

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
16	瓦	平瓦	(18.5)	2.2	(14.8)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	凸面縄叩き 凹面布目痕	覆土中層	PL39

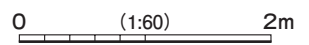
第 28 号溝跡 (第 128 ~ 133 図 PL18・23・24・38・39)

位置 調査区北西部の F 2j6~G 3e3 区, 標高 24 m ほどの平坦な台地上に位置している。

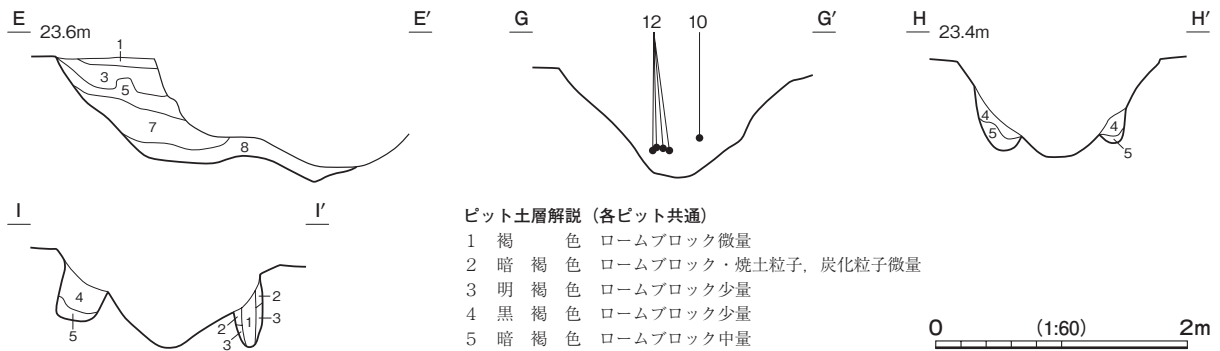


土層解説 (各土層共通)

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 黄褐色粘土ブロック多量  | 6 暗褐色 灰黄褐色粘土ブロック少量   |
| 2 黒褐色 黄褐色粘土ブロック少量  | 7 黒褐色 灰黄褐色粘土ブロック中量   |
| 3 黒褐色 灰黄褐色粘土ブロック少量 | 8 暗褐色 灰黄褐色粘土ブロック中量   |
| 4 暗褐色 灰黄褐色粘土ブロック少量 | 9 黒褐色 におい黄色粘土ブロック微量  |
| 5 黒褐色 灰黄褐色粘土ブロック多量 | 10 暗褐色 におい黄色粘土ブロック多量 |



第 128 図 第 28 号溝跡実測図 (1)



第 129 図 第 28 号溝跡実測図 (2)

**重複関係** 第 34・35・46・87 号土坑を掘り込み、第 3 号井戸、第 26・29 号溝に掘り込まれている。第 137 号土坑、第 13 号溝跡との新旧関係は不明である。

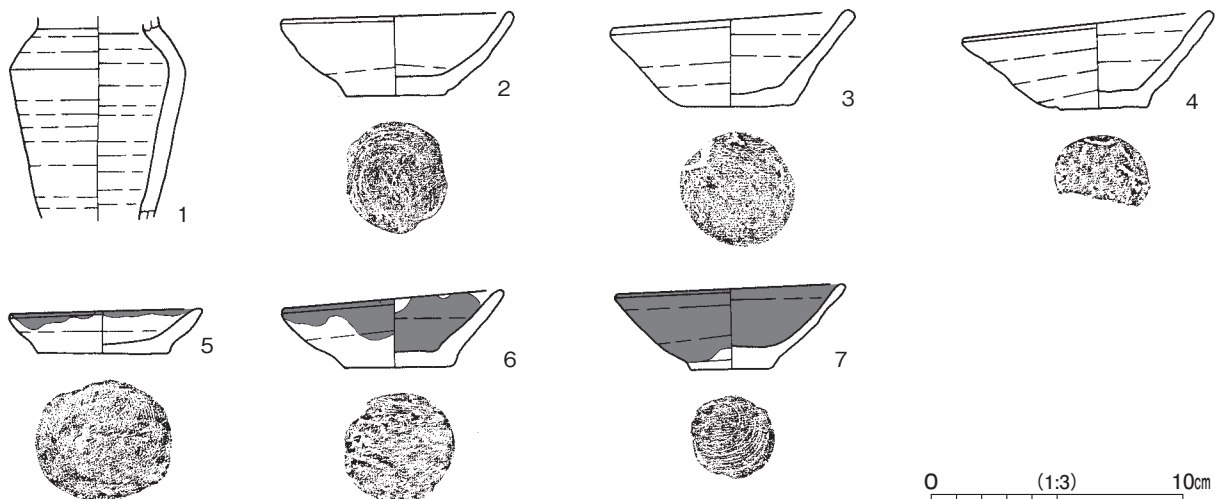
**規模と形状** F 2j6 区から南方向 (N - 7° - W) へ延び、G 2e6 区で東方向 (N - 81° - E) に L 字状に延びている。確認できた長さは 43.94 m で、上幅 1.54 ~ 2.50 m、下幅 0.14 ~ 1.00 m、深さ 39 ~ 102cm である。断面形は U 字状及び逆台形である。

**ピット** 4 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 20 ~ 45cm である。性格は橋脚の柱穴と考えられる。

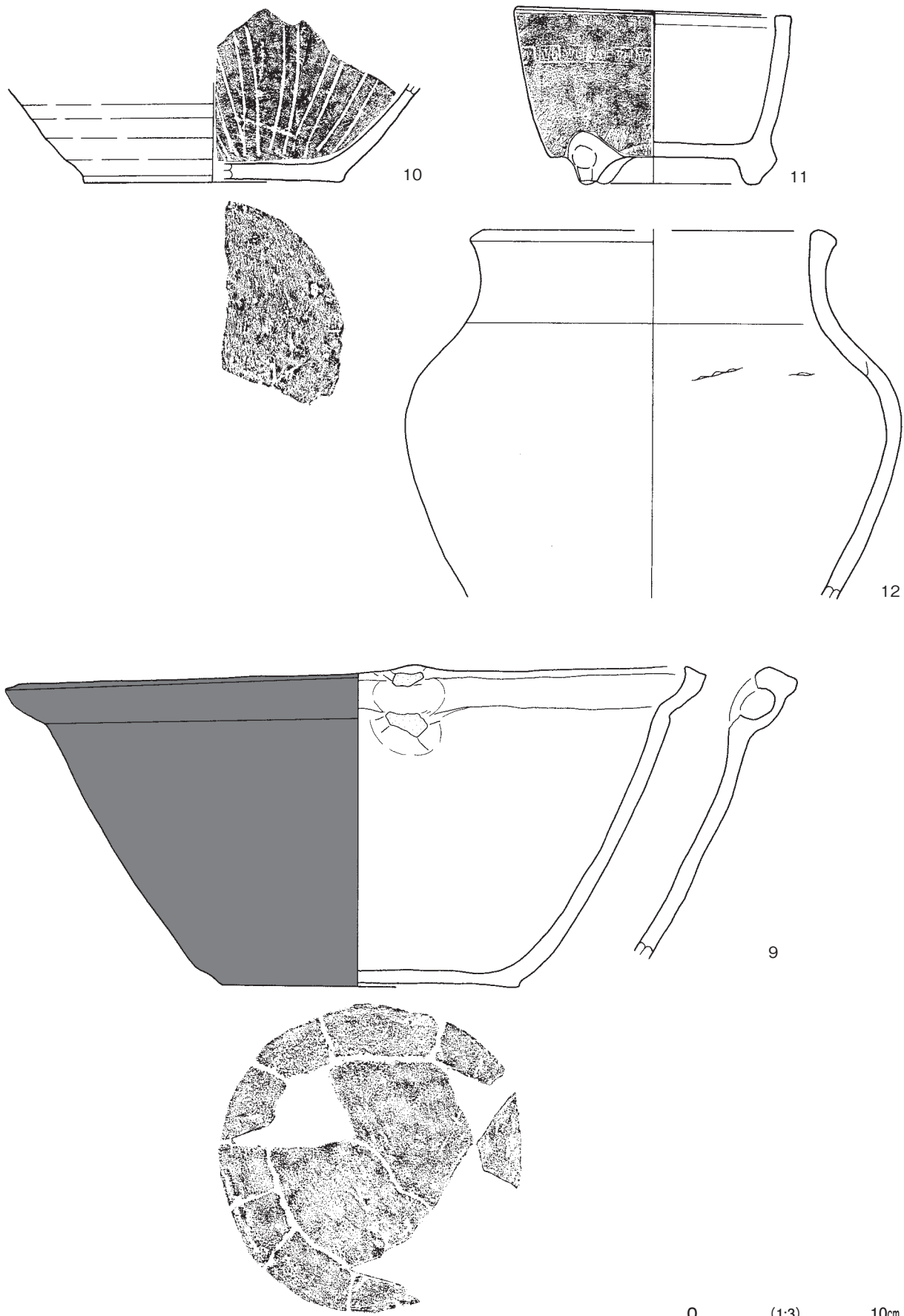
**覆土** 10 層に分層できる。レンズ状に堆積している部分もあるが、各層に粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片 3 点 (深鉢), 土師器片 14 点 (坏 4, 高坏 1, 甕類 9), 須恵器片 65 点 (坏 13, 蓋 4, 高坏 1, 壺 1, 甕類 46), 土師質土器片 1,274 点 (皿 272, 内耳鍋 920, 鉢 18, 播鉢 53, 火鉢 1, 香炉 3, 壺 2, 甕 5), 陶器片 31 点 (碗 3, 皿 4, 卸皿 1, 鉢 4, 播鉢 1, 壺 1, 甕 17), 灰釉陶器片 1 点 (壺), 磁器片 3 点 (碗 2, 瓶 1), 石器 8 点 (敲石 1, 砥石 7), 礫 42 点, 鉄滓 9 点, 瓦片 56 点 (軒丸瓦 2, 丸瓦 19, 平瓦 34, 熨斗瓦 1) が出土している。5・11 は底面から, 1・2 ~ 4・6 ~ 8・14・15・17・21 は覆土下層から, 9・10・12・13・20・23 は覆土中層から, それぞれ出土しており, 投棄あるいは混入と考えられる。

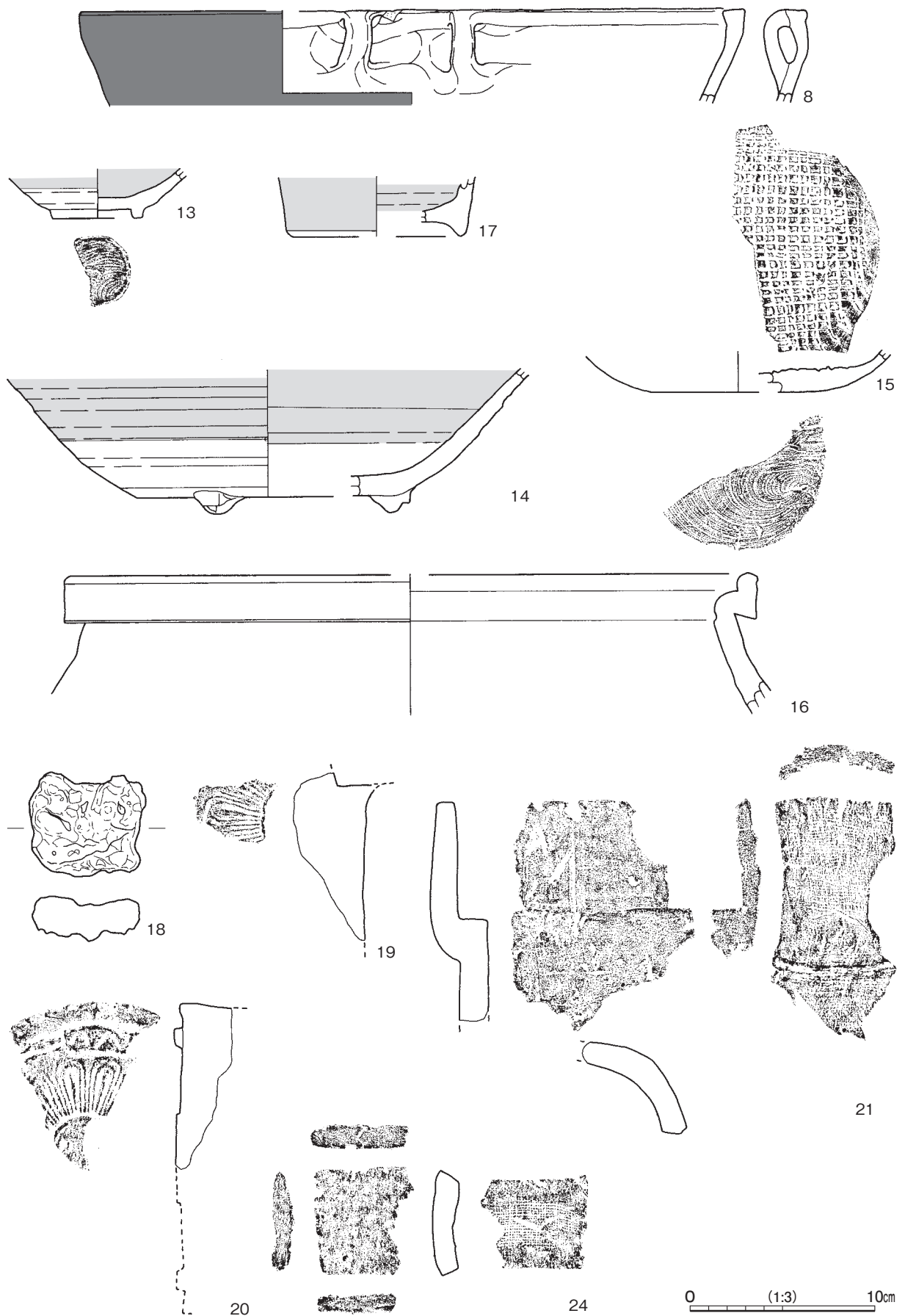
**所見** 時期は, 重複関係や出土土器から 15 世紀中葉 ~ 16 世紀初頭と考えられる。性格は, 屋敷域を囲む区画溝と考えられる。



第 130 図 第 28 号溝跡出土遺物実測図 (1)

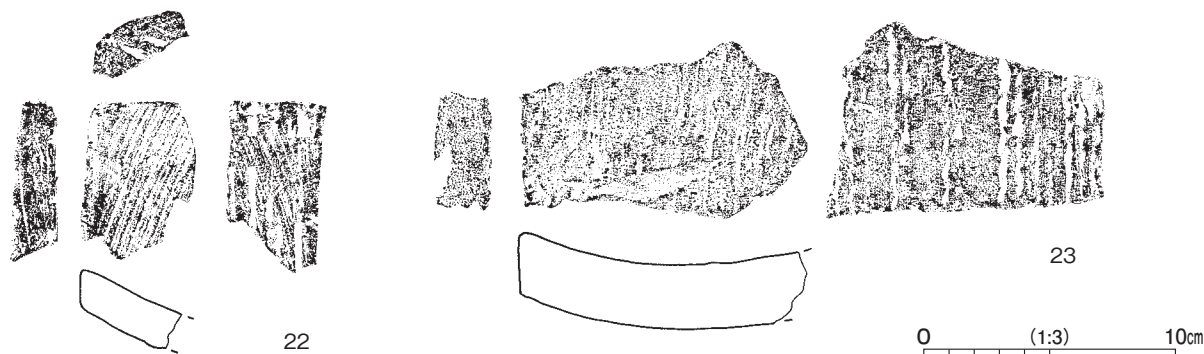


第 131 图 第 28 号沟迹出土遗物实测图(2)



第 132 图 第 28 号沟迹出土遗物实测图 (3)





第133図 第28号溝跡出土遺物実測図(4)

第28号溝跡出土遺物観察表(第130～133図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	長頸壺	-	(8.1)	-	長石・石英	黄灰	普通	体部外・内面口クロ成形	覆土下層	10% 壺G
2	土師質土器	皿	9.0	3.2	4.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面口クロナデ 底部回転糸切り後	覆土下層	80% PL23
3	土師質土器	皿	9.5	3.8	4.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外・内面口クロナデ 底部回転糸切り後 ナデ 内底中央部凹凸	覆土下層	95% PL23
4	土師質土器	皿	9.8	3.8	4.0	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外・内面口クロナデ 底部回転糸切り後	覆土下層	100% PL23
5	土師質土器	皿	7.5	1.8	5.2	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面口クロナデ 底部回転糸切り後	底面	100% PL24 口縁部外・内面油漣付着
6	土師質土器	皿	8.7	3.1	4.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面口クロナデ 底部回転糸切り後	覆土下層	95% PL24 外・内面煤付着
7	土師質土器	皿	9.0	3.3	3.2	長石・石英	にぶい褐	普通	体部外・内面口クロナデ 底部回転糸切り後	覆土下層	80% PL24 外・内面煤付着
8	土師質土器	内耳鍋	[36.0]	(5.1)	-	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	2内耳残存 耳貼り付け 口縁部外・内面ナデ	覆土下層	5%
9	土師質土器	内耳鍋	35.7	17.2	16.0	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	1内耳残存 耳貼り付け 口縁部外・内面ナデ	覆土中層	80% PL24 外面煤付着
10	土師質土器	搦鉢	-	(5.3)	[14.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	内面2条1単位の搦り目	覆土中層	10% PL24
11	土師質土器	香炉	14.7	9.5	11.0	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	円筒形 三足貼り付け 外面スタンプ文押印	底面	70% PL24
12	土師質土器	壺	[18.2]	(19.7)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ナデ 輪積み痕	覆土中層	20% PL24

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
13	陶器	平碗	-	(2.7)	[4.8]	長石・石英・浅黄	底部低い削り出し高台	緑釉	瀬戸	覆土中層	10% PL24 後期I～II期
14	陶器	折縁深皿	-	(7.8)	[14.0]	長石・石英・赤色粒子	体部外面下方から底部にかけて回転ヘラ削り 三足	灰釉	瀬戸	覆土下層	10% PL24 後期II～III期
15	陶器	卸皿	-	(2.3)	[9.5]	長石・石英・浅黄	底部回転糸切り 体部外面下端ヘラナデ	灰釉	瀬戸	覆土下層	30% PL24 後期
16	陶器	甕	[36.8]	(7.6)	-	長石・石英・赤色粒子	口縁部N字状	自然釉	常滑	覆土中	5% PL24 6b形式
17	磁器	四耳壺	-	(3.3)	[9.0]	緻密灰白	削り出し高台	透明釉	宋	覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
18	鉄滓	5.6	6.3	2.5	102.7	鉄	一部発泡 全面錆化	覆土中	

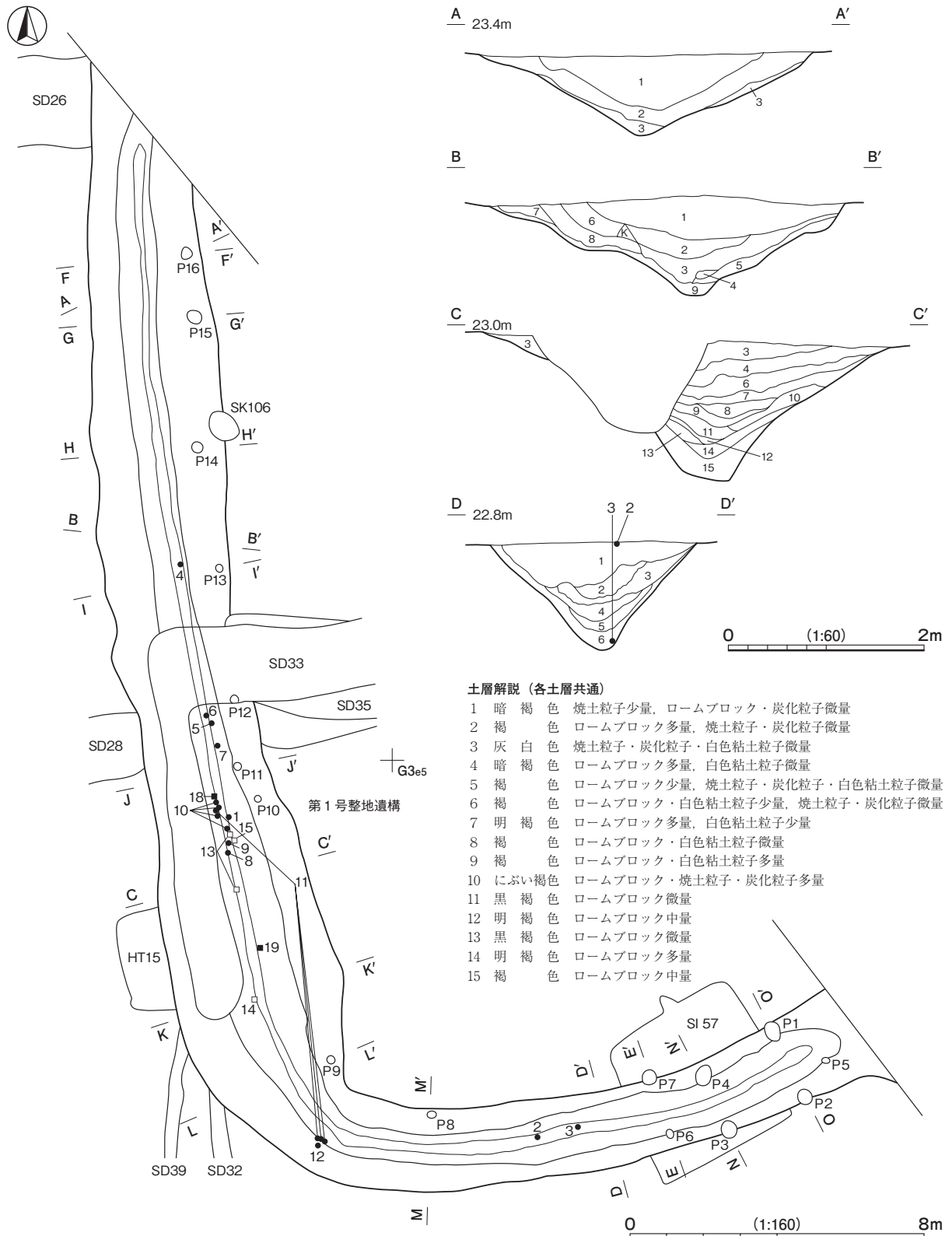
番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
19	瓦	軒丸瓦	(14.0)	-	(10.0)	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	瓦当面に鋸歯文縁単弁十六葉花文一部残存	覆土中	
20	瓦	軒丸瓦	(8.2)	(3.2)	(9.2)	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	瓦当面に鋸歯文縁単弁十六葉花文一部残存	覆土中層	PL38
21	瓦	丸瓦	(9.6)	-	(13.5)	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	凸面玉縁部横位の削り 凹面布目痕	覆土下層	PL39
22	瓦	平瓦	(4.4)	(1.8)	(6.8)	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	凸面縄叩き 凹面布目痕	覆土中	
23	瓦	平瓦	(12.0)	2.5	(7.7)	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	凸面縄叩き 凹面布目痕	覆土中層	
24	瓦	鬘斗瓦	5.8	1.2	(5.7)	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	凸面叩きなし 凹面布目痕	覆土中	



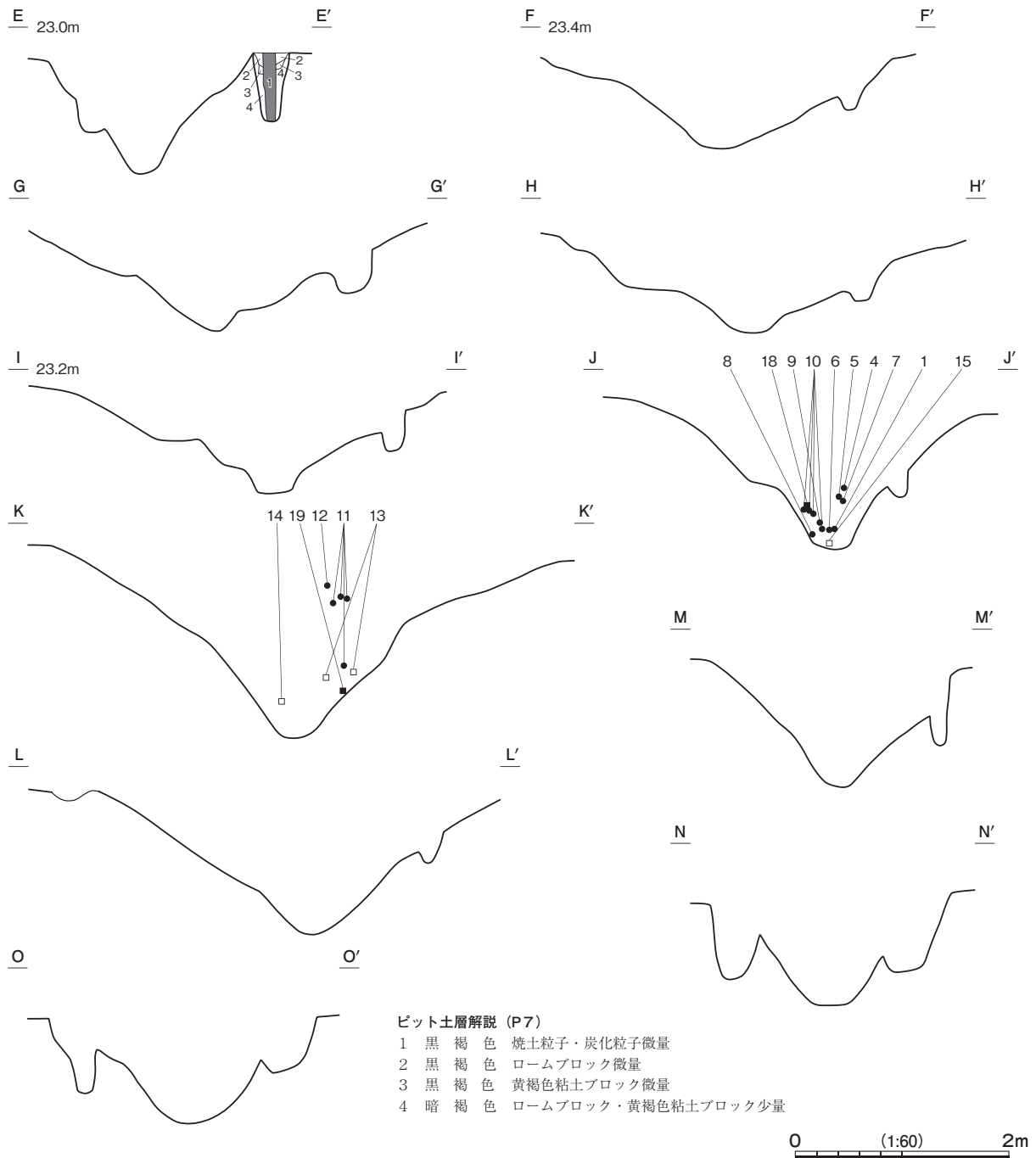
第29号溝跡 (第134～138図 PL18・19・28・30～33・35・38)

位置 調査区北部のF3j2～G3f8区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第57号竪穴建物跡, 第15号方形竪穴遺構, 第26・28・32・39号溝跡を掘り込み, 第106号土坑, 第33・35号溝に掘り込まれている。第1号整地遺構に一部埋め戻されている。



第134図 第29号溝跡実測図(1)



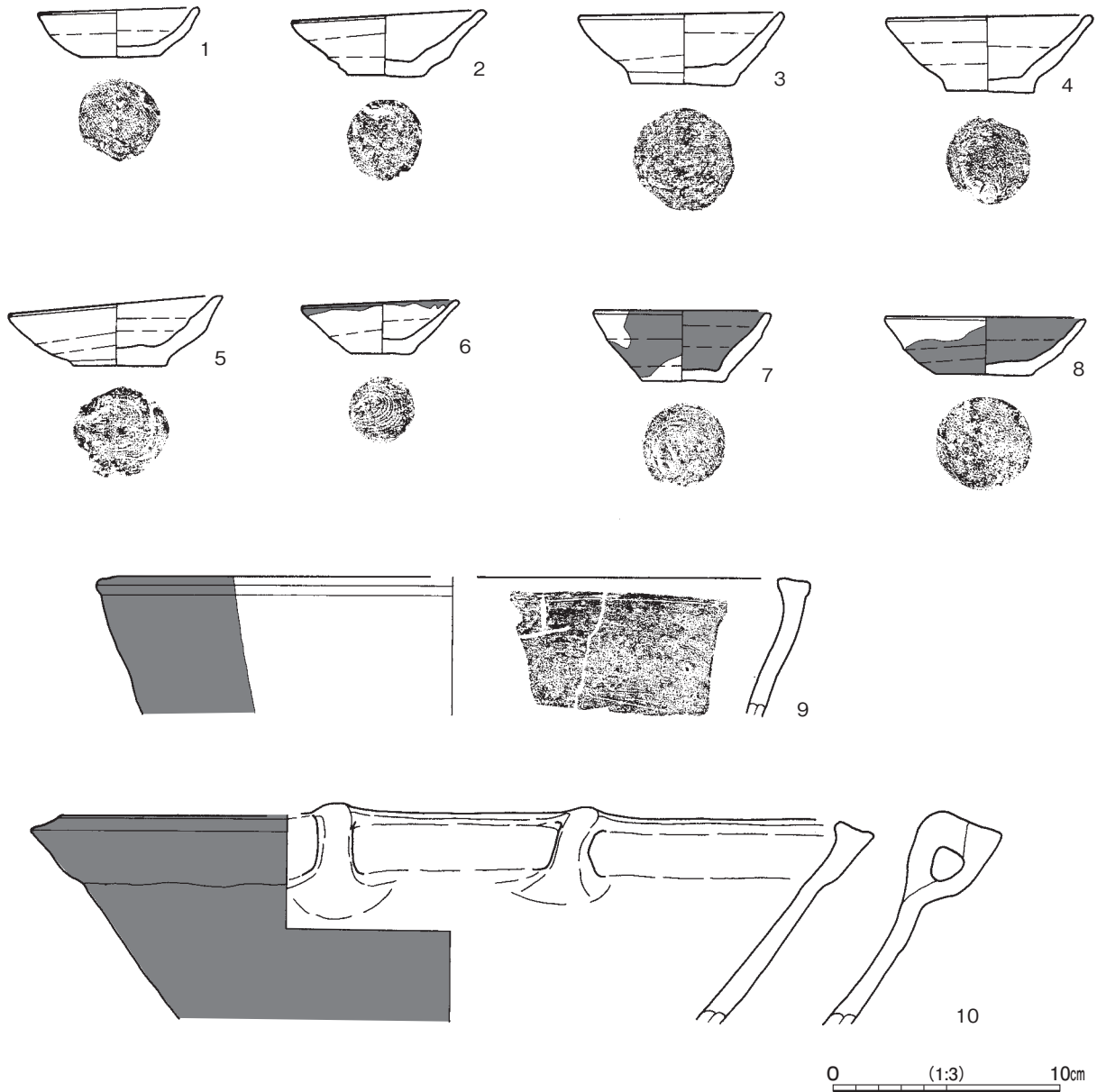
第135図 第29号溝跡実測図(2)

**規模と形状** F 3j2区から南方向 (N - 7° - W) へ延び、G 3g4区で東方向 (N - 72° - E) へ屈曲し、L字状に延び、G 3g8区で調査区域外に至っている。確認できた長さは44.60 mで、上幅2.09 ~ 4.64 m、下幅0.19 ~ 0.40 m、深さ82 ~ 174cmである。断面形はU字状及び逆台形である。

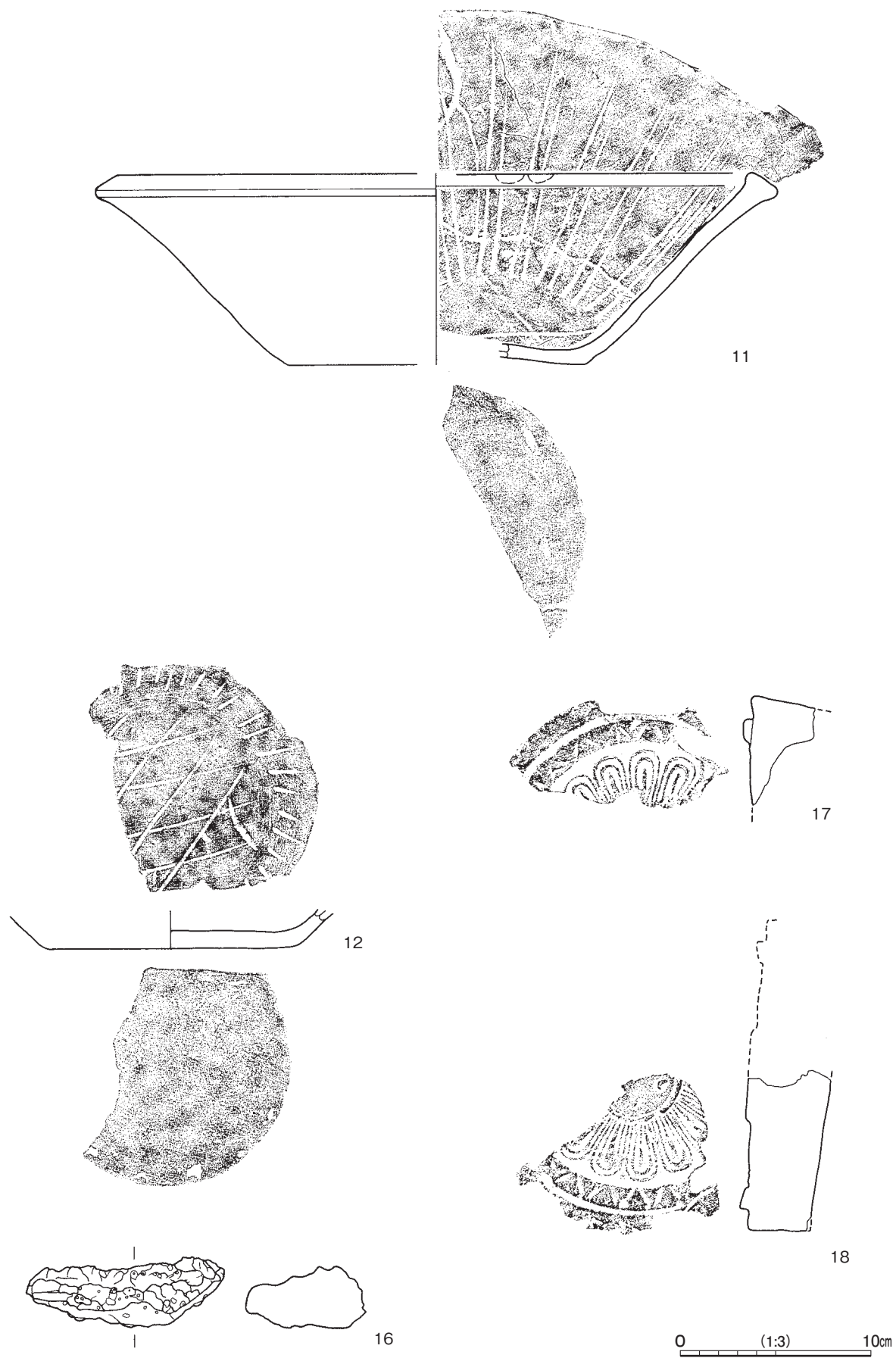
**ピット** 16か所。深さ20 ~ 65cmである。P 1 ~ P 4・P 6・P 7は橋脚の柱穴と考えられる。ほかの柱穴は性格不明である。第1層は柱痕跡、第2 ~ 4層は柱材を抜き取った後の覆土である。

**覆土** 15層に分層できる。レンズ状に堆積している部分もあるが、ロームブロックや粘土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

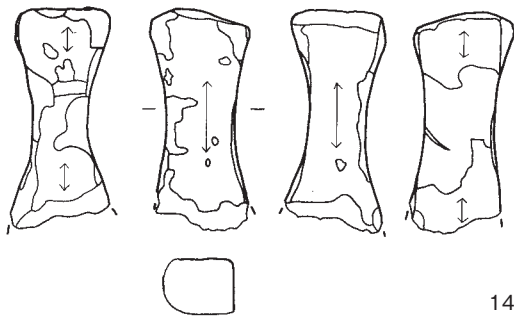
**遺物出土状況** 土師器片 41 点 (高台付坏 2, 甕類 39), 須恵器片 64 点 (坏 11, 高台付坏 5, 盤 1, 蓋 5, 甕類 42), 土師質土器片 959 点 (皿 141, 内耳鍋 661, 播鉢 101, 火鉢 1, 壺 23, 甕 32), 陶器片 64 点 (碗 7, 皿 1, 播鉢 4, 甕 52), 瓦質土器片 4 点 (甕), 石器 29 点 (打製石斧 1, 磨石 1, 石臼 6, 茶臼 1, 砥石 20), 石製品 1 点 (五輪塔), 礫 180 点, 金属製品 8 点 (不明 8), 椀状滓 1 点, 瓦片 53 点 (軒丸瓦 2, 軒平瓦 1, 丸瓦 9, 平瓦 41) が出土している。1・3・6・8・9・13～15・19 は覆土下層から, 4・5・7・10・11・18 は覆土中層から, 2・12 は覆土上層から, 16・17 は覆土中から出土しており, 投棄あるいは混入と考えられる。  
**所見** 時期は, 重複関係や出土土器から 16 世紀代と考えられる。性格は, 第 26 号溝が埋め戻された後に掘られた, 屋敷域を囲む区画溝と考えられる。



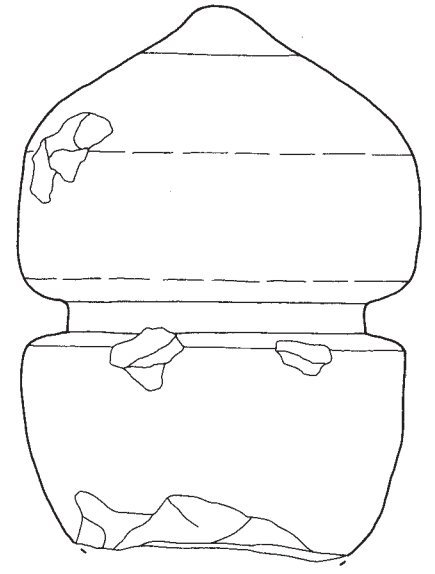
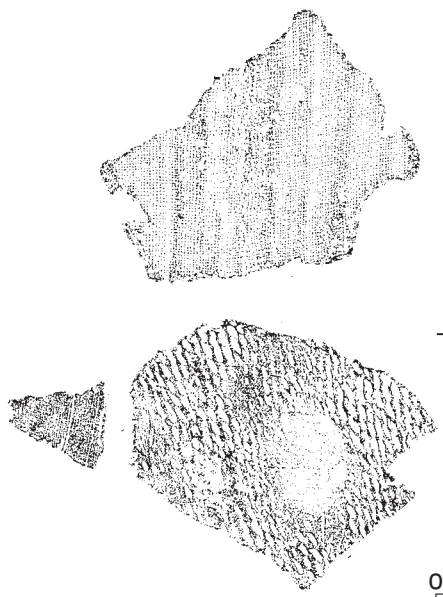
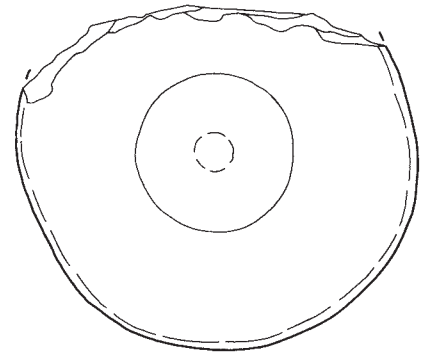
第 136 図 第 29 号溝跡出土遺物実測図 (1)



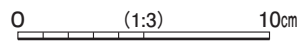
第 137 图 第 29 号沟迹出土遗物实测图(2)



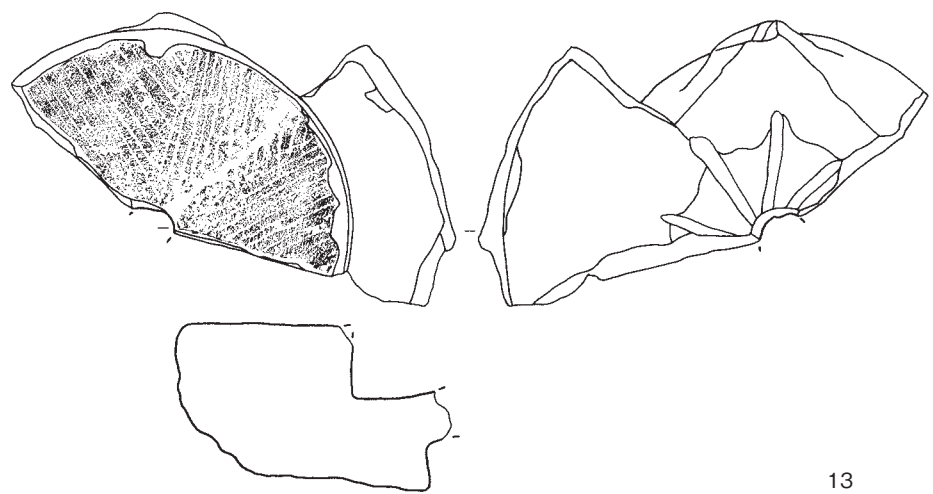
14



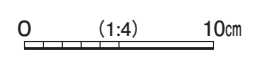
19



15



13



第 138 图 第 29 号沟迹出土遗物实测图(3)

第 29 号溝跡出土遺物観察表（第 136 ～ 138 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	6.9	2.2	3.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	95% PL28
2	土師質土器	皿	8.4	3.0	3.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底部凹凸	覆土上層	95% PL28
3	土師質土器	皿	8.8	3.3	4.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	100% PL28
4	土師質土器	皿	9.0	3.4	3.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	95% PL28
5	土師質土器	皿	9.4	3.2	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	90% PL28
6	土師質土器	皿	6.7	2.4	2.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	50% PL28 口縁部油煙付着
7	土師質土器	皿	7.6	3.1	3.6	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底中央部凹凸	覆土中層	80% PL28 外・内面煤付着
8	土師質土器	皿	8.7	2.5	4.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	90% PL28 外・内面煤付着
9	土師質土器	内耳鍋 [29.0]	(6.1)	-	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	内耳残存なし 口縁部外・内面ナデ	覆土下層	5% PL30 外面煤付着
10	土師質土器	内耳鍋 [34.3]	(9.5)	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	2内耳残存 耳貼り付け 口縁部外・内面ナデ	覆土中層	20% 外面煤付着
11	土師質土器	搦鉢 [33.2]	10.0	(15.6)	(15.6)	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面1条1単位 指頭痕	覆土中層	40% PL31
12	土師質土器	搦鉢	-	(2.0)	[12.4]	長石・石英・雲母	褐	普通	内面1条1単位の交差した搦り目	覆土上層	5% PL30

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
13	茶臼	(15.4)	(23.7)	(8.8)	(2500)	安山岩	下白 芯穴あり 6分画下付4分の1 縁部残存	覆土下層	50% PL32
14	砥石	(8.9)	4.0	(2.2)	(155.2)	凝灰岩	砥面4面 火熱痕有り	覆土下層	50%
15	五輪塔	(21.3)	18.2	29.5	(14310)	花崗岩	空風輪	覆土下層	PL33

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
16	椀状滓	10.4	6.6	3.7	263.0	鉄	一部発泡 全面錆化 着磁性なし	覆土中	PL35

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
17	瓦	軒丸瓦	(12.5)	(5.7)	(4.3)	長石・石英・雲母	黒褐	普通	瓦当面に鋸歯文縁単弁十六葉花文一部残存	覆土中	PL38
18	瓦	軒丸瓦	(12.0)	(8.3)	(4.3)	長石・石英・雲母	灰	普通	瓦当面に鋸歯文縁単弁十六葉花文一部残存	覆土中層	PL38
19	瓦	軒平瓦	(15.0)	(5.2)	(11.5)	長石・石英・雲母	灰オリーブ	普通	凸面縄叩き 凹面布目痕 模骨痕	覆土下層	

第 35 号溝跡（第 139・140 図 PL19・28・29）

**位置** 調査区中央部の G 3d3～G 3d6 区、標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。

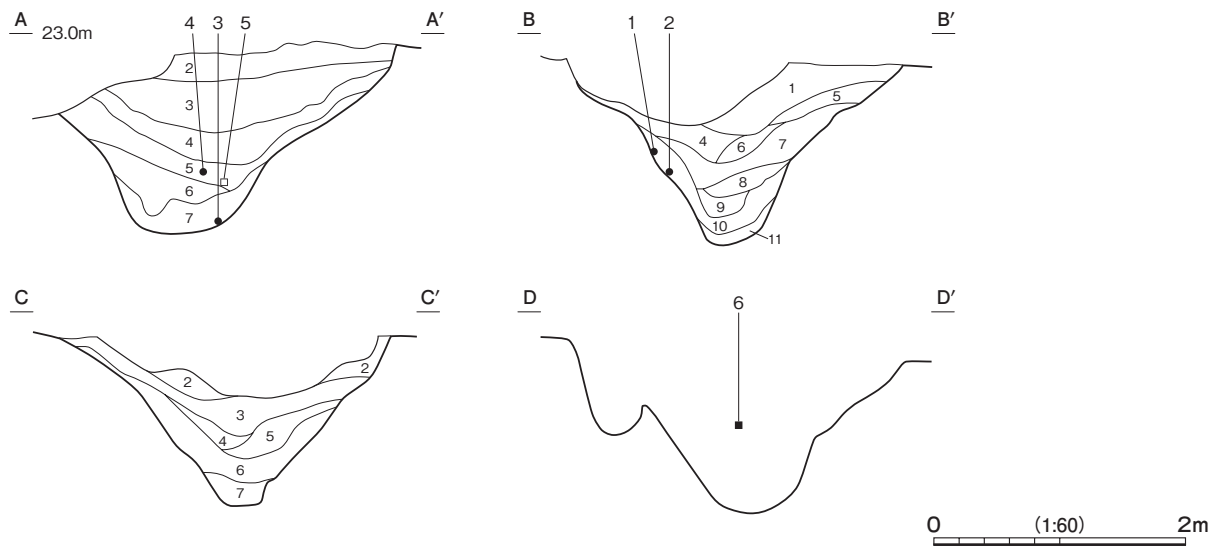
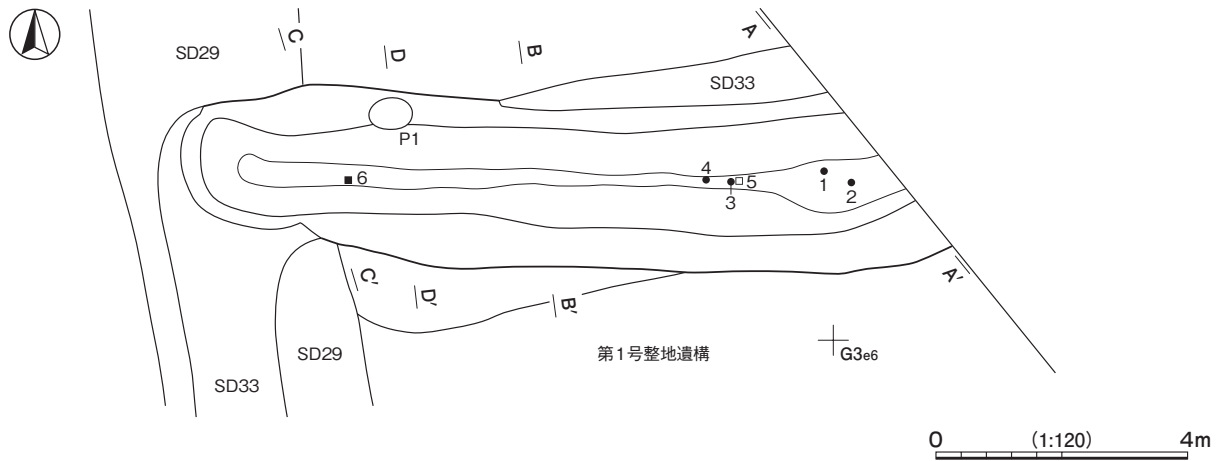
**重複関係** 第 29 号溝跡を掘り込み、第 33 号溝に掘り込まれている。第 1 号整地遺構との新旧関係は不明である。

**規模と形状** G 3d3 区から東方向（N - 86° - W）へ直線状に延び、調査区域外へ至っている。確認できた長さは 11.16 m で、上幅 2.48 ～ 2.80 m、下幅 0.24 ～ 0.80 m、深さ 121 ～ 142 cm である。断面形は U 字状である。

**覆土** 11 層に分層できる。レンズ状に堆積している自然堆積の部分もあるが、ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

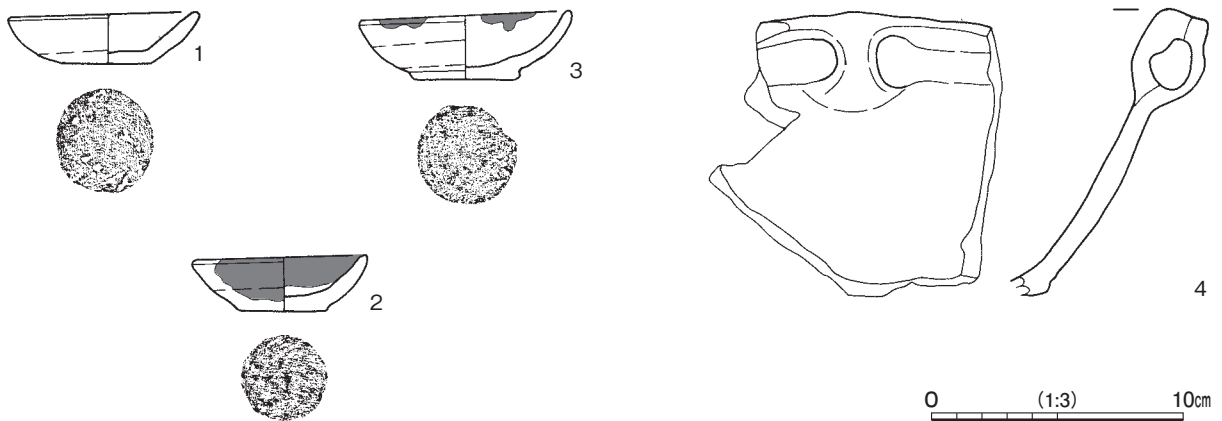
**遺物出土状況** 土師器片 2 点（甕類）、須恵器片 10 点（坏 2、甕類 8）、土師質土器片 59 点（皿 11、内耳鍋 34、搦鉢 13、小形甕 1）、陶器片 1 点（甕）、石器 3 点（茶臼 1、砥石 2）、瓦片 2 点（軒平瓦、平瓦）が出土している。3 は底面から、1・2・4～6 は覆土中層から出土しており、投棄あるいは混入と考えられる。

**所見** 時期は、重複関係や出土土器から 16 世紀中葉と考えられる。性格は不明である。



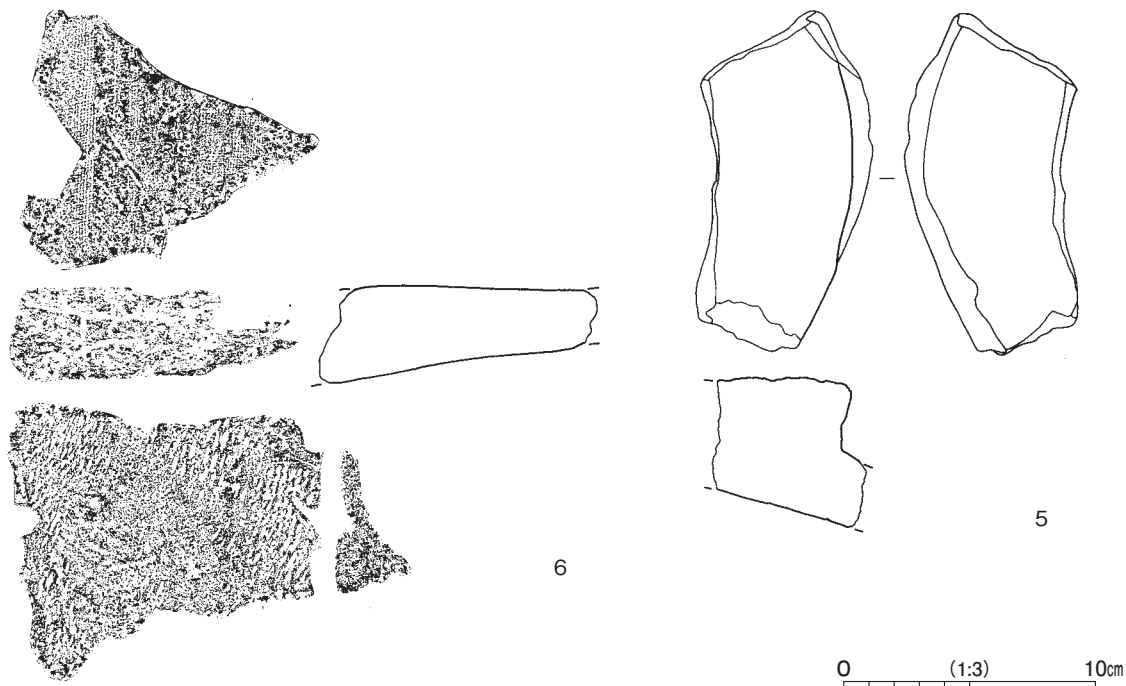
土層解説 (各土層共通)

- |                              |                             |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 灰褐色 ロームブロック中量, 白色粘土粒子少量   |
| 2 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐灰色 ロームブロック・炭化粒子・白色粘土粒子微量 |
| 3 褐色 ロームブロック中量               | 9 褐灰色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量     |
| 4 褐色 ロームブロック多量               | 10 明褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量    |
| 5 黒褐色 ロームブロック中量              | 11 明褐色 褐灰色砂粒多量, ロームブロック少量   |
| 6 灰白色 ロームブロック・白色粘土粒子少量       |                             |



第139図 第35号溝跡・出土遺物実測図





第 140 図 第 35 号溝跡出土遺物実測図

第 35 号溝跡出土遺物観察表（第 139・140 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	7.4	2.1	3.5	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	80% PL28
2	土師質土器	皿	6.8	2.3	3.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	100% PL28 外・内面煤付着
3	土師質土器	皿	8.2	2.8	4.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	80% PL29 口縁部油煙付着
4	土師質土器	内耳鍋	-	(11.3)	-	長石・石英・雲母	暗褐	普通	1内耳残存 耳貼り付け 口縁部外面ナデ	覆土中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
5	茶臼	(13.5)	(6.9)	(6.0)	(601.2)	安山岩	下白 平坦面を持つ周縁部 掘り目摩滅	覆土中層	

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
6	瓦	軒平瓦	(11.8)	(4.0)	(11.2)	長石・石英・雲母	灰黄	普通	瓦当面欠損凸面縄叩き 凹面布目痕模様痕	覆土中層	

第 37 号溝跡（第 141 図 PL29）

**位置** 調査区中央部の G 2 a8～G 2 a9 区、標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。

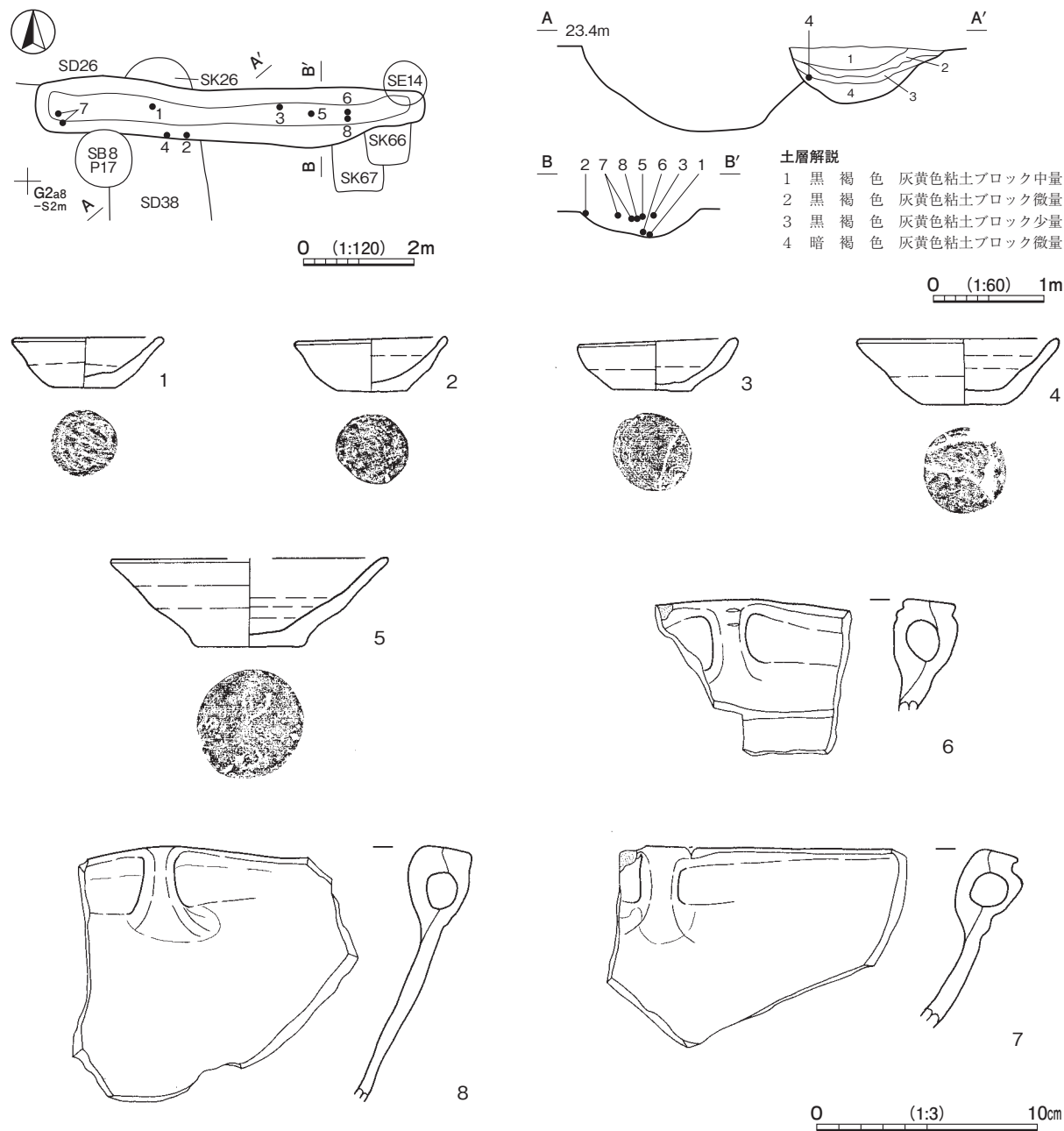
**重複関係** 第 26・66・67 号土坑、第 38 号溝跡を掘り込み、第 8 号掘立柱建物に掘り込まれている。第 14 号井戸跡との新旧関係は不明である。

**規模と形状** G 2 a8 区から東方向（N - 90°）へ直線状に延びている。長さは 7.02 m で、上幅 0.70 ～ 1.06 m、下幅 0.28 ～ 0.50 m、深さ 22 ～ 49cm である。断面形は浅い U 字状である。

**覆土** 4 層に分層できる。レンズ状に堆積しているが、粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 須恵器片5点(坏1, 高台付坏1, 甕類3), 土師質土器片158点(皿130, 内耳鍋25, 鉢3), 陶器片2点(皿), 礫1点, 鉄滓2点が出土している。1・6は底面から, 4は覆土中層から, 2・3・5・7・8は覆土上層から出土しており, 投棄あるいは混入と考えられる。

**所見** 時期は, 重複関係や出土土器から16世紀前葉と考えられる。性格は不明である。



第141図 第37号溝跡・出土遺物実測図

第37号溝跡出土遺物観察表(第141図)

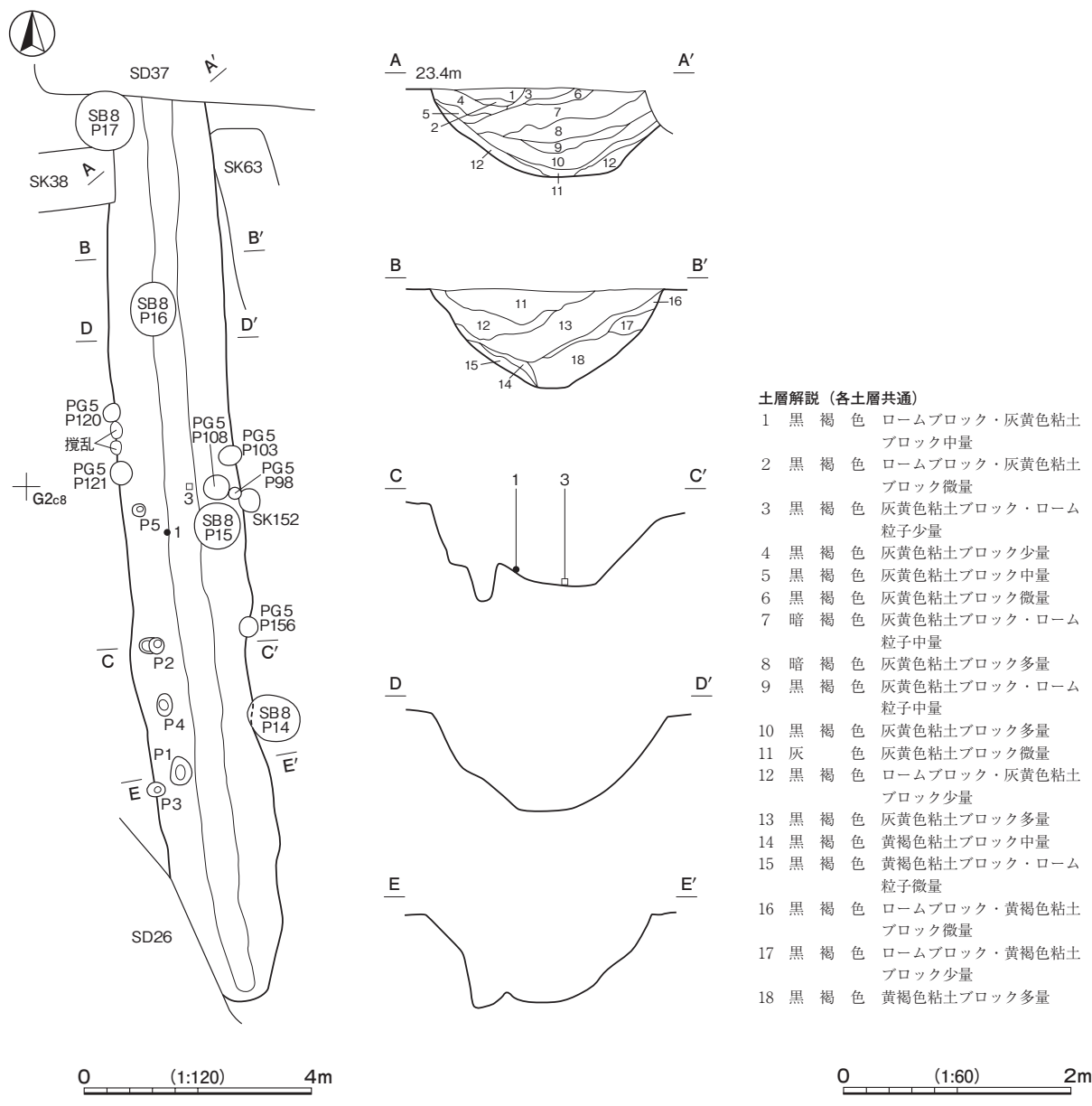
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	6.7	2.4	3.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	95% PL29
2	土師質土器	皿	6.7	2.4	3.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底中央部見込み指頭のくぼみ	覆土上層	90% PL29
3	土師質土器	皿	7.2	2.4	3.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土上層	90% PL29

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
4	土師質土器	皿	9.1	3.0	3.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	90% PL29
5	土師質土器	皿	[12.4]	4.0	4.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 外面ナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底中央部見込み 指頭のくぼみ	覆土上層	30%
6	土師質土器	内耳鍋	-	(7.1)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	1内耳残存 耳貼り付け 体部外・内面ナデ	底面	5% 外面煤付着
7	土師質土器	内耳鍋	-	(9.1)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	1内耳残存 耳貼り付け	覆土上層	5%
8	土師質土器	内耳鍋	-	(11.6)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	1内耳残存 耳貼り付け 体部外・内面ナデ	覆土上層	5% 外面煤付着

第 38 号溝跡 (第 142・143 図 PL29・39)

位置 調査区中央部の G 2 a8 ~ G 2 e8 区, 標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 8 号掘立柱建物, 第 38 号土坑, 第 37 号溝に掘り込まれている。第 63・152 号土坑, 第 26 号溝跡, 第 5 号ピット群との新旧関係は不明である。



第 142 図 第 38 号溝跡実測図

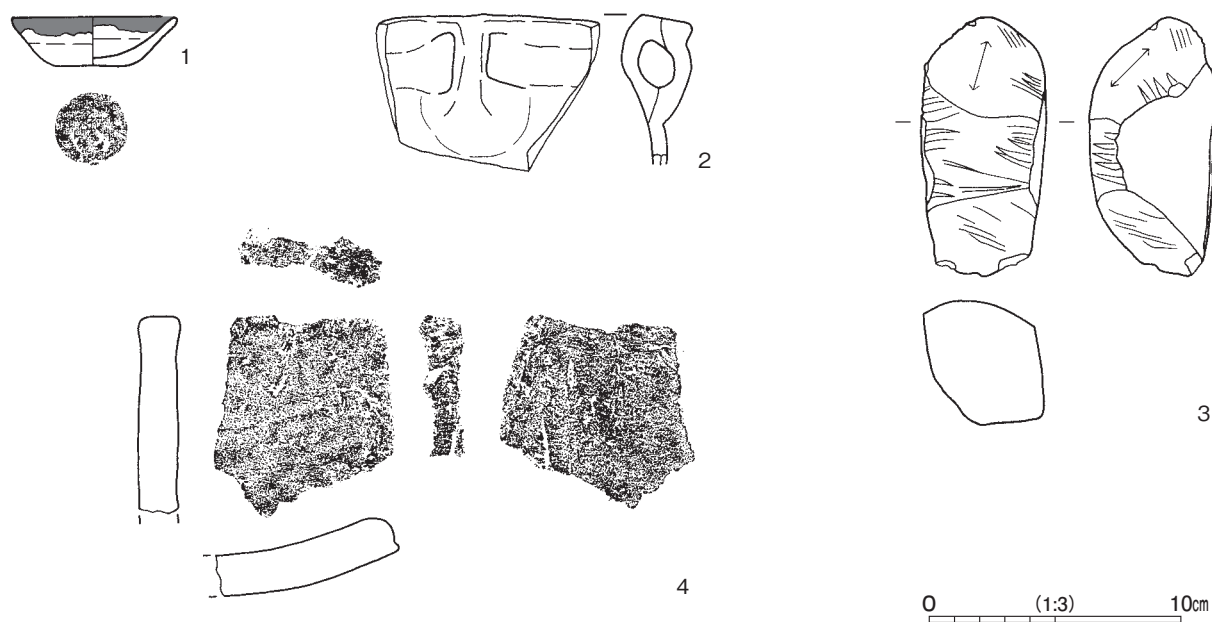
**規模と形状** G2a8区から南方向(N-5°-W)に直線状に延びている。確認できた長さは15.96mで、上幅1.80～2.10m、下幅0.36～0.62m、深さ64～85cmである。断面形は浅いU字状である。

**ピット** 5か所。深さ20～30cmである。いずれも性格は不明である。

**覆土** 18層に分層できる。レンズ状に堆積している自然堆積の部分もあるが、粘土ブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 須恵器片3点(蓋1, 甕類2), 土師質土器片59点(皿39, 内耳鍋17, 鉢1, 播鉢2), 陶器片1点(皿), 石器2点(砥石), 剥片1点, 礫4点, 瓦片1点(平瓦)が出土している。1・3は底面から, 2・4は覆土中から出土しており, 投棄あるいは混入と考えられる。

**所見** 時期は, 重複関係や出土土器から15世紀後葉～16世紀前葉と考えられる。性格は不明である。



第143図 第38号溝跡出土遺物実測図

第38号溝跡出土遺物観察表(第143図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	6.5	2.0	2.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	80% PL29 口縁部油煙付着
2	土師質土器	内耳鍋	-	(6.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	1内耳残存 耳貼り付け	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3	砥石	(10.2)	4.9	4.9	(245.7)	凝灰岩	砥面2面 溝状の筋研面	底面	

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
4	瓦	平瓦	(7.5)	(3.2)	(7.8)	長石・石英	黄灰	普通	凹凸面ナデ	覆土中	PL39

**第39号溝跡** (第144・145図 PL29)

**位置** 調査区中央部のG3f3～G3i9区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

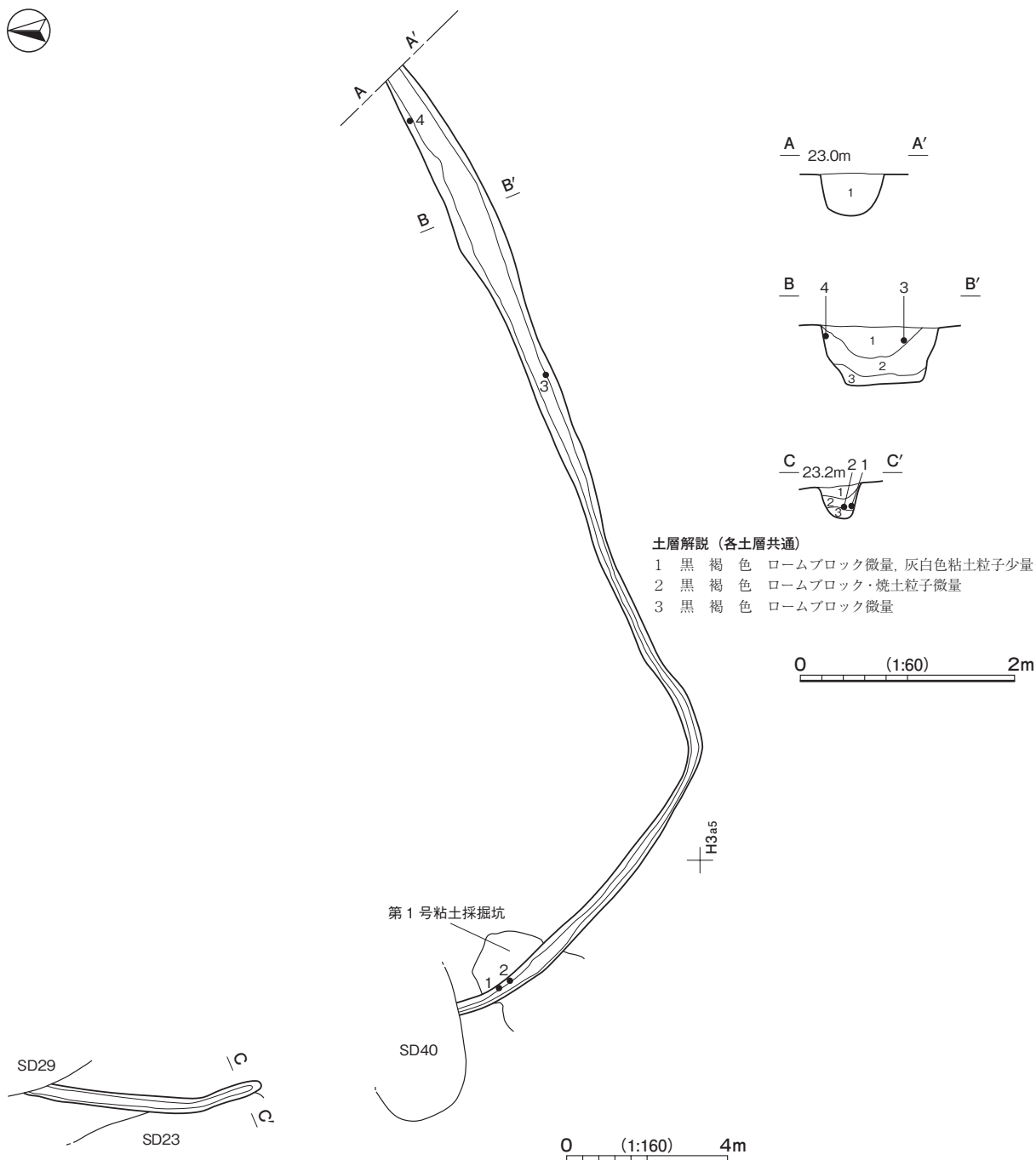
**重複関係** 第1号粘土採掘坑, 第23号溝跡を掘り込み, 第29・40号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** G3f3区から南東方向(N-28°-W)へ延び、G3j5区で北東方向(N-67°-E)へL字状に延び、調査区域外に至っている。確認できた長さは34.28mで、上幅0.32～1.20m、下幅0.08～0.66m、深さ32～54cmである。断面形はU字状及び逆台形である。

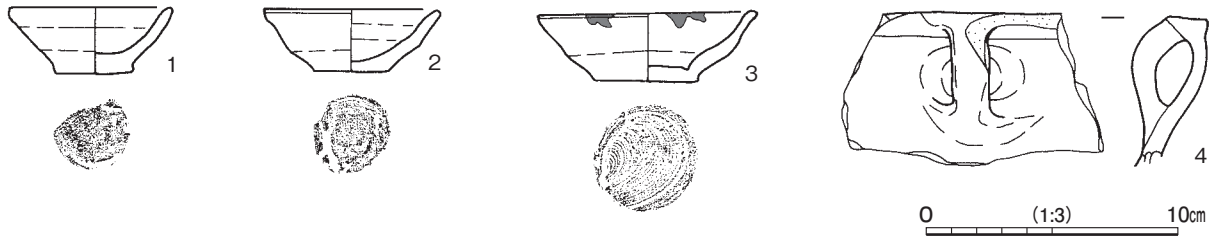
**覆土** 3層に分層できる。レンズ状に堆積している自然堆積の部分もあるが、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片76点(高坏1, 甕類75), 須恵器片21点(坏4, 甕類17), 土師質土器片47点(皿31, 内耳鍋16), 礫5点が出土している。3・4は覆土上層から、1・2は覆土中層から出土しており、投棄あるいは混入と考えられる。

**所見** 時期は、重複関係や出土土器から15世紀後葉と考えられる。性格は不明である。



第144図 第39号溝跡実測図



第 145 図 第 39 号溝跡出土遺物実測図

第 39 号溝跡出土遺物観察表 (第 145 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	6.3	2.7	3.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	90% PL29
2	土師質土器	皿	6.9	2.5	2.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	95% PL29
3	土師質土器	皿	8.5	2.8	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土上層	90% PL29 口縁部油煙付着
4	土師質土器	内耳鍋	-	(6.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	1内耳残存 耳貼り付け	覆土上層	5%

第 40 号溝跡 (第 146 ~ 148 図 PL19・29・31・33)

**位置** 調査区中央部の G3g8~G3i3 区, 標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第 23・39 号溝跡を掘り込み, 第 9 号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と形状** G3i3 区から北東方向 (N - 75° - E) へ直線状に伸び, 調査区域外に伸びている。確認できた長さは 22.8 m で, 上幅 1.56 ~ 2.52 m, 下幅 0.20 ~ 0.64 m, 深さ 76 ~ 102cm である。断面形は V 字状である。

**ピット** 3 か所。深さ 20 ~ 50cm である。いずれも性格は不明である。

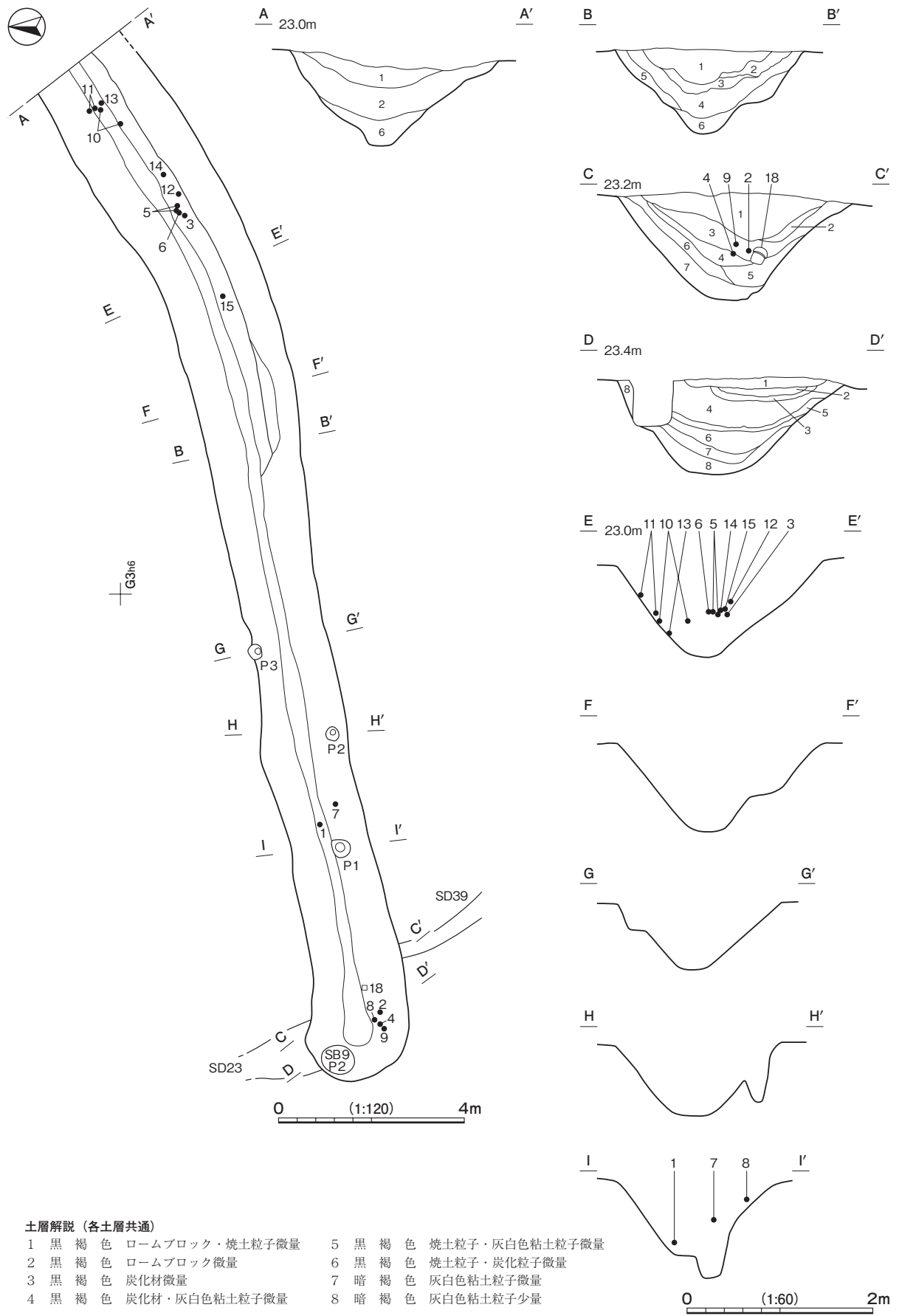
**覆土** 8 層に分層できる。レンズ状に堆積している自然堆積の部分もあるが, ロームブロックや粘土粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片 52 点 (坏 4, 高坏 1, 甕類 47), 須恵器片 46 点 (坏 4, 高台付坏 4, 蓋 5, 盤 1, 甕類 32), 土師質土器片 128 点 (皿 31, 内耳鍋 83, 播鉢 11, 甕 2, 茶釜 1), 陶器片 16 点 (碗 3, 端反皿 1, 播鉢 1, 甕 11), 土製品 1 点 (支脚), 石器 4 点 (磨石 1, 石臼 1, 砥石 2), 石製品 1 点 (不明), 礫 25 点, 椀状滓 1 点, 鉄滓 1 点, 瓦片 12 点 (丸瓦 1, 平瓦 11) が出土している。1 ~ 15・18 は覆土中層から, 16・17・19 は覆土中から出土しており, 投棄あるいは混入と考えられる。

**所見** 時期は, 重複関係や出土土器から 16 世紀代と考えられる。性格は区画溝と考えられる。

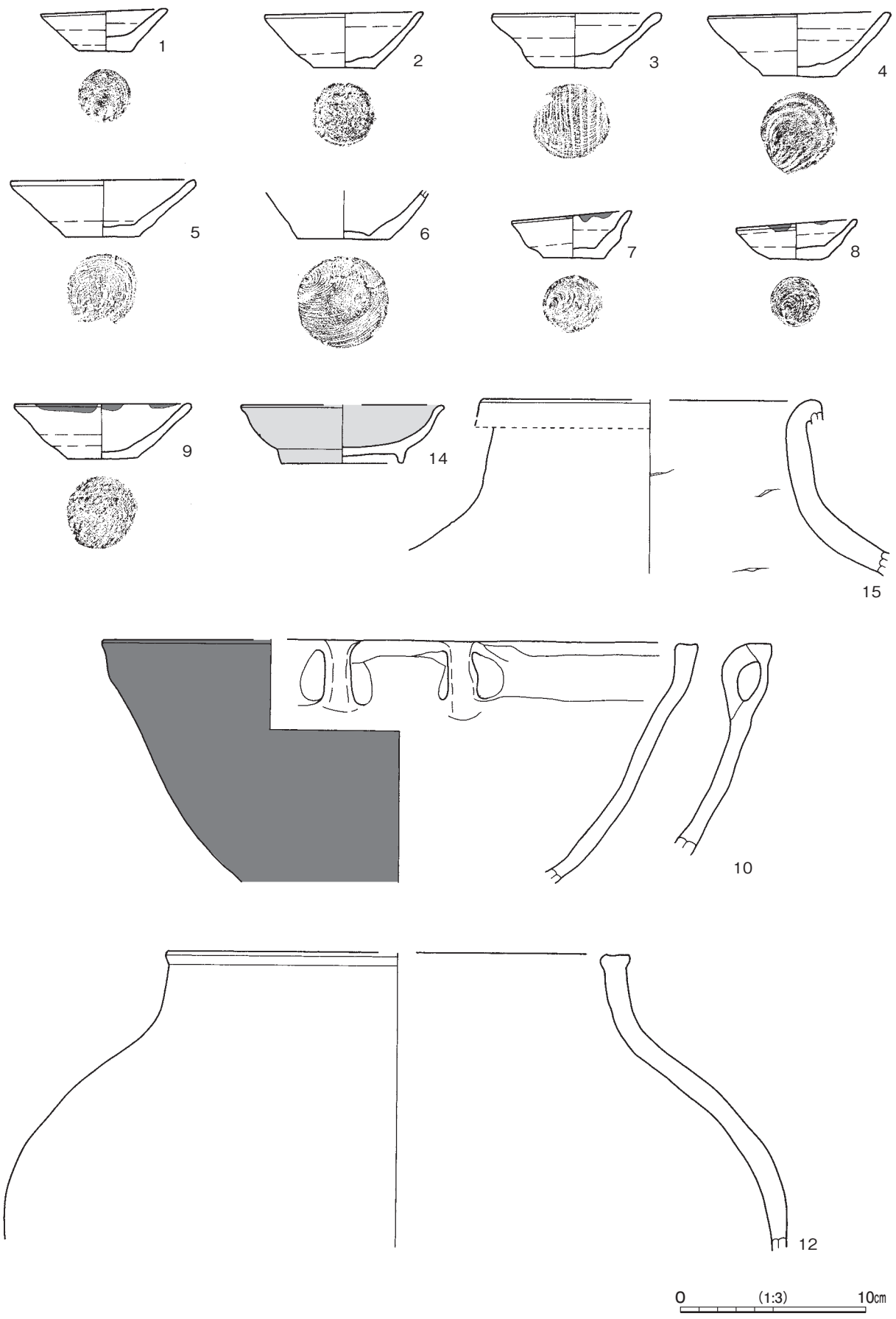
第 40 号溝跡出土遺物観察表 (第 147・148 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	6.7	2.4	2.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	100% PL29
2	土師質土器	皿	8.4	3.1	3.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	90%
3	土師質土器	皿	8.9	3.0	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	100% PL29
4	土師質土器	皿	9.8	3.5	3.9	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底中央部凹凸	覆土中層	100% PL29
5	土師質土器	皿	9.8	3.1	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	60%
6	土師質土器	皿	-	(2.6)	5.0	長石・石英	にぶい黄褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	20%
7	土師質土器	皿	6.4	2.6	3.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	100% PL29 口縁部油煙付着
8	土師質土器	皿	6.6	2.2	2.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	95% PL29 口縁部油煙付着

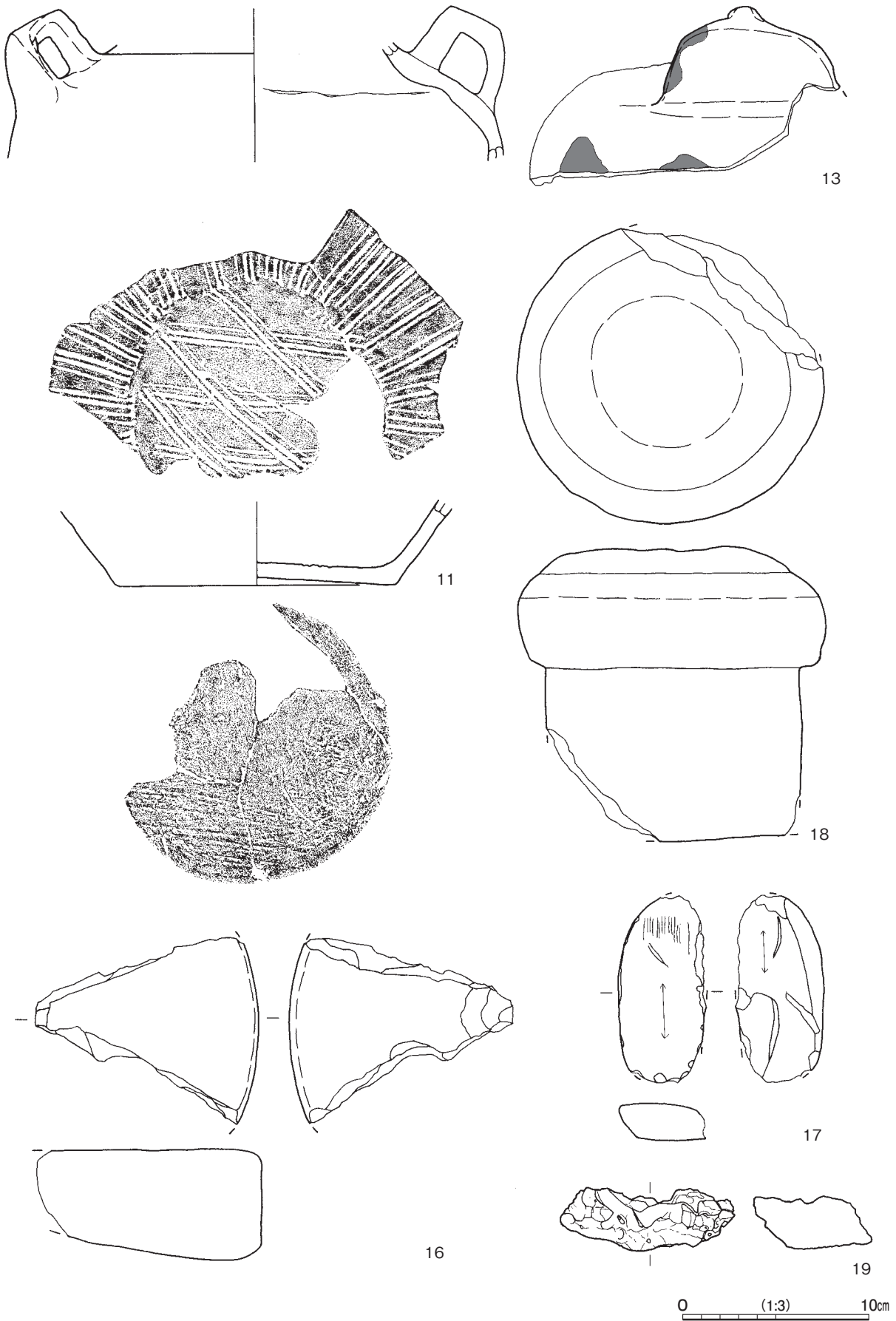


第146図 第40号溝跡実測図





第 147 图 第 40 号沟迹出土遗物实测图(1)



第 148 图 第 40 号沟迹出土遗物实测图(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
9	土師質土器	皿	9.3	3.0	3.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	95% PL29 口縁部煤付着
10	土師質土器	内耳鍋	[32.0]	(11.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	2内耳残存 耳貼り付け 口縁部外面ナデ	覆土中層	40% 外面煤付着
11	土師質土器	擂鉢	-	(4.5)	[14.6]	長石・石英・雲母	暗褐	普通	内面2条1単位 底部内面3条1単位	覆土中層	20% PL31
12	土師質土器	甕	[24.8]	(15.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外・内面横ナデ	覆土中層	10%
13	土師質土器	茶釜	-	(9.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	耳部貼り付け後ナデ 内面輪積み痕	覆土中層	10% PL31 外面煤付着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
14	陶器	端反皿	[10.8]	3.2	[6.5]	長石・石英・灰白	ロクロ成形 削り出し高台	緑釉	瀬戸	覆土中層	20%
15	陶器	壺	[18.0]	(9.4)	-	長石・石英・淡黄	口縁部一部破損 緑帯上端平坦成形 内面輪積み痕	自然釉	常滑	覆土中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
16	石臼	(12.0)	(10.0)	(6.0)	(680.1)	安山岩	下臼 播り目摩滅	覆土中	
17	砥石	(10.2)	(4.8)	(2.0)	(119.5)	凝灰岩	砥面2面 溝状の浅い・深い研き痕	覆土中	
18	不明石製品	(15.9)	16.5	15.9	(4.850)	花崗岩	上部径16.5cm, 下部径13.9cmで円筒状に加工	覆土中層	PL33

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
19	碗状滓	9.4	6.8	3.4	208.8	鉄	一部発泡 全面錆化 着磁性なし	覆土中	

#### 第41号溝跡 (第149・150図 PL20・25・38)

**位置** 調査区中央部のG3i3～G3i0区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第111号土坑、第23号溝跡を掘り込み、第107号土坑、第44号溝に掘り込まれている。第8号ピット群との新旧関係は不明である。

**規模と形状** G3i3区の南東方向(N-50°-W)へ延びて、H3a5区で北東方向(N-70°-E)へ屈曲して、調査区域外に至っている。確認できた長さは35.8mで、上幅0.28～1.36m、下幅0.20～0.80m、深さ34～60cmである。断面形はV字状及び逆台形である。

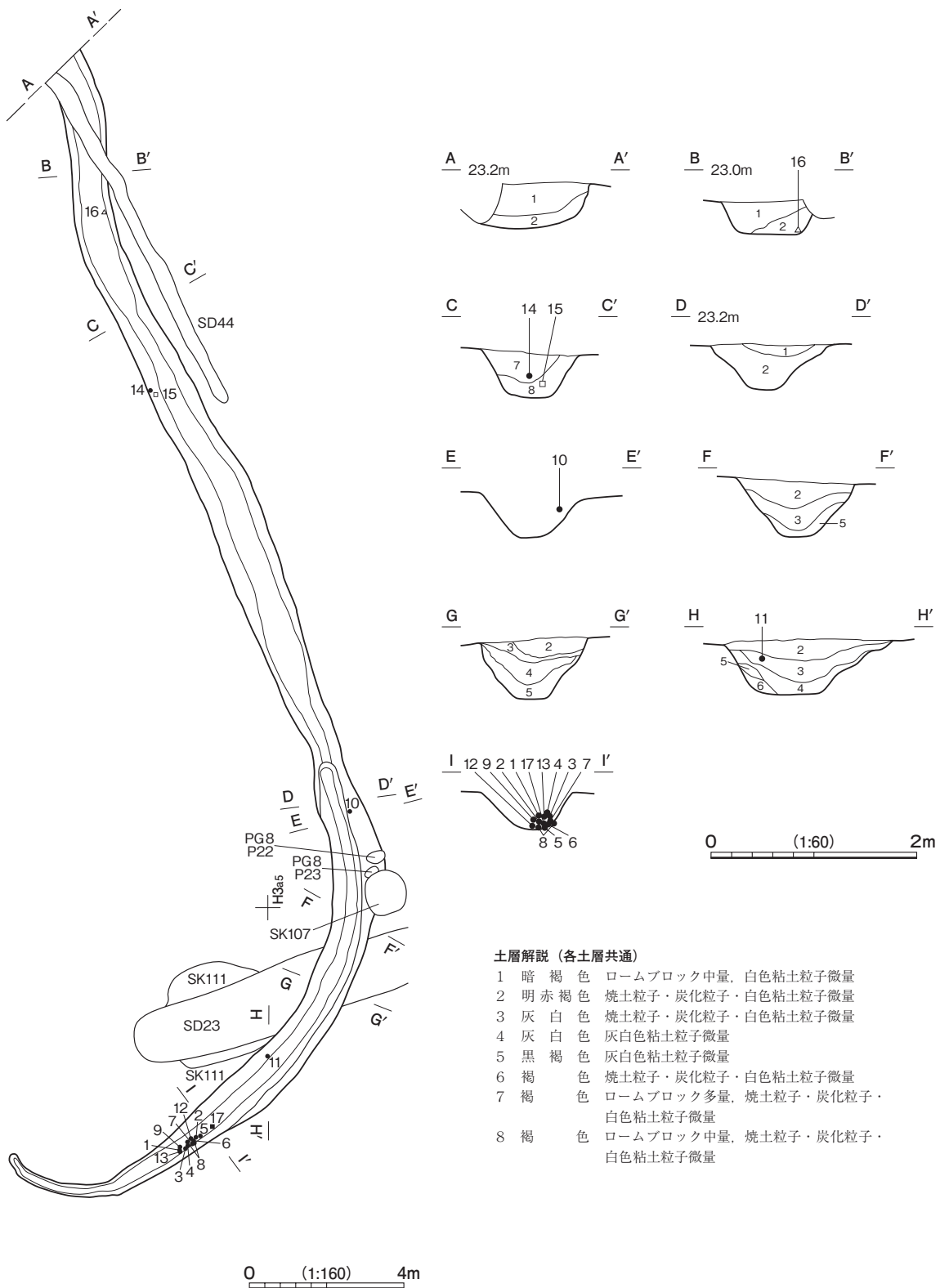
**覆土** 8層に分層できる。レンズ状に堆積しているが、ロームブロックや粘土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片11点(深鉢)、土師器片127点(坏7、甕類120)、須恵器片62点(坏22、蓋4、甕類36)、土師質土器片122点(皿92、内耳鍋17、擂鉢4、甕8、香炉1)、陶器片9点(碗2、皿1、甕6)、磁器片1点(碗)、石器9点(磨石8、砥石1)、礫15点、金属製品1点(釘)、瓦片10点(軒丸瓦1、丸瓦1、平瓦8)が出土している。5・6・8・12・16・17は覆土下層から、1～4・7・9～11・13～15は覆土中層から出土しており、投棄あるいは混入と考えられる。

**所見** 時期は、重複関係や出土土器から15世紀中葉～16世紀前葉と考えられる。性格は区画溝と考えられる。

#### 第41号溝跡出土遺物観察表 (第150図)

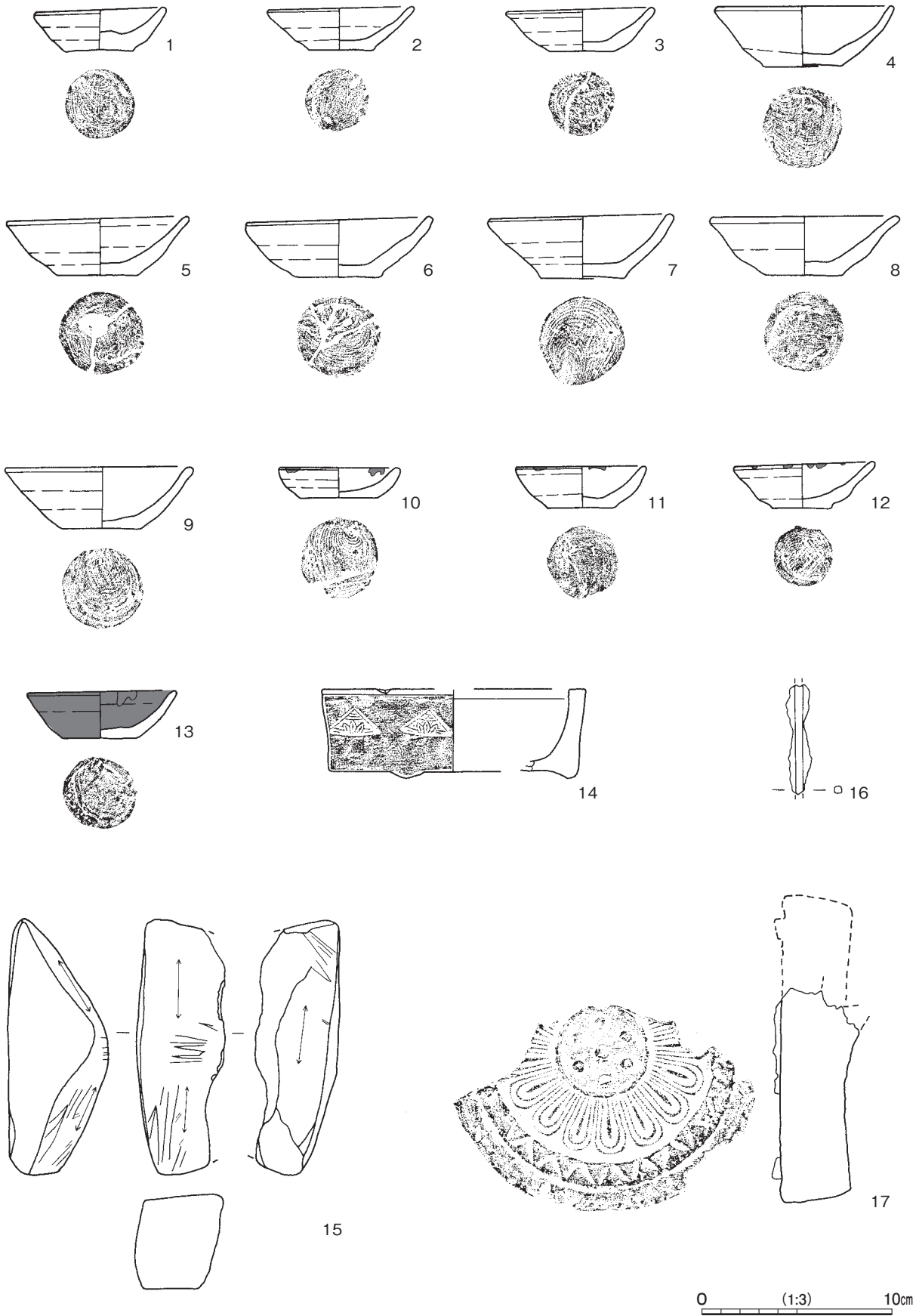
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	6.8	2.3	3.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底中央部浅い凹凸	覆土中層	100% PL25
2	土師質土器	皿	7.5	2.4	3.3	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	100% PL25
3	土師質土器	皿	7.6	2.3	3.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	100% PL25
4	土師質土器	皿	9.1	3.2	4.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ 内底中央部浅い凹凸	覆土中層	100% PL25



**土層解説 (各土層共通)**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 白色粘土粒子微量
- 2 明 赤 褐 色 焼土粒子・炭化粒子・白色粘土粒子微量
- 3 灰 白 色 焼土粒子・炭化粒子・白色粘土粒子微量
- 4 灰 白 色 灰白色粘土粒子微量
- 5 黒 褐 色 灰白色粘土粒子微量
- 6 褐 色 焼土粒子・炭化粒子・白色粘土粒子微量
- 7 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子・白色粘土粒子微量
- 8 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・白色粘土粒子微量

第 149 図 第 41 号溝跡実測図



第 150 图 第 41 号沟迹出土遗物实测图

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
5	土師質土器	皿	9.4	3.1	4.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後 ナデ	覆土下層	80%
6	土師質土器	皿	9.7	3.2	4.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後 ナデ	覆土下層	90% PL25
7	土師質土器	皿	9.4	3.4	4.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後 ナデ	覆土中層	100% PL25
8	土師質土器	皿	9.8	3.1	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後 ナデ 内底面中央部浅い凹凸	覆土下層	95% PL25
9	土師質土器	皿	9.8	3.2	4.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後 ナデ 内底面中央部浅い凹凸	覆土中層	95%
10	土師質土器	皿	6.2	1.6	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後 ナデ	覆土中層	100% PL25 口縁部油煙付着
11	土師質土器	皿	6.7	2.5	3.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後 ナデ	覆土中層	100% PL25 口縁部油煙付着
12	土師質土器	皿	7.1	2.5	3.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後 ナデ	覆土下層	100% PL25 口縁部油煙付着
13	土師質土器	皿	7.8	2.5	3.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後 ナデ	覆土中層	100% PL25 口縁部油煙付着 外・内面煤付着
14	土師質土器	香炉	[13.8]	4.7	[13.0]	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	円筒形 三足貼り付け 外面スタンプ文(笹竹) 押印	覆土中層	20% PL25

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
15	砥石	13.5	(4.6)	(5.0)	(336.6)	凝灰岩	砥面3面 溝状の浅い研き痕	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
16	釘	(5.7)	0.4	0.4	(11.36)	鉄	釘頭 両端部欠損	覆土下層	

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
17	瓦	軒丸瓦	(16.0)	(11.0)	(5.1)	長石・石英	褐灰	普通	鋸歯文縁単弁十六葉花文	覆土下層	PL38

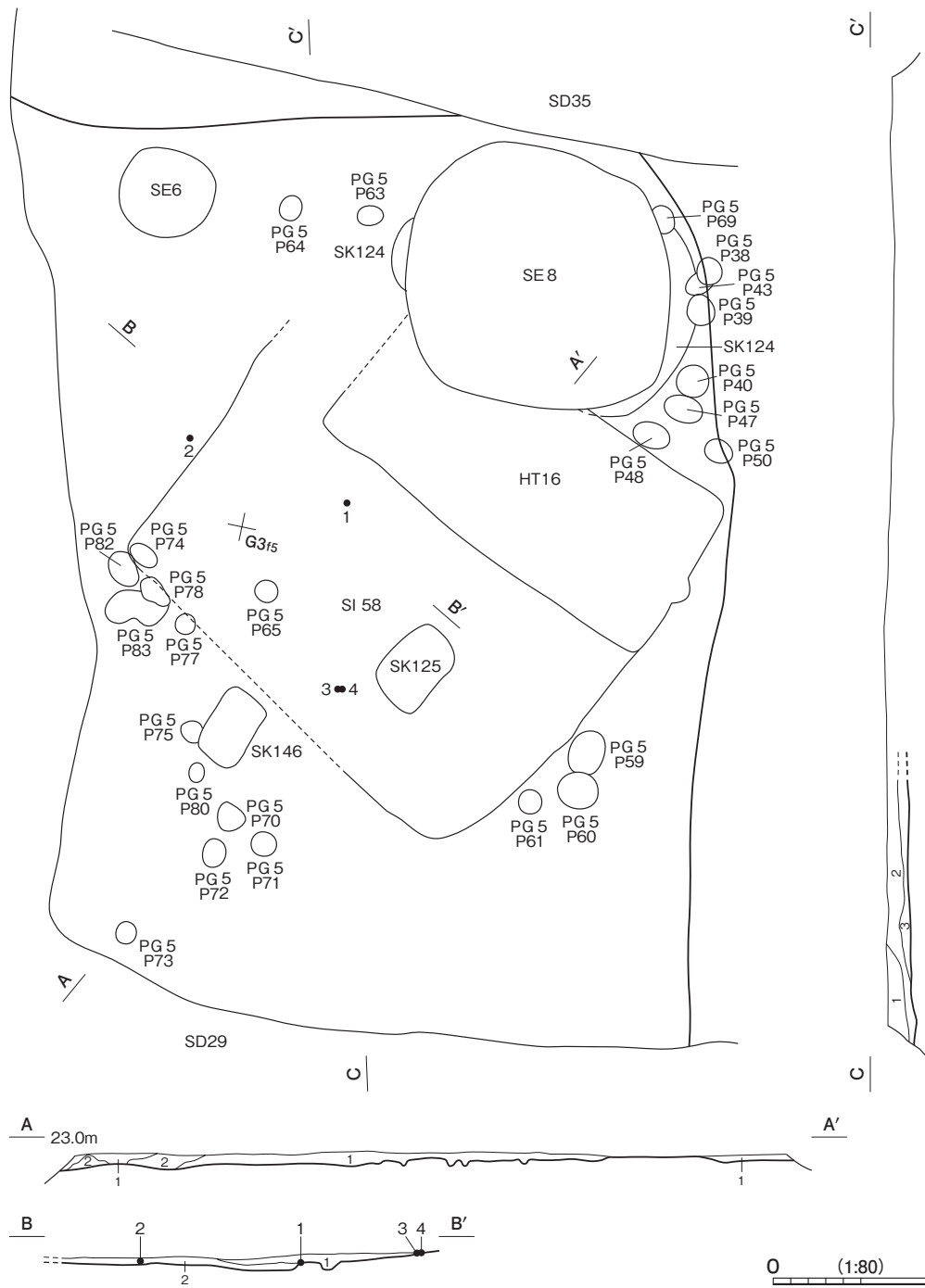
表 15 中世溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
11	F1b9~F2c3	N-13°-W N-80°-E	L字状	(20.82)	2.62~3.14	0.54~1.00	89~104	逆台形	外傾	人為	土師質土器, 陶器	SB5, SD18 → 本跡 → SD17
12	F2c8~F2d1	N-80°-E	直線状	(24.6)	2.82~3.32	0.48~1.00	94~128	逆台形	緩斜	人為	土師質土器, 陶器, 石白	UP2, TP1・3, SK11・14, SD19 → 本跡
13	F3g1~F2j6	N-5°-E N-85°-E	L字状	(28.28)	1.50~2.36	0.32~1.04	56~81	浅いU字状	緩斜	人為	土師質土器, 陶器	SI55, SD23・25 → 本跡 → SE3, SK30, PG4 SD28と重複
25	F2j7~F3i2	N-75°-E	直線状	(21.44)	0.33~1.50	0.15~0.50	32~34	浅いU字状	緩斜	人為	土師質土器	SD26 → 本跡 → SB8, SD13 UP3, SK79と重複
26	F3j2~G3h9	N-86°-E N-14°-W N-74°-E	コの字状	(68.60)	1.36~3.00	0.16~0.64	28~90	U字状	緩斜	人為	土師質土器, 陶器, 宝篋印塔	HT13, SE2, SK26・69・70・96・100, SD27・28 → 本跡 → SB8, SK97, SD25・29, PG4・5 SE14・SD38と重複
28	F2j6~G3e3	N-7°-W N-81°-E	L字状	(43.94)	1.54~2.50	0.14~1.00	39~102	U字状 逆台形	外傾	人為	土師質土器, 陶器, 磁器	SK34・35・46・87 → 本跡 → SB8, SE3, SD26・29 SB7, SD13と重複
29	F3j2~G3f8	N-7°-W N-72°-E	L字状	(44.60)	2.09~4.64	0.19~0.40	82~174	U字状 逆台形	外傾	人為	土師質土器, 石白, 五輪塔	SI57, HT15, SD26・28・32・39 → 本跡 → SK106, SD33・35 第1号整地遺構と重複
35	G3d3~G3d6	N-86°-W	直線状	(11.16)	2.48~(2.80)	0.24~0.80	121~142	U字状	外傾	人為	土師質土器, 陶器, 茶白	SD29 → 本跡 → SD33 第1号整地遺構と重複
37	G2a8~G2a9	N-90°	直線状	7.02	0.70~1.06	0.28~0.50	22~49	浅いU字状	緩斜	人為	土師質土器	SK26・66・67, SD38 → 本跡 → SB8 SE14と重複
38	G2a8~G2e8	N-5°-W	直線状	(15.96)	1.80~2.10	0.36~0.62	64~85	U字状	緩斜	人為	土師質土器, 陶器	本跡 → SB8, SK38, SD37, SK63, 152, SD26, PG5と重複
39	G3f3~G3i9	N-28°-W N-67°-E	L字状	(34.28)	0.32~1.20	0.08~0.66	32~54	U字状 逆台形	外傾	人為	土師質土器	第1号粘土探掘坑, SD23 → 本跡 → SD29・40
40	G3g8~G3i3	N-75°-E	直線状	(22.80)	1.56~2.52	0.20~0.64	76~102	V字状	緩斜	人為	土師質土器(茶釜), 陶器, 石白, 宝篋印塔	SD23・39 → 本跡 → SB9
41	G3i3~G3i0	N-50°-W N-70°-E	L字状	(35.80)	0.28~1.36	0.20~0.80	34~60	V字状 逆台形	外傾 緩斜	人為	土師質土器, 陶器, 磁器	SK111, SD23 → 本跡 → SK107, SD44 SB9, PG8と重複

(9) 整地遺構

第1号整地遺構 (第151・152図 PL30)

位置 調査区中央部のG3d4~G3g6区, 標高23mほどの平坦な台地上の東西7.60m, 南北10.5mの範囲で確認した。



**土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子・白色粘土粒子少量
- 2 灰白色 白色粘土粒子中量
- 3 明褐色 ロームブロック・白色粘土粒子多量

**第 151 図** 第 1 号整地遺構実測図

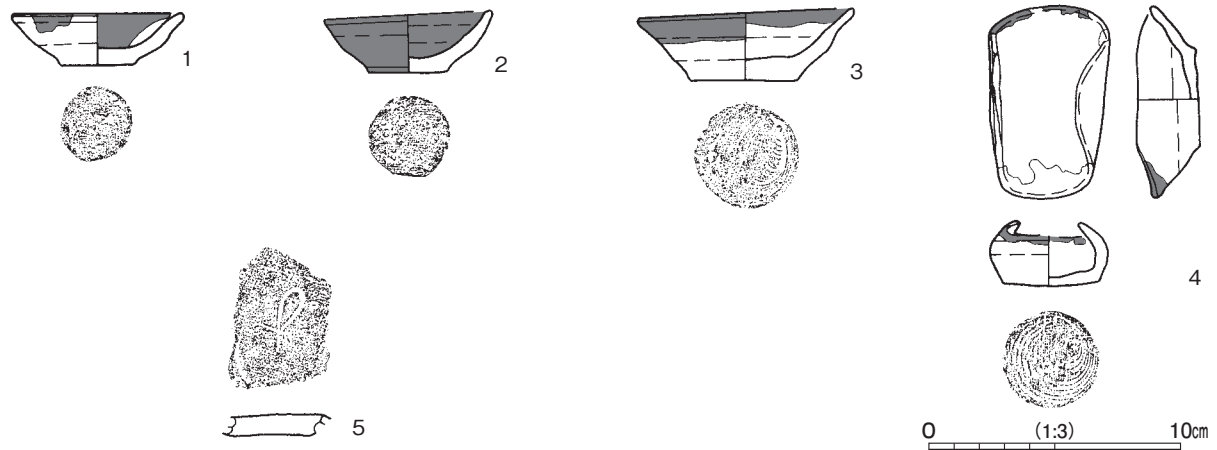
**重複関係** 第 58 号竪穴建物跡，第 29 号溝跡，第 16 号方形竪穴遺構を埋め戻し，第 6・8 号井戸跡に掘り込まれている。第 124・125・146 号土坑，第 35 号溝跡，第 5 号ピット群との新旧関係は不明である。

**埋土** 3 層に分層できる。ロームブロックや粘土粒子を含む層は埋めている。



**遺物出土状況** 土師器片4点(甕類), 須恵器片3点(坏2, 甕類1), 土師質土器片14点(皿8, 耳皿1, 内耳鍋4, 火鉢<sub>カ</sub>1), 金属製品2点(不明), 瓦片1点(平瓦)が出土している。1~4は覆土下層から, 5は覆土中から出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から16世紀代と考えられる。性格は不明である。



第152図 第1号整地遺構出土遺物実測図

第1号整地遺構出土遺物観察表 (第152図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	6.7	2.1	2.8	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	95% PL30 口縁部油煙付着 内面煤付着
2	土師質土器	皿	6.6	2.5	3.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	100% PL30 外・内面煤付着
3	土師質土器	皿	8.5	2.9	4.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	90% PL30 外・内面煤付着
4	土師質土器	耳皿	[2.5]~7.4	2.5	3.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ナデ 底部回転糸切り	覆土下層	80% PL30 口縁部油煙付着
5	土師質土器	火鉢 <sub>カ</sub>	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	底部内面ヘラ書き	覆土中	5% PL30

## 5 江戸時代以降の遺構と遺物

当時代の遺構は, 掘立柱建物跡1棟, 井戸跡5基, 溝跡2条を確認した。以下, 遺構及び遺物について記述する。

### (1) 掘立柱建物跡

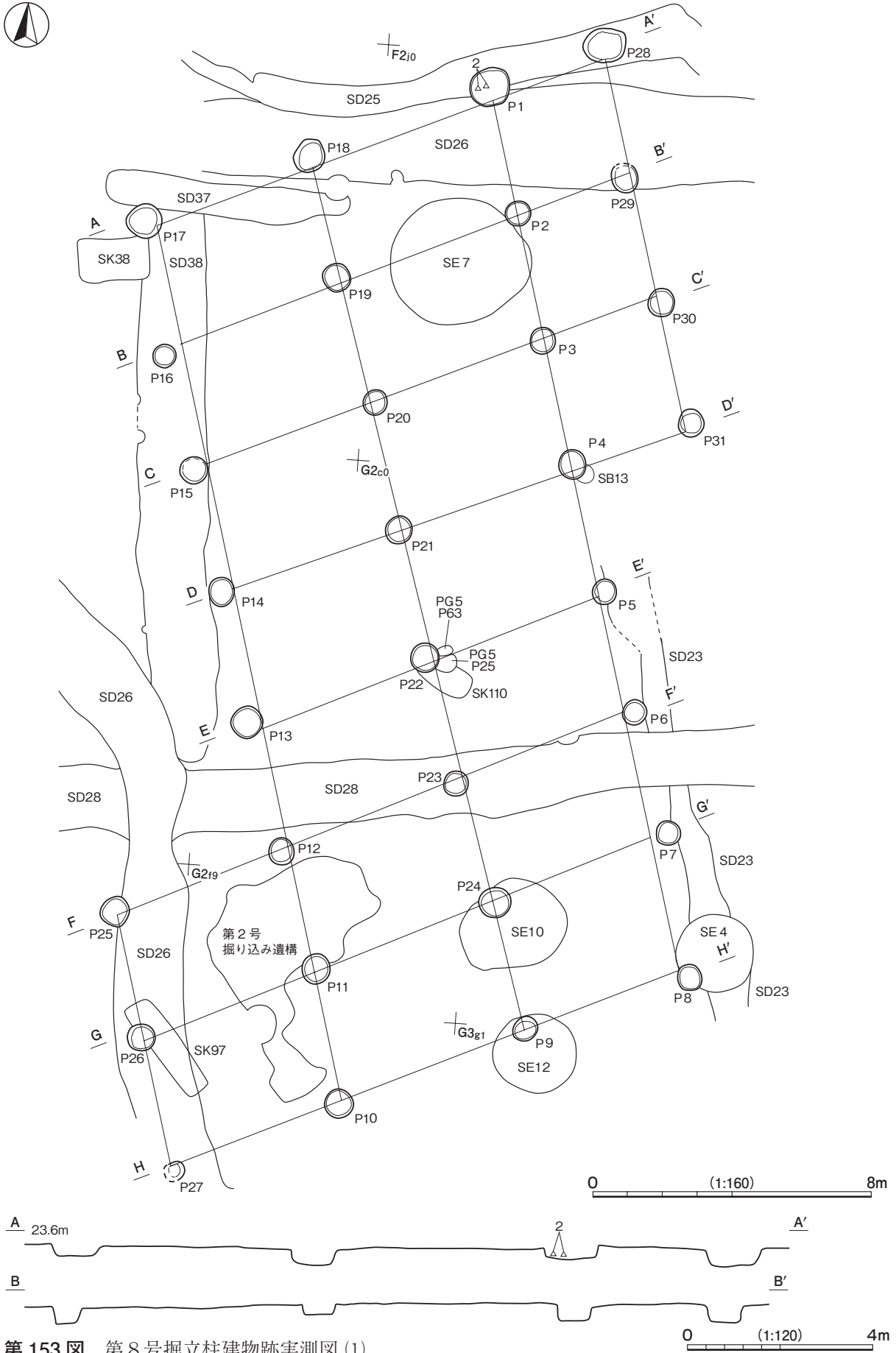
#### 第8号掘立柱建物跡 (第153~155図 PL35)

**位置** 調査区中央部のF3i1~G2h9区, 標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

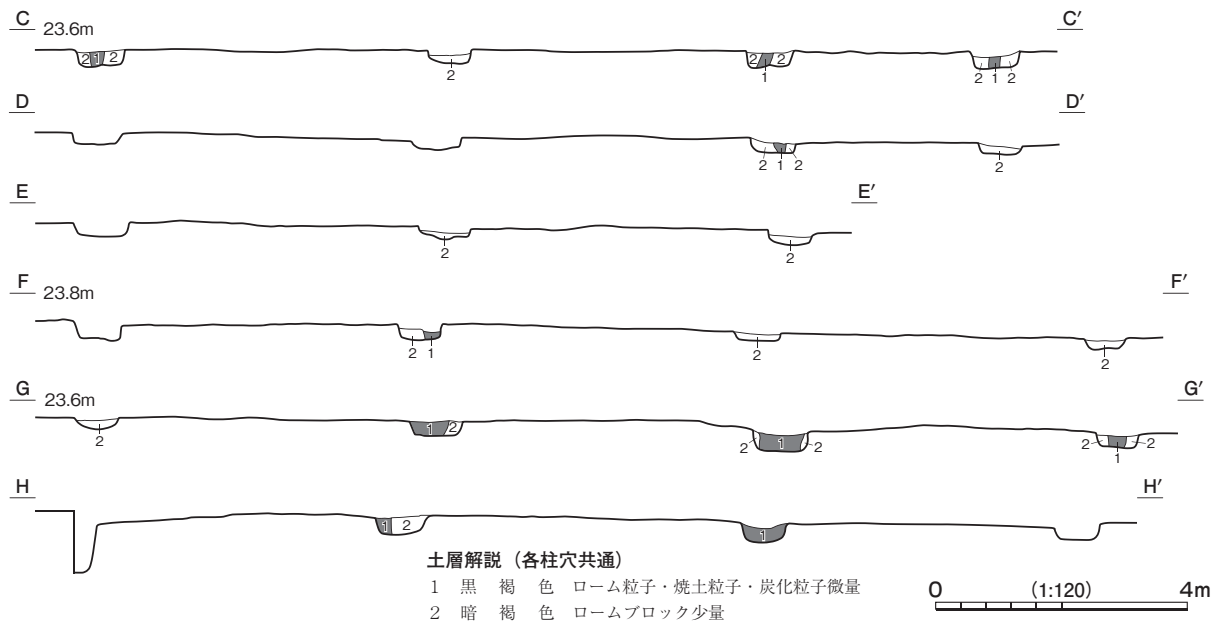
**重複関係** 第13号掘立柱建物跡, 第4・7・10・12号井戸跡, 第38・97・110号土坑, 第23・25・26・28・37・38号溝跡, 第5号ピット群, 第2号掘り込み遺構を掘り込んでいる。

**規模と構造** 桁行7間, 梁行2間の身舎に北東部と南西部に張り出しの付く総柱建物跡で, 桁行方向が(N-14°-W)の南北棟である。身舎の規模は, 桁行25.48m, 梁行10.3mで, 面積は262.4㎡である。柱間寸法は桁行が3.64m(12尺), 梁行は5.15m(17尺)で, 柱筋はほぼ揃っている。

**柱穴** 31か所。平面形は円形又は楕円形で, 長径70~128cm, 短径67~98cmである。深さ31~96cmで, 掘方の断面はほぼ直立している。第1層は柱痕跡, 第2層は埋土である。



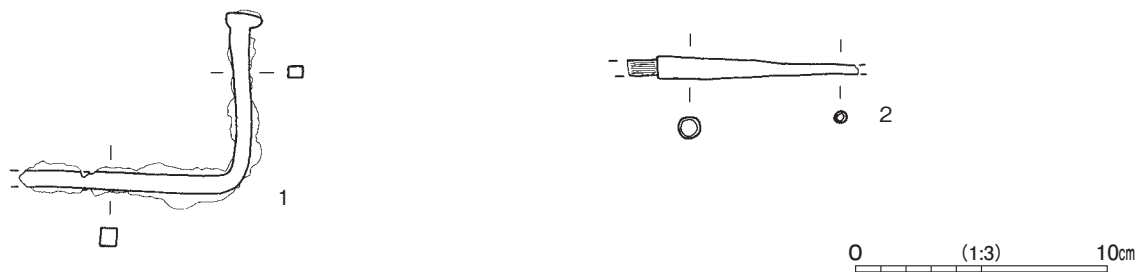
第 153 図 第 8 号掘立柱建物跡実測図 (1)



第154図 第8号掘立柱建物跡実測図(2)

**遺物出土状況** 土師器片27点(甕類),土師質土器片23点(皿17,内耳鍋6),陶器片3点(碗),石器1点(砥石),金属製品4点(釘1,煙管1,不明2),瓦片3点(平瓦),礫1点が出土している。2はP1の覆土下層から,1はP4の覆土中から出土している。

**所見** 時期は,出土土器から判断できないが,重複関係や規模や形状から江戸時代以降と考えられる。性格は,大型の建物跡であるが,詳細は不明である。



第155図 第8号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第8号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第155図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	釘	(16.6)	(1.3)	0.75	(31.8)	鉄	端部欠損 L字状の破片 断面長方形	P4覆土中	PL35
2	煙管	(9.2)	(0.85)	(0.85)	(6.2)	銅	吸口部一部欠損 断面円形	P1覆土下層	PL35

(2) 井戸跡

第1号井戸跡(第156図 PL20)

**位置** 調査区北西部のF2g2区,標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

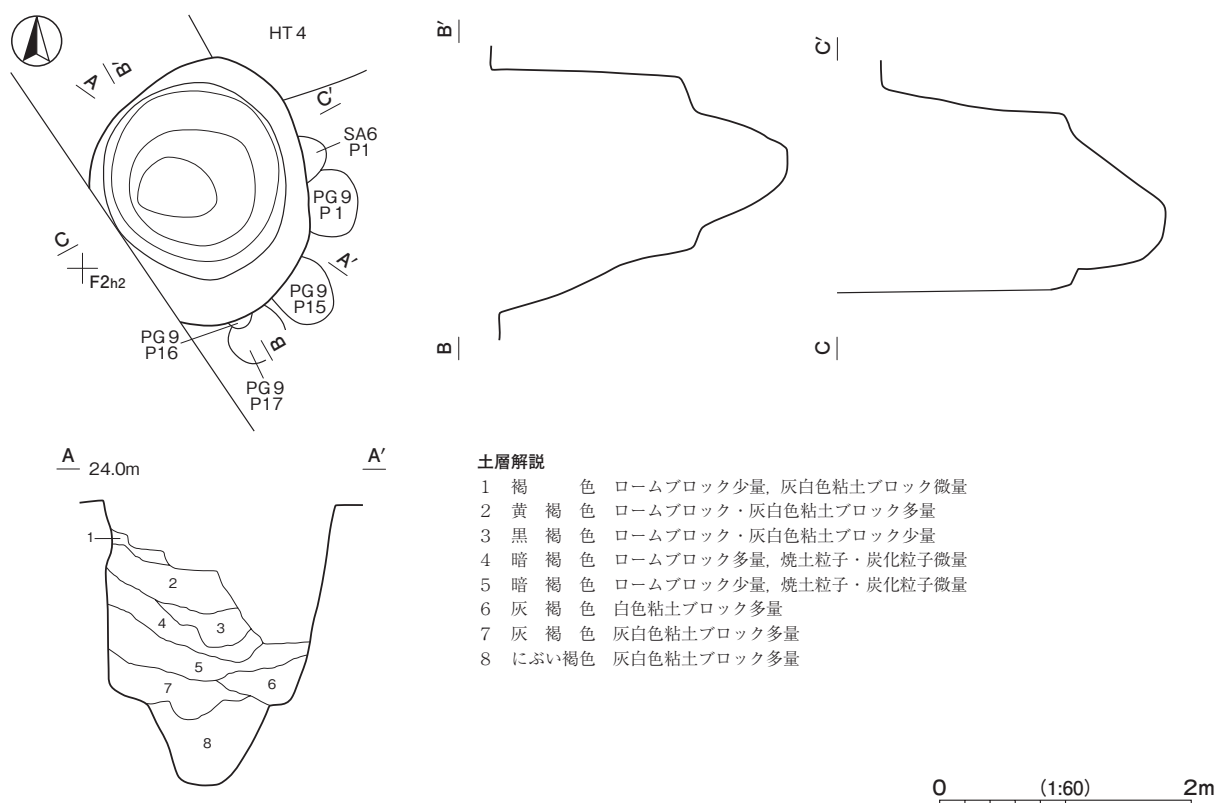
**重複関係** 第4号方形竪穴遺構,第6号柱穴列,第9号ピット群を掘り込んでいます。

**規模と形状** 南西部が調査区域外のため、長径は 2.09 m で、短径は 1.78 m しか確認できなかったが、長径方向は N - 5° - E の楕円形と推定される。確認面から 170cm までほぼ円筒状に掘り込まれ、段を有したそれより下部は、U 字状に掘り込まれている。確認面から深さ 230cm ほど掘り込まれていることを確認した。

**覆土** 8 層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師器片 12 点 (坏 1, 甕類 11), 須恵器片 11 点 (坏 4, 蓋 1, 甕類 6), 瓦片 10 点 (丸瓦 6, 平瓦 4), 礫 1 点が覆土中から出土している。これらの遺物は、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。いずれも細片のため図示できない。

**所見** 時期は、重複関係などから江戸時代以降と考えられる。



第 156 図 第 1 号井戸跡実測図

### 第 3 号井戸跡 (第 157 図)

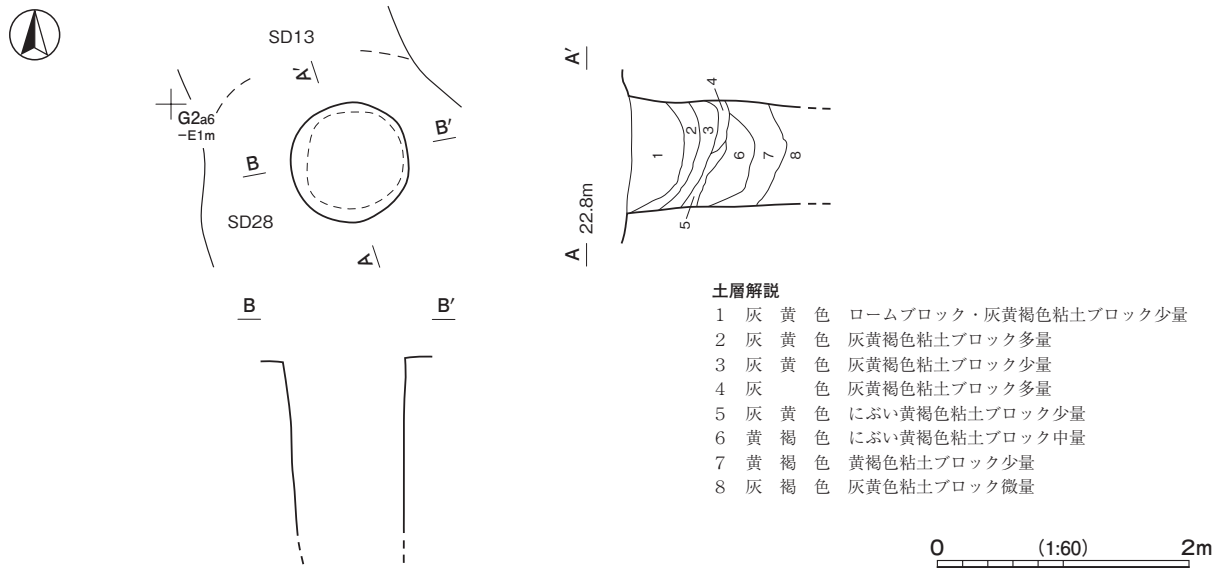
**位置** 調査区北西部の G 2 a 6 区, 標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第 13・28 号溝を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径 0.94 m, 短径 0.92 m の円形である。確認面からほぼ円筒状に掘り込まれている。確認面から深さ 145cm ほど掘り込まれていることを確認したが、安全面の配慮から下部の調査を断念した。

**覆土** 観察できた部分は、8 層に分層できる。粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**所見** 時期は、重複関係から江戸時代以降と考えられる。



第157図 第3号井戸跡実測図

第6号井戸跡 (第158図)

**位置** 調査区中央部のG 3e4区, 標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

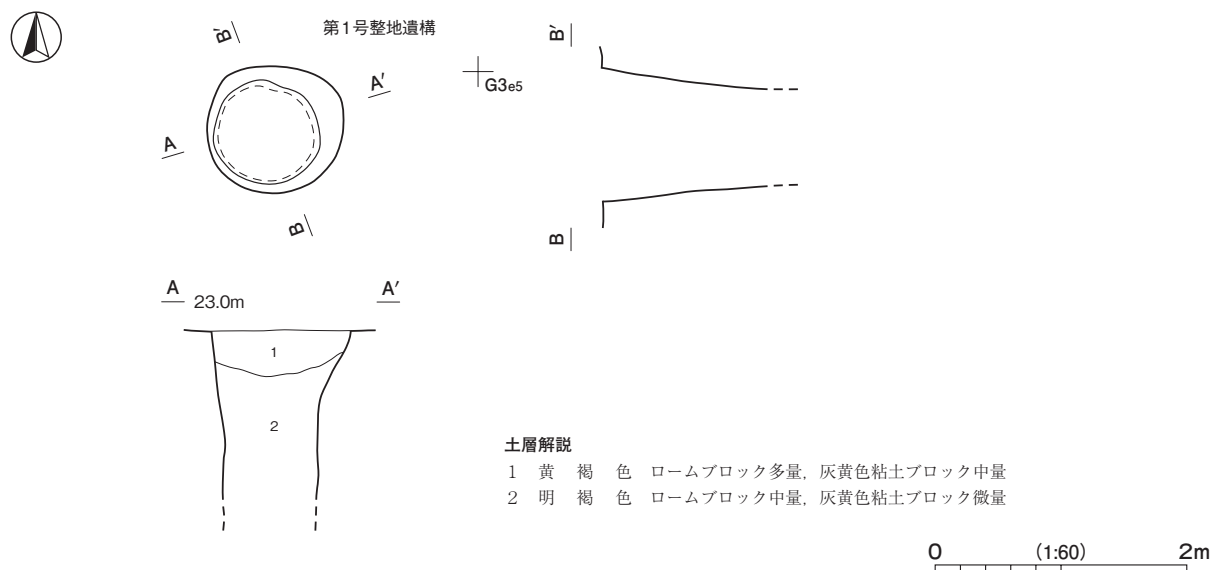
**重複関係** 第1号整地遺構を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径1.12m, 短径1.04mで, 長径方向はN-59°-Eの楕円形である。確認面からほぼ円筒状に掘り込まれている。確認面から深さ132cmほど掘り込まれていることを確認したが, 安全面の配慮から下部の調査を断念した。

**覆土** 観察できた部分は, 2層に分層できる。粘土ブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

**遺物出土状況** 陶器片1点(甕)が覆土中から出土している。細片のため図示できない。

**所見** 時期は, 重複関係や出土土器から江戸時代以降と考えられる。



第158図 第6号井戸跡実測図

**第8号井戸跡** (第159図 PL20)

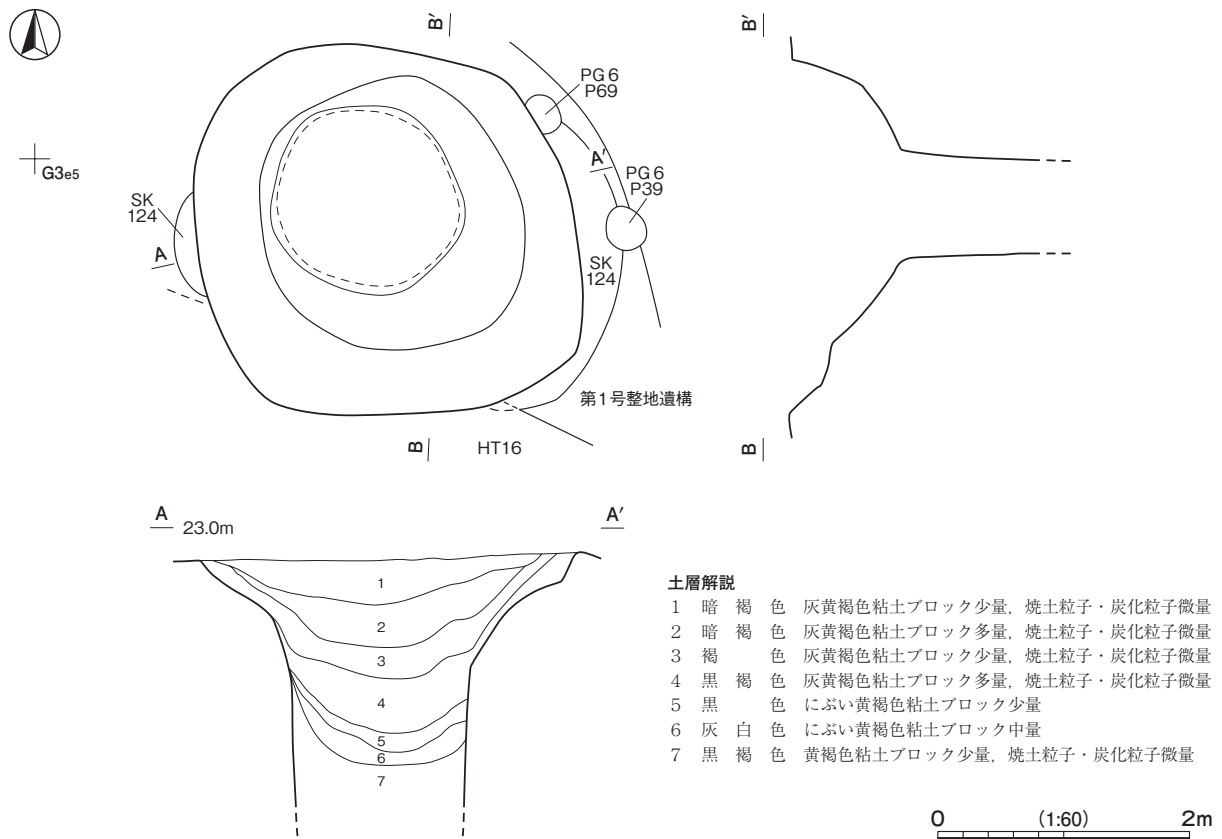
**位置** 調査区北西部のG3e5区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第16号方形竪穴遺構、第124号土坑、第1号整地遺構、第6号ピット群を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径3.43m、短径3.14mの円形である。確認面から90cmまでは漏斗状に掘り込まれ、それより下部は径0.75mの円筒状に掘り込まれている。確認面から深さ197cmほど掘り込まれていることを確認したが、安全面の配慮から下部の調査を断念した。

**覆土** 観察できた部分は、7層に分層できる。レンズ状に堆積している自然堆積の部分もあるが、粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**所見** 時期は、重複関係から江戸時代以降と考えられる。



第159図 第8号井戸跡実測図

**第11号井戸跡** (第160図 PL35)

**位置** 調査区中央部のG2f9区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

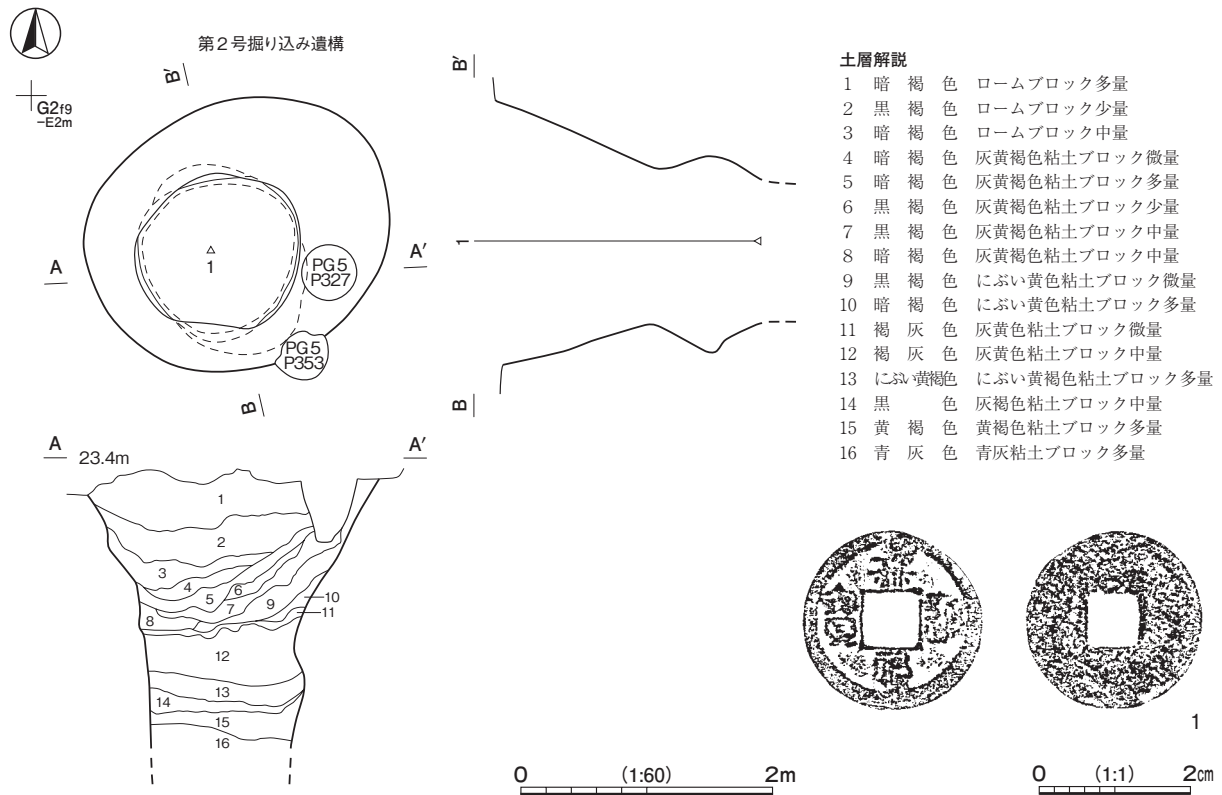
**重複関係** 第5号ピット群、第2号掘り込み遺構に掘り込まれている。

**規模と形状** 第5号ピット群、第2号掘り込み遺構に掘り込まれているため、長径2.45m、短径2.10mしか確認できなかった。長径方向はN-55°-Eの楕円形である。確認面から130cmまでは漏斗状に掘り込まれ、それより下部はほぼ径1.15mの円筒状に掘り込まれている。確認面から深さ210cmほど掘り下げた段階で、崩落が想定されたため、安全面の配慮から下部の調査を断念した。

**覆土** 観察できた部分は、16層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 土師質土器片4点(皿2, 内耳鍋2), 銭貨1点(嘉慶通寶)が出土している。これらの遺物は、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。1は覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、重複関係や出土土器から江戸時代と考えられる。



第160図 第11号井戸跡・出土遺物実測図

第11号井戸跡出土遺物観察表(第160図)

番号	種別	銭名	径	孔幅	重量	材質	初鑄年	特徴	出土位置	備考
1	銭貨	嘉慶通寶	2.4	0.7	2.15	銅	1796	清銭 背無し	覆土下層	PL35

表16 江戸時代以降の井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	F2g2	N-5°-E	[楕円形]	2.09 × (1.78)	230	有段	円筒状	人為	土師器, 須恵器, 瓦	HT4, SA6, PG9 → 本跡
3	G2a6	-	円形	0.94 × 0.92	(145)	不明	円筒状	人為		SD13・28 → 本跡
6	G3e4	N-59°-E	楕円形	1.12 × 1.04	(132)	不明	円筒状	人為	陶器	第1号整地遺構 → 本跡
8	G3e5	-	円形	3.43 × 3.14	(197)	不明	漏斗状	人為		HT16, SK124, 第1号整地遺構, PG6 → 本跡
11	G2f9	N-55°-E	[楕円形]	(2.45) × (2.10)	(210)	不明	漏斗状	人為	土師質土器, 銭貨	本跡 → 第2号掘り込み遺構, PG5

(3) 溝跡

第16号溝跡(第161図・付図)

**位置** 調査区北西部のH3c3~H3g7区, 標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第23号溝跡を掘り込んでいます。第1号大型円形土坑との新旧関係は不明である。

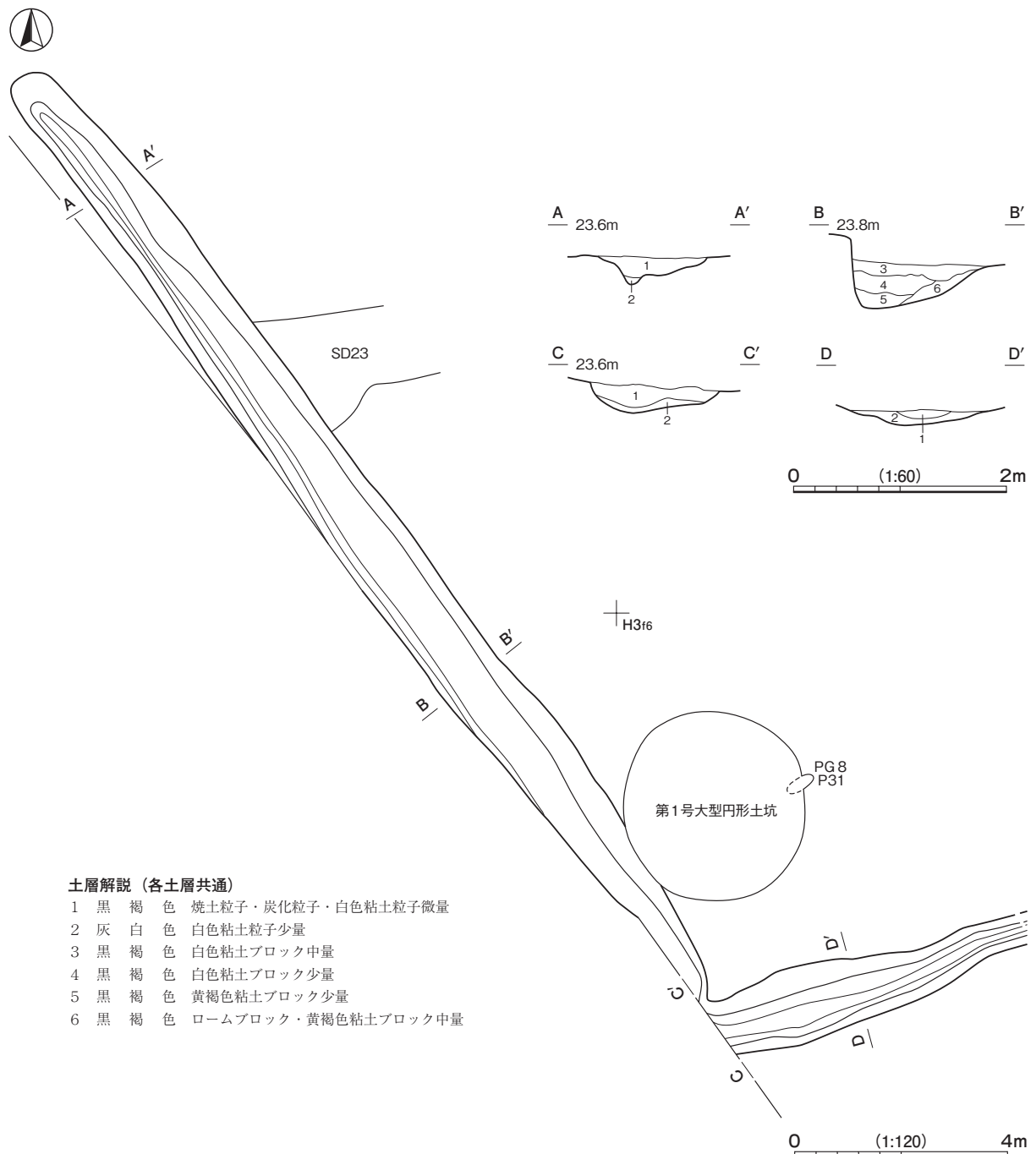


**規模と形状** H 3c3区から南東方向 (N - 126° - E) へ直線状に延び、H 3h6区で北東方向 (N - 69° - E) へ、L字状に屈曲している。その先は、溝跡として確認できなかった。確認できた長さは28.40 mで、上幅0.62 ~ 1.49 m、下幅0.10 ~ 0.40 m、深さ14 ~ 44cmである。断面形は浅いU字状である。

**覆土** 6層に分層できる。一部は含有物から人為堆積と認められるが、第1~5層はレンズ状に堆積していることから自然堆積である。第6層はロームブロックを含む壁面の崩落土である。

**遺物出土状況** 土師器片23点 (坏2, 高台付坏1, 蓋1, 甕類19), 須恵器片9点 (坏4, 甕類5), 土師質土器片5点 (皿4, 甕1), 陶器片2点 (碗) が出土している。いずれも細片のため図示できない。

**所見** 時期は、重複関係や出土土器から江戸時代以降と考えられる。性格は不明である。



第161図 第16号溝跡実測図

**第 33 号溝跡** (第 162・163 図・付図 PL32)

**位置** 調査区中央部の G 3c5～G 3f3 区, 標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。

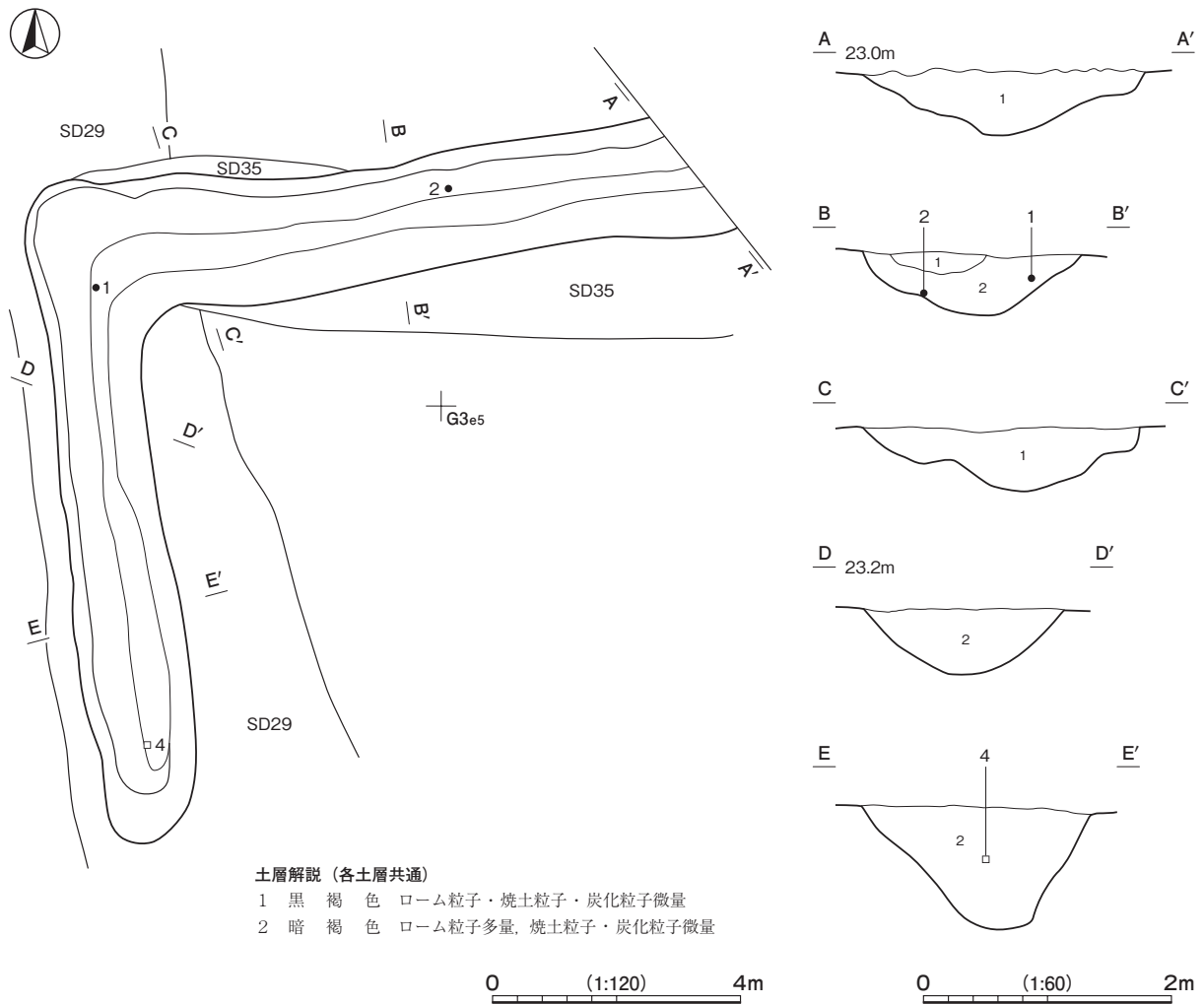
**重複関係** 第 29・35 号溝跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** G 3f3 区から北方向 (N - 8° - W) に延び, G 3d3 区から東方向 (N - 82° - E) へ L 字状に屈曲して直線状に延び, G 3c5 区で調査区域外へ延びている。確認できた長さは 19.44 m で, 上幅 1.46～2.08 m, 下幅 0.24～0.64 m, 深さ 50～96cm である。断面形は U 字状である。

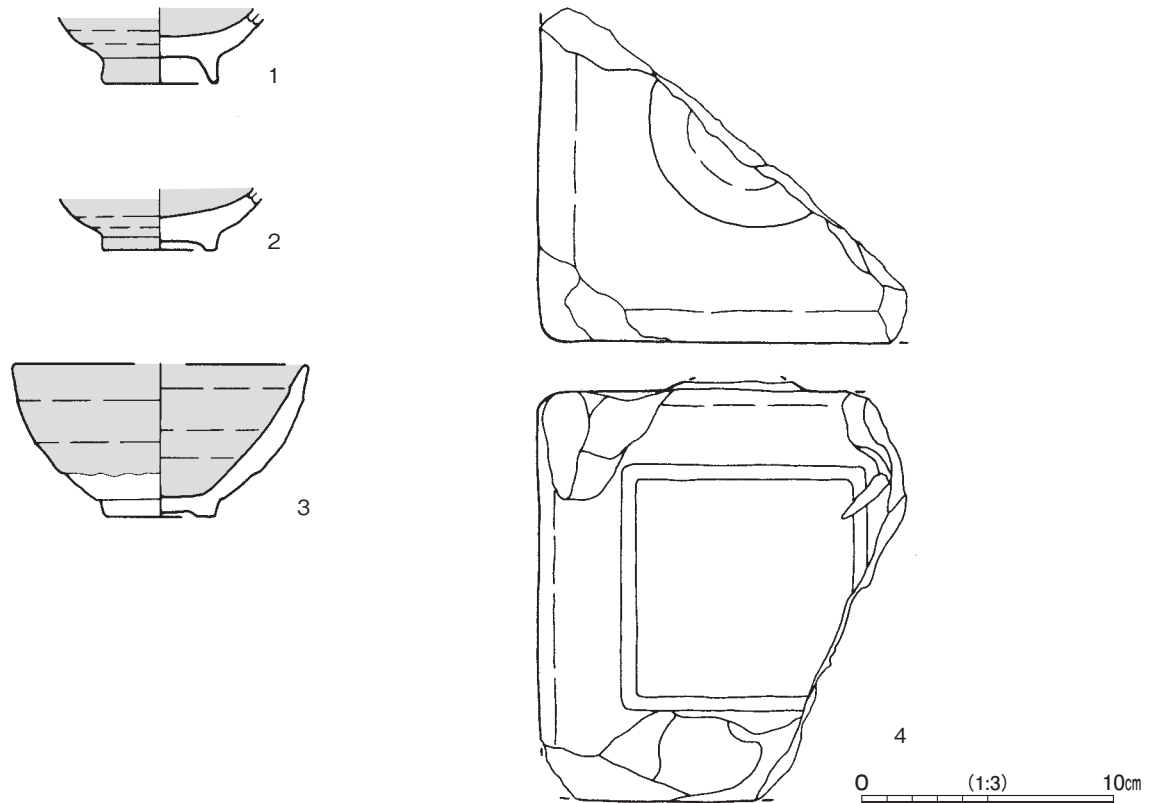
**覆土** 2 層に分層できる。含有物から人為と認められる部分もあるが, レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

**遺物出土状況** 須恵器片 4 点 (瓶 1, 甕類 3), 土師質土器片 41 点 (皿 3, 内耳鍋 36, 播鉢 2), 陶器片 18 点 (碗 5, 播鉢 1, 壺 1, 甕類 11), 石器 6 点 (砥石), 石製品 1 点 (宝篋印塔), 金属製品 1 点 (鏃), 瓦片 9 点 (丸瓦 2, 平瓦 7), 礫 24 点が出土している。1・2・4 は覆土中層から, 3 は覆土中から出土している。

**所見** 時期は, 重複関係や出土土器から江戸時代前後と考えられる。性格は不明である。



第 162 図 第 33 号溝跡実測図



第 163 図 第 33 号溝跡出土遺物実測図

第 33 号溝跡出土遺物観察表 (第 163 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	呉器手碗	-	(3.0)	[4.3]	長石・石英 にぶい黄褐	ロクロ成形 外・内面施釉	透明釉	肥前	覆土中層	20% 17世紀 後半以降
2	陶器	腰鎗茶碗	-	(2.4)	4.4	長石・石英 にぶい黄褐	外・内面施釉	外面鉄釉 内面透明釉	瀬戸・美濃	覆土中層	20% 連房期
3	陶器	天目茶碗	[11.5]	6.1	[4.2]	長石・石英 黄灰	ロクロナデ 漬け掛け	鉄釉	瀬戸	覆土中	30% 大窯期 PL.32

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4	宝篋印塔	(14.7)	(13.3)	(16.7)	(3.360)	凝灰岩	塔身部 四方側面に長方形区画 一部欠損	覆土中層	

表 17 江戸時代以降の溝跡一覧表

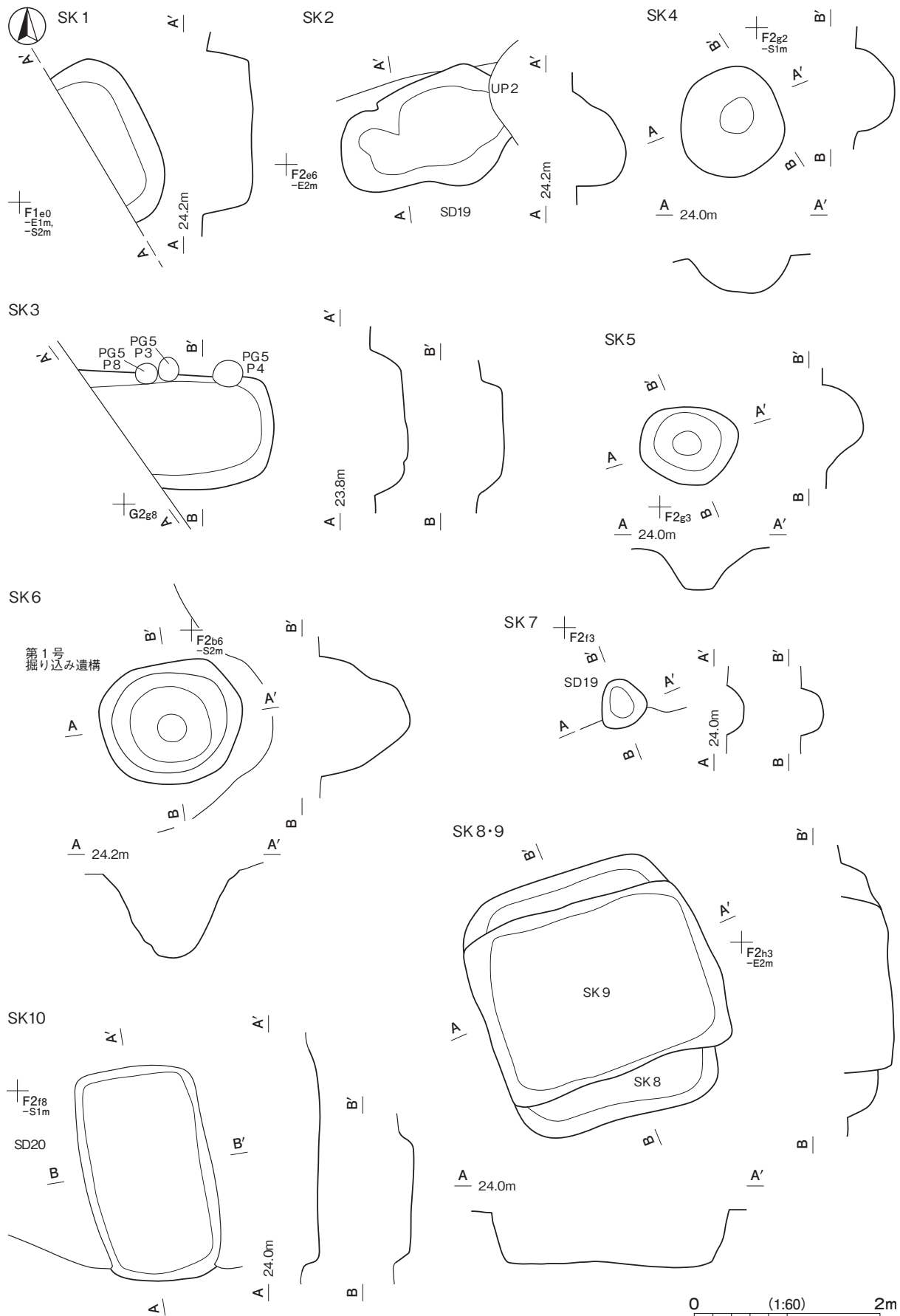
番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
16	H3c3 ~ H3g7	N-126°-E N-69°-E	L字状	(28.40)	0.62~1.49	0.10~0.40	14~44	浅い U字状	外傾 緩斜	自然	土師器, 須恵器, 陶器	SD23→本跡 第1号 大型円形土坑と重複
33	G3c5 ~ G3f3	N-82°-E N-8°-W	L字状	(19.44)	1.46~2.08	0.24~0.64	50~96	U字状	緩斜	自然 人為	須恵器, 土師質土器, 陶器, 石製品, 金属製品, 瓦	SD29・35→本跡

## 6 その他の遺構と遺物

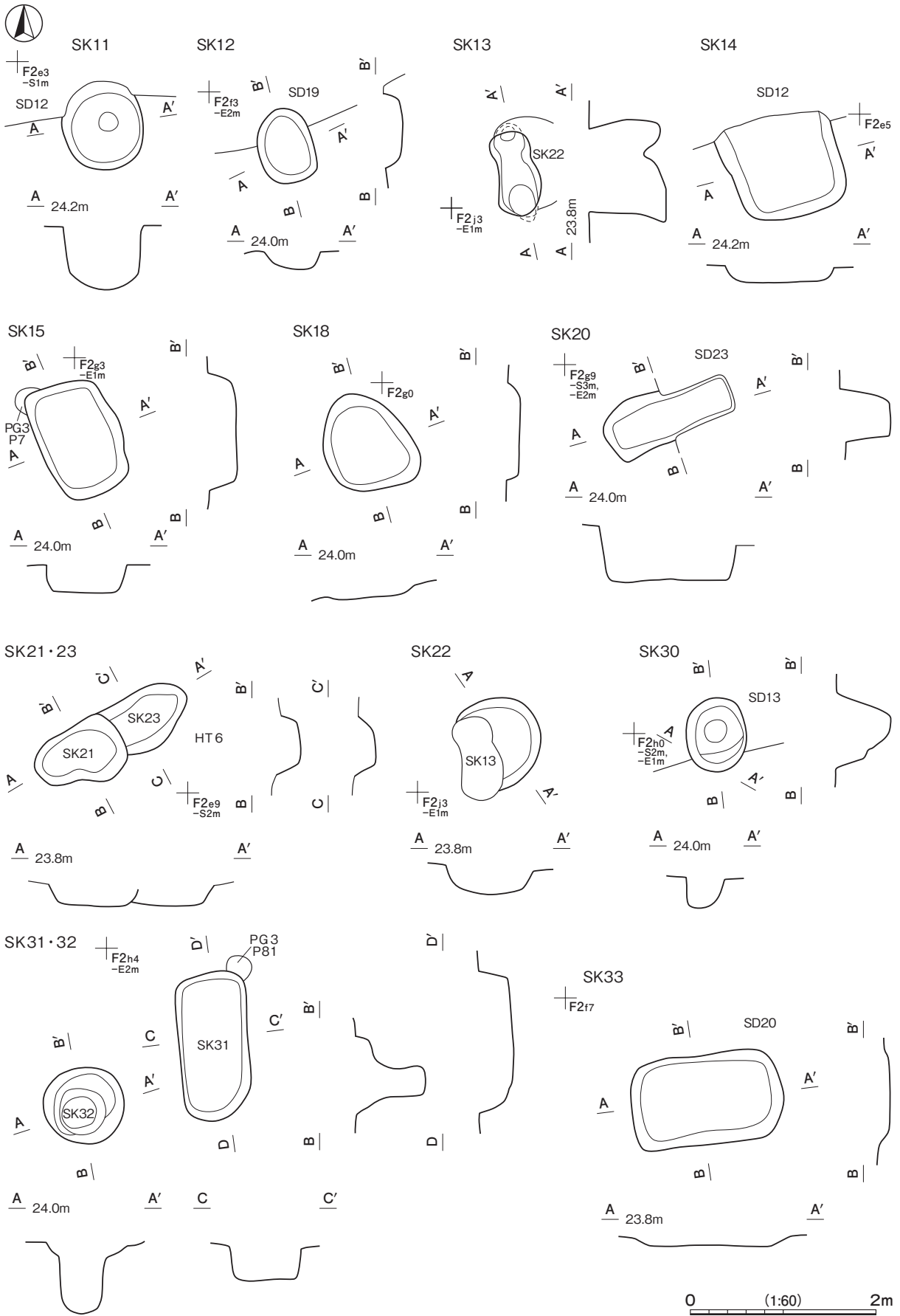
今回の調査では、時期が明確にできなかった土坑 111基, 溝跡13条, ピット群8か所, 道路跡2条, 掘り込み遺構2基を確認している。以下, 遺構及び遺物について記述する。

### (1) 土坑

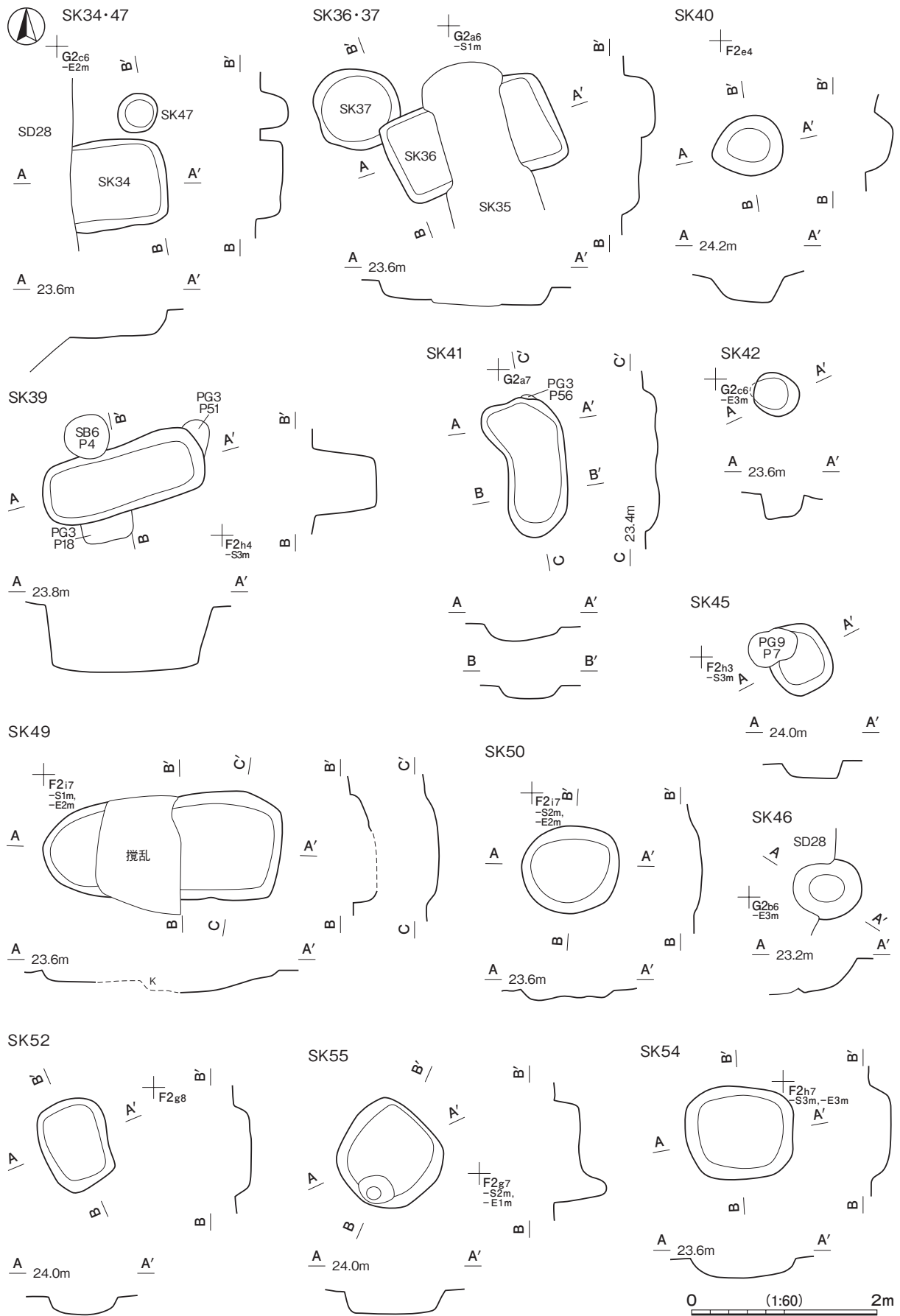
111基の土坑は, 実測図(第164図~172図)及び一覧表を記載する。



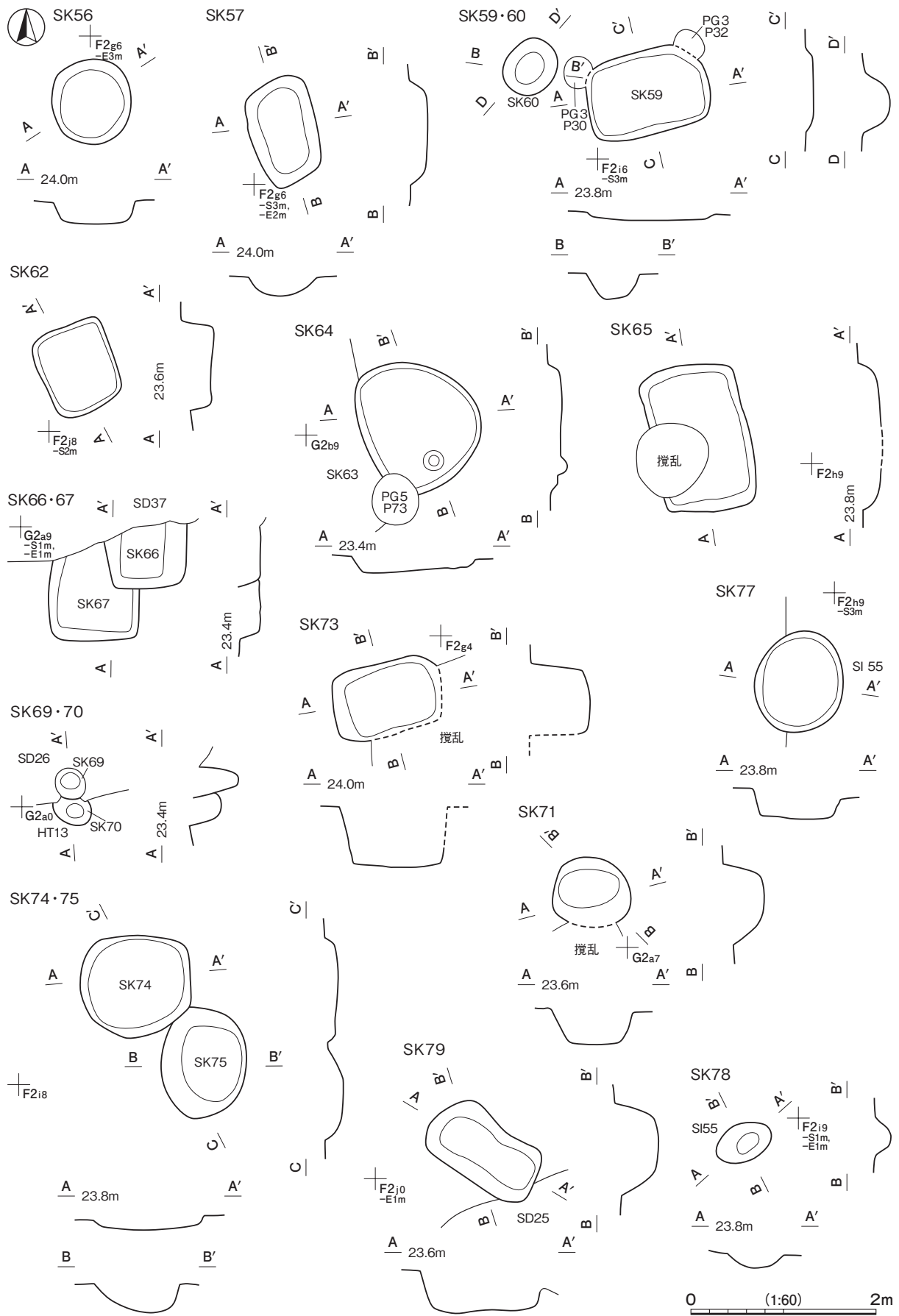
第 164 図 その他の土坑実測図(1)



第 165 図 その他の土坑実測図 (2)

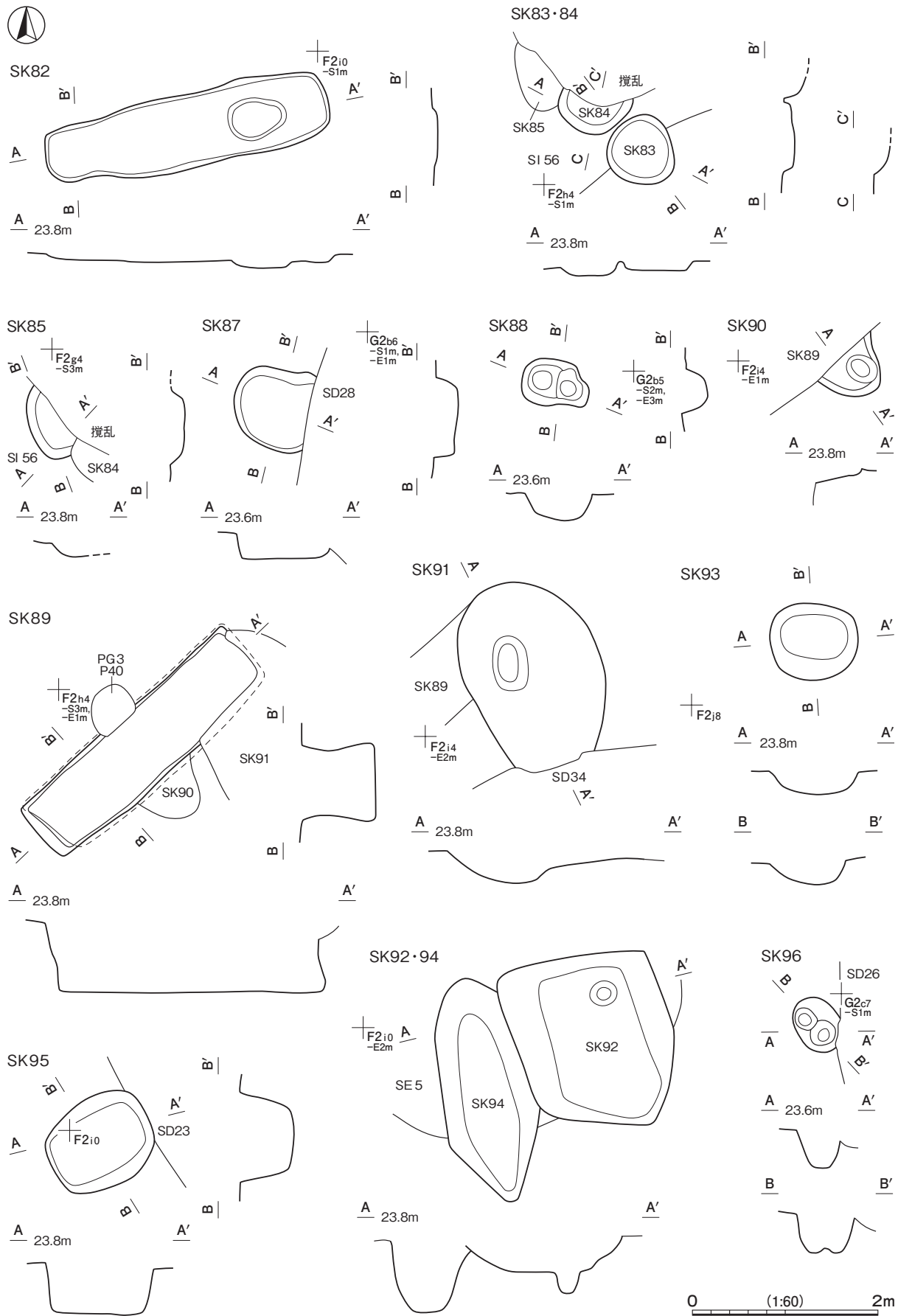


第 166 図 その他の土坑実測図(3)

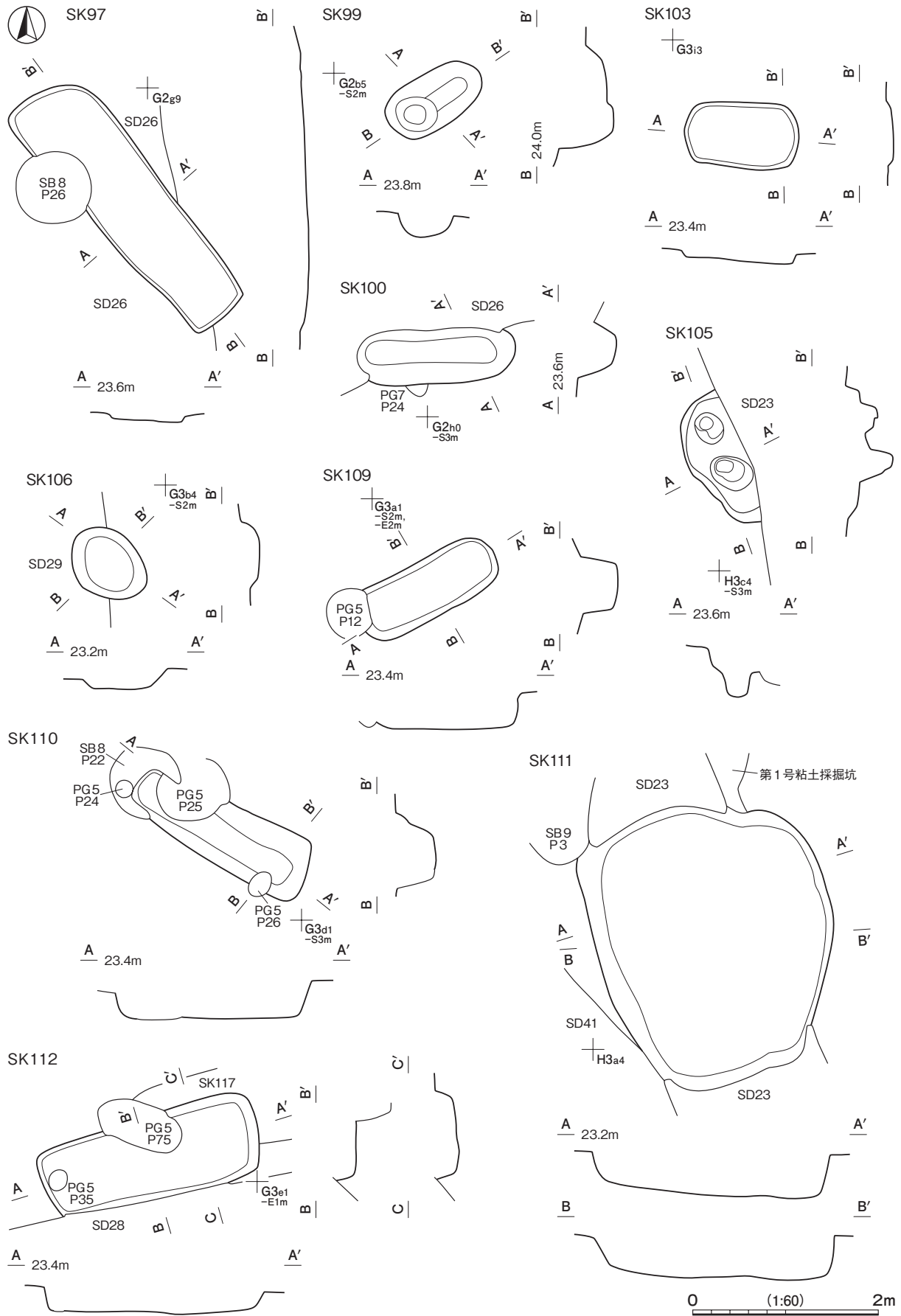


第 167 図 その他の土坑実測図(4)

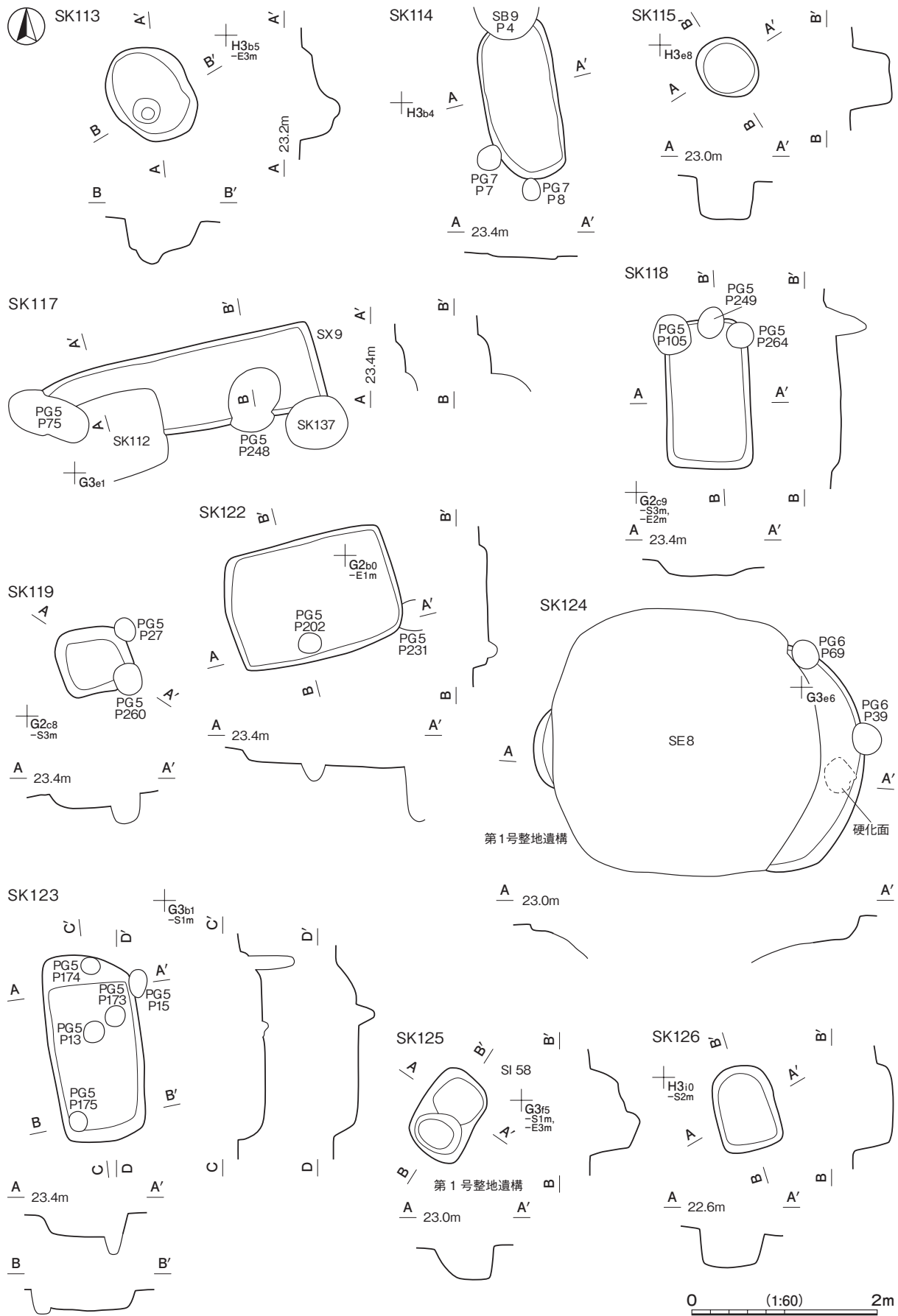




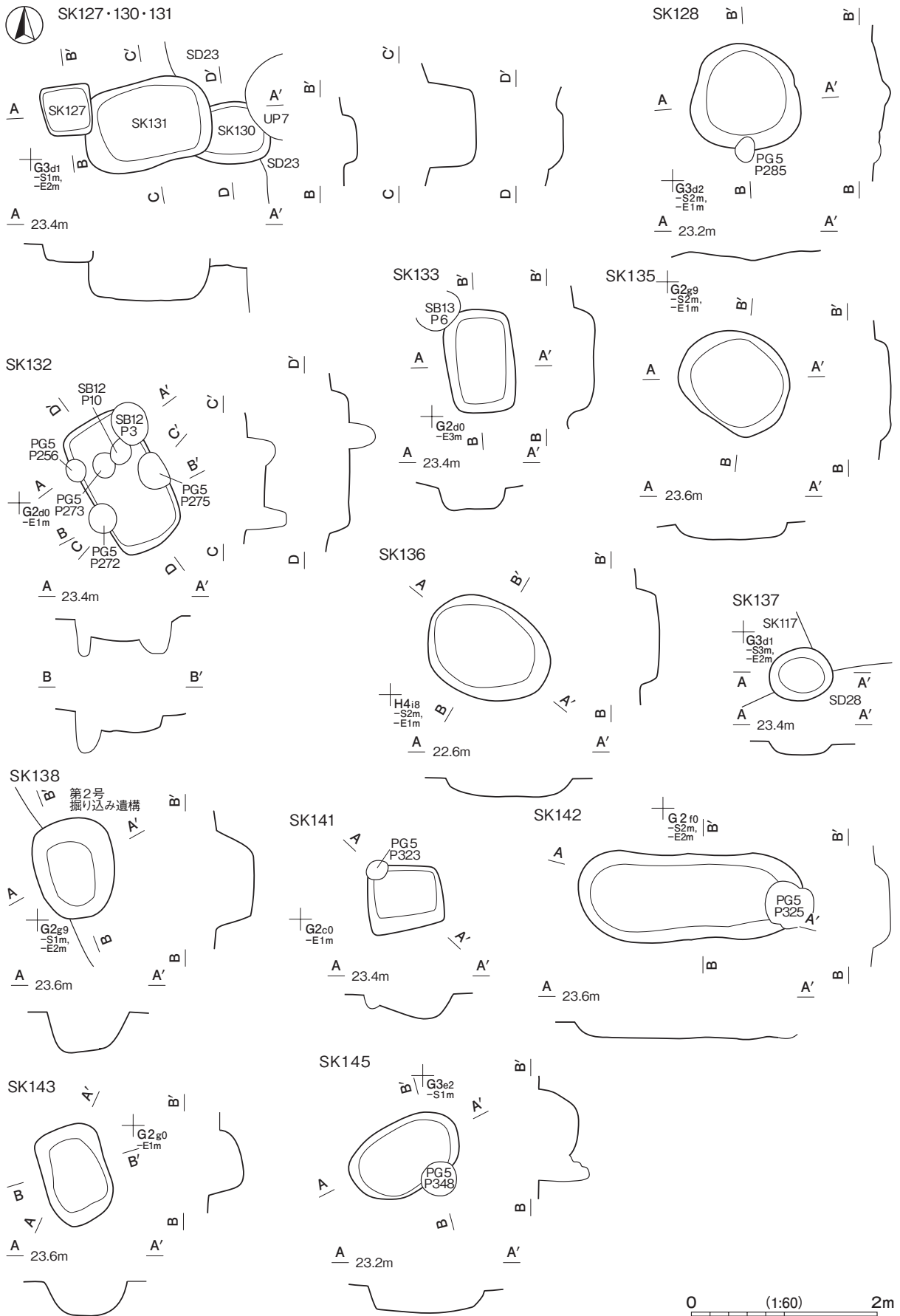
第 168 図 その他の土坑実測図 (5)



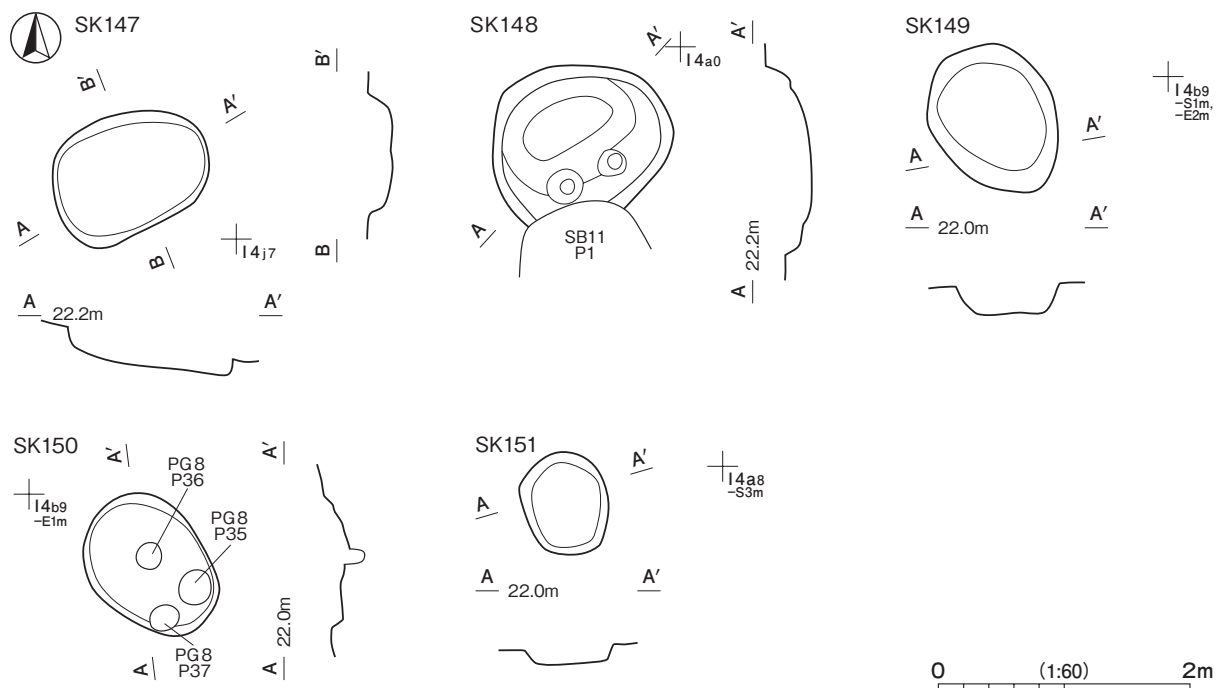
第 169 図 その他の土坑実測図 (6)



第 170 図 その他の土坑実測図(7)



第 171 図 その他の土坑実測図 (8)



第 172 図 その他の土坑遺構実測図 (9)

表 18 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	F1e0	N-32°-W	隅丸長方形	1.82×(0.70)	48	平坦	外傾	不明	土師質土器	
2	F2d6	N-75°-W	[楕円形]	(1.72)×1.22	56	皿状	外傾	人為		SD19→本跡→UP2
3	G2f7	N-86°-W	[隅丸長方形]	(1.90)×1.23	30	平坦有段	外傾	人為		本跡→PG5
4	F2g1	-	円形	1.12	40	皿状	外傾	不明	陶器	
5	F2f3	N-73°-E	楕円形	1.07×0.85	45	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器, 土師質土器, 瓦	
6	F2b5	N-37°-E	楕円形	1.50×1.30	9.6	皿状	外傾	人為		本跡→第1号掘り込み遺構
7	F2f3	-	円形	0.53	25	皿状	外傾	人為	土師器	SD19と重複
8	F2g2	N-21°-W	隅丸長方形	2.74×[2.32]	18	平坦	外傾	人為	土師器, 土師質土器, 瓦	本跡→SK9
9	F2g2	N-74°-E	隅丸長方形	2.52×1.95	30	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器, 土師質土器, 瓦	SK8→本跡
10	F2f8	N-11°-W	隅丸長方形	2.30×1.42	16	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器, 土師質土器	本跡→SD20
11	F2e3	N-10°-W	楕円形	0.95×0.86	69	皿状	直立	人為	土師器	本跡→SD12
12	F2f3	N-15°-W	楕円形	0.81×0.58	21	平坦	外傾	人為	土師器, 土師質土器	SD19→本跡
13	F2i3	N-13°-W	楕円形	0.90×0.44	84	凹凸	内彎直立	人為	土製品	SK22→本跡
14	F2E4	N-16°-W	[長方形]	(1.10)×1.22	16	平坦	外傾	人為		本跡→SD12
15	F2g3	N-25°-W	隅丸長方形	1.24×0.90	30	平坦	外傾	人為		PG3→本跡
18	F2g9	N-16°-W	不整楕円形	1.16×0.94	14	平坦	緩斜	不明		
20	F2g9	N-70°-E	[隅丸長方形]	1.48×(0.60)	52	平坦	直立	人為		本跡→SD23
21	F2e8	N-70°-E	楕円形	0.98×0.67	25	平坦	外傾	人為		SK23→本跡→HT6
22	F2i3	N-17°-W	[楕円形]	0.98×(0.52)	30	皿状	外傾	人為		本跡→SK13
23	F2e8	N-61°-E	[楕円形]	(0.80)×0.62	22	平坦	外傾	人為		本跡→SK21, HT6
30	F2h0	N-5°-W	楕円形	0.80×0.64	60	皿状	外傾	人為	土師器, 土師質土器	本跡→SD13
31	F2h4	N-5°-E	隅丸長方形	1.60×0.76	38	平坦	直立	人為	土師器, 土製品	PG3→本跡
32	F2h4	-	円形	0.88	76	皿状	直立	不明	土師器, 須恵器, 土師質土器	

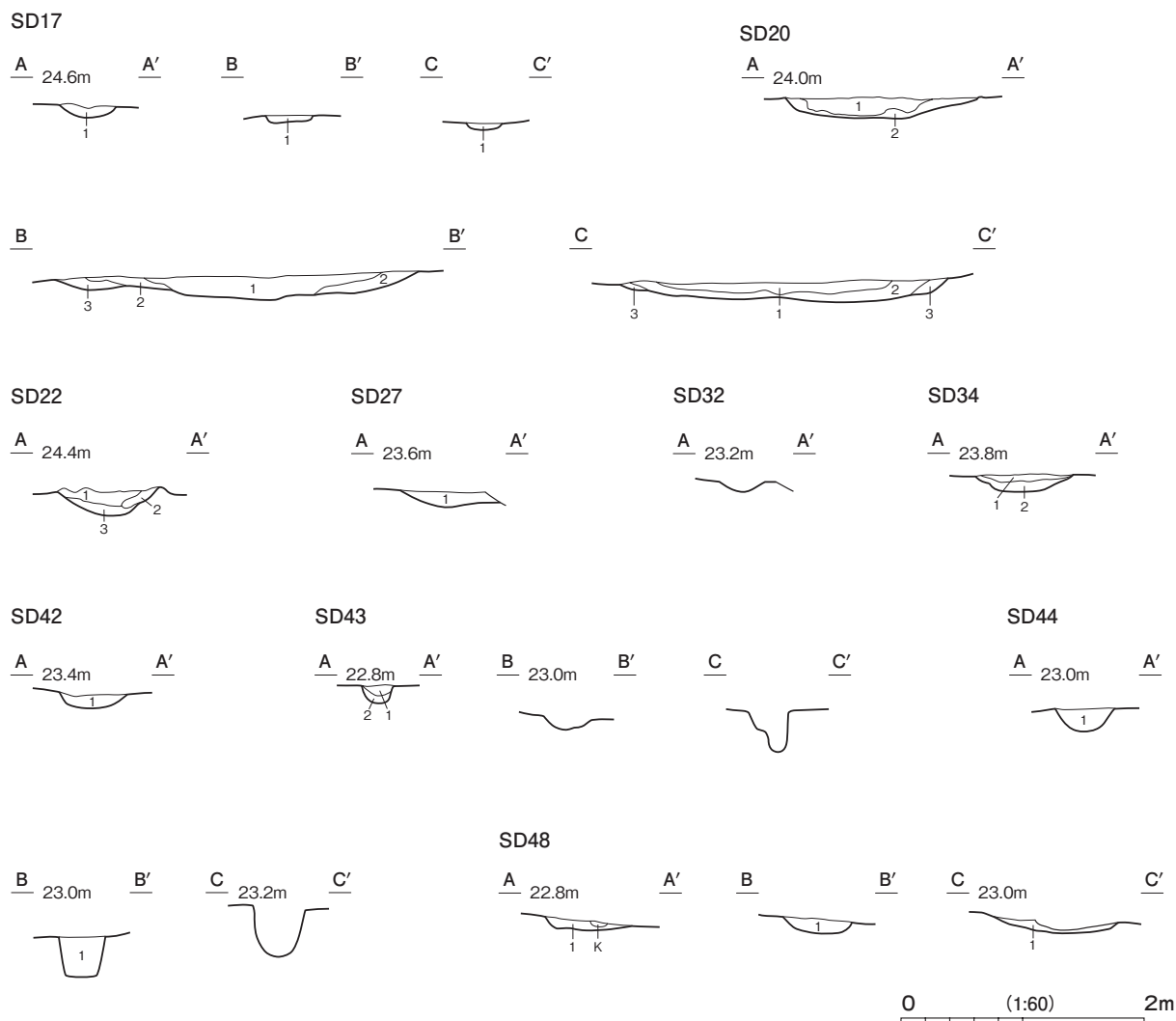
番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
33	F2f7	N-83°-E	隅丸長方形	1.62×0.98	12	平坦	緩斜	人為	土師器, 須恵器, 土師質土器	本跡→SD20
34	G2c6	N-85°-E	[長方形]	(1.04)×0.98	30	平坦	外傾	人為	土師器	本跡→SD28
36	G2a5	N-71°-E	長方形	1.82×1.05	21	平坦	外傾	人為	土師器	SK37→本跡→SK35
37	G2a5	-	円形	0.91	36	平坦	外傾	人為		本跡→SK36
39	F2h3	N-74°-E	隅丸長方形	1.79×0.73	70	平坦	直立	人為	土師器, 須恵器, 土師質土器, 瓦	PG3→本跡→SB6
40	F2e4	N-78°-E	楕円形	0.77×0.63	28	平坦	外傾	不明		
41	G2a7	N-10°-W	不整楕円形	1.51×0.81	16	平坦	緩斜	人為	砥石	PG3→本跡
42	G2c6	-	円形	0.47×0.45	28	平坦	外傾	不明		
45	F2h3	N-25°-W	長方形	0.76×0.66	19	平坦	外傾	人為	土師質土器	本跡→PG9
46	G2a6	N-79°-W	楕円形	(0.75)×0.65	35	皿状	緩斜	人為	土師質土器	本跡→SD28
47	G2c6	-	円形	0.45	26	皿状	直立	不明		
49	F2i7	N-87°-W	不定形	0.45×0.42	14	皿状	緩斜	不明	須恵器, 土師質土器, 鉄製品	
50	F2i7	N-4°-E	楕円形	1.04×1.18	12	凹凸	緩斜	不明		
52	F2g7	N-21°-W	隅丸長方形	0.98×0.74	18	平坦	外傾	不明		
54	F2h7	N-80°-E	隅丸長方形	1.16×1.00	24	皿状	緩斜	不明		
55	F2g6	N-51°-E	方形	1.10×1.02	29	平坦	直立	不明		
56	F2g6	-	円形	0.92	26	平坦	外傾	不明	土師質土器	
57	F2g6	N-21°-W	長方形	1.10×0.73	20	平坦	緩斜	不明	土師器, 須恵器	
59	F2i6	N-80°-E	長方形	1.33×0.89	10	平坦	緩斜	人為	土師質土器	PG3と重複
60	F2i5	N-39°-E	楕円形	0.62×0.51	29	皿状	外傾	不明	土師質土器	
62	F2j8	N-24°-W	長方形	0.96×0.72	34	平坦	直立	不明		
64	G2a9	N-41°-W	楕円形	1.45×1.28	15	平坦	緩斜	人為		SK63→本跡→PG5
65	F2g8	N-9°-W	長方形	1.60×1.02	20	平坦	外傾	不明		
66	G2a9	N-2°-E	[長方形]	(0.66)×0.87	21	平坦	外傾	人為		SK67→本跡→SD37
67	G2a9	N-3°-E	[長方形]	(1.05)×0.98	20	平坦	外傾	人為		本跡→SK66, SD37
69	F2j0	-	円形	(0.36)	48	皿状	直立	人為		HT13, SK70→本跡→SD26
70	G2j0	N-39°-W	楕円形	0.43×0.30	37	皿状	直立	人為		HT13→本跡→SK69, SD26
71	F2j6	N-75°-W	[楕円形]	0.84×[0.75]	44	平坦	外傾	不明		
73	F2g3	N-81°-E	[隅丸長方形]	[1.16]×[0.78]	66	平坦	直立	不明		
74	F2h8	-	円形	1.18	13	平坦	外傾	人為		SK75と重複
75	F2h8	N-5°-E	楕円形	1.18×0.91	32	平坦	緩斜	不明		SK74と重複
77	F2i8	N-20°-E	楕円形	1.10×0.98	25	平坦	外傾	不明	陶器	SI55と重複
78	F2i9	N-64°-E	楕円形	0.62×0.39	17	皿状	緩斜	不明		SI55と重複
79	F2i0	N-58°-W	隅丸長方形	1.30×0.74	45	平坦	外傾	不明		SD25と重複
82	F2i9	N-78°-E	長方形	3.08×0.83	7	平坦	緩斜	不明		
83	F2h4	-	円形	0.78	11	平坦	外傾	自然	土師器, 須恵器	SI56→本跡
84	F2f3	-	[円形・楕円形]	0.70×(0.45)	21	平坦	緩斜	自然	土師器	SI56, SK85→本跡
85	F2g3	-	[円形・楕円形]	(0.83)×(0.40)	15	平坦	緩斜	自然		SI56→本跡→SK84
87	G2b6	N-69°-W	[不整楕円形]	[0.82]×0.89	27	平坦	外傾	自然	土師器, 土師質土器	本跡→SD28
88	G2b5	N-69°-W	不定形	0.74×0.50	26	皿状	外傾	不明		
89	F2h3	N-47°-E	[長方形]	(2.93)×0.77	80	平坦	内彎	人為	土師器, 須恵器, 土師質土器, 瓦	SK90→本跡→SK91, PG3
90	F2i4	N-46°-W	[不定形]	(0.52)×(0.78)	14	緩斜	外傾	人為		本跡→SK89
91	F2h3	N-20°-W	[楕円形]	(2.06)×1.45	36	皿状	緩斜	人為	土師器	SK89→本跡→SD34
92	F3i1	N-15°-W	不定形	1.94×1.67	38	平坦	緩傾	人為		SE5, SK94→本跡
93	F2i8	N-83°-W	楕円形	0.93×0.81	20	皿状	緩傾	不明		
94	F2i0	N-13°-W	不定形	2.44×1.02	78	平坦	外傾	自然		SE5→本跡→SK92

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
95	F2i0	N-61°-E	隅丸長方形	1.15×0.98	56	平坦	直立	自然		SD23→本跡
96	G2c6	N-30°-W	楕円形	0.61×0.47	40	皿状	外傾	自然		本跡→SD26
97	G2g8	N-40°-W	隅丸長方形	3.14×0.96	12	平坦	外傾	自然	土師器, 土師質土器	SD26→本跡→SB8
99	G2b5	N-55°-E	楕円形	1.10×0.60	52	有段	外傾	不明		
100	G3h0	N-84°-E	[楕円形]	(1.70)×(0.60)	42	平坦	外傾	人為		PG7→本跡→SD26
103	G3i3	N-86°-W	隅丸長方形	1.23×0.72	12	平坦	外傾	不明		SB9と重複
105	H3c5	N-71°-W	[楕円形]	1.45×(0.62)	30	凹凸	外傾	自然		本跡→SD23
106	G3b3	N-50°-W	楕円形	0.91×0.67	18	平坦	緩斜	自然		SD29→本跡
109	G3b1	N-61°-E	[隅丸長方形]	(1.60)×0.60	40	平坦	直立	自然		本跡→PG5
110	G2d0	N-61°-W	[長方形]	(2.07)×0.69	41	平坦	外傾	自然		本跡→PG5, SB8
111	G3j4	N-15°-W	[楕円形]	(3.03)×2.55	47	平坦	直立	自然	土師器, 土師質土器	本跡→SB9, 第1号粘土採掘坑, SD23・39・41
112	G2d0	N-72°-E	長方形	2.37×0.94	28	平坦	直立	自然		SK117→本跡→SD28, PG5
113	H3b5	N-37°-W	楕円形	1.12×0.86	32	凹凸	外傾	不明	須恵器, 土師質土器	
114	H3b4	N-6°-W	楕円形	(1.60)×0.81	5	平坦	緩斜	人為		本跡→SB9, PG7
115	H3e8	N-33°-W	楕円形	0.68×0.60	45	平坦	直立	人為	土師器	
117	G3d1	N-76°-E	[長方形]	(2.94)×0.90	12	平坦	外傾	不明		本跡→SK112・137, PG5
118	G2c9	N-3°-W	長方形	1.60×0.90	14	平坦	緩斜	人為		本跡→PG5, SB12と重複
119	G2c8	N-80°-E	隅丸方形	0.80×0.71	14	皿状	緩斜	不明		本跡→PG5
122	G2b0	N-75°-E	長方形	1.85×1.30	14	平坦	外傾	人為		本跡→PG5
123	G2b0	N-70°-W	隅丸長方形	2.02×1.00	26	平坦	外傾 緩斜	人為		本跡→PG5 SB13と重複
124	G3e5	N-85°-W	楕円形	3.55×2.44	23	平坦	外傾	人為	須恵器, 土師質土器	本跡→SE8, PG6 第1号整地遺構と重複
125	G3f5	N-30°-E	隅丸長方形	0.94×0.64	54	凹凸	直立	人為	土師器, 土師質土器	第1号整地遺構と重複
126	H3i0	N-18°-W	隅丸長方形	0.92×0.66	46	平坦	外傾	不明	鉄製品	
127	G3d1	N-6°-W	方形	0.53×0.52	16	平坦	外傾	人為		SK131→本跡→SB8
128	G3d2	-	円形	1.22	12	凹凸	緩斜	人為	土師器, 土師質土器	本跡→PG5
130	G3d2	N-88°-E	[隅丸長方形]	(0.82)×(0.68)	17	平坦	外傾	人為		SD23→本跡→SK131, UP7, SB8
131	G3d1	N-80°-E	隅丸長方形	1.38×0.90	52	平坦	直立	人為	須恵器	SD23, SK130→本跡→SK127, SB8
132	G2c0	N-28°-W	長方形	1.52×0.81	20	平坦	直立	人為		本跡→SB12, PG5
133	G2c0	N-7°-W	長方形	1.10×0.68	24	平坦	外傾	人為		本跡→SB13
135	G2g9	N-46°-W	楕円形	1.21×1.02	16	平坦	外傾	不明		
136	H4i8	N-51°-W	楕円形	1.39×1.06	23	平坦	外傾	不明		
137	G3d1	N-82°-E	楕円形	0.67×0.56	15	平坦	緩斜	人為		SK117→本跡 SD28と重複
138	G2g9	N-13°-W	楕円形	1.07×0.85	43	平坦	外斜	人為	土師質土器	第2号掘り込み遺構 →本跡
141	G2b0	N-85°-E	長方形	0.80×0.70	27	皿状	外傾	人為		本跡→PG5 SB13と重複
142	G2f0	N-90°	楕円形	2.40×0.93	19	平坦	外斜	人為	瓦	本跡→PG5
143	G2g0	N-16°-W	[隅丸長方形]	(1.05)×(0.70)	36	皿状	外傾	人為	土師質土器	
145	G3e1	N-63°-E	楕円形	1.24×0.75	42	平坦	外傾	人為		本跡→PG5
147	I4i6	N-67°-E	楕円形	1.27×0.93	17	平坦	外傾	不明		
148	I4a9	N-45°-E	楕円形	1.47×1.31	25	皿状	外傾	人為		本跡→SB11
149	I4b9	N-30°-W	楕円形	1.28×1.00	24	平坦	外傾	人為	土師器	SB11と重複
150	I4b9	N-44°-W	楕円形	1.22×0.92	10	凹凸	緩斜	人為		本跡→PG8 SB11と重複
151	I4a7	N-23°-W	楕円形	0.84×0.68	12	平坦	外傾	不明		



(2) 溝跡

溝跡 13 条については、平面図は全体図に記載し、ここでは土層断面図（第173・174 図）及び一覧表を記載する。



第 17 号溝跡土層解説

1 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 20 号溝跡土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量  
2 褐色 ロームブロック中量  
3 明褐色 ロームブロック多量

第 22 号溝跡土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量  
2 黒色 ロームブロック中量  
3 黒褐色 ロームブロック少量

第 27 号溝跡土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第 34 号溝跡土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  
2 褐色 ロームブロック多量

第 42 号溝跡土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 43 号溝跡土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  
2 黒褐色 ロームブロック微量

第 44 号溝跡土層解説

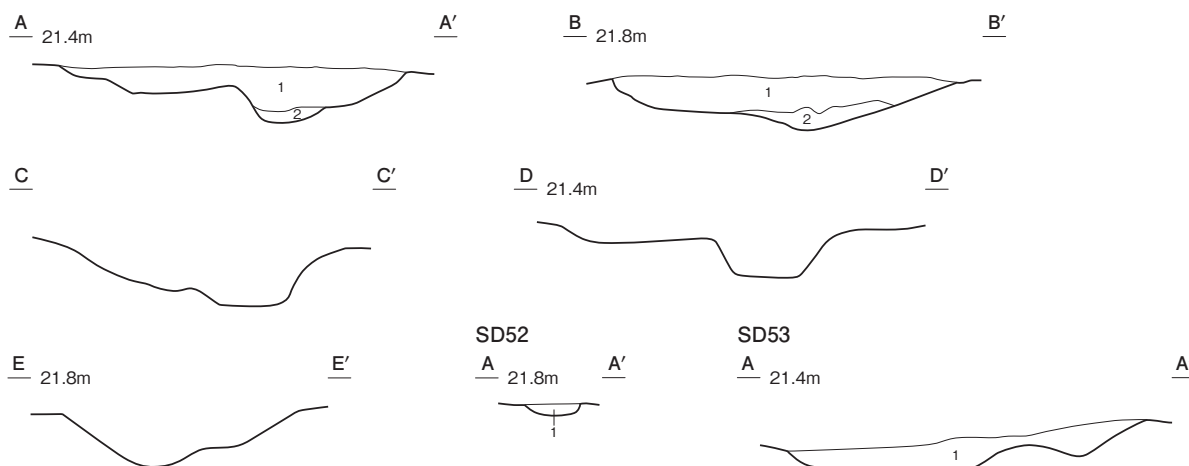
1 褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第 48 号溝跡土層解説

1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

第 173 図 その他の溝跡実測図 (1)

SD50



第50号溝跡土層解説

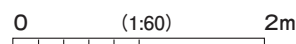
- 1 にぶい黄褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 灰白色粘土粒子微量

第52号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第53号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量



第174図 その他の溝跡実測図(2)

表19 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
17	F1a9~F1c0	N-7°-W	直線状	8.42	0.26~0.40	0.12~0.28	4~8	浅いU字状	緩斜	人為	-	SD11・18→本跡
20	F2f6~F2f0	N-81°-W	直線状	(15.60)	2.32~2.90	1.56~2.30	3~9	浅いU字状	緩斜	人為	土師質土器	SK10・33, SD23→本跡 PG 4と重複
22	F2c4~F1d0	N-73°-E	直線状	(16.24)	0.66~1.32	0.30~0.82	23	浅いU字状	緩斜	人為	土師質土器	PG 2→本跡→HT 5
27	F3j1~F3j2	N-81°-E	直線状	(4.42)	(0.45)~(0.90)	0.08~0.22	12	浅いU字状	緩斜	自然	土師質土器	本跡→SD26
32	G3g3~G3h3	N-11°-W	直線状	(4.42)	0.36~0.54	0.06~0.20	10	浅いU字状	緩斜	不明	-	本跡→SD29
34	F2i4~F2h5	N-65°-E	直線状	(4.24)	0.52~1.00	0.28~0.72	6	浅いU字状	外傾	自然	土師質土器, 砥石, 瓦	SK91→本跡→HT11・12, PG 3
42	G3j2~G3j1	N-75°-E	直線状	6.14	0.40~0.76	0.16~0.42	12	浅いU字状	外傾緩斜	自然	土師質土器	SB 9と重複
43	G3g8~G3h6	N-67°-E	直線状	6.44	0.40~0.62	0.16~0.36	11~17	浅いU字状	外傾緩斜	自然	-	
44	G3i0~G3j8	N-62°-E	直線状	(9.58)	0.34~0.50	0.11~0.30	18~40	U字状	外傾直立	不明	土師質土器, 瓦	SD41→本跡
48	H3g8~I3c0	N-24°-W N-54°-E	L字状	(24.44)	0.36~0.80	0.26~0.62	9~13	浅いU字状	外傾緩斜	人為	陶器	本跡→SF 1
50	I5b2~J4a7	N-37°-E	直線状	(41.6)	1.02~2.76	0.38~0.76	20~44	U字状	外傾	不明	土師質土器, 瓦	SD51・52→本跡→SD53
52	I4h5~I4i7	N-52°-W	直線状	(7.96)	0.42~0.78	0.16~0.44	9	浅いU字状	外傾	自然	土師質土器	本跡→SD50 SD51と重複
53	I5b2~I5f3	N-61°-W N-38°-E	L字状	(21.6)	1.12~2.96	0.56~1.62	22~28	浅いU字状	外傾	自然	-	SD50→本跡

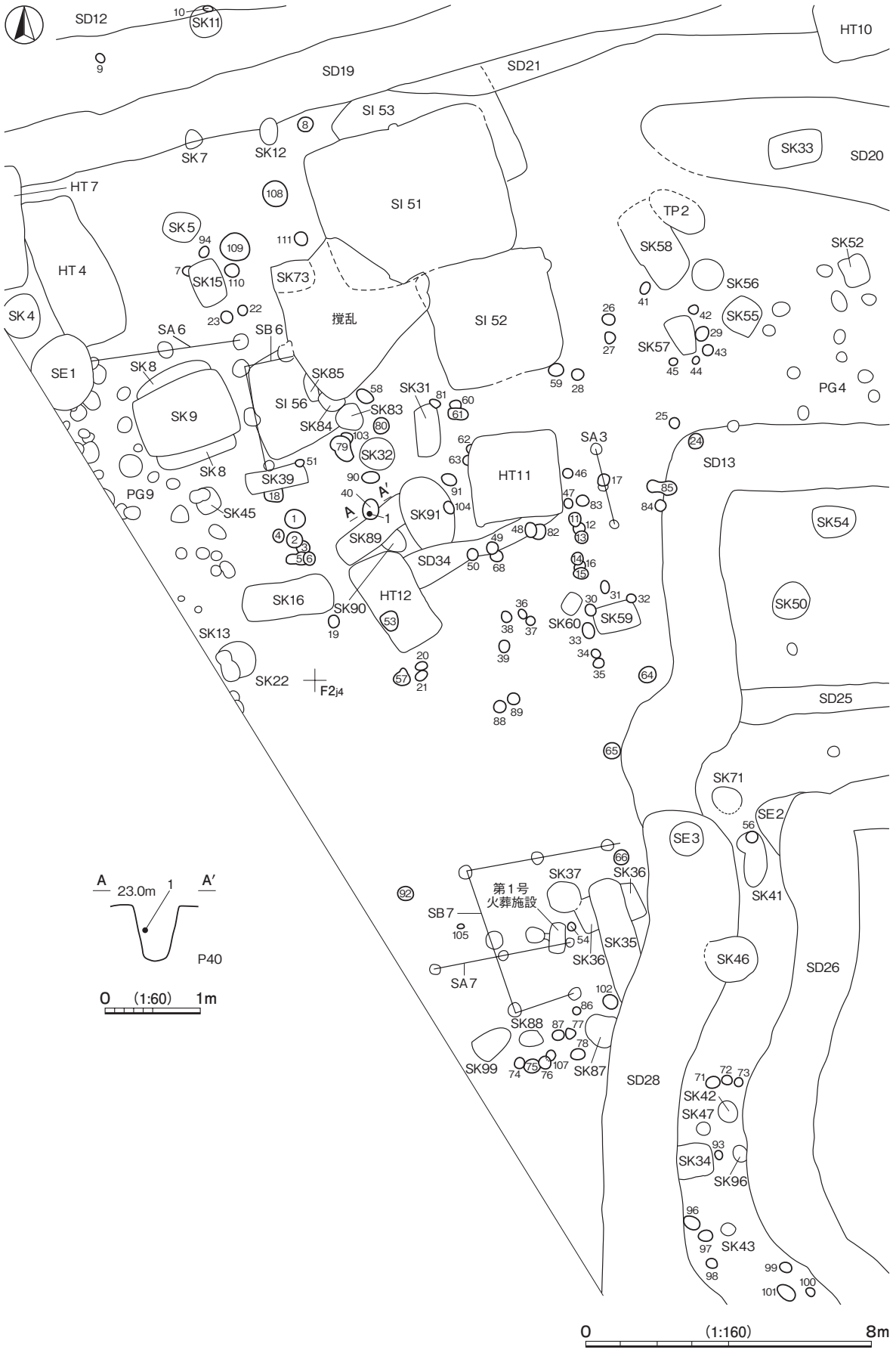
(3) ピット群

8か所のピット群のうち、遺物が出土しているピット群については記述し、その他は実測図(付図)と一覧表を記載する。

第3号ピット群(第175・176図・付図 PL21)

**位置** 調査区北西部のF2e2~G2d7区、標高23mほどの平坦な台地上の東西20m、南北40mの範囲からピット104か所を確認した。

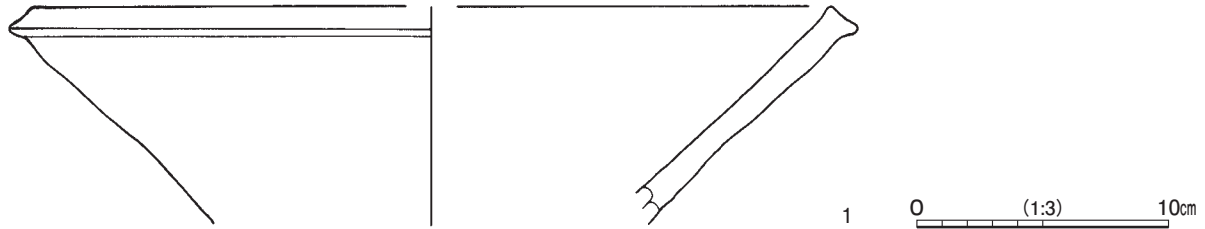
**規模** 平面形は長径19~91cm、短径15~73cmの円形または楕円形が主で、深さは5~57cmである。分布状況から建物跡は想定できない。



第 175 図 第 3 号ピット群実測図

遺物出土状況 土師器片 8 点 (甕類), 須恵器片 11 点 (坏 7, 高台付坏 1, 甕類 3), 土師質土器片 6 点 (皿 4, 内耳鍋 2), 陶器片 3 点 (片口鉢 1, 甕 2) が出土している。1 は P40 の覆土中層から出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から中世以降と考えられる。性格は不明である。



第 176 図 第 3 号ピット群出土遺物実測図

第 3 号ピット群遺物観察表 (第 176 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	片口鉢	[31.8]	(8.6)	-	長石・石英にぶい赤褐	口縁部つまみ出し	自然釉	常滑	覆土中層	10% 10形式

第 3 号ピット群ピット計測表

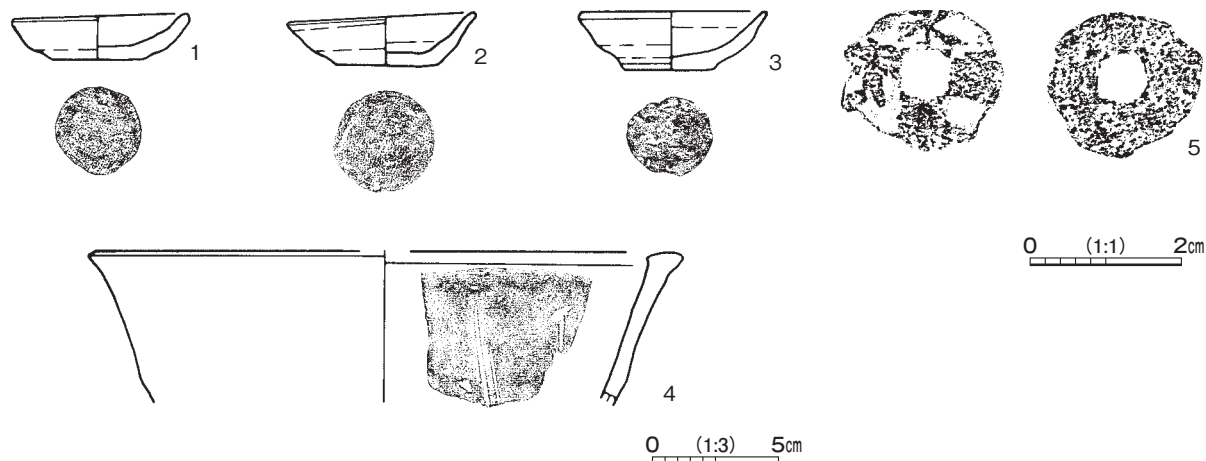
ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	F2h3	楕円形	57	51	49	27	F2g6	円形	34	31	24	54	G2a6	円形	33	31	17
2	F2i3	円形	49	47	47	28	F2g5	円形	32	32	46	56	G2a7	円形	35	33	(6)
3	F2i3	楕円形	40	28	17	29	F2g6	円形	42	40	31	57	F2i4	不整楕円形	62	56	56
4	F2h3	楕円形	42	35	32	30	F2i5	楕円形	30	27	15	58	F2h4	楕円形	44	38	31
5	F2i3	楕円形	(47)	26	23	31	F2i6	円形	21	20	16	59	F2i5	円形	38	37	35
6	F2i3	楕円形	38	33	36	32	F2i6	円形	32	31	20	60	F2h4	[楕円形]	35	(22)	19
7	F2g3	楕円形	42	33	46	33	F2i5	楕円形	39	30	37	61	F2h5	楕円形	61	35	50
8	F2f3	楕円形	42	38	26	34	F2i5	楕円形	24	21	9	62	F2h5	楕円形	28	25	9
9	F2e2	楕円形	31	23	37	35	F2i5	楕円形	32	29	13	63	F2h5	楕円形	30	27	15
10	F2e3	楕円形	26	21	35	36	F2i5	楕円形	29	25	21	64	F2i6	円形	49	47	46
11	F2b5	楕円形	48	36	30	37	F2i5	楕円形	25	22	13	65	F2j6	円形	50	48	12
12	F2h5	楕円形	34	[30]	33	38	F2i5	楕円形	25	22	18	66	F2a6	円形	40	40	38
13	F2h5	円形	39	38	19	39	F2i5	楕円形	34	29	25	68	F2i5	[楕円形]	34	(20)	16
14	F2i5	楕円形	40	31	18	40	F2h5	楕円形	58	49	57	71	G2b6	楕円形	35	31	33
15	F2i5	円形	35	35	17	41	F2g6	楕円形	42	33	20	72	G2b6	隅丸方形	25	24	24
16	F2i5	円形	35	35	17	42	F2g6	楕円形	31	25	25	73	G2b6	円形	37	35	28
17	F2h6	楕円形	33	10	40	43	F2g6	円形	33	33	48	74	G2b5	楕円形	28	21	13
18	F2h3	[長方形]	56	(31)	32	44	F2g6	楕円形	24	21	8	75	G2b5	[楕円形]	42	(35)	19
19	F2i4	円形	32	32	29	45	F2g6	円形	25	23	10	76	G2b5	不整楕円形	50	38	22
20	F2i4	楕円形	40	(19)	30	46	F2h5	円形	31	29	23	77	G2b5	不整楕円形	40	36	19
21	F2i4	楕円形	40	27	28	47	F2h5	楕円形	28	25	24	78	G2b5	楕円形	35	30	15
22	F2g3	円形	30	28	26	48	F2h5	楕円形	44	33	25	79	F2h4	不整楕円形	91	64	57
23	F2g3	円形	31	31	49	49	F2i5	楕円形	39	34	15	80	F2h4	楕円形	35	31	36
24	F2h6	円形	45	41	5	50	F2i5	円形	32	31	32	81	F2h4	円形	29	27	25
25	F2h6	楕円形	31	28	17	51	F2h3	[楕円形]	[52]	[34]	61	82	F2i5	楕円形	47	[42]	15
26	F2g6	円形	38	35	22	53	F2i4	楕円形	55	49	11	83	F2h5	楕円形	32	28	20



**規模** 平面形は長径17～94cm，短径13～77cmの円形または楕円形が主で，深さは5～65cmである。分布状況から建物跡などは想定できない。

**遺物出土状況** 土師器片6点（高坏1，甕類5），須恵器片19点（坏7，蓋1，甕類11），土師質土器片198点（皿121，内耳鍋40，播鉢3，甕34），陶器片4点（碗1，皿1，甕2），銭貨1点（永樂通寶），瓦片3点（丸瓦1，平瓦2）が出土している。5はP14の底面から，1はP14の覆土下層から，2はP19，3はP14の覆土中層から，4はP14の覆土上層から出土している。

**所見** 時期は，重複関係や出土土器から中世以降と考えられる。性格は不明である。



第178図 第5号ピット群出土遺物実測図

第5号ピット群出土遺物観察表（第178図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	6.8	1.8	3.5	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	100%
2	土師質土器	皿	7.2	2.1	4.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	95%
3	土師質土器	皿	7.3	2.3	3.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	100%
4	土師質土器	播鉢	[23.5]	(6.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	内面2条1単位の摺り目	覆土上層	5%

番号	種別	銭名	径	孔幅	重量	材質	初鑄年	特徴	出土位置	備考
5	銭貨	永樂通寶	(2.2)	0.6	(1.09)	銅	1408	背文なし	底面	

第5号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	G2a9	楕円形	25	22	23	10	G2h0	円形	44	43	20	21	G2b1	[楕円形]	36	(26)	36
2	G2f7	不整楕円形	35	26	32	12	G2a1	円形	52	51	37	22	G2b1	楕円形	50	28	5
3	G2f8	円形	25	24	22	13	G2b0	楕円形	26	23	21	23	G2d3	楕円形	42	36	22
4	G2f8	楕円形	31	28	46	14	G2b1	楕円形	66	37	21	24	G2d3	円形	20	19	20
5	G2f8	円形	25	25	16	15	G2b0	楕円形	31	22	26	25	G2d1	[楕円形]	77	[64]	38
6	G2g8	隅丸長方形	27	20	32	16	G2b1	[楕円形]	53	(27)	13	26	G2d2	楕円形	30	21	43
7	G2g8	楕円形	23	19	14	18	G2c0	楕円形	37	33	22	27	G2c8	楕円形	26	21	29
8	G2b4	円形	24	22	31	19	G2c0	楕円形	29	26	32	28	G2c9	楕円形	37	30	36
9	G2j8	楕円形	32	28	32	20	G2b1	楕円形	32	26	30	29	G2c9	円形	26	25	39

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
30	G2d9	楕円形	31	22	16
31	G2c9	楕円形	60	38	43
32	G2c9	隅丸長方形	82	77	10
33	G2d9	[円形]	24	23	16
34	G2d9	楕円形	26	18	17
35	G2d0	楕円形	23	20	36
36	G2d0	不整楕円形	45	30	23
38	G2c8	楕円形	36	29	30
39	G2b8	楕円形	33	30	24
40	G2b8	円形	25	24	15
41	G2b8	楕円形	34	30	71
42	G2b7	楕円形	39	34	56
43	G2b0	円形	32	30	25
44	G2b0	[円形]	28	27	23
45	G2b0	円形	20	19	28
46	G2b1	[楕円形]	29	(20)	25
47	G2b1	楕円形	23	19	24
49	G2b1	円形	40	38	56
50	G2b1	円形	36	35	22
51	G2b8	楕円形	22	20	22
52	G2b7	[円形]	21	(20)	22
53	G2d0	[楕円形]	41	[32]	43
54	G2c9	楕円形	43	39	12
55	G2c8	[円形・楕円形]	28	(22)	36
56	G2c8	不整楕円形	33	22	47
57	G2d9	楕円形	25	21	29
58	G2c7	楕円形	29	23	13
59	G2c7	円形	33	32	23
60	G2c7	楕円形	45	33	28
61	G2c7	楕円形	30	27	20
62	G2b1	[楕円形]	40	(19)	40
63	G2d9	円形	28	27	25
64	G2d8	楕円形	48	36	15
65	G2d8	楕円形	33	29	24
66	G2c8	円形	63	58	22
67	G2d9	楕円形	36	28	22
68	G2d9	[円形]	33	31	18
69	G2b8	楕円形	27	20	31
70	G2b8	円形	22	22	17
71	G2d9	楕円形	90	81	22
72	G2d9	楕円形	56	51	8
73	G2b9	楕円形	59	53	25
75	G2d0	楕円形	94	47	64
79	G2c0	円形	26	24	25
80	G2c0	[円形]	26	25	24
81	G2c0	円形	20	19	12
82	G2c0	楕円形	34	23	15

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
83	G2c0	楕円形	31	27	15
84	G2c0	楕円形	17	15	7
85	G2b0	楕円形	23	20	12
87	G2c0	楕円形	35	23	45
88	G2c9	[楕円形]	40	24	12
89	G2c9	楕円形	32	20	9
90	G2c9	[楕円形]	(31)	24	8
93	G2c9	円形	26	25	10
94	G2c9	円形	29	28	72
95	G2c9	円形	28	28	36
96	G2c9	楕円形	35	31	45
97	G2c9	[円形・楕円形]	20	(15)	20
98	G2c8	楕円形	22	20	70
99	G2c0	楕円形	31	27	12
100	G2b0	楕円形	52	36	41
101	G2c9	楕円形	39	33	38
102	G2d9	円形・楕円形	50	(44)	14
103	G2b8	円形	40	37	57
104	G2c9	円形	32	31	22
105	G2c9	[隅丸方形]	40	38	19
106	G2c9	楕円形	31	28	14
107	G2b8	楕円形	30	25	40
108	G2c8	[円形]	36	(32)	(34)
110	G2b9	楕円形	48	39	16
111	G2b9	楕円形	28	22	42
112	G2b9	楕円形	31	26	28
113	G2d9	円形	26	24	16
114	G2c9	楕円形	26	26	22
115	G2c9	[楕円形]	50	[31]	45
116	G2c0	円形	27	26	16
118	G2c9	楕円形	25	20	38
119	G2c9	楕円形	21	19	14
120	G2b8	円形	26	26	19
121	G2h8	楕円形	40	35	29
122	G2c9	楕円形	36	32	8
124	G2b9	楕円形	42	27	36
126	G2b9	不整楕円形	55	36	29
127	G2b9	[楕円形]	(55)	38	28
128	G3b1	楕円形	36	32	30
129	G3b1	円形	32	30	20
130	G2d0	楕円形	51	35	9
131	G2d0	楕円形	54	43	35
133	G2c9	楕円形	30	23	13
134	G3b2	楕円形	44	29	33
135	G3b9	楕円形	50	34	14
136	G3b9	[楕円形]	(45)	29	7
137	G3b0	楕円形	48	37	20

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
138	G3b2	[楕円形]	58	(42)	(53)
139	G3c1	楕円形	24	21	30
141	G3c1	円形	35	32	6
142	G3c1	楕円形	20	16	6
143	G3c1	不定形	49	30	10
144	G3c1	楕円形	41	36	36
145	G3c1	楕円形	36	28	14
146	G3c1	円形	42	41	50
147	G3c1	円形	22	21	12
148	G3c2	楕円形	22	19	15
149	G3c2	楕円形	30	26	10
150	G3c2	楕円形	53	43	56
151	G3b2	円形	40	37	67
152	G3b2	楕円形	26	21	15
153	G3c2	不定形	47	44	22
154	G3c2	楕円形	52	40	33
155	G3c2	[楕円形]	32	[25]	32
156	G3c8	楕円形	40	32	50
159	G3b2	楕円形	80	62	50
160	G3b2	円形	27	26	25
161	G3b2	円形	22	22	26
162	G3b2	楕円形	31	26	26
163	G3b2	円形	20	19	15
164	G3b2	楕円形	24	21	8
165	G3c2	[楕円形]	(51)	41	35
166	G3c2	楕円形	36	26	40
167	G3c2	[円形]	(25)	25	26
168	G3c2	楕円形	36	28	28
169	G3c2	[楕円形]	56	(39)	37
173	G3b0	楕円形	24	23	43
174	G3b0	楕円形	20	13	55
175	G3b0	円形	21	20	45
176	G3b2	楕円形	30	24	25
177	G3b2	円形	30	29	19
178	G3b2	楕円形	37	31	42
179	G3c1	円形	26	25	10
181	G3b9	楕円形	19	16	18
182	G3b9	楕円形	20	18	23
183	G3b1	楕円形	21	19	27
184	G2b0	楕円形	26	21	20
185	G2b0	楕円形	40	34	49
186	G3c1	不定形	46	26	11
187	G3c1	[円形・楕円形]	32	(20)	35
188	G3a1	楕円形	30	25	15
191	G2d0	楕円形	80	56	10
192	G2d0	円形	24	23	25
193	G2d9	楕円形	22	15	30



ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
194	G3c1	円形	38	35	60
195	G3c1	[楕円形]	34	25	22
196	G3b1	[楕円形]	27	25	23
197	G3b1	[楕円形]	(28)	25	34
198	G2c0	楕円形	50	34	47
199	G2c0	[楕円形]	(39)	31	36
200	G3c1	楕円形	23	21	15
201	G3c1	[楕円形]	(28)	25	25
202	G2b0	楕円形	24	21	24
203	G2b0	楕円形	31	28	30
204	G2b0	楕円形	31	27	23
205	G2b0	楕円形	28	24	12
206	G2c1	円形	27	26	16
207	G2b9	楕円形	33	29	15
208	G2h9	[楕円形]	34	(20)	13
210	G2h9	円形	37	34	27
213	G2c9	[円形楕円形]	24	(16)	(8)
214	G2c9	楕円形	47	35	28
215	G2c9	楕円形	25	21	10
216	G2b9	[楕円形]	33	(28)	10
217	G2b9	楕円形	46	39	45
218	G2c7	楕円形	71	38	47
219	G2c7	[楕円形]	(37)	33	30
220	G2c7	楕円形	33	(28)	18
221	G2c7	円形	32	30	20
222	G2c7	楕円形	49	43	27
223	G2c7	円形	22	22	21
224	G2c7	[楕円形]	26	20	26
225	G2c8	[楕円形]	35	28	22
226	G2c8	[楕円形]	[44]	32	14
227	G2c8	円形	34	34	27
228	G2c8	[楕円形]	[38]	(16)	17
229	G2c8	楕円形	38	22	21
230	G2c8	[楕円形]	27	(21)	30
231	G2b0	[楕円形]	(43)	34	64
232	G3c1	[楕円形]	35	(21)	32
233	G3c1	楕円形	55	43	54
234	G3c1	円形	25	24	16
235	G3c1	円形	25	24	40
238	G2b9	楕円形	39	30	11
239	G2b2	円形	30	28	44
240	G2c0	楕円形	52	34	39
241	G2c0	[楕円形]	31	25	49
243	G2c0	楕円形	22	19	22
244	G2c0	楕円形	63	50	59
245	G2c0	円形	28	26	31

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
246	G2c0	円形	24	23	11
247	G2c0	楕円形	30	24	12
248	G2c0	円形	34	32	49
249	G2c9	楕円形	34	26	38
250	G2c0	楕円形	30	26	27
251	G2c0	楕円形	19	17	18
252	G2c0	楕円形	33	21	12
253	G2c0	楕円形	33	30	25
254	G2c0	円形	31	30	15
255	G2c9	円形	22	22	31
256	G2c0	楕円形	25	22	38
258	G2c9	楕円形	38	30	34
259	G3d2	楕円形	30	26	(13)
260	G2c8	楕円形	34	30	32
263	G3c1	楕円形	55	36	22
264	G2c9	円形	29	28	(25)
265	G3f9	楕円形	58	49	63
266	G3d2	楕円形	53	39	(53)
267	G2b0	楕円形	27	23	33
268	G3d1	楕円形	30	25	10
269	G2d0	円形	32	30	26
270	G3d1	円形	22	21	40
271	G3d1	楕円形	31	28	26
272	G2d0	円形	32	31	45
273	G2c0	楕円形	27	22	(29)
275	G2c0	楕円形	40	31	(8)
276	G2f9	[円形]	[26]	[24]	(37)
277	G2b0	円形	26	25	22
278	G2g0	楕円形	30	22	49
279	G3d2	楕円形	43	27	30
280	G3d2	円形	31	31	30
281	G3d2	円形	26	25	13
282	G3d2	円形	24	23	14
283	G3d1	楕円形	27	22	12
284	G3d1	楕円形	83	54	62
285	G3d2	楕円形	27	20	6
286	G3d1	楕円形	26	23	10
287	G2g9	円形	26	26	35
289	G2g9	楕円形	63	54	15
290	G2g9	楕円形	43	37	9
291	G2c0	円形	30	29	22
292	G2d9	円形	35	32	26
295	G2d0	楕円形	60	52	26
296	G2d0	楕円形	32	26	26
297	G3e2	楕円形	35	28	16
298	G2g9	楕円形	34	24	30

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
299	G2g9	[円形楕円形]	35	(25)	28
300	G2g9	楕円形	26	22	13
301	G2h9	円形	26	25	12
302	G2h9	楕円形	33	25	9
303	G2c0	円形	32	30	29
304	G2b0	[楕円形]	23	21	13
306	G2d0	円形	27	25	25
307	G3d1	[楕円形]	(22)	21	24
308	G3d1	円形	21	21	26
309	G3e2	楕円形	33	28	19
310	G3e2	楕円形	34	25	17
311	G3b9	楕円形	33	27	29
312	G2d0	楕円形	32	27	30
313	G2g0	円形	51	47	16
318	G2c9	円形	23	22	25
319	G2c9	円形	37	35	33
321	G2c9	不定形	32	20	9
323	G2b0	楕円形	25	21	15
324	G2c8	[楕円形]	41	(32)	6
325	G2f0	楕円形	48	42	51
326	G2c9	楕円形	28	23	27
327	G2f0	円形	45	44	48
328	G2c0	楕円形	25	20	41
329	G3c1	楕円形	27	23	35
330	G3f0	楕円形	35	27	27
331	G3f1	楕円形	48	40	65
332	G3f9	不定形	45	36	13
333	G3f9	円形	28	26	26
334	G3f9	円形	38	36	10
335	G3f0	円形	32	31	14
336	G2g0	円形	35	32	31
337	G3f1	楕円形	42	34	29
338	G3f0	楕円形	66	50	65
339	G3f2	円形	36	33	45
340	G3f2	楕円形	32	29	[61]
341	G2g0	楕円形	37	31	35
342	G3f1	楕円形	53	43	17
343	G3c2	楕円形	35	20	18
344	G3d2	円形	24	24	18
345	G3f1	円形	38	36	60
346	G3e1	円形	29	27	23
347	G3g3	楕円形	24	19	10
348	G3e2	円形	40	37	54
349	G3e1	円形	45	42	33
350	G3e2	楕円形	29	23	23
351	G2c9	円形・楕円形	24	(22)	22

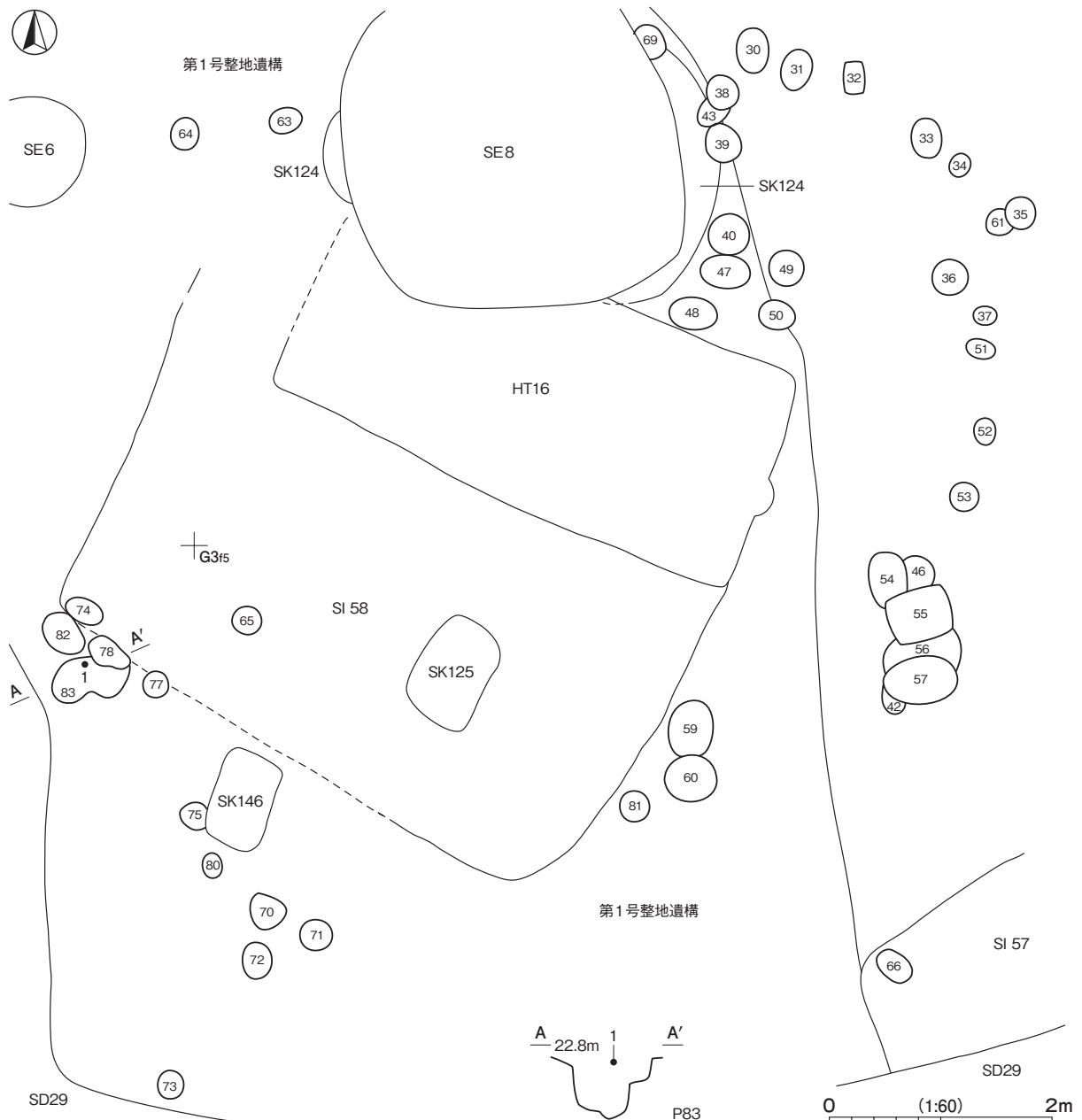
ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
352	G3e0	楕円形	27	23	25
353	G3f0	楕円形	48	43	62
354	G3f1	円形	35	33	22
355	G3e2	楕円形	40	29	37
356	G3e3	楕円形	48	37	15

ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
357	G3e2	楕円形	33	30	25
358	G3e2	楕円形	45	34	28
359	G3f3	楕円形	21	18	10
360	G3f2	楕円形	35	27	16
361	G3f3	楕円形	29	26	24

ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
362	G3e2	楕円形	26	22	16
363	G3e2	楕円形	34	29	17
364	G3e2	楕円形	21	18	19
365	G3e2	楕円形	20	18	22

第6号ピット群 (第179・180図・付図)

位置 調査区中央部部のG3a4～G3f7区、標高23mほどの平坦な台地上の東西12m、南北24mの範囲から、ピット80か所を確認した。

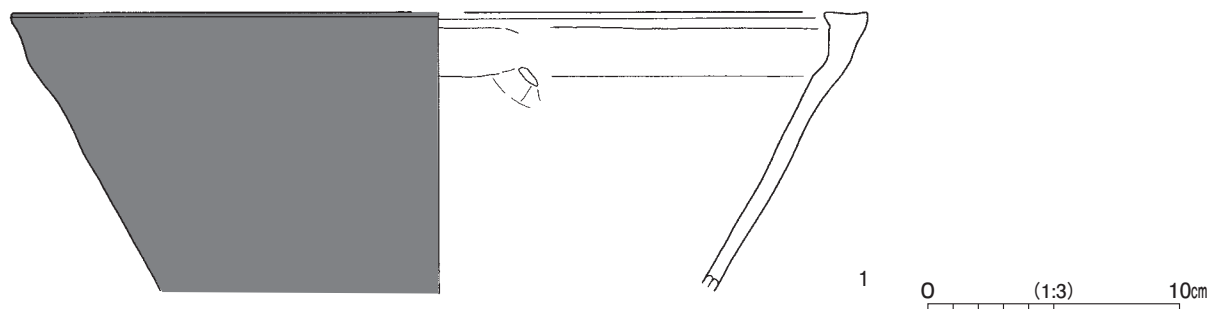


第179図 第6号ピット群実測図

**規模** 平面形は長径 18～73cm, 短径 14～46cmの円形または楕円形が主で, 深さは9～69cmである。分布状況から建物跡は想定できない。

**遺物出土状況** 須恵器片 2点 (甕類), 土師質土器片 3点 (内耳鍋), 陶器片 3点 (鉢 1, 甕 2) が出土している。1 は P83 の覆土上層から出土している。

**所見** 時期は, 重複関係や出土土器から中世以降と考えられる。性格は不明である。



第 180 図 第 6 号ピット群出土遺物実測図

第 6 号ピット群出土遺物観察表 (第 180 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	(11.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	耳貼り付け部一部残存	覆土上層	5% 外面煤付着

第 6 号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	G3b4	楕円形	50	44	62	21	G3c3	楕円形	27	23	31	41	G3c4	楕円形	33	27	40
2	G3b4	楕円形	30	20	49	22	G3c4	円形	24	24	18	42	G3f6	[楕円形]	31	(10)	25
3	G3c4	楕円形	38	32	32	23	G3b4	円形	21	21	19	43	G3e6	[楕円形]	(27)	25	10
4	G3c4	楕円形	42	30	64	24	G3b4	[楕円形]	(41)	33	50	45	G3e7	楕円形	30	28	34
5	G3b4	円形	32	32	45	25	G3c4	楕円形	23	19	14	46	G3f6	楕円形	30	(24)	36
6	G3b4	楕円形	38	24	20	26	G3c4	円形	18	17	12	47	G3e6	楕円形	45	35	44
7	G3b4	円形	43	40	62	27	G3b4	楕円形	23	20	50	48	G3e6	楕円形	43	34	23
8	G3b4	楕円形	43	38	50	28	G3b4	円形	27	25	50	49	G3e6	楕円形	33	30	25
9	G3b4	楕円形	47	41	48	29	G3b5	楕円形	30	24	45	50	G3e6	楕円形	34	32	28
10	G3b4	楕円形	53	44	61	30	G3d6	楕円形	40	27	51	51	G3e6	楕円形	29	17	15
11	G3b4	円形	46	45	54	31	G3d6	楕円形	35	27	25	52	G3e6	楕円形	25	18	15
12	G3b4	円形	39	38	52	32	G3d6	隅丸長方形	30	14	20	53	G3e6	円形	23	22	23
13	G3b4	[楕円形]	(40)	36	52	33	G3e6	楕円形	39	29	42	54	G3f6	[楕円形]	48	40	37
14	G3b4	楕円形	49	40	47	34	G3e6	楕円形	22	18	16	55	G3f6	隅丸長方形	57	46	47
15	G3b4	楕円形	47	42	58	35	G3e6	円形	29	27	40	56	G3f6	円形楕円形	72	(43)	55
16	G3a4	楕円形	52	44	69	36	G3e6	円形	35	34	30	57	G3f6	楕円形	68	46	57
17	G3c4	円形	25	24	14	37	G3e6	楕円形	18	14	13	58	G3e7	楕円形	51	44	32
18	G3c4	円形	30	29	46	38	G3d6	円形	31	30	31	59	G3f6	[楕円形]	(50)	39	21
19	G3c4	円形	30	28	15	39	G3e6	円形	43	40	30	60	G3f6	楕円形	47	41	52
20	G3c3	円形	20	20	26	40	G3e6	円形	40	38	25	61	G3e6	円形楕円形	25	(17)	38

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
62	G3f7	[楕円形]	33	25	19
63	G3e5	楕円形	29	21	59
64	G3e4	楕円形	32	26	47
65	G3f5	円形	27	25	28
66	G3f6	楕円形	35	23	50
67	G3f7	楕円形	33	29	28
68	G3f7	楕円形	31	21	32

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
69	G3d6	楕円形	33	28	42
70	G3f5	不整楕円形	35	31	30
71	G3f5	円形	27	27	35
72	G3f5	楕円形	34	28	19
73	G3g4	円形	27	25	13
74	G3f4	楕円形	34	25	20
75	G3f4	楕円形	29	24	28

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
77	G3f4	円形	24	23	20
78	G3f4	楕円形	41	26	46
80	G3f5	楕円形	22	17	21
81	G3f5	楕円形	27	23	9
82	G3f4	楕円形	43	29	55
83	G3f4	不定形	73	38	52

## 第2号ビット群ビット計測表

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	F2b4	円形	34	33	31
2	F2a4	楕円形	84	79	28
3	F2b4	楕円形	45	40	20
4	F2b4	楕円形	48	40	20
5	F2a4	楕円形	34	25	27

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
6	F2b4	円形	43	40	18
7	F2b4	楕円形	83	70	36
8	F2c4	円形	39	39	21
9	F2c4	円形	25	24	15
10	F2c4	楕円形	27	22	20

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
11	F2d4	円形	34	31	37
12	F2d3	楕円形	63	50	56
13	F2d0	楕円形	50	41	62
14	F2d0	円形	50	47	58

## 第4号ビット群ビット計測表

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	F2i7	円形	22	21	15
2	F2i7	楕円形	36	22	20
3	F2g7	楕円形	34	34	58
4	F2g7	円形	40	39	32
5	F2g7	円形	27	26	10
6	F2g7	楕円形	42	35	31
7	F2g7	楕円形	39	31	35
8	F2g7	円形	23	22	7
9	F2h7	楕円形	40	34	25
10	F2g7	円形	39	36	35
11	F2g7	円形	28	28	10

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
17	F2g7	円形	39	38	8
18	F2h7	楕円形	34	27	27
19	F2g8	円形	30	28	23
20	F2g9	円形	21	20	18
21	F2h9	円形	38	38	17
22	F2g8	楕円形	40	35	14
23	F2h6	円形	36	33	29
24	F2f8	楕円形	28	25	28
25	F2j7	円形	34	32	35
27	F2h8	[楕円形]	34	27	23
28	F2h8	楕円形	42	30	11

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
29	F2h8	円形	31	29	25
35	F2j7	円形	20	19	22
36	F2i7	円形	23	23	21
37	F2i0	楕円形	36	20	14
38	F2i0	楕円形	50	35	30
39	F2i0	円形	40	39	23
40	F2i8	楕円形	32	26	12
41	F2g8	楕円形	28	25	21
42	F2j9	楕円形	37	33	38

## 第7号ビット群ビット計測表

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	G2h0	円形	37	36	18
2	G2h0	楕円形	22	20	22
3	G3j1	円形	30	28	50
4	G3j2	円形	33	31	28
6	G3h2	楕円形	40	30	35

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
7	H3b4	円形	27	26	35
8	H3b4	楕円形	24	19	15
9	H3b4	楕円形	38	33	30
10	H3c5	円形	47	44	17
11	H3c5	[楕円形]	30	22	12

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
12	H3c5	楕円形	26	18	15
13	H3d5	楕円形	30	26	19
14	H3d5	不整楕円形	32	24	9
15	H3d5	楕円形	39	34	16
16	H3d4	円形	19	18	12

ビット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
17	H3 c4	楕円形	27	19	11
18	H3 d4	不整楕円形	30	26	8

ビット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
19	H3 d4	凹形楕円形	27	(11)	9
20	H3 d4	不整形	20	19	13

ビット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
22	H3 d4	楕円形	36	26	27
24	G2 h9	楕円形	27	24	30

### 第8号ビット群ビット計測表

ビット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	H3 b6	楕円形	31	25	25
2	H3 b6	不整楕円形	44	32	21
3	H3 b6	楕円形	26	22	10
4	H3 c6	円形	30	29	18
5	H3 c6	楕円形	32	26	13
6	H3 c6	楕円形	28	18	15
7	H3 d6	楕円形	45	39	11
8	H3 d5	楕円形	50	42	32
9	H3 e7	楕円形	52	45	29
10	H3 e8	円形	45	42	31
11	H3 e8	円形	61	57	30
12	H3 g8	隅丸長方形	50	45	21

ビット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
13	H3 c5	不整楕円形	37	27	23
14	H3 c5	楕円形	34	27	19
15	H3 c5	楕円形	26	23	(11)
17	H3 f0	円形	48	47	51
18	H3 g0	隅丸長方形	68	61	37
19	H3 a4	[楕円形]	[23]	20	43
20	H3 a5	楕円形	38	30	47
21	H3 a5	楕円形	35	28	25
22	H3 a5	楕円形	52	32	33
23	H3 a5	不整楕円形	37	25	8
24	H3 i0	楕円形	25	21	25
25	H3 i0	円形	27	27	11

ビット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
26	H3 i0	楕円形	32	23	20
27	H3 h0	楕円形	27	20	54
28	H3 i0	円形	32	30	18
29	I 3 c0	円形	19	18	29
30	I 4 c1	楕円形	32	28	11
31	H3 f6	[楕円形]	56	[24]	35
33	I 4 c9	楕円形	81	65	52
34	I 4 b0	楕円形	45	37	35
35	I 4 b9	円形	28	26	18
36	I 4 b6	楕円形	22	19	22
37	I 4 b9	楕円形	28	20	7
38	I 4 b0	楕円形	46	39	31

### 第9号ビット群ビット計測表

ビット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	F2 g2	[楕円形]	53	(43)	30
2	F2 h2	楕円形	37	32	13
3	F2 h2	楕円形	51	46	19
4	F2 h2	円形	22	21	9
5	F2 h2	楕円形	33	29	13
6	F2 h2	楕円形	41	32	5
7	F2 h3	不整楕円形	54	38	15
8	F2 h3	楕円形	60	46	51
9	F2 i3	楕円形	34	31	18
10	F2 i3	楕円形	52	31	54

ビット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
11	F2 i3	円形	32	30	7
12	F2 i3	楕円形	37	30	22
13	F2 h3	不整楕円形	48	43	20
14	F2 h2	楕円形	68	62	20
15	F2 h2	[楕円形]	52	(40)	22
17	F2 h2	円形	48	45	15
18	F2 h2	[楕円形]	38	(17)	22
19	F2 h2	楕円形	33	26	6
20	F2 h2	円形	32	31	7
21	F2 h2	凹形楕円形	31	(10)	25

ビット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
22	F2 h2	[楕円形]	57	(42)	24
23	F2 h2	[楕円形]	21	(13)	67
24	F2 h2	[凹形楕円形]	52	(13)	67
25	F2 h2	楕円形	46	38	26
26	F2 h2	[楕円形]	41	(24)	30
27	F2 i3	円形	32	30	8
28	F2 i3	楕円形	19	16	25
29	F2 i3	円形	21	20	25
30	F2 j3	[凹形楕円形]	39	(23)	31
31	F2 j3	[楕円形]	41	(11)	27

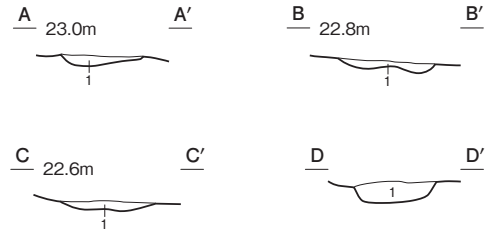
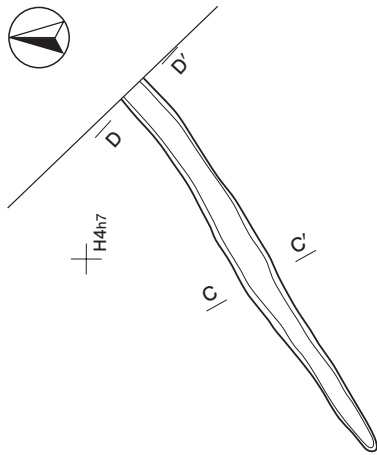
#### (4) 道路跡

##### 第1号道路跡 (第181図)

**位置** 調査区南東部の I 3 c0～H 4 h7 区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

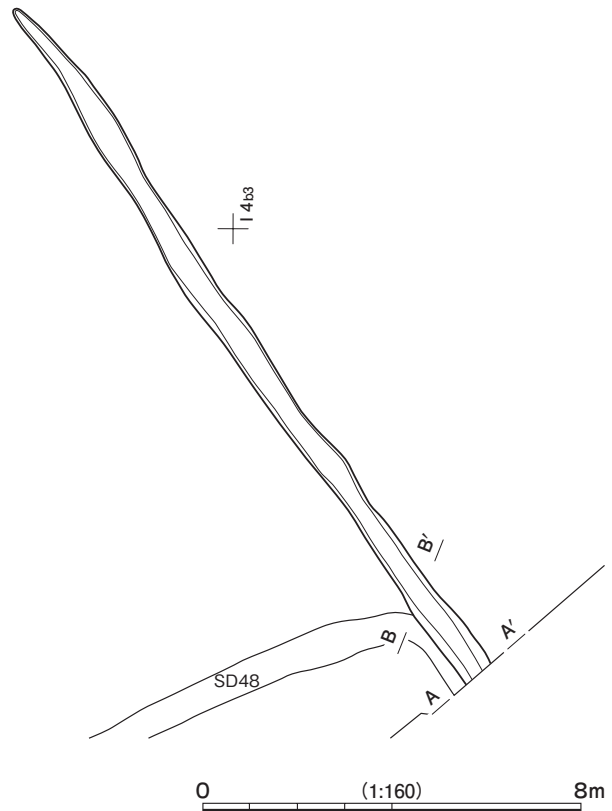
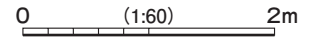
**重複関係** 第48号溝跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** I 3 c0 区から北東方向 (N - 56° - E) の H 4 h7 区へ直線状に延び、調査区域外へ至っている。確認できた長さは 26.44 m で、上幅 0.28～0.76 m、下幅 0.24～0.58 m、深さ 4～18cm である。直線的に硬化した路面が確認できた。路面の幅は 0.5～0.7 m である。



土層解説 (各土層共通)

1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量



第 181 図 第 1 号道路跡実測図

**覆土** 単一層の路面で、よく踏み固められている。

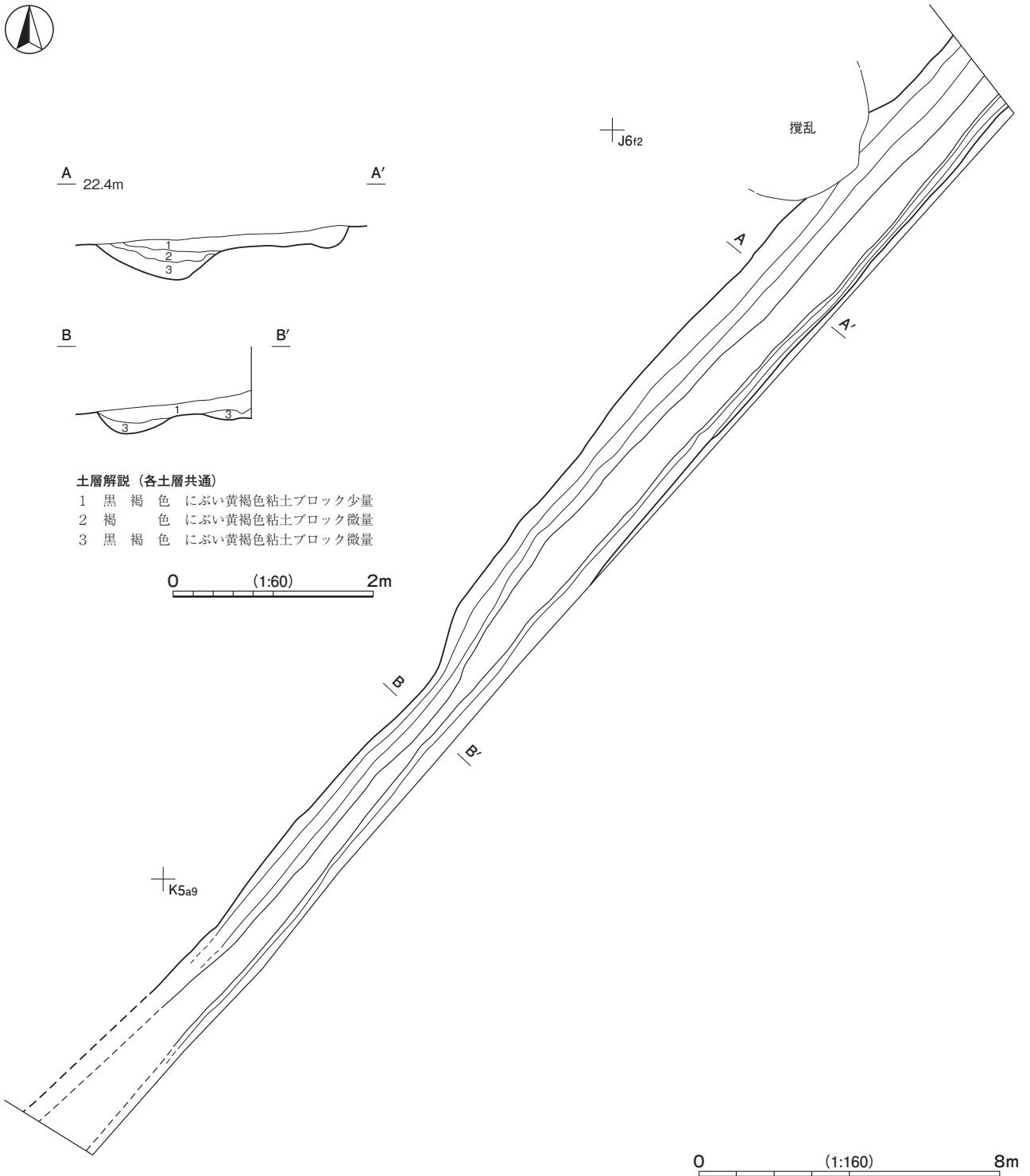
**所見** 時期は、出土遺物もなく不明である。H 4j4 区で路面が確認できなくなっており、本来の長さや性格は不明である。

第2号道路跡 (第182図 PL21)

位置 調査区南東部のJ6e4～K5b8区, 標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 J6d4区から南西方向(N-41°-E)へ直線状に伸び, K5b8区で調査区域外へ至っている。確認できた長さは37.95mで, 上幅1.50～2.62m, 下幅0.18～0.58m, 深さ25～40cmである。直線的に硬化した路面が確認できた。路面の幅は0.8～2.15mである。

覆土 3層に分層できる。路面は第1層で, よく踏み固められている。



土層解説 (各土層共通)

- 1 黒褐色 におい黄褐色粘土ブロック少量
- 2 褐色 におい黄褐色粘土ブロック微量
- 3 黒褐色 におい黄褐色粘土ブロック微量

第182図 第2号道路跡実測図



所見 時期は、調査区外に延びる近世以降の道路の可能性もあるが、性格も不明である。

表 20 道路跡一覧表

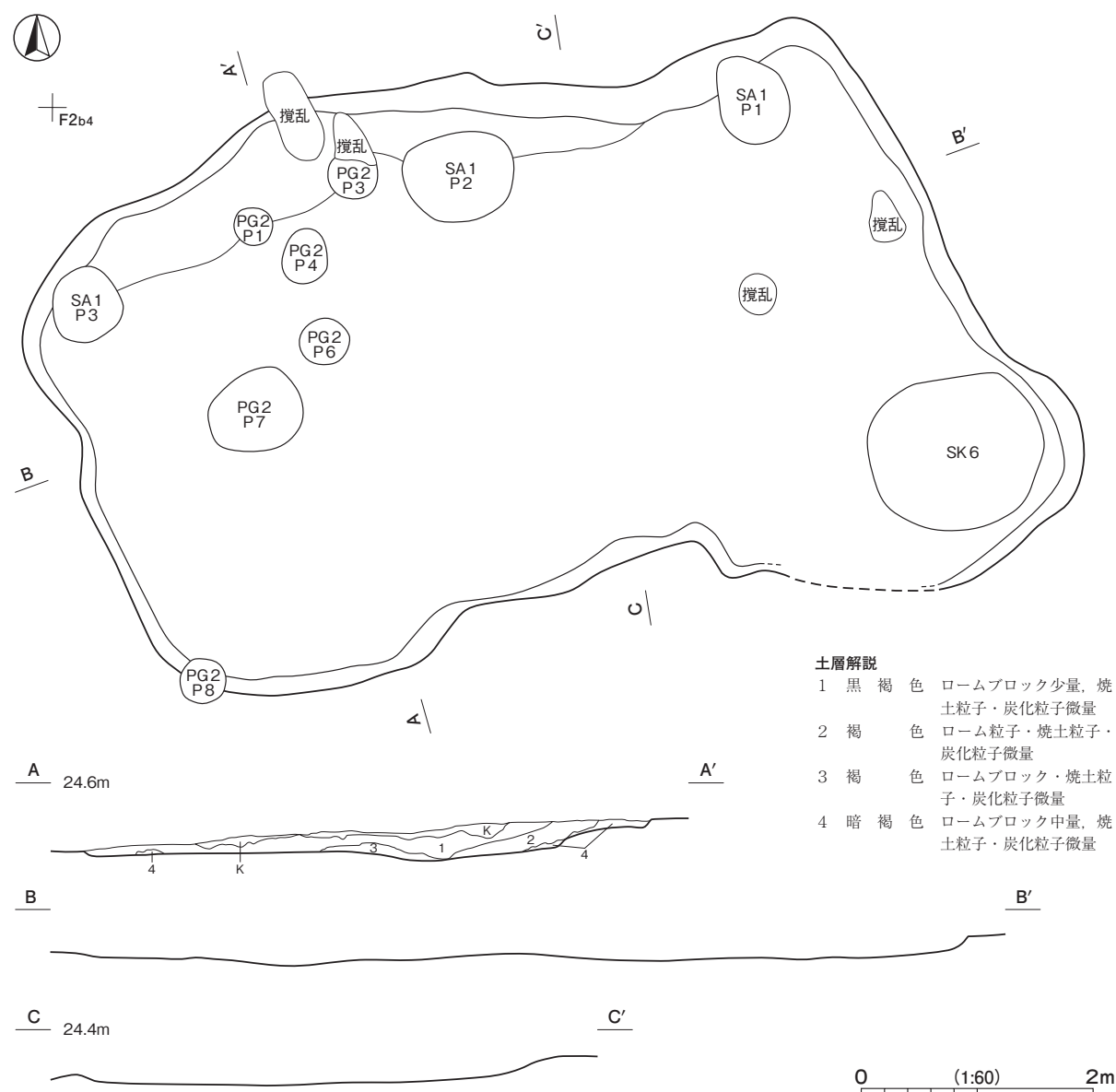
番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	I 3c0 ~ H4h7	N - 56° - E	直線状	(26.44)	0.28 ~ 0.76	0.24 ~ 0.58	4 ~ 18	U字状	緩斜	人為	-	SD48 → 本跡
2	J 6e4 ~ K5b8	N - 41° - E	直線状	(37.95)	1.50 ~ 2.62	0.18 ~ 0.58	25 ~ 40	U字状	緩斜	人為	-	

(5) 掘り込み遺構

第 1 号掘り込み遺構 (第 183 図・付図)

位置 調査区北西部の F 2b4 区、標高 24 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 6 号土坑を掘り込み、第 1 号柱穴列に掘り込まれている。第 2 号ピット群とは新旧不明である。



第 183 図 第 1 号掘り込み遺構実測図

**規模と形状** 平面形は長軸 7.70 m、短軸 4.92 m の長方形で、長軸方向は N - 70° - E である。深さは 30cm ほどで、緩やかに立ち上がっている。底面は平坦である。

**覆土** 4 層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から埋め戻されている。

**所見** 時期は、出土遺物がないため不明である。性格は、区画溝の出入りに伴う施設の可能性がある。

**第 2 号掘り込み遺構 (第 184 図・付図)**

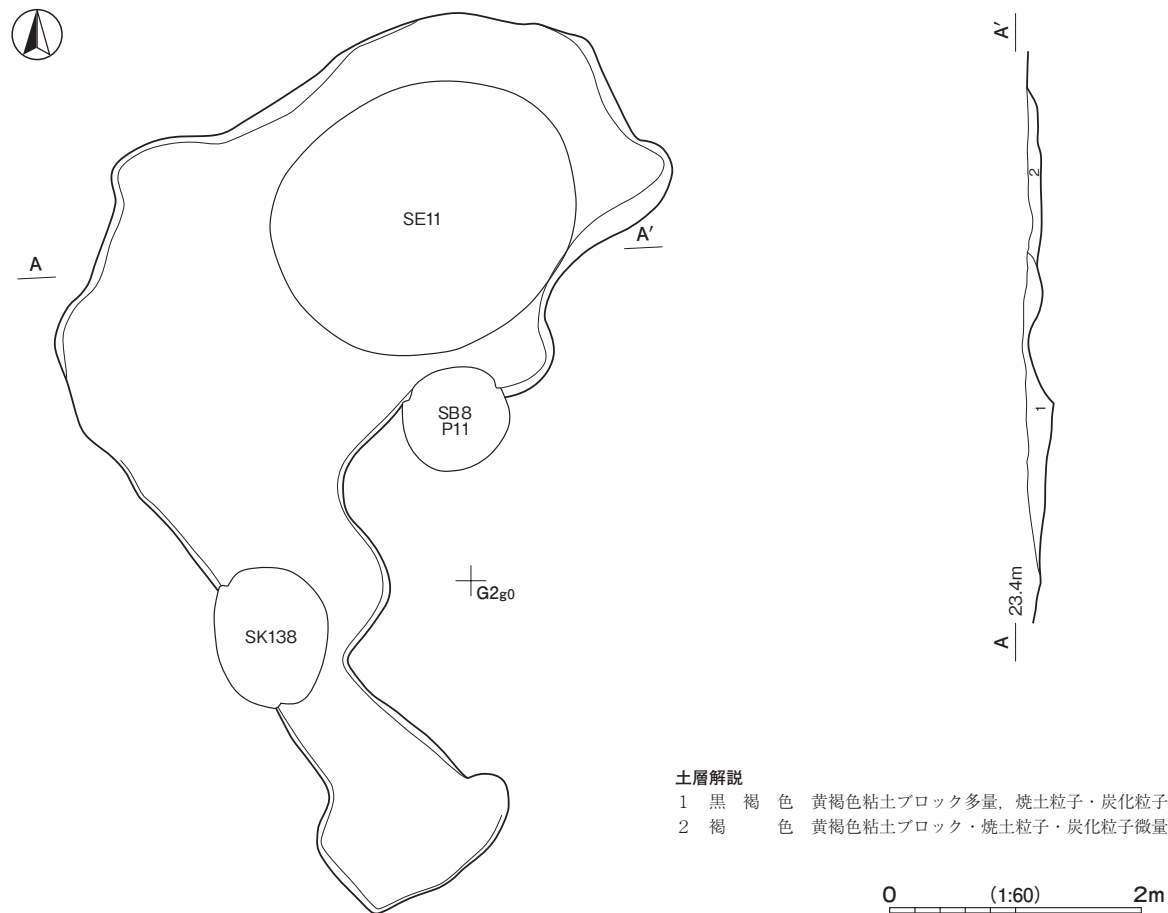
**位置** 調査区中央部の G2f9 区、標高 23 m ほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第 11 号井戸跡を掘り込み、第 8 号掘立柱建物跡、第 138 号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 平面形は長軸 7.10 m、短軸 4.30 m の不定形で、長軸方向は N - 4° - E である。深さは 20cm ほどで外傾している。底面は凹凸である。

**覆土** 2 層に分層できる。粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

**所見** 時期は、重複関係から江戸時代以降と考えられる。性格は不明である。



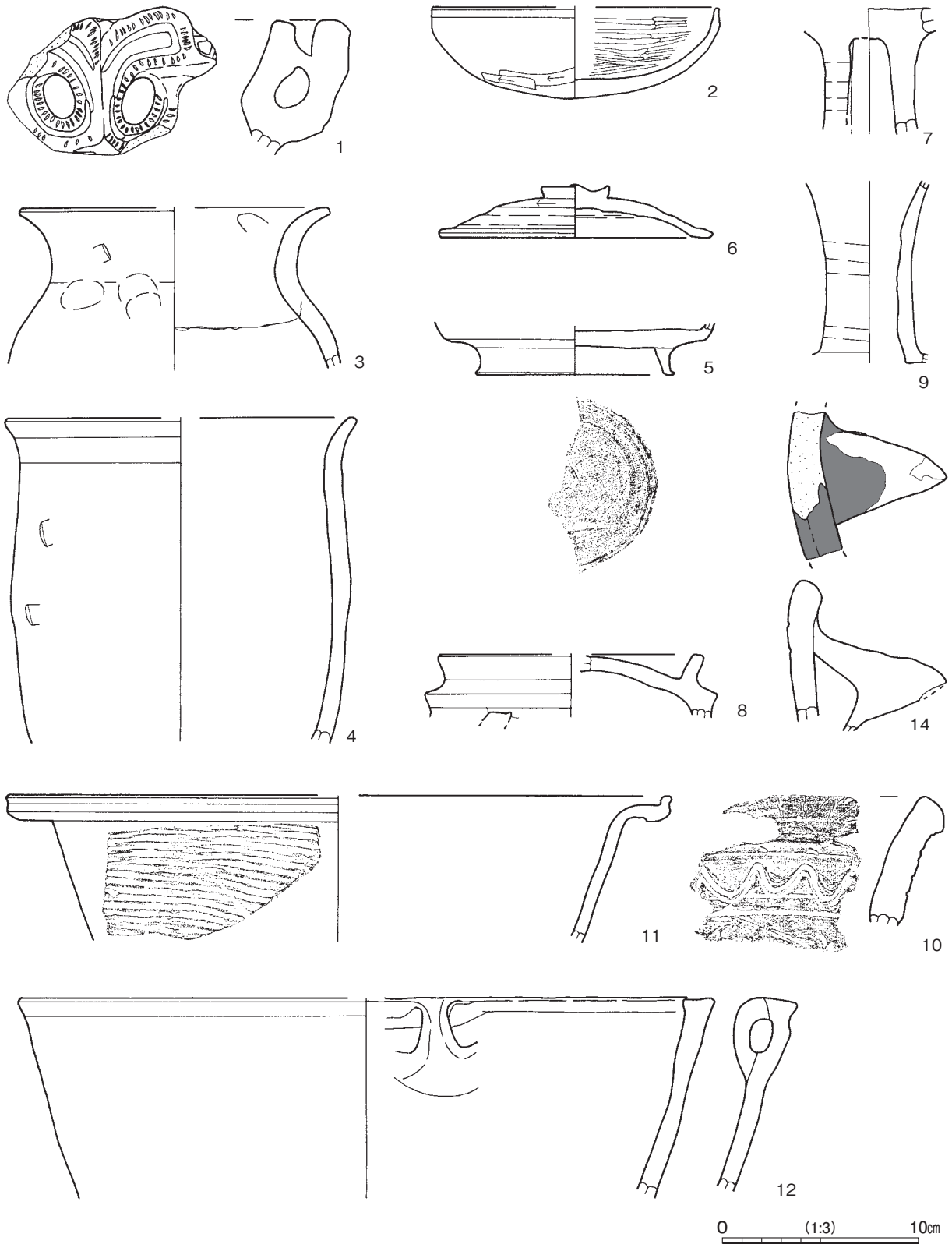
**第 184 図** 第 2 号掘り込み遺構実測図

**表 21** 掘り込み遺構一覧表

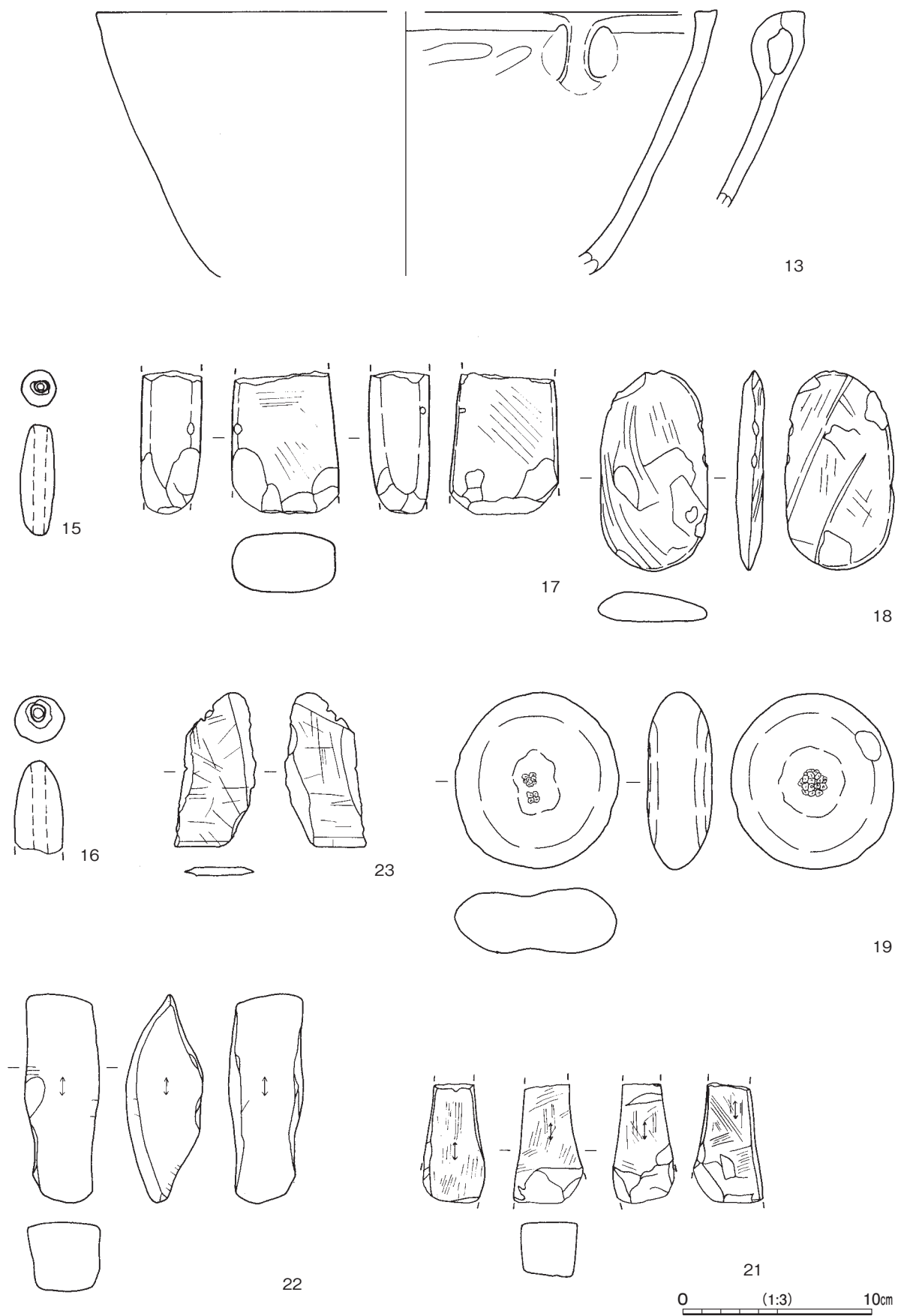
番号	位置	方向	平面形	規模		底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長軸 (m) × 短軸 (m)	深さ (cm)				
1	F2b4	N - 70° - E	長方形	7.70 × 4.92	30	平坦	人為	-	SK6 → 本跡 → SA 1, PG 2 と重複
2	G2f9	N - 4° - E	不定形	7.10 × 4.30	20	凹凸	人為	-	SE11 → 本跡 → SB 8, SK138

7 遺構外出土遺物 (第 185 ~ 188 図 PL32・34・35・40)

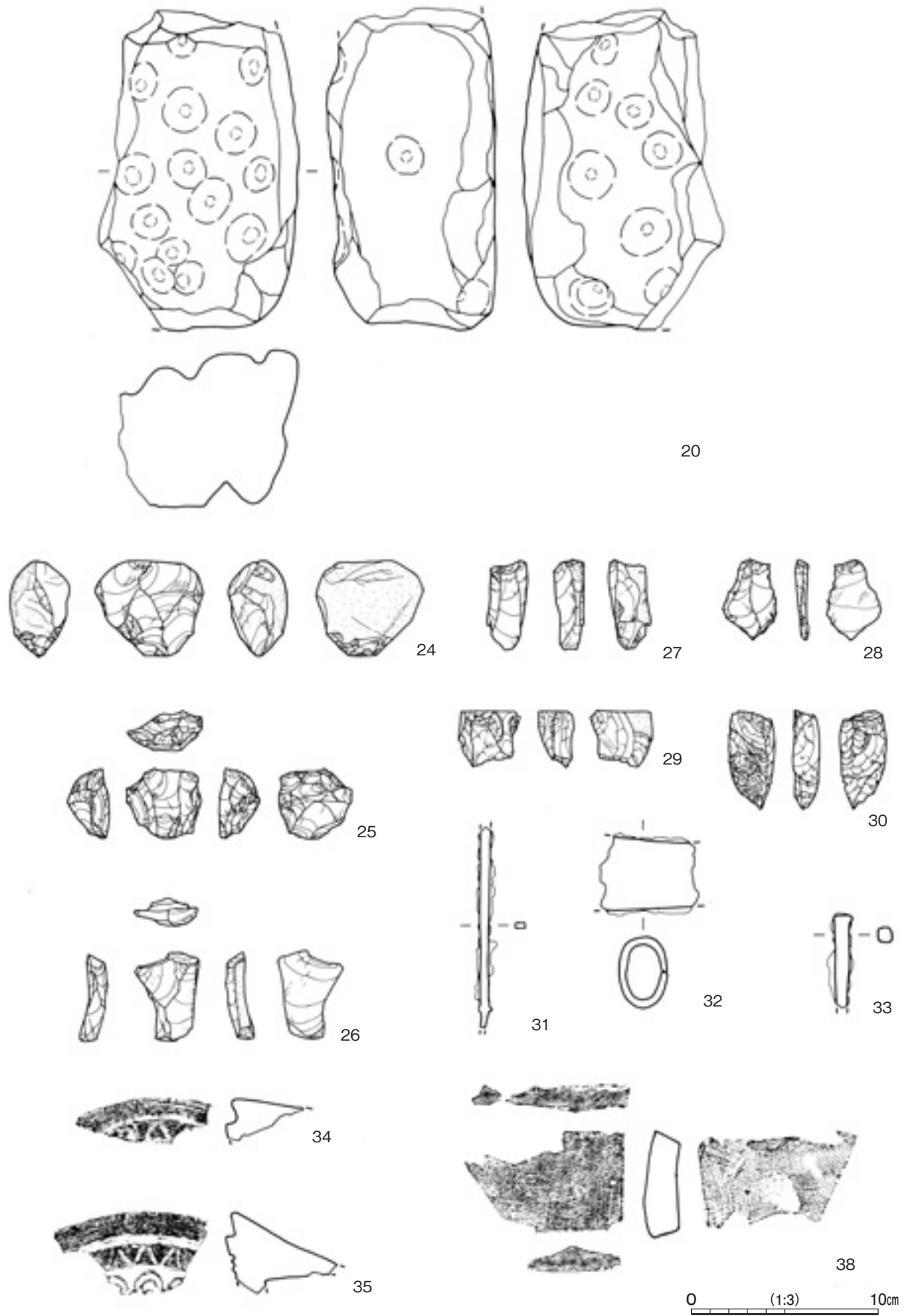
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図と観察表で掲載する。



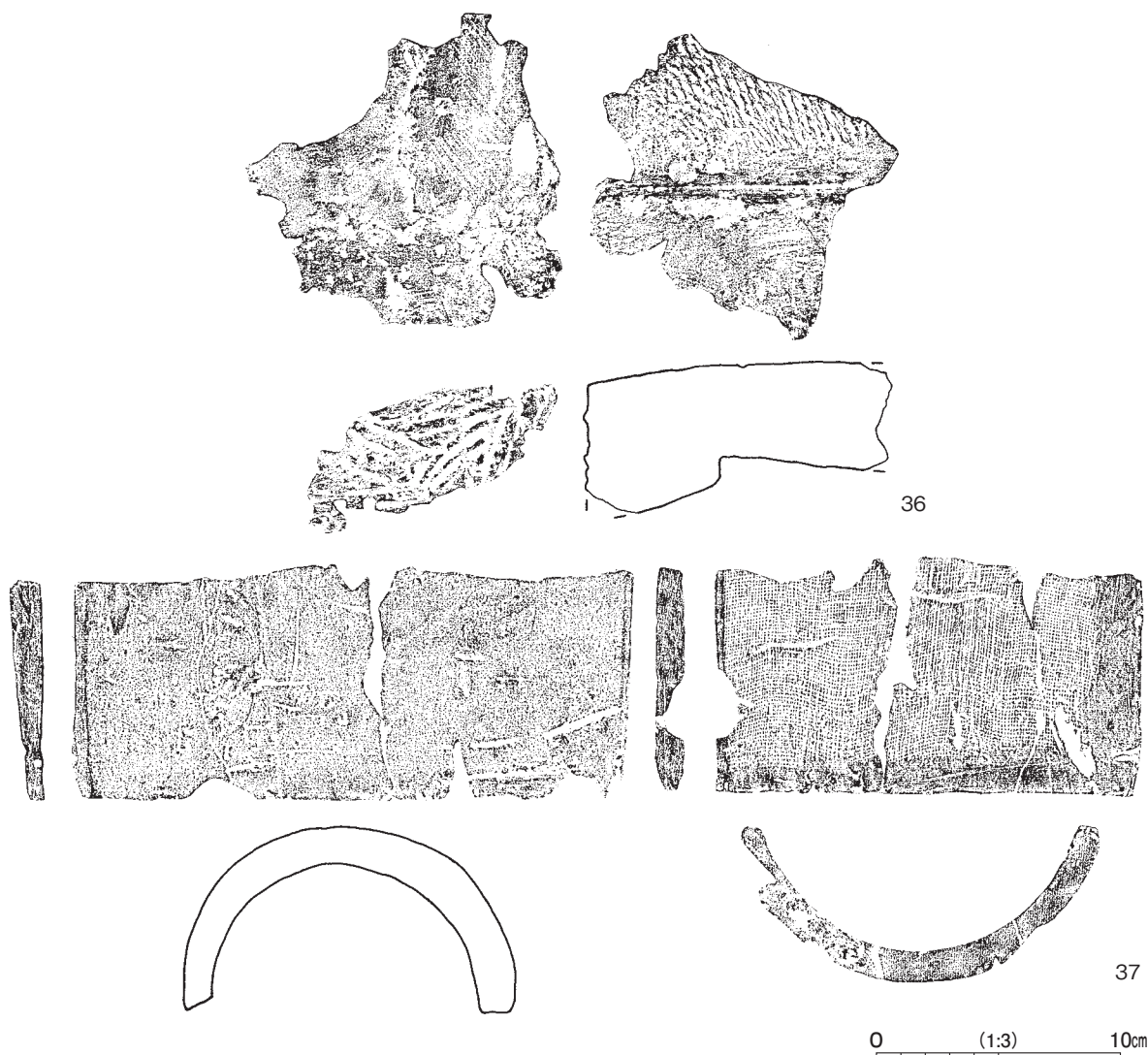
第 185 図 遺構外出土遺物実測図 (1)



第 186 図 遺構外出土遺物実測図(2)



第 187 図 遺構外出土遺物実測図(3)



第188図 遺構外出土遺物実測図(4)

遺構外出土遺物観察表(第185~188図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(7.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	把手部片 隆帯に爪形文	SD41	5% PL32 加曾利 E I
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
2	土師器	坏	[14.5]	4.7	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り内面ヘラ磨き	SD19	40%
3	土師器	小形甕	[15.6]	(8.3)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外・内面ナデ 外面ヘラ当て痕 体部外面指頭痕 体部内面輪積み痕	西端トレンチ	40%
4	土師器	小形甕	[17.6]	(16.6)	-	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ	SD29	20%
5	須恵器	高台付坏	-	(2.7)	(9.6)	長石・石英・雲母	黄灰	普通	内面ロクロナデ 底部外面回転ヘラ削り高台貼り付け後ナデ	SD11	40%
6	須恵器	蓋	[13.7]	2.8	-	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り つまみ貼り付け後ナデ	SD40	20% 新治窯
7	須恵器	高盤	-	(6.4)	-	長石・石英	灰黄	普通	脚部外・内面ロクロナデ 脚部に透かし有	SD28	10%
8	須恵器	円面硯	[13.5]	(3.2)	-	長石・石英	黄灰	普通	脚部欠損 長方形の透かし有	SD26	5% PL32
9	須恵器	長頸瓶	-	(9.3)	-	長石・石英	灰黄	普通	頸部外・内面ロクロナデ	UP 3	10%
10	須恵器	甕	-	(6.4)	-	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	口縁部外面波状文	SD41	5%
11	須恵器	甕	[33.2]	(7.4)	-	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	口縁部外・内面ロクロナデ 体部外面横位の平行叩き	第2号掘り込み遺構	5%
12	土師質土器	内耳鍋	[35.2]	(10.2)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	1内耳残存 耳貼り付け 口縁部外・内面ナデ	SB 8	5%
13	土師質土器	内耳鍋	[33.0]	(14.1)	-	長石・石英	橙	普通	1内耳残存 耳貼り付け 口縁部外・内面ナデ	表土	10%
14	土師質土器	へっつい	-	(7.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	円錐状突起	SK81	5%

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
15	管状土錘	5.9	1.9	0.7	17.3	長石・石英・雲母	黒褐	二方向からの穿孔 ナデ	SK31	
16	管状土錘	(4.9)	2.6	0.9	(29.9)	長石・石英	明褐	二方向からの穿孔 ナデ	SK31	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
17	磨製石斧	(7.6)	(5.8)	(3.3)	(244.6)	安山岩	刃部欠損 側面敲打痕を含む磨り面	SD29	
18	磨製石斧	10.6	5.7	1.5	119.8	ホルンフェルス	刃部付近表裏面磨り面	SD50	PL34
19	磨石	9.4	8.6	3.5	331.6	安山岩	表・裏面中央部に敲き痕	SD40	PL34
20	凹石	(17.1)	(10.8)	9.0	(2305)	安山岩	表・裏・側面に敲き痕	SD26	PL34
21	砥石	(6.3)	(3.7)	(3.3)	(90.9)	凝灰岩	砥面4面 上下端部に敲打痕 面縁部に磨り痕	HT 3	
22	砥石	11.1	3.9	4.1	203.2	凝灰岩	砥石3面 表裏面・側面研磨 面縁部に磨り痕	PG 5	
23	石板	(8.2)	(4.4)	(0.4)	(19.6)	粘板岩	表裏面磨り痕	表土	
24	石核	5.1	5.7	3.2	92.0	頁岩	1面に原礫面を残す	第1号大割形土坑	PL34
25	石核	3.7	4.0	2.1	30.6	チャート	打面は自然面	SD29	PL34
26	剥片	4.7	3.4	1.5	14.3	頁岩	縦長剥片 打面は単剥離面	表土	PL34
27	剥片	4.8	2.2	1.6	18.9	頁岩	1面に原礫面を残す	表土	PL34
28	剥片	4.3	2.9	0.7	4.9	頁岩	打面は単剥離面	SD35	PL34
29	剥片	3.0	3.3	1.8	14.9	頁岩	縦長剥片 打面は単剥離面	表土	PL34
30	剥片	5.2	2.5	1.4	21.4	黒曜石	縦長剥片 打面は単剥離面	SD23	PL34

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
31	鉄鏃	(10.8)	(0.6)	0.3	(7.7)	鉄	鏃身先端部欠損 茎の一部残存 茎部断面長方形	表土	PL35
32	鉄斧	(5.3)	(4.0)	2.6	(65.9)	鉄	鉄材巻き付け	表土	
33	釘	(5.0)	1.0	0.8	(7.4)	鉄	先端部欠損 脚部断面正方形	表土	

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
34	瓦	軒丸瓦	(10.2)	(2.5)	(3.9)	長石・石英・雲母	黄灰褐	普通	鋸歯文縁単弁十六葉花文。	HT 3	
35	瓦	軒丸瓦	(9.5)	(4.0)	(6.3)	長石・石英	黄灰	普通	鋸歯文縁単弁十六葉花文。	表土	PL40
36	瓦	軒平瓦	(14.5)	(5.7)	(12.7)	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	均整唐草文	表土	PL40
37	瓦	丸瓦	13.6	7.6	(9.4)	長石・石英・雲母	黒褐	普通	凸面ナデ 凹面布目痕	表土	PL40
38	瓦	鬩斗瓦	5.8	1.9	(8.8)	長石・石英・雲母	黄褐	普通	凸面ナデ 凹面布目痕	表土	PL40



## 第4節 総括

### 1 はじめに

金田西坪B遺跡は、つくば市の北東部、桜川右岸の標高22～24mの台地上に立地している。

平成13年度に確認調査が行われ、その成果については『茨城県教育財団文化財調査報告第209集』<sup>1)</sup>にて報告されている。これまでに確認された遺構は竪穴建物跡50棟、掘立柱建物跡3棟、溝跡3条等であり、古代河内郡家の郡庁院や正倉院の可能性があり、「金田官衙遺跡」として国の史跡に指定されている。そのうち、今回の調査区は正倉域の南西部に位置し、中世後半を主とする「区画溝内に点在する中世の遺構」が明らかになった。隣接する遺跡や限られた調査区域内での遺構・遺物から、遺跡の性格について考えていく。

今回の調査で報告する奈良・平安時代の遺構は、郡庁院や近隣の遺跡<sup>2)</sup>と関連するものである。出土した遺構や遺物から中心は中世の小集落やその屋敷跡と想定できる。そのほか、縄文時代の陥し穴、古墳時代の土坑、近世以降の掘立柱建物跡、井戸跡、溝跡などを確認している。

ここでは中世までの様相について概観し、主に中世の遺構と遺物を中心にいくつかの気づいた点、若干の考察を加えて総括とする。

### 2 縄文時代・古墳時代について

縄文時代の遺構は、陥し穴3基と土坑3基を確認した。陥し穴は、調査区の北西部の南北12m、東西12m内に配置されている。形状は底面が平坦な楕円形と推定される。土坑3基は平坦な台地上の標高22～24mに位置し、覆土中から中期の深鉢片なども出土している。近隣の上野古屋敷遺跡<sup>3)</sup>で早期から中期にかけての集落の存在が確認されており、当地は近隣の集落に住む人々の狩猟場として利用されていたことが考えられる。

古墳時代の遺構は、調査区中央部の平坦な台地上から、中期の土坑1基を確認した。壺が覆土下層から正位で出土している。今回は単独の確認のため、性格については不明である。近隣にある同該期の上野古屋敷遺跡から住居跡が確認されていることから、数軒からなる単位集団が複数存在した集落構造の一部があったと考えられる。

### 3 奈良・平安時代について

当該期の遺構は、竪穴建物跡8棟、掘立柱建物跡4棟、大型円形土坑1基、粘土採掘坑1基、土坑2基、柱穴列1条、溝跡6条を確認した。その内、竪穴建物跡、掘立柱建物跡の時期は、7世紀後葉～10世紀初頭と考えられ、Ⅰ～Ⅲ期に分け、おおよその変遷と出土した古代瓦について記述する。

#### (1) 遺構の変遷について

第5・10・11号掘立柱建物跡は遺物が細片のため、柱穴の平面形や主軸方向から、8世紀代と考えられる。

第6号掘立柱建物跡は第56号竪穴建物跡との重複関係から9世紀後葉と考えられる。

#### I期(8世紀前葉～8世紀後葉)

竪穴建物跡2棟(第53・57号竪穴建物跡)が該当する。

第53号竪穴建物跡は北西部に、第57号竪穴建物跡は中央部の平坦な台地上に位置しており、両者とも他の遺構に掘り込まれているが、平面形は方形か長方形で中型建物である。主軸方向は北方向を指している。

## Ⅱ期（9世紀前葉～9世紀中葉）

竪穴建物跡3棟（第55・56・60号竪穴建物跡）が該当する。第56号竪穴建物跡は北西部に位置しており、東部が攪乱を受けている。第51・52号竪穴建物跡に隣接しており、方形又は長方形と推定される。第55号竪穴建物跡は、北西部に位置しており、北部が中世の溝に掘り込まれている。第60号竪穴建物跡は、東部に位置しており、周辺に同時期の遺構が存在しない。2棟とも主軸方向はほぼ北を指している。

## Ⅲ期（9世紀後葉～10世紀初頭）

竪穴建物跡3棟（第51・52・58号竪穴建物跡）が該当する。第51・52号竪穴建物跡は北西部に位置しており、第52号竪穴建物跡の方が古い。2棟とも竈が一部残存し、主軸方向がほぼ北側を指している。第58号竪穴建物跡は、北部を中世の遺構に掘り込まれている。方形又は長方形と推定される。

当期の住居は、東西92m、南北84mの範囲内に散在している。集落の性格としては、2、3軒の竪穴建物跡からなる集団が、ある程度の時期と間隔の中で存在する散在型であったと考えられる。

### (2) 出土した瓦について

ここでは、各遺構の覆土中から出土した古代瓦<sup>4)</sup>について報告する。

ほとんどの瓦片は、15～16世紀代の遺構の覆土から出土している。特に方形竪穴遺構（238点、9,748g）、地下式坑（37点、3,600g）、井戸跡（19点、2,690g）から多く出土し、調査区域の北西部と東部に集中している。また、調査区内溝跡（245点、37,680g）からも多数出土している。次に種類別では、平瓦が個数全体の70%を超えて出土している。他に丸瓦・軒丸瓦・軒平瓦・熨斗瓦が出土している。今回出土した瓦は、ほとんどが桶巻き造りの平瓦である。平瓦片（633点、51,938g）は、ほとんどが凸面格子叩きである。数は少ないが縄叩き（5点）や平行叩き（2点）、ナデ（1点）、凹凸面無文（1点）のものもある。凹面は布目痕で、模骨痕を確認できるものもある。丸瓦片（251点、21,640g）は、玉縁式で凸面は横位の削りがあり、凹面は布目痕が確認できたものがある。軒丸瓦片（11点、3,093g）はすべて瓦当面に鋸歯文縁単弁十六葉花文一部が残存するものである。軒平瓦（3点、1,455g）は均整唐草文字瓦である。熨斗瓦（3点、385g）は焼成前に成形したもので、凹凸面はナデ調整を施している。

これらの古代瓦については、当遺跡の北西500mほどに九重東岡廃寺跡があり、当遺跡と同様な結城系7103形式の軒丸瓦が出土している。しかし、それが郡衙における関連施設かどうかは、軒丸瓦が中世の遺構から出土していることや古い瓦葺き建物を検出していないことなどから判断できなかった。

## 4 中世について

当時代の遺構は、調査区北西部から中央部にかけて標高22～24mの台地平坦部に立地している。

ここには、屋敷跡としてとらえることができる掘立柱建物跡5棟、屋敷の附属施設と考えられる方形竪穴遺構14基、地下式坑6基、井戸跡8基、火葬施設2基、土坑15基、柱穴列4条、溝跡13条、整地遺構1か所が確認できた。15～16世紀代の遺構・遺物であり、中世の遺跡群は、調査区の北西部と中央部に集中している。これらの集落地内及び周囲の附属施設は、北辺の第11・12号溝跡で大きく区画され、さらに中央部を第13・25・26・29・40号溝跡でいくつかに区画されている。

### (1) 掘立柱建物跡について

検出された掘立柱建物跡の特徴は、第4・7・9号掘立柱建物跡のように区画溝の外側に建てられたものと、第12・13号掘立柱建物跡のように区画溝内で、何度か建て替えが行われたものがある。第4号掘

立柱建物跡は、桁行2間以上、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向(N - 74° - E)の東西棟と推定され、北西部の小集落を区画する第11・12号溝跡の外側に位置している。調査区の北西部で確認した第7号掘立柱建物跡は、桁行2間以上、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向(N - 72° - E)の東西棟と推定され、屋敷域を区画する第28号溝跡の西部の外側に位置している。2棟とも主軸方向は同じである。小集落や屋敷域の区画溝の外側にある位置関係にあり、地下式坑や方形竪穴遺構と隣接していることなどからも、居宅として機能していた建物跡、あるいは納屋などの倉庫的な機能をもった建物跡と考えられる。第26・28号区画溝跡の南側に位置している第9号掘立柱建物跡は、桁行3間、梁行2間の総柱建物跡で、桁行方向(N - 18° - W)の南北棟である。同様の規模・構造の建物跡は1棟しか確認していない。遺構の重複関係や規模や形状から16世紀代の居宅としての機能が想定される。第26・28号区画溝跡の内側に、第12・13号掘立柱建物跡を確認した。第12号掘立柱建物跡は、桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向(N - 16° - W)の南北棟である。第13号掘立柱建物跡は桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向(N - 9° - W)の南北棟である。2棟とも主軸方向は同じである。また、柱穴からは柱の建て替えが行われたと思われる柱の抜き取り痕を確認している。屋敷域は数回溝で区画され、掘立柱建物跡も1、2回建て替えが行われたと考えられる。区画溝内に井戸や地下式坑などの付属施設もあり、規模や形状から16世紀代の居宅としての機能が想定される。それぞれの掘立柱建物跡の柱穴からの出土遺物は極微量であり、柱穴同士の切り合いも無いため、建物の変遷及び詳細な年代は明らかにできなかった。

## (2) 方形竪穴遺構について

方形竪穴遺構は、調査区域の北西部から第1・4～12号方形竪穴遺構10基、中央部から第13・15・16号方形竪穴遺構3基、南東部から第17号方形竪穴遺構1基を確認し、柱穴と思われるピットを確認したのは、第1・4・6・11・12・15～17号方形竪穴遺構である。第1号方形竪穴遺構は北側に1か所、第4号方形竪穴遺構は壁側中央に2か所、第6号方形竪穴遺構は西側壁際に4か所、第11号方形竪穴遺構は東西壁際に7か所、第12号方形竪穴遺構は南北壁際に3か所、第15号方形竪穴遺構は確認した西壁側に3か所、第16号方形竪穴遺構は北西壁中心に7か所、第17号方形竪穴遺構は中央から東壁側にかけて4か所確認した。調査区の北西部では第1・4・7～9号方形竪穴遺構の5基が重複して確認した。屋敷域の区画の溝と思われる内側では、第13・15・16号方形竪穴遺構の3基を確認し、第13・15号方形竪穴遺構には井戸跡が隣接し、地下式坑2基も確認している。これらは、第26・28号区画溝跡内の第12・13号掘立柱建物跡2棟を中心とする遺構群との関連性が想定される。調査区域南東部では第17号方形竪穴遺構1基を確認した。遺構の集中域から離れたところに存在する。

規模と形状では、長軸4m以上が第1・4・6・16号方形竪穴遺構の4基、長軸3m以上が第5・7・8・10号方形竪穴遺構の4基、長軸2m以上が11・12・15・17号方形竪穴遺構の4基、長軸1m以下が第13号方形竪穴遺構の1基である。主軸方向が東西方向であるのは、第5・10・11号方形竪穴遺構の3基、主軸方向が南北方向であるのは第1・4・6～9・12・13・15・17号方形竪穴遺構の10基、主軸方向が北西方向であるのは第16号方形竪穴遺構の1基である。平面形は長方形型が第1・4・5・7～9・10・12・16・17号の10基、方形型は第6・11・13号の3基である。第15号方形竪穴遺構については、重複のためどちらとも言えない。方形竪穴遺構は、小集落の区画溝と屋敷域の区画溝と思われる間に集中している。上屋構造を伴う居住施設の可能性も考えられるが、床面から焼土や炭化物、灰などが検出されていないことや、ほとんど硬化面が確認されていないことなどから、納屋や作業小屋的な機能であったものと想定される。

### (3) 地下式坑について

地下式坑は、調査区北部から第1・2・4号地下式坑と中央部から第3・6・7号地下式坑を確認した。北部の3基は第11・12号溝跡の周辺に設置され、主室は奥行き2m前後、横幅1.5mから3.0m、深さ2m前後である。竪坑の向きは第1号地下式坑は南東方向を、第2・4号地下式坑は北東方向を向いている。中央部の3基は屋敷域の第13・28号区画溝跡内に設置され、主室は奥行き1～2m、横幅2.0～3.0m、深さ1.5m前後である。竪坑の向きは第6号地下式坑は北西方向に、第3・7号地下式坑は南西方向を向いている。主室の平面形は隅丸長方形、円形、方形と多様性がみられる。地下式坑の性格については諸説があるが、性格を判断する根拠を検出することができなかった。

### (4) 井戸跡について

井戸跡は中央部の第13・26・28号区画溝跡の内側から、第2・4・5・7・10・12～14号井戸跡の8基を確認しており、小集落の屋敷域の中で、生活用水の確保を果たしていたと考えられる。第7号井戸跡は並列する第12・13号掘立柱建物跡を中心とする遺構群との関連性が想定される。第10号井戸跡からは長径1mを超える礎石が、第12号井戸跡からは宝篋印塔が出土している。廃絶時に埋め戻す際に、投棄されたことが想定される。

### (5) 出土したかわらけと陶磁器について

かわらけの変遷についての特徴と時期は、広瀬季一郎氏の年代測定を基準に、陶磁器については、愛知県史の「別編 窯業2・3 中世・近世 瀬戸系、常滑系<sup>5)</sup>」を基準に、区画溝内の遺構との時期との整合性について考えていく。今回の遺跡から出土のかわらけ(土師質土器皿破片数、1,957点)の内、中世の遺構から出土した主なかわらけ90点について観察した結果をもとに、形態及び調整技法から、広瀬季一郎氏の年代測定<sup>6)</sup>(①15世紀後半以前、②A類～I類の中型・大型、③小型)をもとに整理・配列する。

当遺跡から出土したかわらけは、広瀬氏の年代測定から主にA・E・F・H類の4種類に分類できる。小型タイプのかわらけについては、時期を明確に判断することはできなかった。陶磁器は、溝跡から13世紀中葉～15世紀中葉にかけての常滑の甕片が出土している。井戸跡からは、土師質土器の皿、内耳鍋、播鉢、香炉、瀬戸・美濃の陶器の端反皿、常滑の甕片、石臼、曲物、高台付椀などの生活道具の食膳具・貯蔵具・調理具等に使われたものが多く出土している。

### (6) 区画溝からみた集落の変遷について

溝跡は、13条確認されており、当遺跡は小集落を区画した溝と、さらに屋敷域を区画している溝、この他に規模が小さく直線的な溝、細長い排水溝などの水路のように区画をおもに目的とした溝など、多様なものがある。遺構の状況から、第26号溝跡の区画内には第5号ピット群と第4・7・10・12・13号井戸跡からなる1単位の施設、第13・28号溝跡の区画内には第4号ピット群と第2・5号井戸跡からなる1単位の施設、第29号溝跡の内側には第1号整地遺構と第16号方形竪穴遺構からなる1単位の施設、第12号溝跡の区画内には第1・4・6～10号方形竪穴遺構からなる1単位の施設が想定できる。


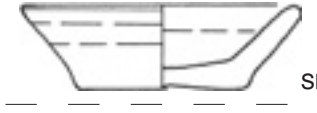







このように、これらの小規模の溝跡は、ある一定の範囲を区画する機能を果たしていたと考えられる。確認した区画溝間の重複関係やかわらけなどを考慮し、区画溝の変遷を考える。まず、溝相互の新旧関係は、第13・25・28・38・39・41号溝跡→第26・37・40号溝跡→第29・35号溝跡→第11・12号溝跡である。第28号溝跡と第13号溝跡はほぼ同時期の可能性があると判断した。新旧関係については、出土した遺物や溝相互、他の遺構との重なり具合の判断によるものである。



第1期の区画溝は、第13・25・28・38・39・41号溝跡である。第13号溝跡は確認できた長さが28.28mで、第28号溝跡は確認できた長さが43.94mである。L字状の両溝がコの字に区画している。第38号溝跡は区画溝内に南北に直線状に延びている。第13号溝が第25号溝跡を掘り込んでいるが、両溝との関連や性格は不明である。第25号溝跡から出土したかわらけ5点と第28号溝跡から出土したかわらけ6点は、A類とF類である。第13号溝跡から出土したかわらけ2点と第39号溝跡から出土したかわらけ1点は、A類である。第41号溝跡から出土したかわらけ14点はA類・F類である。細長い水路のように区画された溝で、調査区域外に延びている。性格は不明である。第1期の区画溝内の遺構では、14世紀後葉から15世紀前葉のかわらけは、第2号井戸跡(区画北西部)と第43号土坑(区画北西部)からそれぞれ1点、第152号土坑(区画中央部)から4点出土している。第3号地下式坑(区画東部)からは、A類と14世紀後葉～15世紀前葉のかわらけ2点が出土している。第35号土坑(区画西部)からは、A類のかわらけ2点が出土している。第26号土坑(区画中央部)からは、F類のかわらけ3点とE類1点が出土している。第13号井戸跡(区画南東部)と第155号土坑(区画南部)からは、小型のかわらけがそれぞれ1点出土している。第153号土坑(区画中央部)からは古瀬戸後期の縁釉小皿が、第28号溝跡からは中国製の貿易陶磁器の四耳壺が出土している。古い時期のかわらけも遺構から数点出土しているが、区画内の遺構との重複関係や出土遺物等から、第1期の区画溝は15世紀中葉～16世紀前葉に構築されたものと考えられる。

第2期の区画溝は、第26・37・40号溝跡である。第26号溝跡は確認できた長さが68.60mのコの字形の区画溝、第37号溝跡は長さ7.02mで直線状である。第40号溝跡は確認できた長さ22.80mの直線状の溝であり、第39号溝、第9号掘立柱建物に掘り込まれている。第26号溝跡から出土したかわらけ6点は小型、E類である。第37号溝跡から出土したかわらけ5点は小型、H類である。第40号溝跡から出土したかわらけ9点はA類、小型が出土している。第40号溝跡はコの字に区画している。第26号溝跡とほぼ同時期と考えられるが、両溝の関係は不明である。区画された第26号溝跡の内側に多数のピット群が検出された。第12・13号掘立柱建物跡(区画北部)は確認できたが、本来なら、数棟の建物が存在したものと考えることができる。区画溝内の遺構は、第13(区画北東部)・15号方形竪穴遺構(区画東部)、第6(主軸方向北西)・7(区画東部主軸方向南西)号地下式坑であるが、かわらけは出土していない。これらの遺構は、区画溝の第1・2期の両区画に入る可能性がある。第7号井戸跡(区画北部)からは、A類、E類、小型のかわらけ10点、大窯2形式の端反皿の陶器が出土している。第10号井戸跡(区画南部)からは、小型のかわらけ1点、第13号井戸跡(区画南部)からは、小型のかわらけ1点と常滑の8形式の甕片が出土している。第63号土坑(区画北部)からは、小型のかわらけ1点、第121号土坑(区画中央部)からは、小型のかわらけ1点、第12・13号掘立柱建物跡から出土遺物は確認できていない。第2期の区画溝は、第1期の区画溝とほぼ同時期に地下式坑と井戸、土坑が機能していたと考えられる。第1期の区画溝遺構群から第2期の区画溝遺構群への変遷は単に出土遺物や重複関係で分けることはできないが、区画の中心に掘立柱建物が存在し、その周辺に地下式坑と井戸等の付属施設を設けていたものと考えられる。主にA類と小型のかわらけが出土し、区画溝内における重複関係や出土遺物等から、第2期の区画溝は、16世紀前葉～16世紀中葉にかけて構築され、遺構群の中心的な存在であったと推定される。

第3期の区画溝は、第29・35号溝跡である。第29号溝跡は確認できた長さ44.60mのL字状の区画溝で、第35号溝跡は確認できた長さ11.16mの直線状の区画溝である。東側が調査区域外に延びているため、不明な点もある。両溝の配置からコの字形の区画内がさらに分けられていると考えられる。第29号溝跡から出土したかわらけ8点はA類・F類・小型で、第35号溝跡から出土したかわらけ3点はA類・小型で

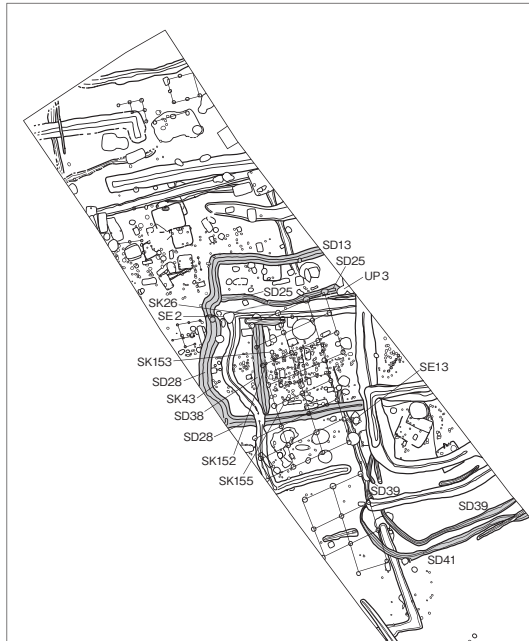
時 期	特 徴	かわらけ (土師質土器)
14 世紀後半 ) 15 世紀前葉	A 類より古いタイプ。	 SK35-1      SK152-4  SK43-1      SK152-5
A 類 15 世紀後半 ) 16 世紀前葉	器高が高く (A1 類), 体部は外傾, 内彎し, 口縁部でやや外反する。体部中間に丸いふくらみか, 綾を持つ。器壁は全体に厚い。口径 8 ~ 11cm。	 SE 7-4      SD29-3  SD41-6      SD35-3
E 類 15 世紀中葉 ) 15 世紀後葉頃	器高が高く, 体部はやや直線的に立ち上がる。体部はロクロ目が目立つ。器壁は厚い。口径 12 ~ 13cm の大型, 口径 7 cm 前後の小型。見込み中心付近が凹む。	 SD25-5  SD26-4
F 類 15 世紀中葉 ) 16 世紀初頭頃	器高が高く, 体部は直線で, 外傾ないしはやや内彎して立ち上がる。体部全体にロクロ目が目立ち, 凹凸した印象である。器壁は厚い。口径 10 ~ 11cm の大型。口径 8 ~ 9 cm の中型。見込み周縁部が, やや凹む。	 SD26-6      SD29-2  SD28-7      SD40-9
H 類 16 世紀前半頃	底径がやや大きく, 体部が直線的ないし, やや内彎気味に低く立ち上がる。体部は細かいロクロ目が目立つ。器壁は厚い。口径 11cm 前後。見込み周縁部が, やや凹む。	 SD37-5

広瀬氏による中型・大型の皿の分類基準をもとにした。小型の皿は分類から外した。

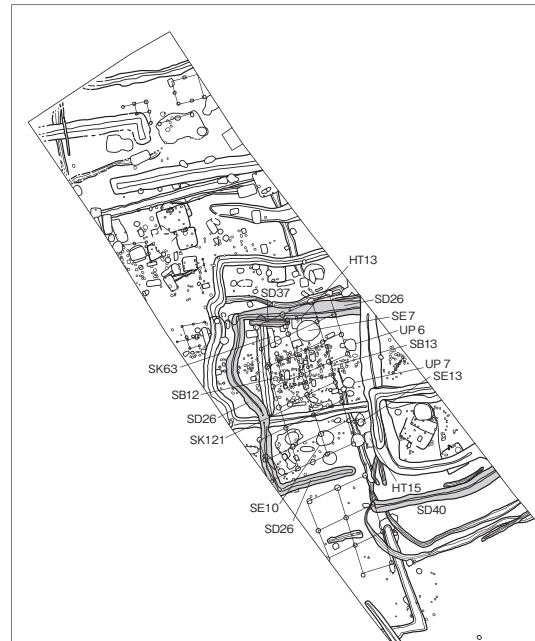
0 (1:3) 10cm

第 189 図 出土したかわらけの特徴

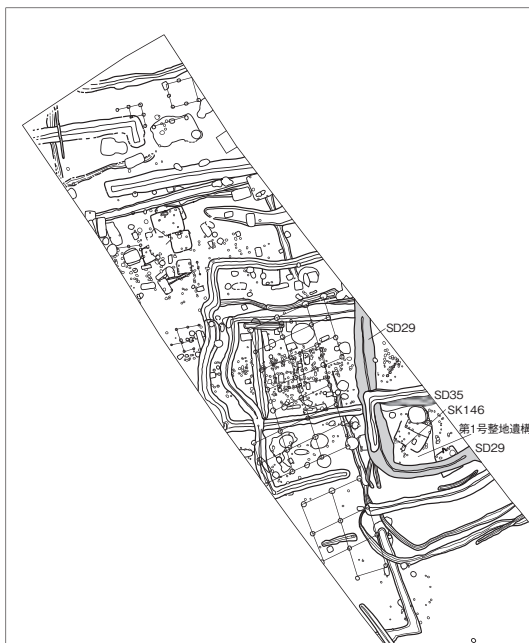
ある。第3期の区画溝内からの遺構は、第1号整地遺構からは小型のかわらけ3点、第146号土坑(区画南部)からは小型のかわらけ1点が出土している。区画溝内の重複関係や出土遺物等から16世紀中葉～後葉にかけて構築されたものと考えられる。



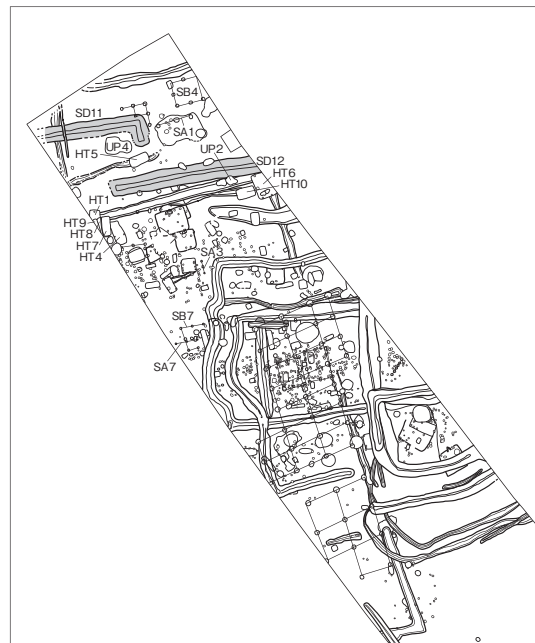
第1期の区画溝



第2期の区画溝



第3期の区画溝



第4期の区画溝

0 (1:1200) 40m

第190図 区画溝変遷図



第4期の区画溝は、第11・12号溝跡である。第11号溝跡は確認できた長さ20.82mのL字状の区画溝である。第12号溝跡は確認できた長さが24.6mで、両溝は形状が相似しており、上幅3m前後で、屋敷域を囲む区画溝と考えられる。その内側に屋敷を構えていたと考えられる。第11号溝跡からは常滑の5形式の甕(13世紀中葉)が出土している。第12号溝跡からは常滑の10形式の甕(15世紀中葉)が出土している。両溝周辺の遺構では、第4・7号掘立柱建物跡、第1・4～10号方形竪穴遺構、第2・4号地下式坑、第1・3・7号柱穴列を確認した。かわらけの出土の数も少なく、かわらけから遺構の年代を測定するのは困難である。古い常滑陶器片も出土しているが、戦国時代の堀による防御性の強いものに変化した溝とも考えられる。区画溝と溝周辺の遺構は、重複関係等から16世紀代に構築されたものと考えられる。

出土したかわらけは、ほとんどがA類・E類・F類に属するものである。小型のかわらけは、主に底面の径が3cm前後で、高さが3cm以下のものである。(広瀬氏は県南のかわらけ編年について、中型・大型の中で分類している)当遺跡の小型のかわらけは、小泉館跡<sup>7)</sup>から出土した15～16世紀にかけてのものと類似している。かわらけの使用方法について、「かわらけは素焼きの土器であり、非常に汚れやすい。逆に言えば、新しさと未使用ということが一目で確認できるものである<sup>8)</sup>」ことから、清浄を保つため、一度だけ使用して捨てるものであり、宗教的行事や会食など非日常的機会の「ハレ」の場で使用され、洗い直して日常的に使われることが少ないといわれている<sup>9)</sup>。調査区の範囲内から出土したかわらけの出土量が多いかどうかは分からないが、非日常的機会がそれなりにあったと考えられる。

## 5 おわりに

本遺跡の台地上には、奈良・平安時代から近世まで、断続的に集落が営まれていたことが明らかになった。奈良・平安時代には郡庁院と極めて近い場所にあり、郡庁院を支えた集落の一部と推定される。

本調査区を中心とする時期は中世である。出土した遺構や遺物から、14世紀後半～15世紀前半の遺物が少ないことなどから、15世紀後半～16世紀中葉に本格的な屋敷域が形成されていたことを確認した。出土したかわらけも、15世紀中葉～16世紀前葉にかけてのものが多く出土していることで、時期を特定することができた。儀礼や灯明具として使用されていたと考えられるかわらけや、内耳鍋、石臼、砥石などの出土からは、屋敷域内での生活の様子を知ることができる。また、遺構内から五輪塔・宝篋印塔が出土していることから、近くに墓域があった可能性もある。屋敷域を区画した溝は、調査範囲の限定性もあるが、百年ほどの間に少しずつ南東方向に広がっていることが分かる。当遺跡から出土した遺物から考えて、周辺遺跡のひとつである上野古屋敷遺跡は本遺跡と共通性がある。上野古屋敷遺跡では、集落の性格を「国人層よりやや身分が下で、小田城主と関係する武力を有した半武士・半農民の土豪層を中心とした集落<sup>10)</sup>」と報告している。本遺跡も上野古屋敷遺跡と同じ側面をもった集落と考えられる。威信財と考えられる青白磁や飲茶の習慣を示す茶釜や茶臼などもわずかに出土していることもその根拠と言える。また、笹生衛氏は「火葬施設や五輪塔・宝篋印塔などの出土は、武士階級存在を暗示する資料である<sup>11)</sup>」と述べている。16世紀後半以降の遺物や遺構がほとんど確認されていないことは、小田城主あるいは近隣の金田城主<sup>12)</sup>の衰退期に影響があった集落とも考えられる。

今回の調査によって、15～16世紀を中心とした人々の生活痕跡の一部を明らかにすることができたが、検討が不十分のため、その様相を明確にすることができなかった。さらなる研究の進展を期待したい。

註

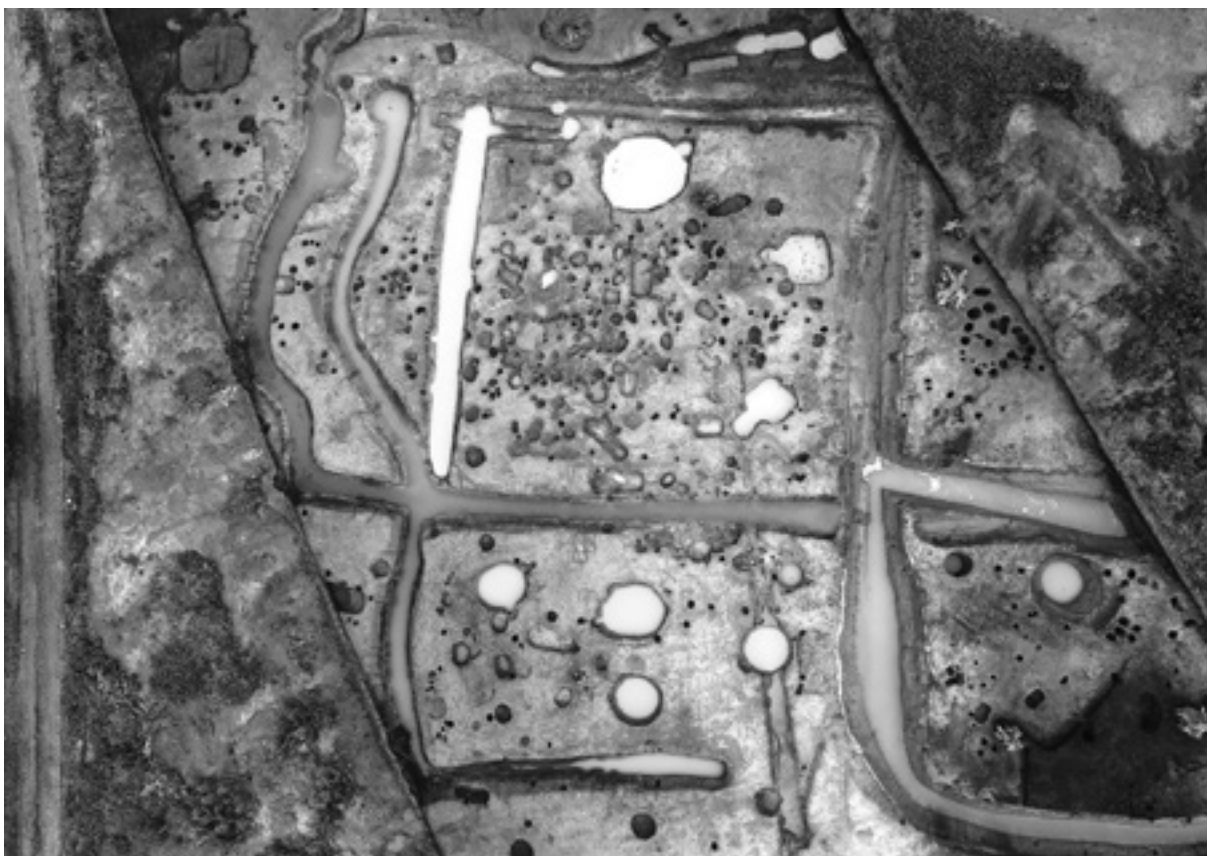
- 1) 白田正子『金田西遺跡 金田西坪B遺跡 九重東岡廃寺 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ』茨城県教育財団文化財調査報告第209集 2003年3月
- 2) 荒井保雄『九重東岡廃寺 金田西遺跡 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XXI』茨城県教育財団文化財調査報告第435集 2019年3月
- 3) a 三谷正・大塚雅昭・桑村裕『上野古屋敷遺跡1 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ』茨城県教育財団文化財調査報告第285集 2007年3月  
b 川井正一『上野古屋敷遺跡2 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ』茨城県教育財団文化財調査報告第307集 2008年3月  
c 齋藤和浩・川井正一『上野古屋敷遺跡3 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅺ』茨城県教育財団文化財調査報告第324集 2009年3月  
d 櫻井完介・江原美奈子『上野古屋敷遺跡4 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅻ』茨城県教育財団文化財調査報告第334集 2010年3月
- 4) 関東古瓦研究会『シンポジウム 関東の初期寺院 資料編』1997年2月
- 5) a 愛知県史 別編 窯業2 中世・近世・瀬戸系 愛知県史編さん委員会 2012年3月  
b 愛知県史 別編 窯業3 中世・近世・常滑系 愛知県史編さん委員会 2012年3月
- 6) 広瀬季一郎「県南のかわらけ」『茨城中世考古学の最前線～編年と基準資料～』茨城県考古学協会 2011年1月
- 7) 矢ノ倉正男『一般県道長高野筑波線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 小泉館跡』茨城県教育財団文化財調査報告第97集 1995年3月
- 8) 藤原良章「中世の食器・考(かわらけ)ノート」『列島の文化5』日本エディタースクール出版部 1988年
- 9) 川村満博「茨城県南部を中心に見た12世紀後半～15世紀のロクロ成形かわらけについて」『研究ノート』12号 茨城県教育財団 2003年6月
- 10) 註3)と同じ
- 11) 笹生衛「東国における中世墓地の諸相－房総の事例中心に－」『研究紀要』16号 千葉県文化財センター 1995年
- 12) 桜村教育委員会『桜村史(上巻)』桜村史編さん委員会 1982年3月

写 真 图 版





平成28年度調査区遠景（北方向から）



調査区中央部



PL2



調査終了全景（南方向から）



調査終了全景（西方向から）



第 2 号 陥 し 穴



第 101 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 況



第51号 豎穴 建物 跡



PL4



第52号竖穴建物跡



第55号竖穴建物跡



第56号竖穴建物跡  
掘 方



第57号豎穴建物跡竈



第57号豎穴建物跡



第60号豎穴建物跡



PL6



第10号掘立柱建物跡  
確認状況



第11号掘立柱建物跡  
確認状況



第11号掘立柱建物跡



第 1 号粘土採掘坑



第 16 号 土 坑



第 19 号 溝 跡  
遺 物 出 土 状 况



PL8



第 23 号 溝 跡  
遺 物 出 土 状 況



第 23 号 溝 跡



第 51 号 溝 跡  
遺 物 出 土 状 況



第4号掘立柱建物跡



第7号掘立柱建物跡



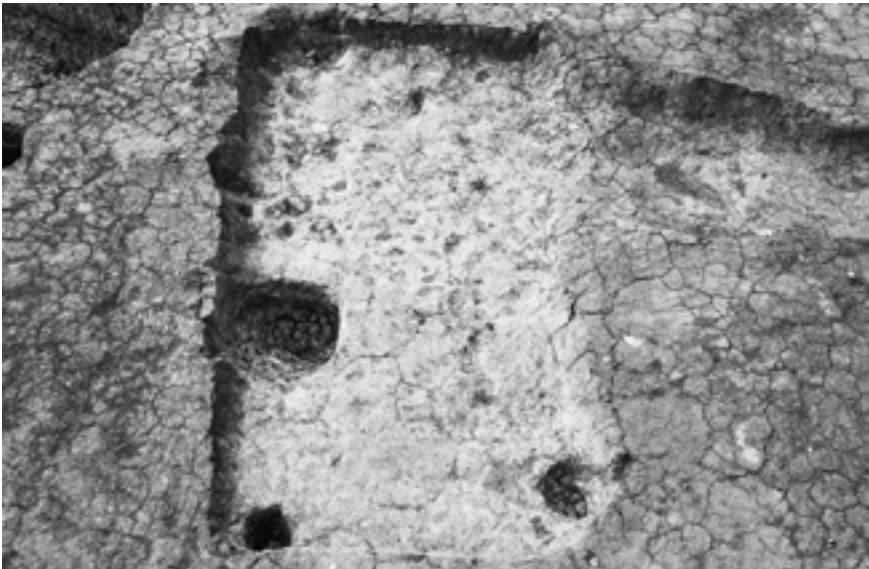
第10号方形竖穴遺構



PL10



第11号方形豎穴遺構



第12号方形豎穴遺構



第15号方形豎穴遺構





第17号方形竖穴遺構



第1号地下式坑

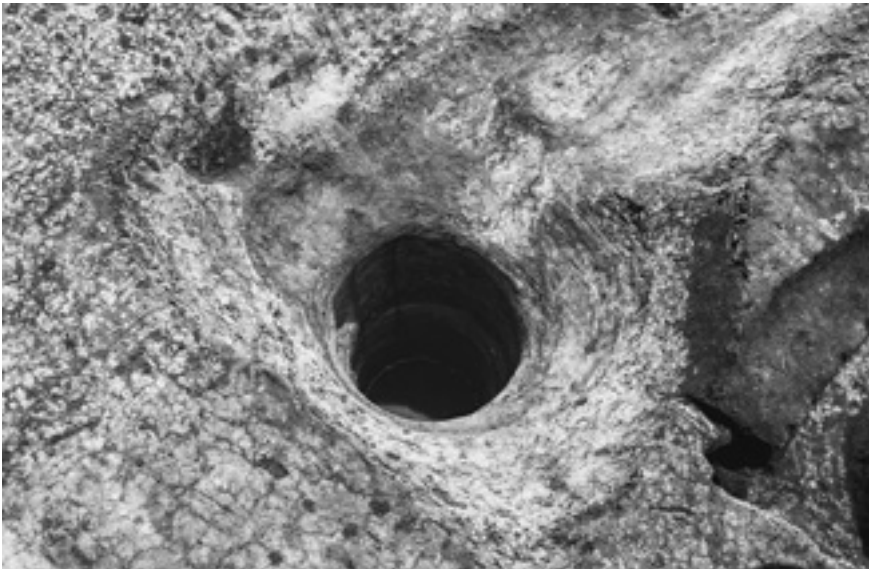


第4号地下式坑

PL12



第 6 号地下式坑



第 2 号井戸跡



第 5 号井戸跡



第7号井戸跡  
遺物出土状況



第10号井戸跡  
遺物出土状況



第12号井戸跡  
遺物出土状況①



PL14



第12号井戸跡  
遺物出土状況②



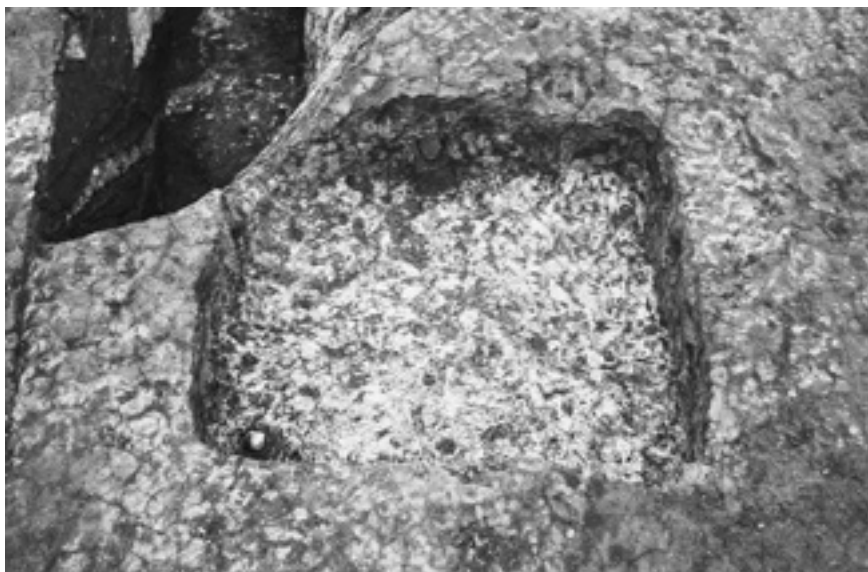
第1号火葬施設



第26号土坑  
遺物出土状況



第 81 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 况



第 107 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 况



第 139 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 况



PL16



第 140 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 况



第 146 号 土 坑



第 12 号 溝 跡



第 25 号 溝 跡  
遺 物 出 土 状 況



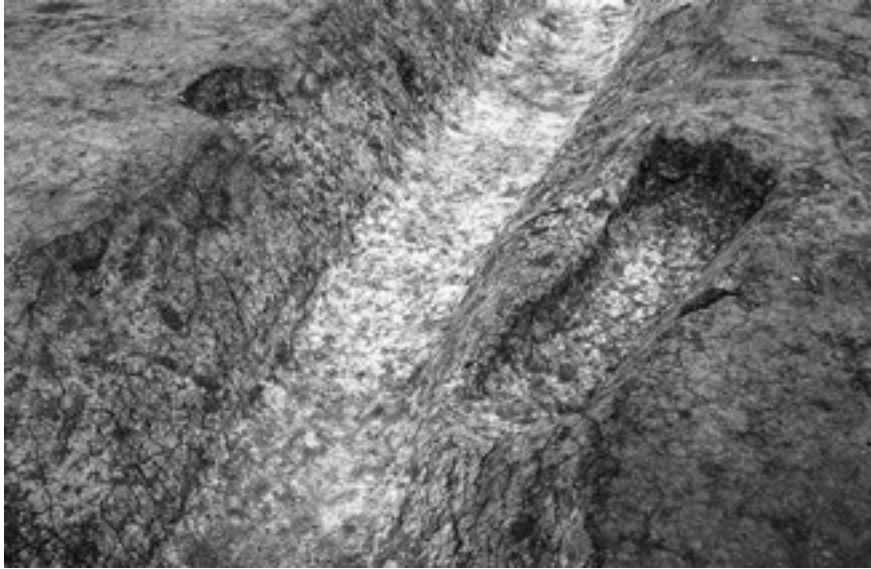
第 26 号 溝 跡  
遺 物 出 土 状 況 ①



第 26 号 溝 跡  
遺 物 出 土 状 況 ②



PL18



第 26 号 沟 迹



第 28 号 沟 迹  
遺物出土狀況



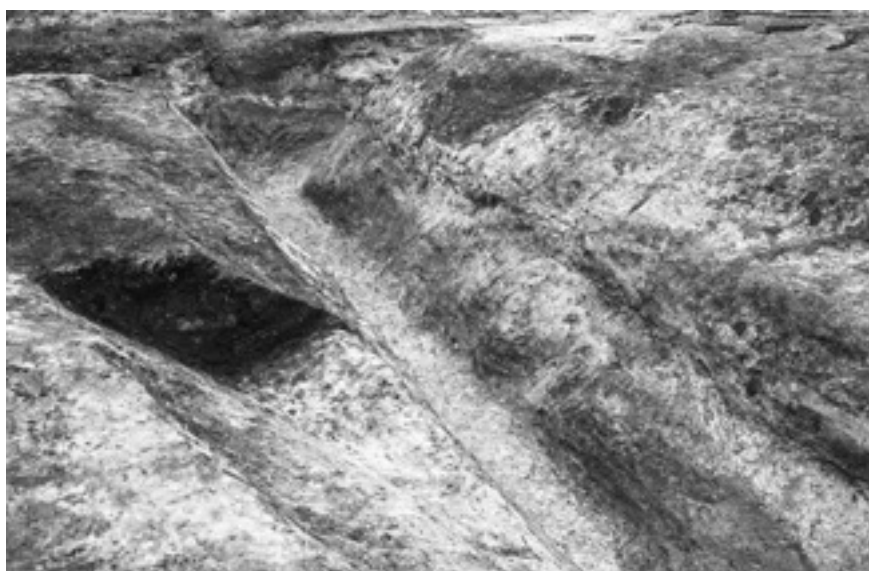
第 29 号 沟 迹  
遺物出土狀況



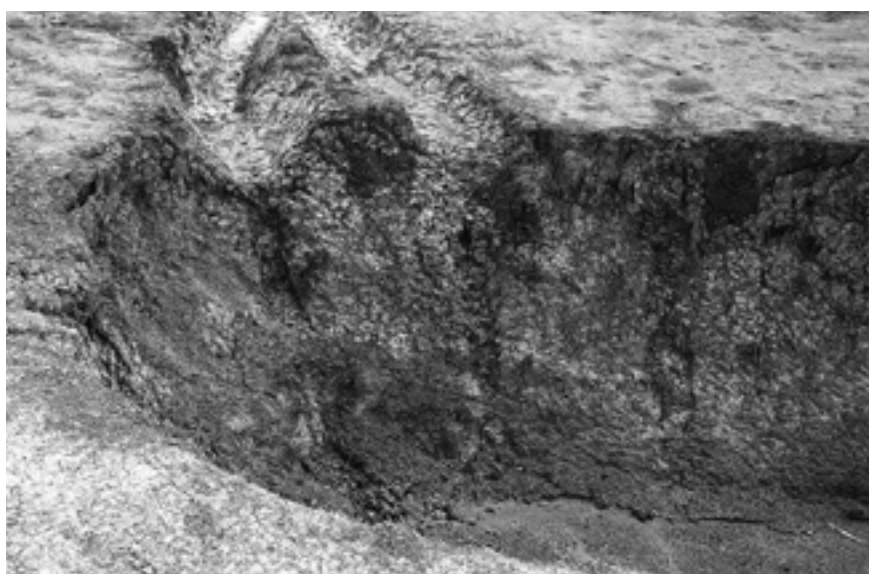
第 29 号 沟 迹  
( 桥 脚 部 )



第 35 号 沟 迹



第 40 号 沟 迹



PL20



第 41 号 溝 跡  
遺 物 出 土 状 況



第 1 号 井 戸 跡

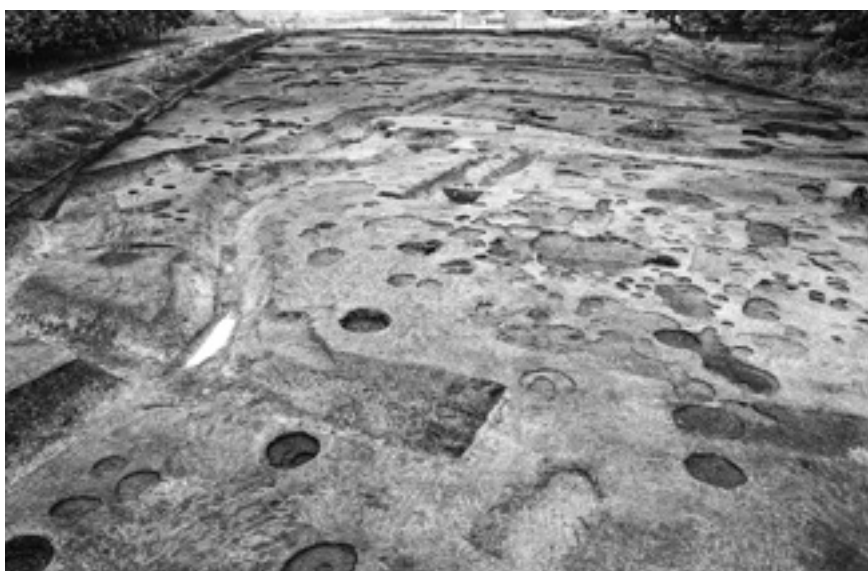


第 8 号 井 戸 跡





第3号ピット群

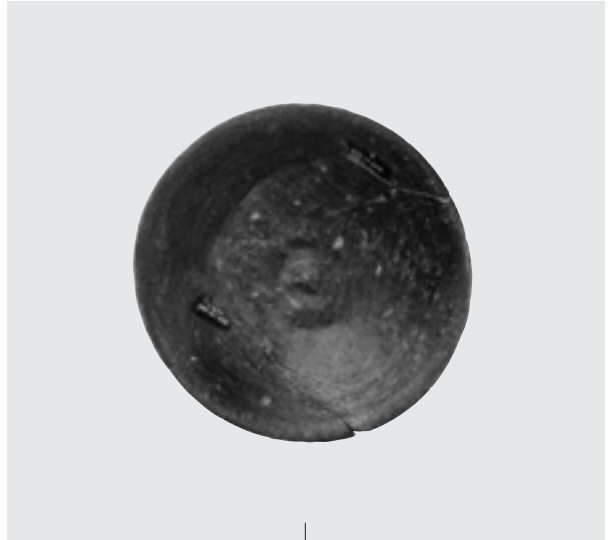


第5号ピット群  
確認状況



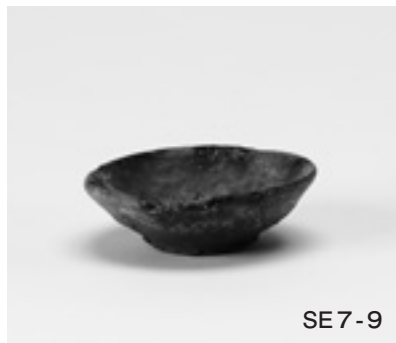
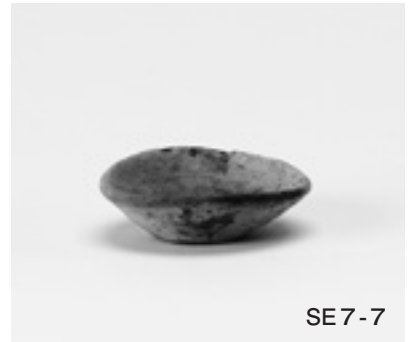
第2号道路跡

PL22



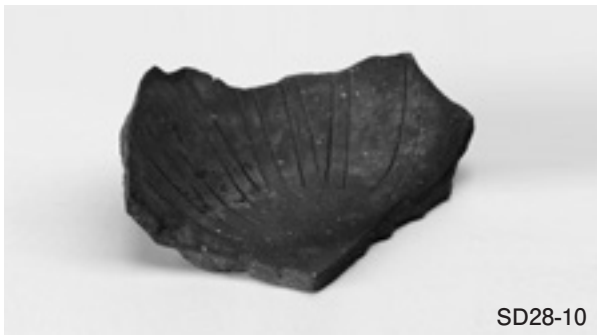
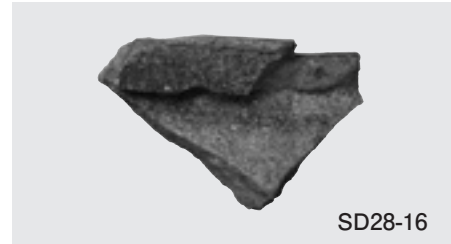
第1号大型円形土坑，第101号土坑，第23・51号溝跡出土土器





第7号井戸跡，第28号溝跡出土土器

PL24



第28号溝跡出土土器



第3号地下式坑，第10号井戸跡，第41号溝跡出土土器

PL26



第12~14号井戸跡, 第26・35・43・63・121・140号土坑出土土器



第146·152·155号土坑，第13·25·26号沟迹出土土器







SD35-3



SD37-1



SD37-2



SD37-3



SD37-4



SD38-1



SD39-1



SD39-2



SD39-3



SD40-1



SD40-3



SD40-4



SD40-7

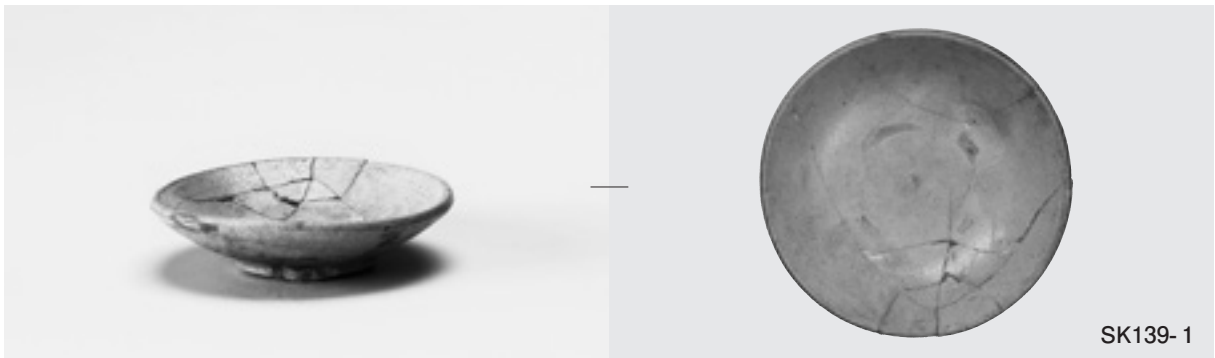
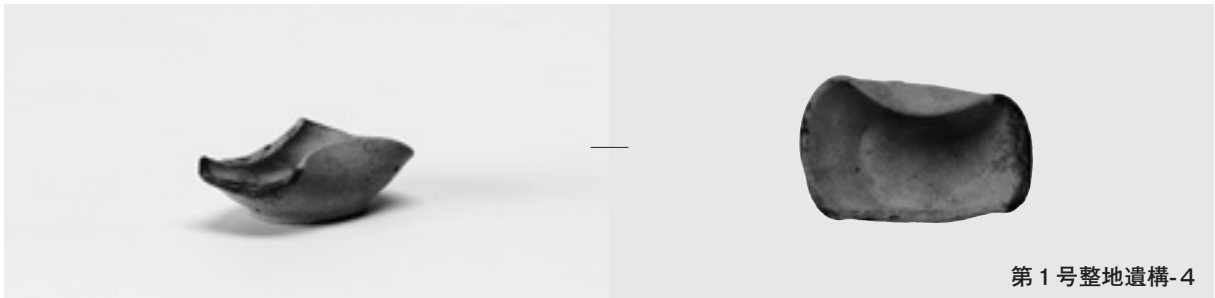


SD40-8

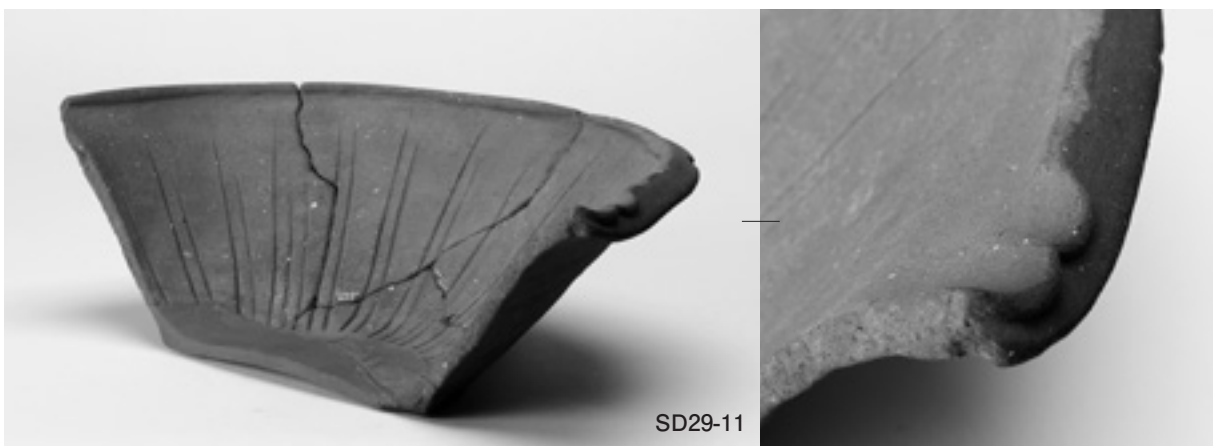
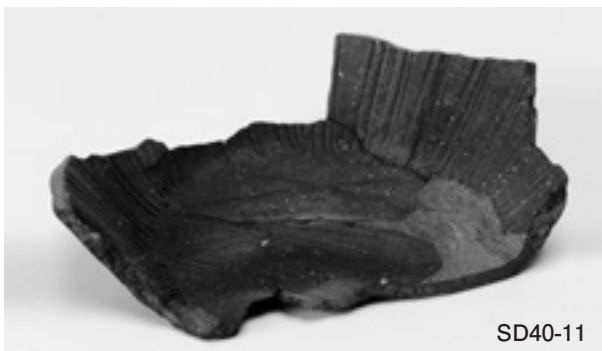
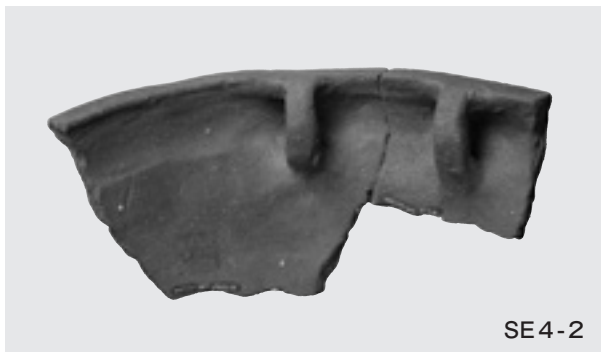
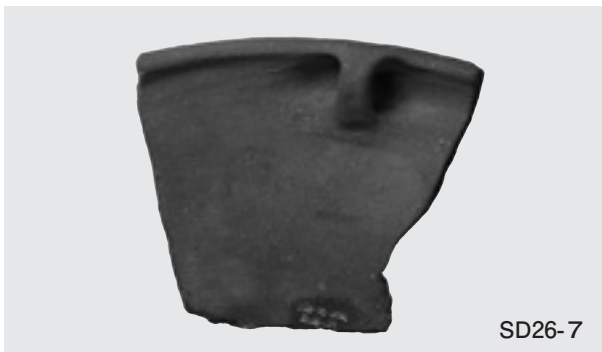


SD40-9

PL30

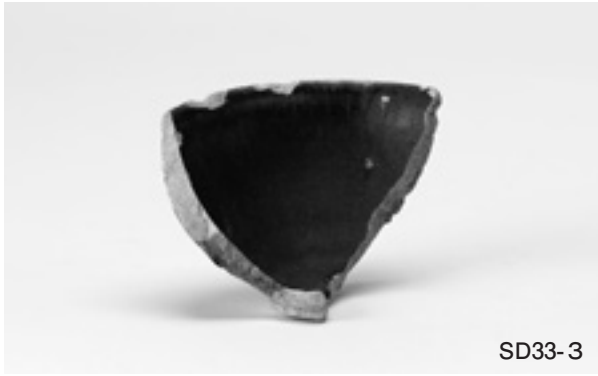


第139・153号土坑，第29号溝跡，第1号整地遺構出土土器



第4号井戸跡，第26・29・40号溝跡出土土器

PL32

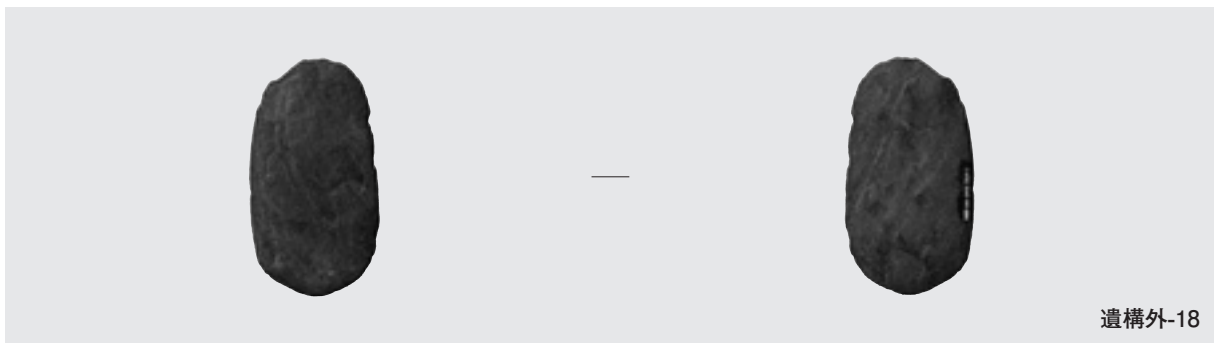
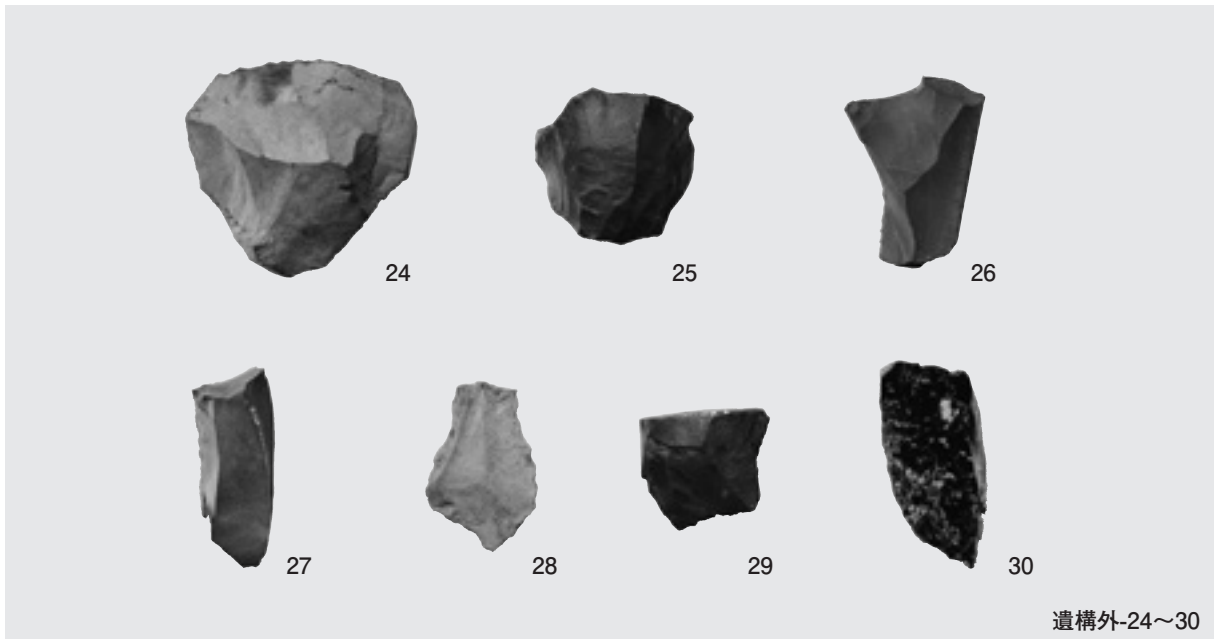


第33号溝跡，遺構外出土土器      第4号井戸跡，第12・29号溝跡出土石器



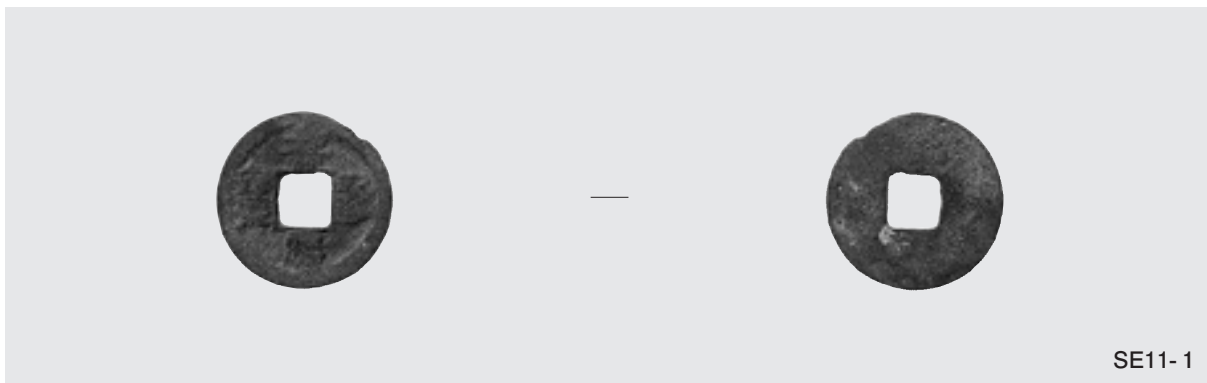
第12号井戸跡，第26・29・40号溝跡出土石製品

PL34



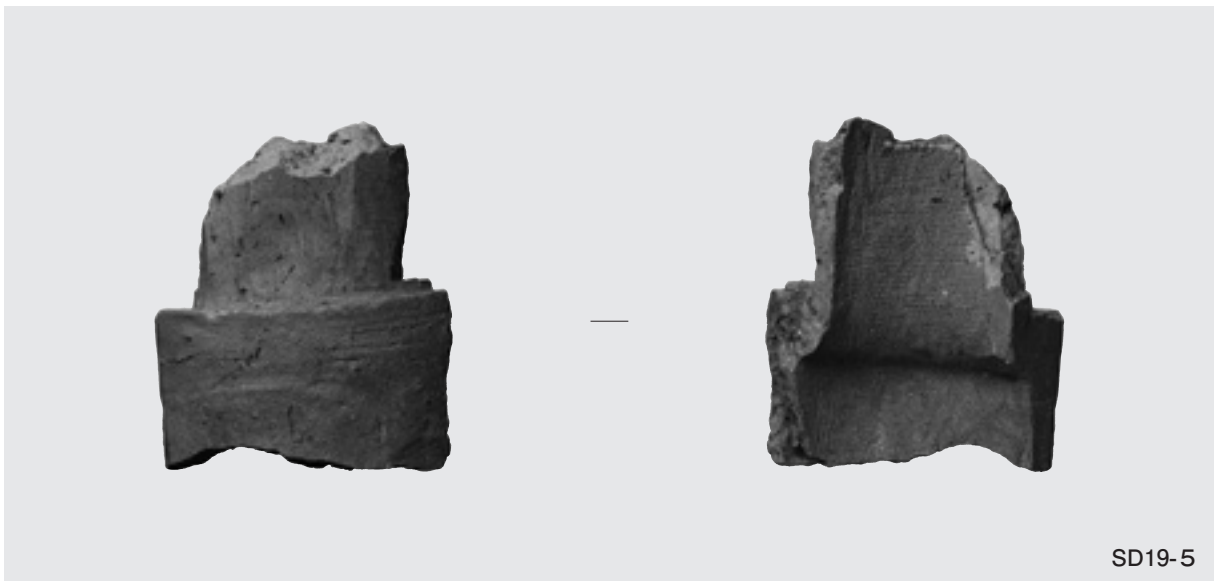
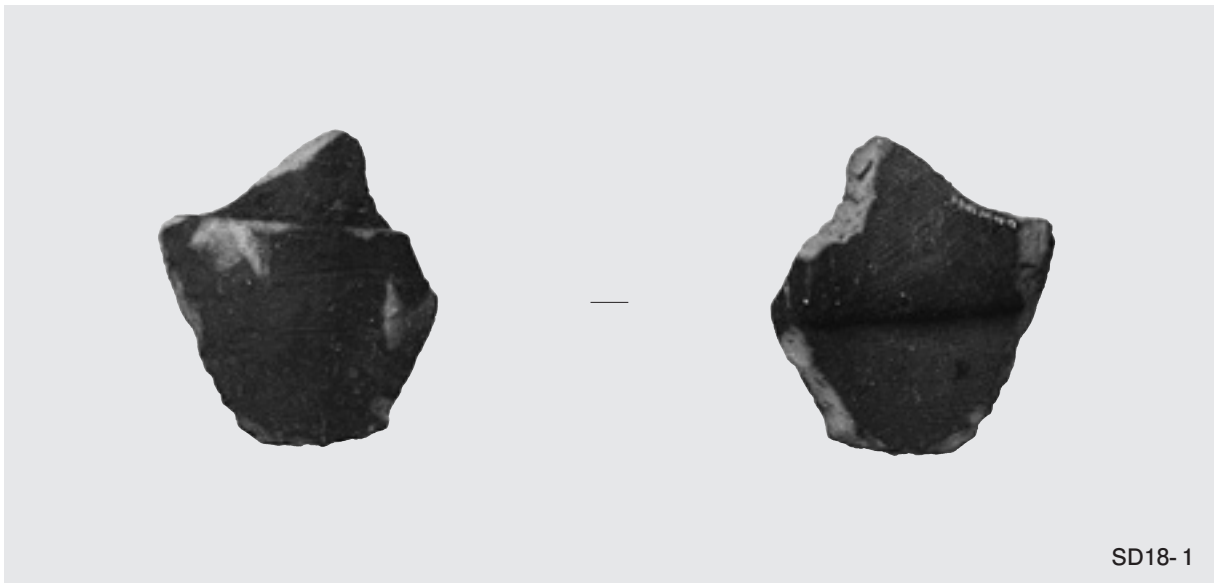
遺構外出土石器，石核，剥片



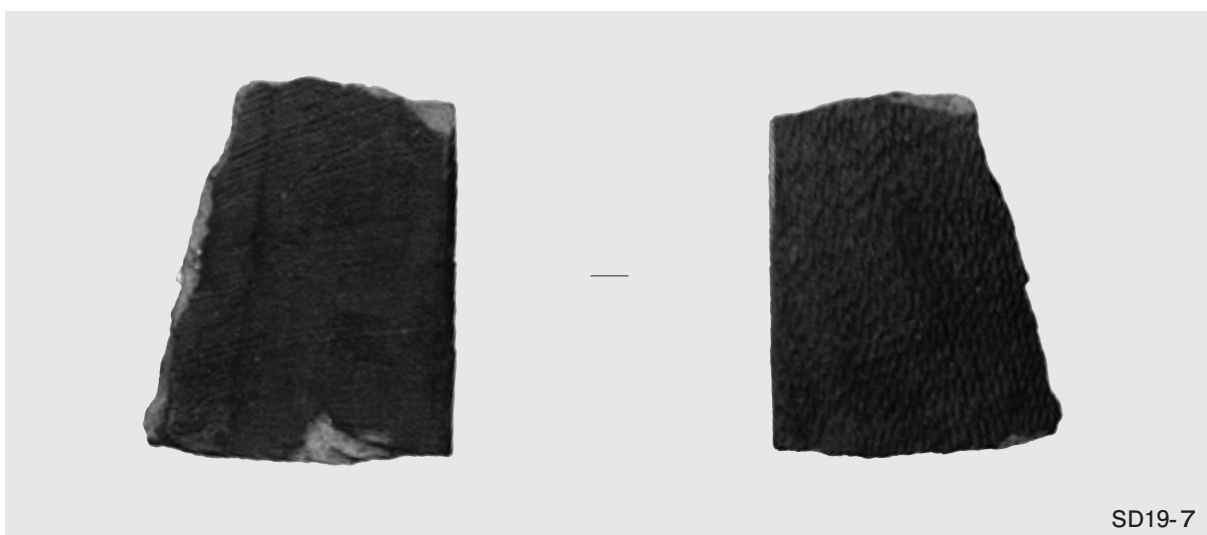


第8号掘立柱建物跡，第6号方形竖穴遺構，第11号井戸跡，第29号溝跡，遺構外出土金属器・金属製品

PL36



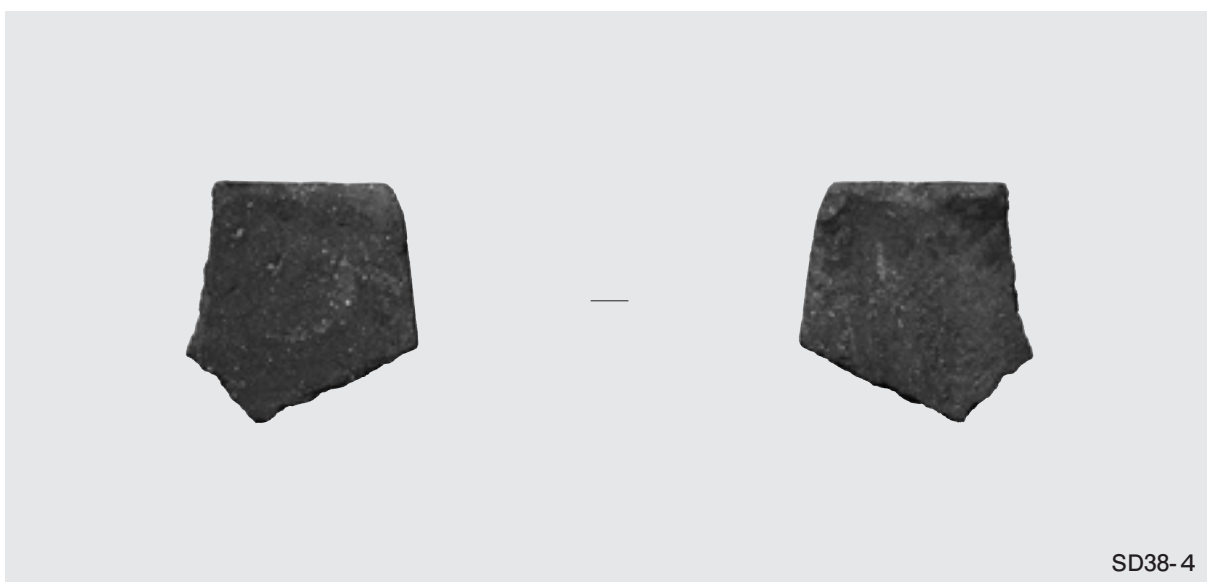
第10·18·19号溝跡出土瓦



第19号溝跡出土瓦



第1号方形竖穴遺構，第4号地下式坑，第12号井戸跡，第28・29・41号溝跡出土瓦

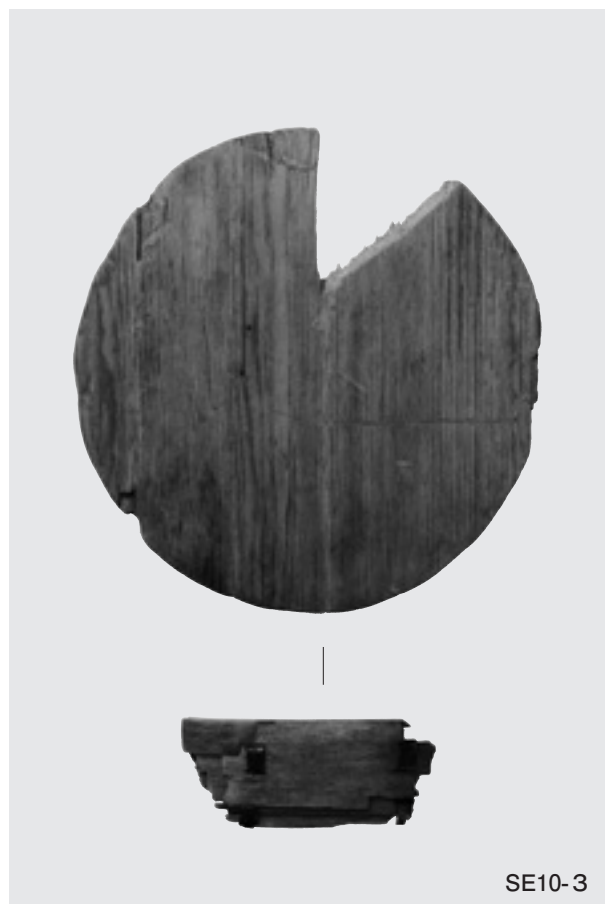
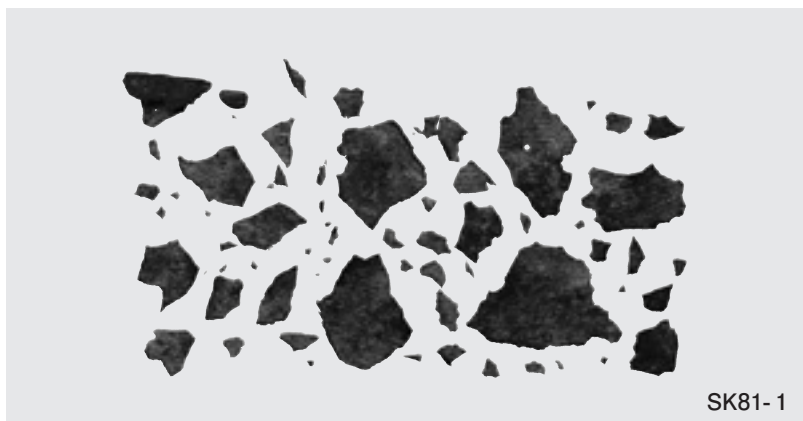


PL40



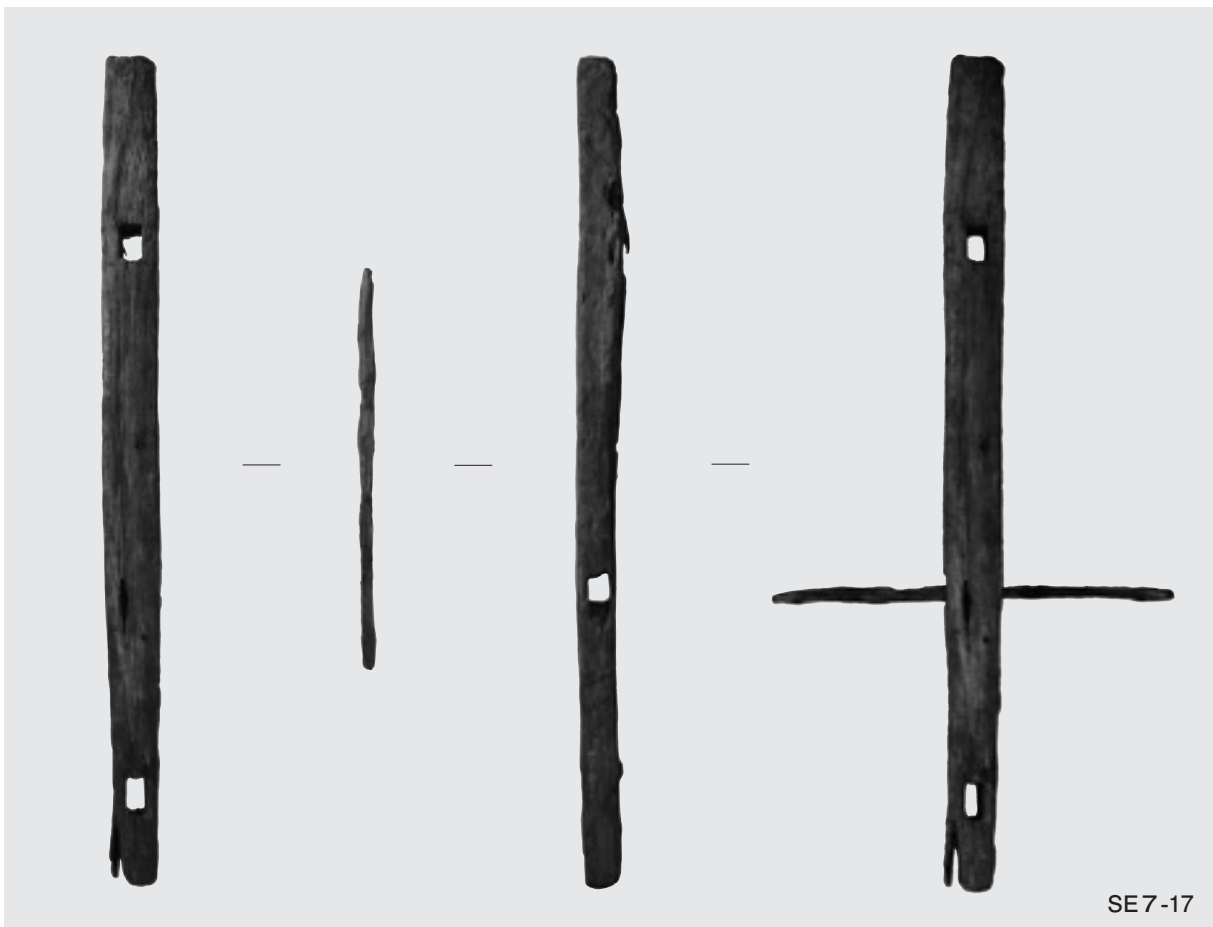
遺構外出土瓦



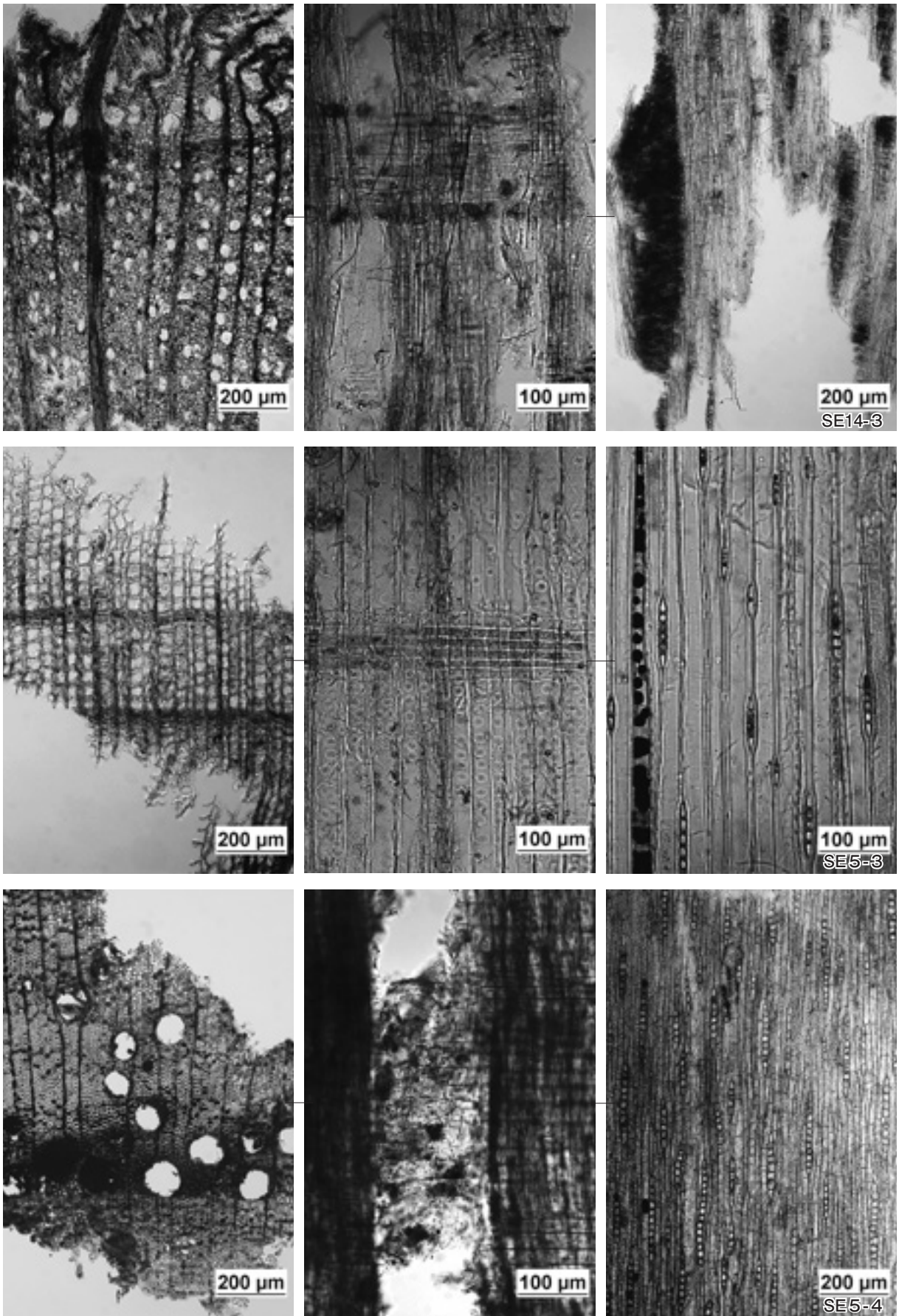


第5・10号井戸跡出土木製品 第14号井戸跡, 第81号土坑出土漆器

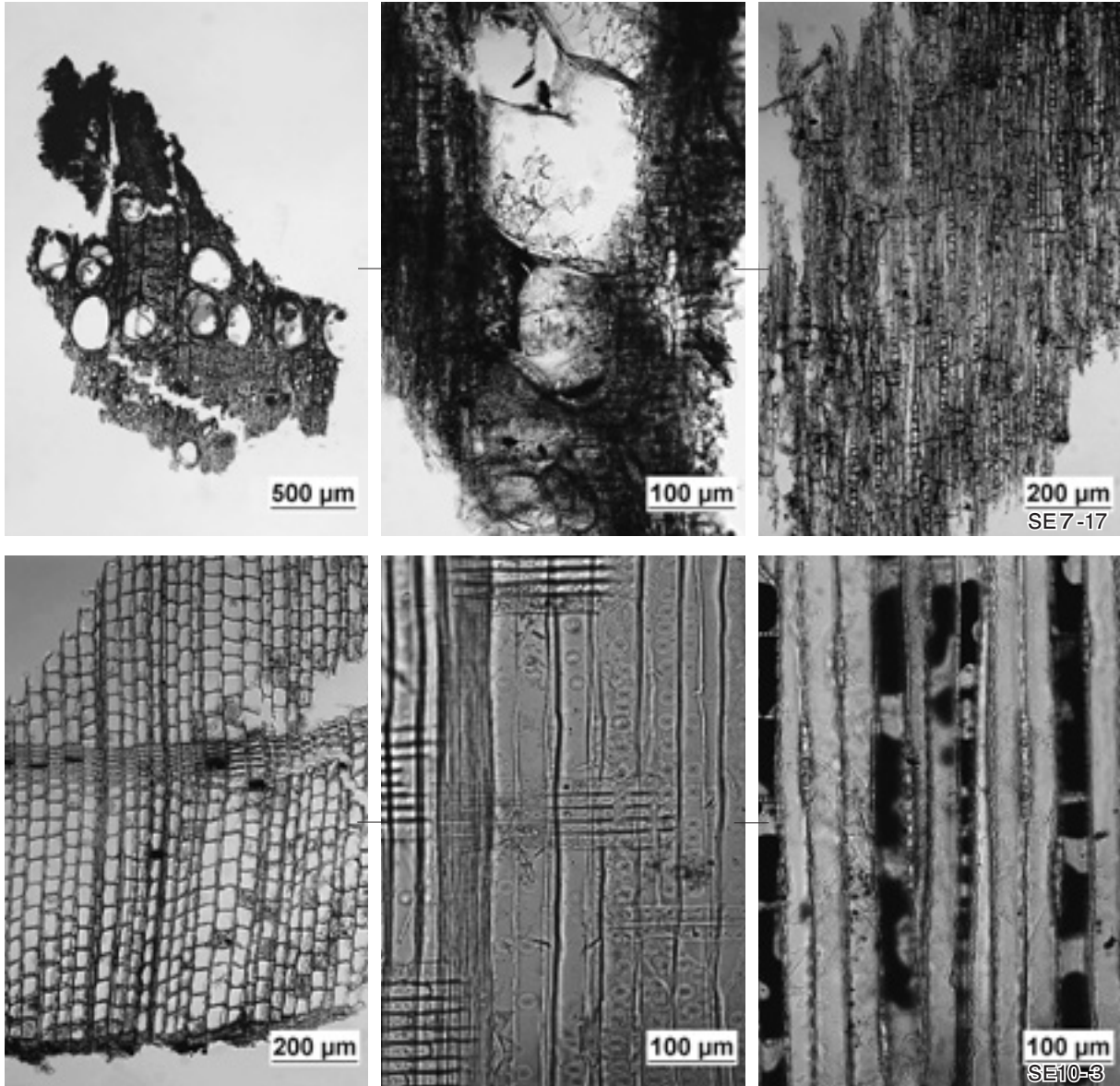
PL42



第5・7号井戸跡出土木製品



第5号井戸跡出土木製品 第14号井戸跡漆器（顕微鏡写真）



◆参考文献◆

- 林 昭三「日本産木材顕微鏡写真集」京都大学木質科学研究所（1991）  
伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」京都大学木質科学研究所（1999）  
島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）  
北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」保育社（1979）  
奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇」（1985）  
奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第36冊 木器集成図録 近畿原始篇」（1993）

◆使用顕微鏡◆

Nikon DS-Fi1



# 抄 録

ふりがな	こんだにしつほびーいせき								
書名	金田西坪B遺跡								
副書名	中根・金田台地区埋蔵文化財調査報告書XXII								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第443集								
著者名	野田良直, (株)吉田生物研究所								
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団								
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587								
発行日	2020(令和2)年3月16日								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因	
こんだにしつほびー 金田西坪B 遺跡	茨城県つくば市 金田字阿弥陀下 1,685番地ほか	08220 - 110	36度 05分 52秒	140度 07分 45秒	22 ~ 24m	20160201 ~ 20160331 20160401 ~ 20160930 20180801 ~ 20180930	8,960㎡     43㎡	中根・金田台 地区画整理事業に伴う事前 調査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
金田西坪B 遺跡	狩猟場	縄文	陥し穴	3基	縄文土器(深鉢)				
	その他	古墳	土坑	3基	土師器(壺・甕)				
	集落跡	奈良・平安	土坑	1基	土師器(壺・甕)				
			堅穴建物跡	8棟	須恵器(坏・高台付坏・蓋・甕), 瓦(軒丸瓦・丸瓦・平瓦)				
			掘立柱建物跡	4棟					
		大型円形土坑	1基						
		粘土採掘坑	1基						
		土坑	2基						
		柱穴列	1条						
		溝跡	6条						
	中世		掘立柱建物跡	5棟	土師質土器(皿・耳皿・内耳鍋・播鉢・香炉・茶釜), 陶器(皿・鉢・壺・甕), 石製品(五輪塔・宝篋印塔), 石器(石臼・茶臼・砥石), 木製品(曲物・不明木製品), 瓦(軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・鬩斗瓦)				
			方形堅穴遺構	14基					
			地下式坑	6基					
			井戸跡	8基					
			火葬施設	2基					
			土坑	15基					
			柱穴列	4条					
			溝跡	13条					
			整地遺構	1か所					
	近世		掘立柱建物跡	1棟	陶器(天目茶碗), 金属製品(釘・煙管), 銭貨(嘉慶通寶)				
			井戸跡	5基					
			溝跡	2条					
	その他	時期不明	土坑	111基	土師質土器(皿・内耳鍋・播鉢), 陶器(鉢), 銭貨(永樂通寶)				
			溝跡	13条					
			ピット群	8か所					
			道路跡	2条					
			掘り込み遺構	2基					
要約	今回の調査では, 中世を中心とした掘立柱建物跡5棟, 方形堅穴遺構14基, 地下式坑6基, 井戸跡8基, 火葬施設2基, 溝跡13条などが確認された。調査区は, 区画溝の内側に構築された遺構を伴う小集落の屋敷跡の一部と考えられる。								

## 印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Pro
	編集	Adobe InDesign CC
	図版作成	Adobe Illustrator CC
	写真調整	Adobe Photoshop CC
	Scanning	Film EPSON GT-X980
		図面類 RICOH MP W4002
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign CCでレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第443集

### 金田西坪B遺跡

中根・金田台地区  
埋蔵文化財調査報告書XXII

令和2（2020）年 3月16日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団  
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587  
HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 八幡印刷株式会社  
〒310-0911 水戸市見和3丁目1528-38  
TEL 0120-23-1473





付図 金田西坪B遺跡遺構全体図 (茨城県教育財団文化財調査報告第443集)